科目一覧［発行日：2024/5/29］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

教育実習事前指導（社会・商業）（冬期スクーリング）［木村　良成］2群午後 1
教育の制度・経営　（冬期スクーリング）［高野　良一，新井　秀明］1群午後 2
【10001】日本史（春期スクーリング）［永田　一］春期 3
【10002】哲学（春期スクーリング）［白根　裕里枝］春期 4
【10003】人文地理学（春期スクーリング）［小原　丈明］春期 5
【10004】自然地理学（春期スクーリング）［加藤　美雄］春期 6
【10005】数学１（春期スクーリング）［若井　健太郎］春期 7
【10006】生物学１（講義）（春期スクーリング）［町田　郁子］春期 8
【11001】英語S(1)（春期スクーリング）［大和久　悌一郎］春期 9
【11002】英語S(2)（春期スクーリング）［ウォルター・カズマー］春期 10
【11003】英語S(3)（春期スクーリング）［井上　紗央里］春期 11
【11004】英語S(4)（春期スクーリング）［高橋　佳江］春期 12
【11005】英語S(5)（春期スクーリング）［光野　昭雄］春期 13
【11006】独語S（春期スクーリング）［宮城　学］春期 14
【11007】仏語S（春期スクーリング）［佐野　栄一］春期 15
【13001】債権各論（春期スクーリング）［足利　沙緒理］春期 16
【13002】商法総則・商行為法（春期スクーリング）［石井　宏司］春期 17
【13003】会社法（春期スクーリング）［笹久保　徹］春期 18
【13004】刑法各論（春期スクーリング）［須藤　純正］春期 19
【14001】日本文芸学概論（春期スクーリング）［中野　方子］春期 20
【14002】日本美術史（春期スクーリング）［萩原　哉］春期 21
【14003】日本芸能史（春期スクーリング）［小島　智章］春期 22
【14004】中国文芸史（春期スクーリング）［吉井　涼子］春期 23
【14005】日本文芸史Ⅰ（春期スクーリング）［加藤　昌嘉］春期 24
【14006】日本言語学概論（春期スクーリング）［古牧　久典］春期 25
【14007】日本文芸史Ⅱ（春期スクーリング）［岡野　幸江］春期 26
【14008】日本文芸研究特講・現代（春期スクーリング）［高口　智史］春期 27
【14009】日本文芸研究特講・特域（春期スクーリング）［安原　眞琴］春期 28
【14010】日本文法論（春期スクーリング）［尾谷　昌則］春期 29
【15001】日本近代史（春期スクーリング）［柏木　一朗、筑後　則］春期 30
【15002】東洋史特講（東南アジア史）（春期スクーリング）［山﨑　美保］春期 31
【15003】日本史概説（春期スクーリング）［安田　寛子］春期 32
【15004】東洋史概説（春期スクーリング）［宇都宮　美生］春期 33
【15005】史学演習（西洋）（春期スクーリング）［井上　秀太郎］春期 34
【16001】人文地理学演習（春期スクーリング）［前畑　明美］春期 35
【16002】地理情報システム（GIS)（２）（春期スクーリング）［沼尻　治樹］春期 36
【17001, 18001】財政学A／Ⅰ（春期スクーリング）［天利　浩］春期 37
【17002】経済学特講（春期スクーリング）［三浦　道行］春期 38
【18002】監査論Ⅰ（春期スクーリング）［市川　佳功］春期 39
【18003】経営学特講［商社活動とCSR Ⅰ（企業の社会的責任)］（春期スクーリング）［小林　一夫］春期 40
【18004】経営管理論Ⅰ（春期スクーリング）［松本　潔］春期 42
【18005】経営学特講[サービス・マーケティング論]（春期スクーリング）［松本　潔］春期 43
【18006】経営学特講（春期スクーリング）［恩田　登志夫］春期 45
【18007】演習（春期スクーリング）［恩田　登志夫］春期 46

【18008】簿記Ⅲ（春期スクーリング）［市川　佳功］春期 47
【20001】日本史（秋期スクーリング）［永田　一］秋期 48
【20002】哲学（秋期スクーリング）［大貫　義久］秋期 49
【20003】人文地理学（秋期スクーリング）［小原　丈明］秋期 50
【20004】自然地理学（秋期スクーリング）［加藤　美雄］秋期 51
【20005】数学２（秋期スクーリング）［若井　健太郎］秋期 52
【20006】生物学３（講義）（秋期スクーリング）［町田　郁子］秋期 53
【21001】英語Ｓ(１)（秋期スクーリング）［大和久　悌一郎］秋期 54
【21002】英語Ｓ(２)（秋期スクーリング）［ウォルター・カズマー］秋期 55
【21003】英語Ｓ(３)（秋期スクーリング）［井上　紗央里］秋期 56
【21004】英語Ｓ(４)（秋期スクーリング）［高橋　佳江］秋期 57
【21005】英語Ｓ(５)（秋期スクーリング）［光野　昭雄］秋期 58
【21006】独語Ｓ（秋期スクーリング）［宮城　学］秋期 59
【21007】仏語Ｓ（秋期スクーリング）［佐野　栄一］秋期 60
【22001】スポーツ総合演習（秋期スクーリング）［竹内　洋輔］秋期 61
【23001】債権各論（秋期スクーリング）［足利　沙緒理］秋期 62
【23002】商法総則・商行為法（秋期スクーリング）［石井　宏司］秋期 63
【23003】会社法（秋期スクーリング）［笹久保　徹］秋期 64
【23004】教育法（秋期スクーリング）［村元　宏行］秋期 65
【23005】行政救済法（秋期スクーリング）［氏家　裕順］秋期 66
【24001】西洋美術史（秋期スクーリング）［濱西　雅子］秋期 67
【24002】日本文芸史Ⅰ（秋期スクーリング）［小秋元　段、小林　ふみ子］秋期 68
【24003】日本言語学概論（秋期スクーリング）［古牧　久典］秋期 69
【24004】日本文芸史Ⅱ（秋期スクーリング）［岡野　幸江］秋期 70
【24005】日本文芸研究特講・特域（秋期スクーリング）［湯本　豪一］秋期 71
【24006】日本文法論（秋期スクーリング）［尾谷　昌則］秋期 72
【24007】中国文芸史（秋期スクーリング）［吉井　涼子］秋期 73
【25001】日本近世史（秋期スクーリング）［中山　学］秋期 74
【25002】東洋史特講（東南アジア史）（秋期スクーリング）［山﨑　美保］秋期 75
【25003】史学演習（東洋）（秋期スクーリング）［兼平　充明］秋期 76
【25004】西洋史概説（秋期スクーリング）［竹下　和亮］秋期 77
【25005】歴史資料学（日本近代）（秋期スクーリング）［岩壁　義光］秋期 78
【26002】自然地理学演習（秋期スクーリング）［中山　秀晃］秋期 79
【26003】写真・読図演習（２）（秋期スクーリング）［沼尻　治樹］秋期 80
【27001, 28001】財政学Ｂ／Ⅱ（秋期スクーリング）［島澤　諭］秋期 81
【27002】経済学特講（秋期スクーリング）［三浦　道行］秋期 82
【28002】監査論Ⅱ（秋期スクーリング）［市川　佳功］秋期 83
【28003】経営学特講[商社活動とCSR Ⅱ（事業活動と環境・CSRリスク）]（秋期スクーリング）［小林　一夫］秋期 84
【28004】簿記Ⅳ（秋期スクーリング）［市川　佳功］秋期 85
【28005】経営管理論Ⅱ（秋期スクーリング）［松本　潔］秋期 86
【28006】演習[消費文化論]（秋期スクーリング）［松本　潔］秋期 87
【28007】経営学特講（秋期スクーリング）［恩田　登志夫］秋期 88
【28008】演習（秋期スクーリング）［恩田　登志夫］秋期 89
【28009】経営学特講[人的資源管理論]（秋期スクーリング）［山﨑　雅夫］秋期 90
【28010】演習[人的資源管理論]（秋期スクーリング）［山﨑　雅夫］秋期 91
【30001】文学（夏期スクーリング）［川鍋　義一　］1群午前 92
【30002】基礎特講（夏期スクーリング）［中田　和秀］2群午前 93
【30003】論理学（夏期スクーリング）［大貫　義久］2群午後 94
【30004】経済学（夏期スクーリング）［福田　泰雄］1群午後 95
【30005】社会学（夏期スクーリング）［徐　　玄九］2群午前 96
【30006】法学（日本国憲法）（夏期スクーリング）［石川　澄雄］3群終日 97
【30007】物理学３（実験）（夏期スクーリング）［吉田　智］2群午後 99
【30008】数学３（夏期スクーリング）［若井　健太郎］3群終日 100
【31001】英語S（１）（夏期スクーリング）［磯部　芳恵］1群午前 101
【31002】英語S（２）（夏期スクーリング）［Richard.J.Burrows］1群午後 102
【31003】英語S（３）（夏期スクーリング）［戸嶋　まゆみ］1群夜間 103
【31004】英語S（４）（夏期スクーリング）［吉川　直澄］2群午前 104

【31005】英語S（５）（夏期スクーリング）［宮本　正和］2群午前 105
【31006】英語S（６）（夏期スクーリング）［ロジャー・エドウィン・パティモア］2群午後..... 106
【31007】英語S（７）（夏期スクーリング）［塩谷　幸子］2群夜間 108
【31008】英語S（８）（夏期スクーリング）［金谷　優子］3群終日 109
【31009】独語S（夏期スクーリング）［高橋　憲子］2群午後 111
【31010】仏語S（夏期スクーリング）［佐藤　正和］2群午後 112
【32001】スポーツ総合演習（夏期スクーリング）［中澤　史］1群午後 113
【32002】健康・スポーツ科学概論（夏期スクーリング）［大須賀　洋佑］3群終日 114
【33001】行政法（夏期スクーリング）［氏家　裕順］1群午前 115
【33002】民事訴訟法（夏期スクーリング）［杉本　和士］1群午前..... 117
【33003】刑事訴訟法（夏期スクーリング）［田中　開］1群午後 118
【33004】倒産法（夏期スクーリング）［倉部　真由美］1群午後 119
【33005】手形法・小切手法（夏期スクーリング）［笹久保　徹］1群夜間 120
【33006】政治学（夏期スクーリング）［佐賀　香織］2群午前 121
【33007】西洋法制史（夏期スクーリング）［高　友希子］2群午前..... 122
【33008】法思想史（夏期スクーリング）［大野　達司］2群午後 123
【33009】法律学特講（夏期スクーリング）［武生　昌士］2群午後..... 124
【33010】労働法（夏期スクーリング）［山本　圭子］2群夜間 125
【33011】債権総論（夏期スクーリング）［明石　真昭］3群終日 126
【33012】日本法制史（夏期スクーリング）［山本　弘］3群終日 127
【34001】書道実技（夏期スクーリング）［井澤　秀彦］1群午前 128
【34002】日本文芸研究特講・中世（夏期スクーリング）［中司　由紀子］1群午前..... 129
【34003】日本文芸史Ⅰ（夏期スクーリング）［阿部　真弓］1群夜間 130
【34004】中国文芸史（夏期スクーリング）［遠藤　星希］2群午前..... 131
【34005】日本文芸研究特講・近代（夏期スクーリング）［田中　和生］2群午前 132
【34006】日本文芸史Ⅱ（夏期スクーリング）［伊藤　博］2群午前..... 133
【34007】論文作成基礎講座Ⅱ（夏期スクーリング）［村山　龍］2群午前 135
【34008】日本文芸研究特講・漢文（夏期スクーリング）［永井　弥人］2群午後 136
【34009】日本文芸研究特講・中古（夏期スクーリング）［松本　裕喜］2群午後 137
【34010】論文作成基礎講座Ⅰ（夏期スクーリング）［園　明美］2群午後 138
【34011】日本文芸学概論（夏期スクーリング）［大和田　茂］2群夜間..... 139
【34012】日本言語史（夏期スクーリング）［間宮　厚司］3群終日..... 140
【34013】日本文芸研究特講・近世（夏期スクーリング）［浅沼　博］3群終日..... 141
【34014】日本文芸研究特講・祭りと芸能（夏期スクーリング）［伊海　孝充］3群終日 142
【34015】日本文芸研究特講・上代（夏期スクーリング）［坂本　勝］3群終日..... 143
【35001】史学演習（日本）（夏期スクーリング）［大塚　紀弘］1群午前..... 144
【35002】史学概論（夏期スクーリング）［秋山　千恵］1群午前 145
【35003】東洋史概説（夏期スクーリング）［塩沢　裕仁］1群午前..... 146
【35004】史学演習（西洋）（夏期スクーリング）［高澤　紀恵］1群午後..... 147
【35005】史学演習（日本）（夏期スクーリング）［松本　剣志郎］1群午後 148
【35006】史学演習（東洋）（夏期スクーリング）［兼平　充明］2群午前..... 149
【35007】西洋史概説（夏期スクーリング）［後藤　篤子］2群午後..... 150
【35008】日本古文書学（夏期スクーリング）［仁平　義孝］2群午後 151
【35009】日本史概説（夏期スクーリング）［安田　寛子］2群午後..... 152
【35010】史学演習（日本）（夏期スクーリング）［長井　純市　中川　洋］2群夜間..... 153
【35011】東洋史特講（中国現代史）（夏期スクーリング）［齋藤　勝］3群終日 154
【35012】日本考古学（夏期スクーリング）［小倉　淳一］3群終日..... 155
【36001】現地研究（夏期スクーリング）［山口　隆子］1群前半集中 156
【36002】測量学及び測量実習（１）（夏期スクーリング）［平井　英明］1群前半集中 157
【36003】現地研究（夏期スクーリング）［片岡　義晴］1群後半集中 158
【36004】自然地理学演習（夏期スクーリング）［小寺　浩二］1群午後..... 159
【36005】人文地理学特講（夏期スクーリング）［米家　志乃布］1群午後 160
【36006】人文地理学演習（夏期スクーリング）［小原　丈明］2群午前..... 161
【36007】地誌学特講（夏期スクーリング）［羽佐田　紘大］2群午前 162
【36008】自然地理学特講（夏期スクーリング）［前杢　英明］2群午後..... 163
【36009】地理情報システム（GIS)（１）（夏期スクーリング）［中山　大地］3群終日..... 164
【37001】社会経済学A/社会経済学Ⅰ（夏期スクーリング）［大澤　覚］1群午前..... 165

【37003】統計学B/統計学Ⅱ（夏期スクーリング）［宮脇　典彦］1群午後 …… 166
【37005】経済学特講（夏期スクーリング）［天利　浩］2群午前 …… 167
【37006】経済学特講（夏期スクーリング）［冨永　靖敬］2群午前 …… 168
【37007】経済学特講（夏期スクーリング）［赤石　秀之］2群午後 …… 169
【37008, 37009】日本経済論A/日本経済論Ⅰ（夏期スクーリング）［岡本　利光］2群午後 …… 170
【37010】経済学特講（夏期スクーリング）［明城　聡］2群夜間 …… 171
【37011】経済学特講（夏期スクーリング）［島澤　諭］3群終日 …… 172
【38001】経営学特講（夏期スクーリング）［福島　英史］1群午前 …… 173
【38001, 38002】情報科学実習（1）（bコース）／コンピュータ入門（1）（bコース）（夏期スクーリング）［林　直嗣］1群午前 …… 174
【38004】経営学特講（夏期スクーリング）［西川　真規子］1群午後 …… 175
【38005, 38006】情報科学実習（2）（dコース）／コンピュータ入門（2）（dコース）（夏期スクーリング）［渡辺　英人］1群午後 …… 176
【38007, 38008】情報科学実習（3）（aコース）／コンピュータ入門（3）（aコース）（夏期スクーリング）［寺脇　由紀］1群夜間 …… 177
【38009】人的資源管理論Ⅰ（夏期スクーリング）［山口　塁］1群夜間 …… 178
【38010】経営学特講（夏期スクーリング）［小川　憲彦］2群午前 …… 179
【38011, 38012】情報科学実習（4）（dコース）／コンピュータ入門（4）（dコース）（夏期スクーリング）［渡辺　英人］2群午前 …… 180
【38013】経営学特講（夏期スクーリング）［西川　英彦］2群午後 …… 181
【38014, 38015】情報科学実習（5）（bコース）／コンピュータ入門（5）（bコース）（夏期スクーリング）［寺脇　由紀］2群午後 …… 183
【38016】経営学特講（夏期スクーリング）［横山　斉理］2群夜間 …… 184
【38017, 37018】情報科学実習（6）（aコース）／コンピュータ入門（6）（aコース）（夏期スクーリング）［入戸野　健］2群夜間 …… 185
【38019】経営学特講（夏期スクーリング）［金　璿晋］3群終日 …… 186
【39001】教育心理学（夏期スクーリング）［田澤　実］1群午後 …… 187
【39003】教育原理（夏期スクーリング）［町支　大祐］3群終日 …… 188
【40001】哲学（冬期スクーリング）［鵜澤　和彦］1群午後 …… 189
【40002】西洋史（冬期スクーリング）［渡辺　知］2群午後 …… 190
【40003】基礎特講（冬期スクーリング）［村山　龍］2群午前 …… 191
【40004】政治学概論（冬期スクーリング）［岡﨑　加奈子］2群午前 …… 192
【40005】文化人類学（冬期スクーリング）［中島　成久］2群午後 …… 193
【40006】法学（冬期スクーリング）［葉　晶珠］2群午後 …… 194
【40007】物理学3（実験）（冬期スクーリング）［吉田　智］1群午後 …… 195
【40008】化学1（実験）（冬期スクーリング）［向井　知大］2群午前 …… 196
【41001】英語S（1）（冬期スクーリング）［北原　ルック　明子］1群午前 …… 197
【41002】英語S（2）（冬期スクーリング）［Robert　Durham］1群午前 …… 198
【41003】英語S（3）（冬期スクーリング）［平野井　ちえ子］1群午後 …… 200
【41004】英語S（4）（冬期スクーリング）［吉江　秀和］2群午前 …… 201
【41005】英語S（5）（冬期スクーリング）［吉田　季実子］2群午前 …… 202
【41006】英語S（6）（冬期スクーリング）［本間　章郎］2群午後 …… 203
【41007】総合外国語特講（英語）（冬期スクーリング）［Andrew　E.　Chen］2群午後 …… 204
【41008】仏語S（冬期スクーリング）［稲垣　正久］1群午後 …… 205
【41009】独語S（冬期スクーリング）［三ツ石祐子］2群午後 …… 206
【42001】スポーツ総合演習（冬期スクーリング）［吉田　康伸］2群午後 …… 207
【43001】政治学（冬期スクーリング）［平良　好利］1群午前 …… 208
【43002】法律学特講（冬期スクーリング）［笹久保　徹］1群午前 …… 209
【43003】憲法（冬期スクーリング）［金子　匡良］1群午後 …… 210
【43004】民法総則（冬期スクーリング）［大澤　彩］1群午後 …… 211
【43005】会社法（冬期スクーリング）［笹久保　徹］2群午前 …… 212
【43006】法哲学（冬期スクーリング）［西村　清貴］2群午前 …… 213
【43007】行政法（冬期スクーリング）［氏家　裕順］2群午後 …… 214
【43008】国際法総論（冬期スクーリング）［田中　佐代子］2群午後 …… 216
【44001】日本芸能史（冬期スクーリング）［櫻井　利佳］2群午前 …… 217
【44002】日本文芸研究特講・言語（冬期スクーリング）［阿部　美菜子］2群午前 …… 218
【44003】日本言語学概論（冬期スクーリング）［古牧　久典］2群午後 …… 219

【44004】日本文芸研究特講・児童文芸（冬期スクーリング）［藤田　のぼる］2群午後 220
【44005】論文作成基礎講座Ⅰ（冬期スクーリング）［山口　恭子］2群午後 221
【45001】日本史概説（冬期スクーリング）［古庄　浩明］1群午前 222
【45003】東洋史概説（冬期スクーリング）［宇都宮　美生］1群午後 223
【45005】歴史資料学（日本近世）（冬期スクーリング）［米崎　清実］1群午後 224
【45006】西洋史概説（冬期スクーリング）［竹下　和亮］2群午前 225
【45008】東洋美術史（冬期スクーリング）［久野　美樹］2群午後 226
【46001】人文地理学演習（冬期スクーリング）［中俣　均］1群午前 227
【46002】自然地理学演習（冬期スクーリング）［前杢　英明］1群午後 228
【46003】現地研究（冬期スクーリング）［中川　秀一］2群前半集中 229
【46004】現地研究（冬期スクーリング）［羽佐田　紘大］2群前半集中 230
【46005】写真・読図演習（1）（冬期スクーリング）［宮内　崇裕］2群後半集中 231
【46006】測量学及び測量実習（2）（冬期スクーリング）［豊田　友夫］2群後半集中 232
【46007】地誌学特講（冬期スクーリング）［前畑　明美］2群後半集中 233
【47001】経済学特講（冬期スクーリング）［池上　宗信］1群午後 234
【47002】社会経済学B/社会経済学Ⅱ（冬期スクーリング）［大澤　覚］2群午前 235
【47004】経済学特講（冬期スクーリング）［砂田　充］2群午後 236
【47005】日本経済論B/日本経済論Ⅱ（冬期スクーリング）［福田　泰雄］2群午後 237
【48001】経営学特講（冬期スクーリング）［髙橋　美穂子］1群午前 238
【48002, 48003】情報科学実習（1）（ａコース）／コンピュータ入門（1）（ａコース）（冬期スクーリング）［寺脇　由紀］1群午前 239
【48004】経営学特講（冬期スクーリング）［岸　眞理子］1群午後 240
【48005】人的資源管理論Ⅰ（冬期スクーリング）［山口　塁］1群午後 241
【48006】演習（冬期スクーリング）［洞口　治夫］2群午前 242
【48007】経営学特講（冬期スクーリング）［二階堂　行宣］2群午前 244
【48008】経営学特講（冬期スクーリング）［宮澤　信二郎］2群午後 245
【48009, 48010】情報科学実習（2）（ｂコース）／コンピュータ入門（2）（ｂコース）（冬期スクーリング）［児玉　靖司］2群午後 246
【49003】教職実践演習（冬期スクーリング）［遠藤　野ゆり］1群午後 247
【49005】教育実習事前指導（国語）（冬期スクーリング）［水野　多満司］2群午後 249
【50001, 50002】社会学(「近代」とは何か)(前期メディア)［徐　玄九］前期 250
【50003】生物学２(講義)(前期メディア)［木原　章］前期 252
【50005】基礎特講(民俗学)(前期メディア)［吉成　直樹］前期 253
【51001, 51002, 51003, 51004, 51005】商法総則・商行為法(Ⅱ)(前期メディア)［桜沢　隆哉］前期 254
【51005, 51006】行政法(前期メディア)［氏家　裕順］前期 255
【51007, 51008】労働法(働き方に関する法ルール)(前期メディア)［宮崎　由佳］前期 256
【51009】国際法各論(国際平和の追求)(前期メディア)［岡松　暁子］前期 257
【51011, 51012】保険法・海商法(Ⅰ)(前期メディア)［桜沢　隆哉］前期 258
【52001, 52002】日本文芸史Ⅱ(前期メディア)［川鍋　義一］前期 260
【52003】日本文芸研究特講・近代(日本の私小説を読む)(前期メディア)［梅澤　亜由美］前期 262
【52005, 52006】日本文芸研究特講・現代(戦後文学から日本を考える)(前期メディア)［山田　夏樹］前期 263
【52007】日本芸能史(前期メディア)［伊海　孝充］前期 264
【53001, 53002, 53003, 53004, 53005, 53005】西洋史概説(ロシア近代史を中心として)(前期メディア)［草野　佳矢子］前期 265
【54001, 54002, 54003, 54004, 54005, 54006】自然地理学(地形)(Ⅰ)(前期メディア)［前杢　英明］前期 266
【54007, 54008, 54009, 54010, 54011】自然地理学(海洋・陸水)(Ⅰ)(前期メディア)［小寺　浩二］前期 267
【54013, 54015】自然地理学概論(２)(前期メディア)［小寺　浩二］前期 268
【55001, 55002, 55003, 55004】マクロ経済学A／マクロ経済学I(前期メディア)［奥山　利幸］前期 270
【55005, 55007】国際経済論A／国際経済論I(前期メディア)［田村　晶子］前期 272
【55009, 55011】環境経済論A／環境経済論I(前期メディア)［松波　淳也］前期 273
【55013】経済学特講(現代社会とマクロ経済学)(前期メディア)［岡本　利光］前期 274
【55015, 55016】経済学特講(循環型社会のミクロ経済学)(前期メディア)［赤石　秀之］前期 276
【55019, 55020, 55021, 55022, 55023, 55024】経済地理(Ⅰ)(前期メディア)［近藤　章夫］前期 277
【55025, 55026】労働経済論A(前期メディア)［佐野　晋平］前期 278
【56001, 56002, 56003, 56004】金融論Ⅰ／金融論A(前期メディア)［林　直嗣］前期 279
【56005, 56007】経済学入門Ⅰ／経済学入門A(前期メディア)［平田　英明］前期 281
【56009, 56010】会計学入門Ⅰ(前期メディア)［神谷　健司］前期 282

【56011】経営戦略論Ⅰ(前期メディア)［李　瑞雪］前期 283
【56013】マーケティング論Ⅰ(前期メディア)［竹内　淑恵］前期 284
【56015, 56016】管理会計論Ⅰ(前期メディア)［北田　皓嗣］前期 285
【56017, 56018】税務会計Ⅰ(前期メディア)［大下　勇二］前期 286
【56019, 56020】国際金融論Ⅱ(前期メディア)［横内　正雄］前期 287
【56021, 56022】日本経営論(前期メディア)［金　容度］前期 288
【56023, 56025】ファイナンス論Ⅰ／現代ファイナンスA(前期メディア)［山嵜　輝］前期 289
【56027, 56028, 56029, 56030】現代経済学Ⅱ／ミクロ経済学B(前期メディア)［林　直嗣］前期 290
【60001, 60002】経済学(資本と利子から経済を考える)(後期メディア)［水野　和夫］後期 291
【60003】基礎特講(文学の楽しみ方)(後期メディア)［長谷　俊雄］後期 292
【60005】英語S(後期メディア)［今井　澄子］後期 293
【60007】健康・スポーツ科学概論(健康づくりと運動の基礎理論)(後期メディア)［伊藤　マモル］後期 294
【61001】総合特講（グローバル現代史）(後期メディア)［鶴見　直人］後期 296
【61003】民法総則(民法典全体に共通するルール)(後期メディア)［明石　真昭］後期 298
【61005, 61006, 61007, 61008】商法総則・商行為法(Ⅰ)(後期メディア)［桜沢　隆哉］後期 299
【61009, 61010, 61011】国際法総論(国際社会の法秩序)(後期メディア)［岡松　暁子］後期 300
【61015, 61016】行政救済法(後期メディア)［氏家　裕順］後期 301
【61017】労働法(労働法Ⅱ)(後期メディア)［藤木　貴史］後期 303
【61019, 61020】保険法・海商法(Ⅱ)(後期メディア)［桜沢　隆哉］後期 304
【61021, 61022】法律学特講(国際労働法)(後期メディア)［山本　圭子］後期 306
【61023, 61024, 61025, 61026】労使関係論（Ⅰ）(後期メディア)［細川　良］後期 308
【62001】日本文芸研究特講・中古(『竹取物語』を読む―かぐや姫の”実像”)(後期メディア)［園　明美］後期 310
【62003】日本文芸研究特講・中世(平家物語)(後期メディア)［小秋元　段、阿部　亮太］後期 311
【62005, 62006】日本文芸研究特講・近世(西鶴大句数)(後期メディア)［浅沼　博］後期 312
【62007】日本言語史(後期メディア)［間宮　厚司］後期 313
【62009】書道史(中国と日本の書の歴史)(後期メディア)［山口　恭子］後期 314
【63001, 63003, 63005】日本史概説(東アジアのなかの古代日本)(後期メディア)［浜田　久美子］後期 315
【64001, 64002, 64003, 64004, 64005, 64006】自然地理学(地形)(Ⅱ)(後期メディア)［前杢　英明］後期 316
【64007, 64009, 64011】自然地理学(海洋・陸水)(Ⅱ)(後期メディア)［小寺　浩二］後期 317
【64013, 64015, 64017】世界地誌(1)(アジア)(後期メディア)［小寺　浩二］後期 318
【64019, 64020】自然地理学特講(人間の生活と気候)(後期メディア)［狩野　真規］後期 319
【65003, 65004, 65005, 65006】マクロ経済学B／マクロ経済学Ⅱ(後期メディア)［奥山　利幸］後期 320
【65007, 65009】国際経済論B／国際経済論Ⅱ(後期メディア)［武智　一貴］後期 322
【65011, 65013】環境経済論B／環境経済論Ⅱ(後期メディア)［松波　淳也］後期 323
【65015】経済学特講(戦後日本経済史)(後期メディア)［岡本　利光］後期 324
【65019, 65020, 65021, 65022, 65023, 65024】経済地理(Ⅱ)(後期メディア)［近藤　章夫］後期 325
【65025, 65026】労働経済論B(後期メディア)［佐野　晋平］後期 326
【65027, 65028, 65029, 65030】経済学入門B/Ⅱ（後期メディア）［森田　裕史］後期 327
【66001, 66002, 66003, 66004】金融論Ⅱ／金融論B(後期メディア)［林　直嗣］後期 328
【66005, 66006】会計学入門Ⅱ(後期メディア)［神谷　健司］後期 329
【66007】経営戦略論Ⅱ(後期メディア)［李　瑞雪］後期 330
【66009】マーケティング論Ⅱ(後期メディア)［竹内　淑恵］後期 331
【66011, 66012】管理会計論Ⅱ（後期メディア）［北田　皓嗣］後期 333
【66013, 66014】税務会計Ⅱ(後期メディア)［大下　勇二］後期 334
【66015, 66016】国際金融論Ⅰ(後期メディア)［横内　正雄］後期 335
【66017】経営学特講(ミクロ経済学)(後期メディア)［平田　英明］後期 336
【66019】経営組織論(後期メディア)［長岡　健］後期 337
【66023, 66025】ファイナンス論Ⅱ／現代ファイナンスB(後期メディア)［山嵜　輝］後期 339
【66027】消費者行動論(後期メディア)［新倉　貴士］後期 341
【66029】広告論(後期メディア)［竹内　淑恵］後期 343
【66031, 66032, 66231, 66232】現代経済学Ⅰ／ミクロ経済学A(後期メディア)［林　直嗣］後期 345
【70001】化学２（講義）（ゴールデンウィークスクーリング）［中田　和秀］ 346
【70002, 70003, 70004】憲法（ゴールデンウィークスクーリング）［金子　匡良］ 347
【70005】書道実技（ゴールデンウィークスクーリング）［井澤　秀彦］ 348
【70006】総合特講（ゴールデンウィークスクーリング）［齋藤　経史］ 349
【70007】経営学特講（ゴールデンウィークスクーリング）［溝部　陽司］ 350
【80001】英語Ｓ（大阪市スクーリング）［MARK E FIELD］ 351

【80002】総合特講（大阪市スクーリング）［山口　隆子］ …… 353
【80003】法律学特講（大阪市スクーリング）［田中　開］ …… 354
【81001】基礎特講（仙台市スクーリング）［木村　正俊］ …… 355
【81002】総合特講（仙台市スクーリング）［小倉　淳一］ …… 356
【81003】経営学特講（仙台市スクーリング）［長谷川　翔平］ …… 357
【82001】英語Ｓ（札幌市スクーリング）［宇治谷　義英］ …… 358
【82002】総合特講（札幌市スクーリング）［小秋元　段］ …… 359
【82003】総合特講（札幌市スクーリング）［芝田　幸一郎］ …… 360
【83001】東洋史（名古屋市スクーリング）［仲山　茂］ …… 361
【83002】総合特講（名古屋市スクーリング）［羽佐田　紘大］ …… 362
【83003】法律学特講（名古屋市スクーリング）［建石　真公子］ …… 363
【84001】化学3（講義）（福岡市スクーリング）［安井　伸郎］ …… 365
【84002】総合特講（福岡市スクーリング）［長井　純市］ …… 366
【84003】経営学特講（福岡市スクーリング）［福多　裕志］ …… 367
【90001】文学（前期週末スクーリング）［中澤　忠之］ …… 368
【90002】法律学特講（前期週末スクーリング）［氏家　裕順］ …… 369
【90003】経済学特講（前期週末スクーリング）［我妻　靖］ …… 370
【90004】経営学特講（前期週末スクーリング）［市川　佳功］ …… 371
【91001】心理学（後期週末スクーリング）［海部　紀行］ …… 372
【91002】スポーツ特講（後期週末スクーリング）［朝比奈　茂］ …… 373
【91003】法律学特講（後期週末スクーリング）［平見　健太］ …… 374
【91004】書道史（後期週末スクーリング）［山口　恭子］ …… 375
【91005】論文作成基礎講座Ⅱ（後期週末スクーリング）［川鍋　義一］ …… 376
【91006】経済学特講（後期週末スクーリング）［持元　江津子］ …… 377
【91007】経営学特講（後期週末スクーリング）［市川　佳功］ …… 378

教育実習事前指導（社会・商業）（冬期スクーリング）

木村　良成

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科学系の教科における教育実習に参加する際に、その目的や指導方法を理解し、達成できるようにする。実習の心得や指導案作成を含めた模擬授業を行うことによって学生が授業を行うにあたっての技術を向上させる。また生徒理解を深め、教科及び学級担任としての活動および生徒の理解方法を習得する。

【到達目標】
中等教育実習に参加した際、教育実習生として最高水準で参加できるように学習を行う。その事前の学習を集中的に、効果的に習得することを目標と定める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習に対する十分な心構えを学習するとともに、学生の模擬授業も併せておこなう。また、今後展開が予想されるアクティブラーニングに関しての考察も受講者全員で行う。（アクティブラーニングは事前に内容及び運用方法を調査しておいてください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講に対するアンケート，教育実習への心構え，模擬授業の順序の確認など（初日の連絡事項を含む）
第2回	教育実習のための心構え①	教育実習に対する事前の用意
第3回	教育実習のための心構え②	教育実習中における教材研究方法
第4回	教育実習のための心構え③	教育実習中における教壇実習（情報機器操作の応用を含む）
第5回	教育実習のための心構え④	教育実習中における教員や生徒との接し方
第6回	教育実習のための心構え⑤	研究授業に向けての用意（学習指導案の書き方）一般授業とアクティブラーニングの相違点
第7回	模擬授業①（中学校社会科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第8回	模擬授業②（高等学校地歴科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第9回	模擬授業③（高等学校公民科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第10回	模擬授業④（高等学校商業科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第11回	模擬授業⑤（複数教科を取得する学生）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第12回	まとめ・教育の目的・意義を考える 提出課題について※	まとめの講義（教育実習における失敗事例を学ぶ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これといった事前学習は特に必要ないが、各自が歩んできた中等学校（中学校及び高等学校）の体験を整理し、書きとめておく。模擬授業における学習指導案（一般授業で行った場合とアクティブラーニングで行った場合）を期間中に宿題として出します。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。プリント配布。

【参考書】
中学校学習指導要領解説
高等学校学習指導要領解説

【成績評価の方法と基準】
授業における取組状況（３０％），模擬授業（３０％），課題としてのレポート（４０％）が評価基準です。
※授業への出席を鑑み、最終日の課題用紙を渡します。（最終日に試験は実施しません。）
全て総合的に判断し、教育実習への参加の可否を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。（授業で使用できる電子機器類に関しては事前に調査しておくこと。）

【その他の重要事項】
教育実習に参加予定の学生は必修である。来年度以降実習予定のある学生は必ず受講すること。

教育の制度・経営　（冬期スクーリング）

高野　良一，新井　秀明

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分されます。一つは、学校の組織・経営を具体的な諸側面において考えることです。これには、学校と地域の連携、安全対策や危機管理もふくまれます。もう一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や教育行財政の法制度やしくみを考えることです。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎知識の理解と習得をめざします。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の前半（1～6）は、学校の組織・経営の諸側面をテーマにします。授業の後半（7～12）は、公教育や教育行財政の法制度やしくみをテーマにします。なお、前半と後半で、担当講師は交替します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	授業の進め方と学校経営事始め	学校教育法、校長とミドルリーダー、校務分掌
2	学級経営	学級の誕生と実態（スクールカースト）、学級編制、教師の学級指導
3	「学び続ける教師」	教師の職能開発、同僚性、授業研究
4	教員と学校の評価	教員評価、PDCAサイクル、学校評価
5	「チーム学校」と地域連携	「チーム学校」政策、異視線の専門家との協働、コミュニティー・スクール
6	学校の危機管理と安全対策	学校保健安全法、災害等の危機管理、教員の安全対策と責任、前半のまとめ
7	憲法・教育基本法制	憲法・子どもの権利条約の教育条項、教育基本法の新旧比較
8	教育行政のしくみ	文部科学省、教育委員会、学校管理規則
9	学習指導要領と教科書制度	教育課程と学習指導要領、教科書検定・採択
10	教育の無償性と教育財政制度	教育の無償性、国庫負担金と補助金、地方交付税、就学援助と教育扶助
11	教育を受ける権利と学校制度	義務教育制度、学校制度改革、教育機会保障
12	まとめと試験	後半のまとめ、授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日配布されるプリント教材と板書、自作ノート、コメントペーパー等を利用して復習してください。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を毎日（毎時間）配布し、使用します。

【参考書】
『学校経営』（教師教育テキストシリーズ）小島弘道編著、学文社、2009年、￥1,800+税
『学習指導要領』現行学習指導要領及び新学習指導要領（平成29年3月公示、文部科学省ホームページ掲載）
文部科学省及び各都道府県・市町村教育委員会のホームページ掲載の各種資料

【成績評価の方法と基準】
最終時限の試験が80％、授業内の活動（コメントペーパー作成、ディスカッション等）が20％、これを目安として総合的に判断します。試験は論述式問題であり、二人の講師が各一問を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
The topics of this class are focused not only on Japanese law and system in educational administration and finance, but also on school organization and management,including risk management,safety measure and cooperation with local community.

HIS100TA（史学 / History 100）

日本史（春期スクーリング）

永田　一

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本古代史を、対外関係に重点を置いて検討する。また、それを通じて歴史学の研究方法を学ぶ。

【到達目標】
日本古代史を東アジアという広い視野で見る姿勢を養う。また、史料の分析、先行研究を踏まえて論理を構築し実証する歴史学の研究方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で進めるが、学生を指名して史料を音読してもらうことや、解釈を述べてもらう機会も設けたいと考えている。これは、学生に史料の読解力や考察する力を身につけてもらうことが目的で、積極的に取り組んでいるかどうかを重視する。また、史料や画像を提示し、学生がより明確なイメージを描けるように工夫する。質問は授業中及び提出カードでも受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	歴史学の基本的な研究方法、東アジアという視野で日本古代史を考えることの意味について
第2回	倭国の誕生と東アジア	『魏志』倭人伝などをとりあげ、弥生時代の社会や、卑弥呼の外交などについて考える
第3回	倭王権と東アジア１	倭の五王の外交をとりあげ、中国南朝や朝鮮半島の諸国との関係について考える
第4回	倭王権と東アジア２	推古天皇の時代の遣隋使派遣をとりあげ、当時の東アジア情勢について考える
第5回	倭王権と東アジア３	白村江の戦いをとりあげ、激動する東アジア情勢について考える
第6回	倭王権と東アジア４	倭王権と東北地方の蝦夷の関係について考える
第7回	律令国家の誕生	８世紀初頭に成立した律令国家の政治・制度を概観する
第8回	律令国家の展開１	在地首長制と律令国家の土地制度について考える
第9回	律令国家の展開２	８世紀初頭の政治史を、藤原不比等・長屋王を中心に考える
第10回	律令国家の展開３	藤原仲麻呂の台頭から桓武天皇即位までの政治史について考える
第11回	律令国家の対外関係１	白村江の戦い以降の唐・新羅との関係、８世紀以降の渤海との関係について考える
第12回	律令国家の対外関係２	８世紀前半における律令国家と蝦夷・隼人との関係について考える
第13回	律令国家の対外関係３	天平産金、藤原仲麻呂政権期の東北政策について考える
第14回	解説と試験	授業の内容を総括、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布したプリントに目を通して復習すること。特に引用史料については音読し、史料を読むことに慣れていって欲しい。また、参考文献を読んで理解を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特になし。教員が作成したプリントを配布する。

【参考書】
佐々木潤之介ほか編『概論　日本歴史』（吉川弘文館、2000年）
佐藤信編『大学の日本史―教養から考える歴史へ―』１古代（山川出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】
試験（100％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
We will make a study of japanese ancient history , focus in international relations.And we will study the method of historical science.

PHL100TA（哲学 / Philosophy 100）

哲学（春期スクーリング）

白根　裕里枝

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「哲学」というと、難しく厄介なものという印象があるかもしれません。しかし哲学は、人間が生きてゆく上で、とても身近で大切な「幸せに生きること」に直接かかわるものなのです。それゆえ、この授業では、哲学が誕生した古代ギリシアにまで遡って、哲学とは本来いかなるものなのかということを丁寧に説明し、哲学の重要性について理解してもらいたいと思います。紀元前６世紀という、日本ではまだ縄文の時代に、ギリシア人は深い思索を生み出したのです。それは驚くべきことです。そのギリシア人の精神の耀きは歴史を超えて、いまなお私たちを照らし、哲学の大切さを示し続けています。さらには、哲学と科学はどう関わり、哲学と宗教はどこで異なるのかなども大事な問題です。哲学とは本来どのような知的営みなのか、この授業を通じて理解することにより、皆さんも自分の人生を振り返り、さらに豊かにすることができるでしょう。哲学はそのような知の力を持っています。

【到達目標】
哲学というものがそもそも何を問題として、どのように誕生したのか、哲学の原点について深く理解すること、そしてまた、哲学と科学や、宗教との関わりについて理解することを、この授業は到達目標とします。人生は学びの連続です。人間は常にさまざまなことを学んで生きてゆくものですが、そこにはさらに、何を学ぶのか、何のために学ぶのかという視点も必要とされます。この授業を通じて皆さんは「知るということ」の価値や、広く学ぶことの意義を見出すでしょう。そして、哲学のない人生がいかに不毛な人生であるかを、知ることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で進めてゆきます。プリントを使った丁寧な説明により、哲学についての理解を深めてゆきます。毎回の出席カードを利用した皆さんのコメントも重視します。皆さんの疑問に答え、また要望にも対応しながら、授業内容について皆さんが理解できるように手助けします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	序論	哲学という学問の位置づけと「謎」に迫る
第2回	「哲学とは何か」(1)	哲学という言葉の意味とその変遷
第3回	「哲学とは何か」(2)	哲学の出発点、無知の自覚
第4回	「哲学とは何か」(3)	愛の３つの対象、哲学とは何か
第5回	「哲学と科学」(1)	知について、科学とは？
第6回	「哲学と科学」(2)	科学の特徴と哲学の意義
第7回	「哲学と科学」(3)	哲学と科学の相補性
第8回	「哲学と宗教」(1)	知ることと信じることの変遷
第9回	「哲学と宗教」(2)	現代における宗教の意義
第10回	「哲学と宗教」(3)	宗教心と自由意志の問題
第11回	「哲学と善き生（幸福論）」(1)	幸福は徳と知による
第12回	「哲学と善き生（幸福論）」(2)	幸福感と幸福であること、善と快、ソクラテスの場合
第13回	「哲学と善き生（幸福論）」(3)	幸福論の歴史
第14回	まとめと試験	授業の最後に論述試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は授業後にプリントをよく読み直し、理解できたこと、理解できなかったことを整理し、レポートに備えて自分の言葉で簡潔にまとめておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。各自、参考書を読んでみて下さい。

【参考書】
岩崎武雄著『哲学のすすめ』講談社現代新書
渡辺二郎著『はじめて学ぶ哲学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
「哲学とは何か」についてのまとめが一段落した時点で、理解を深めるために、まとめのレポート①（2000字程度）を出してもらいます。また授業の最後に簡単な論述試験を行います（レポート②）。テーマは、「哲学と科学」と「哲学と宗教」のどちらか、そして「哲学と幸福」についてです（両方で2000字程度）。どの場合も、授業の内容を簡単にまとめたうえで、自分の考えを述べてもらいます。平常点２０％、レポート各４０％で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
（今年度開講につき、アンケートを実施していません）。とはいえ、理解しやすいように丁寧に授業を進めて行きます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students understand how important philosophy is. This course introduces the origin of the philosophy in ancient Greece and the relation between philosophy and science or religion to students taking this course.

HUG100TA（人文地理学 / Human geography 100）

人文地理学（春期スクーリング）

小原　丈明

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学とは，地球上で営まれるあらゆる事象について，空間的な観点からその実態や要因についての理解を試みる学問です。つまり，日常生活の中で経験するすべての事象が研究・学習の対象となりえます。

そこで，本授業では「衣」,「食」,「住」といった私たちの生活に関わる事例を題材にして，身近な事象を空間的に捉えていき，その事象のメカニズムや問題点について考えます。具体的には，衣料品や食料品の生産・流通の展開，居住地の開発や変化といった事象について，空間的側面から考察します。

【到達目標】

本授業を通じて，地理学における基本的な概念が理解できるようになります。また，身の回りの生活に関わる諸事象を地理的（＝空間的）な観点から総合的に考える力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。上記の通り，「衣・食・住の地理学」をテーマとして，私達の日常生活の身近な事象について地理学的に考えていきます。

本授業は講義形式の授業のため担当者による話題提供が中心となりますが，受講生自らが考え，意見を表明することを重視します。それゆえ，定期的に授業中や授業外でレポート課題を課すことになるので，積極的に取り組むことを期待します。

授業内および授業外のレポート課題で示された受講生の意見については授業内で紹介ならびにリコメントするとともに，それを踏まえてディスカッションを行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／地理（学）とは？	講義の方針・内容について／空間・場所，生活，地図
第2回	「衣」の地理学①	原料の生産
第3回	「衣」の地理学②	アパレル産業1：生産
第4回	「衣」の地理学③	アパレル産業2：流通
第5回	「衣」の地理学④	アパレル産業3：アパレル産業の変化
第6回	「食」の地理学①	フードシステム1：原料の生産
第7回	「食」の地理学②	フードシステム2：製品の生産・加工
第8回	「食」の地理学③	フードシステム3：流通・消費
第9回	「食」の地理学④	「食」をめぐる問題
第10回	「住」の地理学①	戦前の住宅地開発の戦略性
第11回	「住」の地理学②	戦後の住宅地開発の戦略性
第12回	「住」の地理学③	居住地の変化1：時代的変遷
第13回	「住」の地理学④	居住地の変化2：属性による変化
第14回	まとめ・補足	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の小レポート以外に，授業外のレポート課題に取り組んでもらいます。授業外のレポート課題では，受講生自らが具体的なテーマを設定し，そのテーマについて調べる（フィールドワークを伴う調査）ことが求められます。また，授業中に紹介した参考文献を自主的に読むことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメや配布資料は担当教員で準備し，配布します。

【参考書】

関連する文献については，授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小レポート課題・授業外レポート課題等）：30％，期末試験（持ち込み不可）：70％で評価します。積極的に取り組む姿勢を重視し，成績評価に反映させます。また，できるだけ差がつくように評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

なお，できるかぎり各回で完結する講義内容となるように心掛けますが，受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。

【Outline (in English)】

This course introduces the geographical phenomena around our lives to students taking this course. Especially, this course deals with the productions and distributions of clothes and foods, the developments and the changes of residential areas, and so on.

The goals of this course are to be able to understand the basic geographical concepts and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

GEO100TA（地理学 / Geography 100）

自然地理学（春期スクーリング）

加藤　美雄

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活に密着している気象現象を理解することにより時間的・空間的な広がりを持つ気候について様々な角度からアプローチし、地球温暖化など人為による気候の改変対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について考え、論ずることができることを目的とする。

【到達目標】
・大気現象や大気の流れを理解する。
・様々なスケールの気候を把握する。
・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
・自然環境の変化による異常気象を把握する。
・課題論文を理解することにより、論文を書く力を付ける。
・人為によって改変した気候の問題点とその対策について考察し、まとめる。
・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問・意見・討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は気象学、気候学に関し最新の研究を中心に講義すると共に、作図や課題論文の解説、気象の実験・映像を通して理解を深める。特に、気象学、気候学については、分かり易く説明する。また、地球温暖化によって加速する様々な異常気象について解説する。最後に地球温暖化の実態・予測を講義し、地球温暖化の緩和策と適応策について集団討論を実施し、各自の考えや意見により議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	気候の概論	気象と気候の違い、気候地名、気候景観などにより気候学の概要を講義する。
第2回	総観気象学 1（大気の安定・不安定、降水の仕組み、気象観測）	大気の構造、降水システムを理解し、観測の原理と観測機器を説明する。
第3回	総観気象学 2（低気圧、高気圧、前線、台風）	気象擾乱について理解を深め、用語を解説する。また、台風について説明するる。
第4回	高層気象（対流圏、成層圏の気候）	対流圏・成層圏の気候について講義するとともに、地球温暖化との関連について説明する。
第5回	大気候（大気海洋相互作用、エルニーニョ現象）	大気と海洋の相互作用とその影響、及びエルニーニョ現象について解説する。
第6回	中気候（季節変化、気圧配置、降水分布、やませ、気温分布、気候区分）	日本の季節変化から降水・気温分布などを説明し、気候区分について講義する。
第7回	小気候（海陸風、冷気流、山谷風、局地風）	海岸や山岳、盆地の気候について説明する。
第8回	都市気候（ヒートアイランド、緑地効果、環八雲）	人為による都市の気候の変化について解説する。
第9回	微気候（竜巻、洞窟の気候）	極小規模の気候について説明する。また、観光鍾乳洞の保護について解説する。
第10回	異常気象 1（定義、各現象との関連）	異常気象の定義、異常気象とエルニーニョ、地球温暖化の関連、近年の季節、気候、天候の変動について説明する。
第11回	異常気象 2（降水、洪水、高温、干ばつ、冷夏、寒波）	局地的な大雨・大雪、洪水被害、及び熱波や異常高温、干ばつ被害、冷夏や寒波などの様々な異常気象について講義する。
第12回	人為による気候の改変 1（酸性雨、黄砂）	酸性雨、黄砂の成因、及び日本における影響について説明する。
第13回	人為による気候の改変 2（オゾンホール）	オゾン層の役割について説明し、オゾンホール生成のメカニズムと今後の対策について検討する。
第14回	人為による気候の改変 3（地球温暖化、地球温暖化防止対策の集団討論）	現代社会の大きな問題となっている地球温暖化の原因から結果までを講義し、その緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、発表して意見交換し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全体を通じて「自然地理学（気候・気象）」（通信教育テキスト）を熟読しておくこと。また地球温暖化に関して、最新の状況を新聞、テレビ、インターネットなどより把握しておくこと。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する。

【参考書】
・異常気象を知りつくす本．佐藤典人著．インデックス・コミュニケーションズ
・新百万人の天気教室．白木正規著．成山堂書店

【成績評価の方法と基準】
試験は実施しない。評価の配分は以下の通りである。
・課題論文、作図、小テストが 40 %
・集団討議での発表および質疑応答が10 %
・レポートが 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
講義では、気象庁での実務経験、及び南極での観測をもとに様々な気象現象や深刻化する地球環境の変化を分かり易く解説する。

【Outline (in English)】
By understanding meteorological phenomena closely relating to our daily life, students will be able to approach the climate with temporal and spatial spread from various angles, and consider artificial climate modifications like global warming. Based on those skills, the goal is to discuss changes in the environment due to human activities with heavy considerations.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAT100TA（数学 / Mathematics 100）

数学１（春期スクーリング）

若井　健太郎

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数系を中心として、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】
数学で用いられる基本的な考え方に接し、それを「手にとって」親しんでもらうことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業で扱う項目は、整数の理論、代数系、線形代数。また、様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。
そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	整数の理論	ユークリッドの互除法
第2回	整数の理論	方程式 ax+by=c
第3回	整数の理論	１次合同式１
第4回	整数の理論	１次合同式２
第5回	整数の理論	連立合同式
第6回	代数系	演算
第7回	代数系	群
第8回	代数系	置換群１
第9回	代数系	置換群２
第10回	代数系	置換群と15パズル
第11回	線形代数	行列の加算・乗算１
第12回	線形代数	行列の加算・乗算２
第13回	線形代数	三角形の変換
第14回	線形代数	逆行列

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。

【テキスト（教科書）】
通教テキスト『数学』第1版、安東祐希・池田宏一郎・倉田俊彦、2008年

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
期末試験を行う。出席状況・レポート等を評価の参考にする場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】
Mathematics is used in various places. In this lesson, you learn about numbers and their relationships, centering on algebraic systems.

BIO100TA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

生物学１（講義）（春期スクーリング）

町田　郁子

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、『命とはなにか？』という問いをテーマに掲げて、生物学の立場から生物に共通する生命機能に対する理解を深め、命について考えることを目的として展開します。地球上に存在する多種多様な生物は、すべて細胞から構成されており、生物の遺伝形質は細胞内に収納されている遺伝子によって決定されています。この、細胞・遺伝子について学ぶことによって、「生命はなにからできているのか？」、「命はどのようにしてこの世に誕生するのか？」、「なぜ病気になるのか？」などの問いに対する答えを見つけていきます。また、この非常に複雑で精巧な生命のしくみに手を加える技術が近年急速に発展していますが、再生医療等の分野へどのように応用されているのか、またどのような倫理的課題をもたらしているのかについても考えます。

【到達目標】
生命現象を理解する上で必要とされる生物学の基本的な知識を会得し、生物学に関する最近の話題を理解できるようになるとともに、命というものの存在意義について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。
また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。また、毎回授業の終わりに、その回の授業内容に関するショートレポートを作成し提出して頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第2回	命ある生物とは？	命ある生物とはどんな特徴をもつのか、そしてその生物を対象とする生物学とはどんな学問なのかについて概説します。
第3回	命の材料とは？	生物体はどんな物質からできているのか、そして生命の最小単位である細胞とはなにかについて概説します。
第4回	命の設計図とは？	生命活動を営むための情報をもつDNAとはどのような働きをしているのかについて、その構造および複製のしくみ、また遺伝情報に基づいてタンパク質が作られるしくみを概説します。
第5回	命をつくる細胞の一生とは？	細胞の分裂や分化のしくみ、また細胞死やがん化について概説します。
第6回	命の誕生とは？	命はどのようにして誕生するのかについて、ひとつの受精卵から個体が形成されるまでの過程を、細胞の分裂・分化に着目しながら概説します。
第7回	命の要、タンパク質とは？	生体内において様々な役割を担うタンパク質の構造や機能について概説します。
第8回	命を支える細胞膜の機能とは？	生命活動に欠かせない細胞の機能について、細胞膜に発現している種々のタンパク質の働きに着目して概説します。
第9回	命をつなぐ情報伝達とは？	細胞が外部からの情報を受容し伝達するしくみについて概説します。
第10回	命を動かす細胞の運動とは？	細胞が周辺の環境や状況に応じて形態を変化させながら動いて個体の生命活動を支える現象について概説します。
第11回	命を守るしくみとは？	体内に侵入した異物に対する防御のシステムについて概説します。
第12回	命のしくみを利用した新しい医療とは？	細胞・遺伝子を扱う技術を用いた新たな治療法である再生医療について概説します。
第13回	命に手を加えるとは？	生命科学で技術の発達がもたらす倫理的課題について、歴史的背景とともに、実験動物の扱い・遺伝子技術・クローン技術・幹細胞技術を例にあげながら概説します。
第14回	期末試験	最終回に授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に提出するショートレポート（５０％）および期末試験（５０％）。
（必要に応じてレポート課題等を出した場合、それらも加味します。）

【学生の意見等からの気づき】
生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline (in English)】
This course introduces the basis of biological science, focusing on the principle of life. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mechanism of life phenomenon.
Lectures will also discuss current technologies related to cells and genes.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(１)（春期スクーリング）

大和久　悌一郎

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、英語読解能力は、国際社会の中で専門的な学問領域だけでなく、一般的な時事問題・日常生活においても重要になってきています。本授業では、そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実にみにつけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力を充実させていくことを目指します。

【到達目標】
・TOEICレベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
・TOEICレベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
日常的な英語表現と、英文法の各事項について解説しているテキストを用いて、基礎力を身につけていきます。また随時、新聞など海外の英語のニュース記事を読み、読解力を養っていきます。基本的に、テキスト１章分を２回の授業で扱い、必要に応じてプリントの配布を行います。毎回出欠の確認をします。また授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうことをお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容の紹介
第2回	Unit 7（例文読解）	商店街での日常表現
第3回	Unit 7（文法）	接続詞について
第4回	Unit 8（例文読解）	観光旅行での日常表現
第5回	Unit 8（文法）	過去完了形について
第6回	Unit 9（例文読解）	新幹線でもちいる日常表現
第7回	Unit 9（文法）	話法について
第8回	Unit 10（例文読解と文法）	旅行先での日常表現／話法
第9回	Unit 11（例文読解と文法）	お土産を買うさいの日常表現／関係代名詞について
第10回	Unit 12（例文読解と文法）	友人と会話するさいの日常表現／関係代名詞について
第11回	Unit 13（例文読解と文法）	日本について説明するさいの表現／関係副詞について
第12回	Unit 14（例文読解と文法）	思い出を語るさいの日常表現／仮定法について
第13回	Unit 15（例文読解と文法）	挨拶のための日常表現／仮定法について
第14回	まとめ	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回ごとに扱う章について、事前に予習をしておく。また、テキストに登場した単語や表現については復習する。

【テキスト（教科書）】
愛甲ゆかり、池田有花著『英語で紹介するニッポン！ -続・イングリッシュ・ワンス・モア！ - Introduce Japan in Easy English -English Once More! Ⅱ-』朝日出版社、2016年

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席・予習・小テスト等）６０%、期末試験４０%で評価します。３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また３回の遅刻は１回の欠席とみなします。7回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these hangouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(２)（春期スクーリング）

ウォルター・カズマー

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
This class will cover a number of business and social related issues. Discussion and short writing assignments related to the topics will be assigned to each area as awell as some interactive video assignments.

【到達目標】
Students will acquire necessary speaking and writing skills as well be able to handle discussion of current news topics. Presentation skills will also be brushed up on and students should gain confidence to conduct English language presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
Group and pair discussions, short comprehension writing, giving short speeches and presentations, and using analytical skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
Lecture #1	Syllabus introduction Gray market economy	Introducing chosen actitivities as well as gray market economy mechanisms and contrasting that with private and government economies.
Lecture #2	Private versus government bureaucracies	Examining aspects of the economy that influence our lives.
Lecture #3	Trump promises = new politics?	Looking at new political party dynamics with populism governing many recent choices.
Lecture #4	Money & Power	Discussiong CEO compensation packages and how they are designed and who does that benefit.
Lecture #5	CEO fraud: why do CEOs steal from the company?	Company fraud at the executive level is growing and we look at some examples of why it happens.
Lecture #6	Apple products-hype or quality?	We dive into the fanboy culture of Apple and examine why some users are so devoted to one brand.
Lecture #7	Apple technology, does it do what you want?	Taking a look at why engineers sometimes design things that people don't want.
Lecture #8	Female athletes-rising popularity	Taking a look at the Japanese skating phenomenon and curling team popularity
Lecture #9	Female athletes - tricky tradeoffs	Examining the treatment of female athletes versus male counterparts.
Lecture #10	Environmental problems	Looking at the art of incinerating and recycling trash. How does pollution affect our daily lives.
Lecture # 11	Managing and reusing refuse material	Looking at junkcrafts and novel ways of reusing waste material. Redesigning to cut down on waste and the use of biodegradable materials.
Lecture # 12	New elderly boom	Discussing trends in the world with rising elderly populations and the challenges involved.
Lecture # 13	Elderly work habits	Elderly people are returning to the workforce and showing new ways to accomplish tasks.
Lecture #14	Review and exam	Reviewing past covered topics with exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
Review any assigned readings or videos. Preview any assigned topics and accompanying videos on the Internet.

【テキスト（教科書)】
None required.

【参考書】
Not required.

【成績評価の方法と基準】
Class participation - 33%
Homework - 33%
Exam(s) - 17%
Report/speech- 17%

【学生の意見等からの気づき】
More English discussion

【学生が準備すべき機器他】
Writing material, paper, and smartphone or tablet/notebook.

【Outline (in English)】
Topics includeed cover gray market mechanisms in addition to other topics through readings and short comprehension assignments.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S(3)（春期スクーリング）

井上　紗央里

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
NHK英語放送のニュース教材を利用したテキストを使用し、音声、映像を使用したリスニング、ニューススクリプトの読解、語彙、文法、会話表現等の習得を行います。

【到達目標】
1. ニュース音声を使用して英語の音声に慣れ、リスニング力を強化する。
2. ニューススクリプトの読解を通して英語の文法、語彙を強化し、読解力を身につける。
3. 時事問題に触れることで、社会の状況に関心を持ち自分の意見を述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、語彙の確認、演習の答え合わせ、リスニング練習、ニューススクリプトの読解、発音練習などを行います。演習問題やニュースの内容などについて適宜受講生に質問をするので、質問に答えられるように事前に指示された箇所を予習をしてください。２ユニット読み終わるごとに単語の小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Introduction, Unit 1 Sprouting New Sushi Ideas 前半	イントロダクション（授業の進め方、予習のやり方など）とUnit1 の語彙の確認、リスニング演習
第2回	Unit 1 Sprouting New Sushi Ideas 後半	Unit 1 のニューススクリプトの読解、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第3回	Unit 2 In the Pole Position 前半	Unit 2 の語彙の確認、リスニング演習、ニューススクリプトの読解前半
第4回	Unit 2 In the Pole Position 後半	Unit 2 のニューススクリプトの読解後半、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第5回	Unit 3 Easing Off 前半	Unit 3 の語彙の確認、リスニング演習、ニューススクリプトの読解前半
第6回	Unit 3 Easing Off 後半	Unit 3 のニューススクリプトの読解後半、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第7回	Unit 4 In Memory of Monty 前半	Unit 4 の語彙の確認、リスニング演習、ニューススクリプトの読解前半
第8回	Unit 4 In Memory of Monty 後半	Unit 4 のニューススクリプトの読解後半、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第9回	Unit 5 Dating the AI Way 前半	Unit 5 の語彙の確認、リスニング演習、ニューススクリプトの読解前半
第10回	Unit 5 Dating the AI Way 後半	Unit 5 のニューススクリプトの読解後半、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第11回	Unit 6 Floating on a Dream	Unit 6 の語彙の確認、リスニング演習、ニューススクリプトの読解、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第12回	Unit 7 Japan Adventurer Completes Grand Slam	Unit 7 の語彙の確認、リスニング演習、ニューススクリプトの読解、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第13回	Unit 8 Sorting It Out	Unit 8 の語彙の確認、リスニング演習、ニューススクリプトの読解、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第14回	最終試験とまとめ	第1回から第14回までの内容に関する試験と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 各ユニットのBefore You Watchの語彙の問題を事前に解く。
2. テキスト巻末に掲載された方法でPCかスマートフォンを利用して専用のウェブサイトにアクセスし、事前にニュース映像を見る。
3. ニュース映像の音声を聴きNews Story本文の空欄のディクテーションを行う。
4. News Storyの英文をよく読み、わからない単語、表現等は事前に辞書で調べておく。
5. 各ユニットの演習問題を事前に解いておく。

【テキスト（教科書）】
NHK NEWSLINE 2 映像で学ぶNHK 英語ニュースが伝える日本 2（金星堂）　山崎達郎, Stella M. Yamazaki, Erika C. Yamazaki 編著 2,300円(+税)　ISBN 978-4-7647-4072-3　https://www.kinsei-do.co.jp/books/4072/（インターネット上の書店で中古のテキストを購入すると動画閲覧パスワードが掲載されていなかったり視聴期限が切れている可能性があるので新品を購入してください。）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
試験50% (筆記試験とリスニング試験、参照不可）小テスト10% 平常点（授業での学習状況、発言、提出物等）40%

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していないためなし。

【学生が準備すべき機器他】
授業では英単語を調べられる辞書（本の英和辞書、電子辞書、辞書アプリ等）を持参してください。予習でニュース映像を見るためにインターネットに接続できるPCかスマートフォンが必要になります。インターネットの使用が難しい場合は第１回目の授業で教員に相談してください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to improve students' vocabulary, grammar, reading, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(４)（春期スクーリング）

高橋　佳江

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
5文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとまった内容の文章を作って発表できることを目標とする。

【到達目標】
誤字脱字、ケアレスミスをなくしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくること。適宜、発表、レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第１課 At the airport	第１課 この教科書の使い方
4	第１課～ 第２課	第１課残り
5	第２課 On the plane	第１課小テスト
6	第３課 Arrival	第１課小テスト
7	第３課～ 第４課	第２課小テスト
8	第４課 Checking in at the hotel	第２課小テスト
9	第５課 Getting information and sightseeing	第３課小テスト
10	第５課～ 第６課	第３課小テスト
11	第６課 Ordering fast food	第４課小テスト
12	第６課～ 第７課	第４課小テスト
13	第７課 Going to the theater	第５課小テスト
14	授業内試験	範囲は授業で学習したところ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
単語帳の作成、書き取り練習に毎日1時間充ててほしい。

【テキスト（教科書）】
旅英語の心得　南雲堂　　2000円

【参考書】
辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　80％・小テスト・レポート課題　10％・平常点　10％。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は3回で欠席1回に換算される。学期中に半分以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。

【学生の意見等からの気づき】
過去にアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the necessary English skills and knowledge needed to travel overseas and study abroad.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(５)（春期スクーリング）

光野　昭雄

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ストックホルム宣言、東京宣言、リオ宣言等様々な環境宣言とそれらに関した記事を読みながら、英語力を養成すると共に様々な面から環境問題について考える。

【到達目標】
１　英文を理解する。
２　英文で書かれた内容について、様々な資料を参考にしながら理解を深める。
３　現在的視点から環境問題について考える。
４　問題を設定し、それについて自分の意見を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
環境問題の背景を最初に説明し、それについて書かれた英文を学生に訳してもらう。誤訳がある場合はそれを訂正し、その英文の内容について説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1回	環境問題の背景	どのように問題が生じたか説明する。
2回	環境問題の背景	DVD等を利用し理解を深める。
3回	ストックホルム宣言に関する英文記事	日本の参加
4回	ストックホルム宣言に関する英文記事	日本の目的
5回	ストックホルム宣言に関する英文記事	日本の主張
6回	ストックホルム宣言文	１～３
7回	ストックホルム宣言文	４～６
8回	ストックホルム宣言文	７
9回	ストックホルム宣言原則文	１～５
10回	ストックホルム宣言原則	６～１０
11回	ストックホルム宣言原則文	１１～１５
12回	ストックホルム宣言原則文	１６～２０
13回	ストックホルム宣言原則文	２１～２６
14回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に必ずその週の内容を一読しておくこと。

【テキスト（教科書）】
『人間環境宣言』(鳳書房)

【参考書】
『沈黙の春』レイチェル・カーソン　(新潮文庫)

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％　試験６０％

【学生の意見等からの気づき】
建設的な意見を歓迎したい。授業に活かしていきたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
This class will show you how your English reading skill on environment can
be developed.

LANd100TA（ドイツ語 / German language education 100）

独語Ｓ（春期スクーリング）

宮城　学

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語圏の文化や情報を、ドイツ語で収集できるようにドイツ語の基礎訓練を行います。春期ではまず動詞や冠詞などの語形変化に慣れるのが目標です。アルファベット、文字、発音から始め、動詞の変化を中心に文の基本構造を学びます。

【到達目標】
ドイツ語の音や単語に親しみ、文を組み立てる基本的なルールを身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式ですが、練習問題を中心に学生諸君に発音、発言していただく機会を多くとっていきたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文字と発音(1)	学習の仕方、辞書等について。 アルファベット、母音と綴り字の関係。
第2回	文字と発音(2) 簡単なあいさつ	子音と綴り字の関係。
第3回	動詞の変化(1)	人称代名詞と動詞の現在人称変化。
第4回	動詞の変化(2)	注意すべき動詞と文の作り方。
第5回	動詞の変化(3)	sein と haben の現在人称変化。
第6回	復習と練習	第３回～第５回の復習と練習問題。
第7回	名詞(1)	名詞の性と冠詞。
第8回	名詞(2)	名詞の複数形。
第9回	名詞(3)	名詞の格変化。
第10回	復習と練習	第７回～第９回の復習と練習問題。
第11回	動詞の変化(4)	幹母音が変わる動詞。
第12回	前置詞(1)	前置詞とその格支配。
第13回	復習と練習	第11回～第12回の復習と練習問題。
第14回	確認テスト	前期の習得度を確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や課題は重要な予習ですので必ずしてくるようにしてください。また前回の既習事項を確認してから授業に臨むようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
ドイツ語文法の基礎
著者：成田　節　　櫻井　麻美
出版社：同学社
価格：２４００円＋税

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（平常点）（４０％）および学期末の確認テスト（６０％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生諸君の理解度・習得度を確認しながら授業を進めていくよう心掛けているため、総合的に満足のいく評価をいただいていますが、やはり語学は「わかった」よりも「できた」が大切です。真の実力がつくように反復練習を増やしていきたいと思います。

【Outline (in English)】
The students will get a basic training in German so that German-speaking culture and information can be collected in German. The goal is to get used to the changes of word such as verb and article.

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）

仏語S（春期スクーリング）

佐野　栄一

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初歩全般を、発音から始めて簡単な過去や未来の表現まで、半期で教科書の３分の１程度をめやすに進めて行きます。
　文法からコミュニケーションまで、総合的に学習しますが、複数年学習を続ける通教受講者の便宜を図って、隔年で、文法により重きを置く年、会話や表現により重きを置く年、と、分けています。2019年度は、前者（文法）です。

【到達目標】
　最初歩のフランス語の読み書きやコミュニケーションができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
　任意の事項の解説が終わるごとに、理解度を図るため、即興の質問や練習問題を提示し、解答してもらいます。また、初めてフランス語を勉強する学生と既に初級段階を終えている学生が混在することから、後者のためにより発展的な事柄についても解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	フランス語の発音	母音と子音について。
第2回	綴りと発音	①綴りの読み方。 ②アルファベ（A～Z）。
第3回	名詞と不定冠詞	①フランス語と日本語の名詞の違い。 ②不定冠詞とは何か。 ③挨拶の表現。
第4回	不定冠詞と定冠詞	①定冠詞とは何か。 ②不定冠詞と定冠詞の違いは。 ③簡単な提示と質問の表現。
第5回	主語人称代名詞と動詞etre	①最初の動詞と動詞の活用について。 ②国籍、職業の表現。
第6回	疑問文と否定文	①疑問文と否定文の作り方。 ②尋ね、答える、最初歩のコミュニケーション。
第7回	形容詞	①形容詞の性数変化と位置について。 ②形容詞を使った表現。
第8回	動詞avoir	①動詞avoirの用法。 ②自動詞とは、他動詞とは。 ③持ち物に関する表現。
第9回	第１群規則動詞（ER動詞）	①第１群規則動詞の活用。 ②規則動詞を使った表現。
第10回	部分冠詞と指示形容詞	①部分冠詞とは何か、他の二つの冠詞との違いは。 ②指示形容詞のつく様々な熟語を用いる表現。
第11回	第２群規則動詞（ER動詞）と所有形容詞	①第２群規則動詞の活用。 ②所有形容詞を用いた表現。
第12回	動詞aller	①動詞allerの用法。 ②動詞allerを使って、「～へ行く」「～しにゆく」の表現。
第13回	動詞venir	①動詞venirの用法。 ②動詞venirを使って、「～にくる」「～しに来る」の表現。
第14回	動詞allerと近接未来	①近接未来の作り方。 ②「～するところだ」という近い未来を表現する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当初は復習を中心に、受講内容を整理して完全消化に努めてください。中盤からは、復習とともに、教科書を事前に読んでおく、わからない単語は調べておく、など、毎回の授業がよりよく理解できるよう予習にも努めてください。

【テキスト（教科書）】
安田悦子著「ヴィット フェ・ビヤン フェ！」（白水社）

【参考書】
特に指定しませんが、必要と思ったら、読み切れるものを選んでください。読み通すことが一番大切です。厚い高度なものは、自分の実力は中級以上、と自覚したら挑戦して下さい。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の結果に、授業での平常点を加味して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
半年間で習得すべき最小限の内容を適切な速度でやっているつもりが、多くの学生からは早すぎると受け止められるようです。よりゆっくりと、しかし簡潔に話すよう努め、理解度の向上を図りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞典

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
This cours is for the students who learn French language at the first time.
As the aim of a lesson, we would like arrive at the expression of the future and perfect tense in six month.

LAW300TB（法学 / law 300）

債権各論（春期スクーリング）

足利　沙緒理

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「民法第二編契約第一節総則」に規定されている、契約の成立・効力・解除等に関する事柄および「民法第二編契約第二節贈与～第十四節和解」に規定されている、各種契約の効力等について学ぶ。
関連する判例等についてもあわせて学習をすることで、各規定はそれぞれどのような場面で問題となってくるのかについて具体的に理解する。

【到達目標】
①契約に共通するルールを理解する。
②民法に規定されている各種契約に関するそれぞれのルールを理解する。
③①・②をもとに、具体的な検討ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。
授業では、テキスト・六法を使用し、適宜資料も配付する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 契約の概念	授業内容や進め方についての説明 契約の意義や種類などについての解説
第2回	契約の成立	申込と承諾に関する問題や契約締結上の過失などについての解説
第3回	契約の効力	同時履行の抗弁権、危険負担などについての解説
第4回	契約の解除	法定解除、合意解除、約定解除などについての解説
第5回	売買①	売買の成立に関わる問題についての解説
第6回	売買②	売買の効力に関わる問題についての解説
第7回	売買③	特殊な売買についての解説
第8回	贈与	贈与の成立・効力などについての解説
第9回	消費貸借 使用貸借	消費貸借の成立・効力、使用貸借の成立・効力などについての解説
第10回	賃貸借①	賃貸借の成立・当事者間での効力などについての解説
第11回	賃貸借②	賃貸借の第三者に対する効力・終了などについての解説
第12回	雇用	雇用の成立・効力・終了などについての解説
第13回	請負 委任	請負の成立・効力・終了、委任の成立・効力・終了などについての解説
第14回	その他の契約	寄託、組合等についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト等を用いての予習・復習。
予習：テキストの該当部分に軽く目を通す。
復習：授業の内容をふまえたうえで、配付資料も参照するなどしながら、テキストの該当部分を丁寧に読む。

【テキスト（教科書）】
滝沢昌彦・武川幸嗣・花本広志・執行秀幸・岡林伸幸『債権各論』（ハイブリッド民法４）（法律文化社、2018年）

【参考書】
窪田充見・森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ（第８版）』（有斐閣、2018年）
そのほか、授業内でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価。（100％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
An outline of this class is to learn the rules and problems about Formation of Contracts, Effect of Contracts and Cancellation of Contracts that are provided for in Civil Code Part Ⅱ Chapter Ⅱ Contracts Section1 General Provisions and effect of various kinds of contracts that are provided for in Civil Code Part Ⅱ Chapter Ⅱ Contracts Section2 Gifts～Section14 Settlements.
And by learning about the cases that have relations to the articles and problems stated previously, to acquire the cases that apply to the said articles, practically.

LAW300TF（法学 / law 300）

商法総則・商行為法（春期スクーリング）

石井　宏司

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、商法第一編商法総則についての講義を行う。
　商法総則は商法の総則であると同時に主に個人商人を対象とした法規制である。商法の総則的な法規制とともに、個人商人の商号や商業帳簿、商業登記など個人商人の組織に関する法規制を講義する。
　本講義においては法学概論等を未修であっても受講者が理解できるよう法学の基礎から丁寧な解説を行うことを予定している。また本講義では条文の文言に即して詳しくわかりやすく講義していく予定である。条文の文言解釈にあたり重要な法の沿革、学説、判例等を理解する
　学生は商法総則の各制度、条文の重要な文言の解釈、主要な判例学説を理解できるようになることが本講義の目標となる。本講義を通して、商法総則の法規制を理解し実社会において活用することができるレベルまで到達することが望ましい。

【到達目標】
商法総則の条文の文言の理解に関して、文言の理解に必須な解釈と沿革、学説等について十分に理解できるようにする。
また、一般用語と異なる商法における専門用語の理解ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
板書による講義形式で行う。
筆記用具と六法、教科書は毎回使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・商法の意義と法源①	授業の進め方を説明する 商法とは何かと言う問題とその沿革について学ぶ
第2回	商法の意義と法源②	商法における法源の種類およびその適用を学ぶ
第3回	商法の基本概念①	商法における商人の意義について学ぶ
第4回	商法の基本概念②	商法における商行為の意義について学ぶ
第5回	商業登記	商業登記の意義及びその効力について学ぶ
第6回	商号①	商号の意義とその制限について学ぶ
第7回	商号②	商号の貸与や譲渡などについて学ぶ
第8回	商業帳簿	商業帳簿の意義及びその作成保存等について学ぶ
第9回	商業使用人①	商業使用人、特に支配人についてその意義及び権限を学ぶ
第10回	商業使用人②	支配人以外の商業使用人についてその意義及び権限を学ぶ
第11回	代理商①	代理商の意義と法的性格について学ぶ
第12回	代理商②	代理商の権限及び代理商契約の終了等について学ぶ
第13回	営業①	営業の意義について学ぶ
第14回	営業②	営業の意義を踏まえてその譲渡や担保化などを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講する学生は予習と復習を行うこと。
予習については教科書の目次を見る程度の簡単なものでよい。
復習についてはノートと教科書をしっかり見直すことが望ましい。
また授業内で指摘した文言等の解釈についての問題意識を考慮しながら復習することが望ましい。その際に必ず六法の条文を参照することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
近藤光男『商法総則・商行為法(第7版)』(有斐閣、2018)

【参考書】
『商法（総則・商行為）判例百選 第5版〔No.194〕』（有斐閣、2008）

【成績評価の方法と基準】
定期試験の得点により成績を評価する（配分：100％）

【学生の意見等からの気づき】
商法総則は抽象的な条文が多く非常にわかりにくいので判例等の実例を用いて具体的に説明するようにします。また、様々な難解な法律用語が出てきますが、これらについてはさらにわかりやすく説明するように工夫を行っております。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This course is intended to provide understanding of the General Provisions of the Japanese Commercial Code. In addition to providing a general introduction to the Japanese legal system, this course will concentrate on specific legal topics such as trade name, commercial books, and commercial agents. Through this course , students will learn the history, the case law and the doctrine of commercial law.

LAW300TB（法学 / law 300）

会社法（春期スクーリング）

笹久保　徹

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は商法の会社法に関する講義である。
受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

【到達目標】
・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式である。憲法、民法又は刑法と異なり、会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図解を駆使して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。
なお、本授業の受講者は、是非とも、秋期スクーリングの「会社法」も受講してもらいたい。秋期スクーリングも受講することで会社法の全体を理解することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	会社法　総論	会社法を学ぶための前提知識や用語等の解説
第2回	株式会社の設立1	設立総論に関する解説
第3回	株式会社の設立2	発起人・定款に関する解説
第4回	株式会社の設立3	設立手続きに関する解説
第5回	株式会社の設立4	発起人等の責任に関する解説
第6回	株式会社の設立5	設立の瑕疵・仮装払込み等に関する解説
第7回	株式会社の機関　総論	機関の概要に関する解説
第8回	株式会社の機関　株主総会1	株主総会の権限・種類・招集に関する解説
第9回	株式会社の機関　株主総会2	株主総会の議事・議決権に関する解説
第10回	株式会社の機関　株主総会3	株主総会の決議・決議の瑕疵等に関する解説
第11回	株式会社の機関　取締役1	取締役の権限等に関する解説
第12回	株式会社の機関　取締役2	取締役会の招集・決議等に関する解説
第13回	株式会社の機関　取締役3	代表取締役・表見代表取締役に関する解説
第14回	株式会社の機関　取締役4	取締役の義務及び責任に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』）を読むこと。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。
復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキスト（柴田和史『会社法詳解〔第2版〕』）を熟読すること。

【テキスト（教科書）】
柴田和史『会社法詳解〔第2版〕』（商事法務、2015）

【参考書】
・柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）
・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』別冊ジュリストNo.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）の成績による（試験100％）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
受講生は最新の六法を持参すること。
テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW300TB（法学 / law 300）

刑法各論（春期スクーリング）

須藤　純正

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑法とは何が犯罪であるか、それに対してどのような刑罰が科されるかを規定した法律であり、このうち刑法総論が刑法典総則（1条～72条）を基礎として各犯罪類型のいわば共通項としての一般的要件（構成要件該当性、違法性、有責性）を中心に論ずるものであるのに対し、刑法各論は刑法典各則（77条～264条）、その他の刑罰法規における個別的成立要件を具体的に検討する作業である。

本講義では、個人的法益に対する罪を中心に扱うが、現在よく適用される罪（サイバー犯罪、薬物犯罪など）、過去に適用された罪（思想犯罪）についても取り上げる。

【到達目標】

授業が終了した時点では、修得した知識をツールとして日常的な社会事象にあてはめることができて（法律を適用し）、仮に裁判員に選ばれても犯罪の成否とそこでの問題点を自ら考えて具体的妥当な解決に導くことができるリーガルマインドが備わっていることが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で、主に個人的法益に対する罪のうち殺傷犯等の成立要件を検討することになる。受講生が本講義で学んだ知識を道具として社会事象に適用できるという「考える力」を身につけることが目標であり、授業内で具体的な事例研究を行いグループ討論の時間を設けることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方の説明、授業理解の前提となる刑法総論の知識の確認。
第2回	生命に対する罪（殺人罪）	殺人罪、情況証拠による殺意の認定、介護殺人、自殺関与罪、自殺をめぐる諸問題、事例研究（自殺強要）
第3回	身体に対する罪（暴行・傷害罪、過失傷害罪）	暴行概念の相対性、結果としての傷害と行為の故意との関係、加重要素としての傷害、特別公務員暴行陵虐罪（戦前の拷問）
第4回	自由に対する罪（脅迫・監禁罪、略取・誘拐罪）	脅迫罪をめぐる諸問題（パワ・ハラ、威圧的取調べ）、人質司法、不当勾留と監禁、事例研究（未成年者誘拐）
第5回	性的自由に対する罪	強制性交罪、戦争と性暴力、ヘイト・クライム、事例研究（性的意図の要否）
第6回	秘密に対する罪	秘密漏示罪、戦前の間諜罪、近時制定の秘密保護法、事例研究（医師の通報と守秘義務違反の成否）
第7回	名誉に対する罪	名誉棄損罪、インターネットと名誉棄損、ヘイト・スピーチ、事例研究（名誉棄損と真実性の証明）
第8回	思想犯罪	戦前にタイム・スリップ、皇室に対する罪、治安維持法、思想・宗教弾圧
第9回	信用・業務に対する罪	業務妨害罪、不正アクセス禁止法、遠隔操作、ハッキング、サイバー・テロ、電子計算機損壊等業務妨害罪
第10回	財産犯罪（詐欺罪）	詐欺罪、許される嘘と許されない嘘（虚偽文書、偽計業務妨害、暴力団員であることの秘匿と取引
第11回	風俗に対する罪（賭博罪）	賭博罪、デリバティブ、公営ギャンブル、カジノ法
第12回	国家的法益に対する罪（内乱罪）	テロ、クーデター、国交に関する罪、騒乱罪、破防法
第13回	薬物犯罪（覚せい剤取締法違反罪）	覚せい剤自己使用の罪の構成要件、捜査の端緒、証拠法、その他の依存薬物、刑罰か治療か？
第14回	定期試験	記述式、60分予定。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書のスキミング（予習）とクリティカル・リーディング（復習）。平均的な学生にとっては復習に週１時間程度の時間を取ることが、授業を理解するために必要となろう。

【テキスト（教科書）】

西田典之「刑法各論（第７版）」（弘文堂）

【参考書】

別冊ジュリスト刑法判例百選２各論［第７版］（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

出席・平常点（10％）、中間の小テスト(20%)、期末の定期筆記試験（７０％）で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

過去にアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

小六法（「デイリー六法」三省堂など）

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、
日時：毎週水曜日４限の時間帯（15：00～16：40）
場所：８０年館３０１号室
ただし、仕事等の関係で上記時間帯が差支えである場合、メール又は直接の予約により、平日午後６時～７時の間の臨時オフィスアワーに応じることも考慮する。
担当教員のEmail:　s-sudo@hosei.ac.jp
担当教員は検事（20年）・弁護士（20年）としての実務経験を有しているので、本授業で扱う各種犯罪について、検察官としての捜査・起訴・公判維持の経験、一部犯罪について私選・国選弁護の経験を踏まえた失敗談などのエピソードや刑事司法における日本の独自性に関する話を交えた講義をする予定である。

【Outline (in English)】

The basic goal of this course is to understand substantive criminal law. This cource can contribute to the general legal education of the law student. The offenses we learn will cover homicide, battery, rape, threat, defamation, fraud, drug offense and so on. This course mainly consists of doctorial lectures, and sometimes we will have classroom discussion over actual criminal cases.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸学概論（春期スクーリング）

中野　方子

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座は、平安時代の文学作品（古今集、伊勢物語、源氏物語、枕草子など）を主たる対象とし、上代、中世、近世文学との関わりや、海外の文学との影響関係、相違について触れながら、日本文芸学の諸問題（今年度は、海外の文学作品、なかでも中国文学の影響という問題を中心テーマとする）を取り上げ、その特色と本質を考えてゆくものである。抽象論に終わらせることなく、古典研究の方法論や、具体的な作品を学ぶことを通して、通時的かつ共時的な観点を意識しつつ、日本文芸学の本質的なテーマに迫ってゆく姿勢が築かれることを目的としたい。

【到達目標】

日本文芸学の基本事項や研究方法を理解することによって、日本文芸についての認識を深め、さらに全体を俯瞰的な視野で見渡すことができる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を主とするが、時に作品講読をしたり、特定のテーマに対してグループで討議し、発表するアクティブ・ラーニングの形式も取り入れる予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	日本文芸学入門	日本文芸学とは何か―文芸学と文学―、海外の文学と比較した日本文芸の特色。
第2回	日本文芸学のジャンル	日本文芸学のジャンル、江戸以前の作品についての通史的解説。
第3回	日本韻文文芸と海外の文学１	万葉集・古今集などの韻文文芸における中国文学の関わりを論ずる第一回。
第4回	日本韻文文芸と海外の文学２	韻文文芸と中国文学の関わりを考える第二回。
第5回	日本文芸学の研究方法／グループ討議への導入	日本文芸学における文献調査の基本的な方法とグループ討議の手順など具体的な方法についての解説。
第6回	散文文芸と海外の文学１／グループ討議第一回	伊勢物語と中国の文学の関わりについて考える第一回／グループ討議第一回はグループ分け、テーマ設定など。
第7回	散文文芸と海外の文学２／グループ討議第二回	伊勢物語と中国の文学の関わりについて考える第二回／グループ討議第二回は、リサーチの方法、分担などについての討議。
第8回	散文文芸と海外の文学３／グループ討議第三回	枕草子と中国文学について考える第一回。／グループ討議は、各自で調査したものを持ち寄って、討論する。
第9回	散文文芸と海外の文学４／グループ討議第四回	枕草子と中国文学について考える第二回。／グループ討議は、資料のまとめ、発表資料作成準備。
第10回	グループ討議第五回ープレゼンテーション	グループごとの発表・質疑応答。
第11回	発表の総括／プレゼンテーション予備日	発表予備日。発表のまとめ、講評。
第12回	散文文芸と海外の文学５	源氏物語と中国文学の関わりについて考える第一回。
第13回	散文文芸と海外の文学６	源氏物語と中国文学の関わりについて考える第二回。 日本文芸学と海外の文学についての総括。
第14回	総括・テスト	日本文芸学の総括・テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目では、各回の授業で扱う項目について、配布プリントの該当箇所を十分に読み、理解できるようにしてくること、またグループ討議のために、図書館などで各自調査し、整理してまとめる作業も必要となる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、授業時にプリントを配布する。

【参考書】

小田切秀雄『日本文芸学概論』（法政大学出版会）、日沼滉治『日本文学概論』改訂版（おうふう）、他は適宜講義のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）、発表及びレポート（35％）、宿題・平常点（15％）

【学生の意見等からの気づき】

研究方法がわかったという意見が多く、講義の中でもPCを用いた検索方法やポート作成の論文調べなど直接的な方法論が役に立ったというコメントもみられた。五年前から、講義の一部に、グループ討議、発表というアクティブ・ラーニングの形式を取り入れている。一方的な講義でなく、相互に討論することでテーマを深めてゆくこの方式は、概ね好評であるが、欠席者の問題など、多少改善が必要であると思われ、本年度はそうしたことについても留意してゆきたい。初心者でも参加できるような形としているが、調査、レポート作成について習熟している学生に対する対応も考えてゆきたい。

【Outline (in English)】

This course introduces Literaturwissenschaft(Literature of Scientific Scholarship) and the fundamentals of academic research to students asking this course by lecture and discussion.It starts to explore the basic themes of Japanese Classic Literature,then compares Overseas Literature(Chinese Classic Literature) and Japanese Classic Literature(verse and prose in Heian era). The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needs to achieve a better performance in their university studies.

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）

日本美術史（春期スクーリング）

萩原　哉

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本列島の文化は、中国や朝鮮半島などからもたらされた外来文化の影響を絶えず受容しながら、時代ごとにさまざまな美術作品を生み出してきた。本科目は、飛鳥時代から江戸時代までを対象に、各時代の代表的な作品について学び、日本美術史の概略とその特質を理解することを目的とする。

【到達目標】
① 飛鳥時代から江戸時代までの日本美術の大きな流れを理解する。
② 各時代の代表的な作品を知り、それぞれの作品の様式的・技法的な特色を理解する。
③ 日本美術史の変遷を促した歴史的・社会的な要因について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
飛鳥時代から江戸時代までの絵画・彫刻を対象とし、日本美術の流れを概観する。授業は講義中心におこない、各時代の代表的な作品をとりあげ、画像・映像等による作品鑑賞をまじえながら、それぞれの作品の制作事情、様式的・技法的な特色、造形の基盤となった思想や文化などについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	飛鳥時代の美術	仏教美術の幕開け
第3回	白鳳時代の美術	初唐様式の伝来
第4回	奈良時代の美術①	天平彫刻の展開
第5回	奈良時代の美術②	正倉院宝物と奈良時代の絵画
第6回	奈良時代後期～平安時代前期の美術	一木彫像の出現と密教美術の伝来
第7回	平安時代後期の美術①	和様彫刻の成立と展開
第8回	平安時代後期の美術②	平安仏画とやまと絵
第9回	鎌倉時代の美術①	南都復興と運慶・快慶
第10回	鎌倉時代の美術②	鎌倉絵画と肖像画
第11回	南北朝・室町時代の美術	水墨画の受容と展開
第12回	桃山・江戸時代初期の美術	狩野派と障壁画
第13回	江戸時代中期・後期の美術	江戸絵画の諸相
第14回	まとめ	授業内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に、参考書の授業内容に関連する部分を読んでおくこと。
授業後は、配布資料をよく読み、きちんと復習をすること。主要な作品については、美術全集等の大型図版を仔細に観察するとともに、図版解説や事典類を参照し、基本データ（名称、作者、制作年代、材質、技法、寸法、所蔵者・所在地）、制作の目的と経緯、様式的・技法的な特色などについての理解を深めること。
また、美術作品を所蔵する社寺や博物館・美術館等に積極的に足を運び、実際に作品を鑑賞する機会を得るよう心がけること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】
山下祐二・高岸輝（監修）『日本美術史』美術出版社、2014年
辻惟雄（監修）『カラー版　日本美術史』〔増補新装版〕美術出版社、2003年
辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会、2006年
水野敬三郎（監修）『カラー版　日本仏像史』美術出版社、2001年
朴亨國（監修）『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局、2016年
『日本美術全集』全25巻、講談社、1990-1994年
『日本美術全集』全20巻、小学館、2012-2016年
石田尚豊・田邉三郎助・辻惟雄・中野政樹（監修）『日本美術史事典』平凡社、1987年
久野健・中村元（監修）『仏教美術事典』東京書籍、2002年

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、学期末の筆記試験70％。

【学生の意見等からの気づき】
飛鳥時代から江戸時代までの絵画・彫刻・工芸を対象として、各時代の代表的な作品を紹介し、それぞれの作品の特色や魅力などを丁寧に解説することで、日本美術史のおもしろさ、奥深さを理解してもらえるよう、講義を進めていきたい。

【その他の重要事項】
授業時に映写する作品画像の撮影は不可とはしないが、他の受講者の迷惑にならないよう配慮すること。とくに、フラッシュを使用すること、シャッター音をならすことは禁止とする。

【Outline (in English)】
In this subject, we will learn about Japanese art history from the Asuka period to the Edo era.
Through learning, we will learn the representative work of each era, deepen the understanding of the style and technique features of each work and the historical and cultural factors that produced those works.

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）

日本芸能史（春期スクーリング）

小島　智章

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の我々が、映画やテレビドラマ、小説、アニメ、ゲームなどを通じて「歴史」に親しむように、かつて多くの人々が、演劇を通じて「歴史」に親しんでいた。また、演劇は、「同時代を写す鏡」の役割を果たし、作品が上演された当時の人々の生活や考え方を知るための重要な資料でもある。

この講義では、人形浄瑠璃（現在の「文楽」）の歴史や、舞台芸術としての特徴について概観したうえで、近松門左衛門の作品を講読・鑑賞し、そこに描かれた「歴史」と「現代」（近松の同時代）について考察する。

近松は、「平家物語」をどのように読み解き、新たな歴史物語を作り上げたのか。或いは、同時代に起こった事件の裏側に、どのようなドラマを見たのか。近松の歴史観や倫理観、美意識等について検討するとともに、近松作品が後続の演劇作品に及ぼした影響についても考える。

【到達目標】

・伝統芸能（人形浄瑠璃）に関する基礎的な知識を身につけ、作品を多角的に鑑賞することができる。
・日本文化における芸能の重要性について理解し、自分の言葉で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの講読と映像資料による作品鑑賞を行います。作品を鑑賞した際には、小レポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、参考文献・WEBサイトの紹介
2	人形浄瑠璃概論（1）	語り物の歴史と義太夫節
3	人形浄瑠璃概論（2）	日本芸能史における人形
4	『平家女護島』概説	「平家物語」と能『俊寛』との関係
5	能『俊寛』	作品の講読と鑑賞
6	文楽『平家女護島』	作品の講読と鑑賞
7	歌舞伎『平家女護島』	作品の鑑賞
8	近現代の「俊寛」受容（1）	近現代文学・演劇における「俊寛」受容の諸相
9	近現代の「俊寛」受容（2）	作品の鑑賞
10	『冥途の飛脚』概説	作品の概説と講読
11	文楽『冥途の飛脚』（1）	作品の鑑賞（「淡路町の段」）
12	文楽『冥途の飛脚』（2）	作品の鑑賞（「封印切の段」）
13	歌舞伎『恋飛脚大和往来』	作品の鑑賞（「封印切の場」）
14	『冥途の飛脚』受容	近現代演劇・映画における作品受容の諸相

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献・WEBサイト等で予習・復習をする。講義の内容、感想等をノートにまとめ、レポート執筆のための準備をする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布する。

【参考書】

教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・授業への参加度・小レポート20％
・期末レポート80％

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to consider about "the past" and "the present" drawn on the works of Chikamatsu Monzaemon by reading and appreciating his works, on the basis of outlining the history of Ningyo-joruri (Bunraku) and its characteristics as performing arts.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

中国文芸史（春期スクーリング）

吉井　涼子

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
親しみのある故事成語の典拠を用い、漢文（古典中国語）の訓読法を学習する。先秦時代の有名な書物の比較的短文のもの、レ点・一二点などを用いるシンプルな文章から始め、中国文化・故事に触れつつ精読し、漢文読解のための基礎力を培う。

【到達目標】
漢文の読み方を基本から理解し、同時に中国古典に対する理解力を深める。
漢文の基礎構造を学び、漢文訓読のスキルを習得する。
有名な故事成語の典拠や書物、エピソードを取り扱うことで、古代中国の歴史・文化に対する視野を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。毎回授業時にリアクションペーパーを提出してもらう。
各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：
春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、先秦時代についての概要を学習する。
第2回	『論語』を読む	為政篇を中心に学ぶ。
第3回	『孟子』を読む	梁恵王上から「五十歩百歩」などの出典の部分などを読む。
第4回	『管子』を読む	牧民から「倉廩実ちて則ち礼節を知り、衣食足りて則ち栄辱を知る」の成語を学ぶ。
第5回	『荘子』を読む	『荘子』は寓意的な話の宝庫である。斉物論から「夢に胡蝶となる」の話を、応帝王から「混沌の死」を読み解く。
第6回	『淮南子』を読む	『淮南子』人間から「塞翁が馬」の故事を読む。
第7回	『春秋左氏伝』を読む	『春秋』『春秋左氏伝』について解説し、「不及黄泉、無相見也」の故事を知る。
第8回	『史記』越世家を読む（1）	「臥薪嘗胆」の故事で有名な『史記』越世家を読む。
第9回	『史記』越世家を読む（2）	「呉越同舟」でも知られる呉と越が、どのような結末を迎えるかの部分を読む。
第10回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（1）	当時の中国の歴史状況を解説しつつ、「完璧」の故事の部分を読む。
第11回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（2）	「完璧」の故事の部分を精読し、当時の諸国の秦に対する印象を理解する。
第12回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（3）	「完璧」の故事の部分の結末を読む。
第13回	まとめ	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	試験	授業内で試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。

【テキスト（教科書）】
授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】
三省堂『全訳　漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。

【成績評価の方法と基準】
授業時の平常点（主にリアクションペーパー）を３０％、試験を７０％で評価を出す。
出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。
１回ごときちんと理解ができるよう、授業はゆるやかなペースで行う。

【Outline (in English)】
Learn kanji reading in classical Chinese by using the authority of familiar stories.
Start with a simple and short sentence, famous books of the pre Qin Dynasty, carefully reading while touching the Chinese culture and story, cultivating the fundamental power for reading classical Chinese.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅰ（春期スクーリング）

加藤　昌嘉

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
上代（奈良時代）～中古（平安時代）に作られた、史書・歌集・日記・物語を読み、文学史を概観する。同時に、古典文学にアプローチするための、さまざまな研究方法を学ぶ。

【到達目標】
A, 古典文学の成立・構造・表現・背景などを知る。
B, 古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。
C, 古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：
春学期

回	テーマ	内容
1	概説	文学史を俯瞰
2	上代	『古事記』
3	上代	『萬葉集』
4	上代	『日本霊異記』
5	中古	『古今和歌集』
6	中古	『伊勢物語』
7	中古	『竹取物語』
8	中古	『土左日記』
9	中古	『源氏物語』
10	中古	『枕草子』
11	中古	『更級日記』
12	中古	『大鏡』
13	中古	『今昔物語集』
14	試験	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
後掲の国語便覧を読み進めること。

【テキスト（教科書）】
◎足立直子ほか監修『プレミアムカラー国語便覧』（数研出版）

【参考書】
◎山口仲美『日本語の古典』（岩波新書）
◎川村裕子『王朝文学入門』（角川選書）
◎渡部泰明　編『和歌のルール』（笠間書院）

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（７４％）。各回のリアクションペーパー（２６％）

【学生の意見等からの気づき】
日本の古典に留まらず、現代の文学・文化にも言及する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the history of Japanese classical literature.

LIN100TC（言語学 / Linguistics 100）

日本言語学概論（春期スクーリング）

古牧　久典

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ柔軟性・流動性という側面を中心に概観する。

【到達目標】
・ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。
・多角的な視点からことばを観察することができる。
・日本語を相対化し、ことばの本質を捉える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進みます。コメント・意見を集約し、一部を次回の授業内で紹介することにより、理解を深め、議論の検討を行います。毎回テーマごとに関連する現象について、実例を収集・整理します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：
春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	言語・ことば
第2回	「言語」とは？	言語本質論１（一般言語学）
第3回	言語は記号？	言語本質論２（記号論）
第4回	言語はコミュニケーションの手段？	言語本質論３（言語使用）
第5回	言語が異なれば思考も違う？	人類言語学
第6回	比喩とは？	レトリック・比喩論
第7回	社会とことばの関係は？	社会言語学１（社会とことば）
第8回	「方言」とは？	社会言語学２（地域方言）
第9回	ことばからみる「らしさ」とは？	社会言語学３（役割語）
第10回	ことばの世代差・男女差とは？	社会言語学４（社会方言）
第11回	円滑な対人関係を築くことば遣いとは？	ポライトネス理論
第12回	心とことばの関係は？	心理言語学１（心とことば）
第13回	子どもはことばをどう獲得？	心理言語学２（言語習得）
第14回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（本授業は事前の予備知識は必要としないが）ことばに興味を持つ姿勢を日頃から身につける。授業で扱った現象の事例を収集、検討してみる。簡単な課題が出ることもあるので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる姿勢を身につける。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
加藤 重広 著 『ことばの科学（学びのエクササイズ）』（ひつじ書房）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・課題（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】
質問がある場合には、授業終了後に教室で受け付けます。

【Outline (in English)】
This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. The aim of this class is to help students learn the methodology of linguistics and related fields. The goal is to introduce students to different perspectives in the areas of approaches to language as a sign system (general linguistics and semiotics), anthropology of language (ethnolinguistics), sociology of language (sociolinguistics), and psychology of language (psycholinguistics).

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅱ（春期スクーリング）

岡野　幸江

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、近代文学の成立の背景やその特徴、その後の展開やそれに伴う文学潮流などについて学びます。特に名作と評価されている文学作品を内容と文体の両面から分析し、その表現を通して作品が発するメッセージを把握し鑑賞する方法を学びます。また文学の面白さを味わいながら近代文学の歴史も概観し、合わせて日本の歴史や文化などについても考えます。

【到達目標】
近代の文学者が描いた世界を当時の歴史、経済、社会、文化との関係にも注意を払いながら検討し、理解することを目指します。具体的な作品を読解することによって、文学の面白さを実感し近代文学の特徴を把握することが学習の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義を中心としますが、各作品についてはグループディスカッションなども行いながら発表してもらう場面も設けたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：
春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス―近代の幕開けと日本近代文学の成立	日本の近代はいつから始まり、その特徴は何か、また近代の始まりにはどのような文学が流通していたか考えます。
第2回	近代文学の成立Ⅰ―坪内逍遥「小説神髄」と二葉亭四迷「小説総論」	坪内逍遥「小説神髄」が提起し、二葉亭四迷「小説総論」が深めた写実主義について考えます。
第3回	近代文学の成立Ⅱ―坪内逍遥「当世書生気質」と写実主義	坪内逍遥「当世書生気質」の新しさと問題点を考えます。
第4回	近代文学の成立Ⅲ―二葉亭四迷「浮雲」と知識人の苦悩	「浮雲」の新しさを内容と文体の両面から考えます。
第5回	近代文学の成立Ⅳ―二葉亭四迷「浮雲」と言文一致	言文一致とその運動について考えます。
第6回	女性文学の登場Ⅰ―樋口一葉「たけくらべ」「にごりえ」と雅俗折衷体	「たけくらべ」「にごりえ」の世界を読み解き文体との関係で考えます。
第7回	女性文学の登場Ⅱ―樋口一葉「たけくらべ」「にごりえ」と女性問題	女性文学の登場の背景について女性問題との関係で考えます。
第8回	浪漫主義の高揚―国木田独歩「山林に自由存す」の抒情	「山林に自由存す」のロマンチシズムについて考えます。
第9回	浪漫主義から自然主義へ―国木田独歩「山林に自由存す」から「春の鳥」へ	「春の鳥」からロマンチシズムとリアリズムの融合について考えます。
第10回	自然主義とリアリズムの進化Ⅰ―田山花袋「少女病」の日常	「少女病」と「蒲団」との類似点について考えます。
第11回	自然主義とリアリズムの進化Ⅱ―田山花袋「少女病」から「蒲団」へ	自然主義の特徴や流行の背景について考えます。
第12回	自然主義とは異なる立場Ⅰ―森鷗外「安井夫人」に見るアンチ・リアリズム	「安井夫人」から鷗外の「歴史其儘と歴史離れ」という方法を考えます。
第13回	自然主義とは異なる立場Ⅱ―森鷗外「安井夫人」に見るアンチ・リアリズム	鷗外の方法が自然主義のリアリズムとどのように異なるのか考えます。
第14回	まとめと試験	前期授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取りあげた作品について事前に読み、感想や意見を持って授業に臨むことが必要です。また、講義後には、学習したこと、疑問、質問などをリアクションペーパーに書き提出します。

【テキスト（教科書）】
『日本近代小説史』安藤宏、中公選書、2015年、2000円＋税

【参考書】
『文芸学講義』小田切秀雄、菁柿堂、2016年

【成績評価の方法と基準】
S:100～90点、A:89～80点、B:79～70点、C:69～60点、D：59点以下
E:受験資格無、レポート・課題未提出等。
試験60％、ミニレポートの内容20％、授業参加度20％とし、各項目を総合して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な作品をたくさん読みたいという意見がきかれるので、できるだけたくさんの作品に接することができるよう心掛けたいと思います。

【その他の重要事項】
取りあげる作品については必ず事前に読んで、一人一人が問題意識を持って疑問点や感想などをまとめ、主体的に授業に臨んでほしいと思います。

【Outline (in English)】
This course introduces the feature of Japan modern literature and literary trends through to read the specific literary works to students taking this course.
At the end of this course, participants are expected to obtain basic knowledge about the formation process of Japan modern literature, understand modern history and culture of Japan as the background of literary works and apply to the appreciation of literary works.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講・現代（春期スクーリング）

高口　智史

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
戦時下の文学を読む――太宰治、新美南吉、中島敦
　１９３７年に日中戦争が始まり、翌年国家総動員法が成立して以降、表現の自由は奪われ、これから敗戦までは文学史の中でも「暗黒の時代」というイメージがある。確かに検閲制度の強化と物資統制で、作家にとって自由な自己表現は不可能になった。しかし小中高の国語教科書にその作品が収録されている新美南吉、太宰治、中島敦らの文学者は戦時下に活躍した作家である。（教科書に収録されてはいないが「おじいさんのランプ」、「走れメロス」、「お伽草子」、「山月記」などは戦時下に発表された作品である。）これはどういうことなのだろうか。もちろん彼らは権力に迎合したわけではない。にも関わらず、その数は多くはないが、今日でも読み継がれる良質の作品が発表された。（もちろんこれは偶然ではないが。）これまでこのもんだいについては文学史に於いて看過されてきたが、考察に値する重要な問題だと思われる。
　言うまでもなく作家を取り巻く状況は厳しい。厳しい検閲制度のある戦時体制下、作家たちは、表現者としての良心を棄てることなく如何に表現するか、もしくは如何に生きるかと言う切実な問題を抱え生きていた。表現は状況に規定されている。この授業では時代状況と表現との問題について考えてみたいと思う。その結晶が現在残された作品だとすれば、そこから彼らの苦悩をどれだけ掬い取ることができるかが、今日の読者の、そして文学研究の役割なのではないかと思う。
　授業では、個々の文学作品の具体的な読みを通して、戦時下の太宰治、新美南吉、中島敦の表現をめぐる格闘を明らかにしていきたい。ほかに井伏鱒二、堀辰雄の作品も扱う。
　もちろん作品の奥に潜む作者の声を聴きとるためには、慎重な読みの手続き（構造分析）が必要である。原理的にテクスト論は重要だが、恣意的な読みは慎まねばならない。恣意的な読みを避ける意味で読みの手続きに自覚的であることが大切である。授業では物語を丁寧に押さえていく地道な作業を行うことになる。歴史に関心がなくても、作品の読みの方法を学びたいという人も受講してほしい。

【到達目標】
・時代状況と文学表現との関係についての理解を深める。
・小説作品の構造、読みの手続きを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
主に講義形式で行う。新しい作品に入る時に簡単な感想を提出してもらい、終了時には授業のまとめ（演習プリント）を提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：
春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の進め方、目的について ・国家総動員法成立と文学表現について―特にアレゴリーの問題を中心に
第2回	井伏鱒二「へんろう宿」を読む	検閲と表現 戦時下のテーマⅠ――批評の方法
第3回	堀辰雄「曠野」を読む①	検閲と表現 戦時下のテーマⅡ――生き方の模索
第4回	堀辰雄「曠野」を読む②	継続
第5回	太宰治「富嶽百景」を読む	作品の表現の特徴について
第6回	太宰治「富嶽百景」を読む	検閲を超える方法―プリコラージュ
第7回	太宰治「富嶽百景」を読む	戦時下の太宰治を考える―「走れメロス」など他の戦時下の作品を振り返る
第8回	新美南吉「おじいさんのランプ」を読む	児童文学の表現 「ごんごろ鐘」など同時期の作品に見る作者のメッセージ
第9回	新美南吉「おじいさんのランプ」を読む	初期の作品との比較―新美南吉の〈転向〉について考える
第10回	中島敦「李陵」を読む	「一」李陵の物語を読む―捕虜になるまで
第11回	中島敦「李陵」を読む	「二」司馬遷の物語を読む
第12回	中島敦「李陵」を読む	「三」李陵の物語を読む―捕虜以後、蘇武との関係を中心に
第13回	中島敦「李陵」を読む	戦争と中島敦―「山月記」からの文学的な歩み
第14回	まとめ	戦時下の文学と表現について―新しい文学史に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習
・授業で扱う作品を事前にしっかり読みこんでほしい。（二回以上は読むこと）
・演習ノートに気づいたこと、わかったことを書きこんでみる。
復習
・授業のノートを参照しながらもう一度作品を読みなおしてみる。

【テキスト（教科書）】
授業で扱うテキストは授業内で配布する。

【参考書】
・西郷信綱『古事記の世界』（岩波新書）文学作品をどう読めばよいのかということについて貴重なヒントを与えてくれる。専門領域を超えて文学研究者が読まれなければならない必読書。
・土方洋一『物語のレッスン』（青簡舎）手に入りにくいかもしれないが、読み方をめぐる最良の入門書。
・廣野由美子『批評理論入門―『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書）カタログ的な本だが、テクスト分析用語、様々な批評理論についての知識を身につけるためにはよい参考書。
・内田樹『映画の構造分析』（文春文庫）なぜテクスト論なのか、映画を対象にテクスト分析の実際をわかりやすく論じている。

【成績評価の方法と基準】
①　平常点（50 %）作品ごとに感想、演習ノートを提出（全10回）。
②　試験（50 %）学期末に行う。授業で学んだ内容について問う。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の感想の発表は好評だった。こちらからの一方的な授業になりがちだが、できるだけこちらと受講者、受講者同士といった複数の声のある授業を目指したい。

【Outline (in English)】
"Reading Literary Works during the World War Ⅱ"
We have had the image of" Dark Ages" when it comes to literary history during the war. However, the authors such as Niimi Nankiti , Dazai Osamu, or Nakazima Atsushi appeared in school textbooks were those who were all active during the war. The number of their works was not large , but that was the time where they wrote plenty of famous works. Reading their works, we'd like to think about the features of their phrases and the anguish of which phrase to use.
Along with these authors, we'd like to deal with Hori Tatsuo, Ibuse Masuzi,
and soon.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講・特域（春期スクーリング）

安原　眞琴

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「場所」のイメージは、文学とも深く関わっています。授業ではそんな「場所」に注目します。特に、2020年に東京オリンピックが開催される予定なので、主に江戸/東京に焦点を当て、江戸時代の地図「古地図」を使い、江戸/東京の町の歴史や成り立ち、特徴などを学びます。それによって文学と「場所」の関係について、あらためて見つめ直してみましょう。

【到達目標】
日本の首都である江戸/東京の歴史や特徴などが説明できるようになる。
古地図が読めるようになる。
文学における場所のイメージの重要性を理解することができる。
江戸/東京にまつわる小説や逸話、浮世絵などが説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、リアクションペーパー提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：
春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	文学と「場所」の関係性を概観する
第2回	地図に注目する	昔の地図について知る
第3回	江戸時代の地図「古地図」に注目する	古地図の概要を知る
第4回	日本の首都について考える	首都・江戸/東京を知る
第5回	江戸の都市づくりについて考える	江戸/東京のはじまりを知る
第6回	江戸の都市づくりの特徴について考える	江戸/東京の成り立ちを知る
第7回	古地図の見方を知る	古地図で江戸/東京の大きさや形、歴史などを確認する
第8回	江戸の各町について知る	日本橋など
第9回	江戸の各町について知る	神楽坂など
第10回	江戸の各町について知る	浅草など
第11回	江戸の各町について知る	吉原など
第12回	江戸から東京へ、変遷について知る	歴史の概要を知る
第13回	江戸から東京へ、変遷について知る	町の変化を知る
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：授業時に提示された課題について予習してくる。
復習：各授業後に、授業内容のまとめを、リアクションペーパーに書く。
宿題：上記「まとめ」を、帰宅後再度検討し、ブラッシュアップしてくる。
（予習・復習・宿題あわせて60分程度要する）

【テキスト（教科書）】
安原眞琴『東京おいしい老舗散歩』（東海教育研究所、2017年）

【参考書】
安原眞琴『東京の老舗を食べる』（亜紀書房、2016年）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー40％、中間レポート30％、期末レポート30％で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業に積極的に取り組む熱心な学生が多く、素晴しいと感じている。
この勉学への熱意を、より高めてもらえるよう、事前学習や復習の時間をもう少し増やし、中間レポートで、各自にフィールドワークをしてもらうなど、工夫する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、リアクションペーパーを「写メ」するなどして記録することが望ましいので、各自考えてきてください。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に定めませんが、何かあれば、授業後に教壇に来てください。

以下に、安原眞琴の公式サイトと老舗サイトのURLを掲載しておきます。
http://www.makotooffice.net
http://shinise.makotooffice.net/

【Outline (in English)】
You can talk somebody through the history and unique characteristics of Edo/Tokyo, the capital of Japan.

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）

日本文法論（春期スクーリング）

尾谷　昌則

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小中学校の国語で習う文法は橋本進吉の理論に基づいており「学校文法」とも呼ばれている。しかし、教科書に採用されているからといって、決して完璧な理論とは言えず、不備や例外もある。どこが間違っているのか、どう修正すべきなのか、それらを考えながら、学校文法を概観する。

【到達目標】
(1) 国語教員が押さえておきたい学校文法の基礎を理解する。
(2) 学校文法の不備・例外について理解する。
(3) 日本語文法が抱える諸問題について、論理的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で進めるが、単に結論を暗記すればいいと思ってもらっては困るので、受講生に積極的に発言してもらうべく、様々な問題・課題を与え、回答をリアクションペーパーに書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：
春学期

回	テーマ	内容
第1回	品詞	品詞の定義と問題点について
第2回	活用	活用のしくみとその問題点について
第3回	文構造	文節同士の関係と文構造について
第4回	格助詞	格助詞の用法と意味について
第5回	副助詞	副助詞の用法と意味について
第6回	接続助詞	接続助詞の用法と意味について
第7回	修飾	連用修飾と連体修飾の問題点について
第8回	助動詞(1)	受身・使役・可能の助動詞とその問題点について
第9回	助動詞(2)	否定・時間の助動詞とその問題点について
第10回	助動詞(3)	モダリティに関して
第11回	助動詞と働きかけの形式	対人的モダリティについて
第12回	敬語	敬語の分類とその問題点
第13回	文章・談話	文よりも大きな単位の研究について
第14回	文法	総括として、文法とは何かを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
その日の講義で紹介した概念の具体例を、身近な言葉の中から探しておき、それを次回講義のリアクションペーパーに書く、という課題を与えるので、常に身の回りの「ことば」に気を配るようにしておいてほしい。

【テキスト（教科書）】
山田敏弘2004.『国語教師が知っておきたい日本語文法』東京：くろしお出版.（￥1,600）

【参考書】
庵功雄ほか2000.『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』東京：スリーエーネットワーク.（￥2,310）
町田健　2002.『まちがいだらけの日本語文法』東京：講談社（￥735）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート　50 %　　授業内レポート　50 %

【学生の意見等からの気づき】
小中学校で習った文法にも多くの例外や不備があるということが新鮮だったとのコメントが多かった。そういった例外についてもっと深く考えてもらい、「文法は単なる暗記の授業ではない」ということを分かってもらうためにも、受講生が考え、発言する時間を多めにとりたい。

【Outline (in English)】
After reviewing the Japanese traditional grammar adopted to the textbooks for Japanese public junior high schools, we will discuss and study the irregularitie or bugs in it. The objectives of this class are to understand such irregularities and to be able to explain them.

HIS300TD（史学 / History 300）

日本近代史（春期スクーリング）

柏木　一朗、筑後　則

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
帝国議会の開設から太平洋戦争後のサンフランシスコ平和条約締結に至る日本の歴史を、大日本帝国の膨張と戦争という視点から考察し、戦争が日本の経済や社会にいかなる影響を与えたかを理解することを目的とする。
テキスト「大日本帝国の時代」第1・2章を柏木、第3・4章を筑後が担当する。

【到達目標】
明治維新後、日本の経済・社会が急速に資本主義化したこと、戦争を通じて日本がアジアに勢力を膨張していったこと、日本をとりまく国際環境の変化ついて理解し、自分の言葉で説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業をすすめ適宜プリントを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	大日本帝国の時代	日本の資本主義化・近代化と対外的膨張・拡大の関連性について考察する。
2	立憲政治の開幕と日清戦争	日清戦争前後における日本の内政と外政について考察する
3	日清戦後経営	日清戦争と戦後の国内政治について考察する。
4	産業革命と社会問題	機械工業の発達と労働運動の勃興について考察する。
5	日露戦争と民衆	日露戦争と戦後日本の社会と民衆について考察する。
6	第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦前後の日本の内政と外政について考察する。
7	大正デモクラシーの時代	政党内閣と民本主義運動について考察する。
8	満州事変	満州事変と軍部の台頭について考察する。
9	日中全面戦争	日中戦争と太平洋戦争の勃発について考察する。
10	アジア太平洋戦争	太平洋戦争と大東亜共栄圏について考察する。
11	大日本帝国の崩壊	戦争経済の崩壊と日本の敗戦について考察する。
12	占領と旧体制の崩壊	連合軍による日本の占領政策について考察する。
13	憲法改正とサンフランシスコ平和条約	憲法改正と戦後改革、平和条約の締結について考察する。
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本の歴史の大きな流れを把握しておくこと。高校日本史の教科書の内容を理解していることを前提に講義をおこなう。指定したテキストをよく読み要点をノートにまとめて講義にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
『大日本帝国の時代』油井正臣　岩波書店　2000年　929円（税込）

【参考書】
テキスト巻末に記載されている参考文献を適宜参照すること。

【成績評価の方法と基準】
講義の最終回に実施する授業内試験（参照不可）の成績で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
マイクの音量、黒板の使い方に気を配り講義をおこなう。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
参考文献を活用し講義の内容を理解するよう努めること。

【Outline (in English)】
To understand the history of Japan from the opening of the Imperial Diet to the signing of the San Francisco Peace Treaty after the Pacific War from the perspective of the expansion and war of the Great Japan Empire and how the war affected Japan's economy and society With the goal.
The text "The era of the Empire of the Great Japan" chapter 1 and 2 is Kashiwagi, and chapters 3 and 4 are in charge of Chikugo.

HIS300TD（史学 / History 300）

東洋史特講（東南アジア史）（春期スクーリング）

山﨑　美保

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東南アジア地域は近年、さまざまな分野、特に経済的分野において、国際的に注目されている。本科目では、現代の東南アジア地域を形成する基盤となった、東南アジア地域の古代史を体系的に学ぶ。

【到達目標】
この授業では、東南アジアの歴史に関する基礎的な知識を学ぶことで、当該地域に関する諸問題を論理的に理解し、自身で探求する力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	東南アジア地域の地理的概観	東南アジアの地域認識、生態的背景
第2回	先史時代	稲作の開始、金属器の登場、初期国家の成立
第3回	南シナ海の世界	林邑、環王、占城
第4回	メコン川の世界	扶南、真臘（プレ・アンコール）
第5回	モンとピューの世界	ドゥヴァーラヴァティー、ピュー
第6回	アンコール①	王と遺跡群の概要
第7回	アンコール②	王権をめぐる諸問題
第8回	エーヤーワディー川の世界	パガン
第9回	紅河の世界	大越国（李朝、陳朝、前期黎朝）
第10回	島嶼の世界①	交易国家の成立、シュリーヴィジャヤ
第11回	島嶼の世界②	シャイレーンドラ、マタラム（中部ジャワ）
第12回	島嶼の世界③	アイルランガ時代、クディリ（東部ジャワ）
第13回	島嶼の世界④	シンガサリ、マジャパヒト（東部ジャワ）
第14回	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書を読み、基本的な事実を把握しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。通教テキスト『東洋史特講（南海史）』第1版、河原正博、1978年は基本的に使用しません。

【参考書】
石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999年、山川出版社
池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999年、山川出版社
桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史1 原史東南アジア世界』2001年、岩波書店
石澤良昭他編『岩波講座東南アジア史2 東南アジア古代国家の成立と展開』200年、 岩波書店、
石井米雄他編『岩波講座東南アジア史3 東南アジア近世の成立』2001年、岩波書店

【成績評価の方法と基準】
期末試験で評価

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This class is aim to understand the ancient history and culture of Southeast Asia.

HIS100TD（史学 / History 100）

日本史概説（春期スクーリング）

安田　寛子

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際化の進展の中で、日本文化の発信が重要視されているが、その多くが江戸時代に成熟した、あるいは生み出されたものである。それは、この時代が幕藩体制と呼ばれる仕組みのうえに、260年余りも平和が続いた時代であったことが大きく影響しているといえる。そこで、この時代を支えた支配機構の特質や、その中で生きた人々について取り上げ、このような平和で安定的な長期政権となった理由はどこにあったのか、またそれだけ続いた政権がなぜ崩壊することになったのかについて考える。

【到達目標】
今後、広く国際社会に日本を発信していくためには、日本とはどういう国なのかということを我々自身がより深く知る必要がある。そこで、今も日本の中に多くの影響を残す江戸時代について、単に紙の上の学問としてではなく、我々と同じ生身の人間が生きた時代として身近に感じながら学んでいくことが目標である。その過程で、物事の本質を見抜く眼や判断する力も養っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形態で行い、まず江戸幕府の成立過程を概観することで徳川政権の特質を明らかにし、その後いくつか特徴的なテーマを選んで詳しく見ていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	講義概要と参考文献	授業の進め方と参考文献
第2回	江戸幕府の成立 1	天下統一と民衆への対応
第3回	江戸幕府の成立 2	武家への対応、朝廷への対応①
第4回	江戸幕府の成立 3	朝廷への対応②、宗教への対応、徳川政権の特質
第5回	慶弔儀礼 1	「鳴物停止令」とその変質
第6回	慶弔儀礼 2	「鳴物停止令」と在日外国人
第7回	慶弔儀礼 3	儀礼における対外摩擦
第8回	享保の改革 1	近世の政治改革、享保の改革第１期①
第9回	享保の改革 2	享保の改革第１期②、第２期、第３期
第10回	寛政の改革 1	定信政権の性格、経済政策、社会政策
第11回	寛政の改革 2	医療政策、朝幕関係、対外関係、国防体制
第12回	天保の改革 1	背景、物価対策、風俗・情報統制、農村復興策、将軍権威
第13回	天保の改革 2	対外政策
第14回	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の準備は特に必要ありませんが、授業開始後の復習は毎回必ず行うこと。具体的な方法については、授業の中で指示していきます。

【テキスト（教科書）】
教科書等は使用せず、毎回プリントを配布します。

【参考書】
深谷克己『江戸時代』岩波ジュニア新書。この他については講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験100％

【学生の意見等からの気づき】
なるべくわかりやすく、ゆっくり話すようにしたいと思います。

【Outline (in English)】
We will take up the characteristics of the control system that supported the Edo era and the people living in it, think about the reasons why such a peaceful and stable long-term government became and why it collapsed.

HIS200TD（史学 / History 200）

東洋史概説（春期スクーリング）

宇都宮　美生

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。隋から北宋までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。隋が築いた体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に日中関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】
中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要	授業の進め方、歴史研究の意義
第2回	隋による国家統一	隋の成立と文帝の政治
第3回	隋の繁栄と衰退	煬帝の時代
第4回	隋と周辺民族	高句麗・西域との関係
第5回	隋から唐へ	唐王朝の成立とその背景
第6回	唐の成熟と国際文化	則天武后から玄宗へ
第7回	唐朝の危機と再建	安史の乱から徳宗の治世へ
第8回	唐の衰亡	牛李党争から黄巣の乱へ
第9回	唐と周辺諸地域	遣唐使、羈縻支配、節度使
第10回	唐宋変革の過渡期	五代中原王朝と十国の興亡
第11回	宋による中国再統一	節度使体制の解体と北宋の政治
第12回	党派の争い	王安石と司馬光
第13回	宋の経済と海外貿易	南海・日宋貿易
第14回	学習のまとめ	学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

【参考書】
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（上）』昭和堂、2016年
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（下）』昭和堂、2016年
愛宕元・冨谷至編『中国の歴史　上・下』昭和堂、2009年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』4～7巻、講談社、2005年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(30%)と筆記試験（70%、事前に問題を知らせる）

【学生の意見等からの気づき】
学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
色鉛筆、マーカーなど。

【Outline (in English)】
This course introduces an understanding of Chinese history (from Sui to Northern Song Periods) in respect to international relations with other countries.　The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（西洋）（春期スクーリング）

井上　秀太郎

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
碑文を通してみる古代ローマ史
　歴史を研究する上で最大の拠り所となるのは、当時の人々が書き残した文字史料である。現代人は、それらを読むことで、古代人の声に耳を傾け、彼らの挙措を垣間見ることができる。しかしながら、現存する史料の中で、書かれたものがそのまま残存しているものはほとんどない。古典文学史料などは、中世の修道院で筆写を繰り返すことによって後世に伝えられており、純然たる一次史料とは言い難い。その点で、作成時の文章がそのまま伝わっている碑文は、史料として比類のない価値を持つということが出来る。授業では、それらの現存する膨大な碑文の中から、特に歴史学的・碑文学的に興味深いものを取り上げ、それらが刻まれた歴史的背景などを探っていく。しかし、ただ単に史料を漫然と読むだけでは、過去の社会の実像に到達することはできず、単なる独りよがりの自己満足に終わってしまうであろう。それなりに裏付けのある歴史像に至るためには、過去の研究の歴史も参照しつつ、謙虚に自分なりの解釈を探っていかなければならない。それゆえ、この演習では著名な碑文史料を専門家向けの研究文献とあわせて読むことで、史料の歴史的な位置付けを考えていくこととする。一見無味乾燥な石の板から、意外なくらいに生々しい古代人の声を聞き取れることを知ってほしい。

【到達目標】
（1）碑文史料の特質を理解する
（2）代表的な碑文の概要を理解する
（3）個々の碑文のローマ史上の位置づけを理解する
（4）ローマ史に関する文献を独力で読めるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
最初に担当の碑文を割り当てる。各人の発表の前には、事前の調査がどの程度進んでいるか確認する。発表の後に質疑応答をおこなうが、それにどの程度積極的に参加しているかは、成績評価の重要な尺度となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの配布、担当の決定、講師による模範発表
第2回	初代皇帝アウグストゥスの事績	ラテン碑文の女王とも称される神皇アウグストゥス業績録
第3回	新たな家系の皇帝と権力の継承	ウェスパシアヌス帝の最高指揮権に関する法
第4回	歴史の伝承	アウグストゥス広場とアッピウス・クラウディウス・カエクスの碑文
第5回	「記憶」の抹消	セプティミウス・セウェルス帝の凱旋門
第6回	古代ローマ史と近現代ドイツの歴史	トイトブルク森の戦いで死んだ兵士の墓碑
第7回	パンとサーカス	剣闘士興行の広告文
第8回	子育てに対する補助	アリメンタ基金の運営を記した碑文
第9回	ローマ帝国の海上交通	オスティアの運河開通記念碑文
第10回	ローマ帝国の言語状況とラテン語	パルミラの三言語併用碑文
第11回	インフレとの闘い	ディオクレティアヌス帝の最高価格令
第12回	外来宗教に対する対応	バッカナリアに関する元老院決議碑文
第13回	ローマ帝国における支配者の崇拝	リヨンの皇帝礼拝祭司の奉納碑文
第14回	コンスタンティヌスの改宗伝説	コンスタンティヌス帝の凱旋門

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週に報告される史料の日本語訳を読んでおくこと。また、報告終了後は、担当者が作成・配布した資料を読み直すようにすること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。必要なコピーを初回に配布する。

【参考書】
樋脇博敏・長谷川岳男著『古代ローマを知る事典』東京堂出版　2004年
本村凌二監修『ラテン語碑文で楽しむ古代ローマ』研究社　2011年
ローレンス・ケッピー著『碑文から見た古代ローマ生活誌』原書房　2006年
古山正人ほか編訳『西洋古代史料集』第2版　東京大学出版会　2002年

【成績評価の方法と基準】
発表内容（40％）、学期末レポート（30％）、平常点（30％）に基づき評価する。
平常点としては、授業内の質疑応答にどの程度積極的に参加しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
発表前の事前指導で読むべき参考文献などを指示する

【Outline (in English)】
Roman History through Latin Inscriptions
In this class, we treat the famous latin inscriptions, through which we can study the history and society of the Roman Empire. Students make presentation about the inscription attributed to them.

HUG400TE（人文地理学 / Human geography 400）

人文地理学演習（春期スクーリング）

前畑　明美

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海に囲まれた「島」は、普遍的かつダイナミックな性質を秘めている。島嶼国日本では、人口問題をはじめ様々な社会問題がまず小さな島々に先進的事象として立ち現れ、各々の「島」は国全体の縮図としても存在している。本演習では人文地理学の観点から、島関連の著作を取り上げて「島」の基本事項を学びつつ、その読解と議論をもとに「島」に関する様々な社会問題について理解を深めることを目的とする。今回講読していくのは、出版されて間もない中俣　均訳『島の地理学：小さな島々の島嶼性』である。本書は、北アイルランドの地理学者Stephen A. Royleによる『A geography of islands : small island insularity』の全訳書である。従って、島々の国際比較も学びの一環としてある。またスクーリング終盤では、受講者による論文紹介や研究テーマの発表など、卒業論文を見据えたトレーニングを行うこととする。

【到達目標】
「島」についての認識を深め、そこで生起する諸現象について、その全体的状況はどうなのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることが本演習の目標である。また、テキストの講読において、大切なポイントや問題点などを的確に捉え、議論を重ねた上で根拠ある見解を確立していくことを目指していきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
まず初回時に講読書の分担箇所を決定したい。第2回からは担当者による発表と、出席者全員での議論を中心に、解説を加えながら授業を進めていく。論文紹介や研究テーマの発表についても同様とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、「島、島嶼」「島嶼地理学」について	授業の概要とテキストの説明、担当箇所の割り振り、重要事項の説明
第2回	テキストの講読　第1章　島―その夢と現実	担当する章の発表、および議論
第3回	テキストの講読　第2章　島―その形成と性質	担当する章の発表、および議論
第4回	テキストの講読　第3章　島嶼性―そのプロセスと影響	担当する章の発表、および議論
第5回	テキストの講読　第4章　島の過去	担当する章の発表、および議論
第6回	テキストの講読　第5章　島―人々と移住	担当する章の発表、および議論
第7回	テキストの講読　第6章　コミュニケーションとサービス	担当する章の発表、および議論
第8回	テキストの講読　第7章　政治と小さな島々	担当する章の発表、および議論
第9回	テキストの講読　第8章　島で暮らすこと―現代の島の経済	担当する章の発表、および議論
第10回	テキストの講読　第9章　夢の島―観光は島の問題解決への万能薬か？	担当する章の発表、および議論
第11回	テキストの講読　第10章　結論―セントヘレナ島、再び表舞台に	担当する章の発表、および議論、総括
第12回	卒論トレーニング（1）	論文の紹介、および議論
第13回	卒論トレーニング（2）	研究テーマの発表、および議論
第14回	卒論トレーニング（3）	研究テーマの発表、および議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけ事前にテキストを入手し、一通り目を通しておいていただきたい。また毎回の授業では、発表・議論を踏まえて、自身の知識や意見を補足・修正していくことにご留意ください。

【テキスト（教科書）】
スティーヴン・A・ロイル著　中俣　均訳（2018）：『島の地理学：小さな島々の島嶼性』法政大学出版局　￥4,400＋税
山口不二雄（1992）：『地理調査法（人文編）』法政大学通信教育部

【参考書】
初回時をはじめ、随時紹介していきたい。

【成績評価の方法と基準】
出席50％、レポート50％（最終日に提出）。レジュメの作成や発表、議論への参加など、積極的な姿勢を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
質問時間を設けて、ぜひ双方向的な学びをしていただける機会としていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
とくになし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to obtain basic knowledge about the island and its social problems. This time, we will read the translation of “A geography of islands: small island insularity” by Stephen A. Royle, a Northern Ireland geographer. And we would like to discuss and understand about the island from the perspective of human geography. International comparison of many islands is also a part of this studying. In the final period of the schooling, we will conduct training on graduation thesis.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

地理情報システム（GIS）（2）（春期スクーリング）

沼尻　治樹

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理情報システムの発達とともに，専門的な商圏分析や立地分析，災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく，地理情報の「見える化」が地図アプリケーションなどを通じて日常生活に普及してきた。そこで本授業では，講義と実習，課題を行いながら基本的な地理情報の種類・構造，分析の理解を深めることを目標とする。

【到達目標】
地理情報システムの基礎を学び，地理学的課題に対して有効なツールとして地理情報システムを活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では，初めて地理情報システムに触れる受講生に合わせ，まず地理情報システムの構造や考え方，地理情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーションソフトウェア，データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地理情報システムとは何か？	地理情報システムについて構造やデータについて説明する
第2回	地理情報システムアプリケーションに触れる	地理情報システムアプリケーションでデータを表示する
第3回	地理情報データのマッピング	ベクタ型データをwebより取得し表示のレイアウトを変更する
第4回	地理情報データと統計データ	統計データが入力されたベクタ型地理情報データを扱う
第5回	地理情報データの統計演算1	ベクタ型地理情報データに統計データを新規追加する
第6回	地理情報データの統計演算2	ベクタ型地理情報データに入力された統計データの変換を行う
第7回	地理情報データの統計演算3	ベクタ型地理情報データに入力された統計データの演算を行う
第8回	数値地形モデル（DEM）による空間分析1	DEMについて解説し簡単な地形解析を行う
第9回	webGISを用いた地物（図形）の作成	地理院地図を使いながらラインデータやポリゴンデータを自作する
第10回	座標データを地理情報システムに取り込む	用意した座標データをポイントデータとして取得する
第11回	地理情報の解析の実践1	ベクタ型地理情報データの簡単な解析を行う
第12回	地理情報の解析の実践2	空間内挿を行い地理情報の推定を行う
第13回	地理情報の分析と考察1	課題に対して地理情報を選択する
第14回	地理情報の分析と考察2	地理情報の処理を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は地理情報の取得などの宿題を行う。また，使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから，受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。

【テキスト（教科書）】
自作テキストを利用する。

【参考書】
「地理情報学入門」（野上道男ほか，東京大学出版会，2001年）
「国土を測る技術の基礎　―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆，（公社）日本測量協会，2018年）（改訂第2版）
その他，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業は実習科目であることから，平常点を重視する。その他，レポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に地理情報を処理しているか評価する。
成績評価の配分は，平常点が60点満点，レポートが40点満点である。

【学生の意見等からの気づき】
質問しやすい環境作りを心がけている。また地理情報システムの知識と技術を同時に身につけることを目指している。さらに，地理情報システムの社会での最新の動向を紹介し，授業と社会の乖離が起こらないようにしている。
実習の感想や意見を出欠票とともに回収しているので，対応可能な事柄については随時対応するようにしている。

【学生が準備すべき機器他】
電算室を利用する。またネットワークを用いて資料の配付や課題の提出も行うので，USBメモリ等の外部記録装置を用意すること。

【その他の重要事項】
この授業では，講義・実習を通して地理情報システムの理解を深めつつ，コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する基礎的な知識を学ぶ。無料のアプリケーション，無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。
Windowsの基本操作が十分できることが望ましい。

【Outline (in English)】
The purpose of this lesson is to understand the geographic information system and learn the spatial analysis method. We learn the structure and analysis method of geographic information data from lecture and practical training.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

財政学A／Ⅰ（春期スクーリング）

天利　浩

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府の活動が資源配分や人々の幸福度に与える影響を評価するため、経済学の手法を学ぶ。少子高齢化や地域で進む過疎化は、現役労働者の税・社会保険料負担を重くし、一人あたりのインフラ供給・更新コストも上昇させるため、日本の財政事情は厳しさを増している。
学生は、政府が果たすべき役割を理解し、経済モデルを様々な場面に応用することで、政府の活動が、個人の行動や市場の成果に与える影響を分析し、その影響が望ましいものかを分析できるようになる。

【到達目標】
市場における資源配分を是正するため、政府が果たすべき役割を理解し、政府が取るべき対策を提言できる。公共財の市場では、政府が適切な公共財の数量を提供することが難しい事情を理解する。税制のあるべき姿を学び、現実の税制の問題点を指摘できる。課税が個人の行動に与える影響、最終的に誰が税を負担するかをグラフで分析できる。
少子高齢化で厳しさが増す、日本の財政の状況と課題を指摘できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1, DP3, DP4」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を行う。
経済学の基礎知識が必要になるが、入門的な経済学を最初からゆっくりと説明すると財政を論じる時間が減ってしまう。そこで経済学の理論の紹介は簡潔にし、その後は具体的な例等を用いて理解しているか確認しながら進めたい。基本的な経済学のプリントを配布しておくので、必要に応じ、自習していただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	財政学とは、政府の三機能、政府の規模	財政学についての案内、政府の３機能（資源配分、所得再分配、景気安定化）
第2回	市場の機能、生産者余剰、消費者余剰、社会的余剰	部分均衡分析による余剰分析
第3回	日本の財政制度(1) 政府部門、一般会計予算	一般政府の定義、政府の諸活動
第4回	日本の財政制度(2) 財政収支と債務残高の推移	財政収支、基礎的財政収支、債務残高の相互関係
第5回	日本の財政制度(3) 予算制度（予算原則、予算の種類、予算編成過程）	政府活動の民主主義的コントロール
第6回	公共財（公共財の性質、最適供給、地方自治体の最適規模）	排除不可能性、非競合性、ただ乗り問題、公共財および準公共財の最適供給
第7回	租税の基礎理論（租税の分類、租税原則、租税の帰着）	租税三原則、直接税と間接税
第8回	個別物品税の超過負担、最適消費	個別物品税がもたらす非効率性、無差別曲線と予算制約式
第9回	所得効果と代替効果、定額補助金と定率補助金	課税がもたらす資源配分上の歪み（超過負担）
第10回	所得課税と消費課税の違い、労働所得税と消費税の等価	課税ベース、生涯の予算制約式
第11回	労働所得税の仕組み、労働所得税の効果	各種控除、累進的課税、予算制約線、無差別曲線を使った労働所得税の分析
第12回	資本所得に対する課税（ロックイン効果、利子所得税の効果）	貯蓄行動
第13回	生活保護と負の所得税、インフラの老朽化と公共経営（PPP,PFI）	給付付き税額控除、PFI、コンセッション
第14回	公的年金	賦課方式と積立方式

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
財政学あるいは公共経済学の標準的な内容を講義するので、参考書あるいは類書で予習する。復習では、経済モデルのグラフを自分でノートなどに描き、自分自身に説明する。

【テキスト（教科書）】
『財政学１５講』麻生良文、小黒一正、鈴木将覚著、新世社、2018年
2350円

【参考書】
過去に財政学の講義で指定されていた教科書を既に持っていれば、おそらく今回指定した教科書と内容に大きな違いはない。

【成績評価の方法と基準】
期末試験100％　経済モデルをグラフ化し文章で説明できることが重要。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんの気持ちになって、受講や予復習がしやすいように心がけます。

【Outline (in English)】
Economic analysis is used to evaluate the effects government activities have on the resource allocation and the social welfare. The ageing Japanese economy raises the per capita cost of its social welfare system and infrastructure.
Students will learn what the government should do for the society. They will be able to analyze how the government activities affect the decision making of people and whether they can improve the efficiency of the markets.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（春期スクーリング）

三浦　道行

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ペリー来航から日清・日露戦争後あたりまでの日本の歴史を、戦前の「日本資本主義論争」の延長線上の研究から脱し、近代化という視点から講義する。受講生諸君は、明治維新が、「封建制度の再編」でも「ブルジョア革命」でもなく、下級武士による近代化革命であったこと等を理解することであろう。

【到達目標】
経済的成功の土台に、法治主義・立憲主義があることを理解する。周辺諸国が、法治主義・立憲主義か考えてみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	近代化とは何か	下部構造ではなく上部構造
第2回	ペリーとその後	幕末の遣外使節=外交レベルと海外留学生など
第3回	いわゆる明治維新	体制の改革から革命へ・幕藩体制の解体の背景=財政赤字
第4回	廃藩置県	幕藩体制の解体=残務整理と新制度建設
第5回	岩倉使節団	落差。ビスマルク。
第6回	地租改正	近代的土地所有と寄生地主制の成立
第7回	徴兵制	武士の特権の消滅
第8回	経済制度の整備	通貨・銀行制度等
第9回	明治14年の政変。内閣制度。明治憲法。	「府中と宮中の別」国家機関の一つとしての天皇
第10回	同上	『憲法義解』を読む
第11回	初期の産業。	綿業・製糸業・製鉄業等
第12回	日清・日露戦と不平等条約の改正	李朝と「脱亜入欧」日本型帝国主義の成立
第13回	工場法	取り残された労働者階級
第14回	まとめ	近代化とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味のある分野の本を読む

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使わない

【参考書】
必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験に変え、レポートで評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にない。

【Outline (in English)】
We will learn the history of Japan from Perry's arrival to the Sino-Japanese War or the Russo-Japanese War from the viewpoint of modernization.Students will be able to create a new historical picture that is different from the historical image on the extension of the conventional controversy.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

監査論Ⅰ（春期スクーリング）

市川　佳功

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業が公表する財務諸表に対する監査の必要性、監査制度、監査手続がテーマです。財務諸表は企業が作成する自社の活動結果についての報告書であり、その企業に関心をもつ者（利害関係者）にとっては企業の状況を理解するためのほとんど唯一の情報源です。もし、財務諸表が適正に作成されたものでなければ企業に対する利害関係者の判断を誤らせてしまいます。そこで、公認会計士または監査法人が財務諸表の適正性をチェックする監査が重要な役割を果たします。「監査論Ⅰ」では、監査を理解するための導入部分として、財務諸表監査とは何か、我が国の監査制度、監査手続について学習していきます。

【到達目標】
授業で学習した基礎概念と監査制度についての理解をとおして、財務諸表監査が有する機能とその限界について自ら考察するための基礎知識を身につけることを到達目標とします。期末の定期試験ではこれらについてしっかりと論じられるか否かを判断することによって目標到達度を確認します。なお、試験で簿記や会計に関する問題を出題することはありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
〔概要〕
具体的な履修制限は設けませんが、財務諸表監査がテーマであるため、財務諸表についての基礎的な理解があることを前提として講義を進めます。授業を受けるにあたっては初歩的な簿記の知識があることが望ましいと思います。授業は、テキストによりつつ、監査に馴染みの薄い学生の興味を喚起するため可能な限り事例を盛り込みながら授業を行います。
〔授業方法〕
テキストに基づいて授業を進めますが、必要に応じて授業内で資料を配布します。ときには授業内で学生と質疑応答をする時間を設けたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	財務諸表監査とは	監査の定義と監査の種類
第2回	財務諸表の基礎	必要な事前知識としての財務諸表を概観する
第3回	財務諸表監査の必要性	財務諸表の性質と監査の必要性
第4回	財務諸表監査の経済的機能	経済面で財務諸表監査の機能
第5回	会社法監査制度	会社法における情報開示と財務諸表監査の位置づけ
第6回	金融商品取引法監査制度	金融商品取引法における情報開示と財務諸表監査の位置づけ
第7回	監査規範としての監査基準	監査基準の性質と必要性
第8回	一般基準	専門的能力、公正不偏の態度と独立性、正当な注意
第9回	一般基準	職業的懐疑心、不正等に起因する虚偽表示への対応、監査調書
第10回	監査の品質管理	監査の品質を維持するための制度
第11回	監査実施上の基礎概念	パイロット・テスト　要証命題　経営者の主張
第12回	経営者の主張（各論）	経営者の具体的な主張について理解する
第13回	監査証拠	監査証拠の種類と証拠力
第14回	監査手続	具体的な監査の技術を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
監査論で学習する概念には抽象的なものが多く存在します。理解しにくい場合には、テキスト以外の書籍等も参考にして自らの理解を補強していく必要があります。

【テキスト（教科書）】
伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏『ベーシック監査論　七訂版』（2015年10月30日）同文舘出版3,800円＋税
第1回目の講義開始までに最新版が出版された場合には最新版を使用します。

【参考書】
盛田 良久・蟹江 章・長吉 眞一【編著】『監査論 スタンダードテキスト （第４版)』(2016年10月)中央経済社 4,968円（税込）
山浦 久司【著】『監査論テキスト （第６版)』（2015年3月）中央経済社2,376円（税込）

【成績評価の方法と基準】
通常の期末定期試験を実施し、成績評価は期末定期試験の結果のみで判定します。

【学生の意見等からの気づき】
実務の話を取り込んで興味を引く授業を心がけます。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will learn accounting audit theory conducted by CPA. The main learning content is the necessity of audit, audit system, audit procedure.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講［商社活動とCSR Ⅰ（企業の社会的責任）］（春期スクーリング）

小林　一夫

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
商社活動とCSR Ⅰ（企業の社会的責任）
21世紀の経済社会においては、CSR（企業の社会的責任）に基軸をおいた健全なビジョンに基づく事業運営が企業経営には必須です。社会的責任と企業経営との観点から、日・米・欧における「企業の社会的責任」の歴史を概括します。次に、企業とは・会社とはなにかについて整理し、グローバル活動を前提にした総合商社等の具体的事例を紹介しつつ、基本的な見方とあるべき問題意識を持てる様に学習します。

【到達目標】
- 会社とはなにかにつき、基本的な知識を得、理解できるようにします。
- 企業としての立ち位置から社会的責任をどのようにとらえるか、また、サステナビリィティ・CSR・CSV・ESG・SDGs・トリプルボトムライン等概念の基本を把握します。
- 企業活動と「企業の社会的責任」について、俯瞰的見方ができるようにします。
- そのうえで、グローバルを舞台とする総合商社の現実のリスク対応事例等を学び、事業活動の本質について基本的理解を深められるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
おもに講義を主体として進めていきます。事例研究として、初回は三井物産143年の事業活動の歴史と経営をテーマとしたDVDを使います。又、第4回目と第5回目は、三井物産サステナビリティ・レポート等を参照に講義を進めます。双方向のコミュニケーションを図り基本的理解を深めるため、その日の授業の内容について感想や積極的な質問の提出をもとめることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任」（CSR）、イントロダクション	講義内容のガイダンス
第2回	総合商社と「企業の社会的責任」　〔その1〕	企業とは何かにつき、本邦企業の実業の観点からの見方と、企業の社会的責任について、基本的知識を得ます。
第3回	総合商社と「企業の社会的責任」　〔その2〕	総合商社の事業活動を題材として、企業の社会的責任について基本的知識を得ます。
第4回	総合商社と「企業の社会的責任」　〔その3〕	本邦産業界はCSRをどのように位置付けているかにつき基本的知識を得ます。又、総合商社の本業とのかかわりからCSRをとらえます。CSR、CSV、サステナビリィティ、トリプルボトムライン、ESG、SDGs等について理解に努めます。
第5回	コーポレート・ガバナンスと内部統制	CSR経営を支えるコーポレート・ガバナンスと内部統制についての概念の基本を理解します。企業経営の仕組みについて基本的知識を得ます。
第6回	内部統制の構築	実際に内部統制の確立と浸透を図る際、大規模な企業ではどのように行っているか、総合商社活動の実際の例を基に基本的知識を得るようにします。
第7回	コンプライアンス〔その1〕	コンプライアンスとはなにか、総合商社の現場における対応について基本的知識を得ます。
第8回	コンプライアンス〔その2〕	コンプライアンスの概念についての基本的な知識を得、整理できるようにします。大規模な企業に於いて昨今なお頻発する不祥事の本質について考察し、あるべき対応について理解を深められるように努めます。
第9回	リスクマネジメント、事業リスク、環境・CSRリスク等への対応	環境・CSRリスク、事業リスク等総合商社の現場におけるリスク管理の考え方と、対応について、又、リスクとは何かの基本的知識を得ます。
第10回	マネジメントシステムとは	ISO14001環境、OHSAS18001労働安全衛生、ISO26000社会的責任ガイダンス規格などマネジメントシステムについて基本的知識を得ます。
第11回	内部監査概論	事業活動全般を対象とする業務監査の一環として内部監査の実践が大規模な企業では必須とされます。内部監査について基本的理解ができるようにします。
第12回	「企業の社会的責任」の観点から、人権と労働慣行について	「企業の社会的責任」の観点から、人権と労働慣行についての基本的理解を得ます。
第13回	「企業の社会的責任」の観点から、気候変動問題へのあるべき対応と考え方について	パリ協定の発効を踏まえ、「企業の社会的責任」の観点から、気候変動問題への認識とあるべき対応について基本的な知識を得られるようにします。
第14回	商社活動とCSR（企業の社会的責任）Ⅰ［まとめ］	グローバル活動を前提にした事業運営と企業経営について概括し、理解を深められるようにします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週の授業テーマについて、あらかじめテキスト等にあたり疑問点などを整理しておくようにして下さい。復習ではその日の授業で学習したテーマについて、自身の立ち位置からの考え方や問題意識を整理するようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
指定教科書 第二版「商社活動と企業の社会的責任」(儲けるだけでは破滅につながる)（図書文化社刊、2019年4月1日付 第2版、小林一夫著、1,600円+税）

【参考書】
実践環境経営論（堀内行蔵・向井常雄著）東洋経済新報社、及びその他必要に応じて、講義時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：70%
平常点：30%
その日の授業の内容について感想や質問の提出をもとめることがあります。提出された感想や質問には、必要に応じて次回授業のはじめに回答します。その際、授業の進行を踏まえた気付きにつながるものは、加点対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
効果的に講義を受講できるよう、テキスト(教科書）を使います。

「企業の社会的責任」について、具体的事例から把握できるようにするため、授業の進行に見合うトピックスも取り上げます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じスクリーン・DVDを使い講義を進めます。

【その他の重要事項】
受講者は日経新聞等を丹念に読み、経済社会情勢をできる限り幅広く把握しておくことを推奨します。
関連の深いコース:経営学特講「商社活動とCSR Ⅱ（事業活動と環境・CSRリスク）」
経営学

【Outline (in English)】
General Trading Firm (Sogo-Shosha) Business and CSR (Corporate Social Responsibility) I
Management based on a sound vision of CSR (Corporate Social Responsibility) is indispensable for every business. From the viewpoint of social responsibility and corporate management, we will outline the history and current situation of "corporate social responsibility" concepts in Japan, as well as in the US and Europe. We will learn what a company is and what it should be. In addition, we will study typical business activities of Sogo-Shosha, and learn the basic idea of risk avoidance.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅰ（春期スクーリング）

松本　潔

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営管理論Ⅰにおいては、経営管理の基礎的な理論を取り上げ、それらを解説していく。春期の講座では、伝統的管理論としてのF．W．テイラーの「科学的管理法」、アンリ・ファイヨールの「管理過程論」などをとりあげる。また、続いてE．メイヨー、F．J．レスリスバーガーの「人間関係論」、そして「行動科学（組織行動論）」として認識される、C．アージリス、D．マグレガーなどの「近代的モチベーション論」を取り上げ、それらの理論の有する意味・意義を現在の状況に合わせて読み解いていく。

【到達目標】
・経営管理の伝統的理論および行動科学の学説の意義を理解することができる。
・経営管理の理論と実際の企業活動についての関連性を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心とするが、企業などの経営管理活動の実際を、理論的な関連性を踏まえ映像資料などを活用して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方および経営管理の理論的変遷を考察する。
第2回	伝統的管理論Ⅰ	「科学的管理法」の理論的意義（F．W．テイラー）
第3回	伝統的管理論Ⅱ	「管理過程論」の理論的意義（アンリ・ファイヨール）
第4回	伝統的管理論の実際	伝統的管理手法が与えた影響と課題
第5回	人間関係論	前期人間関係論の理論的意義（E．メイヨー＆F．J．レスリスバーガー）
第6回	人間関係論の実際	前期人間関係管理手法が与えた影響と課題
第7回	行動科学Ⅰ（モチベーション理論）	心理学的アプローチとパーソナリティの成熟理論（A．H．マズロー、C．アージリス）
第8回	行動科学Ⅱ（モチベーション理論）	Ｙ理論による企業の人間的側面理解（D．マグレガー）
第9回	行動科学Ⅲ（モチベーション理論）	動機づけ・衛生理論によるモチベーション・アプローチ（F．ハーズバーグ）
第10回	モチベーション理論の実際	近代的モチベーション手法が与えた影響と課題
第11回	行動科学Ⅳ（リーダーシップ理論）	システム４の参加型リーダーシップ論（R．リカート）
第12回	行動科学Ⅴ（リーダーシップ理論）	リーダーシップの形態理論（三隅二不二、R．R．ブレーク＆J．S．ムートン）
第13回	リーダーシップ理論の実際	近代的リーダーシップ手法が与えた影響と課題
第14回	経営管理論Ⅰ総括＆経営管理論Ⅱへの展望	・これまで学習した経営管理の諸理論の振り返り ・春期の経営管理論Ⅰの学習を踏まえ秋期の経営管理論Ⅱを展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求される。また、事前に各授業スケジュールにおけるテーマについて下調べをしておくと理解が促進される。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を使用・配布します。

【参考書】
適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】
定期試験（７０％）、および平常点（３０％）の観点から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
できる限り実際の企業等の事例を経営管理の理論や学説との関係性を踏まえて解説し、その理解を促進できるように改善の努力を傾けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
Basic theory of business management is taken up and explanation is being added at this session. I have for my object to take up traditional management theory (scientific management and management process theory), theory of human relations and behavioral science (modern motivation theory and modern leadership theory) etc. by this term and acquire those theory as knowledge.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講[サービス・マーケティング論]（春期スクーリング）

松本　潔

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、経営学特講として、経営学におけるマーケティングの領域、特にサービスのマーケティングに焦点を合わせてその基礎的な理論を学習する。具体的には、企業の営業活動におけるサービスという行為の位置づけを理解するとともに、そこに必要とされる理論的な知識を習得することを本講義の目的とする。なお、サービス・マーケティング学習の理解促進のために、企業における営業活動におけるサービス活動やサービス商品の具体的な取り組み事例の研究も取り上げながら解説を加えていく。

【到達目標】
・現代の消費社会におけるサービスのあり方およびまたそのマーケティングの手法を習得することができる。
・具体的な事例を通じてサービス・マーケティングの思考（考え方）を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心とするが、企業におけるサービス・マーケティングの活動の実際を、事例研究として映像資料などを活用しながら紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の概要、進め方、などについて確認を行う。また、企業におけるマーケティングにおけるサービスの位置づけ解説を行う。
第2回	サービス化社会について	・消費者の価値観の変化とその多様化についての理解を深める。また、現代社会におけるサービス化の進展とその要因の把握に努める。
第3回	商品としてのサービス	・サービスの意味と私たちの体験事例についての検討を行いながら、サービス商品の特徴について理解を深める。
第4回	サービス商品・活動の創出	・サービス商品とモノ商品の違いについての検討を行い、サービス商品の構成要素について理解を深める。また、企業や店舗における接客態度とその基本原則について習得する。
第5回	サービス活動・商品のケース・スタディ①	・企業、特に製造業におけるサービス活動・商品のケース・スタディを取上げ、サービス活動・商品における顧客ニーズ把握の重要性の理解を深める。
第6回	顧客ニーズの捉え方	・サービスが顧客にもたらす影響と従業員の役割の重要性の理解を深め、顧客ニーズの捉え方を改めて確認する。
第7回	サービスの分類と構成要素	・サービス活動・商品の分類方法がどのようになされるかを理解し、さらにサービスの構成要素の分類を学習する。
第8回	サービスの品質	・サービスの品質保証の重要性について学習し、その特徴や基準の理解を深める。
第9回	顧客ニーズ・価値実現のための組織のあり方	・顧客ニーズと価値実現を達成するための企業の組織体制のあり方について検討を加え、その理解を深める。
第10回	サービス・マーケティング・ミックス	・サービス活動・商品の開発の具体的な方法論としての「サービス・マーケティング・ミックス」の概念を学習し、その理解を深める。
第11回	サービス活動・商品のケース・スタディ②	・企業における配達サービス活動・商品のケース・スタディを取上げ、現場にどのような仕組みが創意工夫されているかを理解する。
第12回	サービス・コンセプトの構築	・サービス・マーケティング・ミックスおよびサービス・コンセプトとの関連性を検討し、その重要性の理解を確認する。
第13回	サービス・マネジメントの構築	・サービス・マネジメント・システムの構成要素とサービス・コンセプトの構築について検討を加え、顧客・企業・従業員とのリレーションシップ・マーケティングとの関連で理解を深める。
第14回	サービス活動・商品のケース・スタディ③&サービス・マーケティングのまとめ	・企業における宿泊業におけるサービス活動・商品のケース・スタディを取上げ、リレーションシップ・マーケティングとサービス・コンセプトとの関連性を検討し、その重要性の理解を深める。 ・これからのサービス・マーケティングの方向性および戦略のあり方を検討し、本講義の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求される。また、事前にテキストを読み、各授業スケジュールにおけるテーマについて準備学習をしておくと理解が促進される。

【テキスト（教科書）】
『サービス・マーケティング（第２版）』、近藤隆雄、生産性出版、2010年　（2500円＋税）
＆プリント教材

【参考書】
適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】
定期試験（７０％）、および平常点（３０％）の観点から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度からのアンケートからは、サービス・マーケティングにおける理論と実際の企業事例との関連性を詳しく解説することが望まれる意見があり、その改善の努力をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
Basic theory is learned with the theme of the service marketing at this session. Specifically, I have for my object to acquire theory in a service activity of an enterprise as knowledge. Further, for understanding promotion of service marketing, a case study in detail is also taken up and explanation is added.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（春期スクーリング）

恩田　登志夫

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロジスティクスは、経営戦略の一つであり、企業成長を図るうえで重要なシステムです。したがって、最近の企業では、調達・生産・物流システムの有機的連携を図った事例が多く見られます。これらの事例を通して、これまでの物流の概念とは異なるロジスティクスの概念を学ぶことができます。

【到達目標】
授業の終了時には、以下のことが修得できる。
①ロジスティクスは経営戦略であることを説明できる。
②収益性劣化率の計算式を使用して、どの輸送手段が最善なのか判断できる。
③ロジスティクスの重要性についてレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的な講義のほかに、統計資料や視聴覚メディアを活用したり、ディスカッションを行い、参加型の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	ロジスティクスの概要	ロジスティクスの定義 棚卸資産粗利益率の考え方
2	ロジスティクスと物流の相違	ロジスティクス管理 物流管理
3	物流管理の問題点とABC分析手法	物流管理の問題点 ABC分析
4	ロジスティクス管理手法（1）	収益性劣化率の概要 収益性劣化率の計算
5	ロジスティクス管理手法（2）	収益性劣化率の利用事例
6	ロジスティクス管理手法（3）	収益性劣化率から輸送手段の選択 手法 海上、国際複合、航空輸送
7	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（1）	仕出し弁当企業の事例紹介
8	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（2）	仕出し弁当企業の調達、製造、配達システムの概要
9	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（3）	仕出し弁当企業と他企業との企業分析比較
10	自動車メーカーの生産システムの概要	自動車メーカーの販売・生産計画策定 自動車メーカーの部品調達システム
11	自動車メーカー物流システムの概要	自動車メーカーの物流システムの概要 ミルクラン輸送 中継地物流
12	ロジスティクスの類型	1 PL, 2 PL, 3 PL, 4 PLの相違と具体例
13	3PLの現状と課題	3PL市場規模 3PL企業動向の特徴 3PLビジネスの課題
14	3PL事業の事例研究	国際物流事業者による3 PL事業への取り組みの現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業の事前にテキストを確認して要点を整理すること。
復習として、準備学習として要点を整理したことを授業中のメモと確認し、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
必要なプリントを配布する。

【参考書】
『現代ロジスティクス概論』唐澤豊、NTT出版、2000年、4968円

【成績評価の方法と基準】
期末テスト60％、小テスト20％、レポート20％

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約20年勤務していたことから、実務経験を踏まえて説明する。

【Outline (in English)】
Logistics is one of the management strategies, and it is an important system to promote corporate growth. Therefore, recent companies often see examples of organically coordinating procurement, production, and distribution systems. Through these examples, we can learn the concept of logistics different from the concept of physical distribution so far.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

演習（春期スクーリング）

恩田　登志夫

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル経済が進展すると海外との貿易取引が活発になります。米国と中国の貿易戦争のように保護主義の主張とTPPのように貿易を活発化させる取組みも進展しています。この講義では、貿易取引の基礎的な物の流れやお金の流れを理解することにより、貿易ビジネスの実態を学ぶことができます。

【到達目標】
貿易取引に関係する国際ビジネスの観点から国際物流、輸出入通関に関係する基礎的知識を習得することができる。さらに、秋期スクーリングにて開講される国際物流を履修することにより、国際流通全般を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的な講義のほかに、統計資料や視聴覚メディアを活用したり、ディスカッションを行い、参加型の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	授業全般の説明と貿易取引の全体像の理解	貿易取引と国内取引の相違
2	日本の貿易の現状	日本の貿易収支 産業組織の変化 輸出入の流れ
3	貿易取引全体の理解	貿易取引のしくみ 貿易取引と関係機関 貿易取引の種類
4	貿易保険	貨物海上保険 貿易保険 製造物賠償責任保険（PL保険）
5	貿易取引契約条件	取引交渉の全体像 各種取引条件
6	貿易条件とトレードタームズ（1）	インコタームズ2000とインコタームズ2010の比較
7	貿易条件とトレードタームズ（2）	インコータームズの具体例 FOB,CFR,CIF等
8	取引一般条件	取引一般条件と契約書の概要 ウィーン売買条約の概要
9	貿易代金決済	信用状決済の概要と仕組み
10	通関手続きと関税	通関制度の概要 AEO制度の概要 保税制度の概要
11	貨物輸送と船積書類（1）	海上貨物の船積み手続きの概要
12	貨物輸送と船積書類（2）	航空貨物の積み込み手続きの概要
13	貨物輸送と船積書類（3）	国際複合輸送の概要と国際複合輸送の国際ルール
14	貿易書類の概要	インボイス パッキングリスト 船積依頼書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業の事前にテキストを確認して、要点を整理すること。復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
『ジェトロ貿易ハンドブック』ジェトロ、2019年、1620円（税込）

【参考書】
『新貿易取引・基礎から最新情報まで』石原伸志他著、経済法令研究会出版、3024円（税込）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約20年勤務していたことから、貿易と国際輸送に関する内容において実務経験を踏まえて説明する。

【Outline (in English)】
Trade transactions with overseas will become active as the global economy progresses. As in the trade war between the United States and China, protectionism advocacy and efforts to activate trade like TPP are progressing as well. In this lecture, you will be able to learn the realities of trading business by understanding the flow of basic trade transactions and the flow of money.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN200TF（経営学 / Management 200）

簿記Ⅲ（春期スクーリング）

市川　佳功

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日商簿記検定2級レベルを意識した商業簿記を学習対象とします。日商簿記検定2級では商業簿記と工業簿記の双方の知識が要求されますが、簿記Ⅲでは商業簿記のみを学習します。実際の日商簿記2級検定試験では、連結財務諸表が出題範囲に含まれるようになりましたが、授業実施回数に制限があることから、この講義では連結財務諸表の学習は省略します。他方、2級よりレベルの高い内容もいくつか取り扱っていきます。

【到達目標】
学習範囲について正確に仕訳ができるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2, DP3」「商業学科：経営学・商学, 会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
〔概要〕
初歩的な簿記の学習経験や日商簿記検定3級程度の能力が学生に備わっていることを前提として講義を進めていきます。講義コマ数が限られているので講義の進行が速いと感じるかもしれませんが、しっかりと説明していきます。
〔授業方法〕
指定テキストまたは配布レジュメに基づいて授業を進めていきます。電卓を用意してください（定期試験では必須のアイテムです）。
シラバスは定型14回分を予定したものです。実際の授業の進行程度とは異なることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	財務諸表 商品売買	財務諸表の様式 一般商品売買と3分割法の意味
第2回	特殊商品売買（その1）	未着品売買、委託受託販売
第3回	特殊商品売買（その2）	割賦販売
第4回	特殊商品売買（その3）	試用販売、予約販売の会計処理
第5回	税金 当座預金照合表	費用になる税金と費用にならない税金の会計処理 貸借対照表上の当座預金勘定残高の確定方法
第6回	手形取引	自己宛為替手形 自己指図為替手形 手形の裏書
第7回	手形取引	手形の割引 不渡手形
第8回	クレジット売掛金 電子記録債権・債務 有価証券取引	簿記の新しい論点としてのクレジット売掛金、電子記録債権債務を説明。 有価証券の4つの保有目的
第9回	有価証券取引	有価証券の期末会計処理
第10回	固定資産取引 リース取引	有形固定資産・無形固定資産の会計処理 ファイナンス・リース オペレーティング・リース
第11回	繰延資産	繰延資産とは何か、繰延資産の会計処理
第12回	引当金	さまざまな種類の引当金の意味と会計処理
第13回	純資産（その1）	純資産の構造、資本金等の増加
第14回	純資産（その2） 決算手続（その1）	剰余金の処分 決算手続の概要

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
市販されている日商2級レベルの問題集をたくさん解いてください。簿記ができるようになるには問題を解くことが必要不可欠です。

【テキスト（教科書）】
神谷健司　市川佳功『簿記Ⅲ』法政大学通信教育部
上記テキストに収録されていないテーマについては授業内でレジュメを配布します。

【参考書】
渡部裕亘/片山覚/北村敬子編著『検定簿記講義2級商業簿記』（平成30年度版）中央経済社700円＋税

【成績評価の方法と基準】
通常の期末定期試験を実施し、成績評価は期末定期試験の結果のみで判定します。期末定期試験では学習した範囲についての計算問題を出題します（電卓の準備が必要です）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進行が速いという意見がありますが、授業内にレジュメを配布するなどして簿記の解き方をマスターできるように工夫していきます。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will learn Commercial Bookkeeping of Nissho Bookkeeping Test Level 2.　However, consolidated financial statements are excluded.

HIS100TA（史学 / History 100）

日本史（秋期スクーリング）

永田　一

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本古代史を、対外関係に重点を置いて検討する。また、それを通じて歴史学の研究方法を学ぶ。

【到達目標】
日本古代史を東アジアという広い視野で見る姿勢を養う。また、史料の分析、先行研究を踏まえて論理を構築し実証する歴史学の研究方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で進めるが、学生を指名して史料を音読してもらうことや、解釈を述べてもらう機会も設けたいと考えている。これは、学生に史料の読解力や考察する力を身につけてもらうことが目的で、積極的に取り組んでいるかどうかを重視する。また、史料や画像を提示し、学生がより明確なイメージを描けるように工夫する。質問は授業中及び提出カードでも受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	歴史学の基本的な研究方法、東アジアという視野で日本古代史を考えることの意味について
第2回	9世紀の政治と社会1	桓武天皇から嵯峨天皇の時代の政治史を概観する
第3回	9世紀の政治と社会2	藤原氏北家の台頭から、宇多・醍醐・村上天皇による親政までの政治史を概観する
第4回	9世紀の対外関係1	東北38年戦争（律令国家と蝦夷との38年間にわたる戦い）について考える
第5回	9世紀の対外関係2	9世紀半ばの東北地方の情勢悪化、元慶の乱について考える
第6回	摂関政治と地方支配の変化1	摂関政治の特徴、受領の登場、負名体制、寄進地系荘園の発達について考える
第7回	摂関政治と地方支配の変化2	地方社会の変化と武士の登場について考える
第8回	10・11世紀の交易と交流1	9・10世紀の東アジア世界の動揺、日本の外交政策の変化、交易と交流について考える
第9回	10・11世紀の交易と交流2	鎮守府・秋田城を中心とした新たな東北の支配体制、北方世界との交易について考える
第10回	10・11世紀の交易と交流3	石江遺跡群（青森市）と城久遺跡群（喜界島）をとりあげ、古代日本の南北の境界世界における交易と交流について考える
第11回	10・11世紀の交易と交流4	奥六郡と安倍氏、出羽山北三郡と清原氏について考える
第12回	10・11世紀の交易と交流5	『陸奥話記』の史料的性格を検討し、前九年合戦勃発の理由について考える
第13回	10・11世紀の交易と交流6	延久二年合戦、後三年合戦がなぜ勃発したかについて考える
第14回	解説と試験	授業の内容を総括、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布したプリントに目を通して復習すること。特に引用史料については音読し、史料を読むことに慣れていって欲しい。また、参考文献を読んで理解を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特になし。教員が作成したプリントを配布する。

【参考書】
佐々木潤之介ほか編『概論　日本歴史』（吉川弘文館、2000年）
佐藤信編『大学の日本史―教養から考える歴史へ―』１古代（山川出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】
試験（100％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
We will make a study of japanese ancient history , focus in international relations.And we will study the method of historical science.

PHL100TA（哲学 / Philosophy 100）

哲学（秋期スクーリング）

大貫　義久

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「自然と人間」というテーマの下に、西欧における近代科学の成立過程に注目し、近代科学成立の基礎となった自然観や方法、さらに哲学上の転換を扱うことによって、古代ギリシア以来の思想史にふれ、「科学」に対する現代的示唆を探り出します。特に、「近代科学の父」と称されるガリレオの思想にふれ、ガリレオにおける〈自然と人間〉や〈科学と宗教・哲学・人間〉の問題などを扱い、「科学」の本来的意味を明らかにします。

【到達目標】
近代科学の形成過程を思想史としてとらえ、その背景となった哲学や宗教などの人間精神に関わる問題を理解し、「科学」に対する現代的な示唆を探り出すことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
板書とプリントを使用した説明を基本とします。数回のリアクションペーパーの提出により授業内容についての理解度や考えをみます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	この授業についてのガイダンス	授業の内容・評価方法などの説明
第2回	哲学について	自然観が哲学的問題であること及び「科学」について説明する。
第3回	古代ギリシアの自然観について	西欧の哲学の基礎としての古代ギリシアの哲学的自然観を説明する
第4回	キリスト教の自然観について	キリスト教の自然観が近代の自然観に与えた影響を説明する。
第5回	西欧中世の自然観について	アリストテレス・キリスト教の自然観について説明する。
第6回	西欧中世の自然観：宇宙体系について	宇宙体系へのアプローチの仕方：実在論と現象論についての説明
第7回	ルネサンスの自然観について	プラトン主義の影響を受けたルネサンスの自然観について説明する
第8回	コペルニクス革命について	天動説から地動説への転換について説明する
第9回	コペルニクス革命の真の意味について	宗教と哲学と天文学の関わりからコペルニクス革命の意味を説明する。
第10回	地動説から無限宇宙へ	G.ブルーノの宇宙観と人間論について説明する。
第11回	天文学の革命：ガリレオ	ガリレオにおける数学的天文学から哲学的天文学への転換を説明する。
第12回	ガリレオにおける「科学」の成立	ガリレオにおいて「科学」が成立したことを詳しく説明する。
第13回	ガリレオ問題について	ガリレオの「科学」をふまえ、現代における「科学」と「科学技術」について考える。
第14回	まとめと試験	授業内で試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する資料を事前に読み内容を理解して下さい。また、習った内容について理解を深めるために復習し、それについて自ら考えて下さい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
参考文献は、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ノートと配布資料の持ち込み可能の試験（100％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
初めて学ぶ内容もあるかと思いますので、図などを使い、理解しやすいようにゆっくり丁寧に説明して行きます。

【Outline (in English)】
This course introduces thoughts on the relation between the nature and the man from the ancient Greece to the European modern times and the role of the philosophy in the formation of modern science. And this course introduces the relation between Galileo's"science"and the present-day technology to students taking this course.

HUG100TA（人文地理学 / Human geography 100）

人文地理学（秋期スクーリング）

小原　丈明

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学とは，地球上で営まれるあらゆる事象について，空間的な観点からその実態や要因についての理解を試みる学問です。つまり，日常生活の中で経験するすべての事象が研究・学習の対象となりえます。

そこで，本授業では，「都市をめぐる諸問題」をテーマとして，現代都市にみられる諸事象について地理学的に考えていきます。具体的には，社会・都市の成り立ちを概観した上で，都市における様々な問題について，空間的側面から考察します。

【到達目標】

本授業では，都市における様々な問題を題材にして，地理学における基本的な概念を理解するとともに，諸事象を地理的（＝空間的）な観点から総合的に考える力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。上記の通り，都市における様々な問題について考えていきます。

本授業は講義形式の授業のため担当者による話題提供が中心となりますが，受講生自らが考え，意見を表明することを重視します。それゆえ，定期的に授業内で小レポートを課すことになりますので，積極的に取り組むことを期待します。また，授業のテーマに関する授業外のレポート課題も課しますので，そのテーマについて各自で調べてレポートを作成することも求められます。

授業内および授業外のレポート課題で示された受講生の意見については授業内で紹介ならびにリコメントするとともに，それを踏まえてディスカッションを行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／社会の成り立ち1	講義の方針・内容について／集落の成立
第2回	社会の成り立ち2	村落
第3回	社会の成り立ち3	都市
第4回	都市問題1	発生場所，種類
第5回	都市問題2	途上国の都市問題1
第6回	都市問題3	途上国の都市問題2
第7回	都市問題4	都心部の問題1
第8回	都市問題5	都心部の問題2
第9回	都市問題6	インナーシティの問題1
第10回	都市問題7	インナーシティの問題2
第11回	都市問題8	都市縁辺部の問題1
第12回	都市問題9	都市縁辺部の問題2
第13回	都市問題10	都市問題の時代的変遷
第14回	総括	まとめ／補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中の小レポート課題だけでなく，授業外でもレポート課題を課す場合があるので，そのテーマについて各自で調べてレポートを作成することが求められます。また，講義中に紹介した参考文献を自主的に読むことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメや配布資料は担当教員で準備し，配布します。

【参考書】

関連する文献については，授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・小レポート課題等）：30％，期末試験（持ち込み不可）：70％で評価します。積極的に取り組む姿勢を重視し，成績評価に反映させます。また，できるだけ差がつくように評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

できるかぎり各回で完結する講義内容となるように心掛けますが，受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。

【Outline (in English)】

This course introduces the urban structures and the urban problems to students taking this course.
The goals of this course are to be able to understand causes and influences of urban problems and the basic geographical concepts, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

GEO100TA（地理学 / Geography 100）

自然地理学（秋期スクーリング）

加藤　美雄

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活に密着している気象現象を理解することにより時間的・空間的な広がりを持つ気候について様々な角度からアプローチし、地球温暖化など人為による気候の改変対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について考え、論ずることができることを目的とする。

【到達目標】
・大気現象や大気の流れを理解する。
・様々なスケールの気候を把握する。
・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
・自然環境の変化による異常気象を把握する。
・課題論文を理解することにより、論文を書く力を付ける。
・人為によって改変した気候の問題点とその対策について考察し、まとめる。
・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問・意見・討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は気象学、気候学に関し最新の研究を中心に講義すると共に、作図や課題論文の解説、気象の実験・映像を通して理解を深める。特に、気象学、気候学については、分かり易く説明する。また、地球温暖化によって加速する様々な異常気象について解説する。最後に地球温暖化の実態・予測を講義し、地球温暖化の緩和策と適応策について集団討論を実施し、各自の考えや意見により議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	気候の概論	気象と気候の違い、気候地名、気候景観などにより気候学の概要を講義する。
第2回	総観気象学 1（大気の安定・不安定、降水の仕組み、気象観測）	大気の構造、降水システムを理解し、観測の原理と観測機器を説明する。
第3回	総観気象学 2（低気圧、高気圧、前線、台風）	気象擾乱について理解を深め、用語を解説する。また、台風について説明する。
第4回	高層気象（対流圏、成層圏の気候）	対流圏・成層圏の気候について講義するとともに、地球温暖化との関連について説明する。
第5回	大気候（大気海洋相互作用、エルニーニョ現象）	大気と海洋の相互作用とその影響、及びエルニーニョ現象について解説する。
第6回	中気候（季節変化、気圧配置、降水分布、やませ、気温分布、気候区分）	日本の季節変化から降水・気温分布などを説明し、気候区分について講義する。
第7回	小気候（海陸風、冷気流、山谷風、局地風）	海岸や山岳、盆地の気候について説明する。
第8回	都市気候（ヒートアイランド、緑地効果、環八雲）	人為による都市の気候の変化について解説する。
第9回	微気候（竜巻、洞窟の気候）	極小規模の気候について説明する。また、観光鍾乳洞の保護について解説する。
第10回	人為による気候の改変１（酸性雨、黄砂）	酸性雨、黄砂の成因、及び日本における影響について説明する。
第11回	人為による気候の改変２（オゾンホール）	オゾン層の役割について説明し、オゾンホール生成のメカニズムと今後の対策について検討する。
第12回	人為による気候の改変３（地球温暖化）	現代社会の大きな問題となっている地球温暖化の原因から結果までを講義する。
第13回	人為による気候の改変４（地球温暖化と海洋）	地球温暖化において重要な海洋の役割について、説明する
第14回	人為による気候の改変５（地球温暖化防止対策の集団討論）	地球温暖化の緩和策と適応策について講義するとともに、各自で検討してまとめる。また、発表して意見交換し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全体を通じて「自然地理学（気候・気象）」（通信教育テキスト）を熟読しておくこと。また地球温暖化に関して、最新の状況を新聞、テレビ、インターネットなどより把握しておくこと。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する。

【参考書】
・異常気象を知りつくす本．佐藤典人著．インデックス・コミュニケーションズ
・新百万人の天気教室．白木正規著．成山堂書店

【成績評価の方法と基準】
試験は実施しない。評価の配分は以下の通りである。
・課題論文、作図、小テストが 40 %
・集団討議での発表および質疑応答が10 %
・レポートが 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
講義では、気象庁での実務経験、及び南極での観測をもとに様々な気象現象や深刻化する地球環境の変化を分かり易く解説する。

【Outline (in English)】
By understanding meteorological phenomena closely relating to our daily life, students will be able to approach the climate with temporal and spatial spread from various angles, and consider artificial climate modifications like global warming. Based on those skills, the goal is to discuss changes in the environment due to human activities with heavy considerations.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAT100TA（数学 / Mathematics 100）

数学２（秋期スクーリング）

若井　健太郎

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学などを例として、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】
数学で用いられる基本的な考え方に接し、それを「手にとって」親しんでもらうことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業で扱う項目は、グラフ理論、組合せ数学、微分法と近似計算。また、様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。
そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	グラフ理論	基本事項
第2回	グラフ理論	オイラーグラフ
第3回	グラフ理論	重み付きグラフと最小全域木１
第4回	グラフ理論	重み付きグラフと最小全域木２
第5回	グラフ理論	オイラー多重グラフ
第6回	組合せ数学	鳩の巣原理
第7回	組合せ数学	包除原理１
第8回	組合せ数学	包除原理２
第9回	組合せ数学	数の分割１
第10回	組合せ数学	数の分割２
第11回	微分法と近似計算	１変数関数の微分１
第12回	微分法と近似計算	１変数関数の微分２
第13回	微分法と近似計算	テイラー展開
第14回	微分法と近似計算	テイラー展開の応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。

【テキスト（教科書）】
通教テキスト『数学』第１版、安東祐希・池田宏一郎・倉田俊彦、2008年

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
期末試験を行う。出席状況・レポート等を評価の参考にする場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】
Mathematics is used in various places.　In this lesson, learn about various calculation methods by taking discrete mathematics etc. as an example.

BIO100TA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

生物学３（講義）（秋期スクーリング）

町田　郁子

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、『人間とはなにものか？』という問いをテーマに掲げて、地球上に存在する多種多様な生物の関係性について理解を深め、その中でのヒトの特徴について生物学の立場から考えることを目的として展開します。地球上に生息するすべての生物は、自らを取り巻く環境と相互作用することにより生命活動を営んでおり、私たちヒトも例外ではありません。自分自身を知るためにも、まずは自分がどのような環境でどのようなものに囲まれて生きているのかを知る必要があるでしょう。「どうして地球上にはたくさんの種類の生物がいるのか？」、「ヒトと他の動物にはどんな共通点・相違点があるのか？」などの問いに対する答えを探りながら、ヒト（皆さん自身）が地球環境の中で他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】
生物の多様性についての知識を会得し、近年大きな課題となっている生物多様性保全の重要性に関して理解を深めるとともに、ヒト（自分自身）のあり方について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。
また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。また、毎回授業の終わりに、その回の授業内容に関するショートレポートを作成し提出して頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第2回	多種多様な生物とは？	地球上にはどれほどの種の生物が存在し、どのような特徴をもつのかについて、動物の分類方法を学びながら概説します。
第3回	生態系の中のヒトとは？	地球上の多くの生物がどのような関係性の上に存在しているのかについて、ヒトの関わりにふれながら概説します。
第4回	生物と地球環境のつながりとは？	ヒトを含めた全ての生物を構成している物質とは何なのか、またそれらの物質と地球環境とはどのような関わりをもつのかについて概説します。
第5回	生物、そしてヒトの起源とは？	地球上に生命が誕生した背景、そして生物の進化とヒトの誕生について概説します。
第6回	進化学とは？	ヒトはどのようにして生物の進化の謎をひも解いてきたのかについて、進化学分野の研究手法等を概説します。
第7回	生物の体のしくみとは？	生物の生命の維持に関わる複雑かつ巧みな体のしくみについて、ヒトと他の生物との間で共通する点・異なる点に着目しながら概説します。
第8回	行動の進化とは？	生物の行動と進化の関係について、また進化論が人々にどのような生物の行動と進化の関係について、また進化論がヒトの社会にどのような影響を及ぼしてきたかについて概説します。影響を及ぼしてきたかについて概説します。
第9回	生物の行動にみられる特徴とは？	ヒトを含めた生物の様々な行動が引き起こされるしくみや意味について概説します。
第10回	種の存続とは？	生物のオスとメスの特性、また種の存続に際しヒトを含む様々な生物の配偶者選びにはどのような特徴があるのかについて概説します。
第11回	ヒトによる動物の家畜化とは？	地球上に存在する動物の中で、ヒトの管理下で生きる家畜化された動物に着目し、ヒトと動物の関わりについて概説します。
第12回	ヒトの動物観とは？	ヒトは他の動物をどのように見てきたのか、そしてヒトと他の動物の共生とはどのようなことなのかについて概説します。
第13回	ヒトの食とは？	自然界にある「食う・食われる」という関係の中で、現代のヒトは他の生物をどのように食しているのか、命を食べるとはどのようなことなのかについて概説します。
第14回	期末試験	最終回に授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に提出するショートレポート（５０％）および期末試験（５０％）。（必要に応じてレポート課題等を出した場合、それらも加味します。）

【学生の意見等からの気づき】
生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline (in English)】
This course introduces the basis of biological science, focusing on biodiversity. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of human beings compared to other living things.
Lectures will also discuss harmonious symbiosis of nature and humans from many points of view.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(１)（秋期スクーリング）

大和久　悌一郎

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、英語読解能力は、国際社会の中で専門的な学問領域だけでなく、一般的な時事問題・日常生活においても重要になってきています。本授業では、そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実にみにつけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力を充実させていくことを目指します。

【到達目標】
・TOEICレベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
・TOEICレベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
日常的な英語表現と、英文法の各事項について解説しているテキストを用いて、基礎力を身につけていきます。また随時、新聞など海外の英語のニュース記事を読み、読解力を養っていきます。基本的に、テキスト１章分を２回の授業で扱い、必要に応じてプリントの配布を行います。毎回出欠の確認をします。また授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうことをお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容の紹介
第2回	Unit 1（例文読解）	空港での日常表現
第3回	Unit1（文法）	文型について
第4回	Unit 2（例文読解）	マンションなどでの日常表現
第5回	Unit 2（文法）	文型について
第6回	Unit 3（例文読解）	友人を歓迎するさいの日常表現
第7回	Unit 3（文法）	不定詞、動名詞について
第8回	Unit 4（例文読解）	買い物をするときの日常表現
第9回	Unit 4（文法）	不定詞について
第10回	Unit 5（例文読解）	催しもののときの日常表現
第11回	Unit 5（文法）	分詞について
第12回	Unit 6（例文読解）	観光地での日常表現
第13回	Unit 6（文法）	接続詞について
第14回	まとめ	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回であつかう章について、事前に予習をしておく。また、テキストに登場した単語や表現については復習する。

【テキスト（教科書）】
愛甲ゆかり、池田有花著『英語で紹介するニッポン！ -続・イングリッシュ・ワンス・モア！ - Introduce Japan in Easy English -English Once More! Ⅱ-』朝日出版社、2016年

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席・予習・小テスト等）６０%、期末試験40%で評価します。３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また３回の遅刻は１回の欠席とみなします。7回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these hangouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(２)（秋期スクーリング）

ウォルター・カズマー

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The class will cover a number of business and society related topics. Discussion and short writing assignments related to the topics will be assigned to each area as well as some interactive video assignments.

【到達目標】
Students will acquire necessary speaking and writing skills as well as be able to handle discussion of current news topics. Presentation skills will also be brushed up on and students should gain confidence to conduct English language presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
Group and pair discussions, short comprehension writing, giving short speeches and presentations, and using analytical skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
Lecture #1	Syllabus introduction General Social media usage	Introducing chosen activities as well as discussing social media and its use in society.
Lecture #2	Social media - how it affects business	Examining social media influence on business, scandals, etc.
Lecture #3	Fake news	Fake news and its influence on world events.
Lecture #4	Pop idols vs Musicians	Why have pop models emerged?
Lecture #5	TV idols vs Video Idols	What influence does video have versus TV broadcasting.
Lecture #6	War on Sugar and Fat	How nutrition affetcs daily life.
Lecture #7	Nutrition	How has perception of nutrition changed and its affect on longevity.
Lecture #8	Robots and AI	The influence of intelligence systems and how that affects daily life.
Lecture #9	AI influence on the workplace	How robots and intelligent systems save labor and affect careers.
Lecture #10	Brexit- End of UK?	What will happen with the UK after Brexit is completed?
Lecture # 11	Exits for other places	Catalunya independence, Quebec, will other regions follow suit and seek independence?
Lecture # 12	Immigration Issues with foreign labor	Examining Japan's absorption of foreign laborers and how it affects society.
Lecture # 13	Immigration Issues affecting the population	How will Japan adjustto a lower population and possible larger foreign populations?
Lecture #14	Review and exam	Review and exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Review reading assignments, view assigned videos, review class notes, and preview any assigned classwork.

【テキスト（教科書）】
None required.

【参考書】
Not required.

【成績評価の方法と基準】
Class participation 33%
Homework 33%
Exams 17%
Report/Speech 17%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Writing material, paper, smartphone or tablet/notebook.

【Outline (in English)】
Topics included are social media usage and other business/society related issues which are covered through readings and short comprehension assignments.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(３)（秋期スクーリング）

井上　紗央里

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
NHK英語放送のニュース教材を利用したテキストを使用し、音声、映像を使用したリスニング、ニューススクリプトの読解、語彙、文法、会話表現等の習得を行います。

【到達目標】
1. ニュース音声を使用して英語の音声に慣れ、リスニング力を強化する。
2. ニューススクリプトの読解を通して英語の文法、語彙を強化し、読解力を身につける。
3. 時事問題に触れることで、社会の状況に関心を持ち自分の意見を述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、語彙の確認、演習の答え合わせ、リスニング練習、ニューススクリプトの読解、発音練習などを行います。演習問題やニュースの内容などについて適宜受講生に質問をするので、質問に答えられるように事前に指示された箇所を予習をしてください。２ユニット読み終わるごとに単語の小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Introduction, Unit 9 Haircuts for Charity 前半	イントロダクション（授業の進め方、予習のやり方など）と Unit 9 の語彙の確認、リスニング演習
第2回	Introduction, Unit 9 Haircuts for Charity 後半	Unit 9 のニューススクリプトの読解、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第3回	Unit 10 Peer Group Consumption 前半	Unit 10 の語彙の確認、リスニング演習、ニューススクリプトの読解前半
第4回	Unit 10 Peer Group Consumption 後半	Unit 10 のニューススクリプトの読解後半、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第5回	Unit 11 Taste of Temple Life 前半	Unit 11 の語彙の確認、リスニング演習、ニューススクリプトの読解前半
第6回	Unit 11 Taste of Temple Life 後半	Unit 11 のニューススクリプトの読解後半、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第7回	Unit 12 New Take on Tatami 前半	Unit 12 の語彙の確認、リスニング演習、ニューススクリプトの読解前半
第8回	Unit 12 New Take on Tatami 後半	Unit 12 のニューススクリプトの読解後半、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第9回	Unit 13 Traveling with Confidence 前半	Unit 13 の語彙の確認、リスニング演習、ニューススクリプトの読解前半
第10回	Unit 13 Traveling with Confidence 後半	Unit 13 のニューススクリプトの読解後半、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第11回	Unit 14 Tanzanian Students Discover Japan 前半	Unit 14 の語彙の確認、リスニング演習、ニューススクリプトの読解前半
第12回	Unit 14 Tanzanian Students Discover Japan 後半	Unit 14 のニューススクリプトの読解後半、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第13回	Unit 15 Back to Basics	Unit 15 の語彙の確認、リスニング演習、ニューススクリプトの読解、内容の解説と確認、発音練習、ペアワーク
第14回	最終試験とまとめ	第1回から第14回までの内容に関する試験と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 各ユニットのBefore You Watchの語彙の問題を事前に解く。
2. テキスト巻末に掲載された方法でPCかスマートフォンを利用して専用のウェブサイトにアクセスし、事前にニュース映像を見る。
3. ニュース映像の音声を聴きNews Story本文の空欄のディクテーションを行う。
4. News Storyの英文をよく読み、わからない単語、表現等は事前に辞書で調べておく。
5. 各ユニットの演習問題を事前に解いておく。

【テキスト（教科書）】
NHK NEWSLINE 2 映像で学ぶNHK 英語ニュースが伝える日本 2（金星堂）　山崎達郎, Stella M. Yamazaki, Erika C. Yamazaki 編著 2,300円(+税)　ISBN 978-4-7647-4072-3　https://www.kinsei-do.co.jp/books/4072/（インターネット上の書店で中古のテキストを購入すると動画閲覧パスワードが掲載されていなかったり視聴期限が切れている可能性があるので新品を購入してください。）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
試験50% (筆記試験とリスニング試験、参照不可）小テスト10% 平常点（授業での学習状況、発言、提出物等）40%

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していないため、なし。

【学生が準備すべき機器他】
授業では英単語を調べられる辞書（本の英和辞書、電子辞書、辞書アプリ等）を持参してください。予習でニュース映像を見るためにインターネットに接続できるPCかスマートフォンが必要になります。インターネットの使用が難しい場合は第１回目の授業で教員に相談してください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to improve students' vocabulary, grammar, reading, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(４)（秋期スクーリング）

高橋　佳江

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
5文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとまった内容の文章を作って発表できることを目標とする。

【到達目標】
誤字脱字、ケアレスミスをなくしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくること。適宜、発表、レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	秋学期ガイダンス	文法の解説他
2	第８課 At the restaurant	レストランでの会話
3	第８課～ 第９課	第８課残り
4	第９課 Shopping	買い物
5	第９～第10課	第８課小テスト
6	第10課 Lost and found	忘れ物について
7	第10課～ 第11課	第９課小テスト
8	第11課 Using public transportation	公共交通手段
9	第11課～ 第12課	第10課小テスト
10	第12課 Renting a bike	レンタサイクル
11	第12課～第13課	第11課小テスト
12	第13課 Finding your way around	道を尋ねる
13	第13課～第14課	第12課小テスト
14	授業内試験	範囲は授業で学習したところ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
単語帳の作成、書き取り練習に毎日1時間充ててほしい。

【テキスト（教科書）】
旅英語の心得　南雲堂　　2000円

【参考書】
辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　80％・小テスト・レポート課題　10％・平常点　10％。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は3回で欠席1回に換算される。学期中に半分以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。

【学生の意見等からの気づき】
過去にアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the necessary English skills and knowledge needed to travel overseas and study abroad.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(５)（秋期スクーリング）

光野　昭雄

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ストックホルム宣言、東京宣言、リオ宣言等様々な環境宣言とそれらに関した記事を読みながら、英語力を養成すると共に様々な面から環境問題について考える。

【到達目標】
１　英文を理解する。
２　英文で書かれた内容について様々な資料を参考にしながら理解を深める。
３　現在的視点から環境問題について考える。
４　問題を設定し、それについて自分の意見を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
環境問題の背景を最初に説明し、それについて書かれた英文を学生に訳してもらう。
誤訳がある場合はそれを訂正し、その英文の内容について説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1回	環境と財政	環境問題に必要な費用について説明する。
2回	日本の出費	日本が如何に費用を負担してきたかを説明する。
3回	愛知和男の寄稿文	その①
4回	愛知和男の寄稿文	その②
5回	愛知和男の寄稿文	その３３
6回	愛知和男の寄稿文	その④
7回	愛知和男の寄稿文	その⑤
8回	愛知和男の寄稿文	その⑥
9回	東京宣言文	その①
10回	東京宣言文	その①
11回	東京宣言文	その②
12回	東京宣言文	その③
13回	東京宣言文	その④
14回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前にその週にやる英文を必ず一読しておくこと。

【テキスト（教科書）】
『人間環境宣言』(鳳書房)

【参考書】
『沈黙の春』レイチェル・カーソン　(新潮文庫)

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％　試験６０％

【学生の意見等からの気づき】
建設的な意見を歓迎したい。授業に活かしたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
This class will show you how your reading skill on environment can be developed.

LANd100TA（ドイツ語 / German language education 100）

独語Ｓ（秋期スクーリング）

宮城　学

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋期では春期で学んだ語形変化をさらに応用していきます。語形の変化がある体系のもとで行われていることに自らが気づき、それを応用できるようになることが目標です。

【到達目標】
分離動詞や助動詞を学んで表現の幅を広げられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式ですが、練習問題を中心に学生諸君に発音、発言していただく機会を多くとっていきたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	定冠詞類	dieser, welcherなどの格変化。
第2回	前置詞(2)	３・４格支配の前置詞。
第3回	復習と練習	第１回および第２回の復習と練習問題。
第4回	不定冠詞類	mein, keinなどの格変化。
第5回	分離動詞(1)	分離動詞の形態と使い方。
第6回	分離動詞(2)	非分離動詞の形態。
第7回	復習と練習	第４回～第６回の復習と練習問題。
第8回	人称代名詞	人称代名詞の格変化。人称代名詞が前置詞と結びつく形。
第9回	命令文	「～せよ、してください」などの表現。
第10回	復習と練習	第８回および第９回の復習と練習問題。
第11回	話法の助動詞(1)	英語のcanやmustにあたる助動詞の変化。
第12回	話法の助動詞(2)	助動詞構文。
第13回	復習と練習	第11回および第12回の復習と練習問題。
第14回	確認テスト	秋学期の習得度を確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や課題は重要な予習ですので必ずしてくるようにしてください。また前回の既習事項を確認してから授業に臨むようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
ドイツ語文法の基礎
著者：成田　節　　櫻井　麻美
出版社：同学社
価格：２４００円＋税

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（平常点）（４０％）および学期末の確認テスト（６０％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生諸君の理解度・習得度を確認しながら授業を進めていくよう心掛けているため、総合的に満足のいく評価をいただいていますが、やはり語学は「わかった」よりも「できた」が大切です。真の実力がつくように反復練習を増やしていきたいと思います。

【Outline (in English)】
The student will further study the word forms. The goal is to become aware of a system, under which the words change, and to be able to apply it to other words.

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）

仏語S（秋期スクーリング）

佐野　栄一

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の続きです。フランス語の最初歩の表現と文法を総合的に学習します。春学期の私の授業か、独習やほかの授業で、近接過去程度までをを終えていることが受講条件です。まったく初めて学習する人は受講できません。
フランス語の学習を通して、言語と密接する文化を理解するとともに、日本語とその文化についも、新たな視点から見られるようになれば幸いです。

【到達目標】
①たとえば、フランスに旅行に行って、簡単なコミュニケーションができるようになること。
②平明なフランス語文を辞書を使って読解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期と同様（春学期参照）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	時・場所・方法・様態疑問副詞	いつ、どこで、どうやって、どのような、の表現
第2回	疑問代名詞	誰が、誰を、何が、何を、などの表現
第3回	部分冠詞	数えられない名詞につく冠詞について
第4回	中性代名詞EN	不定冠詞・部分冠詞のつく名詞を受ける代名詞について
第5回	中性代名詞Y	そこに、と場所を受ける代名詞について
第6回	直接目的語代名詞	わたしを、あなたを、それを、など、直接目的語を受ける代名詞について
第7回	間接目的語代名詞	わたしに、あなたに、彼に、など間接目的語を受ける代名詞について
第8回	代名動詞	代名動詞の活用と用法について
第9回	命令文	命令したり禁止したりする表現について
第10回	過去分詞	過去分詞の作り方と用法について
第11回	複合過去①	完了した過去についての表現①AVOIRを助動詞とするもの
第12回	複合過去②	完了した過去についての表現②ETREを助動詞とするもの
第13回	複合過去③過去分詞と直接目的語の一致	代名動詞の複合過去についてどういうとき、過去分詞と直接目的語は一致するかについて
第14回	複合過去と目的語人称代名詞	複合過去における目的語人称代名詞の位置と過去分詞の一致について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期と同様（春学期参照）

【テキスト（教科書）】
春学期と同様（春学期参照）

【参考書】
春学期と同様（春学期参照）

【成績評価の方法と基準】
春学期と同様（春学期参照）

【学生の意見等からの気づき】
春学期と同様（春学期参照）

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞書

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
This cours is the continuation of my French cours in spring. The students who learn at the first time can't attend.
As the aim of a lesson, we would like arrive at the expression using < passe compose> in six month.

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合演習（秋期スクーリング）

竹内　洋輔

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、週1回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、初回のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ(講義および実習)	バトミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング(講義および実習)	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ(講義および実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ(講義および実習)	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ(理論と実習)	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルスのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ(理論と実習)	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ(理論と実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ(理論と実習)	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1)授業中の活動に対する参画状況・授業態度を60%　2)授業に対する理解度や課題・レポートを40％の配分として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
実技種目を実施するにあたって他の学生と協力し実施することが多いことから、個別の身体状況に対応して授業を実施することが難しい。そのため受講にあたっては、健康診断書の結果および、自己の評価から、運動に支障が無い身体状態であることが必要である。
授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。
教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点が有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】
This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

LAW300TB（法学 / law 300）

債権各論（秋期スクーリング）

足利　沙緒理

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「民法第二編契約第三章事務管理、第四章不当利得、第五章不法行為」の規定に関わる諸問題について学ぶ。
関連する判例等についてもあわせて学習をすることで、各規定が実際にどのような場面において、どのようなかたちで適用されているかを理解する。

【到達目標】
①一般不法行為の要件・効果等を理解する。
②特殊不法行為の要件・効果等を理解する。
③事務管理の要件・効果等を理解する。
④不当利得の要件・効果等を理解する。
⑤①～④をもとに、具体的な検討ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。
授業ではテキスト・六法を使用し、適宜資料も配付する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 不法行為法とは？	授業の内容や進め方についての説明 不法行為法の構造などについての解説
第2回	不法行為の要件①	故意・過失に関する問題についての解説
第3回	不法行為の要件②	権利侵害・法律上保護される利益侵害に関する問題についての解説
第4回	不法行為の要件③	因果関係に関する問題についての解説
第5回	不法行為の効果①	損害賠償請求権者についての解説
第6回	不法行為の効果②	損害賠償の範囲についての解説
第7回	不法行為の効果③	損害賠償額の算定についての解説
第8回	不法行為の効果④	過失相殺・損益相殺についての解説
第9回	責任無能力者の監督者責任 使用者責任	未成年者等の監督者の責任、使用者責任の意義・要件・効果などについての解説
第10回	土地工作物責任 製造物責任	土地工作物責任の意義・要件・効果、製造物責任の意義・要件・効果などについての解説
第11回	共同不法行為	共同不法行為の意義・効果などについての解説
第12回	一般的不当利得	一般的不当利得の要件・効果などについての解説
第13回	特殊不当利得	703条～708条に規定されている、特殊不当利得についての解説
第14回	事務管理	事務管理の要件・効果などについての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト等を用いての予習・復習。
予習：テキストの該当部分に軽く目を通す。
復習：授業の内容をふまえたうえで、配付資料も参照するなどしながら、テキストの該当部分を丁寧に読む。

【テキスト（教科書）】
滝沢昌彦・武川幸嗣・花本広志・執行秀幸・岡林伸幸『債権各論』（ハイブリッド民法４）（法律文化社、2018年）

【参考書】
窪田充見・森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ（第８版）』（有斐閣、2018年）
そのほか、授業内でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価。（100％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
An outline of this class is to learn the problems about the articles that are provided for in Civil Code Part Ⅱ Chapter Ⅲ Negotiorum Gestio, Chapter Ⅳ Unjust Enrichment and Chapter Ⅴ Torts.
And by learning about the cases that have relations to the articles and problems stated previously, to acquire the cases that apply to the said articles, practically.

LAW300TF（法学 / law 300）

商法総則・商行為法（秋期スクーリング）

石井　宏司

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
商法第二編商行為法についての講義を行う。
商行為法は商人の行為、特に商人の取引に関する法規制に関するものである。商行為法は個人商人と会社の双方に適用されるものであり民法の特別法である。民法と商法を比較しつつ、商人がかかわる契約の成立等や商人間の売買に関する規制を学ぶ。この他に商行為法において規制される交互計算や匿名組合、仲介営業や運送営業など各種の営業などに商行為法独自の法制度を学ぶ。
　本講義においては法学概論および民法等を未修であっても受講者が理解できるよう法学や民法の基礎から丁寧な解説を行うことを予定している。また本講義では条文の文言に即して詳しくわかりやすく講義していく予定である。条文の文言解釈にあたり重要な法の沿革、学説、判例等を理解する
　学生は商行為法の各制度、条文の重要な文言の解釈、主要な判例学説を理解できるようになることが本講義の目標となる。本講義を通して、商行為法の法規制を理解し実社会において活用することができるレベルまで到達することが望ましい。

【到達目標】
商行為法の条文の文言の理解に関して、文言の理解に必須な解釈と沿革、学説等について十分に理解できるようにする。
また、一般用語と異なる商法における専門用語の理解ができるようにする。
さらに民法との関係において商法の特殊性を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
板書による講義形式で行う。筆記用具と六法、教科書は毎回使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・商行為法総則①	授業の進め方を説明する 商行為法とは何かと言う問題とその沿革について学ぶ
第2回	商行為法総則②	商行為法総則のうち、契約の成立に関する規定と債務の履行・債権担保に関する規定を学ぶ
第3回	商行為法総則③	商行為法総則のうち、有価証券に関する規定を学ぶ その際、有価証券概念について説明を行う。
第4回	商行為法総則④	代理及び委任に関する規定と商行為の営利性が重視された規定を学ぶ
第5回	売買①	商事売買と消費者売買の区分の意義について学ぶ 商事売買の法規制を学ぶ
第6回	売買②	商事売買の法規制を学ぶ 消費者売買に関する法規制を学ぶ
第7回	交互計算	交互計算の意義および効果について学ぶ
第8回	匿名組合	匿名組合の意義およびその法規制を学ぶ 民法の組合との違いについて学ぶ
第9回	仲立営業	仲立営業の意義およびその法規制を学ぶ
第10回	問屋営業	問屋営業の意義およびその法規制を学ぶ
第11回	運送営業①	物品運送の意義およびその法規制を学ぶ
第12回	運送営業②	旅客運送の意義およびその法規制を学ぶ
第13回	運送取扱営業	運送取扱営業の意義およびその法規制を学ぶ
第14回	寄託	寄託営業の意義およびその法規制を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講する学生は予習と復習を行うこと。
予習については教科書の目次を見る程度の簡単なものでよい。
復習についてはノートと教科書をしっかり見直すことが望ましい。また授業内で指摘した文言等の解釈についての問題意識を考慮しながら復習することが望ましい。その際に必ず六法の条文を参照するものとする。

【テキスト（教科書）】
近藤光男『商法総則・商行為法(第8版)』(有斐閣、2019)

【参考書】
『商法（総則・商行為）判例百選 第5版〔No.194〕』（有斐閣、2008）

【成績評価の方法と基準】
定期試験の得点により成績を評価する（配分：100％）

【学生の意見等からの気づき】
商行為は抽象的難解な文言が多く非常にわかりにくいので最新の判例を踏まえ、具体的な説明を加えて授業を行うようにしています
また板書についても事例等を活用しわかりやすくするようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This course is intended to provide understanding of The Commercial Acts.　In addition to providing a general introduction to the Japanese legal system, this course will concentrate on specific legal topics such as commercial transactions , open account, and silent partnership agreement. Through this course , students will learn the history, the case law and the doctrine of The Commercial Acts.

LAW300TB（法学 / law 300）

会社法（秋期スクーリング）

笹久保　徹

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は商法の会社法に関する講義である。
受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

【到達目標】
・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式である。憲法、民法又は刑法と異なり、会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図解を駆使して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。
本授業の受講者は、できれば春期スクーリングの「会社法」を受講しておいて頂きたい（もちろん秋期スクーリングから受講してもかまわない。）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	会社法　総論	会社法を学ぶための前提知識・用語等の解説、春期スクーリングの復習
第2回	株式会社の機関 株主と取締役の関係	株主による取締役の責任を追及する方法（株主代表訴訟等）に関する解説
第3回	株式会社の機関 監査役、会計監査人、会計参与	監査役・会計監査人・会計参与に関する解説
第4回	株式会社の機関 その他	指名委員会等設置会社及び監査等委員会設置会社に関する解説
第5回	株式1	株主の権利・株主平等原則に関する解説
第6回	株式2	株式の内容・種類に関する解説
第7回	株式3	株主名簿・株券に関する解説
第8回	株式4	株式譲渡・自己株取得に関する解説
第9回	株式5	株式の併合・分割・株式の単位等に関する解説
第10回	募集株式1	募集株式の概論・発行手続に関する解説
第11回	募集株式2	募集株式の発行等の瑕疵等に関する解説
第12回	新株予約権1	新株予約権に関する解説
第13回	新株予約権2	新株予約権の発行等の瑕疵等に関する解説
第14回	組織再編	合併等の組織再編に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』）を読むこと。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。
復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキスト（柴田和史『会社法詳解〔第2版〕』）を熟読すること。

【テキスト（教科書）】
柴田和史『会社法詳解〔第2版〕』（商事法務、2015）

【参考書】
・柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）
・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』別冊ジュリストNo.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）の成績による（試験100％）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
受講生は最新の六法を持参すること。
テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW300TB（法学 / law 300）

教育法（秋期スクーリング）

村元　宏行

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、教育法の基礎と現代的課題について、国家と教育との関わりと、学校における子どもの人権という二つの側面から進めていきます。

【到達目標】
教育法制の全体像を把握する。
教育をめぐる主な裁判について理解する。
教育法制の改正動向について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教育法は最近立法や法改正が相次いでおり、また今後もその動きがあります。それを理解するためにも、まずは教育法の基礎をしっかり理解することが必要です。
そのために、講義形式を中心に授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	教育法の基本原理①	教育法の歴史について
第2回	教育法の基本原理②	教育法の法源について
第3回	憲法・教育基本法制①	旧教育基本法の制定と理念について。その後の教育政策の展開について。
第4回	憲法・教育基本法制②	教育基本法の改正について
第5回	教育三法の改正	教育基本法改正に伴う学校教育法、地教行法、教育職員免許法の改正について
第6回	最近の教育法制の改正動向	教育委員会制度の改革動向等について
第7回	国家の教育内容統制とその限界①	学習指導要領の法的拘束力について
第8回	国家の教育内容統制とその限界②	教科書検定、全国学力テストについて
第9回	学校における子どもの人権：校則	校則について(裁判例を中心に)
第10回	学校における子どもの人権：懲戒・体罰	懲戒・体罰について(現行法制と裁判例)
第11回	学校における子どもの人権：いじめ	いじめについて（裁判例を中心に）
第12回	学校における子どもの人権：その他の学校災害	上記以外の学校災害について
第13回	学校災害の救済法制	学校災害の救済法制の現状と問題点について
第14回	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教育をめぐる時事問題について、授業前から積極的に学習しておくと、授業の理解に役立ちます。それ以上の本格的な予習は難しいので、授業後の復習を丁寧に行ってください。

【テキスト（教科書）】
いずれかの教育六法を授業に持参してください。
原則こちらを用いる：『ハンディ教育六法２０１９年版』(北樹出版)
授業以外でも本格的に学習したい人向け：『解説教育六法２０１９年版』(三省堂)
詳しくは初回授業で指示するので、初回授業には必ずしも持参しなくてもよいです。

【参考書】
予習・復習用に姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法　新訂版』(三省堂、2015年）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】
試験（５０％）：試験は論述中心で、講義で取り上げた重要論点について正しい理解がなされ、それについて自らの見解を述べることができるかを評価します。
リアクションペーパー(５０％)：毎回あるいは複数回、リアクションペーパーを提出してもらい、提出状況や記述内容を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい板書を心がけます。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.

LAW300TB（法学 / law 300）

行政救済法（秋期スクーリング）

氏家　裕順

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国・都道府県などの行政は、警察行政、医事衛生行政、環境行政、教育行政、経済行政、公共施設行政などの多様な行政領域において、われわれ私人の生活に関係し影響を及ぼしている。行政活動が適法にされることのほか、行政活動により権利利益を侵害された私人が利用しうる救済制度が、その権利利益の回復のために適切かつ十分なものであることも重要である。
民事法上のものとは異なる、行政の分野に特有の救済制度として、行政事件訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償制度、損失補償制度が存在する。
授業では、行政事件訴訟の概要を理解するとともに、その抱える問題点を学ぶ。

【到達目標】
行政事件訴訟の類型と各類型の相互関係を説明することができる。
取消訴訟の概要とそれが抱える問題を説明することができる。
取消訴訟以外の抗告訴訟を説明することができる。
抗告訴訟における仮の救済を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	各種の行政事件訴訟(1)	行政事件訴訟の概要
第2回	各種の行政事件訴訟(2)	行政事件訴訟の類型　各類型の相互関係
第3回	取消訴訟(1)	訴訟要件　本案勝訴要件
第4回	取消訴訟(2)	処分性
第5回	取消訴訟(3)	原告適格
第6回	取消訴訟(4)	訴えの客観的利益
第7回	取消訴訟(5)	違法主張の制限　違法性の承継　違法判断の基準時
第8回	取消訴訟(6)	判決の種類と効力　事情判決
第9回	取消訴訟以外の抗告訴訟(1)	無効等確認訴訟
第10回	取消訴訟以外の抗告訴訟(2)	不作為違法確認訴訟
第11回	取消訴訟以外の抗告訴訟(3)	義務付け訴訟
第12回	取消訴訟以外の抗告訴訟(4)	差止訴訟
第13回	抗告訴訟における仮の救済	執行停止　仮の義務付け　仮の差止め
第14回	定期試験	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
後掲の指定市販本をはじめとする参考書を参照しながら、予習と復習を行う。

【テキスト（教科書）】
配布レジメ

【参考書】
岡田正則＝榊原秀訓＝本多滝夫『判例から考える行政救済法』（日本評論社、2014年）
神橋一彦『行政救済法〔第2版〕』（信山社、2016年）
芝池義一『行政法読本〔第4版〕』（有斐閣、2016年）
藤田宙靖『行政法総論』（青林書院、2013年）
そのほか、初回の授業で紹介するもの。
最新版のものを参照すること。

【成績評価の方法と基準】
定期試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
事前に予習していることが講義内容を十分に理解するために必要不可欠のことであるといえることを再確認した。

【学生が準備すべき機器他】
最新版の六法。これは毎回持参すること。

【その他の重要事項】
行政救済法を効果的に学習するには、行政法（行政組織法・行政作用法）を修得していることが必要になる。例えば、処分性を的確に理解するには、法規命令、行政行為、即時強制などの行為形式の知識を有していることが必要である。行政法の修得が十分でない者は、各回の授業の予習復習のほか、それらを自習することになる。自習の範囲は、教員に質問する。

【Outline (in English)】
This course is designed to sketch out the Administrative Case Litigation Act 1962 (c.139) and to lean inherent problems of the Act 1962.
After completing this course, you should be able to:
- Explain kinds of actions laid down in the Act 1962 and spell out relationship between the actions;
- Sketch out Action for the Revocation of Administrative Dispositions, with identifying its problems;
- Explain the rest Actions of Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions; and
- Explain provisional remedies which could be asked before the court where each Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions are field.

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）

西洋美術史（秋期スクーリング）

濱西　雅子

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
美術史は、時代・社会・文化の鏡ともいえる芸術作品を巡る学問である。講義では、古代ギリシアから20世紀にかけての時代の、建築・彫刻・絵画・工芸等多様な表現形式をとる西洋の美術作品を考察するなかで、その造形的表現の特質を学ぶ。

【到達目標】
西洋美術の名作について、図像（主題・内容）、（時代・地域・個人）様式、技法、造形的表現の特質、美術史上の意義といった美術史的な観点から、総合的に理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
一昨年度の秋期スクーリングでは、図像を中心に講義を進めたが、今回のスクーリングでは、様式（特に時代様式）を軸に講義を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	序、古代ギリシア・ローマ	美術史の方法論について、《パルテノン神殿》
第2回	初期キリスト教、ビザンティン	《旧サン・ピエトロ大聖堂》、《ハギア・ソフィア大聖堂》
第3回	初期中世	《ケルズの書》
第4回	ロマネスク	《サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂》
第5回	ゴシック	《シャルトル大聖堂》
第6回	イタリア・ルネサンス	ラファエロ《アテナイの学堂》
第7回	15世紀北方北方ルネサンス	ファン・エイク兄弟《ゲントの祭壇画》、ホルバイン《大使たち》
第8回	バロック ロココ	レンブラント《夜警》、 フェルメール《絵画芸術》、ヴァトー《シテール島の巡礼》
第9回	新古典主義 ロマン主義	アングル《ホメロス礼賛》、 ドラクロワ《民衆を導く自由の女神》
第10回	写実主義 印象主義	ミレー《落ち穂拾い》、 モネ《睡蓮》
第11回	後期印象主義	ゴッホ《ひまわり》
第12回	アール・ヌーヴォー	クリムト《接吻》、ガウディ《サグラダ・ファミリア聖堂》
第13回	20世紀	ピカソ《ヴァイオリン、グラス、パイプと錨》、モンドリアン《赤、黄、青のコンポジション》
第14回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まず通史概説書を通読し、西洋美術史の全体的な枠組み、大まかな流れを掴み、基本を押さえておくこと。
試験では自筆ノートのみ持込みが可能なため、下記の成績評価基準を参考に、事前にある程度の準備をしておくことが望ましい。
その際、不明な用語は美術辞典類で明らかにすること。また入門書・通史概説書以外にも、美術全集、画家別の画集、当該作品や時代様式について一冊論じられた専門書等、美術史の専門文献を広く参照し、理解を深める必要がある。大型図版も適宜参照すること。
また可能な限り、実際に美術館（国立西洋美術館・国立新美術館・東京都美術館他）等で作品を鑑賞する機会を得るように努めること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。下記の参考書等を参照すること。

【参考書】
●美術辞典類
『新潮世界美術辞典』 新潮社　1985年（20,388円、絶版）
『世界美術大事典』 全6巻　小学館　1988-90年（90,720円、絶版）
J. ホール著　高階秀爾監修訳 『西洋美術解読事典』 河出書房新社　2004年（5,292円）
益田朋幸、喜多崎親編著『岩波 西洋美術用語辞典』岩波書店　2005年（3,024円）等
●通史概説書
H. W. ジャンソン他著　木村重信他訳 『西洋美術の歴史』 創元社　2001年（3,672円）
高階秀爾監修『増補新装 カラー版 西洋美術史』 美術出版社　2002年（2,052円）
その他、『世界美術大全集』 西洋編　全28巻　小学館　1992-97年（各30,240円）等の美術全集、画家別の画集、時代様式や作品について一冊論じられた専門書等を参照すること。

【成績評価の方法と基準】
試験65％、平常点35％により総合的に評価する。
試験では、時代様式についての用語説明（第一問）、及び授業で取り扱った作例の中から気に入った一つの作品を選択し論考（第二問）を行う。
第一問については、美術辞典を三冊以上参照し、通史概説書の目次にあるような時代様式について、B４試験用紙五行程度に各自まとめる。
第二問については、選択した作品の基本データ（制作者名・作品名・制作年代・素材・大きさ・所蔵先等）や時代様式の特徴を踏まえた上で、図像内容、造形的表現の特質、美術史上の意義等について考察して欲しい。西洋美術史の専門文献（美術辞典類や入門書・通史概説書以外のもの）を三冊以上参照し、そこで得た知識を基に、自らの意見も含め、美術史的な観点から作品について総合的に論ずる力をみる（B４試験用紙裏面三分の二以上）。
第一問、第二問ともに、実際に用いた文献データ（著者名、書名、出版社名、発行年、及び参照ページも忘れずに）は、試験用紙に自筆のメモで添付する必要があるので控えておくこと。
なおインターネット情報の利用は、原則として評価の対象外。

【学生の意見等からの気づき】
映像機器を多用すること等から、外濠校舎教室の使用が望ましい。

【学生が準備すべき機器他】
スライドショーの際、暗くてメモが取りにくい場合は、各自ペン型ライトを持参すること。
また単眼鏡等を用意すると、画像をより鮮明に詳細まで見ることができる。

【Outline (in English)】
Art History is an academic field surrounding works of art that can be said to be mirrors of times, society, and culture. In the lecture, studying the artistic expressions of Western art from the ancient Greek to the twentieth century, considering Western art works taking various forms of expression such as architecture, sculpture, painting, crafts and so on.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅰ（秋期スクーリング）

小秋元　段、小林　ふみ子

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【テーマ】中世（院政期～戦国時代）～近世（桃山時代～江戸時代）の文学史
時代の流れにゆるやかに即して、中世・近世に展開した、芸能も含むさまざまなジャンルの特徴、その主要な作品について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のさわりを読解してゆきます。

【到達目標】
（A）古典文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。
（B）古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
中世と近世の担当者で前半と後半を分担します。
講義を基本とし、適宜授業中に発言を求めることがあります。毎回終了後にリアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：
秋学期

回	テーマ	内容
第1回	中世１	中世的世界の始まり
第2回	中世２	説話
第3回	中世３	韻文
第4回	中世４	随筆
第5回	中世５	軍記物語
第6回	中世６	お伽草子
第7回	中世７	中世文学のまとめ
第8回	近世１	近世の始まり 仮名草子
第9回	近世２	近世前期～中期・上方の小説
第10回	近世３	俳諧
第11回	近世４	漢詩・和歌・狂歌
第12回	近世５	人形浄瑠璃・歌舞伎
第13回	近世６	近世中期・江戸の小説
第14回	近世７	近世後期・江戸の小説 近世文学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容を覚えているうちに復習し、試験に備えましょう。

【テキスト（教科書）】
各回、資料を配付する。

【参考書】
作品・ジャンルごとに、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験期間に行う筆記試験（85 %）と各回のリアクションペーパー（15 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないよう内容を厳選して構成し、理解を確認しながら進めるようにしたいと思います。
文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ることは不可欠だからです。前向きに履修しましょう。

【Outline (in English)】
Learnig the history of Japanese Litrature from the medieval(late12-16th C.)to early modern(17-early19th C) times in various genres.

LIN100TC（言語学 / Linguistics 100）

日本言語学概論（秋期スクーリング）

古牧　久典

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ安定性・規則性という側面を中心に概観する。

【到達目標】
・言語学の基礎知識を習得する。
・ことばについて多角的な視点で考えることができる。
・ことばの性質に迫るための考察技法を運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進みます。コメント・意見を集約し、一部を次回の授業内で紹介することにより、理解を深め、議論の検討を行います。毎回テーマごとに講義内で扱われた用語について、定義やその具体例を考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：
秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ことばの学問
第2回	ことばの様々な側面	言語学の射程・言語学の関連分野
第3回	言語の祖先はどのようなものか？	比較言語学
第4回	言語は世界に何種類あるのか？	言語類型論
第5回	コミュニケーションとは何か？	語用論・コミュニケーション論
第6回	ことばの意味とは何か？	意味論・語彙論
第7回	品詞とは？ 文の構造とは？	統語論・文法論
第8回	単語とは何か？	形態論
第9回	言語音には何種類あるのか？	音声学
第10回	同じ発音とは？ 違う発音とは？	音韻論
第11回	文章が成立している背景とは？	テクスト言語学・談話分析
第12回	ことばでどう表現するか？	認知言語学
第13回	ことばは思考にどう影響するのか？	言語相対論
第14回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（本授業は事前の予備知識は必要としないが）各回に登場する用語・概念について、授業後、定義とその具体例が説明できるようにする。簡単な課題が出ることもあるので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる姿勢を身につける。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
黒田 龍之介 著 『はじめての言語学』（講談社現代新書）
斎藤 純男 著 『言語学入門』（三省堂）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・課題（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】
質問がある場合には、授業終了後に教室で受け付けます。

【Outline (in English)】
This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. This class provides an introduction to linguistic subfields analyzing sound pronunciation systems (phonetics and phonology), word and sentence structure (morphology and syntax, or grammar), and systems of meaning (semantics and pragmatics). At the end of the course, students are expected to understand linguistic data by using the methodology of modern linguistics.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅱ（秋期スクーリング）

岡野　幸江

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、文学概論Aにひき続き、近代文学の確立や展開とそれに伴う文学潮流などについて学びます。特に名作と評価されている文学作品を内容と文体の両面から分析し、その表現を通して作品が発するメッセージを把握し鑑賞する方法をさらに磨いていきます。作品分析や鑑賞力の向上を目指すと同時に、さらに近代文学の歴史と日本の歴史の相関についても考えていきます。

【到達目標】
作品の分析と鑑賞のさらなる向上と、文学研究の方法を学ぶことを目指します。また近代文学の歴史を日本の歴史や文化との相関で把握できることが学習の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義を中心としますが、各作品については感想などを発表してもらう場面も設けたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：
秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス―文学鑑賞から文学研究へ	様々な文学研究の方法について考えます。
第2回	新たな現実解釈とその表現Ⅰ―芥川龍之介「藪の中」の構造と秘められた謎	「藪の中」の表現と構造から作品の中の謎について考えます。
第3回	新たな現実解釈とその表現Ⅱ―芥川龍之介「藪の中の構造と秘められた謎	芥川龍之介と新技巧派、新理知主義について考えます。
第4回	新世代による新しい感覚表現Ⅰ―横光利一「頭ならびに腹」と新感覚派	「頭ならびに腹」の表現の新しさについて考えます。
第5回	新世代による新しい感覚表現Ⅱ―横光利一「頭ならびに腹」と新感覚派	新感覚派の特徴について考えます。
第6回	文壇から遠く離れてⅠ―宮沢賢治「銀河鉄道の夜」の方法	「銀河鉄道の夜」の成立過程と改稿過程を検討します。
第7回	文壇から遠く離れてⅡ―宮沢賢治「銀河鉄道の夜」の方法	「銀河鉄道の夜」の宇宙観、世界観を考えます。
第8回	プロレタリア文学の抵抗Ⅰ―平林たい子「朝鮮人」と植民地	「朝鮮人」を性・階級・民族の視点から考えます。
第9回	プロレタリア文学の抵抗Ⅱ―平林たい子「朝鮮人」と佐多稲子「キャラメル工場から」	プロレタリア文学とは何かについて考えます。
第10回	戦時下の文学Ⅰ―太宰治「散華」の抵抗と協力	「散華」の独特なレトリックから太宰と戦争について考えます。
第11回	戦時下の文学Ⅱ―太宰治「散華」の抵抗と協力	戦時下の文学の諸相について考えます。
第12回	戦時下の文学Ⅲ―日本文学報国会と戦争協力	日本文学報国会の組織や活動について考えます。
第13回	近代文学の確立と展開のまとめⅠ	時代の転換期、特に大正後期から昭和初期に出現した様々な文学動向について振り返ります。
第14回	まとめと試験	後期授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取りあげた作品について事前に読み、感想や意見を持って授業に臨むことが必要です。また、講義後には、学習したこと、疑問、質問などをリアクションペーパーに書き提出します。

【テキスト（教科書）】
『日本近代小説史』、安藤宏、中公選書、2015年、2000円＋税

【参考書】
『文芸学講義』、小田切秀雄、菁柿堂、2016年、2000円＋税

【成績評価の方法と基準】
S:100～90点、A:89～80点、B:79～70点、C:69～60点、D：59点以下
E：受験資格無、レポート・課題未提出等。
試験60％、ミニレポートの内容20％、授業参加度20％。これらの項目を総合して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な作品をたくさん読みたいという意見がきかれるので、できるだけたくさんの作品に接することができるよう心掛けたいと思います。

【その他の重要事項】
取りあげる作品については全員が必ず事前に読んで、一人一人が問題意識を持って疑問点や感想などをまとめ、主体的に授業に臨んでほしいと思います。

【Outline (in English)】
This course introduces the feature of Japan modern literature and literary trends through to read　the specific literary works to students taking this course.
At the end of this course, participants are expected to obtain basic knowledge about the establishment and deployment of Japan modern literature, understand modern history and culture of Japan as the　background of literary works, and increase appreciation ability of literary works.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講・特域（秋期スクーリング）

湯本　豪一

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の妖怪文化と漫画文化の歩みと広がり

【到達目標】
日本のユニークな文化である妖怪と漫画について、その歩みと広がりを通観し、理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
妖怪文化と漫画文化が大きな広がりをみせた江戸時代から言及して、近代における展開についてもみていきますが、できるだけ原資料を紹介し、それらを直接見たり触れたりすることによって当時の人々が妖怪や漫画とどのように接していたかも知っていただいたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：
秋学期

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要	授業内容の把握
第2回	妖怪文化について	妖怪文化の広がり
第3回	江戸時代の妖怪文化	絵巻のなかの妖怪
第4回	同上	錦絵のなかの妖怪
第5回	同上	版本のなかの妖怪
第6回	同上	多様な妖怪資料の検討
第7回	明治時代の妖怪文化	メディアのなかの妖怪
第8回	もう一つの妖怪文化	幻獣とは？
第9回	漫画文化について	漫画文化のルーツ
第10回	江戸時代の漫画	江戸時代の漫画の隆盛
第11回	同上	風刺画の登場
第12回	明治時代の漫画	メディアのなかの漫画
第13回	大正時代の漫画	漫画界の新しい流れ
第14回	昭和戦前期の漫画	戦前、戦中の漫画の動向
	授業のまとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
妖怪や漫画に関する展覧会などがあったら可能な限り見ておいてください。

【テキスト（教科書）】
とくにありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点50パーセント、授業の最後に提出するレポート50パーセントで配点します。

【学生の意見等からの気づき】
原資料を全員が時間中に余裕を持って見られるようにできるだけ配慮します。

【Outline (in English)】
History and Spreads of Japanese Yokai culture and Japanese Manga culture

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）

日本文法論（秋期スクーリング）

尾谷　昌則

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々が使用していることばには、規則を逸脱している表現が多くある。そういった「拡張・逸脱表現」を「単なる例外」として片付けるのではなく、認知言語学の観点から、文法理論の中にどう位置づけることができるのかを考える。

【到達目標】
意味や文法における様々な「拡張・逸脱表現」について、(1)そのような表現のどの部分が「拡張・逸脱」であるのかを理解することと、(2)そのような「拡張・逸脱」が生まれたプロセスや動機付けについて、認知言語学の観点から分析・説明できるようになること、の2点が到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って講義形式で進めるが、身近な言語事例をできるだけ多く挙げ、皆で会話をするようにじっくり、ゆっくり進めて行きたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：
秋学期

回	テーマ	内容
第1回	伝統文法から認知言語学まで	言語学史を概観する
第2回	認知言語学の特徴１	記号的言語観、動機付け、経験基盤主義、図地分化について
第3回	認知言語学の特賞２	スキーマやプロトタイプについて
第4回	動的用法基盤モデル	LangackerのUsage-basedモデルについて
第5回	構文文法	構文の定義とネットワークについて
第6回	類推拡張	類推に基づく拡張について
第7回	構文の分析１	構文に反映されるスキャニングについて
第8回	構文の分析２	構文に反映される語用論的意味について
第9回	構文の分析３	構文の拡張と再分析
第10回	構文の分析４	文法化と主観化について
第11回	事例研究１	論文（文法化に関するもの）を読み、批判的に検討する。
第12回	事例研究２	論文（主観化に関するもの）を読み、批判的に検討する。
第13回	事例研究３	論文（スキャニングに関するもの）を読み、批判的に検討する。
第14回	まとめ	本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
その日の講義で紹介した概念の具体例を、身近な言葉の中から探しておき、それを次回講義のリアクションペーパーに書く、という課題を与えるので、常に身の回りの「ことば」に気を配るようにしておいてほしい。

【テキスト（教科書）】
『構文ネットワークと文法』（尾谷昌則・二枝美津子著、研究社、3200円税抜）

【参考書】
参考書・参考資料等
『ことばの認知科学事典』（辻幸夫編集、大修館書店）
『新編　認知言語学キーワード事典』（辻幸夫、研究社）
『日本語学キーワード事典』（小池清治ほか編著、朝倉書店）
『日本語文法大辞典』（山口明穂・秋本守英編著、明治書院）
『日本語研究のための認知言語学』（籾山洋介著、研究社）
『認知意味論: 言語から見た人間の心』（ジョージレイコフ著、紀伊国屋書店）
『認知意味論のしくみ』（籾山洋介著、研究社）
『認知意味論の新展開―メタファーとメトニミー』（谷口一美著、研究社）
『概念化と意味の世界　認知意味論のアプローチ』（深田智・仲本康一郎著、研究社）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート　50 %　　授業内レポート　50 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生がじっくり考える時間をとったことが好評であったため、今年度もそういった時間を多めに取り入れる。リアクションペーパーに記入した回答の全てについてコメントを返すのは難しいが、面白い回答はなるべく多く紹介したい。

【Outline (in English)】
We will study how to adopt the syntactically or semantically irregular (or extended) expressions into the general linguistic system or knowledge.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

中国文芸史（秋期スクーリング）

吉井　涼子

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
親しみのある歴史上人物の話を用い、漢文（古典中国語）訓読の基礎を学習する。
先ず、当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を高める。

【到達目標】
漢文の基礎構造を学び、漢文訓読のスキルを習得する。
テキストに有名な故事成語の典拠や書物、エピソードを取り扱うことで、古代中国の歴史・文化に対する広い視野を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。毎回授業時にリアクションペーパーを提出してもらう。
各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：
秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、『史記』や司馬遷についての概要を学習する。
第2回	『史記』刺客列伝を読む（1）	『史記』の刺客列伝から荊軻の部分を精読する。
第3回	『史記』刺客列伝を読む（2）	精読することで、燕国と秦国の状況や荊軻の置かれた立場などを理解する。
第4回	『史記』刺客列伝を読む（3）	太子と荊軻の認識の差などに留意しつつ精読する。
第5回	『史記』刺客列伝を読む（4）	荊軻の暗殺計画がどのような結末を迎えたのか、その結果歴史がどうなっていったのかを理解する。
第6回	『史記』秦始皇本紀を読む（1）	本紀について解説し、歴史上欠かせない人物である秦の始皇帝とその時代について知る。
第7回	『史記』秦始皇本紀を読む（2）	始皇帝の行った歴史的事業を本紀を読むことで理解する。
第8回	『史記』項羽本紀を読む（1）	所謂「項羽と劉邦」のことを、原文から学ぶ。
第9回	『史記』項羽本紀を読む（2）	「鴻門の会」の箇所など、登場人物を整理しながら精読する。
第10回	『史記』項羽本紀を読む（3）	項羽と劉邦の関係などに重点を置きつつ、彼らの移動・転戦を地図を用いながら読み進める。
第11回	『史記』項羽本紀を読む（4）	「四面楚歌」の出典となった部分を精読する。
第12回	「報任少卿書」を読む	漢代に至るまでの多くの人間の歴史を知り尽くした司馬遷自身の死生観を学ぶ。
第13回	まとめ	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	試験	授業内で試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。

【テキスト（教科書）】
授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】
三省堂『全訳　漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。

【成績評価の方法と基準】
授業時の平常点（主にリアクションペーパー）を３０％、試験を７０％で評価を出す。
出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

【Outline (in English)】
Using a story of a person on a familiar history, learn the basics of classical Chinese reading
First, carefully read the long sentences while touching the then Chinese culture and history, and raise the fundamental power for reading Chinese sentences.

HIS300TD（史学 / History 300）

日本近世史（秋期スクーリング）

中山　学

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世後期以降の自律的な地域社会形成の動向にも目を向けながら、百姓身分から成る「近世の村」がどのように成立したのかを、現長野県域に伝わる史料をもとに学習します。

【到達目標】
・日本歴史において「地域社会」の本格的形成がいつごろ、どのように生じてきたと考えられているのか、その歴史的意義はどのように理解されているか説明することができる。
・「近世の村」の成立要因を、具体的な地域事例に則して説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者による参考書の自主学習および授業で配布する研究論文の読解作業を前提とした講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	中世社会の変容と地域社会の形成(1)	日本歴史において中世後期以降の地域社会の形成が重視される理由について考える
第2回	中世社会の変容と地域社会の形成(2)	日本歴史において中世後期以降の地域社会の形成が重視される理由について考える（続き）
第3回	中世社会の変容と地域社会の形成(3)	先行研究に学び、中世後期の村の具体像を知る
第4回	中世社会の変容と地域社会の形成(4)	先行研究に学び、中世後期の村の具体像を知る（続き）
第5回	太閤検地と兵農分離(1)	「太閤検地」とは何か、そして、その歴史的意義はどのように理解されてきたかについて学ぶ
第6回	太閤検地と兵農分離(2)	「太閤検地」とは何か、そして、その歴史的意義はどのように理解されてきたかについて学ぶ（続き）
第7回	太閤検地と兵農分離(3)	「太閤検地」とは何か、そして、その歴史的意義はどのように理解されてきたかについて学ぶ（続き）
第8回	近世の村の成立(1)	実際の史料を読むことにより、「百姓」から成る村がどのように成立したのか考える
第9回	近世の村の成立(2)	実際の史料を読むことにより、「百姓」から成る村がどのように成立したのか考える（続き）
第10回	近世の村の成立(3)	実際の史料を読むことにより、「百姓」から成る村がどのように成立したのか考える（続き）
第11回	近世の村の成立(4)	実際の史料を読むことにより、「百姓」から成る村がどのように成立したのか考える（続き）
第12回	近世の村の成立(5)	実際の史料を読むことにより、「百姓」から成る村がどのように成立したのか考える（続き）
第13回	近世の村の成立(6)	実際の史料を読むことにより、「百姓」から成る村がどのように成立したのか考える（続き）
第14回	まとめと展望	これまでの学習の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①参考書の読解と内容整理
②配布史料の読解と内容整理

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。教材（『長野県史』近世史料編の抜粋）を配布します。

【参考書】
歴史学研究会・日本史研究会共編(2004)『日本史講座５　近世の形成』東京大学出版会
川端泰幸(2007)『日本中世の地域社会と一揆－公と宗教の中世共同体－』法藏館
吉田ゆり子(2008)『（日本史リブレット）兵と農の分離』山川出版社
※授業で実際に活用する
久留島典子(2011)『（日本史リブレット）一揆の世界と法』山川出版社
水本邦彦(2015)『（シリーズ日本近世史２）村―百姓たちの近世』岩波書店

【成績評価の方法と基準】
期末リポート（100 %）
※本文2000 字以上（引用註、参照註、参考文献リストを除く）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
Think about the establishment process of the early modern village in Japan.

HIS300TD（史学 / History 300）

東洋史特講（東南アジア史）（秋期スクーリング）

山﨑　美保

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東南アジア地域は近年、さまざまな分野、特に経済的分野において、国際的に注目されている。本科目では、現代の東南アジアの国家形成や宗教に大きな影響を与える、東南アジア地域の近世史を体系的に学ぶ。

【到達目標】
この授業では、東南アジアの歴史に関する基礎的な知識を学ぶことで、当該地域に関する諸問題を論理的に理解し、自身で探求する力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	東南アジアの概要	地理、前史
第2回	上座仏教世界の形成①	北方タイ人諸王国、シャム諸王国
第3回	上座仏教世界の形成②	ポスト・パガン
第4回	ベトナム世界の形成	「交易の時代」と「ポスト交易の時代」のベトナム
第5回	カンボジア	ポスト・アンコール時代のカンボジア
第6回	シャム世界の形成	後期アユタヤ、ラタナコーシン朝
第7回	帝国ビルマの形成①	タウングー朝とニャウンヤン朝
第8回	帝国ビルマの形成②	コンバウン朝
第9回	東南アジア大陸部の植民地化	英領インド、仏領インドシナの形成、シャム王国
第10回	ムラユ世界の形成	島嶼部の「交易の時代」とイスラームの受容
第11回	港市国家の変容	オランダとスペインの東南アジア海域への参入
第12回	近世国家の展開	マタラム王国とオランダ
第13回	東南アジア島嶼部の植民地化	海峡植民地の形成、ジャワ戦争
第14回	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書を読み、基本的な事実を把握する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。通教テキスト『東洋史特講（南海史）』第1版、河原正博、1978年は基本的に使用しません。

【参考書】
石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999年、山川出版社
池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999年、山川出版社
石井米雄他編『岩波講座東南アジア史3 東南アジア近世の成立』2001年、岩波書店
桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史4 東南アジア近世国家群の展開』2001年、岩波書店
斎藤照子他編『岩波講座東南アジア史5 東南アジア世界の再編』2001年、岩波書店

【成績評価の方法と基準】
期末試験

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This class is aim to understand the early modern history and culture of Southeast Asia.

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（東洋）（秋期スクーリング）

兼平　充明

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
北宋の司馬光によって編纂された歴史書『資治通鑑』を講読することにより、漢文史料の読解能力を養い、あわせて中国古代史についての基本的な知識を身に付ける。

【到達目標】
『資治通鑑』は、戦国時代から五代に至るまでの中国の歴史を編年体で記した通史であり、『漢書』や『三国志』等の正史とともに中国古代史を研究する上で、必読の史料である。この演習ではこの『資治通鑑』をテキストとして講読を行い、①訓読(書下し)という日本独自の漢文の読み方に習熟する。②漢文史料の読解の際に必要とされる工具書についての知識を得て使いこなせるようになる。③教員による解説を通じて史料の扱う時代について理解を深める。という三点を目標とする。以上の目標の達成度については学期末の筆記試験によって評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回担当者に訓読(書下し)と現代語訳という形で報告をしてもらい、その後、全員でその部分について議論するという形で進めていく。また要所において当該時代の政治・制度・社会の状況について関連する研究や文献・出土史料等を紹介することにより、より一層深いテキストの理解をめざしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方および『資治通鑑』についての説明。
第2回	『資治通鑑』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第3回	『資治通鑑』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第4回	『資治通鑑』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第5回	『資治通鑑』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第6回	『資治通鑑』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第7回	『資治通鑑』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第8回	『資治通鑑』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第9回	『資治通鑑』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第10回	『資治通鑑』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第11回	『資治通鑑』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第12回	『資治通鑑』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第13回	『資治通鑑』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回必ずテキストの前回読んだ箇所を復習し、今回読む箇所を予習してくる。予習をする際には史料内に出てくる人名・地名等についてもできる限り調べてくる。できれば正史等他の史料との対象といった作業もやってくることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(４０%)、筆記試験(６０%)

【学生の意見等からの気づき】
質問を歓迎します。

【Outline (in English)】
The Zizhi Tongjian 資治通鑑 is one of the most important traditional histori
es of China.　Through study of Zizhi Tongjian we acquire nowledge of ancient China and technique to read Classical Chinese Literature.

HIS200TD（史学 / History 200）

西洋史概説（秋期スクーリング）

竹下　和亮

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋は世界の様々な地域の一つであるに過ぎないが、同時に、いま私たちが生きる世界の形成にあたって極めて大きな役割を果たしてきた。本講義ではその両面をみすえた上で、とくに中世以降の西洋の歴史の流れ、基本的な歴史用語を解説する。

【到達目標】
中世以降の西洋の歴史に関する基礎的な知識を習得し、他の地域の歴史と比較したときの独自の特徴と、その後の世界史の形成に果たした役割を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ヨーロッパの概要と時代区分
第2回	西洋中世の形成（1）	ゲルマン諸国家の成立
第3回	西洋中世の形成（2）	フランス、ドイツ、イタリア、その他のヨーロッパ地域の成立
第4回	西洋中世の社会（1）	封建制と領主制
第5回	西洋中世の社会（2）	都市と農村
第6回	西洋中世の社会（3）	カトリック教会と教皇権
第7回	西洋世界の展開	英仏百年戦争
第8回	大航海時代	世界の拡大とアメリカの表象
第9回	近代思想の萌芽	マキアヴェッリと国家理性
第10回	宗教改革	ルターとカルヴァン
第11回	アンシアン・レジーム	絶対王政と社団的編成
第12回	フランス革命	フランス革命の構造と展開
第13回	フランス革命	フランス革命の今日的意義
第14回	まとめ	ヨーロッパと世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献が配布されたときは、事前に読んでおいてください

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）
試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】
新規担当授業のため特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Europe is only a part of the world just like any other regions on the earth; however, we can't deny its considerable contributions to the formation of the present world. By focusing on these aspects of Europe, this course will lecture on the general flow of its history, from the Medieval Age onwards, and the basic terminology for the historical research.

CUM200TD（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200）

歴史資料学（日本近代）（秋期スクーリング）

岩壁　義光

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史資料とは、文字で書かれた史料のほか、絵画・写真・金石文・音声などを包含する概念となっている。本講義では、歴史資料とは何かを学び、あわせて資料の構造や伝来、活用について学ぶ。

【到達目標】
多様な資料を読み解く基礎的な知識を習得し、各種資料から各自の研究テーマに則した歴史資料を探し出し、その理解と活用の方法を学ぶ。また、歴史資料の一つである近代文書の読解方法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で進める。毎講義ごとに典型的な歴史資料の原本複写資料などを事前配布し、これを用いて進める。受講生は予習が必須である。
また、講義中はしばしば受講生に意見をもとめるので、積極的に発言して戴きたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	歴史資料について概観し、各授業について概要を紹介する。また、予習などの受講事前準備について説明する。
第2回	くずし字で書かれた近代文書の解読の方法	近代文書の読み方・読解方法を、具体的に日米和親条約の原本から学ぶ。
第3回	幕末期1(原本の魅力)	「別段風説書」のペリー来航情報を原文で読むことを試み、原史料を読む意味について学ぶ。
第4回	幕末期2（幕末の意見書）	幕府の外国研究機関であった蕃書調所の設立をめぐる構想を、川路聖謨文書のなかの古賀謹一郎関係史料を読む。
第5回	幕末期3 (文字史料と横浜浮世絵)	開港場横浜の建設を活字資料と横浜浮世絵をつき合わせながら開港当時の横浜を考える。
第6回	幕末期4（書翰）	坂本龍馬の木戸孝允宛書翰を読み、書翰の基礎的知識を学び、寺田屋事件を考える。
第7回	明治1 (日記)	和宮の日記原本を読み、日記の読み解き方を学び、日記から和宮の歴史的役割を考える。
第8回	明治期2　(金石文)	上野寛永寺に上野戦争の記念碑の金石文を読み解く。
第9回	明治期3（写真）	内田九一の撮影した明治5年地方巡幸写真から巡幸を考える。画像から何を読み解くか受講者参加型で行う。
第10回	明治期4（歴史絵画）	明治神宮外苑にある聖徳記念絵画館の壁画作成過程を通じて、歴史絵画とは何かを考える。
第11回	大正期（書翰）	寺内正毅宛乃木希典の遺書から書翰に盛り込まれた諸情報を読み解く。
第12回	昭和期（歴史編纂物）	昭和8年に完成した『明治天皇紀』を通じて、日本天皇実録の特徴を考える
第13回	公文書	近代日本の公文書（歴史的公文書）の成り立ちと現代
第14回	歴史資料のまとめ	受講成果と達成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で用いる資料は事前に配布するので、必ず自己予習し、事前に読解を試み、語意の分からない部分は調べて授業に臨むこと。毎回受講後の復習を行わないと文書読解の効果は現れにくいので、予習とあわせて復習は必須である。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは用いず、各講義前にテキストとなる実物の写真資料などを配布する。配布したテキストの翻刻文などは基本的に講義後に配付する。なお資料の再配付は基本的に行わないので、欠席しないように心掛けること。

【参考書】
岩壁義光・小林和幸・広瀬順皓編『史料で透視する近代日本』（ゆまに書房）、児玉幸多編『くずし字解読辞典　普及版』（東京堂出版）、児玉幸多編『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版）。辞典の使用方法などは、第2回目の講義で具体的に説明する。
また、テーマ毎に必要に応じて関係論文・参考図書などは必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価は、講義内の配付資料をもとにした試験で行う。試験には、漢和辞典のみ持ち込みを可とする。なお、出席は毎授業とる。出席日数が少ないと受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
板書は丁寧に行うことを心掛ける。

【Outline (in English)】
When we study history, we usually use the historical record written to paper.
There are various forms in historical record, and contents also change with forms.
But HIstorical documents is not only historica records. They are the concepts containing pictures, a photograph, an inscription on a stone monument, a sound, etc. At this lecture, you study the basic knowledge of cursive style, understand the characteristic of various historical documents and look for a way to leverage.

GEO400TE（地理学 / Geography 400）

自然地理学演習（秋期スクーリング）

中山　秀晃

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理関連の地理情報を扱った主題図作成と分析

【到達目標】
受講者が各自のテーマに沿った主題図をGIS を使用して作成できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
めざましく進化するＧＩＳ及びデジタル地図の技術を仕事や研究にどのように活用するか。実際にコンピュータを操作しながら基本を理解し技術を習得する。講義前半は簡単な統計量を手作業で分析し主題図作成の基礎を学ぶ。後半は市ヶ谷情報センターにて「Excel」、「MANDARA」、「カシミール 3D」、「QGIS」等のソフトを活用し情報の分析と作図演習を行う。最終的には受講者が各自のテーマに沿った主題図を作成できるようにしたい。演習科目のため課題の提出を求める。受講には継続する意欲とある程度のＰＣ操作への慣れが必要となる。なお、本講座では自然地理関連（特に気候と地形)のデータをより多く扱う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	主題図とは何か	テーマ、講義内容・計画の確認、アンケート、読図の基礎基本
第2回	手作業で基礎を学ぶ	手作業による主題図作成
第3回	地形の表現①	演習①地形図からの作図
第4回	地理統計を使ったデー タの処理と地図表現	PC を活用した情報処理と主 題図の作成 演習②ＧＩＳソフトをつかって主題図を作る (MANDARA)
第5回	地形の表現②	演習③地形図からの作図２（カシミール３ D）
第6回	地形の表現③	ＤＥＭ（ＳＲＴＭ，基盤地図情報）を使用しての作図
第7回	数値地図の取り込み	データの扱い方と分析の基礎（国土数値情報から）
第8回	気候気象データ利用①	データの扱い方と分析の基礎２（アドレスマッチングと観測地点の取り込み）
第9回	気候気象データ利用②	データの扱い方と分析の基礎３（アメダスデータを使った主題図作成，演習④）
第10回	気候気象データ利用③	データの扱い方と分析の基礎４（WebGIS との連携）
第11回	自由課題作成①	自然地理関連のデータ収集と加工（自由課題，演習⑤），授業アン ケートの実施
第12	自由課題作成②	ベースマップの作成と発表準備（自由課題，演習⑤）
第13回	自由課題発表	受講者による自由課題発表と意見交換
第14回	定期考査	論述筆記による試験および演習⑤の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容の復習、演習①～⑤の作成と考察

【テキスト（教科書）】
なし（授業用プリントを使用する）

【参考書】
「ﾌﾘｰGISｿﾌﾄＭＡＮＤＡＲＡ10パーフェクトマスター」谷謙二　著，古今書院,￥3,800＋税別
「ﾌﾘｰGISｿﾌﾄＭＡＮＤＡＲＡパーフェクトマスター」谷謙二　著，古今書院，￥3,700＋税別
「改訂新版カシミール３ D 入門編」杉本智彦　著，実業之日本社，￥2,400＋税別
「二訂版　QGISの基本と防災活用」橋本雄一　編, 古今書院, ￥3,000＋税別
「地理情報科学 GIS スタンダード」浅見泰司・矢野桂司・他編，古今書院，￥3,000＋税別

【成績評価の方法と基準】
演習①～⑤の作図結果と考察内容（50％），定期試験の結果（40%），平常点（10%），演習の提出については，丁寧に作図をし，考察をしっかりと行うこと。定期試験は論述筆記で実施する。

【学生の意見等からの気づき】
ＧＩＳ関係の基礎は別講座にてある程度習得済みの学生が多くなってきたので，本講座では，自然地理関連のデータ（特に気候分野）を中心に扱うようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
４回目よりボアソナードタワー情報実習室C教室を利用する予定。

【その他の重要事項】
必要に応じて，データ保存用に USB メモリなどを準備すること。

【Outline (in English)】
Creating and analyzing a thematic map dealing with geographical information of physical geography

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

写真・読図演習（2）（秋期スクーリング）

沼尻　治樹

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地形図をはじめとした地図は，現実世界を平面上に再構成した仮想世界といえる。この仮想世界を読み取ることは，その場にいなくても現地の地理情報を知ることができる有益な情報源になる。地形図だけでなく空中写真や衛星データの利用についても基礎的な判読方法を実習を通して学習する。

【到達目標】
地理情報を空間的に記録した地図やリモートセンシングデータを通して，地理情報を判読し理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義によって演習に必要な知識を学習し，それをふまえて具体的な演習を行う。また簡単なリアクションペーパー使って質疑も受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容説明
第2回	地形図の読み方（1）	地球の表現方法
第3回	地形図の読み方（2）	投影法と縮尺
第4回	地形図の判読（1）	等高線の読み方 尾根線と谷線
第5回	地形図の判読（2）	標高断面図の作成
第6回	地形図の判読（3）	距離の測定 面積の測定
第7回	空中写真の読み方（1）	空中写真の概要
第8回	空中写真の読み方（2）	航空写真判読
第9回	メッシュ図の作成（1）	ブロックダイアグラムの作成
第10回	メッシュ図の作成（2）	ブロックダイアグラムの解析
第11回	リモートセンシング（1）	GISアプリケーションの基本操作
第12回	リモートセンシング（2）	幾何補正 ジオリファレンス
第13回	リモートセンシング（3）	衛星画像のデータ処理 1
第14回	リモートセンシング（4）	衛星画像の判読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では適宜コンピュータ（PC)を利用する。WindowsによるPCの操作方法は解説しないので，受講学生は基礎的な操作ができるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】
資料を適宜配布する。

【参考書】
地形図を読む技術＜新装版＞：山岡光治，SBクリエイティブ
CAD/CG/GISユーザーのための航空・衛星写真画像ハンドブック：津留宏介ほか，古今書院
QGIS入門【第2版】：今木洋大ほか，古今書院

【成績評価の方法と基準】
出席点（50％），授業内課題（20％），最終レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】
最新の地図・測量に関する話題提供を適宜行い，授業と実社会が乖離しないよう勤める。

【学生が準備すべき機器他】
PCを用いた実習を行うのでUSBメモリ等の外部記録装置を用意すること。

【その他の重要事項】
授業の半分はPCを使った実習になることから，Windowsの操作は前もって習熟しておいて欲しい。
授業で用いる資料は事前に配布していくので，あらかじめ予習することも望まれる。

【Outline (in English)】
The purpose of this lesson is to learn how to read geographical information from maps and aerial photographs. A map is a virtual world which reconstructed the real world. We practice reading with a paper map and data processing using a computer.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

財政学Ｂ／Ⅱ（秋期スクーリング）

島澤　諭

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本財政は現在、（１）少子化、高齢化の進展への対応、（２）財政健全化への対応、（３）世代間格差是正、といった多くの課題を抱えています。
本講義では、政府の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、市場主義経済における政府の役割などについて学習します。

【到達目標】
市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政が直面している問題をデータ等により客観的に把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1, DP3, DP4」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
主に、配布資料に基づいて講義形式で授業を進めます。最新の経済・財政情勢を踏まえながら、わが国財政が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	財政学とは何か 政府の４つの機能
第2回	政府の経済活動その１	日本財政の規模 国民負担率
第3回	政府の経済活動その２	小さな政府と大きな政府 福祉レジーム論
第4回	租税理論その１	租税原則、租税の公平性
第5回	租税理論その２	消費税、所得税、税の帰着
第6回	財政政策の効果その１	国民所得決定の理論
第7回	財政政策の効果その２	乗数効果
第8回	所得再分配政策	日本の所得再分配の実態
第9回	財政の持続可能性その１	基礎的財政収支、構造的財政収支、循環的財政収支、財政健全化目標
第10回	財政の持続可能性その２	ドーマー条件、異時点間の政府の予算制約
第11回	公債の負担	新正統派、ＩＳバランス論、国債価格と金利
第12回	国民と投票	中位投票者定理、投票のパラドクス
第13回	世代間不平等の政治経済学その１	世代会計とシルバー民主主義、全世代型社会保障
第14回	世代間不平等の政治経済学その２	国民代表、委任代表、小選挙区制、７条解散、シルバー民主主義のパラドクス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の経済ニュースをTVや新聞を通じて吸収するよう心がけてください。授業内容の理解を確実にするために必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。レジュメを配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
（１）井堀利宏『財政学（第４版）』新世社
（２）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
（３）上村敏之『コンパクト財政学（第２版）』新世社
（４）島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
期末試験100％
経済モデルを用いて、日本財政を分析し、自分なりの処方箋を提示できる

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい講義にします。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will learn about the role of the government in the market-oriented economy after taking into consideration the basic theory on the economic activities of the government.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（秋期スクーリング）

三浦　道行

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
農奴解放からスターリンによるコルホーズの強行創設あたりまでのロシア・ソヴェトの歴史を、ボルシェビキ史観を排し、近代化という視点から講義する。ロシア・ソヴェト史の邦語文献（概説書にせよ研究書にせよ）の少なからぬ部分には、ボルシェビキ史観の影響が認められるのであって、その点、極めて遺憾である。本講により、受講生諸君は、従来の日本ではあまり知られていなかった諸史実を知ることになるであろう。そして、それにより、諸君の頭の中に、新たなロシア・ソヴェト像が作られ、またそれとの比較で、より深い明治維新像が作られることを期待する。

【到達目標】
法治主義・立憲主義の大切さを改めて認識する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	19世紀のロシア社会	都会の貴族・農村の農奴・耕地共同体（ミール）・商業の未発達
第2回	農奴解放とその問題点	私的土地所有・分与地の共同体への高値売りつけ・切取り地の貸し出し・オトラボトキ
第3回	ナロードニキ	農奴解放後の農民の苦渋と農民支援運動
第4回	日露戦争と第1次革命	10月宣言・自由化と反動
第5回	憲法の国家基本法への格下げ	黒百人組・懲罰隊・国家基本法
第6回	ストリーピンの改革	ミール解体方針とその挫折
第7回	第1次大戦と専制の孤立	ラスプーチン・進歩ブロック・ゼムストボ連合・都市連合・戦時産業委員会
第8回	1917年、2月革命	立憲派と街頭闘争派。臨時政府とソヴェート
第9回	1917年10月「革命」	合法政府の転覆
第10回	制憲議会	選挙戦の敗北と議会の暴力的解散
第11回	内戦	戦時共産主義下の食糧調達極東情勢と極東共和国
第12回	クロンシュタット反乱	「ボリシェビキのいないソヴェートを」
第13回	新経済政策（ネップ）	商品経済の復活工業化論争
第14回	スターリンの左旋回	農業集団化と「クラーク（富農）の階級的絶滅」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ソ連共産党寄りでない本を探して1冊くらい読んでみよう

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使わない

【参考書】
河出書房　世界の歴史22　松田道雄　ロシアの革命

【成績評価の方法と基準】
レポート

【学生の意見等からの気づき】
特にない。

【Outline (in English)】
We will learn the history of Russia · Soviet from the liberation of serfs to establishment of Kolkhoz from a viewpoint, different from conventional Bolshevik one. Students will know the historical facts that are not familiar in Japan, such as the Mir Community, Zemstovo Union, Zemgor, Progress Blocks etc .

MAN300TG（経営学 / Management 300）

監査論Ⅱ（秋期スクーリング）

市川　佳功

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財務諸表監査を受けている企業の粉飾事例がしばしば報道されています。現代の財務諸表監査は企業の粉飾を見逃してしまうリスクと常に背中合わせといえます。そこで、財務諸表監査ではリスク概念を制度的に導入し、リスクに注意を払いながら監査をすることが要求されています。これを監査リスク・アプローチといいます。そして、監査が終了した後は、最終結論として財務諸表が適正か否かについて監査意見を表明します。これを監査報告といいます。監査報告の内容は財務諸表の適正性レベルによって異なってきます。
「監査論Ⅱ」では、監査リスク・アプローチを理解したうえで、異なる監査報告の内容について学習して行きます。

【到達目標】
リスクに注意を払いながら監査をするといういわば当然の事柄が、現代の財務諸表監査においてどのように制度的に盛り込まれているかを理解するとともに、監査を実施した結果に対応してどのような監査報告をすべきかを適切に判断するために必要な基礎知識を身につけることを到達目標とします。
期末の定期試験では基礎概念および事例問題についてしっかりと論じられるか否かを判断することによって目標到達度を確認します。なお、試験で簿記や会計に関する問題を出題することはありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
〔概要〕
具体的な履修制限は設けませんが、財務諸表監査がテーマであるため、財務諸表についての基礎的な理解があることを前提として講義を進めます。授業に受けるにあたっては初歩的な簿記の知識があることが望ましいと思います。
授業は、テキストによりつつ、監査に馴染みの薄い学生の興味を喚起するため可能な限り事例を盛り込みながら授業を行います。とくに、監査報告のテーマにおいては多くの監査報告書事例を取り扱って行きます。
〔授業方法〕
テキストに基づいて授業を進めますが、必要に応じて授業内で資料を配布します。可能であれば授業内で学生と質疑応答をする時間を設けたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	粉飾を見逃した事例紹介	粉飾とは何か。実際に生じた事例を紹介する
第2回	監査とリスク概念	現代財務諸表監査の基本であるリスク・アプローチの理解に必要な各リスク概念を説明する
第3回	リスク・モデルと重要性	各リスク概念を前提とした監査リスクをモデル化して説明する
第4回	企業環境の理解と監査計画	リスク・アプローチのスタートとしての企業環境の理解と監査計画との関係
第5回	固有リスクと統制リスク各論	固有リスクと統制リスクを具体的に理解する
第6回	重要な虚偽表示リスクの評価方法	重要な虚偽表示リスクの評価手続とどのように評価するのかを理解する
第7回	監査報告書	監査報告の意味と監査報告書の構成
第8回	監査意見と意見不表明	監査意見を表明しないこととなる原因は何か
第9回	不適正意見	不適正意見表明の原因は何か
第10回	追記情報	監査意見と追記情報の違い
第11回	後発事象	後発事象の監査上の取扱い
第12回	継続企業の前提	企業の継続性に関する監査上の対応方法
第13回	内部統制報告書に対する監査	内部統制報告書に対する監査制度の概要
第14回	財務諸表監査と内部統制報告書監査	両監査における監査意見の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
監査論で学習する概念には抽象的なものが多く存在します。理解しにくい場合には、テキスト以外の書籍等も参考にして自らの理解を補強していく必要があります。

【テキスト（教科書）】
伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏『ベーシック監査論　七訂版』（平成27年10月30日）同文舘出版3,800円＋税
なお、監査論Ⅱの講義の第1回目の講義開始までに最新版が出版された場合には最新版を購入してください。ただし、既に『ベーシック監査論　七訂版』を購入している場合には『ベーシック監査論　七訂版』の使用も可とします。

【参考書】
盛田良久・蟹江章・長吉眞一【編著】『監査論スタンダードテキスト（第4版）』(2016年10月) 中央経済社4,968円（税込）
山浦久司【著】『監査論テキス

【成績評価の方法と基準】
通常の期末定期試験を実施し、成績評価は期末定期試験の結果のみで判定します。

【学生の意見等からの気づき】
事例紹介が好評と思われるので今年度も実施したいと思います。

【Outline (in English)】
In this lecture we will learn about the audit risk approach and audit reports in various cases.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講[商社活動とCSR Ⅱ（事業活動と環境・CSRリスク）](秋期スクーリング)

小林　一夫

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
商社活動とCSR Ⅱ　（事業活動と環境・CSRリスク）
企業の社会的責任（CSR）に機軸をおく健全なビジョンに基づく事業活動を行うことが、今日の企業の経営には必須です。外部性の問題と広くはとらえられる環境問題ですが、甚大な影響を与えうる環境事故の発生を想起するまでもなく、グローバルでの企業活動において環境リスクに起因するマイナスの影響をできる限り回避し、顕在化することが、責任ある企業経営には欠かせません。事業活動と環境・CSRリスクについて、総合商社における具体的事例等から基本的見方とあるべき問題意識について学習します。

【到達目標】
総合商社の企業活動における環境・CSRリスクについて、具体的事例等を学ぶことで基本的な知識を整理し、概要を理解できるようにします。そして、社会的責任を基軸にした企業経営についての考え方の基本を理解し深められるようにしていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに加えて、Power Pointやレジメを使い講義形式で進めます。レジメ・資料はプリント配布します。双方向のコミュニケーションを図り基本的理解を深めるため、その日の授業の内容について短い感想や質問の提出を求めることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	事業活動と環境・CSRリスク	講義内容のガイダンス
第2回	企業の社会的責任(CSR)	企業の社会的責任（CSR）概念及び変遷を理解するように努めます
第3回	社会的責任の観点から企業経営入門	企業経営とは、についての基本的知識を得ます
第4回	「環境問題」「環境とは」、及び「リスクとは」何か	公害問題を含め環境問題の歴史から環境リスクをレビューし、環境・リスク・環境リスク・CSRリスクについて基本的知識を得、整理します
第5回	事業活動と環境リスク　その①	総合商社の現場とリスク認識、外部性について
第6回	事業活動と環境リスク　その②	総合商社のグローバル関係会社と総合商社の事業展開事例から、リスク認識と対応の基本を学びます
第7回	環境影響評価、及び環境政策	環境リスクの把握と整理
第8回	環境マネジメントシステムの戦略的活用　その①	ISO14001環マネジメントシステム規格について 大規模な企業と中小規模の企業のあるべき環境マネジメントシステム
第9回	環境マネジメントシステムの戦略的活用　その②	総合商社における環境マネジメントシステムの活用、及び事業推進と環境対応・遵守体制の構築について
第10回	環境リスク、外部ステーク・ボルダーに対する開示	サステナビリティ・レポート(三井物産）等を参考にし、「開示・説明責任」について基本を理解できるようにします
第11回	資源循環	「有限な地球」 廃棄物の低減と3R(スリーアール)
第12回	気候変動問題への対応とエネルギー問題	温暖化問題と、日々の生活及び産業活動を支えるエネルギー問題について
第13回	生物多様性と生態系の保全	環境リスクの観点から生物多様性について
第14回	商社活動とCSR Ⅱ 事業活動と環境・CSR リスク［まとめ］	環境・CSRリスクとグローバル企業活動に関し、講義全般をまとめ、理解を深められるようにします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第二版「商社活動と企業の社会的責任」(図書文化社刊、小林一夫著）の「まえがき」、序章、第3章、第6章、第7章、第10章を授業計画に沿い事前に準備学習として読むことを推奨します。理解し難い箇所については、疑問点を整理し授業に臨むようにして下さい。
日経新聞等を丹念に読み、経済社会情勢をできる限り幅広く把握することを推奨します。

【テキスト（教科書）】
第二版「商社活動と企業の社会的責任」(儲けるだけでは破滅につながる）[図書文化社刊、小林一夫著、2019年4月1日付 第2版、1,600円+税]

【参考書】
環境学　21世紀の教養「京都大学で環境学を考える研究者たち」編　朝倉書店、
失敗学のすすめ　畑村洋太郎、講談社
テキスト経営学[第3版] 井原久光、ミネルヴァ書房
その他必要に応じて、講義時に適宜指示します

【成績評価の方法と基準】
期末試験:　70%
平常点:　30%
授業の内容について短い感想の提出をもとめることがあります。その際、積極的な意見や質問がなされ授業に活かせたときは加点対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの関連個所を授業の進捗に合わせ示すことで、関連知識の整理により役立てるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてスクリーン・DVDを使い講義を進めます。

【その他の重要事項】
[商社活動とCSR Ⅱ（事業活動と環境・CSR リスク）](秋期スクーリング）から受講する方は、第二版「商社活動と企業の社会的責任」（図書文化社、2019年3月刊）の第1章、第2章に目を通しておくことを推奨します。
関連の深いコース:経営学特講「商社活動とCSR Ⅰ（春期スクーリング）」

【Outline (in English)】
General Trading Firm (Sogo-Shosha) Business and CSR Ⅱ (Due attention to environmental risk, as well as to CSR risk)
Management based on a sound vision of CSR (Corporate Social Responsibility) is indispensable for every business. We learn management organization theory of Sogo-Shosha as a representative example of a Japanese company. When considering externality issues, one of the top priorities to be addressed is environment-related. In addition, we will learn "risk management" to avoid possible environmental problems and big CSR issues. For sound corporate management, we will learn to acquire a basic perspective to mitigate risk.

MAN200TF（経営学 / Management 200）

簿記Ⅳ（秋期スクーリング）

市川　佳功

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日商簿記検定1級レベルの商業簿記を学習対象とします。日商簿記検定1級では商業簿記と会計学、工業簿記と原価計算の知識が要求されますが、簿記Ⅳでは商業簿記のみを学習します。ただし、テーマを理論的に理解することも含みます。

【到達目標】
日商簿記検定1級の商業簿記の出題テーマは広範にわたっています。授業でこれらの全てのテーマを取り扱うことはできません。そこで、1級の中でも上場会社に適用されている特に重要であると思われる会計処理に関するテーマを選択して学習していきます。日商1級に合格するというより、実務会でよく耳にする高度な会計制度の意味が理解できるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2, DP3」「商業学科：経営学・商学, 会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
〔概要〕
具体的な履修制限は設けませんが、簿記のなかでも難しいとされる内容を取り扱っていくので、日商簿記検定2級程度の能力が学生に備わっていることを前提として講義を進めていきます（具体的に日商簿記検定2級に合格している必要はありません）。期末の定期試験では授業で取り扱ったテーマについての理論問題と計算問題を出題し、学生の目標到達度を確認します。
〔授業方法〕
テキストに基づき、選択したテーマについて授業を進めていきます。電卓を用意してください（定期試験では必須のアイテムです）。問題を解く練習は学生が各自で問題集などを利用して補強する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	有価証券	有価証券の保有目的と期末の会計処理
第2回	有価証券	有価証券の減損処理と修正受渡基準
第3回	デリバティブ取引	デリバティブ取引と会計処理の基本 先物取引の会計処理
第4回	デリバティブ取引	スワップ取引の会計処理
第5回	ヘッジ会計	ヘッジ取引とは何か
第6回	ヘッジ会計	繰延ヘッジと時価ヘッジの会計処理
第7回	外貨建取引	ドル単位で取引が行われた場合の会計処理
第8回	外貨建取引	外貨建資産負債の期末換算
第9回	固定資産（圧縮記帳）	圧縮記帳の制度趣旨と会計処理
第10回	固定資産（減損処理）	固定資産の減損処理の意味と会計処理
第11回	税効果会計（総論1）	税法上の税金計算方法の概要
第12回	税効果会計（総論2）	税効果会計の意味
第13回	税効果会計（各論）	具体的な税効果会計の会計処理
第14回	純資産会計	純資産の部の表示 株主資本等変動計算書 自己株式の会計処理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
簿記ができるようになるには問題を解くことが必要不可欠です。市販されている日商1級レベルの問題集をたくさん解いてください。

【テキスト（教科書）】
神谷健司　市川佳功『簿記Ⅳ』法政大学通信教育部

【参考書】
日商簿記検定１級（商業簿記・会計学）の学習テキスト（各社が出版しています）
日商簿記検定試験1級の問題集（各社が出版しています）

【成績評価の方法と基準】
通常の期末定期試験を実施し、成績評価は期末定期試験の結果のみで判定します。期末の定期試験では授業で取り扱ったテーマについての計算問題を出題します（電卓の準備が必要です）。

【学生の意見等からの気づき】
見やすい板書を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】
In this lecture, I will learn about major themes that seem to be important among contents of Nissho bookkeeping certificate 1 grade.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅱ（秋期スクーリング）

松本　潔

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営管理論Ⅱにおいては、春期の学説・理論の歴史的な流れを踏まえ、それ以降の理論の理解促進を目的とする。具体的には「近代的組織論」C．I．バーナード、H．A．サイモンなどの意思決定論を取り上げ解説し、続いて組織と環境との適応行動を解く、T．バーンズらの「コンティンジェンシー理論」を考察していく。また、その後の新たな理論として、E．H．シェインなどの「組織文化論」、J．G．マーチらの「意思決定のあいまい理論」、K．E．ワイクの組織認識論などにも論及していく。

【到達目標】
・経営管理の近代的理論および新たな理論・学説の意義を理解することができる。
・経営管理の理論と実際の企業活動についての関連性を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心とするが、企業などの経営管理活動の実際を、理論的な関連性を踏まえ映像資料などを活用して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方および春期スクーリング「経営管理論Ⅰ」の振り返り
第2回	近代的管理論Ⅰ	組織協働の近代的理論Ⅰ（C．I．バーナード）
第3回	近代的管理論Ⅰ＆Ⅱ	組織協働の近代的理論Ⅱ（C．I．バーナード）および組織の意思決定理論Ⅰ（H．A．サイモン）
第4回	近代的管理論Ⅱ	組織の意思決定理論Ⅰ（H．A．サイモン）
第5回	近代的管理論Ⅲ	組織の経営戦略理論（J．G．マーチ＆H．A．サイモンおよびH．I．アンゾフ）
第6回	コンティンジェンシー理論Ⅰ	リーダーシップの条件適合理論（F．E．フィードラーのおよびP．ハーシー＆K．H．ブランチャード）
第7回	コンティンジェンシー理論Ⅱ	組織構造の条件適合理論（T．バーンズ＆G．M．ストーカーおよびJ．ウッドワード）
第8回	コンティンジェンシー理論Ⅲ	組織業績およびコンフリクト解決方法の条件適合理論（P．R．ローレンス&J．W．ローシュ）
第9回	組織文化論Ⅰ	シンボリック・マネジャーによる組織文化形成（T．ディール＆A．ケネディ）
第10回	組織文化論Ⅱ	超優良企業の価値観共有による組織文化（T．J．ピーターズ&R．I．ウォータマン）
第11回	組織文化論Ⅲ	組織変革の視点からの組織文化（E．H．シャイン）
第12回	新たな経営管理の理論Ⅰ	意思決定のあいまい理論（J．G．マーチ＆オルセン）
第13回	新たな経営管理の理論Ⅱ	組織の進化と組織認識論（K．E．ワイク）
第14回	新たな経営管理の理論Ⅲ＆経営管理論Ⅱ総括	・知識マネジメント論の台頭（野中郁次郎、他） ・これまで学習してきた経営管理の諸理論の振り返りおよび今後の理論的な展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求される。また、事前に各授業スケジュールにおけるテーマについて下調べをしておくと理解が促進される。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を使用・配布します

【参考書】
適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】
定期試験（７０％）、および平常点（３０％）の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
できる限り実際の企業事例を経営管理の理論や学説との関係性を踏まえ、その理解をいかにして深めることができるかに改善の努力を傾けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
It's based on a historical flow of the theory taken up in the first term at this session, and I have for my object to deepen understanding of theory after that.　Theory of the "contingency theory" etc.　which solves a decision theory in "modern organization theory" and adaptive behavior with the organization and the environment is being considered specifically.　I'm also referring to "organizational culture theory", "ambiguous theory of a decision making" and "organization recognizing theory" etc. as the new theory which will be after that later.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

演習[消費文化論]（秋期スクーリング）

松本　潔

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、テーマを「消費文化」に焦点を当て、私たちの消費行動とその行動に影響を与える企業の生産・販売活動との関係を考察していく。特に、共通の価値観や嗜好を伴い流行していく「消費の大衆文化と高級文化」の現象を、私たちの消費行動を「衣」、「食」、「住」、「遊（余暇）」などの領域に分けて、講義と演習活動を通じてそこに潜む意味を読み解くことを目的とする。なお、演習活動は、グループで行うことを前提としており、積極的にメンバー間での意見交換やグループの成果発表を行うことができる受講者の参加を希望する。

【到達目標】
・現代社会における様々な消費現象の意味を理解することができ、またその意味解釈の方法や手法を習得することができる。
・我々の身近な生活様式（衣・食・住・遊）を考察することができる。
・生活様式と自己のライフスタイルとのかかわりを探り、これからの消費生活に対して新たな発見ができるような感性を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
グループでの演習授業を中心とするが、消費文化現象の解読を促進するため、講義と映像資料の活用などを交えながら進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要、進め方などについて、また「消費文化」の意味・位置づけについて、簡単に解説を行う。
第2回	消費文化概論Ⅰ 1「文化記号論概説」	現代社会における消費現象を解説するツールとしての文化記号論を概説する。
第3回	消費文化概論Ⅰ 2「コンセプト・メーキングの手法」	企業の事例を通じて、コンセプト・メーキングの手法と重要性について学習する。
第4回	消費文化各論Ⅱ 1- 1「遊（余暇）の生活様式の現状と動向」	余暇関連市場の現状と方向性、および我々の余暇に対する価値観の変化を考察する。
第5回	消費文化各論Ⅱ 1- 2「遊（余暇）の事例研究」	余暇市場開発の事例を取り上げ、その開発コンセプトとライフスタイルとの関連を分析する。
第6回	消費文化各論Ⅱ 2- 1「食の生活様式の現状と動向」	食生活構造の変化と課題、および食生活のキーコンセプトについて考察する。
第7回	消費文化各論Ⅱ 2- 2「食の事例研究」	食文化を演出する店舗を題材として、その開発コンセプトと消費者の価値観との関連を探る。
第8回	消費文化各論Ⅱ 3- 1「衣の生活様式の現状と動向」	衣（服飾）文化の動向、および衣文化と我々のライフスタイルとの関連を分析する。
第9回	消費文化各論Ⅱ 3- 2「衣の事例研究」	衣文化を創造したブランドを事例として取り上げ、我々のライフスタイルとの関連を探る。
第10回	消費文化各論Ⅱ 4- 1「住の生活様式の現状と動向」	住まいの歴史、住宅事情、および住文化の動向と課題を消費者ニーズとの関連で考察する。
第11回	消費文化各論Ⅱ 4- 2「住の事例研究」	住文化創造の事例研究として、ハウスメーカー等の事例を取り上げ、我々のライフスタイルなどとの関連を探る。
第12回	消費文化現象の考察と実践Ⅲ 1「タウンウォッチングからの発想」	街の観察を通じ、地域における資源を把握し個人と地域のアイデンティティ・文化形成を探る。
第13回	消費文化現象の考察と実践Ⅲ 2「タウンウォッチングからの発想」	タウンウォッチングの実際を、事例エリアの研究を通じて解説する
第14回	消費文化論のまとめ Ⅳ「私たちのライフスタイルと消費文化」	これまで考察してきた各論で検討してきた生活様式と我々のライフスタイルや価値観との関係を、消費文化論的に解読する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求される。また、次回の授業テーマについて受講者が自分自身の消費行動について、自問自答しながらその特徴をイメージしてくることで各回の授業理解が促進される。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配布する予定です。

【参考書】
適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】
定期試験（７０％）、および平常点（３０％）の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度のアンケートによる受講者から、できるだけ新しい事例研究（ケース・スタディ）を望む声があがっており、その点に心がけて授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
"Consumption cultural theory" is taken up in a theme by this session, the relation with the production activities of the enterprise which has an influence on our consumption behavior is being considered and it's being learned through a lecture and a practice. I have for my object to relate our consumption behavior to "clothes", "food", "dwelling" and "leisure" etc. and decipher the meaning in the phenomenon in consumption culture in particular. Further, I utilize a group work by a situation of a practice and hope for participation of the participant who can do a positive intention-like exchange of views.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（秋期スクーリング）

恩田　登志夫

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
航空事業は、規制緩和が進んだことから既存航空会社間の競争が激しくなり、一企業だけで生存することが厳しくなりました。現在ではグローバル規模の連携やLCCをはじめとする低価格航空会社の台頭など、目まぐるしく変化しています。この講義では、航空ビジネス全般に関する現状と課題を学ぶことができる。

【到達目標】
①運航方式の違いを説明できる。
②アライアンスの現状とメリットを説明できる。
③LCCのビジネスモデルを説明できる。
④わが国の空港経営の現状を説明できる。
⑤航空ビジネスとインバウンドツーリズムとの現状を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
通常の講義形式による授業に加えて、ディスカッションを実施することにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	航空ビジネスの概要	講義全般の主要なトピックを提示し、講義の方向性を示す。
2	航空輸送の歴史的発展経緯	航空事業の起源 わが国の航空輸送の草分け日本航空の設立
3	国際航空法	シカゴ条約 バミューダ協定以降の航空協定 航空運送人の運送責任
4	規制緩和とオープンスカイ政策	米国の規制緩和 米国のオープンスカイ政策
5	わが国の航空政策の変遷	航空法施行 45・47体制 1986年の新航空政策
6	低コスト航空会社（LCC)	LCCのビジネスモデル
7	運航方式の相違	ハブ・アンド・スポーク運航 ポイント・ツー・ポイント運航
8	サウスウエスト航空のビジネスモデル（1）	ノンフリル 二次的空港の積極的利用 10分間ターン
9	サウスウエスト航空のビジネスモデル（2）	サウスウエスト航空のビジネスモデルをテーマにディスカッション
10	アライアンス	航空会社間のアライアンスの現状 アライアンスのメリット 海運アライアンスとの比較
11	航空貨物輸送の歴史的経緯	航空貨物機の歴史的変遷 旅客機のベリー積載と貨物機による積載方法
12	航空フォワーダーとインテグレーター	航空フォワーダーの現状 インテグレーターの現状
13	わが国空港の現状と課題	わが国の空港の現状 わが国の空港が抱える課題
14	わが国の航空ビジネスとインバウンドツーリズム	インバウンド旅行者増加の現状 航空ビジネスとインバウンドビジネスにおける課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業の事前にテキストを確認して、要点を整理すること。
復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
必要なプリントを配布する。

【参考書】
『最新航空事業論』井上泰日子、日本評論社、2016年、3024円
『航空産業入門』ANA総合研究所、東洋経済新報社、2017年、2592円
『空港のはなし』岩見宣治・渡邉正己、成山堂書店、2018年、1728円

【成績評価の方法と基準】
期末テスト100％

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約20年勤務していたことから、実務経験を踏まえて説明する。

【Outline (in English)】
In the airline business, competition among existing airlines has intensified due to deregulation, and survival by only one company became strict. Today, global collaboration and the rise of low-cost airlines including LCC are changing quickly. In this lecture, you can learn the current situation and issues related to the airline business in general.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

演習（秋期スクーリング）

恩田　登志夫

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済のグローバル化が進展しています。わが国の企業は、諸外国に積極的に展開し、現地での生産・販売体制を構築・維持しなければなりません。それら企業の国際物流を担う国際物流事業者は、荷主と海運会社、航空会社の中間に位置して、国際物流をプロデュースする役割があります。この授業では、国際物流の現状を学ぶことができます。また、実際に国際物流事業者を訪問して、理解を深めることができます。

【到達目標】
①ハブ・アンド・スポーク（フィーダー）システムを説明できる。
②多国籍企業の発展的4類型を説明できる。
③国際物流事業者の関係者を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的な授業に加え、統計資料や視聴覚メディアを活用したり、ディスカッションを実施することにより参加型の授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	国際物流の現状	国際物流の現状 国際物流業界構造とフレート・フォワーダーの現状
2	国際物流における基礎的理論	ハブ・アンド・スポークの概要と仕組み
3	企業の国際化	多国籍企業とは 多国籍企業の発展的4類型
4	定期船海運	定期船海運の概要 海運同盟の概要 アライアンスの現状
5	定期船海運の運賃	定期船海運の基本料金計算 定期船海運の諸料金
6	定期船海運の実務	定期船海運の現場組織
7	不定期船海運の現状	不定期船による輸送の概要 国際バルク戦略港湾の概要
8	港湾運送の現状	港湾業界の概要 国際コンテナ戦略港湾の概要
9	航空貨物業界の現状	航空貨物業界構造 航空貨物の輸送品の特徴 航空業界のアライアンスの現状
10	航空貨物運賃の仕組み（1）	航空貨物運賃計算の仕組み 一般貨物運賃率
11	航空貨物運賃の仕組み（2）	航空貨物運賃の計算 特定品目運賃率 品目別運賃率
12	国際複合輸送の現状と課題	国際複合輸送の歴史的経緯 国際複合輸送のルートの現状 複合運送人の責任
13	倉庫業界の現状	倉庫業法の理解 倉庫業の種類 保管料金の計算方法
14	ドレージ輸送の現状	現在、国際物流業界で大きな課題であるドレージ輸送の実態と問題点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業の事前にテキストを確認して、要点を整理すること。
復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
『国際物流の理論と実務（6訂版）』鈴木暁他著、成山堂書店、

【参考書】
『新貿易取引・基礎から最新情報まで』石原伸志他著、経済法令研究会出版、3024円（税込）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト60％、小テスト20％、レポート20％

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約20年の実務経験があるため、航空貨物輸送については、実務経験を踏まえて説明できる。

【Outline (in English)】
Globalization of the economy is advancing. Companies in our country must actively develop in foreign countries and build and maintain local production and sales systems. International logistics companies that are responsible for international logistics of these companies are located between shippers, shipping companies, and airlines, and are responsible for producing international logistics. In this lesson, you can learn the current state of international logistics. Also, you can actually deepen your understanding by visiting international logistics providers.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講[人的資源管理論]（秋期スクーリング）

山﨑　雅夫

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営は、人・物・金・情報から成り立ちます。特に人に関することは、企業にとって最も重視すべきことです。組織の中で中心となって動く人材がいなければ企業の存続はありえません。企業が必要な人材をどういう基準で採用し、育成し、配置するか、従業員に対する賃金や評価制度はどうあるべきかなど、人の問題を幅広く学習していきます。

【到達目標】
企業の人に関する問題や課題について、一般的な考え方ができるようになることを到達目標とします。目先の状況に左右されることなく、問題の本質をつかむ能力が養われることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で行います。レジュメ・資料をプリントとして配布し、それに沿って講義を進めます。ただし、適宜、学生の皆さんから質問をしてもらい、双方向のやりとりをします。また、全回の内、3回程度グループディスカッションをします。なお、状況により、講義計画を変更・調整することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要や進め方などについて確認を行います。
第2回	雇用管理Ⅰ	採用(採用計画、採用の類型、募集と選考など)について学習します。
第3回	雇用管理Ⅱ	配置・異動・昇進・雇用調整について学習します。
第4回	人材育成	能力開発やキャリアについて学習します。
第5回	人事制度	等級制度・評価制度について学習します。
第6回	賃金管理	賃金の本質、賃金体系・賃金制度、福利厚生について学習します。
第7回	労働時間管理	労働時間管理、メンタルヘルスについて学習します。
第8回	組織論	組織形態、組織文化、リーダーシップについて学習します。
第9回	労使関係	労使関係について学習します。
第10回	働き方改革	働き方改革、ワーク・ライフ・バランスについて学習します。
第11回	非正規従業員と派遣労働者	非正規従業員、派遣労働者について学習します。
第12回	若年者雇用	若年者雇用について学習します。
第13回	外国人労働者	外国人労働者について学習します。
第14回	まとめ	学習してきた内容についてのまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をして下さい。授業外学習として67時間が目安となります。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布します。
教科書は、佐藤博樹・藤村博之・八代充史 (2015)『新しい人事労務管理（第5版）』 有斐閣アルマ. です。

【参考書】
今野浩一郎・佐藤博樹 (2009)『人事管理入門（第2版）』日本経済新聞社.

【成績評価の方法と基準】
期末試験(60％)、小テスト(10％)、平常点(30％)

【学生の意見等からの気づき】
本講義は、基礎(80%) ：応用(20%) の割合に設定しています。なお、応用について希望される方は、演習(秋期スクーリング) を受講いただくことをお勧めします。演習(秋期スクーリング) は、基礎(20%) ：応用(80%) に設定しています。
本講義が知識提供主体であることへのご理解をお願いします。

【Outline (in English)】
The field of Human Resource Management is one of the most dynamic and challenging areas. The turbulent business climate, caused by increased global price competitiveness, changing technologies, changing employment legislations, and changing workforce composition is challenging managers to utilize their employees more effectively to gain competitive advantage. The aims of this course are to equip students with knowledge of Human Resource Management through key concepts, theories, and cases. We will learn a wide range of human resource problems.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

演習[人的資源管理論]（秋期スクーリング）

山﨑　雅夫

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営は、人・物・金・情報から成り立ちます。特に人に関することは、企業にとって最も重視すべきことです。組織の中で中心となって動く人材がいなければ企業の存続はありえません。企業が必要な人材をどういう基準で採用し、育成し、配置するか、従業員に対する賃金や評価制度はどうあるべきかなど、人の問題を幅広く議論していきます。

【到達目標】
企業の人に関する問題や課題について、実践的な考え方ができるようになることを到達目標とします。目先の状況に左右されることなく、問題の本質をつかむ能力が養われることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
議論することを中心にします。
①毎回、進める上でのポイントを伝えます。
②設定した問についてグループで議論をしてもらいます。
③最後にグループの意見を発表してもらいます。
なお、状況により、講義計画を変更・調整することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要や進め方などについて確認を行います。
第2回	雇用管理Ⅰ	採用(採用計画、採用の類型、募集と選考など)について議論します。
第3回	雇用管理Ⅱ	配置・異動・昇進・雇用調整について議論します。
第4回	人材育成	能力開発やキャリアについて議論します。
第5回	人事制度	等級制度・評価制度について議論します。
第6回	賃金管理	賃金の本質、賃金体系・賃金制度、福利厚生について議論します。
第7回	労働時間管理	労働時間管理、メンタルヘルスについて議論します。
第8回	組織論	組織形態、組織文化、リーダーシップについて議論します。
第9回	労使関係	労使関係について議論します。
第10回	働き方改革	働き方改革、ワーク・ライフ・バランスについて議論します。
第11回	非正規従業員と派遣労働者	非正規従業員、派遣労働者について議論します。
第12回	若年者雇用	若年者雇用について議論します。
第13回	外国人労働者	外国人労働者について議論します。
第14回	まとめ	議論してきた内容についてのまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をして下さい。授業外学習として67時間が目安となります。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布します。
教科書は、佐藤博樹・藤村博之・八代充史 (2015)『新しい人事労務管理（第5版）』 有斐閣アルマ. です。

【参考書】
今野浩一郎・佐藤博樹 (2009)『人事管理入門（第2版）』日本経済新聞社.

【成績評価の方法と基準】
期末試験としてのレポート(70％)、平常点(30％)

【学生の意見等からの気づき】
本講義は、応用(80%) ：基礎(20%) の割合に設定しています。応用の学習効果を期待して議論(ディスカッション、ディベート等) を主体にしています。なお、基礎について希望される方は、経営学特講(秋期スクーリング) を受講いただくことをお勧めします。経営学特講(秋期スクーリング) は、応用(20%) ：基礎(80%) に設定しています。
議論によって講義を進めることへのご理解をお願いします。

【Outline (in English)】
The field of Human Resource Management is one of the most dynamic and challenging areas. The turbulent business climate, caused by increased global price competitiveness, changing technologies, changing employment legislations, and changing workforce composition is challenging managers to utilize their employees more effectively to gain competitive advantage. The aims of this course are to equip students with practice of Human Resource Management through key concepts, theories, and cases. We will discuss a wide range of human resource problems.

LIT100TA（文学 / Literature 100）

文学（夏期スクーリング）

川鍋　義一

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本近代文学と宗教との関係について学ぶ。日本近代文学（小説）が宗教とどう向き合ったかを学ぶ。それはすなわち日本の近代、思想風土を問い直し、また宗教、思想の危険について学ぶことにほかならない。戦争に急傾斜する時代と仏教（宮澤賢治）、キリスト教と日本（遠藤周作）、日本の近代と新宗教（高橋和巳）を教材として学ぶ。

【到達目標】
日本近代文学、思想史についてのより深い理解を得られる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび宮澤賢治「グスコーブドリの伝記」	ガイダンスおよび宮澤賢治「グスコーブドリの伝記」宮澤賢治の生涯と思想
第2回	宮澤賢治「グスコーブドリの伝記」	デクノボーとはなにか：常不軽菩薩から
第3回	宮澤賢治「グスコーブドリの伝記」	宮澤賢治の「ほんたう」について
第4回	宮澤賢治「グスコーブドリの伝記」	自己犠牲とテロリズム
第5回	遠藤周作『沈黙』	禁書としての『沈黙』
第6回	遠藤周作『沈黙』	〈踏む〉と〈転ぶ〉
第7回	遠藤周作『沈黙』	〈弱者〉と〈強者〉／浄土系仏教の風土
第8回	遠藤周作『沈黙』	キチジローとは誰か
第9回	高橋和巳『邪宗門』	高橋和巳と吉本隆明
第10回	高橋和巳『邪宗門』	国家とはなにか
第11回	高橋和巳『邪宗門』	高橋和巳の現代性
第12回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
３作品のテキストを事前に最低一回は通読しておくことが求められます。『沈黙』『邪宗門』は大変長い作品なので、スクーリングが始まってから読み始めるのでは読み終わりません。事前に計画的に学習しておくこと。また、授業に参加する際、テキストは必携。

【テキスト（教科書）】
宮澤賢治「グスコーブドリの伝記」（ちくま文庫『宮沢賢治全集』８巻など）、遠藤周作『沈黙』（新潮文庫など）、高橋和巳『邪宗門』上下（河出文庫、Amazon kindleなど）。その他用意されたプリント。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
出席要件を満たした上で、持ち込み不可の試験：100%。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】
繰り返しますが、事前にテキストを三作品とも通読しておくこと（言うまでもなくその上で理解しておくこと）、またテキストを授業に持参することを強く求めます。この２点は出席要件とならぶ、単位取得のための要件です。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire Japanese modern novels concerned with religion.

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎特講（夏期スクーリング）

中田　和秀

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、現代文明の成長や持続性への関心から、各種エネルギー資源について注目が集まっている。それらの話題を理解するためには、科学的な考察が必要不可欠である。本授業では、現代文明が大きく依存している化石燃料について利用の実態を学習し、それらが枯渇の危機に瀕していることを理解する。また、新たなエネルギー社会構築の可能性について議論する。これらの話題を化学の視点から理解することが本授業の目的である。

【到達目標】
本授業では、化石燃料である石炭、石油、天然ガスについて、その構造、性質、燃焼反応、燃焼熱等について学習する。また、新しいエネルギー社会として提唱されているメタノールエコノミーについて学習する。これらの話題を的確に理解するために必要な化学理論（化学結合論、熱力学、結合エネルギー等）を合わせて習得することが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には板書を行いながら、講義形式で進める。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていくことが求められる。ノートはルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用すること。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第2回	エネルギーの分類と性質	人類が利用するエネルギーについて分類を行い、エネルギーを支配する法則について学習する。
第3回	エネルギー利用の現状	現代文明が使用しているエネルギーの種類や量について学習する。
第4回	森林資源の利用	人類が古代より利用している森林資源について学習する。
第5回	化石燃料(1)	産業革命以来の重要なエネルギー資源である石炭について、性質や利用法を学習する。
第6回	化石燃料(2)	現代文明に於いて重要なエネルギー資源である石油・天然ガスについて、性質や利用法を学習する。
第7回	化石エネルギー(1)	化石エネルギーの性質を理解するため、熱力学を学習する。
第8回	化石エネルギー(2)	結合エネルギーを導くと共に、未知の化合物の燃焼熱が予測できることを学習し、化学エネルギーが化学結合に蓄えられていることを理解する。
第9回	化石燃料の寿命	各化石燃料の寿命について学習し、新エネルギー資源開発の必要性について理解する。
第10回	水素エコノミー	水素エネルギーを利用した社会について概念を述べ、その限界について理解する。
第11回	メタノールエコノミー	メタノールを利用してエネルギーや化 学物質を供給する社会について概念を述べ、その優位性について理解する。
第12回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけ早い段階で、教科書を通読すること。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を勧める。

【テキスト（教科書）】
下記書籍を教科書として使用する。また、必要に応じてプリント教材を配布する。

書名：新版　エネルギーの科学（第２版）
著者名：安井伸郎
出版者名：三共出版

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【Outline (in English)】
In recent years, various kinds of energy resources are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To understand such topics, natural sciences play crucial roles. In this lecture, the actual state of use of fossil fuels on which modern civilization largely depend will be discussed to understand that such the fuels are on the crisis of exhaustion. In addition, some ideas that may bring sustainable civilization will be presented. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

PHL100TA（哲学 / Philosophy 100）

論理学（夏期スクーリング）

大貫　義久

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように正しく伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。この授業は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また論理的に考え、表現するためには、どのようにしたらよいのかということを、基礎から順に学んでゆきます。

【到達目標】
説明と練習問題によって、論理的に考え、表現する方法が実際に身につくようにすることが、到達目標です。試験においては、正しく論理的に考え、表現する力が、身についたかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を基本とします。教科書を使い、基礎から、多くの例を挙げて、できる限り理解しやすいように説明してゆきます。また、論理的に考えることが実際に身につくようにするために、授業内で、演習として練習問題に取り組みます。以下の授業計画には、見慣れない多くの論理学用語が出てきますが、恐れることはありません。それら論理学用語の丁寧な説明から始め、その理解の上に立って、正しく考え、表現することを、順に学び、身につけてゆきますから。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容と論理学への導入
第2回	論理学の根本原理、概念について	同一の原理・矛盾の原理・排中の原理、概念の成り立ち、概念の内包・外延
第3回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化
第4回	定言命題の4種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図、概念の周延・不周延についての説明
第5回	判断の命題化（標準形式化）について	判断を命題の形にする方法の説明と練習問題
第6回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、推理の妥当・非妥当、演繹推理の説明
第7回	演繹推理の直接推理、特に変形による推理について	対当による推理、変形による推理、練習問題に取り組む
第8回	演繹推理の間接推理について	三段論法の定言三段論法について、その構造と規則を学ぶ。練習問題に取り組む
第9回	演繹推理の間接推理について	仮言三段論法、選言三段論法について。練習問題に取り組む
第10回	演繹推理の間接推理について	両刀論法の説明。練習問題に取り組む
第11回	現代論理への導入、授業のまとめ	命題論理学、授業内容の復習
第12回	試験	教科書・ノート・配布プリント持ち込み可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う項目を教科書に従い予習し、さらに授業で扱った項目をそのつど復習して下さい。

【テキスト（教科書）】
大貫義久・他　『改訂版 論理学の初歩』　梓出版社・２０１３年

【参考書】
授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験（教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。論理的な思考力を見ますので、授業内容を理解し、教科書や配布プリントの問題を解けるようにすることが重要です。

【学生の意見等からの気づき】
論理学は理解できれば楽しいという意見が多くありました。説明が少し早くなってしまった箇所もあったので、十分に理解してもらうために工夫したいと思います。また、質問できる時間も確保します。

【その他の重要事項】
論理学は、理解できれば必ず楽しくなります。できる限り分かりやすく説明してゆきます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an ability to think logicaly.　This course introduces the basics of the traditional logic and
symbolic logic to students.　Students can understand the outline of the traditional logic（syllogisms） by taking this course.

ECN100TA（経済学 / Economics 100）

経済学（夏期スクーリング）

福田　泰雄

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
拡大する格差と貧困、高まる将来の生活不安、これら生活問題の現状、およびその原因と対策を講義します。つまり現代日本の経世済民（世を治め民を救う）論を講義します。取り上げる具体的なテーマは、劣化する労働条件、社会保障とその財源にかかわる税・財政政策、国民の命に関わる農業・食料問題、そしてWTO/TPP貿易協定についてです。私たちの生活にかかわるこれらの問題はそれぞれ無関係というわけではなく、いずれも「巨大株式会社の権力と所得分配」、具体的には巨大株式会社への所得集中が諸問題の基礎にあり、この分配関係の発現としてそれぞれの問題が生じています。こうした現実の問題とその根本原因を考える作業を通して、経済学とは何か、つまり理論、現状分析、および政策論としての経済学を学びます。

【到達目標】
国民生活の問題は所得・富の分配問題と表裏一体の関係にあります。その所得・富の分配がどのようにして決定されるのか、現代の日本経済・グローバル経済に即して具体的に学びます。個々のテーマについて理解を深めることがまずは目標になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
資料を配布し、講義形式で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	現代社会の病巣Ⅰ：1％vs99％、所得・富の格差拡大	世帯間格差と巨大企業への所得集中
第2回	現代社会の病巣Ⅱ：貧困の拡大とマジョリティ化	絶対的貧困と相対的貧困からみた日本社会
第3回	分析の枠組みⅠ：分配と権力（交渉力）	A.スミスの賃金論とその応用
第4回	分析の枠組みⅡ：巨大株式会社の権力	市場集中と一般集中、経済と政治
第5回	労働規制緩和と非正規雇用	ワーキングプアの増大
第6回	長時間労働と過労死・精神疾患	労働時間の規制ー日本の「働き方改革」とEU規制
第7回	累積する財政赤字と財政政策	財政問題の深刻化と弊害の拡散、貧困を作る社会保障制度改革
第8回	分配構造の変化と税制改革	消費税しか選択肢はないのか？
第9回	戦後農業の自由化と農業衰退	食料自給率38％の現状とその原因、規模拡大・企業参入・農協解体で道は開けるのか？
第10回	農業の自由化・民営化と食の安全	規模拡大と効率化一辺倒の工業化農業で食糧主権、食の安全、農業の持続性は保障されるのか？
第11回	日米ＦＴＡ交渉	日米安保体制のメリットとディメリット
第12回	まとめ	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の講義を復習し、疑問点をまとめ次回の講義の時に質問できるようにする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
福田泰雄『コーポレート・グローバリゼーションと地域主権』（桜井書店、2010年）、福田泰雄「TPP協定は国民の主権、生存権を放棄する」（『経済』2016年10月号),「NHK特集　食卓のかげの星条旗」（http://www.dailymotion.com/video/x2fg9dq?GK_FACEBOOK_OG_HTML5=1）、西谷敏ほか『日本の雇用が危ない』（旬報社、2014年）

【成績評価の方法と基準】
授業で実施するアンケート（質問・講義要点）30％、試験70％。試験問題はあらかじめ最初の授業で指示します。その中から各自選択し、講義と自宅学習を踏まえて解答してください。ノートと配布資料は持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくりしゃべる。

【学生が準備すべき機器他】
各自のノート。

【その他の重要事項】
質問し議論すること。

【Outline (in English)】
Our economic life and the issue of distribution of income and wealth are closely tied to each other.　We learn how the distribution ofincome and wealth is decided, based on Japanese economy or global economy.

SOC100TA（社会学 / Sociology 100）

社会学（夏期スクーリング）

徐　　玄九

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの生きる社会はどのように構成されており、どのように変化しつつあるのか。私たちの生活における個人の選択と社会的環境（構造）との関係は何か。このような問いに答えるべく社会学が取り組んできた主題は大きく二つに分けられる。(1)「社会秩序を可能にする基本原理の探求」(2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」がそれである。この授業では後者の主題に焦点を当てる。その目的は、現代社会が抱えている問題を批判的に理解するためであり、現在の私たちのものの見方・考え方、そして行動パターンを大きな歴史の変化という文脈に置き換えて、以前と比べて何が省略され、何が稀少化され、何が凝縮されているのかについて「省察」し、批判的思考力（Critical Thinking Skills）を育むためである。

【到達目標】
(1) 社会現象の記述に用いられる基礎概念を歴史的な文脈に沿って正しく理解できる。
(2) 人々によって共有されている信念や行動様式を理解できる。
(3)「近代」とよばれる歴史的な変化の一面を思想と制度の両面で把握する。
(4) 現代社会の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける（＝批判的思考力）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で行うが、可能なかぎり双方的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進める。場合によっては、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。また数回、予習・復習の課題も課す予定であり、授業の終わりにリアクションペーパーを兼ねたミニテストを行う。この際出された質問や感想については、次回の授業で質問に答え、感想を紹介する時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	社会学のものの見方・考え方	『社会学的想像力』（C・W・ミルズ）、『みんなが手話で話した島』（ノーラ・E・グロース）の一部講読を通してその一端を学ぶ
第2回	社会の発見	電車内の風景を例に人びとが相互に関わり合って作られる秩序を再発見する
第3回	社会秩序の変化	時代区分としての「近代」および「近代性」について学ぶ
第4回	近代社会の特徴	宗教的世界から科学的世界へ
第5回	政治的秩序の変化	T・ホッブズ『リヴァイアサン』の一部講読を通して社会契約論の意義と限界を学ぶ
第6回	経済的秩序の変化	労働の意味を大きく変化させたJ・ロックの「私的所有権」、A・スミスの「市場秩序」について学ぶ
第7回	合理化の両義性①	映画「モダンタイムズ」を題材に「社会のマクドナルド化」の概念を批判的に学ぶ
第8回	合理化の両義性②	J・ハーバーマスのいう「システムによる生活世界の植民地化」という概念を通して、現代社会の一断面を学ぶ
第9回	消費社会論	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』に依拠しながら現代社会の一断面を学ぶ
第10回	監視社会論	D・ライアン『監視社会』、M・フーコー『監獄の誕生』の一部の内容（パノプティコン）を通して社会秩序と監視の関係を学ぶ
第11回	リスク社会論	U・ベック『危険社会』に依拠しながらリスク社会としての現代社会の一断面を学ぶ
第12回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では多くの内容を比較的短時間で扱うので、毎回の講義のなかで取り上げる基本的な概念について、以下に挙げて参考書や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事である。受講生には「読書」（多読）をお薦めする。取り組もうとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要がある。時間とコストを惜しまず取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、レジュメ、参考文献の抜粋などの配布資料に基づき授業を進める。

【参考書】
見田宗介（1996）『現代社会の理論』岩波新書。
三上剛史（2010）『社会の思考―リスクと監視と個人化』学文社。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第2版〕』ちくま学芸文庫。
この他、必要に応じて追加で配布または提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と論述型の試験（60%）で評価する。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。試験は「授業の到達目標」に応じて、かつ授業内容を踏まえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
①受講生の多角的な理解を図るために視聴覚教材も取り入れる。
②より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図る。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society. The course will specifically focus on topics and issues that modernization, consumer society, surveillance society, risk society. Each of these issues will be examined through sociological, historical, comparative, and balanced perspectives.

LAW100TA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）（夏期スクーリング）

石川　澄雄

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主として「法と国家・社会」との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を軸としてその基本的な理解を得ることに努める。憲法に対する理解が一般人のみならず学生や為政者（！）においてすらなお十分に浸透しているとはいえない状況にかんがみて、本講義ではその目的や理念等の「正確な理解」を得ることによって憲法を中心とした法体系の理解にまで及ぶ。

【到達目標】
日本国憲法を中心に、法というものについての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切・妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（legal mind・法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者が初学者であることを踏まえて、「法および憲法」に関わる今日的なトピックをより多く取り上げることで抽象的な議論・講述に陥ることを避け、あくまでも基本的理解が得られるように授業を進めたい。もちろん、憲法を軸とした授業といっても、受講者が複数の学部にまたがっていることから、「専門科目の憲法」の授業とは〝一味ちがう〟授業となることはいうまでもない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	①本科目履修の意義および受講上の注意点等（ガイダンス） ②「法と国家」との関係について(その1)	①履修者は多くが複数の学部にまたがる新入生ということから、大学まで殆ど学ぶことがなかった「法学」について、その履修の意義や受講上の注意点等について概要をのべる。あわせて、「試験」についての問い合わせも毎回初日に多いので、試験形式や解答上の注意点などにも触れる。 ②次いで、法（または、広く「法を含む規範・ルール）とは何か、それらは国家とどのような関係にあるか等について考える。
第2回	法と国家との関係について（その２）	前回（②）に続いて、法（または、広く「法を含む規範・ルール）とは何か、それらは国家とどのような関係にあるか等について考える。
第3回	法と「それ以外のルール」との関係について	法と「それ以外のルール」（すなわち「社会規範」――道徳・慣習・習俗・宗教規範等）との相違点等を探る。
第4回	法と法律について。憲法第41条（「国会の地位」および「立法権」）を中心に	国会（および国会の地位）について。立法と「政党」の関係（「政党政治」）についても言及する。
第5回	法の特質について。「権利」を中心として	「権利」に焦点をあてて法の特質をながめる。「法律問題」とは何か。何が法律問題となり、あるいはそうならないか。法と国家との関係から考える。
第6回	法の特質について。「権利」を中心として（その2）	「権利」に焦点をあてて法の特質をながめる。「法律問題」とは何か。何が法律問題となり、あるいはそうならないか。法と国家との関係から考える。
第7回	「法の支配」「立憲主義」および憲法の基本理念について――「憲法の原点」	「法の支配」とは何か。それと「立憲主義」との関係とは。それらを基軸に「近・現代憲法の原点」に及ぶ。
第8回	「法の支配」「立憲主義」および憲法の基本理念について――「憲法の原点」（その2）	「憲法の基本理念・原則（「個人の尊重」・国民主権・基本的人権の尊重・平和主義）について。
第9回	国家統治の基本原理について。「国民主権」	「個人の尊重」理念（憲法第13条）から日本国憲法の諸原則を考える。 まずは国家統治の基本原理としての「国民主権」について考える。「主権」とは何か。
第10回	「権力分立」について	国家統治の基本原理としての「権力分立」について。あわせて「行政権と内閣（組織と機能）」・「司法権と裁判所（組織と機能）」に言及。 また「行政国家日本」についてもふれる。
第11回	「基本的人権」について	「人権宣言としての日本国憲法」。人権と「公共の福祉」との関係。これに関連して「権利の社会性」についても言及し、さらに「思想・良心の自由」「表現の自由と知る権利」「社会権（生存権）」等についても言及。
第12回	①「平和主義」について ②改めて憲法第13条（「個人の尊重・幸福追求権」）について	①「平和主義」について。憲法を特徴づける第9条の背景と趣旨、および同条をめぐる（今日的）諸問題について。 ②おわりに日本国憲法の「最重要規定」でもある第13条について約言し、まとめに代える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業後に、講述内容を思い出しながら、テキスト（「講義レジュメ」）や講義ノートなどで簡単に整理（おさらい）するという「復習中心」の学習を勧めたいが、当然ながら予習とあわせれば効果的だろう。
②しばしば「何を覚えたらよいか」との質問を受けるが、大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないでほしい。たしかに「覚えるべき基本知識」はあるが、強調したいのは、むしろ法というものを〝批判的に〟ながめ、かつ考察するということで、そのための〝訓練の場〟として本授業に臨んでほしいと思う。従って、本授業では「法を守れ！」式の話はしないので留意されたい。

【テキスト（教科書）】
「講義レジュメ（プリント）」および適宜配布する資料を使用。

【参考書】
上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①最終日の試験により、レポートは課さない。その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点対象とする。
②試験前に「試験についての注意」文をプリントにして配布するので、必ず目を通してほしい。

【学生の意見等からの気づき】
理解が難しい場合には気軽に、遠慮せずに質問等声をかけてほしい。初心者にとって難しいことは当然なので、授業中でも構わないから‘ガマン’せずに声を出してほしい。「訊くはいっときの恥…」などということわざがあるが、本科目の場合は恥でもなんでもないので、そんな‘無益な’ことわざなどは振り払ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
In each lecture we will learn the basic point of view about the relations between the law (especially the Constitution) and the state or society. Not a few people even today don’t understand the meaning of the Constitution (‘Everything the government does is bound by the Constitution’). So we will get the correct and basic understanding and also make sense of the Constitution and other laws.

PHY100TA（物理学 / Physics 100）

物理学３（実験）（夏期スクーリング）

吉田　智

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで物理学は、長い年月をかけた実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって発展してきた。この授業では重力・光・波・エネルギーなどの日常諸現象に関係する実験を学生自らが行うことによって、それらの現象の本質を理解できるようにする。

【到達目標】
身の周りの物理現象に関する実験を通じて、物理に関する知識を深めると共に、物理的な物の見方を修得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
少人数グループで行う4つの実験を中心にして授業が行われる。高校での物理の基礎知識が無くても実験内容の理解が深められるように、配布資料や一部映像を使用しながら講義による解説も併せて行う。4日間で4つの実験をローテーションで行うため、グループによっては実験の順番が前後することがある。従って下記の授業計画は1例である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	落体実験と交流の周波数の測定について	授業全体の進め方と実施する実験についての説明を行う。
第2回	レンズの曲率半径の測定と熱の仕事当量の測定について	第1回に続き、実施する実験についての説明を行う。更にレポートの書き方の簡単な説明を行う。
第3回	落体実験	落体実験を行う。
第4回	重力について	1つ目の実験データの解析を行う。また後半に、実験に関係する重力についての説明を行う。
第5回	交流の周波数の測定	交流の周波数の測定を行う。
第6回	電子について	2つ目の実験データの解析を行う。また後半に、実験に関係する電子等の粒子についての説明を行う。
第7回	レンズの曲率半径の測定	光を利用してレンズの曲率半径の測定を行う。
第8回	光について	3つ目の実験データの解析を行う。また後半に、実験に関係する光についての説明を行う。
第9回	熱の仕事当量の測定	熱の仕事当量の測定を行う。
第10回	熱について	4つ目の実験データの解析を行う。また後半に、実験に関係する熱についての説明を行う。
第11回	無重力状態での物理現象について	資料映像を利用して、無重力状態での物理現象について紹介する。
第12回	超伝導現象について	資料映像等を利用して、低温状態において見られる超伝導現象について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験をスムーズに行うために、実験前に予め配付プリントの該当箇所を読んでおくこと、更に授業後のデータ解析とレポート作成が必要である。

【テキスト（教科書）】
配付プリントを使用するため、教科書は使用しない。

【参考書】
特に指定はしない。

【成績評価の方法と基準】
レポート80％、平常点20％。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course teaches general physics through making experiments on gravity, light, wave, energy and so on.

MAT100TA（数学 / Mathematics 100）

数学３（夏期スクーリング）

若井　健太郎

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、経営数学やグラフ理論に関する話題を例として、いろいろな問題解決方法について学ぶ。

【到達目標】
数学で用いられる考え方に接し、実際に問題を解けるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	マッチング	仕事を割り当てる方法について学ぶ。
第2回	割当て問題	全体の利益が最大になる、仕事の割当て方について学ぶ。
第3回	順序づけ問題	早く仕事を終わらせるための、順序の決め方について学ぶ。
第4回	演習	これまでに学んだことを確認するための演習を行う。
第5回	数当てゲーム	２進数とその応用について学ぶ。
第6回	一筆書き問題	グラフ理論の用語や考え方を学ぶ。
第7回	集合場所問題	総移動距離が最も小さくなる集合場所の求め方を学ぶ。
第8回	演習	これまでに学んだことを確認するための演習を行う。
第9回	試合の対戦表	対戦表の背後にある考え方とその応用について学ぶ。
第10回	最短道路網	総距離が最小になるような道路の作り方について学ぶ。
第11回	演習	これまでに学んだことを確認するための演習を行う。
第12回	試験	これまでに学んだことを総合評価するための筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。

【テキスト（教科書）】
「文化系の応用数学入門　増補版」小林みどり　著、牧野書店、2005年

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
最終回に行う試験によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】
Mathematics is said to be language, indeed, it is a tool used in various places. In this lesson, you learn about various problem solving methods by taking topics on business mathematics and graph theory as examples.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（1）（夏期スクーリング）

磯部　芳恵

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to provide students with opportunities to have critical thinking skills and express their opinions on different topics in English, using the textbook which deals with CBS news.
Students will learn about aspects of culture and society mainly about the U.S., while building their communication skills in all aspects.

【到達目標】
The first goal of this course is to enable students to learn about various cultural aspects of the modern society, mainly within the U.S.A.
The second goal is to empower students with critical thinking and debating/dialogue/conversation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
The first language of the classroom is English.
Classroom methods include:
1. The textbook includes various activities
2. short lectures and explanations by the teacher
3. pair and group discussions
4. short oral reports

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Unit 1 A Look at Gold	Course overview Unit 1
第2回	Unit 2 Daylight Savings	Vocabulary, Comprehension Check, Presentation
第3回	Unit 3 Making Libraries	Vocabulary, Vocabulary Comprehension Check, Discussion
第4回	Review of Unit 1-3	Vocabulary/Idioms in the News
第5回	Unit 4 Pyramid Tech	Vocabulary, Vocabulary Comprehension Check, Discussion
第6回	Unit 5 Pigments	Vocabulary, Comprehension Check, Discussion
第7回	Unit 6 Shopping Tech	Vocabulary, Comprehension Check, Discussion
第8回	Review of Unit 1-3	Vocabulary/Idioms in the News
第9回	Unit 7 Origami	Vocabulary, Comprehension Check, Discussion
第10回	Unit 8 Ice Cream	Vocabulary, Comprehension Check, Discussion
第11回	Presentation	Make a presentation, choosing a topic from Unit 1-8
第12回	Wrap-up and feedback	Review and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Prepare for Exercise 4 "Getting into Details" using the audio file http://st.seibido.co.jp.　Practice "Conversation in Action" for demonstrating it.

【テキスト（教科書）】
CNN 10 -Students News- Vol.2 (2019年）＜朝日出版社＞

【参考書】
English-English dictionary

【成績評価の方法と基準】
Assessment Percentage Evaluation Criteria
Presentation: 10 %
Performance "Communication in Action": 20 %
Discussion preparedness: 20 %
Final exam: 50 %

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Students are required to purchase a textbook.

【その他の重要事項】
Students will choose a topic from Unit 1-8 and give a presentation.

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with opportunities to use their critical thinking skills and to express their opinions on different topics. They must use their knowledge of the English language and also the textbook dealing with CBS news.
Students will learn about aspects of culture and society, focusing mainly on America.　Communication skills will be developed.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（2）（夏期スクーリング）

Richard.J.Burrows

カテゴリー：**夏期** ｜ 予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング** ｜ 単位数：**1単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
To introduce students to the culture & society of contemporary Britain through a variety of stimulating audio-visual & reading materials.

【到達目標】
i) To improve students aural comprehension through daily exposure to challenging audio-visual materials
ii) To improve students reading skills & vocabulary knowledge using a wide variety of reading materials
iii) To broaden the students' outlook by learning about a foreign culture and to encouraging them to look critically at Japanese society by comparison.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
Each lesson will be centered around one audio-visual segment based on a cultural aspect of modern Britain. After reviewing the previous reading homework, topic pre-discussion & vocabulary preview will precede viewing the video. After viewing twice, students in pairs, will answer comprehension questions after which there will be an opportunity for post-viewing questions & related conversation pair-work practice, time permitting.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Course Introduction & Introduction to Britain	Explanation of course with general facts about UK
第2回	London	Study of the basic facts, history & attractions of the British capital
第3回	Tea	How the UK made tea one of the world's most popular drinks
第4回	Heathrow Airport	An outline & history of Britain's most important international airport
第5回	William Shakespeare	The biography & works of the famous playwright
第6回	Sherlock Holmes	Study of the famous fictional detective & his creator Sir Arthur Conan Doyle
第7回	Wales	The history, language & culture of one country within the United Kingdom
第8回	The Mini	The story of one of Britain's most famous motor cars
第9回	The Village	How life in rural Britain changed during the last century
第10回	The Sea	As an island nation, like Japan, British history & culture has been strongly influenced by the ocean
第11回	The Seven Wonders of Britain	Seven of the most famous & iconic features of UK
第12回	Course Review & Final Evaluation	Summary of the course & final evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There will be reading homework each day which will include vocabulary & comprehension questions.

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used in this class

【参考書】
An electronic dictionary or smartphone is a course requirement

【成績評価の方法と基準】
Basic Performance 40%
Homework Assignments 30%
Final Evaluation 30%

【学生の意見等からの気づき】
Further guidance will be given to students concerning the final report, a contrast or comparison about one aspect of UK & Japanese culture

【学生が準備すべき機器他】
Since there is no textbook, students will be provided with B4 sized photocopies at the beginning of each lesson so must bring an A4/B4 folder or ring binder to each class.

【その他の重要事項】
This course is intended for students who have an interest in learning about foreign cultures, and cultural contrast/comparison with Japan and the UK.

【Outline (in English)】
To give students the practice & confidence to discuss foreign cultures & express their own ideas & opinions in written form, about Japanese culture in comparison with that of the UK

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（3）（夏期スクーリング）

戸嶋　まゆみ

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**1群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、英語リーディングに必要なスキルを身につけるとともに、様々な話題に関する記事を読み進めながら、それらの内容を考察する力をつけることです。

【到達目標】
英語で書かれたテキストの内容が自分で把握でき、テーマについて考察ができ、アウトプットできることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストの内容把握をし、応用問題を解き、ディスカッションもしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	Unit 1 Tylenol Scare	危機管理について
第3回	Unit 2 Apple's Intentional iPhone Throttling	旧機種速度抑制問題
第4回	Unit 3 STEAM Education	サイエンスとアート
第5回	Unit 4 Reaping the Rewards of Innovation	技術開発者
第6回	Unit 5 Rare Earth Minerals 5,000 Meters Below	レアアース
第7回	Unit 6 Are Driverless Vehicles in Our Future?	自動運転
第8回	Unit 7 funding the future	日本の科学研究
第9回	ディスカッションと復習	ディスカッションと復習
第10回	Unit 14 Resistance in Futile	AIとロボット
第11回	復習	復習
第12回	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習、発言のための準備

【テキスト（教科書）】
リーディング・クエスト　　松尾秀樹著　三修社　2019年　ISBN 978-4-384-33485-2

【参考書】
各辞書等

【成績評価の方法と基準】
予習・準備等の平常点(20%)、提出物(10%)、ペーパーテスト(70%)の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
いつも「予習の時間が足りない」とのご意見をいただきます。テキストは早めに購入して、内容をチェックしておくことを強くおすすめします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等

【その他の重要事項】
予習の時間を十分確保してください。

【Outline (in English)】
The main focus of this course is to improve the student's reading skills and learning and thinking ability of various kind of articles.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（4）（夏期スクーリング）

吉川　直澄

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映画『英国王のスピーチ』を教材に用いて、総合的に英語の基礎力を育成する。英語と文化・教養に対する理解を深める。

【到達目標】
テキストの中にある様々な表現の音読を繰り返すことで、日常的な会話ならば受信・発信ができるようになる。大抵のハリウッド映画なら字幕無しでもある程度理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
映画本編を用いたリスニングと対訳シナリオの講読を行う。またＤＶＤを鑑賞した後、講義と語句の解説をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Guidance	授業の進め方と学習方法の説明
第2回	Complex	コンプレックス
第3回	Searching for a Cure	治療への模索
第4回	My Castle, My Rules	ライオネルの診断方針
第5回	Unorthodox Lessens	個性的な治療法
第6回	King’s Death	王の死
第7回	Sibling Troubles	兄弟間の葛藤
第8回	Rise to the Throne	王位継承
第9回	Starting Over	再起
第10回	Uniting the People	国民の求める王へ
第11回	The King’s Speech	英国王のスピーチ
第12回	Test	最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習・復習、特に第一章から五章はよく予習をしておいてください。最終試験では四択形式で文法と構文、語彙に関する出題をします。

【テキスト（教科書）】
The King’s Speech, スクリーンプレイ, ISBN978-4-89407-473-6, 1600円, 2012年

【参考書】
指定しない。

【成績評価の方法と基準】
最終試験（50%）、平常点等（50%）で総合的に評価する。なお受講生は実授業コマ数のうち、8コマ以上の出席がないと試験の受験資格を失う。成績評価は１００点満点とし、６０点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The aims of this course are:
1. To provide students with a general grounding in comprehensive English skills.
2. To introduce students to the English language and its cultural literacy through an English film.
3. To raise awareness of key issues relating to the study of film in context.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（5）（夏期スクーリング）

宮本　正和

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の文章の読解及び基本的な文法を学習することを目的とします。

【到達目標】
学生の皆さんの読解力を更に付けるように学習を進めます。各回毎に１２項目の基本的な文法事項を説明して授業を進めてゆきます。そうすることにより、読解が楽しいと感じてくださることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式です。皆さんに毎回発表をして頂きます。進度に合わせ、練習問題なども加えてゆきたいと考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	The Legend of Bala Lake	読解を進めながら５文型について説明します。
第2回	The Legend of Bala Lake	be動詞と一般動詞について説明します。
第3回	The Legend of Llynclys Pool	品詞について説明します。
第4回	The Daughter of Ifan Gruffydd	不定詞、動名詞の説明をします。
第5回	The Daughter of Ifan Gruffydd	現在分詞、過去分詞の説明をします。
第6回	Soup in an Egg Shell	分詞構文について説明します。
第7回	Soup in an Egg Shell	仮定法について説明します。
第8回	The Land of the Fairies	関係代名詞について説明します。
第9回	The Land of the Fairies	関係副詞について説明します。
第10回	Dick the Fiddler	接続詞のthatについて説明します。
第11回	Dick the Fiddler	文法事項など総合的な復習をします。
第12回	試験	試験時間。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ウェイルズ語の地名は例外として、予習して来てください。授業後は復習をして頂くのが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
『北ウェールズの物語』こびあん書房

【参考書】
ありません。

【成績評価の方法と基準】
平常点３０％　試験７０％
６日間の内の４日の出席が必要です。

【学生の意見等からの気づき】
授業内に、要望をお聞きします。

【Outline (in English)】
Studying fundamental English grammar and English reading.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（6）（夏期スクーリング）

ロジャー・エドウィン・パティモア

カテゴリー：**夏期** ｜ 予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング** ｜ 単位数：**1単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語 S (6) is a basic four-skills course. We will use all skills, but speaking will be most important. Listening, reading, and a small amount of writing will support speaking improvement. There are four strands in most lessons.
Outline:
Strand 1: Review of basic English communication skills (10 - 15 minutes per class)
Strand 2: Working with the textbook: learn discussion skills and practice (main activity)
Strand 3: Researching and writing good answers to discussion questions (main activity)
Strand 4: Cool down: Listening to amazing music plus do a related activity (10 minutes per class)
Four specific objectives for students:
1. Produce effective speaking and writing
2. Develop critical thinking skills (批判的思考スキル)
3. Develop independent learning skills (ex. Use of the textbook website, use of the textbook, organization and planning)
4. Develop student skills as necessary (record keeping, punctuality, effective lesson preparation, effective group work)

【到達目標】
There are two goals:
1.For students to become effective users of English in the future
2.For students to develop self-initiated English learning skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
Main Methods
Use of First Language Principle
1.Use English as the first language of the classroom (always)
2.Produce English as the method to learn it
Class Mode
1. CLIL or content and language integrated learning (study contents in English and learn English as we go)
2. Task based: Complete tasks in the textbook in pairs, groups, as well as with the instructor
3. Topic based: Study one topic per two classes
Textbook Use Pattern
1. Activate background knowledge about the topic
2. Discuss, read, and write (a little) about the topic
3. Consolidate learning:
*activities such as group discussion, presentation, or role plays in class
*practice speaking and paper tests
4. Evaluation at the end of the course -Paper test and Discussion Test

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Orientation to the course Greetings and Names	Introductions Administrative tasks Overview of the course Textbook Distribution Overview of the textbook Basic English Skill（BES 0） North American Greetings and Names
第2回	Vacations The English Course Discussion Book 1 Unit 1 (TEC DB 1 Unit 1)	BES 1+2 Classroom Language and Group work Info about the Website / Register for the Website Unit Warm-up DB1 tasks: *Task 2 Vocabulary exercise *Task 1: Warm-up questions (discuss in groups) Tasks 3-6 Unit Listening and Reading Music HW: Prepare selected answers for DB 1 Task 7
第3回	Vacations TEC DB 1 Unit 1	BES 3 Basic oral sentence formation Unit Main Tasks 1.Task 7 Further Discussion *Check HW (selected answers for DB 1 Task 7) *Practice in groups *Task 8 Asking for and giving opinions.
第4回	Movies TEC DB 1 Unit 2	BES 4 Yes/No Question forms Unit Warm-up DB1 tasks: Task 2 Vocabulary exercise Task 1: Warm-up questions (discuss in groups) Tasks 3-6 Unit Listening and Reading Music HW: Task 10 Go to website and complete exercises for Unit 1 HW: Unit 1 Practice Test HW: Prepare selected answers for DB 1 Task 7 Unit 2 Movies
第5回	Movies TEC DB 1 Unit 2	BES 5 Effective answers to Yes/No questions Check Unit 1 Practice Test Unit Main Tasks 1.Task 7 Further Discussion *Check HW (selected answers for DB 1 Task 7) *Practice in groups *Task 8 Understanding Criteria

第6回	Part-time Jobs TEC DB 1 Unit 4	BES WH 6 Question and answer forms Check Unit 2 Practice Test Unit Warm-up DB1 tasks: Task 2 Vocabulary exercise Task 1: Warm-up questions (discuss in groups) Tasks 3-6 Unit Listening and Reading Music HW: Task 10 Go to website and complete exercises for Unit 2 Movies HW: Unit 2 Practice Test HW: Prepare selected answers for DB 1 Task 7 Unit 4 Part-time Jobs
第7回	Part-time Jobs TEC DB 1 Unit 4	BES 7 Effective answers to WH questions Check Unit 2 Practice Test Unit Main Tasks 1.Task 7 Further Discussion *Check HW (selected answers for DB 1 Task 7) *Practice in groups *Task 8 Giving Reasons
第8回	Learning English TEC Unit 5	BES 8 Follow-up questions Unit Warm-up DB1 tasks: Task 2 Vocabulary exercise Task 1: Warm-up questions (discuss in groups) Tasks 3-6 Unit Listening and Reading Music HW: Task 10 Go to website and complete exercises for Unit 4 Part-time Jobs HW: Unit 4 Practice Test HW: Prepare selected answers for DB 1 Task 7
第9回	Learning English TEC Unit 5	BES 9 Rebound questions Check Unit 4 Practice Test Unit Main Tasks 1.Task 7 Further Discussion *Check HW (selected answers for DB 1 Task 7) *Practice in groups *Task 8 Supporting Your Reasons
第10回	Hopes and Dreams TEC Unit 6	BES 10 and 11 Reactions and Pausing Unit Warm-up DB1 tasks: Task 2 Vocabulary exercise Task 1: Warm-up questions (discuss in groups) Tasks 3-6 Unit Listening and Reading Music HW: Task 10 Go to website and complete exercises for Units 5 and 6 HW: Study for the Unit 6 (Hopes and Dreams) Final Test HW: Prepare selected answers for DB 1 Task 7
第11回	Hopes and Dreams TEC Unit 6 Prepare for tests	Review of BES Unit Main Tasks 1.Task 7 Further Discussion *Check HW (selected answers for DB 1 Task 7) *Practice in groups *Task 8 Asking Questions
第12回	Evaluation Future study	Paper Test Discussion Speaking Test Check files What to do now

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework may take one hour per day.

【テキスト（教科書）】
Textbook will be distributed in the first class.

【参考書】
Dictionary – English to English – Japanese to English – English to Japanese
We will add some Smartphone apps (アプリ) in class.

【成績評価の方法と基準】
1.Print File(/5%)
2.Selected answers for Task 7 Further Discussion questions(/10%)
3.Group presentations, role plays(/5%)
4.Task 2 Vocabulary and Practice paper test (checked in class)(/5%)
5.Unit 6 Hopes and Dreams final test(/35%)
6.Group Discussion Test(/20%)
7.Bonuses (A or better work)(/10%)
8.Participation 1: Measure of how much you used English as the first language(/5%)
Participation 2: class problem solving, helping other students, class preparation(/5%)

【学生の意見等からの気づき】
None. Have not taught this course before.

【学生が準備すべき機器他】
Writing goods, notebook, clear file for prints

【Outline (in English)】
英語 S (6) is a basic four-skills course. We will use all skills, but speaking will be most important. Listening, reading, and a small amount of writing will support speaking improvement. There are four strands in most lessons.
Outline:
Strand 1: Review of basic English communication skills (10 - 15 minutes per class)
Strand 2: Working with the textbook: learn discussion skills and practice (main activity)
Strand 3: Researching and writing good answers to discussion questions (main activity)
Strand 4: Cool down: Listening to amazing music plus do a related activity (10 minutes per class)
Four specific objectives for students:
1. Produce effective speaking and writing
2. Develop critical thinking skills (批判的思考スキル)
3. Develop independent learning skills (ex. Use of the textbook website, use of the textbook, organization and planning)
4. Develop student skills as necessary (record keeping, punctuality, effective lesson preparation, effective group work)

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（7）（夏期スクーリング）

塩谷　幸子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成します。

【到達目標】
基礎から一歩踏み出すための初級英語クラスです。主な目標は英文を正確にすばやく読み取る力を養うことです。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング），ある一定の速度で安定的に読む訓練を行います。音声に合わせて聞き読みをしたり，声に出して読む練習も繰り返し行います。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙の定着を図り、平易な英語で自分の意見を伝える表現力を養います。さらに、一人で勉強を続けるために必要な自律的学習方法についての情報も共有します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は映画教材のテキストを中心に進めます。ペア・ワークやグループ・ワークを積極的に取り入れながら、クラスメートと共に効率よく学習します。英語⇄日本語の変換練習や音読練習を毎回行います。また、映画を見ながらアメリカの社会や文化についての理解も深めていきます。映画は『フォレスト・ガンプ　一期一会』です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション & Unit 1: The KuKlux Klan	Pre-viewing, Featured Scene, Vocabulary, Comprehension (pp. 1-3)
第2回	Unit 2: Elvis Presley	Pre-viewing, Featured Scene, Vocabulary, Comprehension (pp. 7-9)
第3回	Unit 3: John F. Kennedy	Pre-viewing, Featured Scene, Vocabulary, Comprehension (pp. 13-15)
第4回	Unit 4: The Folk Song Movement	Pre-viewing, Featured Scene, Vocabulary, Comprehension (pp. 19-21)
第5回	Unit 5: The Vietnam War	Pre-viewing, Featured Scene, Vocabulary, Comprehension (pp. 25-27)
第6回	Unit 6: Vietnam War Veterans and PTSD	Pre-viewing, Featured Scene, Vocabulary, Comprehension (pp. 31-33)
第7回	Unit 7: Hippies	Pre-viewing, Featured Scene, Vocabulary, Comprehension (pp. 37-39)
第8回	Unit 8: John Lennon	Pre-viewing, Featured Scene, Vocabulary, Comprehension (pp. 43-45)
第9回	Unit 9: Watergate	Pre-viewing, Featured Scene, Vocabulary, Comprehension (pp. 49-51)
第10回	Unit 10: Apple Computer	Pre-viewing, Featured Scene, Vocabulary, Comprehension (pp. 55-57)
第11回	Unit11-12の映画鑑賞＆まとめ	課題提出＆質疑応答
第12回	期末試験	まとめ＆筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回進む範囲は「授業計画」に記載してあります。予習は指定されているページのみ行ってください。各ユニットのPre-viewingの答えは、ユニット最後の日本語解説にヒントがあります。

【テキスト（教科書）】
American History in Focus（Macmillan LanguageHouse, 2005）

【参考書】
伊藤サム「英語の世界：やさしくたくさん」< http://mellow.na.coocan.jp/>
古川昭夫『英語多読入門(めざせ! 100万語)』（コスモピア、2010）
その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）50％＋平常点（小テスト＋課題＋参加態度）50％によって評価します。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。出席については、スクーリングの規定に準拠します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようです。基礎を学び直す授業を行った結果、わかっていたつもりでも意外と理解していないことに気づかされたというコメントや、逆に、英語に自信のつく6日間だったという回答も寄せられました。また、ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行ったり、映画や音楽を多く取り入れたせいでしょうか、授業が和気藹々と楽しく進んだという感想も寄せられました。その一方、授業の進め方が少し速かったとの指摘がありましたので、改善に努めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
辞書の引き方を指導しますので、紙媒体、電子版、アプリなどの辞書を持ってきてください。スマートフォンをお持ちでしたらご持参ください。学内LAN（無料）を利用して、いろいろなウェブサイトを紹介します。

【Outline (in English)】
The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively in order to become responsible global citizens.
· Students will learn to read efficiently.
· Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.
· Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（8）（夏期スクーリング）

金谷　優子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、TED TALKSのプレゼンテーションで繰り広げられた種々の独創的なアイディアに触れつつ、英語の4技能：読み、聴き、話し、書く–を総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKSの英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】
・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること

・複雑な構文や語句を理解すること
・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること

・英語の音声を聴いて、必要な情報を得ること

・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること

・沢山の人々の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
各トピックについてそれぞれを３部構成とします。第1部では、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術(Reading Skills)について学びます。第2部では、実際にTED TALKの発表を聴き、またそのscript を読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、第３部では、学習事項の確認テストを行い、各トピックについて更にリサーチを進め、TEDでの発表に関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	What is TED?
第2回	Unit 1: Life Changes	Topic:Interdisciplinary Reading Skills: Understanding sequence words,... etc.
第3回	Unit 1: Life Changes	TED TALK by Matt Cutts Academic Skills: Understanding main ideas,...etc.
第4回	Unit 1: Life Changes	Research & Presentation
第5回	Unit 7: Roads to Fame	Topic:Communication/ Sociology Reading Skills: Scanning for numbers,...etc.
第6回	Unit 7: Roads to Fame	Unit 7:TED TALK by Kevin Allocca
第7回	Unit 7: Roads to Fame	Unit 7:TED TALK by Kevin Allocca
第8回	Unit 7: Roads to Fame	Research & Presentation
第9回	Unit 9: Community Voice	Topic:Visual Arts / Sociology Reading Skills: Understanding a paragraph's purpose
第10回	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang
第11回	Unit 9: Community Voices	Research & Presentation
第12回	Final Test	Final Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習：学生は、各Unitで扱うTED Talkをインターネット上で聞き、また、テキスト巻末のスクリプトを参照し、理解しにくかった語彙、表現、文章などを特定し、checksheetに記入しておく。
授業で扱うTED Talk のURLは以下になります。
Unit 1: TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

Unit 7: TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral
https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja
Unit 9: TED TALK by Cindy Chang: Before I die, I want to …
https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja
復習：checksheetに記入した事項を習得することができたか、確認する。
宿題：授業で扱ったTED Talk 関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

【テキスト（教科書）】
TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5
その他、プリント配布

【参考書】
https://www.ted.com/

【成績評価の方法と基準】
評価基準：授業参加度（授業内での発言およびchecksheetの提出）50％、期末テスト50％

4回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3回遅刻あるいは早退すると、1回欠席としてカウントされます。30分以上の遅刻は欠席とみなされます。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
【学生が準備すべき機器他 / Equipment student needs to prepare】
授業には必ず辞書を持参すること。

【Outline (in English)】
This course is designed to increase the student's ability to develop their overall English Language skills, while learning about specific topics from TED Talks. Students are expected to improve their reading and listening skills as well as broaden their understanding of current event topics.
[Overall Objectives]
To help students

・expand vocabulary knowledge
・improve reading and listening comprehension skills
・improve English comprehension without the aid of translation
・identify the main idea
・clarify the structure of a paragraph
・develop global and cross-cultural awareness
・develop creative and critical thinking skills
・effectively express opinions on current events

LANd100TA（ドイツ語 / German language education 100）

独語S（夏期スクーリング）

高橋　憲子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語文法の後半部分を学びます。基礎的な練習によって、ドイツの言語を学習するばかりでなく、それを通して見えてくるドイツ人のライフスタイルについても考えていくことになるでしょう。

【到達目標】
辞書と教科書を参照すれば基本的なドイツ語の文章が読解できるようになることを、この授業の到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
説明の後、豊富な練習を通して理解を確認していきます。この授業は文法の後半部分を対象としたものなので、前半部分については学習済みであることを前提としています。
前半部分とは、使用する教科書に即して言えば４Ｂまでで、次のテーマが対象です：
1. 動詞の現在形　　2. 名詞と冠詞、人称代名詞　　3. 命令文
4. 前置詞
5. 話法の助動詞　　6. 分離動詞
これらのテーマを学習した際に生じた疑問を整理しておきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	動詞の3基本形	説明と練習
第2回	現在完了	説明と練習
第3回	過去形	説明と練習
第4回	接続詞	説明と練習
第5回	受動態	説明と練習
第6回	非人称表現・zu不定詞	説明と練習
第7回	形容詞	説明と練習
第8回	再帰代名詞	説明と練習
第9回	関係文	説明と練習
第10回	接続法Ⅱ式	説明と練習
第11回	接続法Ⅰ式	説明と練習
第12回	理解度確認	持ち込み可能の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日宿題を出します。

【テキスト（教科書）】
シュトラーセ・ノイ　Ver.3.0
執筆者：Gesine Goessner 他
朝日出版社
2400円

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
宿題の提出状況など、平常の学習態度を主に評価の基準とし（90％）、持ち込み可能の試験の結果（10％））も踏まえて、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
We learn German grammar.

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）

仏語S（夏期スクーリング）

佐藤　正和

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「大学で、英語以外どんな言語を学びました？」こんな質問が最近就職の面接でされるようになりました。日本企業の英語圏以外の進出はめざましく、英語以外のさまざまな言語が必要な時代になっているからです。フランス語は、フランスを含めたユーロ圏、そしてアフリカ諸国でも使用される重要な言語です。大学で身につけておくべきスキルの一つだと思います。 フランス語は、初めて学ぶことになるかもしれませんが、英語を学ぶ時より簡単に身につきます。というのも、二つの言語は体系的に 似かよっているからです。 この講座では、フランス語の綴りが読めるのと自己紹介ができる程度のフランス語の能力を習得が目標です

【到達目標】
フランス語の綴りを確実に読むことができることと自己紹介ができる程度のフランス語の能力の習得が目標です

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
文法の説明の後、その関連問題を解き、スキットを行い、リスニングを行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	L０	オリエンテーション 綴り字の読み方１
第2回	L0	綴り字の読み方２
第3回	L1	読み方の試験 文法
第4回	L1	文法の演習 スキットの解説
第5回	L1とL2	リスニング L2の文法
第6回	L2	文法の演習 スキット解説
第7回	L2とL3	リスニング L3の文法
第8回	L３	文法の演習 スキットの解説
第9回	L3とL4	リスニング L4の文法
第10回	L4	文法の演習 スキットの解説
第11回	L4とL5	リスニング L5の文法
第12回	まとめ	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日で大変でしょうが、宿題を必ずやってください

【テキスト（教科書）】
『新・彼女は食いしん坊１』（朝日出版）

【参考書】
特にありません

【成績評価の方法と基準】
文法の演習などによる平常点（３０％）
試験（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
特にありません

【Outline (in English)】
The acquisition of the ability of speaking and reading primary French

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合演習（夏期スクーリング）

中澤　史

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1.身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2.豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3.自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4.卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5.就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ総合演習は，1日2コマ・6日間にわたって開講される集中授業である。授業では「スポーツ」と「健康」をキーワードとした講義に加え，グループワーク，トレーニング等の実習を行う。この授業では，授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え，授業内で課すレポート課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要説明，他己紹介の実施
第2回	スポーツとコミュニケーション	グループワーク（気になる自画像）を通して自他理解を深める
第3回	自己評価と他者評価	グループワーク（ジョハリの窓）を通して自他理解を深める
第4回	スポーツとパーソナリティ	自己分析への取り組みを通して自己理解を深める
第5回	体力測定	体力測定に取り組む
第6回	健康と体力	体力測定の評価を通して自身の身体的健康について考察する
第7回	トレーニングの実際	トレーニングの理論と方法について学ぶ
第8回	トレーニングと安全管理	トレーニング実施上の注意事項と安全管理について学ぶ
第9回	健康を考える	ダイエットの理論と方法について学ぶ
第10回	トレーニング演習	トレーニングのオリジナルメニューを作成する
第11回	スポーツと人間心理	コミュニケーションスキルを評価する
第12回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習にあたっては，授業での身体活動時に心身の不備が無いよう，各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また，授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
特定の参考書は使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・授業態度，および授業内レポートによる総合評価。
１．授業中の活動に対する参画状況・授業態度　４０％
２．授業内レポート　６０％

【学生の意見等からの気づき】
1.食事，休養，睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.講義中の私語等，他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【学生が準備すべき機器他】
・スポーツウェア，室内用シューズを持参してください。（貸し出しはありません）

【その他の重要事項】
・必ず初回授業から出席してください。履修希望者が多数の場合，受講者を制限します。

【Outline (in English)】
This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educare to maintain and promote their own health,to acquire important knowledge to self health care, and to develope attitudes for that.

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

健康・スポーツ科学概論（夏期スクーリング）

大須賀　洋佑

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、健康・スポーツ科学分野における応用的な健康問題を学習するために、「科学的根拠に関する基礎知識」、「疾病予防と運動」、「介護予防と運動」の3つを学習テーマにして取り組みます。

【到達目標】
1. 科学的根拠に関する基礎知識を獲得する。
2. 疾病予防と運動に関する基礎知識を獲得し、各種疾病を予防するための具体的な運動方法を説明できるようになる。
3. 介護予防と運動に関する基礎知識を獲得し、介護予防のための具体的な運動方法を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業の目標を達成するためには、健康・スポーツ科学分野における応用的な健康問題について、まずは「知る」、次に「考える」、そして「行動（計画）する」ことが重要となります。講義、質疑応答、小テストを通して知識を深め、グループワークを通して考えて行動する能力を向上できるよう、授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとオリエンテーション	授業の全体概要、ねらい、進め方、到達目標、成績評価などを説明する。
第2回	科学的根拠に関する基礎知識①	科学的根拠とは何か？ について具体的に説明できるようになる。
第3回	科学的根拠に関する基礎知識②	科学的根拠の正しい捉え方について具体的に説明できるようになる。
第4回	科学的根拠に関する基礎知識③	質疑応答と小テストを通して、科学的根拠に関する基礎知識を一層深める。
第5回	疾病予防と運動について学ぶ①	肥満症、高血圧、脂質異常症と運動
第6回	疾病予防と運動について学ぶ②	糖尿病、心疾患、脳血管疾患と運動
第7回	疾病予防と運動について学ぶ③	グループワークを通して、各種疾病を予防するための具体的な運動方法を説明できるようになる。
第8回	疾病予防と運動について学ぶ④	質疑応答と小テストを通して、疾病予防と運動に関する基礎知識を一層深める。
第9回	介護予防と運動について学ぶ①	転倒、サルコペニア、フレイルと運動
第10回	介護予防と運動について学ぶ②	閉じこもり、認知症と運動
第11回	介護予防と運動について学ぶ③	グループワークを通して、介護予防のための具体的な運動方法を説明できるようになる。
第12回	介護予防と運動について学ぶ④	質疑応答と小テストを通して、介護予防と運動に関する基礎知識を一層深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容の理解度が高まるように、また、質の高いグループワークを行えるように、毎回情報を収集してから授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
エクササイズ科学（田中喜代次・田畑泉編/文光堂/2012）
※購入する必要はありませんが、あると授業の理解度が深まります。

【成績評価の方法と基準】
1）授業参画の状況（出席率、遅刻の有無）が60%、2）授業の到達目標に対応した小テストが40%の配分で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This class challenges to three themes including "basic knowledge of scientific evidence", "exercise and disease prevention", and "exercise and disability prevention" to learn practical health problems in the area of health and sports science.

LAW300TB（法学 / law 300）

行政法（夏期スクーリング）

氏家　裕順

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、われわれ私人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、実質的な立法活動も行っており、私人の権利義務を一般的に規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。

行政法という科目において学習することは多岐にわたる（西田幸介『行政法』〔法政大学通信教育部、2016年〕、あるいは、通信学習「行政法」シラバスを参照のこと）が、夏期スクーリングでは、行政法の基本的事項といえるものを学習する。具体的には、行政法の法源、法律による行政の原理、行政の各種の行為、行政行為、行政上の強制執行、行政契約について学ぶ。

法源に関しては様々な議論が存在するが、行政法の法源は、行政活動をめぐる紛争が生じた際にこれを裁判所が裁断する際の基準となるものである。そのうち、成文法には、上位法と下位法があり（例えば、法律と命令が上位法と下位法の関係にある）、それらの関係（階層構造）の理解が、法律の法規創造力の原則、委任命令の限界などの学習にとって必要不可欠であるといえる。

法律による行政の原理は、行政の行為の適法性を問うための基本的な法原理である。このなかには、法律の法規創造力の原則、法律の優位の原則および法律の留保の原則が含まれ、これらを適切に理解できることが期待される。

行政の各種の行為について、従来、行政法学は、行政の無数の行為を、行政立法、行政行為、行政契約、行政指導などの各種の行為（行政の行為形式、行為形式ともいう）に分類したうえで、それらの行為の法的規制について考察してきた。その分類基準である、法行為および事実行為、権力的行為および非権力的行為の各概念も、行政法学にとって基本的なものである。

行政の各種の行為のうち、行政行為と行政契約は、私人の権利・義務を具体的に決定する行為であるという点で共通するものである。この点に着目してこれらの行為形式を学ぶ。なお、両者の定義上の違いは、行政行為がその相手方である私人の同意を要しない行為であり、行政契約が私人の同意を要する行為である点に存在する。

行政上の強制執行とは、私人が行政上の義務を任意に履行しないときに、行政自らが将来に向かって直接的にあるいは間接的に義務を履行させまたは義務の履行があったのと同一の状態を作り出すことをいう。このための手段として、代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収がある。これらのうち、一般法のある代執行と、個別法で範とされることのある国税滞納処分を中心に学習する（以上について、参照、前掲・西田11頁、337頁、348頁など）。

【到達目標】

行政法の法源について説明することができる。
法律による行政の原理について説明することができる。
行政の各種の行為（行政の行為形式）について説明することができる。
行政行為の意義と分類を説明することができる。
行政上の強制執行について、代執行および行政上の強制徴収を中心に、説明することができる。
行政契約について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式による

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	行政法の法源	成文法と不文法　各種の法の効力
第2回	法律による行政の原理（1）	法律の法規創造力の原則　法律の優位の原則
第3回	法律による行政の原理（2）	法律の留保の原則
第4回	行政の各種の行為（1）	法行為と事実行為　権力的行為と非権力的行為
第5回	行政の各種の行為（2）	抽象的行為と具体的行為　行政の各種の行為の意義と法的規制
第6回	行政行為（1）	意義　法効果による分類
第7回	行政行為（2）	法的規制
第8回	行政上の強制執行（1）	行政上の強制執行の諸手段　代執行
第9回	行政上の強制執行（2）	行政上の強制徴収
第10回	行政契約（1）	意義と分類　実体的規制
第11回	行政契約（2）	手続的規制　行政契約の履行強制の手段
第12回	まとめに代えて	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スクーリングの開講日までに、後掲の参考書のいずれかを通読する。毎回の授業後、参考書に当たりながら、自筆のまとめノートを作成する。

予習および復習が適切かつ充分に行われるべきであるが、スクーリング期間中に時間が確保できないなどの理由で充分な復習ができない者には、しっかり予習したうえで、疑問点を、授業前後での質問を通して、あるいは、授業中に理解を深めて、解消することが求められる。

【テキスト（教科書）】

配布するレジメと資料

【参考書】

宇賀克也『行政法概説Ⅰ〔第6版〕』（有斐閣、2017年）
大橋洋一『行政法Ⅰ〔第3版〕』（有斐閣、2016年）
塩野宏『行政法Ⅰ〔第6版〕』（有斐閣、2016年）
芝池義一『行政法読本〔第4版〕』（有斐閣、2016年）
芝池義一『行政法総論講義〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年）
曽和俊文＝山田洋＝亘理格『現代行政法入門〔第3版〕』（法律文化社、2015年）
西田幸介『行政法』（法政大学通信教育部、2016年）
原田尚彦『行政法要論〔全訂第7版補訂2版〕』（学陽書房、2012年）
藤田宙靖『行政法総論』（青林書院、2013年）
室井力編『現代行政法入門（1）〔補訂版〕』（法律文化社、2005年）

【成績評価の方法と基準】

試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

事前の予習が講義内容を十分に理解するために必要不可欠なことであるといえる。

【学生が準備すべき機器他】

西田幸介『行政法』（法政大学通信教育部、2016年）を携帯することが望ましい。参照箇所を示したり記載事項を解説したりすることがあるため。

【その他の重要事項】

メディアスクーリングまたはスクーリングにおいて行政法をすでに履修したか、あるいは現に履修している者が、重ねて、この授業を履修することは、想定していない。

これとは別に、行政法（という科目での学習内容）を理解できていない場合には、行政救済法も理解できない。そのため、行政法を充分に学んだ後に、行政救済法を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn the fundamentals of administrative law; specifically, (1) to study sources of law, the rule of 'the executive function bounded by legislation', and classes of acts performed by executive agencies (hereinafter these acts are simply referred to as 'acts'), (2) to know the way how acts have effect on individual rights and obligations, and (3) to understand acts which may be done for the purpose of ensuring that an individual administrative obligation should be satisfied. As concern the above (3), there are some mechanisms, but you are expected to chiefly learn (a) a measure, a procedure, and requirements, all of which are laid down by the Act on Substitute Execution by Administration 1948 (c.48) and (b) a procedure and requirements, which are both provided by the National Tax Collection Act 1959 (c.147). These all studies would concern about your understanding of administrative relief.

As concern the above (1), the rule of 'the executive function bounded by legislation' is comparable though not identical idea of 'the rule of law'. Concerning the above (2), there are final and unilateral acts: acts done without individual (private citizens') consent. On the other hand, there are also bilateral acts: acts done only with individual consent (these acts are similar to conclusion of government contract in the parties which is relevant and the fact that these acts are subject to special legal controls). About (3) mentioned above, 'an individual administrative obligation' is laid down by administrative law or imposed by acts. That measure, laid down by the Act 1948, may be employed by executive agencies in order to fulfil the above-mentioned obligation on behalf of the individual or so as to make third parties meet the obligation. That procedure, created by the Act 1959, may be applied by executive agencies in order to collect national tax arrears. This collecting procedure is occasionally laid down in the other Acts.

After completing this course, you should be able to:

- Explain what sources Japan's law stems from;
- Explain the rule of 'the executive function bounded by legislation';
- Explain how acts are classified into several sorts (classification based on their nature);
- Explain what are decisive and unilateral acts and how these acts affect individual rights and obligations;
- Explain the meaning and legal controls of bilateral acts (see above);
- Sketch out mechanisms which is provided in order to ensure that an individual administrative obligation should be fulfilled; and
- Explain requirements and so on which are laid down by the Act on Substitute Execution by Administration 1948 (c.48) and by the National Tax Collection Act 1959 (c.147).

LAW400TB（法学 / law 400）

民事訴訟法（夏期スクーリング）

杉本　和士

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・この講義は，具体的な民事紛争を念頭に置きながら，民事紛争の解決という観点からみて民事訴訟がどのような性格を有しているのか，民事訴訟法における諸概念がどのような意義を有しているのか，また，具体的にどのような手続として運営されているのかについて理解することを目的とします。

【到達目標】
・第1審までにおける民事訴訟手続（判決手続）の手続構造を理解し，かつ，個々の規律を条文に即して説明することができる。
・民事訴訟法における基本概念及び基本原則について，条文及び具体例に即して適切に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・この講義では，教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行ってくることを前提として講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方等） 民事紛争解決制度としての民事訴訟 民事訴訟審理の基本構造と基本概念	ガイダンスを行った後，民事訴訟制度の全体像及びその基本構造について概観する。
第2回	訴えの提起（1）	訴え・処分権主義・請求の趣旨及び原因・訴訟物，訴訟要件，訴えの利益
第3回	訴えの提起（2）	当事者，当事者の確定，当事者能力，訴訟能力
第4回	訴えの提起（3）	訴訟上の代理，法人等の代表者，当事者適格，第三者の訴訟担当
第5回	訴えの提起（4）	裁判所・裁判官，管轄，訴え提起の効果
第6回	口頭弁論（1）	口頭弁論の意義及びその必要性，口頭弁論における諸原則
第7回	口頭弁論（2）	弁論主義，釈明権
第8回	口頭弁論（3）	裁判所による口頭弁論の指揮，口頭弁論期日の実施とその準備，争点整理手続
第9回	口頭弁論（4）	証拠調べ
第10回	判決	判決の種類，判決の成立・確定，既判力
第11回	裁判によらない訴訟の終結，上訴	訴訟上の和解，請求の認諾・放棄，訴えの取下げ，控訴，上告
第12回	講義のまとめ，試験	試験を実施した後，この講義での学習内容についての確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業時間外の学習（予習・復習のほか，発展学習）に関する一般的な指示は，初回ガイダンスで行うほか，各回の講義内容に関する予習・復習に関しては，講義時に指示します。

【テキスト（教科書）】
・講義は，教員の配布する講義ノート等の教材を用いて進めます。

【参考書】
＜入門書＞本講義を受講するに当たり，下記のいずれか（できれば双方）を熟読しておくことを« 強く » 推奨します。いずれも民事訴訟手続に対する理解に大いに役立つ，小説仕立ての入門書です。
・福永有利＝井上治典著・中島弘雅＝安西明子補訂『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣，2016年）
・山本和彦『よくわかる民事裁判〔第3版〕』（有斐閣，2018年）
＜本格的な体系書として＞
・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂，第5版，2011年）
・伊藤眞『民事訴訟法』（有斐閣，第6版，2018年）
＜各テーマに関する詳細な検討について＞
・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣，第2版補訂版，2013年）
・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣，第2版補訂版，2014年）
＜判例集＞　下記のいずれか1冊を持っておくことをお薦めします。
・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣，第2版補訂，2010年）
・高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣，第5版，2015年）
・中島弘雅＝岡伸浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務，2015年）

【成績評価の方法と基準】
・最終試験100％により評価する。なお，成績評価に際しては，上記の到達目標が指標となる。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.
The goals of this course are to
(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedre.
(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

LAW400TB（法学 / law 400）

刑事訴訟法（夏期スクーリング）

田中　開

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
刑事訴訟法につき講義する。
刑事訴訟法は、刑事手続を規律する法である。刑事手続は、捜査に始まり、公訴の提起、第一審の公判手続・裁判、上訴、刑の執行という一連の手続である。その目的は、適正な手続により、真犯人を処罰することにある。本授業は、学生の皆さんが、刑事訴訟法ないし刑事手続につき基本的な知識・理解を得ることを目的とする。

【到達目標】
学生の皆さんが、①刑事手続の流れを知り、②関係条文を把握し、③基本的専門用語を理解するとともに、④判例・学説を学習することにより、刑事訴訟の理念と実際につき基本的な理解を得ることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に、講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	捜査の基本、捜査の端緒	強制捜査と任意捜査、職務質問と所持品検査につき解説する。
第2回	捜査の実施（1）	逮捕と勾留につき解説する。
第3回	捜査の実施（2）	被疑者等の取調べにつき解説する。
第4回	捜査の実施（3）	捜索・差押え・検証につき解説する
第5回	捜査の実施（4）、被疑者の防御、捜査の終結	その他の捜査方法、黙秘権と接見交通権、捜査の終結につき解説する。
第6回	公訴の提起	起訴便宜主義、起訴状一本主義、公訴事実と訴因につき解説する。
第7回	訴因の変更	訴因変更の要否、可否につき解説する。
第8回	証拠（1）	証拠による証明、違法収集証拠の排除につき解説する
第9回	証拠（2）	自白法則につき解説する。
第10回	証拠（3）	伝聞法則につき解説する。
第11回	裁判、上訴、再審	択一的認定、一事不再理効を中心に解説する。
第12回	最終試験	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生の皆さんは、教科書（下記1）をあらかじめざっと通読しておくことが望ましい。条文は、常に確認すること。六法は、持参すること。

【テキスト（教科書）】
1　長沼範良・田中開・寺崎嘉博「刑事訴訟法」第5版（有斐閣　2017年　2,200円＋税）
2　井上正仁ほか「刑事訴訟法判例百選」第10版（有斐閣　2017年　2,400円＋税）

【参考書】
1　井上正仁・酒巻匡「刑事訴訟法の争点」（新・法律学の争点シリーズ）（有斐閣　2013年　2,000円＋税）

【成績評価の方法と基準】
最終日に行う筆記試験により評価する（１００％）。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
Lecture
Criminal procedure
Law and practice

LAW300TB（法学 / law 300）

倒産法（夏期スクーリング）

倉部　真由美

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倒産とは、債務者が、その有する財産、信用力、収入・収益などを総合的に考慮して、債権者に対して債務の全般を支払えなくなる状況をいう。このような状況を処理するための法律を総称して、一般的に倒産法というが、その中には、破産法、会社法の特別清算の部分、民事再生法、会社更生法が含まれる。前二者を清算型と呼び、債務者の財産を換価することによって得られた換価金から債権者に平等に配当することを主たる目的としている。後二者を再建型と呼び、債務者を再生・再建することにより将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする。
本講義では、これらの倒産処理法の基本である破産法を扱う。

【到達目標】
①破産法の理念と手続の目的を理解する。
②破産手続の基本的な流れと基礎概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・授業は、適宜配布するレジュメに沿って進行する。
・レジュメの中で、テキストの該当箇所も指示するので、復習に役立ててもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	倒産法の世界へようこそ	ガイダンス／倒産法の必要性と目的
第2回	倒産処理手続のアウトライン	わが国の倒産処理制度にはどのようなものがあるのか。法的な手続だけでなく私的整理も紹介する。
第3回	破産手続の申立てから開始まで	破産手続の開始申立て、開始決定、保全処分を扱う。
第4回	破産財団	破産財団、管財人とその職務、取戻権を扱う。
第5回	破産債権・財団債権	破産債権とは何か、その種類と優先劣後関係、財団債権とは何かを扱う。
第6回	契約関係の処理	双方未履行双務契約を処理する一般原則と賃貸借契約を扱う。
第7回	担保権	担保権は破産手続のなかでどのように扱われるか。別除権とその取扱いを扱う。
第8回	相殺権	相殺権の行使、相殺禁止を扱う。
第9回	否認権	否認権とは何か、種類、行使方法を扱う。
第10回	配当と手続の終了	債権の届出・調査・確定、配当、手続の終了を扱う。
第11回	消費者破産	消費者破産のポイントを扱う。
第12回	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・必ず六法を携行し、こまめに条文を確認すること。
・法律学の勉強は、忍耐強く反復することが求められる。レジュメやテキストを１度読んで理解できなくても、心配することはない。１度は通読すること、分からない部分は繰り返し読むこと、それでも分からないところは、質問することで、理解を深めていってほしい。

【テキスト（教科書）】
高田賢治・上江洲純子・倉部真由美『ストゥディア倒産法』（有斐閣、2018年10月刊行予定）
携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】
読みやすいものを選んで自習すること。
・谷口安平監修／山本克己・中西正編『レクチャー倒産法』（法律文化社、2013年）
・山本和彦『倒産処理法入門〔第5版〕』（有斐閣、2018年）
・山本和彦ほか『倒産法概説〔第2版〕』（弘文堂、2010年）
・徳田和幸『プレップ破産法〔第5版〕』（弘文堂、2012年）
倒産判例について
・青山善充=伊藤眞=松下淳一『倒産判例百選〔第５版〕』（有斐閣、2013年）
・瀬戸英雄=山本和彦『倒産判例インデックス〔第2版〕』（商事法務、2010年）

【成績評価の方法と基準】
出席（３３％）、筆記試験（６７％）

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【Outline (in English)】
This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of bankruptcy in Japan. We will primarily focus on the procedure of Bankruptcy.

LAW300TB（法学 / law 300）

手形法・小切手法（夏期スクーリング）

笹久保　徹

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は手形法に関する講義である。
近年はインターネットの普及に伴って電子決済が発展し、企業の決済手段としての手形は、かつてほど絶対的な意味をなさなくなった。しかしながら、現在においてもなお、中小企業等においては手形が頻繁に利用されている。本授業の目的は、受講生が手形の基本的なルールを知り、手形および企業決済に関連する問題に関心を持つことにある。本授業は、授業時間との関係上、約束手形に関する解説を中心とした講義となる。

【到達目標】
・手形の基本的ルールを理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・手形に関する法律問題を知り、それに関する判例及び学説の見解を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式である。受講生のほとんどが初めて手形法を学ぶ者であろうから、授業は基礎的な解説を中心に丁寧に進めるつもりである。レジュメや資料を配布し、図解を駆使して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 手形の概要1	ガイダンス及び手形の沿革に関する解説。
第2回	手形の概要2	有価証券及び手形の概要に関する解説。
第3回	原因関係	原因関係と手形関係に関する解説。
第4回	手形要件	手形の記載事項に関する解説。
第5回	手形の振出	手形の振出等に関する解説。
第6回	手形の譲渡	手形の裏書等に関する解説。
第7回	善意取得・手形抗弁	善意取得及び手形抗弁等に関する解説。
第8回	他人による手形行為	他人による手形行為、偽造、変造等に関する解説。
第9回	約束手形の支払い、遡求	手形の支払いや遡求に関する解説。
第10回	白地手形	白地手形に関する解説。
第11回	時効、利得償還請求権等	時効や利得償還請求権に関する解説。
第12回	試験	筆記試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の際には、条文を参照しつつ、授業での配布物や参考書等を熟読すること。予習よりも復習に力を注いでもらいたい。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
・大塚龍児＝林たつみ＝福瀧博之『商法Ⅲ　手形・小切手〔第5版〕』（有斐閣Sシリーズ）（有斐閣、2018）本体価格2300円
・弥永真生『リーガルマインド手形法・小切手法〔第3版〕』（有斐閣、2018）本体価格2800円
・前田庸『手形法・小切手法』（法律学大系）（有斐閣、1999）本体価格6000円
・神田秀樹＝神作裕之編『手形小切手判例百選〔第7版〕』別冊ジュリスト222号（有斐閣、2014）本体価格2200円

【成績評価の方法と基準】
最終時限に実施する筆記試験の成績による（試験100％）。

【学生の意見等からの気づき】
資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
受講生は最新の六法を持参すること。
参考書は新しい版が出版されている可能性がある。新しい版が出版されている場合、新しい版を購入すること。講義の初回において、講師から説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】
This course introduces the Bills of Exchange and Promissory Notes Act to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the Bills and Notes Act. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the Bills and Notes Act, (2) able to explain clauses and systems of the Bills and Notes Act, (3) able to understand the relationship between the Bills and Notes Act and our society.

POL200TB（政治学 / Politics 200）

政治学（夏期スクーリング）

佐賀　香織

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「政治」とは何であろうか。「政治」をめぐる問いは古代より繰り返され、現代においても決着をみる定義はありません。広く定義するならば「権力をめぐる人間の営み」ということができるでしょう。本講義は政治学の基礎概念を理解し、とりわけ現代のわれわれが生きる社会における政治制度を理解することが目的です。

【到達目標】
政治学の基礎概念を把握し、現在の政治状況で論じられている問題を、本やメディアからの情報で知ったうえで、それらの問題に関して自ら考えることができるようになる知識の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では毎回レジュメを配布し、それにそって進行します。特定の教科書はありません。自らニュースに多く接して、現在の政治問題として何が取り上げられているか把握してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	政治学の基礎
第2回	国家という枠組	国家をめぐる概念
第3回	政治体制	政治体制の分類
第4回	民主化と近代化	民主化の3つの波
第5回	民主主義における選挙	代表を選出する仕組み
第6回	日本の選挙制度	選挙制度改革
第7回	政党と政党システム	政党組織、社会環境と有権者の変化
第8回	ジェンダーポリティクス	日本女性と政治
第9回	政治意識と投票行動	18歳成人と選挙権
第10回	議院内閣制	議院内閣制の仕組み
第11回	大統領制	大統領制の原則
第12回	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「現代」や「今」起っていることを授業では積極的にとりあげるので、自らニュースに多く接して、現在の政治問題として何が取り上げられているか把握するように努めてください。授業を聞いたうえで復習することを重視してください。

【テキスト（教科書）】
使用しない。プリントを配布する。

【参考書】
久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真渕勝『政治学』補訂版、東京大学出版会、2011
加茂利男、大西仁、石田徹、伊藤恭彦『現代政治学』、（有斐閣アルマ）、第4版、有斐閣、2012

【成績評価の方法と基準】
政治学を学んだことにより、問題解決能力、論理的思考、コミュニケーション能力など様々な分野で応用できるスキルが身についたかを確認する。
評価にあたっては、試験を中心とするが総合的に判断する。定期テスト80％、授業内でのグループディスカッション20％。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
前日の復習を出来るだけ行うこと。ニュースに敏感になること。

【Outline (in English)】
What is a political definition? According to the definition it would be possible to say that dispute over human behavior.This lecture understands a basic concept of political science and a political system in the society.

LAW300TB（法学 / law 300）

西洋法制史（夏期スクーリング）

高　友希子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英国の法と社会の在り方について、歴史的な視点から学ぶ。具体的には、英国中世・近代を素材に、法の手続や裁判所組織の形成・発展の過程、法曹教育の歴史について考察する。

【到達目標】
英国における法の手続や裁判所組織の形成・発展過程、法曹教育の歴史の考察を通じて、慣習法やコモン・ローの基礎概念について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、テーマに応じて講義形式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	コモン・ローの諸起源	ブリテン諸島における初期の法と慣習
第2回	コモン・ロー訴訟手続（1）	令状体系と訴訟方式
第3回	コモン・ロー訴訟手続（2）	陪審と訴答術
第4回	コモン・ロー訴訟手続（3）	判決の再審理と上訴手続
第5回	コモン・ロー裁判所の形成と発展（1）	形成～拡大
第6回	コモン・ロー裁判所の形成と発展（2）	拡大～統合・廃止
第7回	大法官府とエクイティ（1）	エクイティとは
第8回	大法官府とエクイティ（2）	大法官府裁判所の役割
第9回	国王評議会系列の裁判所	星室裁判所と請願裁判所
第10回	教会裁判所	カノン法とコモン・ロー
第11回	法曹養成と法律専門職（1）	大学法学部と法曹学院
第12回	法曹養成と法律専門職（2）	法曹学院における教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、参考文献、その他授業内で指示された文献に目を通す。

【テキスト（教科書）】
J.H.ベイカー／深尾裕造訳『イギリス法史入門〔第4版〕第Ⅰ部（総論）』（関西学院大学出版会、2014年）。

【参考書】
小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社）。
青山・今井・村岡・木畑編『イギリス史１～３』（山川出版社）。
その他については、講義中に適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
In this course, the students will learn about the origins and development of English law, legal institutions and the legal profession.

LAW300TB（法学 / law 300）

法思想史（夏期スクーリング）

大野　達司

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本法や法思想は、古くは中国の思想、明治以降は西欧の思想から影響を受けて発展してきた。そこで、自分たちの法思想を考えるために、影響を与えてきた諸思想をそれぞれの歴史的・社会的背景を意識しながら振り返り、法の原理の成立を理解する。さまざまな法分野の考え方の出発点を学ぶきっかけをつくる。

【到達目標】
西洋法思想史を概観し、その背景を理解する。またそれらがどのように日本近代法思想に影響を与えたかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を中心にして、概要を説明しながら、リアクションペーパーを毎回提出してもらう。できる限り多くのものに翌日回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	幕末・明治維新期に影響を与えた西洋法思想	日本にはじめて西洋法思想が登場したころの様子をみる。
第2回	第一回に登場した法思想とその背景	性法・自然法思想
第3回	所有権をめぐる法思想	権利の登場と所有権・清貧論争の意味
第4回	自然権論と統治の正統化	近代自然法から社会契約論
第5回	経験主義や道徳感情論による新たな局面	自然法の前提となる「自然」や人間の性質に関する新たな知見の影響
第6回	ドイツ観念論と功利主義	第5回に登場した主張の新たな展開や克服のこころみ
第7回	功利主義の日本への影響	小野梓らの法思想の西洋理解と功利主義の影響
第8回	ルソー主義対バーク	民権論に対抗する理論としてのバークの保守主義
第9回	ドイツ19世紀の公法理論とその背景	ドイツ系公法学の登場とその歴史的背景
第10回	フランス近代法思想の特徴とドイツ法典論争	民法の原理と法典編纂をめぐる論争
第11回	ドイツ近代刑法をめぐる法思想	刑法原理をめぐる論争とその背景
第12回	授業内試験	これまでの流れをもう一度ふりかえるような試験になります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書該当箇所に目を通しておき、分からないところをチェックする。前日ではなく、できれば早めに全体を通読する。

【テキスト（教科書）】
大野・森元・吉永『近代法思想史入門』法律文化社、2016年、2800円

【参考書】
指定しないが、教科書xiページにあがっている法思想史の教科書を参考にしてください

【成績評価の方法と基準】
教科書と講義での内容を正確に理解しているか。リアクションペーパーの内容は評価対象としない。
授業内試験100％。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ明確に、理解を確認しながら進めたい。リアクションペーパーはそのてがかりになるので、しっかり書いてもらえると、参考にしながら進められるので、内容に限らず積極的に書いてもらい、応答するよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline (in English)】
The Aim of this lecture is to understand the backgrounds of modern Japanese legal development in ideas and social or political situations. Students study about not only the modern legal ideas, but also the influences from Chinese philosophy in pre-modern Ara, and of western (legal) philosophy before and after Meiji Restoration.

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（夏期スクーリング）

武生　昌士

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は，知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである特許法を一通り学ぶことを内容とする。特許法は基本的には民法の特別法と位置付けられるほか，特許権の発生には特許庁という行政庁が関係することもあり，私法・公法両面にわたり学習を進めた者がそれらの理解を活かしてさらに進んで学ぶべき応用的な科目と位置付けることができる。

【到達目標】

特許法について制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより，今後特許法に関する問題に直面した際に，自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養すること，また，そのことを通じて，法的なものの考え方や法制度設計の技法を習得することが目標である。

より具体的には，第一に，特許法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し，その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に，特許法が問題となる具体的な事例（紛争）について，特許法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを，裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では，知的財産法の中核を担う法律のひとつである特許法について，産業の発達に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを，具体的な裁判例にも触れながら，講義形式で一通り説明していく。各回に配布する資料をベースに講義を進める。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが，順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明，知的財産法の全体像
第2回	特許法の概要・権利の客体(1)	特許法の全体像，発明の定義（自然法則の利用要件）
第3回	権利の客体(2)・特許の要件(1)	発明の定義（その他の要件），特許要件（新規性・進歩性）
第4回	特許の要件(2)	特許要件（先願・拡大先願など）
第5回	権利の主体	発明者，特許を受ける権利，共同発明，冒認出願に対する救済，職務発明など
第6回	権利取得の手続	出願，出願公開，審査，補正など
第7回	審判・審決取消訴訟	各種審判及び審決取消訴訟の目的と概要
第8回	特許権(1)	特許権の内容・存続期間など
第9回	特許権(2)	特許権の制限，法定通常実施権など
第10回	特許権に関する取引	特許権の譲渡，専用実施権，通常実施権など
第11回	侵害と救済	文言侵害・均等侵害・間接侵害・民事的救済など
第12回	まとめと試験	試験の実施及び全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各日程の終了時に，翌日までに予習すべき資料（論文・裁判例等）を指定する場合があるので，一読した上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお，六法を持参するなどして，特許法の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣，2010），中山信弘『特許法〔第2版〕』（弘文堂，2012），島並良ほか『特許法入門』（有斐閣，2014），駒田泰土ほか『知的財産法Ⅰ 特許法』（有斐閣，2014），愛知靖之ほか『知的財産法』（有斐閣，2018）など。

詳細は開講時に改めて，また授業中にも適宜，指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終日の試験の成績のみによって評価する（試験100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

2015年度の「法律学特講」（後期週末スクーリング）を受講し単位を修得した者については，内容が相当程度重複するので，履修は推奨しない。

【Outline (in English)】

This course covers the basics of Patent Law.

LAW300TB（法学 / law 300）

労働法（夏期スクーリング）

山本　圭子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働法の基礎を身につけることを目的とする。
学生が、労働法の意義を理解し、労働基準法、労働契約法、労働組合法の基礎を身につけることを目標とする。

【到達目標】
採用から退職に至るまでの法律適用の場面について、すなわち労働契約の成立・展開・終了、賃金・労働時間・休暇等の労働条件の基準、労働条件の変更、労働基本権について、条文・判例に基づいて正しく理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・レジュメを配布し、パワーポイントを用いて講義形式で授業を行う。
・VTR視聴や新聞記事の紹介などに係る教室内グループディスカッション及びリアクションペーパーの提出を求めることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・労働法とは	労働法の成立過程と労働法の意義を学ぶ
第2回	就職活動と法	労働契約の成立過程について、募集、選考過程、採用、試用期間について学ぶ
第3回	労働契約	労働契約法の意義と内容について学ぶ
第4回	就業規則	労働契約と就業規則の関係、労働条件の決定と変更について学ぶ
第5回	賃金・賞与・退職金	賃金の決定、最低賃金法、賃金の支払方法について学ぶ
第6回	労働時間の原則と例外	法定労働時間、労働時間の意義、変形労働時間制度について学ぶ
第7回	時間外労働・休日・休暇	時間外労働と割増賃金、休日、休暇について学ぶ
第8回	人事異動・服務規律	人事異動（配転・出向・転籍）、企業秩序と服務規律、懲戒処分について学ぶ
第9回	労働契約の終了	解雇規制、解雇権濫用法理、雇止め、退職について学ぶ
第10回	労働基本権	労働組合法の意義、労組法上の労働組合、労働協約について学ぶ
第11回	不当労働行為	不当労働行為制度の意義と救済制度を学ぶ
第12回	試験	論述式の筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義前に、教科書の各単元について、テキストを読み、準備学習を行う。
・レジュメは配布されるが、ノートも必ず作成する。
・テキスト、ノート、レジュメ、六法(最新版）を必ず持参する。
・テキストにおいて扱われている裁判例について講義後に必ず復習する。

【テキスト（教科書）】
浜村彰,唐津博,青野覚, 奥田香子『ベーシック労働法 第7版』(有斐閣アルマ)、2019年、有斐閣、価格未定

【参考書】
【事前に読了しておくべき書籍】
①『基礎から学ぶ労働法Ⅰ労働法総論・個別的労働関係法』（第4版）金子征史・藤本茂・大場敏彦・高野敏春編、エイデル研究所、2018年
②『基礎から学ぶ労働法Ⅱ集団的労働関係法・社会保障法』(第2版）金子征史・藤本茂・大場敏彦編、エイデル研究所、2016年
【参考書（必ずしも読了・購入の必要はない）】
③『労働法解体新書第4版』角田邦重・山田省三編、法律文化社、2015年
④『アクチュアル労働法』毛塚勝利・米津 孝司・脇田滋編、法律文化社、2014年
⑤『労働法』（第11版補訂版）菅野和夫、弘文堂、2017年

【成績評価の方法と基準】
論述式の筆記試験で評価する（100％）。すなわち、最終時限の筆記試験を受験して、60点以上の者に単位を与える。
労働基準法、労働契約法、労働組合法等の基礎を理解し、設問について条文・判例・学説に即して論理的に論じ結論を導くことができることを評価の基準とする（試験に際してテキストの持込を可とする場合でも、テキストを写しただけの答案では合格点を与えることはない。またテキストの持込可とする場合でも、テキストのコピーや図書館の図書、版の異なる書籍の持込は認めない）。

【学生の意見等からの気づき】
レジュメ及びリーディングケースの概要を配布し好評だったので、今年も初日に配布予定である。
休憩時間に労働法に関するDVDやテレビ解説を放映したところ、興味深くみてくれたので、今年もいくつか用意する予定である。
試験に際して、レジュメの持込を希望するものがいたが、それについては他人がメモしたレジュメをコピーして持ち込む可能性があるので、今年も禁止する。

【学生が準備すべき機器他】
試験に際してテキストの持込参照を許可するかは未定であるが、受講にあたっては必ずテキストと六法（2019年版）、ノートを持参すること。

【その他の重要事項】
・関連科目：社会政策、、法律学特講（国際労働法）
・法改正の動向などによって授業計画を変更することがある。

【Outline (in English)】
This course aims to acquire the foundation of labor law.
Students understand the significance of the Labor Law and aim to acquire the foundation of Labor Standards Law, Labor Contract Law, and Labor Union Act.

LAW300TB（法学 / law 300）

債権総論（夏期スクーリング）

明石　真昭

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法典は第三編で債権について規定していますが、これは第一章から第五章までの5つの章で構成されています。第二章以下は、債権の発生原因ごとに規定していますが、第一章は発生原因とは無関係に、すべての債権に共通する事柄を定めています。本講義は、この第一章を対象としています。

【到達目標】
①債権総論の基礎的な知識を身に付ける。
②具体的な事例について、判例・学説を踏まえて自分の考えを論理的に展開する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
債権総論について、プリントを配布し、板書しながら講義形式で進めていきます。初学者にも理解しやすいように、基本的な用語についてはきちんと説明し、可能な限り事例を多く用いて内容をイメージしやすい講義となるよう努めるつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	債権編の全体像、特定物債権、種類債権、
第2回	債権の種類	金銭債権、利息債権、選択債権、履行の強制
第3回	債務不履行の要件	債務不履行（履行遅滞、履行不能、不完全履行）
第4回	債務不履行の効果	債務不履行の効果（損害賠償）、受領遅滞
第5回	債権者代位権	債権者代位権
第6回	詐害行為取消権	詐害行為取消権
第7回	多数当事者の債権関係（連帯債務、等）	可分債権、不可分債権、連帯債権、連帯債務
第8回	多数当事者の債権関係（保証債務、等）	保証、連帯保証
第9回	債権譲渡	債権譲渡の概要
第10回	債権譲渡の対抗要件、債権の消滅（弁済、等）	債権譲渡の対抗要件、弁済、代物弁済、供託
第11回	債権の消滅（相殺、等）	相殺、更改、免除、混同
第12回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
条文を参照しながら配布資料を一読し、疑問点を確認しておくことが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません（プリント配布）。六法（『ポケット六法（有斐閣）』等、コンパクトなもので良い）を必ず持参してください。

【参考書】
・民法判例百選Ⅱ 債権（第8版）有斐閣
・法律学小辞典（第5版）有斐閣
この他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終日に行う試験によって成績評価をします。試験では、①基礎的な知識を問う問題、②具体的な事例における法律関係を論じる問題、を出題する予定です。ノート、配布プリント、六法、参考書を持ち込み可とします。

【学生の意見等からの気づき】
配布プリントの文字サイズが小さすぎる場合があったり、余白が小さくて書き込めないという意見がありました。配布資料は質だけでなく皆さんの使いやすさにも気を配りたいと思います。

【Outline (in English)】
This course introduces the general theory of obligations stipulated in the Civil Code. It covers matters such as the nature of claims arising from contracts and illegal acts. For example, default, performance, offset, and so on. The aim of this course is to help students obtain basic knowledge about the general theory of obligations.

LAW300TB（法学 / law 300）

日本法制史（夏期スクーリング）

山本　弘

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の様々な問題は、対応のために法制度をつくり、既存の法制度は現代の社会を構成する要因となっている。社会が法制度を作り、法制度が社会を作り上げていることは歴史的にみても同様であり、我々の生活する現在の社会や法制度もまた歴史のなかに位置づけられることになる。本講義は、現在ある法をより深く理解するための歴史的視点を培うため、歴史のなかの法と裁判を概観し各時代の特徴について認識を深めていく。

【到達目標】
1．前近代における日本の法と裁判に関する基礎的事項を列挙できる。
2．各時代の法や裁判の特徴について概説できる。
3．前近代の法制度と現代の法制度を比較しながら討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式によって進めるが、受講生によるディスカッションも行う。また、各回においてリアクションペーパーの任意提出を求め、提出されたリアクションペーパーに対する応答をおこなうことによって、内容理解の一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方・評価等についての説明
第2回	古代の法と裁判	律令以前の日本法～固有法時代～：原始国家、初期国家、犯罪と裁判（天津罪・国津罪、盟神探湯等）など
第3回	〃	律令法：統治組織、土地制度、刑事法、裁判制度、親族と相続　など
第4回	〃	〃
第5回	中世の法と裁判	鎌倉・室町期の法：封建制度の諸概念、統治組織、中世法の基本的性格、土地制度、裁判制度、親族と相続　など
第6回	〃	〃
第7回	〃	〃
第8回	〃	〃
第9回	戦国法	戦国大名の法、在地社会の法：分国法、村法（村掟）など。
第10回	近世の法と裁判	幕府法と藩法：統治組織、法源、土地制度、刑法、裁判制度（吟味筋､出入筋）､『御定書』、親族と相続　など
第11回	〃	〃
第12回	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備学習）教科書を熟読した上で出席すること。なお、事前課題のある場合は、当該講義までに課題を終えておくこと。準備学習の時間は1回の講義につき1時間以上が望ましい。
なお、理解度確認及び双方向型講義実施のために、リアクションペーパー（不定期・5分程度・提出自由）の提出を課すこともある。
（事後学習）疑問点や不明な箇所がある場合は、教員への質問、大学図書館の蔵書利用等を通じて早期に解決をはかること。復習の時間は1回の講義につき1時間程度が望ましい。

【テキスト（教科書）】
浅古 弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫 編『日本法制史』青林書院、2010年。

【参考書】
村上一博・西村安博・畠山亮・北康宏『【新版】史料で読む日本法史』法律文化社、2016年。
宮地正人ほかほか編『国家史（新体系日本史1）』山川出版社、2006年。
水林彪編『法社会史（新体系日本史2）』山川出版社、2001年。
出口雄一・神野潔・十川陽一・山本英貴編著『概説 日本法制史』弘文堂、2018年。
高谷知佳・小石川裕介編著『日本法史から何がみえるか – 法と秩序の歴史を学ぶ』有斐閣、2018年。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績（70％）、議論への取り組み（30％）で評価する。
期末試験では、日本法制史に関する基礎的事項の知識及び各時代の法や裁判に関する理解度を問う。
講義内の議論では、議論への貢献、議論の内容及び成果物について、ルーブリック的指標を用いて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当者につき、フィードバックできません。

【Outline (in English)】
We survey historical law and trial to develop a historic viewpoint to understand modern law and deepen recognition about a characteristic of the law in each time.

LIT300TC（文学 / Literature 300）

書道実技（夏期スクーリング）

井澤　秀彦

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校国語科書写の指導を中心とした実技と指導法
姿勢・執筆法から始まり、用具・用材の基本的な扱い方、楷書、行書、漢字と仮名の調和などを、現在の教育現場の書写の役割や実情を踏まえながら、順次学習を進めていく。

【到達目標】
中学校国語科書写における知識・技能の習得
基本的な書の表現力（基本点画・書字のきまり・文字感覚など）の習得
中学校国語科書写の指導者として、生徒に何をどのように教えるのか、また、生徒作品を客観的に評価する着眼点の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ノート（持ち物参照）を丁寧にとり、最終日に全ての作品を貼付したノートを提出する。
講義と実技の時間的な割合は課題にもよるが、おおよそ１：１くらいである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	書写と書道の違い	書写・書道における基礎的な用語の理解や用具・用材の扱い方
第2回	表現・鑑賞とは 楷書の基本点画	書写における「表現」は技術、「鑑賞」は知識 表現の第一歩は基本点画の習得
第3回	楷書の学習（書字のきまり１）	「口」の書き方、「八」の書き方などから、文字を書くための決まりごとの理解
第4回	楷書の学習（書字の決まり２）	偏と旁の関係、横画と縦画の関係などから、文字を書くための決まりごとの理解
第5回	筆順指導について 楷書の許容される書き方	教育現場における筆順指導の重要性の理解 楷書の基本的な字形と許容される字形
第6回	楷書のまとめ	四字句・六字句などの学習から、半紙に対する文字の大きさや配列・配字の理解
第7回	行書の特徴１	なぜ中学校で行書を学習するのか 楷書と行書の違い
第8回	行書の特徴２	行書の特徴（点画の丸み・連続・変化など） 点画の省略、筆順の変化
第9回	小筆の学習１	楷書に調和する仮名の学習 行書に調和する仮名の学習
第10回	小筆の学習２	漢字（楷書・行書）と仮名の調和 「散らし書き」の理解と習得
第11回	楷書の古典	楷書の成立と唐の四大家 『九成宮醴泉銘』の学習
第12回	行書の古典	行書の成立と王羲之 『蘭亭序』の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実技の習得は練習の積み重ねが大切である。自分の目標をしっかり持ち、基本点画の習得、自己の欠点の確認・矯正および新しい技量の習得を目指して欲しい。

【テキスト（教科書）】
『明解　書写教育【増補新訂版】』　全国大学書写書道教育学会編
萱原書房　￥1,500＋税
通教テキスト「書道教本」

【参考書】
指定なし

【成績評価の方法と基準】
授業参加30点、授業ノート（作品を含む）40点、試験30点

【学生の意見等からの気づき】
書道用具に関してですが、自らが中学生のころに使用していたものではうまく書けないようです。筆は大筆・小筆とも使用に耐えられず（やはり小中学生用はその程度です）、固形墨は上手に磨っても濃くならず、硯も小さかったり石製ではなかったりで、初日が終わってから慌てて専門店に行き、書道用具を購入する学生が毎年います。将来、教壇に立つ者として、相応の書道用具をそろえてください。また、墨で服を汚さぬよう各自工夫してください。

【その他の重要事項】
持ち物
①筆（大筆・小筆）②墨（固形墨）③硯（プラスチック製・セラミック製はＮＧ）④半紙（多めに用意してください）⑤毛氈（下敷き）⑥文鎮⑦ノート（Ｂ５・横罫）⑧筆記用具⑨赤ペン⑩スティックのり
※特に筆・墨・硯・半紙は安価なものは使いにくいものが多い。
上記テキストは必携のこと。

【Outline (in English)】
Practical skill and teaching method centered on teaching of junior high school Japanese language department calligraphy

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・中世（夏期スクーリング）

中司　由紀子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本のもっとも古い歌舞劇である能と狂言をとりあげる。本年度は『平家物語』を素材とした能〈清経〉を取り上げ、作品を読んで鑑賞し、主題やねらいを考える。また能の歴史に目を配りつつ、能の魅力を味わうために必要な知識を深める。

【到達目標】
能に関する基本的知識を理解することができる。
現代に生きる古典芸能に関心をもつことができる。
能の作品の主題・趣向を考え、それを文章にまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
能の詞章（本文）を読み込んだうえで主題と趣向の分析をおこなう。その際には能の周辺にある軍記物語等と比較しながら考える。また同時に歴史や作者等、能楽の基礎的な事項にも触れる。適宜、視聴覚教材を用いて能を鑑賞し、読む・観るという二つの方法で能にせまっていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	能の梗概	能の基本的事項をおさえる。
第2回	能・狂言の歴史	能の歴史と流儀、役籍等について知る。
第3回	世阿弥の功績	世阿弥の修羅能について学ぶ。
第4回	能の構成	能の文体と小段の構成を考える。
第5回	〈清経〉を読む・観る	1・2段を解釈する。
第6回	〈清経〉を読む・観る	３・４・５段を解釈する。
第7回	〈清経〉を読む・観る	６段を解釈する。
第8回	〈清経〉を読む・観る	７段を解釈する。
第9回	〈清経〉の素材	能の素材をおさえる。
第10回	まとめ	〈清経〉の主題と趣向をまとめる。
第11回	現代に生きる能	能の新しい試みについて知る
第12回	テスト	筆記テストをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内で示される参考文献を読んでおくこと
能楽堂などで催される実際の舞台にできるだけ足を運ぶこと

【テキスト（教科書）】
講義時に配布する資料プリントを用いる。

【参考書】
『謡曲集』中、新潮日本古典集成、新潮社
『謡曲集』上、日本古典文学大系、岩波書店
小林責ほか『能楽大事典』（筑摩書房）
西野春雄・羽田昶編『新版　能・狂言事典』　（平凡社）
『岩波講座　能・狂言』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】
平常点50%・筆記テスト点50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This course introduces the theme and performances of Noh Play < Kiyotsune > to students taking this course.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅰ（夏期スクーリング）

阿部　真弓

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、中古～中世の日本文芸の展開について講義します。和歌・物語・説話・日記・随想等について、その様相を概観していきます。種々の作品のおもしろさを学習しながら、日本文芸の史的把握を目指します。

【到達目標】
①日本古典文学の基礎知識や美的概念を習得する。
②日本の古典文学作品を歴史（文化史）的文脈の中で捉える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
　講義形式で行います。各時代、各ジャンルに関する問題について、具体的に作品の抜粋を読解しつつ、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	中古の文学①	中古文学に関する概説
第2回	中古の文学②	和歌―『古今和歌集』―
第3回	中古の文学③	日記文学―『土左日記』―
第4回	中古の文学④	随筆―『枕草子』―
第5回	中古の文学⑤	物語―『源氏物語』―
第6回	中世の文学①	中世文学に関する概説
第7回	中世の文学②	和歌・歌論・連歌―『新古今和歌集』『水無瀬三吟百韻』―
第8回	中世の文学③	説話―『今昔物語集』『宇治拾遺物語』―
第9回	中世の文学④	随筆―『方丈記』『徒然草』―
第10回	中世の文学⑤	軍記物語―『平家物語』『太平記』―
第11回	まとめ	授業の総括
第12回	試験	授業内容に関する試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　国語便覧等が手元にあれば、受講前に読んでおいてください。また、授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにすること。

【テキスト（教科書）】
　プリントを配布します。

【参考書】
『はじめて学ぶ日本文学史』（榎本隆司編著、ミネルヴァ書房、2010年）
『原色 新日本文学史（増補版）』（秋山虔・三好行雄共編、文英堂、2016年）

【成績評価の方法と基準】
　平常点（30％）、試験（70％）によって総合的に評価します。試験は到達目標①②に照らし、採点します。

【学生の意見等からの気づき】
　作品の抜粋には現代語訳を付ける等、復習しやすいプリント作りを心がけます。

【Outline (in English)】
This course deals with the history of Japanese literature from the Heian period to the medieval period.

The goals of this course are to
(1) Acquire basic knowledge and aesthetic concepts about Japanese classical literature.
(2) Understand Japanese classical literary works in their historical and cultural context.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

中国文芸史（夏期スクーリング）

遠藤　星希

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【中国古典小説史】
中国の古典小説について講義をする。中国でフィクションとしての本格的な小説が書かれるようになるのは唐代のことであり、それは「伝奇」と呼ばれた。本授業では、中国文学史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）に書かれた「小説」（正確には小説的なもの）について講義を行う。唐代伝奇の源泉となった、先秦から南北朝時代までの「小説」およびその土壌となった各時代の文化的背景について学ぶ。

【到達目標】
中国の先秦時代から南北朝時代までの古典小説史のアウトラインを把握する。また、当時の人々が小説をどのようなものと認識していたのか、現代の私たちが考える小説と当時の小説は何が異なっているのかという点について理解を深め、唐より前の時代に書かれた小説の歴史的変遷について、当時の文化的背景と関連づけながら、具体例に即して人に説明できるようになる。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な工具書を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。テーマは原則として時代順に設定されている。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中国の古典小説と「小説」の原義についての概説
第2回	白話小説概説	明・清の時代に書かれた口語体の小説についての概説
第3回	小説前史（1）神話	中国の天地開闢と十日神話について
第4回	小説前史（2）諸子百家と漢代の賦	諸子百家による寓話と漢代の賦における小説的要素について
第5回	小説前史（3）漢代の作とされる「小説」	中国古代の空想的地理書『山海経』をはじめとする、漢代の書物を読む
第6回	小説前史（4）史伝の小説的要素	歴史文学として司馬遷の『史記』を読む
第7回	志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第8回	志怪小説（2）	志怪小説に見られる仙界訪問譚について
第9回	志怪小説（3）	志怪小説に見られる冥界訪問譚と仏教の影響
第10回	民間の物語詩	漢代から南北朝時代にかけて民間で歌われた、叙事的な物語詩を読む
第11回	志人小説	六朝時代に記録された著名人のエピソード集「志人小説」についての概説
第12回	スクーリング教室試験	筆記試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】
・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002.4）
・魯迅著 ; 丸尾常喜訳注『中国小説の歴史的変遷 : 魯迅による中国小説史入門』（凱風社、1987.7）
・魯迅著 ; 中島長文訳注『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997.6-1997.7）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
100％スクーリング教室試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。中国古典小説史の重要事項を把握できているか、簡単な漢文をきちんと翻訳できるか等を、評価の基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に眠ってしまう学生が時々確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【Outline (in English)】
This lecture is focused on Chinese classical novels. It is not until the Han dynasty that people started writing serious novels as fictional tales in China. They were called chuan-qi. In this course, the lecture will be given on novels (more accurately quasi novels) from the most ancient periods in the history of Chinese literature covering the periods from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and the Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). We will learn “novels” from Pre-Qin to the Northern and Southern dynasties and the underlying cultural background for each period, which formed the foundation for chuan-qi during the Tang period.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・近代（夏期スクーリング）

田中　和生

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代小説で長く読み継がれ、特に強く読者に支持されている作品を読み直し、近代文学史を概観します。取り上げる作品は、夏目漱石の『こころ』（1914年）、太宰治の『人間失格』（1948年）、村上春樹『ノルウェイの森』（1987年）の3作です。合わせて夏目漱石は『坊っちゃん』（1907年）、太宰治は『斜陽』（1947年）も取り上げます。

【到達目標】

授業の内容から実践的に、
1、近代文学史上の文学作品を、先行研究を踏まえて的確に読みこなすことができる。
2、そのうえで作品の細部に着目し、独自の視点を取り出すことができる。
3、独自の視点で読み解いた作品の価値を、文学史の流れのなかで考察できる。
以上のような能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めますが、必要に応じて学生同士の意見交換やグループディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	叙事詩としての近代小説1	近代小説の特質を確認し、世界文学の視点から、特に強く読者に支持されている作品を概観する。
第2回	叙事詩としての近代小説2	『こころ』『人間失格』『ノルウェイの森』の3作について、基本的な内容を確認する。
第3回	夏目漱石『坊っちゃん』を読む	読者に強く支持されている理由を考えながら、『坊っちゃん』を読み直す。
第4回	夏目漱石『こころ』を読む1	『坊っちゃん』の読解を踏まえながら、『こころ』を読み直す。
第5回	夏目漱石『こころ』を読む2	叙事的なものとして、文学史上に『こころ』を位置づける。
第6回	太宰治『斜陽』を読む	読者に強く支持されている理由を考えながら、『斜陽』を読み直す。
第7回	太宰治『人間失格』を読む1	『斜陽』の読解を踏まえながら、『人間失格』を読み直す。
第8回	太宰治『人間失格』を読む2	叙事的なものとして、文学史上に『人間失格』を位置づける。
第9回	村上春樹『ノルウェイの森』を読む1	『こころ』と『人間失格』の読解を踏まえながら、『ノルウェイの森』を読み直す。
第10回	村上春樹『ノルウェイの森』を読む2	叙事的なものとして、文学史上に『ノルウェイの森』を位置づける。
第11回	叙事詩としての近代小説3	三作品の読み直しから見えてきたものを確認し、日本の近代文学史を概観する。
第12回	授業内試験	授業内容の理解を問う記述式試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

可能であれば、授業で取り上げる3作品（『こころ』『人間失格』『ノルウェイの森』）すべてを読んで受講することが望ましいですが、少なくともひとりの作家を選び、授業で取り上げる5作品（『坊っちゃん』『こころ』『斜陽』『人間失格』『ノルウェイの森』）のどれか1つには、事前に目を通しておいてください。

【テキスト（教科書）】

夏目漱石『こころ』（岩波文庫・新潮文庫等）、太宰治『人間失格』（新潮文庫等）、村上春樹『ノルウェイの森』（講談社文庫）。

【参考書】

日本の近代文学についての概説書。夏目漱石、太宰治、村上春樹についての研究書等。

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物が40パーセント、授業内試験が60パーセントで、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、とくに気づきはありません。

【Outline (in English)】

Reread Japanese modern novels that have been read for a long time and have been chosen by many readers, and get an overview of the history of Japanese modern literature. That novels are Soseki Natsume"Kokoro"(1914), Osamu Dazai"No longer human"(1948), Haruki Murakami"Norwegian Wood"(1987).

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅱ（夏期スクーリング）

伊藤　博

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文芸史の把握・理解は巨視的、概念的であるとはいえ、個々の作家や文学作品を離れてその流れを把握することはできない。授業では戦後の文学、とりわけ昭和２０年代から３０年代にかけての文芸史の流れをたどる。そのためには、当時の文学作品を詳細に分析・検討することが必要不可欠な課題となる。授業の目的は文学作品の主題や作品世界の描かれ方、登場人物の生き方や考え方などについて詳細に分析することである。本授業では、過去の作品とはいえ、現代にも通じる問題が描かれていることに注目し、取り上げた小説・批評をさまざまな研究方法を駆使しながら受講生と共に読み解く。

【到達目標】
本授業の到達目標は受講生が文学的知見を広げ、小説を読み解くさまざまな研究方法を獲得することである。そのことによって受講生各自は小説を分析する際に、独創的・創造的な読み方が出来るようになる。さらに、卒業論文作成のための基本的な技法を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は１コマにつき、原則１作品を精読する。一方向的な授業になることを避け、時に応じて、受講生との質疑応答の形式で授業を進める。出来る限り、受講生に意見を述べてもらい、作品の読みを提示してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	文学とは何か。文学研究の方法について。	言語芸術としての文学の特徴について、他の芸術ジャンルとは異なる所以について考える。また、文学研究の方法として作家論、作品論、テクスト論、間テクスト論の基本的な考え方について講義する。
第2回	坂口安吾「白痴」	「堕落論」の文学化と評されている坂口安吾の代表作を読み解く。戦後の混乱と退廃の世相に生きる人々に希望を見出すことは可能なのか、その問題を問う。
第3回	坂口安吾「堕落論」	昭和２１年４月に発表された評論「堕落論」の< 堕落> の意味を把握し、その挑発的な考え方が現在においても、生命力を失っていないことを明らかにする。
第4回	梅崎春生「桜島」	作者梅崎の戦中体験を文学化した「桜島」の構造を「眼」と「耳」をキー・ワードとして明らかにする。その上で、敗戦に至る主人公の立場や意識を追究する。
第5回	小島信夫「アメリカン・スクール」	「日本語」「英語」「米語」の表記の書き分けに注目し、占領下における日本人教師がアメリカン・スクールを見学することの寓意的意味について考える。
第6回	庄野潤三「プールサイド小景」	平凡なサラリーマン家庭に生じた危機とは何か。この家族小説のテーマは現在にも通じているはずである。庄野の「静物」についても言及する予定である。
第7回	卒業論文の作成方法について。	卒業論文のテーマ設定、文体、構成、章立て、先行研究の調査の仕方、注記の仕方など論文作成の基本事項について講義する。すでにテーマが決定している受講生には適宜必要なアドバイスを行う。
第8回	深沢七郎「楢山節考」	「人生永遠の書」（正宗白鳥）と高い評価を与えられ、姥捨て伝説を素材に描かれたこの小説には、超高齢化社会に生きる私たちに本質的な問題を投げかけている。
第9回	安岡章太郎「海辺の光景」	安岡章太郎の代表作「海辺の光景」に描かれた母の入院とその死に父と息子がどのように応接したのか、そのことも含めて、この小説を構造的に分析・検討する。
第10回	瀬戸内寂聴「夏の終り」	瀬戸内作品のなかで最も読まれている「夏の終り」に描かれた男女関係について考える。この小説は私小説と考えられているが、その文学性を明らかにする。
第11回	野上弥生子「笛」	戦後、我が国が核家族化していく只中で、個人のライフ・スタイルも変化せざるを得なくなる。家族の中で次第に孤立していく母の考え方、生き方を考察する。
第12回	試験	レポート形式の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【準備学習】
受講生は事前に指定した小説を読了し、問題意識を持って授業に臨んでもらいたい。授業では他の受講生の意見に耳を傾け、理解すると共に、自分自身の意見を主張し、文学的認識を深めるように努力して欲しい。
【復習】
講義内容をより精緻に理解するために、授業中に示された参考文献を読み、読解力を身に付け、小説の分析方法を学ぶことを心掛けて欲しい。

【テキスト（教科書）】
①坂口安吾『白痴』（新潮文庫、４９０円税別、１９４９年）②梅崎春生『桜島』（講談社文芸文庫、１２００円税別、１９８９年）③小島信夫『アメリカン・スクール』（新潮文庫、６３０円税別、１９６７年）④庄野潤三『プールサイド小景・静物』（新潮文庫、５５０円税別、１９６７年）⑤深沢七郎『楢山節考』（新潮文庫、４６０円税別、１９６４年）⑥安岡章太郎『海辺の光景』（新潮文庫、５２０円税別、１９６５年）⑦瀬戸内寂聴『夏の終り』（４６０円税別、１９６６年）⑧野上弥生子『笛』（岩波文庫、４６０円税別、１９９８年）。刊行年は文庫初版の年次を表示した。現在、⑧以外は、版を重ねているため、上記の年次とは異なる。
「堕落論」はプリントを配布する。すでに単行本、文庫本、全集版で上記のテキストを所持している受講生は新たに文庫本を購入する必要はない。図書館を利用して当該テキストを読了し、持参しても可。なお、テキストを持参しない学生は入室を認めない。

【参考書】
『日本近代小説史』（安藤宏、中公選書、２０１５・１）。他の参考図書は授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績は試験結果（６０％）と平常点（４０％）により評価する。試験はレポート形式とする。したがって、レポートの分量はもちろんのこと、その内容、たとえば、設問の内容を正しく理解し、矛盾のない論理によってレポートを作成しているか否かが評価の主な基準となる。その前提として、レポートの形式、たとえば、段落の区切り方や句読点の付け方、誤字脱字がないように心がけることも要求される。レポートを作成する上での基本事項を守ることが重要である。

【学生の意見等からの気づき】
昨年の授業アンケートには、卒業論文作成のための方法についての講義が有益であったとの意見が多かった。今年も１コマを利用して、そのための講義を行う。昨年までの成果を踏まえて受講生が卒業論文作成に活用できる講義内容を目指したい。

【学生が準備すべき機器他】
必要ありません。

【Outline (in English)】
Although a grasp or comprehension of Japanese literary history is necessarily macroscopic and conceptual, one cannot grasp its currents apart from individual authors and their works. In this course, we trace the currents of postwar literary history, specifically from the Shōwa twenties to the thirties. It is therefore imperative to consider and analyze in detail the literary works of that era. The goal of the course is to analyze in detail the theme of each work and the manner in which the world of that work is described, the characters' way of life and of thinking, and so on. Although these are works from the past, in this course we will pay attention to how they deal with problems that remain relevant today and will subject them to close reading together as a class, freely employing a variety of research methods.

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

論文作成基礎講座Ⅱ（夏期スクーリング）

村山　龍

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
レポート作成や卒業論文作成に必要な「読む」・「書く」スキルを身につけることを目的とする。自分が何を論じたいのか、論じるためにはどんな知識（技術）が必要かなどを授業を通してそれぞれ学びを深めていく。
また、語彙を豊富にするための方策の一環として、漢字の書記能力も併せて習得する。

【到達目標】
最大の目標はより良いレポート・卒業論文を作成するための能力を身につけることである。
大学のレポート・卒業論文で求められているのは、主観的な感想文ではなく客観的な論理的文章である。こうした文章を書けるようにするために、この授業での学習を通じて、①適切な問いと自分なりの答え（仮説）を立てることができる、②問いを解決するために必要な調査が行える、③調査をふまえて仮説を検証できる、④①～③を論理的な文章で表現できる、以上の四点を身につけることが学生諸君の目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目的と目標を達成するために、講義と作文・要約演習（添削指導含む）、漢字テストを行う。
具体的には宮澤賢治「なめとこ山の熊」を用いてテクスト読解と先行研究の調査・検討を行い、最終的に論文（2000字程度）のものに仕上げてもらう。もちろん、授業がはじまるまでにテクストを読み、この小説について考えてくることが必要である。
また漢字テストについては次のように行うので事前に学習してくること。
第一回：pp.7～34
第二回：pp.35～62
第三回：pp.63～90
以上。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	「論文」作成の基礎知識①	学術的文章を書くために必要な知識を学習する。
第2回	「論文」作成の基礎知識②	学術論文（見本）を提示し、具体的な論文の形式を学ぶ。
第3回	小説の読解	「なめとこ山の熊」に関して各自の考えを発表し、検討する。
第4回	先行研究の読解と検討① 第一回漢字テスト	提示された先行研究を読み、検討する。また内容を要約し、提出する。
第5回	要約返却・講評 論文の問いの立て方	添削した要約の返却と講評を行う。また論文作成のための問いの立て方を学び、実践する。
第6回	先行研究の探し方	データベースや図書館を使った先行研究の探し方を学習する。
第7回	先行研究の読解と検討②	提示された先行研究を読み、検討する。また内容を要約し、提出する。
第8回	先行研究の整理と問いの再構成 第二回漢字テスト	先行研究で示されていた論点を整理し、自分の問いとの関係を意識する。
第9回	要約返却・講評 論文の構成①	添削した要約の返却と講評を行う。また、論文を作成するために構成と展開のプランを考え、ワークシートを作成する。
第10回	論文の構成②	作成したワークシートをもとにグループで相互批評を行う。
第11回	論文演習	論文の作成・清書を行う。
第12回	論文提出とまとめ 第三回漢字テスト	作成した論文の提出と全体のまとめを行い、今後の学習について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・宮澤賢治「なめとこ山の熊」を事前に熟読してくること。
・漢字テストに備えた学習を行っておくこと。
・授業内でワークシートの作成など、課題が出たときには必ずこなすこと。

【テキスト（教科書）】
・宮澤賢治「なめとこ山の熊」（『宮沢賢治全集』第7巻（ちくま文庫、1985）所収のものに限る）
・『漢検2級漢字学習ステップ 改訂三版』（日本漢字能力検定協会、2017年10月発行）

【参考書】
『読解を深める現代文単語〈評論・小説〉』（桐原書店）：大学入試用だが、先行研究のなかで用いられるようなキーワードが多く収録されているので、〈読む〉ための基礎知識を固めるために一読を勧める。この他に授業内で紹介することもある。

【成績評価の方法と基準】
・論文要約2回：20％
・漢字テスト3回：30％
・最終レポート（論文）：50％

【学生の意見等からの気づき】
前年度は履修者の協力もあって、ディスカッションが活発であった。今年度も、積極的な参加を求めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
In this lecture, we aim to acquire "reading" and "writing" skills necessary for preparation of report or of graduation thesis. Learn through each lesson to learn what kind of knowledge (technology) is necessary to discuss what you want to discuss. Also, as part of measures to enrich vocabulary, master the writing ability of kanji as well.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・漢文（夏期スクーリング）

永井　弥人

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前年度と同じく幕末の漢文作家林鶴梁の文章を読みます。江戸中期の長州藩の儒者滝鶴台の妻が主人公の「紀貞婦某氏事」、江戸後期の奇人占い師が主人公の「狸翁伝」兄弟の争いを収めた名奉公熊沢助八が主人公の「紀熊沢助八事」を読みます。

【到達目標】
訓点・添え仮名（送り仮名）付きの漢文を読解出来る様になることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
文章の斉読→講師による解説。
第2回目以降毎回復文（書き下し文を字数を決めて原文に戻す稽古）を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	林鶴梁について、復文について、テキスト読解	著者林鶴梁の解説。復文の説明と実践。「紀貞婦某氏事」読解。
第2回	テキスト読解	「紀貞婦某氏事」読解。
第3回	復文解説	復文の答え合わせと解説。
	テキスト読解	「紀貞婦某氏事」読解。
第4回	テキスト読解	「紀貞婦某氏事」読解。
第5回	復文解説	復文の答え合わせと解説。
	テキスト読解	「狸翁伝」読解。
第6回	テキスト読解	「狸翁伝」読解。
第7回	復文解説	復文の答え合わせと解説。
	テキスト読解	「狸翁伝」読解。
第8回	テキスト読解	「狸翁伝」読解。
第9回	復文解説	復文の答え合わせと解説。
	テキスト読解	「紀熊沢助八事」読解。
第10回	テキスト読解	「紀熊沢助八事」読解。
第11回	復文解説	復文の答え合わせと解説。
	テキスト読解	「紀熊沢助八事」読解。
第12回	試験（持ち込み不可）	範囲：テキスト-第6回迄、復文-第9回迄

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第2回目以降復文の予習をお願い致します。
毎回、テキストを復習されることをお勧め致します。

【テキスト（教科書）】
プリント配布（テキスト　復文の問題と解答）

【参考書】
『漢文を読むための助字小字典』　内山書店
漢和辞典　お手持ちの物で結構です。

【成績評価の方法と基準】
試験70％（参照不可）、平常点30％

【学生の意見等からの気づき】
努めて丁寧に解説致します。
又板書の字をなるべく大きく書く様に致します。

【学生が準備すべき機器他】
もしテキストを早めに読了した場合には、林鶴梁の文集の中から手頃な文章を選び、更に講読致します。久し振りに漢文に接する方には、開講までに高校程度の漢文法を復習されることをお勧め致します。

【その他の重要事項】
実務経験なし

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・中古（夏期スクーリング）

松本　裕喜

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『伊勢物語』は、日本古典文学史上、最も広く享受された作品の一つです。本講義では、『伊勢物語』を題材として、平安時代を中心とする古典文学作品の本文研究・注釈的研究の方法を講義します。

【到達目標】
『伊勢物語』をはじめとした、日本の古典文学作品を自らの力で読むことができるようになることを目標とします。ここでいう「読むことができる」というのは、単に原文を読むための語義・語法上の力を身につけるだけでなく、難解な箇所・注釈上問題の生じている箇所について、どのような方法でアプローチし、自分なりの解釈を導けばよいのかという、問題解決能力を涵養することをも指しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行いますが、リアクションペーパーの提出を求め、適宜履修者が抱いた疑問などに答える時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	『伊勢物語』をはじめとする平安時代の文学作品が、どのように現在まで伝わっているのかについて説明します。
第2回	『伊勢物語』を知る①	二条后関連章段や伊勢斎宮関連章段など、恋愛に関する主要な章段を読解していきます。
第3回	『伊勢物語』を知る②	東下り関連章段や惟喬親王関連章段など、恋愛に関わらない主要な章段を読解していきます。
第4回	本文を校訂する	『伊勢物語』で注釈上問題となっている箇所を取り上げ、本文校訂という作業について説明します。
第5回	『伊勢物語』の注記的本文	『伊勢物語』に多く存在する、物語の筋じたいには直接関わらない、いわゆる「注記的本文」について見ていきます。
第6回	読者が作者になる①	普段我々が一般的に読解している『伊勢物語』の本文とは異なる本文について検討していきます。
第7回	読者が作者になる②	①に引き続き様々な『伊勢物語』の本文を検討し、本文校訂という作業との関わりについても考えていきます。
第8回	『伊勢物語』古注釈の世界	『伊勢物語』の古注釈をひもとき、中世における『伊勢物語』受容のあり方を見ていきます。
第9回	『伊勢物語』と『大和物語』	『伊勢物語』と『大和物語』の相互関係について、既存の学説を学びつつ、検討していきます。
第10回	『伊勢物語』と『源氏物語』	中古文学の双璧とも言える『伊勢物語』『源氏物語』両者の関係について考えていきます。
第11回	『伊勢物語』初段を解釈する	これまで学んできた事柄を生かし、『伊勢物語』中屈指の難解な章段とも言える初段に書かれている内容を検討します。
第12回	最終試験	これまで学習した内容が理解できているか、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
『伊勢物語』は決して長大な作品ではありません。開講前に通読しておくことを勧めます。また、授業では様々な読解上の問題を扱いますが、ぜひとも授業後に自分で考えてみてください。

【テキスト（教科書）】
石田穣二『新版　伊勢物語』（角川学芸出版、1979年）を用います。

【参考書】
授業では本文の問題を扱いますので、写本の影印を見ることができる『影印校注古典叢書6 伊勢物語』（新典社、1975年）を適宜参照すると理解が深まります。この他の参考書は授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
最終試験（60%）とリアクションペーパーによる平常点（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規担当科目のためフィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
To learn how to interpret classical Japanese literature by reading Ise Monogatari.

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

論文作成基礎講座Ⅰ（夏期スクーリング）

園　明美

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文学科の専門科目では、レポートの執筆に取り組まなければならない。さらに、日本文学科の学業の集大成としては卒業論文の執筆がある。これらのレポートや論文作成に欠かせないのが、先行研究を踏まえるという行程である。本科目では、レポートや論文を執筆する上で基礎作業となる先行研究の検索方法と、収拾した文献の活用方法について、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】
1．レポート、論文を執筆する上で、先行研究を踏まえることの重要性を理解する。
2．インターネットを利用し、先行研究（研究書、雑誌論文）の検索方法を複数、習得する。
3．先行研究の引用方法と、研究書、雑誌論文名の記載方法を習得する。
4．大学図書館等の専門図書館の活用方法について理解する。
5．収集した先行研究の整理・利用法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、レポート・論文を執筆する上で、テーマを設定することや先行研究を踏まえることの重要性を講義する。次に、法政大学図書館の利用方法を実地で習得する。同時に、情報自習室において、インターネットを利用した先行研究の検索方法を実習形式で学ぶ。あわせて、収集した文献の利用方法等も実習形式で学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	レポート、卒業論文執筆に向けて（1）	良いレポート・論文を書くために大切なことは何か、考えてみよう。
第2回	レポート、卒業論文執筆に向けて（2）	文献検索の準備段階としての、テーマ設定の重要性を理解する。
第3回	大学図書館を利用しよう	法政大学図書館の利用ガイダンスを行う。
第4回	レポート、卒業論文執筆に向けて（3）	レポート・論文の形式について理解する。
第5回	基礎文献を知る	辞書類・テキストの種類や利用法について理解する。
第6回	文献検索の方法（1）	NDL-OPACを利用方法を学ぶ。
第7回	先行研究の整理	収集した先行研究（研究書・雑誌論文）の整理・活用法について理解する。
第8回	文献検索の方法（2）	国文学論文目録データベースの利用方法を学ぶ。
第9回	文献の記述方法	文献の引用と表記の方法を学ぶ。
第10回	文献検索の方法（3）	CiNiiの利用方法を学ぶ。
第11回	レポート・論文の執筆手順	収集した先行研究（研究書・雑誌論文）を利用してレポート・論文を執筆する際の基礎的な手順を理解する。
第12回	実習	自ら設定したテーマにしたがい、文献を検索し、大学図書館で入手するまでの実習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介したデータベースの利用方法は、自宅のパソコンでも復習し、習熟すること。

【テキスト（教科書）】
『日本文学科のしおり』

【参考書】
なし。（授業の中で、適宜必要な文献を紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
授業中に提示する課題の完成度により成績評価を行う。配分は100％。なお、この授業は実習科目であるため、原則、途中での欠席は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートに寄せられたコメントの中で「具体例を示してくれたことがわかりやすくてよかった」「講師が実際に論文作成の際に使用したノート等を見せてくれたので参考になった」という趣旨のものが散見した。したがって、今年度もできる限り具体的な事例を提示するとともに、自身の経験も踏まえた実例も提供し、より実践的な学習ができるよう配慮するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室でパソコンを利用して行う。

【その他の重要事項】
本科目は基本的なパソコンの操作（インターネット・ワープロ機能）を使用した経験のある学生を対象にする。

【Outline (in English)】
This course introduces to how to look for documents for treatise writing students taking this course.
By the end of the course, students should be
able to do the following:
· Look for literature cited on the Internet.
· Evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸学概論（夏期スクーリング）

大和田　茂

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学の本質、理念、おもしろさ、効用、歴史と文学、社会と文学などの関係、文学のジャンルなどをめぐる基礎的な問題を考察し、鑑賞・批評・研究の基本を学ぶ。

【到達目標】
文学を学ぶために、様々な基礎知識や問題意識を養い、作品鑑賞と研究方法が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
中・近世の作品も扱う予定ですが、主に近代文学の観念が形成、確立されたころから1920年代までの作家・作品をとりあげ、目的に沿った講義・演習をすすめていきます。また、後半には短編小説や評論を鑑賞、批評する演習も行ないます。
原論的問題を含むので、昨年度と一部重なる場合があることを了解していただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	はじめに オリエンテーション 「文学」と「文芸」をめぐって	授業の進め方・予定 「文学」をめぐって 文学の力・目的・おもしろさなどについて
第2回	文学の本質と役割、基礎知識	形象・想像力・インタレスト・異化・イデア・鑑賞の方法、テーマとモチーフなどについて
第3回	近代文学観念の生成と確立	和歌、俳諧、松尾芭蕉、坪内逍遙、北村透谷、森鷗外などの作品をめぐって
第4回	近代文学観念の展開と達成	上記作品及び自然主義文学から、モダニズム、プロレタリア文学における「実行と芸術」について
第5回	上記の問題に関係する小説・評論を読む（1）	班討議と発表
第6回	（1）の小説・評論のテーマと技巧ほかの諸問題	講義と質疑
第7回	上記の問題に関係する小説・評論を読む（2）	班討議と発表
第8回	（2）の小説・評論のテーマと技巧ほかの諸問題	講義と質疑
第9回	上記の問題に関係する小説・評論を読む（3）	班討議と発表
第10回	（3）の小説・評論のテーマと技巧ほかの諸問題	講義と質疑
第11回	様々な研究方法及び全体のまとめ	まとめと補足 試験について
第12回	試験 個別質問	試験 終了後、個別質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指示した作品や前もって配布したプリントは、必ずそれを読んで授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】
『日本近代文学評論選 明治・大正篇』（2003）岩波文庫　￥910＋税

【参考書】
大江健三郎『新しい文学のために』（1988）岩波新書　￥720＋税

【成績評価の方法と基準】
試験70％　平常点30％

【学生の意見等からの気づき】
文学並びに研究への関心がより深まるよう指導したい。班討議の時間を充分とり、問題意識を引き出し、文学研究への意欲を高めたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This course introduces the basics and essence of literature including literal thoughts, its classification, the fun of learning, its usefulness, and its relation with history to students taking this course.

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）

日本言語史（夏期スクーリング）

間宮　厚司

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の歴史について、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】
日本語の「過去・現在・未来」について、理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式です。プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。授業の後半に、百字程度の小リポートを提出してもらい、次の時間に紹介します。なお、授業中に時々発言を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方 小リポートと大リポートの説明
第2回	奈良時代の言語的特徴	プリント等で解説し、授業の最後に小リポートを提出
第3回	平安時代の言語的特徴	プリント等で解説し、授業の最後に小リポートを提出
第4回	鎌倉時代の言語的特徴	プリント等で解説し、授業中に小リポートを提出
第5回	室町時代の言語的特徴	プリント等で解説し、授業の最後に小リポートを提出
第6回	江戸時代の言語的特徴	プリント等で解説し、授業の最後に小リポートを提出
第7回	明治から戦前までの言語的特徴	プリント等で解説し、授業の最後に小リポートを提出
第8回	戦後の言語的特徴	プリント等で解説し、授業の最後に小リポートを提出
第9回	平成の言語的特徴	プリント等で解説し、授業の最後に小リポートを提出
第10回	方言の言語史	プリント等で解説し、授業の最後に小リポートを提出
第11回	日本語の歴史に関するビデオ等の学習	プリントやビデオ等で解説し、授業の最後に小リポートを提出
第12回	これまでの授業のまとめ	大リポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を活用し、日本語の歴史に関する本を積極的に多く読みましょう。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定せず、プリントを使用します。

【参考書】
参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎時間提出する小リポート（40％）と最終授業時に提出する大リポート（60％）の内容を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が能動的に学習に取り組めるようにしたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
大リポートは、原則として、パソコン（ワープロ打ち）で作成してもらいます。なお、授業中にパソコンは使用しません。

【Outline (in English)】
In this lecture, you are going to use several handouts that I'm going to give you in the class. The lecture introduces the history of Japanese Language to students taking this course.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・近世（夏期スクーリング）

浅沼　博

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
与謝蕪村を代表とする諸作品を読み解くことにより、発句（俳句）と俳諧連歌（連句）の関係性を学ぶ。

【到達目標】
原句を読み、俳句と連句の関係性（三句の渡り）について自分の文章で論述できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストにそった講義形式を主とする。俳句や連句の特性を解説しつつ、具体的に作品を読んでいく。
またアクティブ・ラーニングの一環として、連句の創作演習（切り短冊での出句）も取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	俳句と連句	科目のねらいと方針 演習の概要
第2回	取合せvs.二句一章	切字と付合の関係性について
第3回	三句の渡り	芭蕉と蕪村の類似性について
第4回	付合と転じ	個別演習
第5回	発句・脇・第三	蕪村一派の本歌取りについて
第6回	月の座	蕪村の見立てかえについて
第7回	序の段	クラス演習（付句の創作）
第8回	破の段	クラス演習（付句の推敲）
第9回	花の座・挙句	蕪村一派の終結感について
第10回	急の段	クラス演習（付句の選定）
第11回	まとめ・試験準備	俳句と連句について 演習の総括
第12回	試験	論題形式

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキスト「序」の部を読み、さまざまな俳諧用語をあらまし理解する。授業後はその復習につとめる。

【テキスト（教科書）】
『俳句・連句ＲＥＭＩＸ』浅沼璞（東京四季出版）￥1,800＋税

【参考書】
市販の歳時記（春夏秋冬・新年すべて掲載のもの）

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％（創作演習も加味する）
論述試験６０％（内容の具体性を評価基準とする）

【学生の意見等からの気づき】
アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。

【その他の重要事項】
創作演習に際し、歳時記や季語辞典（電子辞書に搭載のものでも可）を持参すること。

【Outline (in English)】
Reading out various works on behalf of Yosa Buson.
Learn the relationship between haiku and renku.

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）

日本文芸研究特講・祭りと芸能（夏期スクーリング）

伊海　孝充

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本には「来訪神」とよばれる神々について学ぶ。このカミを巡る伝承は各地に残っており、描かれ方は実に多様である。民俗学で〝春来る鬼〟とも呼ばれることがあるように、ときには鬼の姿のように造形される。この神々の文化的背景を探りつつ、日本人の神観念・他界観の一端を考えていきたい。

【到達目標】
授業内容は、専門的な文学研究・芸能研究の領域にも及ぶが、初めて芸能を学ぶ学生にもわかるように説明していく。本講義で、来訪神を通して日本人の神観念・他界観の在り方を知ることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式に進める。また、基本的な話柄を確認するために「まんが日本昔ばなし」などのビデオを用いる。さらに文学作品の広がりを確認するため、視聴覚資料を多用する。鑑賞に際しては、話の疑問点を探しながら集中して観ることが望まれる。また、毎回コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	ユネスコ文化遺産に登録された〝来訪神〟の紹介
2回	来訪神と民俗学	柳田國男・折口信夫などの諸説を紹介する。
3回	「節分の鬼」の話	話の概要と様々な話柄を紹介する。
4回	節分の行事について	様々な節分の行事を紹介し、鬼の存在を考える。
5回	ナマハゲについて	ナマハゲの歴史と類似した行事の紹介
6回	来訪神がどこから来るか	来訪神に見る他界観
7回	「笠地蔵」の話。	話の概要と様々な話柄を紹介する。
8回	来訪する地蔵の姿	蓑と笠の呪術性について
9回	「不思議な壺」の話	話の概要と様々な話柄を紹介する
10回	琉球の他界観	ニライカナイと竜宮をめぐる諸説
11回	南国の来訪神	ボゼとパーントゥ
12回	カセドリという来訪神	二つの来訪神の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業にのぞむ前に、扱う話を一読してくることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布する。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　50％
試験　50％

【学生の意見等からの気づき】
専門外の学生にもわかりやすい授業を心がける。

【その他の重要事項】
授業で扱う祭りを若干変更する場合もある。

【Outline (in English)】
We learn about the gods called "Raiho-shin (visiting gods)". The tradition about this gods remains in various places, and the way of being drawn is quite diverse. It is sometimes modeled like a figure of a demon, as it is sometimes called "demon that spring comes" in folk studies. While exploring the cultural background of these gods, we would like to think about a part of the Japanese idea of god and other world views.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・上代（夏期スクーリング）

坂本　勝

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代日本の神話世界について講義します。現代の私たちが見失った古代人のものの見方、感じ方、考え方を学びます。

【到達目標】
なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を確かめる。古代日本の神話世界を理解するための文献解読法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
古事記、日本書紀、風土記などの古代のテキストを通して、古代日本の神話世界について考えていきます。私たち人間の歴史や文学に対する想像は、かつては神話的な物語として産み出されました。もちろん、そこに流れているのは、私たち人間自身についての深い思いです。私たち人間はどのような存在なのか、なぜこの世に存在し、そこにどんな喜びや悲しみ、驚きや感動があるのか、人生のさまざまな問題が神話を産み出す原動力でした。授業では、そうした古代の人々の思考の跡を、追っていきます。日本の神話にターゲットを据えますが、日本の神話と同じような神話が、世界の各地にも残っています。そうした諸外国の神話なども紹介しながら講義を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	授業全体の概説
第2回	日本の《はじまり》物語	日本の創世記を紹介します
第3回	世界の《はじまり》物語	古事記、日本書紀、風土記の創生神話を学びます
第4回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第5回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第6回	《黄泉の国》はどこにある	同前
第7回	《根の国》の話	同前
第8回	ヲロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第9回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第10回	《海》の神話	同前
第11回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第12回	試験	講義内容の理解と授業テーマへの関心、理解度を問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、参考文献、配布資料をよく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
『はじめての日本神話　古事記を読みとく』ちくまプリマー新書、７８０円、坂本勝。ほかに、プリント教材を配布。

【参考書】
参考文献『古事記の読み方』岩波新書、坂本勝

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（８０％）に平常点（２０％）を加味して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
自分で考え調べること、小さな世界から大きな世界に自分の思考を広げることの大切さ。

【Outline (in English)】
In this course, lectures on the mythological world of ancient Japan would be given. The worldview of ancient Japan, their way of feeling and thinking, those things what modern people lost would be examined.

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（日本）（夏期スクーリング）

大塚　紀弘

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』を講読する。今年度は、昨年度に引き続き文治４年（１１８８）３月５日条から講読を始める。日本中世の漢文史料を読解する基礎的な力を養成することを目的とする。

【到達目標】
日本中世の漢文史料を正しく訓読した上で、語句の意味を調べ、内容を正確に理解し、現代語訳することができる。所定の事項を満たしたレジュメを作成し、発表することができる。所定の事項を満たしたレポートを作成し、第１２回の最初に提出することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
第１回・第２回・第１２回は、講義形式で進める。第３回～第１１回は、演習形式で進める。担当者がレジュメに基づいて発表した後、その内容に基づいて、司会者の進行のもと、全員で議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	『吾妻鏡』とは（1）	履修のガイダンス
第2回	『吾妻鏡』とは（2）	史料の性格と講読の進め方の解説
第3回	『吾妻鏡』講読（1）	読解の報告と議論
第4回	『吾妻鏡』講読（2）	読解の報告と議論
第5回	『吾妻鏡』講読（3）	読解の報告と議論
第6回	『吾妻鏡』講読（4）	読解の報告と議論
第7回	『吾妻鏡』講読（5）	読解の報告と議論
第8回	『吾妻鏡』講読（6）	読解の報告と議論
第9回	『吾妻鏡』講読（7）	読解の報告と議論
第10回	『吾妻鏡』講読（8）	読解の報告と議論
第11回	『吾妻鏡』講読（9）	読解の報告と議論
第12回	講読内容の総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修者全員が講読する部分の訓読文・現代語訳文を予め作成する。担当者は担当部分を読解し、発表レジュメを用意する。第１０回までに講読した部分の訓読文・現代語訳をレポートとしてまとめ、第１２回の最初に提出する。

【テキスト（教科書）】
新訂増補国史大系『吾妻鏡』
講読する部分のコピーを配布する。

【参考書】
五味文彦『増補　吾妻鏡の方法』（吉川弘文館、１９９０年）
その他は授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
発表点４０％、レポート点６０％の合計で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
議論が活発になるように努める。

【Outline (in English)】
Read the medieval Chinese texts and train the ability to understand the contents deeply.

HIS200TD（史学 / History 200）

史学概論（夏期スクーリング）

秋山　千恵

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツの歴史学の歴史をふり返りながら、ドイツの歴史学界およびドイツ社会における諸論争の紹介をとおして、近年の歴史研究の動向・世界史認識の問題点を整理し、現代における歴史学について考えます。

【到達目標】
ドイツの歴史学の歴史から、歴史学を学ぶ際の基本的な知識を整理し、世界史の理解をめぐる理論と分析方法がどのように構築されてきたのか、その歴史を検討しつつ、現代の歴史学が直面する諸問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
　本授業は講義中心です。はじめにドイツの国民国家成立史をふりかえり、それからドイツの歴史学の歴史とドイツの主要な歴史論争を紹介します。理解を深めるために、プリント配布し地図なども提示しながら授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ドイツ国民国家の成立(1)	国民国家とは何か
第2回	ドイツ国民国家の成立(2)神聖ローマ帝国からドイツ連邦まで	市民社会の誕生とドイツ国民意識
第3回	ドイツ国民国家の成立(3)1848年革命からドイツ帝国の成立	ドイツ統一問題とドイツ国民
第4回	ドイツの歴史学の歩み(1)ドイツ帝国	ランケの歴史学
第5回	ドイツの歴史学の歩み(2) ヴァイマル共和国から第三帝国	伝統史学
第6回	ドイツの歴史学の歩み(3) 戦後ドイツ	第二次世界大戦後のドイツ歴史学界とフィッシャー論争
第7回	ドイツの歴史学の歩み(4) 1960年代から1970年代にかけてのドイツ社会	社会史論争
第8回	ドイツの歴史学の歩み(5)	「特有の道」論争
第9回	ドイツの歴史学の歩み(6) 1980年代のドイツ	歴史家論争
第10回	ドイツの歴史学の歩み(7)	ドイツ統一問題と歴史学
第11回	ドイツの歴史学の歩み(8) 現代歴史学の状況	歴史学界自体の「過去の克服」
第12回	試験	論述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　各回の授業内容を復習することで理解を深めます。

【テキスト（教科書）】
　特定のテキストは使用しません。

【参考書】
　毎回の配布プリントで当該授業の参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　論述試験（100％）で評価します。授業内容の理解とそのまとめ方を重視します。

【学生の意見等からの気づき】
　ひとつひとつわかりやすい説明に努めます。

【その他の重要事項】
　本授業は、2017年夏期スクーリング「史学概論」の一部および2015年夏期スクーリング「史学概論」の内容と重複します。

【Outline (in English)】
This course introduces German History and Historiography of German History to students taking this course.

HIS200TD（史学 / History 200）

東洋史概説（夏期スクーリング）

塩沢　裕仁

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要
隋唐の長安・洛陽成立前史として中国古代王朝の都を考えて行きます。
授業の目的・意義
古代中国史を彩った王朝文化の中心である都の有様と研究の現状をみることによって、長大な中国史の流れを実感し、東アジアの歴史文化に対する認識を深めることができます。

【到達目標】
中国古代王朝の政治・経済・文化の中心として機能してきた都の有り様とそれに関連する遺跡や文物を理解することで中国古代史の大きな流れと発展の状況を理解することができます。また同時に中国文化と深い関係にあった日本文化に対しても新たな認識をえることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
隋唐の長安・洛陽の成立に至る過程を中心に中国古代王朝の都に関する発掘状況や保存状況をみていきます。また、都の近傍に展開する陵墓の状況を通して各王朝の皇帝とその偉業などについても触れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	二里頭・偃師商城・鄭州商城	夏王朝の存在と夏殷交代期の問題を考える。
第2回	殷墟遺跡	殷墟をめぐる諸問題を考える。
第3回	周原・宗周豊鎬京	西周王朝をめぐる問題を考える。
第4回	成周洛邑	東周王朝をめぐる問題を考える。
第5回	邯鄲・侯馬・臨淄・新鄭	春秋戦国期の都を考える。
第6回	秦の雍城・咸陽	秦王朝の都を考える。
第7回	前漢の長安	前漢の長安とその都市圏を考える。
第8回	後漢の洛陽	後漢洛陽とその都市圏を考える。
第9回	魏晋北朝の鄴都	鄴都という都の性格を考える。
第10回	六朝の建康	建康と南朝文化を考える。
第11回	北魏の平城・洛陽	遊牧都市の性格を考える。
第12回	隋唐の長安・洛陽	隋唐の長安と洛陽の性格を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国王朝の流れ、地理環境、行政区分など、基本的な問題は下記の参考書などを通じて理解しておくようにしてください。また、授業中に配布する資料には必ず目を通しておくようにしてください。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
『千年帝都洛陽』塩沢裕仁、雄山閣、定価：3,990円（税込）
『中国の歴史　上（古代－中世）』（2009年改訂版）愛宕元・冨谷至、昭和堂、定価：各2,415円（税込）
『ビジュアル版世界史5、中国文明の成立』、講談社、定価2,625円（税込）。
『ビジュアル版世界史8、東アジアの世界帝国』、講談社、定価2,625円（税込）

【成績評価の方法と基準】
記述式試験100％

【学生の意見等からの気づき】
全員が初めて受ける内容であると思ってください。したがいまして、高等学校において世界史を選択したか否かは問題ではありません。

【Outline (in English)】
We will study on the Chinese ancient dynasties as the birth-history of the “SuiTang” capital “Changan” and “Luoyang”.

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（西洋）（夏期スクーリング）

高澤　紀恵

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史家たちはヨーロッパの過去に対してどのような問いを投げかけ、どのように歴史を描こうとしてきたのでしょう。この授業は、主にフランスと日本の歴史家たちの営みから、この問題を考えたいと思います。ヨーロッパの歴史に親しむだけでなく、歴史を学ぶ意味、歴史を捉える方法について一緒に学んでいきましょう。

【到達目標】
歴史が過去に問いかける人の営為によって描かれ、伝えられることを、ひとりのフランス人歴史家とひとりの日本人歴史家との知的対話を通して学びましょう。
それはまた、中世のヨーロッパと日本・フランスの二〇世紀史について学ぶことに繋がるでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
スクリーニング開始までにテクストを読んできてください。
第一日目に担当をきめますので、二日目以降は担当者による発表、質疑、議論によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の紹介 講師、受講生の自己紹介
第2回	『マルク・ブロックを読む』誕生の背景	書物を読む読み方の紹介
第3回	第一講「時代に立ち向かうブロック」（1）	講読・質疑・解説
第4回	第一講「時代に立ち向かうブロック」（2）	講読・質疑・解説
第5回	第二講「学問史のなかのブロック」（1）	講読・質疑・解説
第6回	第二講「学問史のなかのブロック」（2）	講読・質疑・解説
第7回	第三講「作品の仕組みを読む」（1）	講読・質疑・解説
第8回	第三講「作品の仕組みを読む」（2）	講読・質疑・解説
第9回	第四講「作品の仕組みを読む（つづき）」（1）	講読・質疑・解説
第10回	第四講「作品の仕組みを読む（つづき）」（2）	講読・質疑・解説
第11回	第五講「生きられた歴史」	講読・質疑・解説
第12回	総括	小エッセイの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者に割り当てて、概要を報告してもらいますので、事前にテクストを入手し、読んできて下さい。
自分はどの箇所を担当したいかを考えながら、疑問をもちながら読むことをおすすめします。

【テキスト（教科書）】
二宮宏之『マルク・ブロックを読む』岩波書店、（岩波現代文庫版）2016年。

【参考書】
高澤紀恵「高橋・ルフェーブル・二宮――「社会史誕生」の歴史的位相」『思想』1048号、2011年10月号。

【成績評価の方法と基準】
担当箇所の発表（40％）
議論への参加（20％）
最終回におけるエッセイ（40％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This course aims to understand how historians have treated and described the past of Europe. We will focus on the struggle of Japanese and French historians in the 20th century and today like Marc Bloch, Hiroyuki Ninomiya and so on.
Attendants are expected to read assignments in advance.

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（日本）（夏期スクーリング）

松本　剣志郎

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世文書の読解力を養成する。近世文書を読解するうえで必要な基礎的な知識を習得する。

【到達目標】
①くずし字辞典を用いて、近世文書を解読することができる。
②近世史に関する基礎的な知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式の授業であり、学生の発表が中心となる。テキストは「自家年譜（森山孝盛日記）」を用いる。くずし字辞典を用いながら影印本を読んでいくこととするが、活字本を適宜参照していくこととしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のすすめかたについて。森山孝盛について。
第2回	古文書読解（1）	日記凡例
第3回	古文書読解（2）	明和７年分
第4回	古文書読解（3）	明和８年正月、２月分
第5回	古文書読解（4）	明和８年３月、４月分
第6回	古文書読解（5）	明和８年５月、６月分
第7回	古文書読解（6）	明和８年７月、８月分
第8回	古文書読解（7）	明和８年９月、10月分
第9回	古文書読解（8）	明和９年正月、２月分
第10回	古文書読解（9）	明和９年３月、４月分
第11回	古文書読解（10）	明和９年５月、６月分
第12回	試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は配布された古文書のコピーを、授業前にくずし字辞典を使って読み進める。また語句等も調べておく。授業後は、読めなかった文字を確認する。

【テキスト（教科書）】
『自家年譜』上（内閣文庫影印叢刊、1994年）、「森山孝盛日記」（『日本都市生活史料集成』２巻、学習研究社、1977年）。ただしいずれもコピーを配布するので購入は不要。

【参考書】
児玉幸多編『くずし字用例辞典』普及版（東京堂出版、1981年）、林英夫監修『新編古文書解読字典』（柏書房、1993年）ほか。毎時間、このようなくずし字の辞典を持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80％）、平常点（20％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更につきフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing.

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（東洋）（夏期スクーリング）

兼平　充明

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前漢の司馬遷により著された歴史書『史記』を講読することにより、漢文史料の読解能力を養い、あわせて中国古代史についての基本的な知識を身に付ける。

【到達目標】
『史記』は上古から前漢の武帝の時代に至るまでの中国の歴史を紀伝体で記した正史であり、古くから中国のみならず日本をはじめとする漢字文化圏の国々において、知識人に必須の教養として読み継がれてきた。また中国古代史を研究する上でも必読の史料である。本演習では浩瀚な『史記』の中から適当な個所を選んで講読を行い、①訓読(書下し)という日本独自の漢文の読み方に習熟する。②漢文史料の読解の際に必要とされる工具書についての知識を得て使いこなせるようになる。③教員による解説を通じて史料の扱う時代について理解を深める。という三点を目標とする。以上の目標の達成度については学期末の筆記試験によって評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回担当者に訓読(書下し)と現代語訳という形で報告をしてもらい、その後、全員でその部分について議論するという形で進めていく。また要所において当該時代の政治・制度・社会の状況について説明を加えることにより、より一層深いテキストの理解をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方および『資治通鑑』についての説明。
第2回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第3回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第4回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第5回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第6回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第7回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第8回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第9回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第10回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第11回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第12回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回必ずテキストの前回読んだ箇所を復習し、今回読む箇所を予習してくる。予習をする際には史料内に出てくる人名・地名等についてもできる限り調べてくる。できれば正史等他の史料との対象といった作業もやってくることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(４０%)、筆記試験(６０%)

【学生の意見等からの気づき】
質問を歓迎します。

HIS200TD（史学 / History 200）

西洋史概説（夏期スクーリング）

後藤　篤子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代地中海世界を統一し、ローマ法やキリスト教など、その後の西洋世界に有形無形のさまざまな遺産を遺した古代ローマの歴史と社会について学びます。ほぼ1000年にわたる古代ローマの歴史とその社会に関する基本的知識を習得することは、現代世界が抱える諸問題を多角的視野から考える眼を養うことにもつながるでしょう。

【到達目標】
古代ローマの「共和政」の特質について、古代アテナイや現代の民主政との違いも含めて説明できる。
都市国家から出発したローマが古代地中海世界を統一する「帝国」となっていく過程と支配方法の変容について説明し、ローマ支配層による戦争正当化の論理がはらむ問題点について考察することができる。
アウグストゥスによる独裁権力の形成過程について説明し、その独裁権力がなぜ受容されたかについて考察することができる。
「ローマの平和」が現代世界に提起する諸問題を批判的に考察することができる。
古代ローマの「衰亡」をめぐる多様な考え方を知り、それらを批判的に検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
ローマ「共和政」の成立から西ローマ帝国滅亡までの約1000年にわたる歴史について講述します。講義形式の授業ですが、質疑応答の時間を毎回取り、双方向の授業になるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	建国伝説と歴史学	都市国家ローマの成立
第2回	共和政期ローマの国制	ローマ「共和政」の特質
第3回	都市国家から世界帝国へ（1）	イタリア制覇とポエニ戦争
第4回	都市国家から世界帝国へ（2）	東地中海制覇とローマ人の戦争正当化の論理
第5回	ローマ共和政の動揺	支配拡大による社会の変質とグラックス兄弟の改革
第6回	共和政から帝政へ	「内乱の百年」とユリウス・カエサル
第7回	皇帝位なき「帝政」の成立	アウグストゥスによる「帝政」樹立と「パンとサーカス」
第8回	「パクス・ロマーナ（ローマの平和）」期の属州統治	「小さな政府」による帝国統治
第9回	「パクス・ロマーナ」をめぐって	「パクス・ロマーナ」が現代世界に提起する諸問題
第10回	帝国の危機と再編	3～4世紀のローマ帝国
第11回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐって	さまざまな見解と「衰亡論」の陥穽
第12回	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講前に参考書として挙げてある本（挙げていないものでもよい）や、少なくとも高校「世界史」教科書の、ローマ史に関する部分を読んでおく。
1日に2コマの授業となるが、毎日の授業内容を配布プリントやノートで復習し、理解が不十分と思われる点については、参考書等を利用して自分で調べたり、授業時に質問するなどして、解決するよう努める。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。授業時に講義内容のレジュメと関連史料・図版等を記載したプリントを配布します。

【参考書】
服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』、ミネルヴァ書房、2006年。
中井義明・佐藤専次・渋谷聡・加藤克夫・小澤卓也著『教養のための西洋史入門』、ミネルヴァ書房、2007年。
本村凌二・中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012年。
その他の参考文献は、授業時の配布プリントで随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終時限に実施する筆記試験100％で評価します。6日間のスクーリングのうち2日以上を欠席すると筆記試験の受験資格は認められないので、注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
この数年の夏期スクーリングでは演習を担当していたため、特にありません。

【Outline (in English)】
This course deals with the essentials of ancient Roman history.

HIS300TD（史学 / History 300）

日本古文書学（夏期スクーリング）

仁平　義孝

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、日本の古代・中世文書の様式や機能について理解することを目的とする。

【到達目標】
古文書の様式・機能に関する基礎的知識を習得し、文書様式に反映された政治や社会の仕組みについて理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はテキストに沿って進め、必要に応じてプリントを配布する。具体的に史料を読みながら、文書様式や用語、背景にある政治構造などについて解説する。受講生には、史料を読む、原文に返点を付けるなどの作業をしてもらう。文書の形態を確認するためにテキストの図版などを参照するが、くずし字を読む作業は予定していない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	古文書学とは、古文書とは
第2回	古文書の伝来	文書伝来の素因、正文と案文
第3回	公式様文書（1）	詔書・勅書・符
第4回	公式様文書（2）	移・牒・解
第5回	公家様文書（1）	宣旨・官宣旨
第6回	公家様文書（2）	下文・庁宣
第7回	公家様文書（3）	綸旨・院宣・御教書
第8回	武家様文書（1）	鎌倉幕府発給文書（1）
第9回	武家様文書（2）	鎌倉幕府発給文書（2）
第10回	武家様文書（3）	室町幕府発給文書（1）
第11回	武家様文書（4）	室町幕府発給文書（2）
第12回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストをしっかり読む。参考書や授業時に紹介する文献を読む。授業中に理解できなかった事柄について自ら調べる。

【テキスト（教科書）】
佐藤進一『新版　古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）

【参考書】
日本歴史学会編『概説古文書学　古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）
田中　稔「古文書」（同『中世史料論考』吉川弘文館、1993年）
久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く1　中世文書の流れ』（山川出版社、2006年）
苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）
その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to study the style and function of old documents in ancient and medieval Japan.

HIS100TD（史学 / History 100）

日本史概説（夏期スクーリング）

安田　寛子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際化の進展の中で、日本文化の発信が重要視されているが、その多くが江戸時代に成熟した、あるいは生み出されたものである。それは、この時代が幕藩体制と呼ばれる仕組みのうえに、260年余りも平和が続いた時代であったことが大きく影響したといえる。
そこで、この時代を支えた支配機構の特質や、その中で生きた人々について取り上げ、このような平和で安定的な長期政権となった理由はどこにあったのか、またそれだけ続いた政権がなぜ崩壊することになったのかについて考える。

【到達目標】
今後、広く国際社会に日本を発信していくためには、日本とはどういう国なのかということを我々自身がより深く知る必要がある。そこで、今も日本の中に多くの影響を残す江戸時代について、単に紙の上の学問としてではなく、我々と同じ生身の人間が生きた時代として身近に感じながら学んでいくことが目標である。その過程で、物事の本質を見抜く眼や判断する力も養っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は毎回配付するレジュメに沿って行う講義形式となる。
進め方は、まず、江戸幕府の成立過程を概観することで徳川政権の特質を明らかにし、その後いくつか特徴的なテーマを選んで詳しく見ていくこととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	講義概要と参考文献	授業の進め方と参考文献
第2回	幕府法令　1	江戸幕府の成立・法による支配、様式
第3回	幕府法令　2	伝達方法・発令手順、高札
第4回	鷹場制度　1	鷹場制度とは、なぜ放鷹なのか
第5回	鷹場制度　2	鷹場制度の維持基盤
第6回	鷹場制度　3	鷹場制度の解体
第7回	近世の村　1	近世の村の特徴と機能
第8回	近世の村　2	法令・史料などから見る近世農村の実態
第9回	近世の村　3	結婚・離婚などから見る近世女性の地位
第10回	宗教と武家・民衆　1	幕府の宗教政策、宗教と民衆との関係
第11回	宗教と武家・民衆　2	宗教と武家・民衆との関係
第12回	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の準備は特に必要ないが、授業終了後は必ず復習を行い、きちんと理解出来たかどうか確認すること。

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配付します。

【参考書】
深谷克己『江戸時代（日本の歴史6）』（岩波ジュニア新書336、2000年）
この他については講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験１００％

【学生の意見等からの気づき】
なるべくわかりやすく、ゆっくり話すようにしたいと思います。

【Outline (in English)】
We will take up the characteristics of the control system that supported the Edo era and the people living in it, think about the reasons why such a peaceful and stable long-term government became and why it collapsed.

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（日本）（夏期スクーリング）

長井　純市　中川　洋

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1）日本近現代史における古文書の読解力を養成する。
2）産業考古学および産業遺産(近代化遺産)に関する基礎的な知識を習得する。

【到達目標】
1）くずし字辞典を使い、日本近現代の政治史に関する古文書を読むことができるようになること。また、その作業を通して、日本近現代の政治史に関する基礎的な知識を習得すること。
2）日本近現代の産業遺産に関する概念・理論・現状と課題を理解し、産業遺産の調査・研究および保存・活用の知識を含む産業考古学の基礎を習得する。
3）日本の近代化について、古文書および産業遺産を通して、自分なりの見方を持つ手がかりを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
1）毎回、授業の前半を長井が担当し、後半を中川が担当する。
2）前半では、くずし字で書かれた日本近現代政治史に関する古文書を、受講生自らくずし字辞典を使いながら読み、担当教員による解説と受講生との質疑応答を通して、理解を深める。
3）後半では、産業考古学について、産業遺産に関連する映像・画像等を参照しながら、担当教員の講義と受講生との質疑応答を通して、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	（長井担当）イントロダクション。日本近現代政治史研究史料としての古文書	授業全体の概要紹介。日本近現代史研究に関わる一次史料についての概説。
第2回	（中川担当）イントロダクション。産業遺産と産業考古学についての概説	授業全体の概要紹介。産業遺産と産業考古学の概要について解説。歴史研究における産業考古学の役割、特徴について考える。
第3回	（長井担当）古文書読解（1）	くずし字辞典利用法とくずし字史料の読解、解説、質疑応答（1）
第4回	（中川担当）産業考古学と現代社会	産業考古学の社会的意義と任務。何に役立ち、何を目指すのか、多角的に考える。質疑応答（一）
第5回	（長井担当）古文書読解（2）	くずし字史料の読解、解説、質疑応答（2）
第6回	（中川担当）鉄道と海運の産業遺産	日本の近代化を支えた鉄道と海運関連の産業遺産についてのケーススタディ。質疑応答（二）
第7回	（長井担当）古文書読解（3）	くずし字史料の読解、解説、質疑応答（3）
第8回	（中川担当）戦争と軍事の産業遺産	いまだ評価の定まらない戦争遺産、軍事遺産についてのケーススタディ。質疑応答（三）
第9回	（長井担当）古文書読解（4）	くずし字史料の読解、解説、質疑応答（4）
第10回	（中川担当）産業考古学机上演習	産業遺産の調査と研究、保存と活用のノウハウ、実務の一端を学ぶ。質疑応答（四）
第11回	（授業の総括と質疑応答）	担当教員による授業全体の振り返りと総括、および受講生との質疑応答
第12回	単位修得試験	授業内容全体に関する受講生の理解度および知識の定着度を問う試験の実施。長井、中川それぞれ問題用紙および解答用紙を別にする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）長井担当分については、毎回授業時に配布される古文書コピーをくずし字辞典を使って予習・復習すること。授業内容に関連して、教科書の該当箇所を読むこと。
2）中川担当分については、授業内配付資料を授業前後に予習・復習し、理解を深めるとともに、知識の定着に努めること。
3）（長井・中川共通）毎回、授業内容に関わる質問事項を考えておくこと。

【テキスト（教科書）】
（長井担当分）安岡昭男『日本近代史』（法政大学通信教育部）および講義時配布プリント
（中川担当分）講義時配布プリント

【参考書】
（長井担当分）簡便なくずし字辞典および漢和辞典
（中川担当分）伊東孝『日本の近代化遺産』(岩波書店・岩波新書695)、平井東幸ほか『産業遺産を歩こう』(東洋経済新報社)、二村悟『これだけは見ておきたい日本の産業遺産図鑑』(平凡社)　その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
長井・中川共通で、平常点40％、試験60％で成績評価を行う。試験問題は長井・中川それぞれ別問題である。

【学生の意見等からの気づき】
双方向的な授業運営を行う。受講生の作業的学習と質問を活用し、受講生にとって積極的・能動的な授業（アクティブ・ラーニング）となるよう努める。さらに、毎回、受講生の学びの成果について短いプレゼンテーションの時間を設定する。

【その他の重要事項】
やむを得ない事情により遅刻、欠席、早退する場合には、担当教員に申し出ること。また、授業中に心身の不調を生じた場合にも、直ちに担当教員に申し出ること。

【Outline (in English)】
This class has three main points. The first one is to study the Japanese modern history through old documents and modern industrial heritage. The second one is to get an basic skill for reading and comprehending old documents written in the cursive style of Chinese characters in the modern Japanese history. The third is to get a basic knowledge on the industrial archaeology and the heritage of industrial modernization.

HIS300TD（史学 / History 300）

東洋史特講（中国現代史）（夏期スクーリング）

齋藤　勝

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】
現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
中国の激動の軌跡を講ずるとともに、それを描いた映画を通して現代中国への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	中華人民共和国の成立	抗日戦争から国共内戦、中華人民共和国の成立まで
第2回	1950年代	社会主義化の推進、反右派闘争、大躍進
第3回	1960年代	文化大革命へ
第4回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第5回	身分と抑圧(1)	『芙蓉鎮』の描く社会(1)
第6回	身分と抑圧(2)	『芙蓉鎮』の描く社会(2)
第7回	支配と教育(1)	『子供たちの王様』の描く教育問題(1)
第8回	支配と教育(2)	『子供たちの王様』の描く教育問題(2)
第9回	1980年代	改革開放
第10回	1990年代以降	経済成長
第11回	格差社会(1)	『あの子を探して』の描く現代(1)
第12回	格差社会(2)	『あの子を探して』の描く現代(2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プリントによって事前に知識を深める。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート100％
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
授業に関する質問は授業の前後に受け付けますので、気楽にお訊き下さい。

【Outline (in English)】
Outline:Surveying the history of modern China
Objectives:Considering how politics had affected the life of people in　China

HIS200TD（史学 / History 200）

日本考古学（夏期スクーリング）

小倉　淳一

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本列島における原始・古代の生産と技術について考え、生産活動を支える技術の進化が列島史にどのような影響を与えてきたのか学ぶ。

【到達目標】
考古学の特性を理解することができる。
日本の旧石器時代から古墳時代までの主要な生産活動の展開について理解し、まとめることができる。
各時代に特徴的な諸技術について理解し、まとめることができる。
生産と技術を解明するための考古学的な研究方法について実例をあげて解説することができる。
技術と社会との関係を各時代のなかで理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業方法は講義形式による。資料を配付する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／時代概要	授業の概要と方法・評価基準／各時代の概要解説
第2回	旧石器時代の生産と技術（1）	中期旧石器と後期旧石器
第3回	旧石器時代の生産と技術（2）	後期旧石器時代の石器群
第4回	縄文時代の生産と技術（1）	縄文土器の製作技術
第5回	縄文時代の生産と技術（2）	縄文時代の各種生業技術
第6回	弥生時代の生産と技術（1）	灌漑水稲耕作の展開
第7回	弥生時代の生産と技術（2）	青銅器の製作技術
第8回	弥生時代の生産と技術（3）	木器の製作技術
第9回	古墳時代の生産と技術（1）	須恵器の製作技術
第10回	古墳時代の生産と技術（2）	金属生産・加工技術
第11回	古代の生産と技術	正倉院と古代の技術
第12回	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
旧石器時代から古墳時代にかけて、各時代の概要、生業上の特質などを概説として学んでおくことが望ましい。参考書を参照すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。参考書を参照すること。

【参考書】
大津透ほか（2013）『岩波講座日本歴史第1巻　原始・古代1』岩波書店
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
記述式の筆記試験を行う（参照不可・100％）。ただし、平常点については通信教育部の規定に従う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn the Ancient technology　of Japan.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

現地研究（夏期スクーリング）

山口　隆子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**1群前半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
十和田八甲田地域の地形・気候・景観について学ぶ。

【到達目標】
十和田八甲田地域の自然環境の特徴について理解し、関心のある研究テーマを見つけ、まとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、終日屋外で実施する。
行程（予定）は以下の通りである。
1日目：現地集合。三内丸山遺跡を見学し、北東北の縄文期以降の気候変動を把握するとともに、八甲田山の自然環境について現地踏査を通して学ぶ。また、酸ヶ湯温泉に滞在し、湯治文化に触れる。
2日目：二重カルデラである十和田湖や十和田湖から流出する唯一の河川である奥入瀬川が削って形成したU字型の奥入瀬渓谷、八甲田山赤倉岳の巨大地すべり地形となっている蔦沼周辺を観察する。
3日目：酸ヶ湯温泉周辺の自然環境の特徴を理解する。現地解散。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	初日 オリエンテーション	10時30分、新青森駅集合。 本講義の趣旨と概要説明。
第2回	三内丸山遺跡	縄文時代から現代までの、青森の気候について学ぶ。移動の車中にて、各自のテーマ（仮）と既存文献について発表。
第3回	八甲田山	ロープウェイで山頂へ行き、八甲田ゴードライン（田茂萢湿原）散策（1.8㎞1時間）。
第4回	酸ヶ湯温泉	国民保養温泉地第1号の一つである酸ヶ湯温泉にて、湯治について学ぶ。
第5回	2日目 十和田湖	バスにて十和田湖休屋へ移動。十和田ビジターセンター見学。遊覧船で子の口へ移動。
第6回	奥入瀬渓谷	奥入瀬渓谷にてコケ観察。
第7回	蔦温泉	酸ヶ湯温泉との泉質の違いなどを学ぶ。
第8回	蔦沼周辺散策	大規模地すべり地形である蔦沼周辺を散策（2.6㎞1時間30分）。
第9回	3日目 酸ヶ湯周辺	アメダス酸ヶ湯の見学を通じて、気象観測について学ぶ。
第10回	酸ヶ湯周辺	東北大学付属植物園八甲田山分園、地獄沼、まんじゅうふかしなどを散策。
第11回	振り返り：ディスカッション	3日間の活動を振り返り、ディスカッションを通じて各自のテーマ（最終案）を検討。
第12回	解散	酸ヶ湯温泉にて解散。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初日に、レポートのテーマ(仮)と既存文献について発表（3分程度）してもらいます。
参考文献を参考に、レポートのテーマに関連するものを読んでおいてください。また、八甲田の自然を予習するため、映画『八甲田山』を鑑賞しておいてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
阿岸祐幸(2009):『温泉と健康』.岩波書店,204p.
鮎川恵理・神田啓史(2013)：奥入瀬渓流のコケ植物について.八戸工業大学エネルギー環境システム研究所紀要,11,11－19.
井口隆・八木浩司(2017)：八甲田山赤倉岳の巨大地すべり地形.日本地すべり学会誌,54,72－73.
伊豫部勉・河島克久・和泉薫(2012)：Web上で公開される積雪深情報の実態と一元的集約による積雪深分布図の作成,日本雪工学会誌,28,211-220.
岩淵　功(1999)：『八甲田の変遷－史料で探る山と人の歴史』.『八甲田の変遷』出版実行委員会,425p.
植松康・佐々木和彦（1999）：東北地方における風観測（その1青森県と秋田県の場合）.日本風工学会誌,78,81－93.
NHK「ブラタモリ」制作班(2018)：『ブラタモリ14　箱根 鹿児島 弘前 十和田湖・奥入瀬』,KADOKAWA,112－134.
王紅兵・鏡森定信(2006)：過去20年間に邦文で報告された温泉の健康増進作用に関する研究論文のレビュー.日温気物医誌,69,81－102.
紀藤典夫(2015)：東北・北海道における最終氷期以降のブナ林の拡大.森林立地,57,69－74.
千葉修・小林文明・久末正明(2006)：八甲田山系におけるフェーンによる強風発生の可能性について.天気,53,551-563.
十和田湖町史編纂委員会(2002)：『十和田湖町史　上巻』.十和田湖町,3-180.
長尾英彦(2008)：奥入瀬渓流落枝受傷事故.中京法学,43,253－262.
中静透(2015)：気候変動を伴う生態系影響と適応.森林環境,2015,7－16.
日本温泉科学会(2005)：『温泉学入門』.コロナ社,128p.
卜蔵建治・福地恒夫(1994)：八甲田の降積雪特性に関する研究.雪氷,56,57－62.
松井哲哉・志知幸治(2015)：気候変動と森林の変化.森林科学,73,30－33.
三島隆章(2012)：奥入瀬渓流での散策が唾液アミラーゼ活性に及ぼす影響について.八戸大学紀要,44,35－42.
水本涼太・佐々木幹夫(2018)：八甲田山積雪特性.東北地域災害科学研究,54,155－160.
安田正次・沖津進(2007)：東日本日本海側多雪山地における山地湿原の縮小要因.食と緑の科学,61,1－5.
力石國男・林利幸(1995)：地形による風の収束と青森市の降雪.雪氷,57,221－228.

【成績評価の方法と基準】
全日程の出席が成績評価の前提である。
授業への積極的な姿勢（50%）および事後レポート（50%）により 評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
日程：2019年7月22日（月）～7月24日（水）
場所：青森県青森市・十和田市
宿泊場所：酸ヶ湯温泉（青森市荒川字南荒川山国有林小字酸湯沢50 TEL017-738-6400）
参加費用：30,000円程度。ただし、昼食代は含まない。参加人数により、貸切バス代が若干変動あり。
諸注意：以下の①～③のとおりです。
①屋外・徒歩での現地踏査になります。温度調節しやすい服装（寒暖差が大きいです）、雨具（上下別のもの）、靴（はきなれた運動靴もしくはトレッキングシューズ）、貴重品・飲料水・地図等資料を入れるリュックサックなどを準備してください。コケの観察を予定している場合は、ルーペ、スマホ用マクロレンズ（100円ショップにもあり）を用意するとよいでしょう。
②地形図は各自、テーマに合わせて必要なものを購入してください。対象範囲は、2万5千分の一「雲谷」「酸ヶ湯」「八甲田山」「陸奥焼山」「十和田湖東部」「十和田湖西部」。
植生図、土壌図、地質図等は、各自、テーマに合わせて必要なものをダウンロードし、印刷してきてください。
③天候などの影響によって、予定を変更する可能性があります。
自然公園（国立公園含む）の維持管理を担当してきた経験から、国立公園の現状について、現地で説明していきます。

【Outline (in English)】
Learn the topography, climate and landscape of the Towada Hakkoda area.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

測量学及び測量実習（１）（夏期スクーリング）

平井　英明

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群前半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎理論を学ぶとともに、実習を行い、測量の基礎的技術の習得を目指す。特に、測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う。

【到達目標】
測量に関する基礎理論を学び、測量実習を体験することで測量に関する基礎的知識を習得できる。また、測量に関する誤差理論や誤差要因を解明することで、測量数学のみならず、測量の精度や品質について理解できる。特に水準測量の講義と実習では、水準測量の役割や誤差等についての基礎知識や水準儀を用いた測量技術を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
測量の歴史から測量の基準・測量に関係する法律等の事項やさまざまな測量方法について紹介する。同時にこれら測量における観測データの処理や誤差の扱い等についての基礎的理論を学ぶ。特に、基本的な測量の１つである水準測量について、講義と野外での測量機器を使った実習を行い、得られた観測データの処理等について統合的に学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	測量の概要	測量とは、測量の歴史など、測量の概要について講義する
第2回	測量法及び資格について	測量の関する法律と測量の資格について講義する
第3回	地球と測量の基準について	地球の大きさや形及び測量の基準（特に座標系等）について講義する。
第4回	我が国の測量の基準について	我が国の測量の基準のうち、高さの基準である日本水準原点を見学し、その歴史・役割について学ぶ。
第5回	様々な測量と公共測量について	距離測量、GPS測量、トータルステーションを用いた測量などの原理及びそれらを用いて実施する公共測量について講義する
第6回	測量の誤差について	測量の誤差について誤差の種類や誤差の取り扱いについて講義する
第7回	測量の誤差について	特に水準測量の誤差を中心にその処理方法などを講義と計算実習を行う
第8回	水準測量の原理	水準測量の原理、使用する機器等について講義する
第9回	水準測量の実習	水準測量の方法・水準儀(レベル)の使い方について実習する。
第10回	水準測量の実習	水準測量を実習する
第11回	水準測量の実習	水準測量のデータ処理を実習する
第12回	まとめ	データ処理の結果をまとめ、測量精度等を評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの序章～7章までを予習しておくこと。
また、授業時間内に終了しなかったデータ整理等はグループごと又は個々に次の時間までに終わらせておくこと。

【テキスト（教科書）】
長谷川昌弘　・　川端良和　「改訂新版　基礎測量学」　電気書院

【参考書】
書店には測量学に関する様々なテキスト、図解テキストが置かれている。測量のデータ処理には数学が欠かせないものの、自分のレベルや興味に応じ、以下の本などを参考にするとよい。
中堀義郎ほか著　「絵で見る基準点測量　第２版」　日本加除出版
斎藤　博ほか著　「新版　教程　基準点測量」　山海堂
大滝三夫ほか著　「公共測量教程　水準測量」　東洋書店
大滝三夫ほか共著「公共測量教程　測量計算」　東洋書店

【成績評価の方法と基準】
成績評価は試験４０％程度と授業中・実習等の態度６０％程度を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年までの講義でいただいた主な意見は、講義用プリントが見づらい、数学的な講義が少ない、専門用語が理解できない、実習時間が短かい、などがありました。
限られた時間ではありますがこれらを考慮し、少しでも改善した講義・実習を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を用意すること。

【その他の重要事項】
この授業に引き続いて、冬季に実施される「測量及び測量実習Ⅱ」の履修も測量士補の国家資格取得のためには必要である。

【Outline (in English)】
The most fundamental information regarding space is information regarding position.　Surveying is the method used to get this information regarding position. In this class, studies along with actual practice will be held for learning the basic theories concerning surveying, all with the aim of learning the basics of surveying. In particular, leveling, which is one of the pillars in the basic handling of surveying data and in surveying will be the focus of this lesson's study and practice.

HUG100TE（人文地理学 / Human geography 100）

現地研究（夏期スクーリング）

片岡　義晴

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**1群後半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この現地研究では、戦後日本の経済の牽引役を期待され、優先的な資金調達も受けた石炭産業の跡地（つまり炭鉱跡）をたどり、産業の変容と地域の変容とを確認したいと思います。それがこの現地研究の目的です。行き先は長崎県池島です。最終日は有明海を渡り福岡県三池港まで行き、石炭博物館を訪問します。石炭を指標にして、関連する地域を巡ってみることで、産業が地域に如何に影響してきたか、地域は如何に翻弄されてきたか（それらは未だそうなのですが）を確認できるようにしたいと考えています。

【到達目標】
日本の炭鉱は九州と北海道に集中し、そこでは特有の「炭鉱社会」を形成してきたといわれます。産業によって地域社会のかたちがつくり出されたと捉えることができます。この現地研究では長崎県池島を見学し、産業撤退が地域社会そのものを大きく変容させていった様子を、見学を通して知ることを目指します。また明治初め以降、20年代までは、福岡県の三池炭鉱の石炭は有明海を渡り、長崎県島原半島の口之津港まで小さな船を何艘も数珠つなぎにして運ばれ、そこで大型船に積み替えられて主に上海市場に輸出されていました。今回はそのルートを逆にたどって、島原半島から三池港まで有明海を渡ってみます。それらを通して石炭が如何に日本産業を支えてきたか、その過程で如何に地域が産業に組み込まれていったかを理解できるようにすること、それが今回の現地研究の最終目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
事前に資料を送りします。それをよく読んでおいて下さい。見ることを通して社会の構造を考えることを目指しますが、まずはよく観察することから始めましょう。現地では炭鉱跡地を知るために炭鉱体験ツアーに参加予定です。また高速艇とはいえ小型船で有明海を渡ります。船に弱い人はご注意下さい。したがって歩きやすい靴、動きやすい格好、そして汚れても良い格好が必要です。3日間とも移動の連続になりますので、その旨ご理解ください。
なお、初日の集合は午前11時過ぎ頃、長崎駅前バス停を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	未定	実施要領参照
第2回	未定	実施要領参照
第3回	未定	実施要領参照
第4回	未定	実施要領参照
第5回	未定	実施要領参照
第6回	未定	実施要領参照
第7回	未定	実施要領参照
第8回	未定	実施要領参照
第9回	未定	実施要領参照
第10回	未定	実施要領参照
第11回	未定	実施要領参照
第12回	未定	実施要領参照

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
炭鉱は地域産業として1960年代まで重要な役割を担ってきました。特定の産業に依存した地域は未だにいくつも存在します。そうした地域の現実に関するニュース報道に目を配って下さい。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。事前に資料を送付します。

【参考書】
遠藤周作『沈黙』（新潮文庫）は、出津文化村が位置する集落（池島に渡航するための神浦港からほど近い距離にあります）をモデルにしたと言われています。そこは2018年、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に登録された教会群の一つもある地です。2日目には『沈黙』記念碑に立ち寄る予定です。興味のある人は読んでみて下さい。

【成績評価の方法と基準】
現地での質問等、積極的参加程度20％、レポート80％、合計100％で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
数年前、実施した現地研究は横浜を対象地域としたため、参加容易な人とそうでない人がいたようです。とはいえ自宅から近かろうがそうでなかろうが、距離によって実施場所を決めることはできません。あくまでも「テーマ」それ自体によって現地研究実施場所は選ばれるべきだと考えています。その点については未だ変更はありません。

【学生が準備すべき機器他】
（地勢図）20万分の1：長崎、熊本
（地形図）5万分の1：神浦

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
In this excursion, we will visit former coal mines in Ikeshima Nagasaki, and Miike Fukuoka, Kyushu. The main aims of this excursion are to understand relationship between the decline of local industries and local communities.

GEO400TE（地理学 / Geography 400）

自然地理学演習（夏期スクーリング）

小寺　浩二

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学分野の研究を行い、卒論を書くにあたって必要な基本的な能力を育成する。できれば、自然地理学分野（特に水文学・陸水学）で個人的なテーマを設定することが好ましいが、分野には限らない基礎的なスキルの修得を中心とする。

【到達目標】
テーマの選定、先行研究の文献レビュー、資料・データ収集、データ解析、各種主題図の作成、まとめと、地理学の研究論文を書く上で必要な能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
事前に指示された方法に従ってテーマを設定し、先行論文のレビューを行った上で、研究構想発表の段階から授業に入る。そして、事前準備内容の修正をしながら、正しい研究の仕方、論文の書き方について、毎時間細かく指導する。特に、データ解析や各種主題図の作成法については、コンピュータとＧＩＳを活用しながら(不得手な方でも十分活用できる基礎的なものを中心とする)、具体的な実習の中で技術を身につける。その上で、論文としてまとめる上でのポイントについても指導し、実際に小論文を書くことで、身につけた内容を確実なものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの選び方	いくつかの具体的なテーマを示した上で、各自、個別のテーマを選定する。
第2回	対象地域の選び方	個別テーマに従って、対象地域を選定する方法について学ぶ。
第3回	先行研究のレビュー①（文献リスト）	文献リストの作成法について学ぶ
第4回	先行研究のレビュー②（論文要旨のまとめ方）	いくつかの論文の要旨をまとめ、比較しながら研究課題を見つける方法について学ぶ。
第5回	資料・データの収集法	インターネットなどを活用した資料・データ収集方法について学ぶ。
第6回	データの解析法	主に、Excelを用いたデータ解析について学ぶ
第7回	ＧＩＳを用いた主題図作成①	日本全図スケールでの主題図を作成
第8回	ＧＩＳを用いた主題図作成②	都道府県スケールでの主題図を作成
第9回	ＧＩＳを用いた主題図作成③	市町村スケールでの主題図を作成
第10回	結果のまとめ方	様々な図表などを用いたまとめ方を学ぶ
第11回	論文の記述法	実際に論文を書く上で必要な具体的なポイントについて学ぶ
第12回	小論文の評価・講評	提出された小論文について講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１）事前準備：受講確定後、指示される方法に従って、テーマを決定し、文献リストを作成する。
２）事後学習：講義期間に提出した小論文に対する講評を受けて、期限までに修正したものを再提出する。

【テキスト（教科書）】
プリント資料を配付。

【参考書】
後藤真太郎・谷謙二・酒井聡一・坪井塑太郎・加藤一郎(2013)：『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座 第3版－地図化すると見えてくる－』
古今書院, 2,600円(絶版になっていますが、多くの図書館にあり、古本でも入手可能です。できる限り入手して下さい。)

【成績評価の方法と基準】
①事前学習、②出席、③実習課題　④小論文　を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】
限られた分野だけでなく、幅広い分野に対応した実習とする。また、水文学・陸水学に関する基礎講義についての要望も多いので、ある程度の講義は行う。

【その他の重要事項】
ＧＩＳの活用が前提なので、事前にテキストを用いて自習しておくことが必要である。

【Outline (in English)】
Do research in the geography field and develop basic skills necessary for writing graduation thesis. If possible, it is preferable to set personal themes in the field of geography (especially hydrology and land and water), but focusing on acquiring basic skills not limited to the field.

HUG200TE（人文地理学 / Human geography 200）

人文地理学特講（夏期スクーリング）

米家　志乃布

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。
本講義では日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察します。

【到達目標】
この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．日本・世界における「遺産」の歴史について概要を説明します。
２．日本・世界における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。
３．日本や世界の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。１～３について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために地図の作業をしたり、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 歴史地理学における「遺産」とは？	授業内容の説明、参考論文や参考書の紹介、歴史地理学的方法論の解説など
第2回	地域の遺産を守るためには？	世界遺産・文化財保護制度について
第3回	日本の歴史観光都市①～奈良	平城京～都市の衰退～文化財の保存～現代の観光都市へ
第4回	日本の歴史観光都市② ～京都	平安京～秀吉の都市改造～近代京都へ
第5回	「江戸東京」の歴史と現在③～江戸	江戸の街づくり、江戸に生きる人々の伝統文化
第6回	「江戸東京」の歴史と現在④～近代東京	日本の首都化・東京の拡大・世界都市東京へ
第7回	日本の歴史観光都市③～大阪	大阪城の復元・インバウンドで賑わう街
第8回	世界の歴史観光都市① ～ウィーン	ウィーンの歴史的街並保存と都市変容
第9回	世界の歴史観光都市②～プラハ・ブタペスト	東欧における都市の歴史と観光地化
第10回	世界の歴史観光都市③～サンクトペテルブルク	「ヨーロッパの窓」としての街づくりの特色と観光地化
第11回	京都・祇園祭の歴史と現在	現在に生きる伝統・創造された伝統とは？
第12回	まとめ	日本・世界の歴史観光都市の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としては、テレビの旅行番組を見たり、探検記や旅行記などを読んで、様々な国や地域の在り方について考えてみることをおすすめします。スクーリング期間中の宿題などは特にありません。

【テキスト（教科書）】
特にありません。適宜授業内でプリントを配布して説明します。

【参考書】
適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％・最終の試験50％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This lecture is to explain historical geographies of heritage and tourism.

HUG400TE（人文地理学 / Human geography 400）

人文地理学演習（夏期スクーリング）

小原　丈明

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，地理学科において地理学を学ぶ上で必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には，人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について，資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

【到達目標】
本授業を通じて，人文地理学という学問の性質を理解できるようになり，また，人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
まずは，人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして，さまざまな作業を通じて，それら知識や方法を修得できるようにします。したがって，授業の半分は講義形式で行い，残り半分は実習形式（作業）で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第2回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第3回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第4回	データの加工・図表の作成①	統計データ，地図，各種資料について
第5回	データの加工・図表の作成②	表の作成
第6回	データの加工・図表の作成③	グラフの作成
第7回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成
第8回	データの加工・図表の作成⑤	地図表現を考える
第9回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味，準備作業
第10回	フィールドワークの手法②	踏査・観察による調査
第11回	フィールドワークの手法③	アンケート・ヒアリング調査
第12回	成果の公表／総括	プレゼンテーション，学術論文の執筆について／人文地理学における研究方法についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の性格上，授業内だけでなく，授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されます。具体的には，スクーリング前の事前学習（課題）やスクーリング期間中の授業外学習（課題）が必要となります。事前学習に必要な課題は改めて指示します。

【テキスト（教科書）】
●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原丈明（2017）：『ジオ・パルNEO―地理学・地域調査便利帖―（第2版）』海青社，2,500円（税抜）.
●その他に，担当者でレジュメ・配布プリントを用意します。

【参考書】
参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席，受講態度など）：30％，各種課題：70％で評価します。
平常点については積極的に取り組む姿勢を重視します。また，課題については，提出状況や正確性，丁寧さなどを重視します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生による進度の違いに対応できるよう留意します。また，スクーリング期間中の授業外学習の課題については，他のスクーリング科目の履修に支障のない範囲で課すよう留意します。

【その他の重要事項】
事前学習（課題）の内容やスクーリングに必要な備品については改めて指示しますので，履修学生はきちんと準備をしておいてください。また，事前学習に必要な資料等についても改めて連絡します。

【Outline (in English)】
This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking.

GEO200TE（地理学 / Geography 200）

地誌学特講（夏期スクーリング）

羽佐田　紘大

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地誌学は、ある特定の地域（場所）を総合的に理解する学問である。この授業では、地誌学の基本を学んだ上で、担当者が研究を進めている東海地方（特に濃尾平野周辺）を事例として、地域にみられる自然と人とのかかわりを紹介する。

【到達目標】
この講義では、知識を得ることよりも、事例を通して、地誌学的な考え方に触れることを目的としている。到達目標としては次の二つを挙げる。1）地誌学の地理学における位置づけや基本的な考え方を理解することができる。2）地域における自然と人とのかかわりに目を向けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使用した講義形式で行う。適宜プリントを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地誌学とは	地誌学の位置づけや基本を確認する。
第2回	日本の自然環境	日本の自然環境（地形や気候など）を概説する。
第3回	身近な地域の調査（1）	身近な地域の調べ方を紹介する。
第4回	身近な地域の調査（2）	さまざまな地域の地形図や空中写真などから地域の特徴を読み取る。
第5回	自然環境からみる地域	自然環境を中心に東海地方の特徴を確認する。
第6回	濃尾平野周辺の地形	濃尾平野周辺の地形発達について述べる。
第7回	濃尾平野周辺の地質	濃尾平野周辺の地質分布や地下構造を確認する。
第8回	濃尾平野の形成	濃尾平野の成り立ちを説明する。
第9回	濃尾平野と土地利用	地形図や空中写真から土地利用の変遷を考える。
第10回	濃尾平野と治水	木曽三川の治水と輪中での暮らしから地域の特徴を考える。
第11回	濃尾平野と台風	伊勢湾台風から地域の特徴を考える。
第12回	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地誌学に関する基礎的な知識を事前に身に着けておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】
矢ヶ﨑典隆・加賀美雅弘・古田悦造編著『地理学基礎シリーズ3―地誌学概論』（朝倉書店）
そのほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（100%）で評価する。第12回において、授業内容の習熟度を測る筆記試験を実施する。原則60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
インターネットを通して見られる情報を授業により一層取り入れていきます。

【Outline (in English)】
This course introduces mainly natural environment and people's livelihood in the Tokai region.

GEO200TE（地理学 / Geography 200）

自然地理学特講（夏期スクーリング）

前杢　英明

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学の中で自然環境の歴史、および人類活動との関係について学び，未来の環境について考察する。

【到達目標】
地球は、誕生からどのような変遷を経て現在のような環境になったのか、また、人類活動が地球環境にどのような影響を与えてきたのか、もしくは与えられてきたのかについて考え、将来の地球環境の姿について、合理的に考察する能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地球環境史と人類の未来（導入）	地球環境とは何かという素朴な疑問から本講義全体の概要について説明する。
第2回	地球環境の歴史１	46億年前に地球が誕生してから古生代までの地球環境史について解説する。
第3回	地球環境の歴史２	古生代から中生代にかけての地球環境史について解説する。
第4回	地球環境の歴史３	新生代前半の地球環境史について解説する。
第5回	環境変化の証拠１	新生代後半、特に第四紀以降の地球環境史について解説する。（氷河地形）
第6回	環境変化の証拠２	新生代後半、特に第四紀以降の地球環境史について解説する。（陸上と深海底コア）
第7回	環境変化の証拠３	新生代後半、特に第四紀以降の地球環境史について解説する。（氷床コア）
第8回	文明と環境変化１	古代文明と環境の関係をインダス文明を例に解説する。
第9回	文明と環境変化２	歴史時代の環境変化について、主に中世温暖期と小氷期の影響について解説する。
第10回	人類による環境変化（歴史時代）	歴史時代、特に近世以降人口の増加に伴ってどのように環境に影響を与えてきたかについて解説する。
第11回	温暖化の復習と将来の地球	これまで学習した温暖化についてもう一度復習し、将来の地球について考える。
第12回	まとめ	授業の振り返りと小レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書や配布プリントに目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
「気候変動はなぜおこるのか」ウォーレス・ブロッカー、ブルーバックス、講談社。
「チェンジング・ブルー」大河内直彦、岩波書店。
「氷に刻まれた地球11万年の記録」リチャード・アレイ、ソニーマガジンズ。
「進化する地球惑星システム」東京大学地球惑星システム科学講座編、東京大学出版会。

【成績評価の方法と基準】
出席を含めた平常点（40%）、最終日の小レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】
初めてなので特になし。

【その他の重要事項】
地名がでてくるので地図帳があれば便利。

【Outline (in English)】
This lecture aims to learn the history and future of environmental change of the Earth.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

地理情報システム（GIS)（1）（夏期スクーリング）

中山　大地

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
無料で使用できるデスクトップ型地理情報システムであるMANDARAと表計算ソフトのエクセルを用いて，GISの基本的な操作方法・分析方法を習得する．

【到達目標】
本授業では，インターネットから無料で取得できるGISデータと，エクセルで作成した様々な表を地図上に表示する手法を学ぶ．本授業の到達目標は，卒業論文などで使えるコロプレスマップをMANDARAを用いて作成できるようになることである．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
20分程度の講義と70分程度の実習で1回の授業とする．実習は数名（履修者数によって人数は変わる）のグループごとに行う．最終日は最終レポートの作成として，ある課題に対してMANDARAを用いた分析をグループで行い，その結果を5分程度のプレゼンテーション（パワーポイントで作成）にまとめて発表を行う．プレゼンテーションに対しては各自に採点表を配付し，自己採点と相互採点を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス，アンケート	GISの基礎的な概念を解説し，簡単なアンケートを行う．
第2回	MANDARAの基礎	MANDARAの基礎的な操作方法を学ぶ．使用データは適宜配付する．
第3回	コロプレスマップの基礎	基本的な地図であるコロプレスマップの作成方法を学ぶ．
第4回	ミニレポートの作成(1)	都道府県別の人口マップと人口密度マップを作成し，考察を加えてミニレポートを作成し，提出する．
第5回	エクセルとMANDARAを用いた地図の作成	表計算ソフトであるエクセルでデータを処理し，その結果をMANDARAで地図化する方法を学ぶ．
第6回	統計データの活用	総務省統計局のホームページから統計データをダウンロードし，エクセルを使って分析を行う．結果を地図化する．
第7回	統計データを用いた地図の作成	e-statからダウンロードしたデータを用い，人口統計に関する地図を4枚作成する．
第8回	ミニレポートの作成(2)	作成した地図から考察を行い，ミニレポートを作成して提出する．
第9回	グループワーク1：課題の検討	グループごとに一都三県（埼玉県，千葉県，東京都，神奈川県）の市区町村（東京都の島嶼部を除く）における少子高齢化に関係する事象を示す地図を作成し，考察を行う．
第10回	グループワーク2：データの入手と地図の作成	e-statなどから必要なデータをダウンロードし，エクセルなどを用いてデータ処理を行い地図を作成する．
第11回	グループワーク3：考察とプレゼンテーション	作成した地図を元に考察を行い，パワーポイント5枚以内のプレゼンテーションを作成する．
第12回	グループワーク4：発表会	発表会を行い，自己採点と相互採点を行う．相互採点の結果からベストプレゼンテーションを選ぶ．作成したプレゼンテーションは最終レポートとして提出する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
エクセルなどの表計算ソフトの基本的な操作方法を予習しておくこと．また，自分のパソコンにMANDARAをインストールし，サンプルデータなどを使って操作方法をあらかじめ予習しておくことが望ましい．

【テキスト（教科書)】
プリントを配布する．

【参考書】
本実習ではMANDARAバージョン9を使用するが，バージョン9に対応した下記の参考書は絶版となっている．
谷謙二（2011）『フリーGISソフト MANDARA パーフェクトマスター』，古今書院，￥3,600+税，ISBN9784772281096
下記書籍は最新版バージョン（バージョン10）のMANDARAに対応している．
谷謙二（2018）『フリーGISソフト MANDARA10 パーフェクトマスター』古今書院，￥3,800＋税，ISBN9784772281195

【成績評価の方法と基準】
授業内で提出するミニレポート（5回程度，合計50%）と最終プレゼンテーションにおける自己・相互採点（50%）で成績を評価する．
ミニレポートの評価基準：コロプレスマップの作成方法（階級区分の方法，各階級の塗り分け，階級のシンボルなど）がきちんと理解できていること．増減を表す図が適切に作成できていること．作成した図を適切に考察できていること．
最終プレゼンテーションの評価基準：自分のグループのプレゼンテーションと，他のグループのプレゼンテーションに対して5段階で評価を行う．評価の基準は以下である．適切なデータを用いているか，適切な分析がなされているか，適切な図が作成できているか．

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室を使用する．

【その他の重要事項】
データ持ち帰り用のUSBメモリ（空き容量8GB程度）を持参すること．

【Outline (in English)】
The aims of this lecture are to learn the basic usage and application of GIS (MANDARA) and Excel.

ECN100TF（経済学 / Economics 100）

社会経済学A/社会経済学Ⅰ（夏期スクーリング）

大澤　覚

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いろいろな学部の人の参加を考慮して、経済学の各論でなく、経済学の根幹となる考え方や理論についての概要を述べることとする。それによって、われわれがどのような社会で、どのようにして生きているのか、どういう問題を抱えているのか、それはなぜか、というところを理解できるようになることを期待している。

【到達目標】
社会・経済の仕組みや問題となるところを説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
配布資料にもとづいて講義形式でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	経済学とはなにか	いま社会はどうなっているか、経済の重要性と経済学の課題と意義について
第2回	商品	生産物が商品になるということについて
第3回	貨幣	商品交換が拡大・発展してきたことについて
第4回	労働	なぜ貧富の差が生ずるのかについて
第5回	資本	資本とはなにかについて
第6回	資本の蓄積・流通	資本が大きくなるということについて
第7回	生産と再生産	生産が繰り返されているということについて
第8回	利潤・利潤率	資本はどういう社会を作っているか
第9回	分配・再分配	生産の結果はどのように分配・再分配されているかについて
第10回	経済発展、戦争と平和	社会・経済の発展はどうあるべきかということについて
第11回	まとめ	資本主義経済の仕組みのまとめ
第12回	試験	参照可（貸し借り禁止。外部と連絡が取れる機器の使用禁止）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし。講義に集中し、毎回の内容をしっかりとまとめること。

【テキスト（教科書）】
使用しない。プリントを配布する。

【参考書】
増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学（新版）』（有斐閣ブックス、2600円＋税）

【成績評価の方法と基準】
評価方法：最終日の試験（100％）
評価基準：講義を踏まえた内容であること。（毎日の講義をよく復習し、理解に努めること。準備不十分なものは合格にはならない。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
試験答案は文章化すること。箇条書きは不可。

【Outline (in English)】
Today the difficulties that confront us are very great. Then,what kinds of problems confront us ? Why ? What a kind of society are we able to produce ? Those are our subjects.

ECN100TF（経済学 / Economics 100）

統計学B/統計学Ⅱ（夏期スクーリング）

宮脇　典彦

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
偶然変動を伴う経済データの分析を行うときに，枝葉の部分は捨象して本質的な関係だけをとりだした「統計モデル」を作成し，このモデルを通じて経済の動きをみる，という手法が頻繁に用いられます。
本講義では，データを解析していく上で不可欠であり，統計モデルによる分析の支えとなる確率論と統計学の基本的な考え方について解説していきます。

【到達目標】
確率論と統計学の基礎知識を身につけ，実際に統計データを用いた分析ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で授業を進めます。Excelを用いて説明することもありますが，履修生がパソコンを持参する必要はありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	確率論と統計学への招待
第2回	確率（1）	確率の概念，標本空間と確率
第3回	確率（2）	条件付き確率と独立性
第4回	確率変数とその分布（1）	確率変数と確率分布
第5回	確率変数とその分布（2）	確率分布の特性値（期待値と分散，標準偏差）
第6回	離散的な確率分布	ベルヌーイ分布と二項分布・ポアソン分布
第7回	連続的な確率分布	一様分布と正規分布
第8回	中心極限定理，母集団と標本	中心極限定理と正規近似，母集団からの標本抽出
第9回	正規母集団からの標本分布	カイ２乗分布とｔ分布
第10回	推定	正規母集団における母平均の推定 二項母集団における母集団比率の推定
第11回	検定（1）	検定の考え方 正規母集団における母平均の検定
第12回	検定（2） 期末試験	二項母集団における母集団比率の検定 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容はいずれも完結したものとなっていますが、それぞれは連続した積み上げ方式で体系化された内容となっています。そのため，欠席するとそれ以降の内容についていけなくなりますので，受講者はくれぐれも欠席しないようにしてください。
また、予習、復習をきちんと行い、各授業項目の流れをきちんとフォローするようにしておいてください。

【テキスト（教科書）】
田中勝人著「基礎コース 統計学　第2版」，新世社（2010年）

【参考書】
豊田利久他著「基本統計学 第３版」，東洋経済新報社（2015年）
森棟公男他著「改訂版 統計学」，有斐閣（2015年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）
期末試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】
数学的に難解にならないよう，例えば微分は接線の傾き，積分は面積に置き換えて説明するようにしています。また，必要に応じて授業内でExcelを用いて説明することで，実践的な授業になるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
期末試験では，教科書に加え，平方根（ルート）が計算できる電卓が必要となります。

【Outline (in English)】
Learn the basic concept of probability theory and statistics which will support the analysis by the statistical model.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（夏期スクーリング）

天利　浩

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　経済学初学者を対象にミクロ経済学を講義する。ミクロ経済学では、企業の意思決定や、個別の商品・サービス市場における取引、市場がもたらす資源配分の望ましさなどを分析する。この講義はミクロ経済理論を満遍なく学ぶというよりも、様々な政策課題を分析するために有用な道具を集め、現実の問題に応用することを主眼とする。
　学生は、主に余剰分析を用いて、市場に即した経済政策を分析できるようになる。

【到達目標】
・需要曲線と供給曲線を用い、競争的な市場における資源配分の成果を評価できる。資源の配分が望ましくない場合には、具体的な是正策を提案できる。
・具体的な経済事象を分析するために、何が本質的に重要で、どのようなモデルで考えたら良いか判断できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
プリントを配布し講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	市場と政府の役割分担	市場の有効性、厚生経済学の基本定理、効率化政策
第2回	需要と供給	需要曲線、供給曲線、市場均衡
第3回	供給曲線	費用関数、限界費用、平均費用、利潤最大化
第4回	余剰分析	生産者余剰、消費者余剰
第5回	余剰分析の応用	参入規制、価格規制、物品税
第6回	外部不経済	ピグー税、地球温暖化対策、外部不経済の必要条件
第7回	価格弾力性	需要の価格弾力性、供給の価格弾力性、限界収入
第8回	独占	独占企業の利潤最大化、独占の非効率性、限界費用価格形成原理、平均費用価格形成原理
第9回	外部経済と公共財	外部経済とピグー補助金、公共財の利用料金
第10回	道路と市場の失敗	費用便益分析、受益者負担原則、道路無料公開の原則、高速道路料金
第11回	社会的厚生	不平等是正政策、社会的無差別曲線
第12回	理解度の確認	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習では、グラフの曲線の高さ、横幅、あるいはグラフの各部分の面積などが、何を意味しているのか理解する。またグラフを用いると、経済学の諸概念を明確に表現できることを確認すること。講義では、予習で不明瞭だった部分について、理解できるようになったか確認する。
復習では、簡単な具体例をグラフに表し、グラフを自分で説明してみる。重要な用語の定義を確認する。

【テキスト（教科書）】
『ミクロ経済学 Expressway』　八田達夫著、東洋経済新報社、2013年、2800円＋税

【参考書】
『ミクロ経済学I』八田達夫著、東洋経済新報社、2008年、3500円＋税
この本を短くして、内容を新たにしたものが教科書なので、教科書の代わりに使用できる。教科書では講義第7回の内容が少ないが、この参考書では説明されている。配布プリントだけで第7回の内容が理解できるようにする。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（持ち込み不可）　100％。需要曲線、供給曲線など、グラフと文章を使った経済分析をできるか、政策の望ましさを評価できる経済学の考え方を身につけているか。

【学生の意見等からの気づき】
理解しやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】
This introductory microeconomics course offers basic tools to analyze Japanese policies to correct market failures.Using such tools as demand and supply curves, students are encouraged to consider what the government should do to improve social welfare.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（夏期スクーリング）

冨永　靖敬

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は教員が作成したスライド（PDF）を用いて進めます。授業で用いるスライド等の資料は、講義前日までに授業支援システムからダウンロードできる状態にしておきます。なお、授業計画は進捗状況に応じて変更する可能性があります。変更がある場合は、授業中にアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	国際関係論とは	ガイダンス、国際政治の基礎概念、分析の視点
第2回	国際システムの歴史的成り立ち	主権国家の拡大、第一次・第二次大戦、冷戦と熱戦
第3回	伝統的国際政治学の視点I	リアリズム、リベラリズム
第4回	伝統的国際政治学の視点II	コンストラクティヴィズム、その他
第5回	紛争と強調	利益（Interests）・相互作用（Interactions）・制度（Institutions）
第6回	紛争と強調II	なぜ戦争は発生するのか（交渉の失敗としての戦争）
第7回	事例：国家間戦争	私的情報、コミットメント問題
第8回	民主的平和論・独裁政治	観衆費用、情報伝達の効率性（意図・能力）、陽動理論、政治システムと政治的コスト
第9回	抑止理論・同盟・集団安全保障体制	抑止と強要、抑止の種類、同盟とは、同盟の種類、同盟と集団安全保障体制
第10回	国際機関	国際連合の形成、発展、機能
第11回	非伝統的安全保障	内戦（民族・イデオロギー・宗教）、統計資料でみる内戦、テロリズム、統計資料でみるテロ
第12回	復習と試験	講義全体を概観した後、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。講義毎にレジュメを配布します。

【参考書】
砂原庸介·稗田健志·多湖淳（2015）『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価 2,052円（本体 1,900円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808円（本体 2,600円）ISBN 978-4-641-14904-5
村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376円（本体 2,200円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価3,024円 （本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3
ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ（田中明彦・村田晃嗣訳）（2017）『国際紛争 理論と歴史』有斐閣。定価3,240円（本体 3,000円）ISBN978-4-641-14917-5

【成績評価の方法と基準】
期末試験（選択式・記述式）によって100%の評価をする。試験内容は全て講義内容・資料から出題する。なお、試験は持ち込み不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】
This course introduces the essence of the theory of international relations. The Spring semester course pays particular attention to security studies. We first review traditional theories of international relations such as realism and liberalism, and critically analyze how those theories explain war and peace. After discussing the pros and cons of those theories, we next introduce the bargaining theory of war. To be specific, we address the following questions: regardless of the fact that war is ex-post inefficient in that it causes huge economic and human cost, why might war still occur? In addressing this question, we illustrate the three essential concepts: asymmetric information (private information), commitment problem, and issue divisibility. We elaborate those concepts through the actual cases such as the Gulf war and Iraq war. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（夏期スクーリング）

赤石　秀之

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学の目的は、社会が引き起こすあらゆる経済現象を解明することである。しかし、現時点で満足の行く解明がなされてこなかった現象が存在している。その中でも、「廃棄物」というテーマは現代社会が抱える大きな問題の一つである。
そこで本授業では、廃棄物がもたらす経済現象を解明するために、経済学をどのように用いるべきかについて講義することを目的とする。特に、ミクロ経済学で学ぶ価格と余剰の決定・変動原則を廃棄物に関する経済現象に応用する方法を解説する。

【到達目標】
この授業を受けることで、学生は次の事ができるようになる：
①廃棄物の価格の決定・変動原則について説明できる
②廃棄物関する余剰の決定・変動原則について説明できる
③廃棄物関連政策の効果や選択規準について説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、レジメを配布し、板書をしながら、説明を行なっていく。また、ミニ課題を設定し、授業内容の理解度を測りながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	廃棄物のミクロ経済学的視点	ミクロ経済学における「廃棄物」の解釈について
第2回	ミクロ経済学の基礎理論①	商品の価格決定原則について
第3回	廃棄物の価格決定原則	廃棄物の価格が決定する要因・メカニズムについて
第4回	ミクロ経済学の基礎理論②	商品の価格変動原則について
第5回	廃棄物の価格変動原則	廃棄物の価格が変動する要因・方向・大きさについて
第6回	ミクロ経済学の基礎理論③	商品に関する余剰の決定原則について
第7回	廃棄物に関する余剰決定原則	廃棄物に関する主体の利益が決定する要因・メカニズムについて
第8回	ミクロ経済学の基礎理論④	商品に関する余剰の変動原則について
第9回	廃棄物に関する余剰変動原則	廃棄物に関する主体の利益が変動する要因・方向・大きさについて
第10回	廃棄物関連政策の効果分析	廃棄物に関連する政策が廃棄物の価格・余剰に与える影響について
第11回	廃棄物関連政策の選択規準分析	廃棄物に関連する政策の望ましい水準を選択するための規準について
第12回	最終試験	最終試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
廃棄物に関する問題は多岐にわたるため、日々の情報収集が欠かせない。そこで事前学習としては、ネット・テレビ・新聞などにより自身の興味に従って情報収集をすることが望まれる。また事後学習としては、毎回の授業のレジメに沿って、自分でグラフを描いて見ることにより、次の授業の準備ができる。

【テキスト（教科書）】
毎回レジメを配布するため、とくにテキストは使用しない。

【参考書】
特に使用しない。ただし、授業中に指示する場合もある。

【成績評価の方法と基準】
授業の中や宿題として出される「ミニ課題」で40％、授業最終日に行われる「最終試験」で60％の評価をする。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の立場に立った授業を行うように心掛けていきます。

【Outline (in English)】
To begin with, the purpose of Economics is make the phenomena which society have induced clear. However Economics can not deal with the phenomena of “waste” sufficiently. Therefore this course is to show how to use Economics in order to explain the waste phenomena. Especially we explain the determination and changes of waste price and gains of actors related to waste using a microeconomic basic theory.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

日本経済論A/日本経済論Ⅰ（夏期スクーリング）

岡本　利光

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
21世紀の日本経済の現況を、1985年以降、平成30年現在までの日本経済の流れとして概観します。いわば「平成30年史」です。

【到達目標】
日本の「平成」の経済史を理解し、今後の日本経済の展望をつかむことを目的とします。範囲は広いが、ポイントはきちんとつかみましょう。特に金融政策の基本を押さえてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストとして指定した書籍（2冊）を事前にきちんと読み、全体の流れをつかみましょう。大雑把に内容を把握し、各回のテーマを理解してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	日本経済苦闘の「平成30年」	平成バブルの時代。バブルの原点は
第2回	バブル崩壊と金融危機	三つの過剰、不良債権問題。
第3回	1985年のプラザ合意	レーガノミクスとは何か。
第4回	円高不況の1986年。	公定歩合と金融緩和
第5回	円高・ドル安の何が悪いのか？	財政出動と金融緩和による不況対策。
第6回	バブルの発生。	不動産融資総量規制。
第7回	バブルの崩壊と三つの過剰。	「過剰債務」「設備の過剰」「過剰雇用」。
第8回	小泉改革。	改革なくして成長なし。ゼロ金利政策から量的緩和へ。「戦後最長の景気拡大」（いざなみ景気）。
第9回	民主党政権の誕生と瓦解。	消費増税とデフレ経済への後退。
第10回	アベノミクスとは何か。	大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略。「三つの矢」。
第11回	インフレターゲッティング政策を理解する。	インフレターゲッティング政策を理解するための、金融理論。
第12回	小泉改革のその他の論点をまとめる。	今回のテーマの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストは事前に購入し、必ずよんでおくこと。

【テキスト（教科書）】
野口悠紀雄『戦後経済史』東洋経済新報社，2015年。6月。1,600円＋税。藤井彰夫『日本経済入門』日経文庫、2018年1月。860円＋税。上記2書とも図表などを見るために参照しますから、必ず入手してください。

【参考書】
高橋洋一『戦後経済史は嘘ばかり』PHP新書、2016年。酒井豊貴『ニッポン戦後経済史』NHK出版，2018年2月，1,500円＋税。

【成績評価の方法と基準】
講義最終日に、60分の試験を実施します。文献の持ち込みは「すべて可」です。出席回数は特に問題としません。規定の日数を出席されていればOKです。成績は、答案の内容でA、B、Cの3段階評価とします。ただし、解答用紙の表面だけに記述してください。裏面に記入しても採点されません。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
講義開始時にテキストは用意しておくこと。

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（夏期スクーリング）

明城　聡

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計学を用いた経済データ分析の学習とEXCELによる情報処理演習

【到達目標】
統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、パソコン上でEXCELを使った経済データ分析の演習をします。またデータ分析結果をグラフや表にまとめてレポートや論文を作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では当日扱う分析手法や経済データに関して解説をします。その後に各自でEXCELを用いて演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解くことで統計分析のスキルを身につけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・EXCELと統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データのグラフ ・成長率、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアン、モード ・ボックスプロット
5	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値の検出
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関関係(偏相関、自己相関) ・因果関係を検証するには
7	統計的推測の考え方	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
8	母集団に関する検定と推定	・仮説検定と有意水準 ・母平均・母分散に関する検定・推定 ・2群比較
9	分散分析	・分散分析 ・1元配置法 ・2元配置法
10	回帰分析(1)	・最小二乗法 ・単回帰分析 ・古典的線形回帰モデル ・t検定
11	回帰分析(2)	・重回帰分析 ・ダミー変数 ・不均一分散 ・系列相関
12	レポート課題	・これまでの復習 ・レポート課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
PCを使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】
統計学の参考書としては
・「統計学入門」、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版会
EXCELの使い方やデータ分析については
・滝川好夫・前田洋樹「経済学のためのExcel入門」日本評論社

【成績評価の方法と基準】
練習問題40%、課題レポート60%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報処理室を利用するので、ログインに必要なアカウント情報(ID、パスワード)を忘れずに持ってきてください。
※アカウント情報については事務局に確認すること

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in exercises using PC and statistical software (EXCEL).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（夏期スクーリング）

島澤　諭

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
入門レベルのマクロ経済学の基礎理論を用いて日本経済が抱えるマクロ経済的な諸課題について講義する。現実のマクロ経済問題を考える際の基礎となるマクロ経済指標の読み方からマクロ理論モデルの基本概念及び最近のトピックスまでを日本経済を題材にしつつ幅広く紹介する。

【到達目標】
現実のマクロ経済を理解するうえで欠かすことのできない、オーソドックスなマクロ経済理論について、理解する。また、日本のマクロ経済を取り巻く問題を把握する。その上で、日本のマクロ経済を取り巻くさまざまな環境変化を考慮したとき、今後の日本経済がどうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に、講義用スライドを用いながら講義形式で授業を進める。理論の説明の際は、数式やグラフを多用するため、板書は多めとなる。理論の理解の補強を図るため、最新のマクロ経済情勢を踏まえながら、日本のマクロ経済が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	マクロ経済学と日本経済	日本経済の抱えるマクロ問題の把握。特に世界経済との関係について
第2回	統計資料（1）	国民経済計算とGDP。日本の経済規模を把握する
第3回	統計資料（2）	国民経済計算とGDP。日本経済と世界経済のつながりを把握する
第4回	乗数モデル（1）	国民所得の決定メカニズムを考察する
第5回	乗数モデル（2）	乗数メカニズムと経済対策の効果
第6回	失業とインフレーション	インフレやデフレの決定メカニズムを考察する
第7回	開放経済	国際収支、為替レート制度について理解する
第8回	日本の経済成長と経済成長モデル	ハロッド＝ドーマーモデル、新古典派成長モデル、内生的成長モデル、人口と経済成長、日本の高度成長と失われた20年
第9回	国民と投票	中位投票者定理、投票のパラドクス、日本の投票率が低いことは問題なのか？
第10回	少子高齢化と政策決定（1）	シルバー民主主義、政治・行政改革
第11回	少子高齢化と政策決定（2）	民意と政策決定
第12回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の経済ニュースをTVや新聞を通じて吸収するよう心がけてほしい。また、復習は必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
[1]井堀利宏『入門マクロ経済学 第３版』、新世社、2011年
[2]齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久『マクロ経済学 新版』、有斐閣、2016年
[3]浅子和美・倉澤資成・加納悟『マクロ経済学 第２版』、新世社、2009年
[4]竹田 陽介・小巻 泰之『マクロ経済学をつかむ』、有斐閣、2006年
[5]島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学 世代間対立克服への戦略』、日本経済新聞出版社、2017年

【成績評価の方法と基準】
授業態度（40％）、筆記テストによる期末試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】
該当しない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
In this course, you can learn about the economic data related with the basic macro economic model.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（夏期スクーリング）

福島　英史

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は，経営学の基礎的な知識を習得することにあります．企業組織が市場を中心とした環境に働きかける活動とこれを支える組織の問題を考えていきます．どのように精緻に活動を計画できたとしても，組織がこれを適切に遂行できなければ，期待するような成果を得ることはできるはずもありません．そこで，組織の対外的な活動とこれを計画し，遂行する組織内部の協働の問題についてよくみていきます．

【到達目標】
経営学を体系的に学んだことがない者が，経営学の基礎的な概念・視角について理解し，説明できることが到達目標です．経営及び会社組織を対象として経営学の基本的な概念，考え方について，基礎的に理解し，社会で観察・報道される経営現象について，一定の説明ができるようになることを目指します．時間の制約から経営学の全体というよりは，会社の基本枠組みや協働の在り方について説明できるようになることを目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」　「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
日本企業のこれまでの経営と特徴，雇用の問題や組織と戦略の関係をとらえる視点，組織の存在意義と人々の参加・調整，会社の形態や資金調達のあり方，といった経営学の一般的なトピックスについて講義から学んでいきます．講義中に扱われるトピックスに関連したエクササイズ（経営学クイズ）を解くなどの課題が授業中に課されます．その際，履修者は，課題に関する意見を求められます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要と問題意識の共有
2	会社の諸形態	会社制度の基礎を学ぶ
3	資本政策の基本	株式会社の意味と資金調達
4	会社の雇用構造	問題枠組みと経営資源理解
5	日本的雇用慣行	平均的特徴と変化
6	組織と市場	なぜ組織がつくられるのかの理論の基礎
7	モチベーション①	働く人の欲求理論
8	モチベーション②	プロセス理論
9	リーダーシップ①	リーダーの資質と行動
10	リーダーシップ②	状況要因と留意点
11	経営戦略と組織	組織は戦略に従うか
12	期末試験	学習成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の内容について復習するとともに，身近な事例で考えてください．経営理論の諸説は必ずしも一貫していませんが，現実を複数の観点から捉えることから見えることもあると思われます．課題がある場合には，これを指示します．

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが，講義中にプリントを配布します．

【参考書】
適宜講義中にお薦めします．その他経営学の入門レベルのテキストは参考になると思います．例にすぎませんが，たとえば伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門3 版』日本経済新聞社．

【成績評価の方法と基準】
最終日に筆記試験を行います．
筆記試験（６０％），出席（４０％）．
出席点には，授業中のエクササイズの解答と，これにもとづく発言を含みます．

【学生の意見等からの気づき】
科目担当者変更により，該当しません

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞組織の戦略的意思決定
＜研究テーマ＞戦略と組織・イノベーション，経営学説史など

【Outline (in English)】
This class aims to develop basic understanding of business administration from the theoretical and historical view. If we don't have good organization to fulfill a mission, we can't make it enough, even if we have best plan. Thus we'll mainly focus on organizational issues in this class.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報科学実習（1）（bコース）／コンピュータ入門（1）（bコース）（夏期スクーリング）

林　直嗣

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報科学実習（bコース）は情報基礎＋Basicコースである。コンピューターの仕組みや役割を理解し、ワープロやメール、ブラウザーなどの情報リテラシ基礎を共通に学習した後、Basicのプログラミングを学習することを主題（テーマ）とする。

【到達目標】
コンピューターの仕組みや役割を理解すること、ワープロやメール、ブラウザーなどのソフトを使って情報リテラシ基礎をお復習いし修得すること、その上でVisual Basicの基本的なプログラミングを学習し、会社など実社会で業務の役に立つプログラムを自分で作成できるようになること、が到達目標である。プログラミングができるようになると、コンピューター処理能力は飛躍的に向上するので、是非一度勉強することを勧める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「情報・統計学」　に関連

【授業の進め方と方法】
配付資料や標準的な教科書の最新版を用いて、コンピューターの仕組みや役割を説明し、情報実習室でワープロやメール、ブラウザーなどのソフトを使って情報リテラシ基礎をお復習いし修得する。その上でVisual Basicの基本的なプログラミングを学習し、役に立つプログラムを自分で作成できるように、例題を実習する。誰でも楽しく理解できるように、易しく解説し、PCで実習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	コンピューターの仕組みと役割	コンピューターは何故どうして動くのか、どういう役割を果たせるのか
第2回	ワープロの基本的技法	ワープロでどういう日本語処理ができるのか、文書作成をどうするか
第3回	メールやブラウザーの基本的技法	インターネットはどういう仕組みか、メールやブラウザーを上手く使う方法は
第4回	Visual Basic 入門	Visual Basic を用いてWindowsで使えるプログラムを作ってみよう
第5回	プログラムの飛び越しと分岐	飛び越しのGoTo文や分岐のＩｆ文をどう使うか
第6回	プログラムの繰り返し	繰り返しのFor～Next文をどう使うか
第7回	プログラムの分割と構造化	SubプロシージャーやFunctionプロシージャーを使ってみよう
第8回	配列の処理	多くのデータを処理するには配列を使うと効率的で便利
第9回	文字列の処理	文字列データをどのように上手く処理するか
第10回	グラフィックスとファイルの処理	どのように図形処理やファイル処理をしたらよいか
第11回	応用プログラム	電光板、辞書、ストップウォッチ、電卓、バイオリズムなど応用プログラムを作ってみよう
第12回	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
無料のVisual Basic Express版を利用して、教科書の例題や練習問題を実行してみよう。

【テキスト（教科書）】
『実習 Visual Basic 最新版』（林直嗣・児玉靖司共著、サイエンス社、2014年）

【参考書】
情報リテラシ基礎の部分は、配付資料を提供する。

【成績評価の方法と基準】
出席、例題の出来具合、試験などの点数を合計し、客観的な得点分布に基づいて、ほぼ正規分布となるように客観的にかつ厳密に成績を付ける。スクーリング科目であるので、3分の2以上の出席が必要である。

【学生の意見等からの気づき】
学生諸君の希望をなるべく反映する。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で、パソコンやプリンター、CAI（コンピューターによる授業支援）システムなどを用いて、実習を行う。

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（夏期スクーリング）

西川　真規子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営のグローバル化や社会の高齢化、女性の社会進出、テクノロジーの進化など私たちが働く環境が大きく変化しています。このような中、男性を中心に据え、青年期まで学業に専念し、就職後は定年まで働き、その後引退するという、3ステージに分かれた労働観が見直されつつあります。そもそも働くとはどういうことなのでしょうか。これから私たちはどのような働き方を目指すべきなのでしょうか。この授業ではテキストとして『働くことの哲学』を用い、組織行動論の観点を応用しながら、「働くこと」について共に考えていきます。

【到達目標】
1)文献読解を通じて、個人と労働の関係性について考察する
2)組織行動論の概念や理論を通じて、個人と労働の関係性について理解する
3)自らや他者の就労経験を振り返りつつ、これから働いていく上での指針を立てる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」　「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業ではテキストや理論をインプットとして取り入れ、自らや他者の体験をもとに考え、その結果をアウトプットしていくことを重視します。具体的には、全員でテキスト『働くことの哲学』を読み進め（人数が多い場合は担当者を指定する場合もあり）、その内容について議論を行います。適宜テキストに関連する組織行動論の概念や理論を紹介します。Ａ４に1枚程度の課題（宿題）を出します。宿題では、課題に対する自らの考えをまとめます。その内容は、次回の授業で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	仕事の捉え方	テキスト第1章「呪いから天職へ」を輪読
第3回	仕事と意味	グループディスカッション テキスト読解
第4回	仕事と意味２	テキスト読解 モチベーションの理論１
第5回	仕事の割りふり	グループディスカッション テキスト読解
第6回	仕事とレジャー	テキスト読解 モチベーションの理論２
第7回	管理されること	グループディスカッション テキスト読解
第8回	給料をもらうこと	テキスト読解 リーダーシップの理論
第9回	飽食の時代の仕事	グループディスカッション テキスト読解
第10回	仕事とグローバリゼーション	テキスト読解
第11回	仕事の終焉？ 人生と仕事	テキスト読解
第12回	最終テスト	最終テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題が課されます。宿題はＡ４用紙1枚程度で、自らの経験を踏まえ、課題に対する考えを表明します。宿題の内容は次回の授業で共有します。

【テキスト（教科書）】
ラース・スヴェンセン（小須田健訳）、『働くことの哲学』紀伊国屋書店　2016年
この授業ではテキストを各自で読み込むことが必須の作業となります。授業開始前に必ず購入してください。また序章は授業で取り上げませんので、各自で事前に読んでおいてください。

【参考書】
受講生の必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加態度　30％
宿題の提出・内容　40％
最終テスト　30％

【学生の意見等からの気づき】
担当初年科目のため該当なし

【学生が準備すべき機器他】
特にありません

【その他の重要事項】
この授業では「考えること」と「理解し応用すること」の二つのスキルを鍛えていきます。その為には受講生は教科書を予習し次回の授業に備え、また授業後は授業内容を復習することが欠かせません。尚、授業計画にある教科書読解のスケジュールはあくまで予定であり、進行速度に応じて前後することがあります。

【Outline (in English)】
Our working environment has been changing constantly and rapidly, and the typical work life dominated by male workers and divided by education-work-retirement stages needs to be reconsidered. What is work? How and why should we work? Using Svendsen's *Work* as a textbook and Organizational Behavior approaches as theoretical tools, this course will examine these questions together.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報科学実習（2）（dコース）／コンピュータ入門（2）（dコース）（夏期スクーリング）

渡辺　英人

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word、Excel、PowerPoint、そしてAccessなどの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、社会で、そして家庭においても役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】
大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウエアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「情報・統計学」　に関連

【授業の進め方と方法】
在学中のみならず、社会および家庭においても必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを、また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）	情報処理の基礎。キーボード入力練習。機器の取扱いとWindowsの操作法。
2	インターネットと大学生の研究・学習。電子メールやソーシャルメディアの利用	情報処理の基礎。インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
3	ワープロ操作（Wordによる文章入力の練習）	情報処理の基礎。文書作成法。プレゼンテーション用資料作成の方法。
4	ワープロ操作（Wordによる文章入力の練習）インターネットとWordを使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
5	Excelの操作法（基本操作）	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
6	Excelの操作法（計算機能と関数）	表計算ソフトの計算機能について解説。
7	Excelの操作法（表作成）	表計算ソフトの作表機能について解説。
8	Excelの操作法（グラフの作成）課題作成	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。Excelを使った課題作成。
9	データベース入門Ⅰ	インターネットや社会におけるデータベースについて考える。
10	データベース入門Ⅱ Accessを使ってみる。	データベース基礎。ExcelとAccessについて、比較と実習。
11	データベース入門Ⅲ Accessを使ってデータベースを作る。	インターネット上の情報を効率良く蓄積し、再利用する。
12	データベース入門Ⅳ Accessを使ってデータベースを作り、完成する。	実用性の高いデータベースを設計、構築、完成させる課題作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。

【テキスト（教科書）】
開講時に指定する。USBフラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】
開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
二日ごとに理解度確認（課題作成：50％）を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50％）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】
データ保存用にUSBフラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】
実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】
大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報科学実習（3）（aコース）／コンピュータ入門（3）（aコース）（夏期スクーリング）

寺脇　由紀

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎を学び，ワープロソフトや表計算ソフトなどの情報リテラシーを習得する．学問をする上で必要となるコンピュータを使った知識獲得，情報整理を行えるようにすることがテーマとなる．

【到達目標】
情報学の基礎知識を習得し，ワープロソフト，表計算ソフトなどをツールとして利用し，情報の整理・収集・編集・集計ができるようになることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「情報・統計学」　に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータの基本要素といった情報学の基礎知識を学び，コンピュータの基本操作を習得した上で，オフィスソフトなどを活用した情報リテラシーを習得する．
授業は講義と実習にて進める．具体的には，講義で情報学および，コンンピュータの基本操作の知識を得て，得た知識の定着を高めるためおよび，理解度を確認するためにコンピュータを用いた実習を行う．また，授業内容について振り返るために，eラーニングシステムを活用したミニアンケートを適宜行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方，また，法政大学の学内で運用されているパソコンやネットワーク環境に関する説明を行う．
第2回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基本要素を学び，ハードウェア，ソフトウェア，プログラムに関して理解を深める
第3回	オペレーティングシステム	オペレーティングシステムに関する知識を学び，本学の情報教室で採用されているWindowsの基本操作を理解する．
第4回	ワープロソフトの操作	ワープロソフトの基本操作を知り,さらには各種の編集機能を学ぶことで効果的な文書作りができるようにする．
第5回	プレゼンテーションソフトの基本操作	プレゼンテーションソフトの基本操作を学習する．
第6回	効果的なプレゼンテーションの構成	聴衆に対して効果的にプレゼンテーションを行うための構成要素について学ぶ．
第7回	表計算ソフトの基本操作	表計算ソフトの基本操作を学ぶ．
第8回	表計算ソフトにおける数式	表示形式により計算結果が異なること，相対参照,絶対参照の考え方，関数の考え方など表計算ソフトで数式を扱う上での基礎を理解する．
第9回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ．
第10回	応用的な関数およびグラフの使い方	論理関数や情報検索関数などの関数の使い方および集計した結果のグラフ化に関して学ぶ．
第11回	表計算ソフトのデータベース的な利用	表計算ソフトを用いて，データを多角的に集計・分析する方法を学ぶ．
第12回	まとめ	ワープロソフト，プレゼンテーションソフト，表計算ソフトで学んだ技術のまとめを行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で学んだ内容の復習を行う．

【テキスト（教科書）】
教員の作成する教材を利用する．

【参考書】
授業内さらには授業後に自主学習する際，有効な情報源となるような文献を授業内で紹介する．

【成績評価の方法と基準】
授業への参加態度 (30%) + 課題演習< 課題取り組みの態度 (20%)+ 課題提出 (10%) > および最終試験の点数 (40%) にて評価する．

【学生の意見等からの気づき】
デモンストレーション交えながらすすめる講義に好評をいただいた．今年度も学生の意見を聞き，多くの学生が学習したいと考える内容を積極的に取り入れる．
学生諸君は，皆で講義の時間を共有しているという意識をもっていただき，自身のみでなく，本授業の履修者全員にとって有益な時間を作ろうという気持ちをもって講義に参加していただきたい．

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピュータおよび中間モニタを使用します．
必要な学生は，データの保存用にUSBメモリを準備してください．

【その他の重要事項】
コンピュータに関する専門知識は必要ありません．
しかし，キーボード入力ができたほうが望ましいです．
技能醸成は授業テーマの一つとなります．過年度の傾向より，単元によっては，学生のみなさまの既存の知識の差が大きい場合があります．このため，講義で基礎技術の説明があります．この時，十分な技術をお持ちの学生の方はお付き合いいただく内容が含まれます．しかし十分な技術をお持ちの方でも授業に参加していただくことが求められます（私語など，講義内容に対する努力が認められない場合は評価できない場合もありますので注意してください）．

【Outline (in English)】
This course introduces the basics of informatics and Information literacy. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills using computer needed to achieve a better performance in their university studies.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

人的資源管理論Ⅰ（夏期スクーリング）

山口　塁

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人的資源管理(Human Resource Management)は、経営学・商学のなかで、経営資源としてのヒトの管理を扱う学問分野です。本科目では、そうした人的資源管理の基礎として、①人的資源管理の基本的考え方、②人的資源管理にかかわる課題や論点、③日本企業の人的資源管理の現状や変化について学びます。人的資源管理の基礎を学ぶことで、会社や職場でのヒトの管理に関わる制度と慣行について、理解を深めることができます。

【到達目標】
人的資源管理の基礎について理解することを学習目標とします。そのための到達目標として、人的資源管理論Ⅰでは、以下の①②③を設定しました。
①人的資源管理の基本的な考え方を習得する。
②人的資源管理にかかわる論点を知る。
③日本企業における人的資源管理の現状と変化について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。レジュメ・資料をプリントとして配布し、それに沿って講義をすすめます。また、毎回の授業で10～15分の時間をとり、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーは、授業内容に関連した設題に応える形式とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	人的資源管理と労働市場
第2回	雇用管理	採用から引退まで
第3回	人事制度	職能資格制度、人事考課制度
第4回	賃金管理	賃金の決め方と賃金体系
第5回	異動と昇進の管理	人事異動と昇進・昇格
第6回	教育訓練	企業内での能力開発・教育訓練
第7回	労働時間管理	労働時間の短縮と弾力化
第8回	賃金管理	賃金の決め方とその変化
第9回	多様な正社員の管理	ダイバーシティ・マネジメントについて
第10回	正社員以外の管理	増加する非正社員と人的資源管理
第11回	労使関係管理	労働組合と労使関係
第12回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、テキストの該当する箇所を読んでおいてください。また、新聞記事に日々目を通し、仕事や雇用に関する最新の情報に触れることも大事です。復習として、関心のあるトピックを扱った個別の学術論文を探して読んでみましょう。たとえば『日本労働研究雑誌』のバックナンバーは、労働政策研究・研修機構のホームページ（　http://www.jil.go.jp/institute/zassi/　）にも掲載されており便利です。

【テキスト（教科書）】
『よくわかる 産業社会学』ミネルヴァ書房、上林千恵子編著、2012年、￥2,600+税

【参考書】
『新しい人事労務管理 第5版 (有斐閣アルマ)』有斐閣、佐藤博樹・藤村博之・八代充史著、2015年、￥2,000+税

【成績評価の方法と基準】
平常点40％、試験60％で評価します。平常点には、毎回のリアクションペーパーへの評価も含めます。試験では、①人的資源管理の基本的な考え方を理解・習得しているかだけでなく、②示されたデータから要点を読み取ることができているか、③論理的な記述をできているか、を重要な評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望には、可能な範囲で応えるようにします。意見や要望は、授業の前後に直接、あるいは毎回のリアクションペーパー上で受け付けます。

【Outline (in English)】
Human Resource Management is a branch of social science, which study management and utilization of personnel as corporate resources.
In this class, we learn the basic elements of Hman Resource Management: the way of thinking ,the point at issue, and the present situation especially for Japanese companies.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（夏期スクーリング）

小川　憲彦

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・経営学という学問領域の概要と経営管理の歴史を説明します。中でも組織行動論（OB）の源流を中心に講義する予定です。
・経営管理論のイロハにあたる基本的学説の概要を学ぶと同時に経営学における組織行動論の位置づけを理解することを目的とします。

【到達目標】
授業終了段階で期待される成果は以下のとおりです。
・経営管理論の基礎知識を知っていること
・経営学における組織行動論の位置づけを説明できること
・経営管理の歴史の中における組織行動論出現の背景を理解していること
・代表的なワーク・モチベーションの理論を知っており、説明できること
・代表的なリーダーシップの理論を知っており、説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」　「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講義中心で、ほぼ毎回、課題や提出物を求める予定です。小グループでの意見交換の場なども検討しています。ただし、どのように運営するかは受講人数によります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要の説明 社会科学における理論
第2回	経営学とOB	経営学がどのような学問領域か OBがどのような領域を扱うのか
第3回	古典的管理論(1)	古典的管理論の代表的な学説の紹介
第4回	古典的管理論(2)	古典的管理論の貢献と限界
第5回	初期人間関係論	ホーソン研究の貢献と限界
第6回	新人間関係論(1)	新人間関係論の代表的な学説紹介
第7回	新人間関係論(2)	新人間関係論の貢献と限界
第8回	モチベーション論	過程理論
第9回	リーダーシップ論(1)	特性論と行動理論
第10回	リーダーシップ論(2)	コンティンジェンシー理論と近年の動向
第11回	進捗調整と補足など	フィードバックなど
第12回	目標到達度の測定	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段の仕事場面を想起しながら受講する方が理解度が高まると思われますので、ある程度の職務経験があることが望ましいですが、特別な事前準備は必要ありません。
復習はその都度行う方が望ましいと思います（場合によっては宿題を課します）。

【テキスト（教科書）】
特に用いません。

【参考書】
坂下 昭宣 (2014)『経営学への招待 新装版』白桃書房。
金井 壽宏(1999)『経営組織―経営学入門シリーズ』日経文庫。

【成績評価の方法と基準】
提出物の質や参加態度などの平常点50%、最終試験50%の配分で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
ノートと筆記用具。撮影や録音等は控えて下さい。

【その他の重要事項】
過去に私が担当した経営学特講（2009年名古屋,2013年市ヶ谷,2017年市ヶ谷）を受講した方は同様の内容となりますので、受講を検討する際は気を付けて下さい。

【Outline (in English)】
This class aims to provide students with basic knowledge and an overview of the theory of Business Administration, especially of Organizational Behavior(OB). The students who complete the course will be expected to:①have an overview of major themes, core concepts, and discussions in the field; ② understand where OB could be placed in the academic system of business administration and in the history.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報科学実習（4）（dコース）／コンピュータ入門（4）（dコース）（夏期スクーリング）

渡辺　英人

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word、Excel、PowerPoint、そしてAccessなどの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、社会で、そして家庭においても役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】
大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウエアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「情報・統計学」　に関連

【授業の進め方と方法】
在学中のみならず、社会および家庭においても必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを、また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）	情報処理の基礎。キーボード入力練習。機器の取扱いとWindowsの操作法。
2	インターネットと大学生の研究・学習。電子メールやソーシャルメディアの利用	情報処理の基礎。インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
3	ワープロ操作（Wordによる文章入力の練習）	情報処理の基礎。文書作成法。プレゼンテーション用資料作成の方法。
4	ワープロ操作（Wordによる文章入力の練習）インターネットとWordを使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
5	Excelの操作法（基本操作）	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
6	Excelの操作法（計算機能と関数）	表計算ソフトの計算機能について解説。
7	Excelの操作法（表作成）	表計算ソフトの作表機能について解説。
8	Excelの操作法（グラフの作成）課題作成	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。Excelを使った課題作成。
9	データベース入門Ⅰ	インターネットや社会におけるデータベースについて考える。
10	データベース入門Ⅱ Accessを使ってみる。	データベース基礎。ExcelとAccessについて、比較と実習。
11	データベース入門Ⅲ Accessを使ってデータベースを作る。	インターネット上の情報を効率良く蓄積し、再利用する。
12	データベース入門Ⅳ Accessを使ってデータベースを作り、完成する。	実用性の高いデータベースを設計、構築、完成させる課題作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。

【テキスト（教科書）】
開講時に指定する。USBフラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】
開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
二日ごとに理解度確認（課題作成：50％）を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50％）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】
データ保存用にUSBフラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】
実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】
大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（夏期スクーリング）

西川　英彦

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、「デジタル・マーケティング」について学ぶ。

皆さんは、デジタル・マーケティングは何だか難しそう、自分には縁がないものだと思っているかもしれない。だが実際には、「LINEでクーポンを手に入れた」とか、「お気に入りの商品の画像をインスタグラムにアップした」などの経験をしただけで、すでに皆さんはデジタル・マーケティングに関わっているのである。このように、皆さんにとってデジタル・マーケティングは実はとても身近な現象なのである。言い換えれば、それだけ身近な現象であるデジタル・マーケティングを学ぶことは、皆さんにとって不可欠であるともいえる。

本授業では、はじめて、デジタル・マーケティングを学ぶ学生が理解しやすいように、アマゾンや食べログ、無印良品、アップル、レゴなど身近な企業のケースを通して、デジタル・マーケティングの基礎概念や理論を学ぶ。本授業によって、デジタル・マーケティングの基礎知識を身につけ、身近な現象と結びつけつつ深く理解することを通じて、ますます進展するデジタル社会で皆さんが活躍されることを期待する。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点である。

①デジタル・マーケティングの基礎となる概念や理論の意味が説明できる。

②自ら実際の現象をとりあげ、授業で学んだ概念や理論を使って、その優れた点や課題となる点について、考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」　「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、テキストをもとに、身近な企業のケースでデジタル・マーケティングをわかりやすく紹介しつつ、基礎理論を講義形式で説明する。テキストは、1回目から使用するので事前購読のこと。なお、レジュメは原則、配布しない。

各授業で、学生の皆さんがコミュニケーションシートを通して疑問点やコメントをあげることで、次回の授業でフィードバックをうけ、不明な箇所が解決できる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	デジタル社会のマーケティング	**オリエンテーション** **アマゾンのケース** ・リーチとリッチネス ・デジタル・マーケティング概要 （テキスト第1章）
第2回	デジタル社会の消費者行動	**食べログのケース** ・カスタマー・ジャーニー ・デジタル・リテラシー （テキスト第2章）
第3回	デジタル・マーケティングの基本概念	**無印良品のケース** ・協働 ・マーケティング・ミックス （テキスト第4章）
第4回	製品戦略の基本	**アップルのケース** ・デジタル財 ・IoT （テキスト第5章）
第5回	製品戦略の拡張	**レゴのケース** ・クラウドソーシング ・イノベーション・コミュニティ （テキスト第6章）
第6回	価格戦略の基本	**ANAのケース** ・時期に対応したダイナミック・プライシング ・顧客に対応したダイナミック・プライシング （テキスト第7章）
第7回	価格戦略の拡張	**エアビーアンドビーのケース** ・消費者間取引のダイナミック・プライシング ・電子決済 （テキスト第8章）
第8回	チャネル戦略の基本	**ユニクロのケース** ・ダイレクトモデル(直販) ・オムニチャネル （テキスト第9章）
第9回	チャネル戦略の拡張	**ウーバーのケース** ・消費者間取引 ・シェアリング・エコノミー （テキスト第10章）
第10回	プロモーション戦略の基本	**ローソンクルー♪あきこちゃんのケース** ・トリプル・メディア ・コンテンツ・マーケティング （テキスト第11章）
第11回	プロモーション戦略の拡張	**トリップアドバイザーのケース** ・クチコミ ・共同格付け （テキスト第12章）
第12回	試験	**試験**

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

双方向の講義のため、事前に案内する課題をもとに、テキストを読んでくること（発言の加点あり）。

【テキスト（教科書）】

西川英彦・澁谷覚『1からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019年
＊各自購読のこと。

【参考書】

フィリップ・コトラー = ヘルマワン・カルタジャヤ = イワン・セティアワン（恩藏直人監修、藤井清美訳）『コトラーのマーケティング4.0：スマートフォン時代の究極法則』朝日新聞出版、2017年
＊その他の参考書は、テキスト各章末を参考のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ネットアンケートでのコミュニケーションシート）22%
試験 78%
さらに、授業中の質問や発言は、加点する。
なお、コミュニケーションシートは、QRコードからスマホ等で簡単に入力できるが、機器等がない場合は紙での対応も行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

教員情報は、以下を参照のこと。
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/
授業計画は、履修者の状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【Outline (in English)】

In this lecture, students who learn basic concepts and theories of digital marketing for the first time can easily understand it through cases of familiar companies such as Amazon, Tabelog, MUJI, Apple and Lego.

I expect that you will be active in the progressing digital society that you acquire the basic knowledge of digital marketing, understanding deeply while associating with the familiar phenomenon.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報科学実習（５）（ｂコース）／コンピュータ入門（５）（ｂコース）（夏期スクーリング）

寺脇　由紀

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Microsoft社の表計算ソフトExcelのマクロ言語としてのVisual Basic Applications(VBA)に関して学ぶ．まず，コンピュータの特徴，プログラミングの考え方などコンピュータ独自の考え方をコンピュータの基礎知識として学ぶ．つぎにExcelの操作を概観し，最終的には，VBAの文法および，実践的にプログラムを作成する．

【到達目標】
コンピュータの基礎を理解し，表計算ソフトウェアExcelおよび，VBAの基礎を理解し，VBAを用いて実践的なプログラムを記述できるようになることが目標である．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「情報・統計学」　に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータの基礎知識，Excelの基本操作を学んだ上で，VBAのより高度な使い方をするために欠かせない基礎，具体的には，変数と型，式，文，順次構造，分岐構造、繰り返し構造を説明します．このような基礎を使って，後半に実践的なプログラミングを行う．
授業は講義と実習にて進める．講義で得た知識の定着を高めるため，理解度を確認するために実際にプログラミングすることで実習を行う．また，授業内容について振り返るために，eラーニングシステムを活用したミニアンケートを適宜行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションおよびWordによる文書作成	講義の進め方,また,法政大学の学内で運用されているコンピュータやネットワーク環境に関する説明を行う.また，Wordを用いて文書を作成する.
第2回	表計算ソフトの基本操作	表計算ソフトの基本操作を学ぶ.
第3回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの特徴，プログラミングの考え方など，プログラミングに必要なコンピュータ独自の考え方を説明する.
第4回	VBAの起動	Excelの開発機能と，プログラム実行までの流れを学習する.
第5回	VBAを使ったセルの操作	VBAでセルを操作することを通じて，VBAの要であるオブジェクト，プロパティ，メソッドについて学ぶ.
第6回	変数と型	変数と型について学ぶ.
第7回	定数と演算子	定数と演算子について学ぶ.
第8回	条件分岐	条件に応じた処理を学ぶ.
第9回	繰り返し	For Nextステートメントの基礎を学ぶ
第10回	繰り返し（いろいろな繰り返し文）	条件が成立している間繰り返し処理を行うステートメントや，オブジェクトの数だけ繰り返し処理を行うステートメントを学ぶ
第11回	VBA関数	VBAのプログラムに記述して使う関数を学ぶ
第12回	プログラムの改善とレポート課題	プログラムの簡略化と記述ミスの防止の方法学び，簡単な試験としてレポート課題を課す.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習：　キーボード入力に不慣れな人は，１分間に１００文字程度入力できるようタイピングソフトで練習を事前に行うことが望ましい．（VBAを用いてプログラムを記述できるようになることが本授業の目標であるため，コンピュータの扱い，特にキーボードでの文字入力に慣れていることが必須となる．）
復習：　授業中に完成できなかったことは，授業後に配布する教材を見直して復習を行う．

【テキスト（教科書）】
教員の作成する教材を使用する．教材は授業終了後に電子的に配布する．

【参考書】
株式会社アンク著，『VBA の絵本』，翔泳社 (2005/10/21)，ISBN-10: 4798109010.
（購入の必要はありません）

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%），提出されたレポート，最終試験（50%）により総合的に判断する．

【学生の意見等からの気づき】
本年度通信教育学部にて新規に担当する科目につきアンケートを実施していません．

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータ教室のプロジェクタおよび中間モニタを使用し，デモンストレーションを多用しゆっくり確実に解説します．
データの保存用にUSB メモリが必要な学生は準備してください．

【その他の重要事項】
プログラミングの知識や経験は不要です．しかし，キーボード操作ができることは必須となります．
本授業では，短い期間でのVBAを学習することを鑑み，その後の学習の幅を広げるために欠かせない基礎を無理なく習得していただくことを最優先にしています．このため，十分な技術がある方はお付き合いいただく内容が含まれます．しかし，十分な技術がある方でも授業に参加していただくことが求められます（私語，授業中に操作しない，授業に参加していない，他の学生が作成したプログラムをコピー＆ペーストするなど，講義時間中の努力が認められない場合は評価できない場合がありますので注意してください）．

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of programming. It also enhances the development of students' skill in programming　using VBA.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（夏期スクーリング）

横山　斉理

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、経営現象の中でも特に流通に焦点を当てます。経済の基本は生産と消費ですが、高度に分業化されている現代社会では、生産と消費を結びつける流通が不可欠です。ところが、多くの人は流通を「商品の流れ？」「お店？」「トラックでの配送？」といったように、曖昧に認識しているのが現状です。この授業では、日用用語レベルで何となく知っている「流通」について、体系的に深く理解することを目指します。

【到達目標】
到達目標は、流通というものの全体像を把握し、現実に起きている流通に関する出来事（たとえば、都市型のミニスーパーの誕生や、コンビニとメーカーの共同開発など）を流通論の視点から分析できるようになることです。この目標のために、この授業では、流通の理論や分析アプローチなどを体系的に学びます。適宜、事例を学び、それを活用しながら理論や分析アプローチを体系的に理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」　「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
流通論の理論や分析アプローチ、そして主要概念を体系的に学んでいきます。出来る限り、現実の問題と関連させて学習を進めていきます。適宜、小売ビジネスのケースを通じた学習を行い、抽象的になりがちな内容の理解を目指します。
受講者の人数や環境にもよりますが、双方向的な授業を目指します。教員が壇上からレクチャーを続けるだけではなく、受講生に発言を求めることもあります（それほど難しいことを質問したり課したりはしませんのでご心配なく。）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	商学の学び方と対象	商学をどのように学ぶのか、その対象は何かを学ぶ
2	流通とマーケティング	流通とマーケティングが相互に密接にかかわっていることを学ぶ
3	流通の機能と機関	流通の諸機能とそれを担当する諸機関を学ぶ
4	流通・商業の生成と発展	流通・商業の生成と発展を歴史を紐解きながら学ぶ
5	経済の成長と流通・商業	経済の成長と流通・商業の関わりを学ぶ
6	商業と小売業	商業と小売業の関係を学ぶ
7	小売機構と小売業	小売機構について学ぶ
8	小売業の形態	小売業の形態とその発展について学ぶ
9	小売市場と競争構造	小売業における競争を学ぶ
10	小売業の展開	小売業を取り巻く諸問題を学ぶ
11	卸売業	卸売業について学ぶ
12	試験	講義内容の理解度を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、予習より復習が重要です。復習として、授業計画の「内容」に示された参考書の該当章を読み直すと理解が深まるはずです。加えて、日々の生活において、流通に関する現象を意識して観察しておくと、授業内容がよりスムースに理解できると思います。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
久保村隆祐ほか編著（2016）『商学通論〔9訂版〕』同文舘

【成績評価の方法と基準】
試験90％、平常点10％

【学生の意見等からの気づき】
静穏な授業環境を実現するために状況をみながら様々な対応をとります。

【その他の重要事項】
マーケティング関連科目を履修しておくと講義内容の理解が深まると思います。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to explore the world of marketing and distribution. Lecture and discussion is conducted for this aim.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報科学実習（6）（aコース）／コンピュータ入門（6）（aコース）（夏期スクーリング）

入戸野　健

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ワープロ、表計算、インターネットを活用した情報リテラシーを習得する。

【到達目標】
ワープロ(文書処理)ソフト、表計算ソフト、インターネットをツールとして利用し、基本的な情報の収集・編集・集計等ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「情報・統計学」　に関連

【授業の進め方と方法】
パソコンの入門者を対象として基本操作から始め、文書作成・表計算・インターネットについて実習形式で学習を進めます。基礎を中心とするため、事前の準備は特に必要としませんが、後半は表計算まで学習を進めるため、文字の入力操作に自信のない人はそれなりの努力が必要になります。普段から仕事等で既にワープロや表計算を活用している方にはやや物足りない内容となるかもしれませんが、再度、基礎から俯瞰的に実習をしたい方には勧められます。文書作成にはWord、表計算にはExcelを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Windowsの基本操作	ログイン、パスワードの変更、アプリケーションの起動、ファイル整理等の基本操作を学習します。
第2回	文書処理 (1) 文字の入力と書式設定	文字の入力方法、文書の書式設定、フォントの設定等について学びます。
第3回	文書処理 (2) 定型文書の作成	一般的な定型文書の作成に必要な箇条書きや段落設定などを学習します。
第4回	文書処理 (3) 表の作成	文書内に表を作成して体裁の整った文書を作成する法を学びます。
第5回	文書処理 (4) 図形の利用	文書内にイラスト挿入したり、簡単な案内図を作成する方法について解説します。
第6回	電子メールの操作	電子メールの送受信、メール文面の書式、ネチケットについて学びます。
第7回	インターネット情報検索	検索サイトの基本的な利用方法から応用的な検索手法までを解説します。
第8回	表計算 (1) 表計算ソフトの基本操作	基本的なデータの入力方法とそれらを計算する方法を学びます。
第9回	表計算 (2) 関数の利用	各種の関数を利用してデータを効果的に集計する方法を学習します。
第10回	表計算 (3) グラフの利用	棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフなどの基本的なグラフの作成方法を学習します。
第11回	表計算 (4) 他のソフトとの連携	作成した表やグラフをWord等の文書内で連携しながら利用する方法を学びます。
第12回	試験	演習形式の試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特別な事前準備は必要ありませんが、授業内の実習でやり残した部分があった場合は、各自で完成させておく等の事後学習を行って下さい。

【テキスト（教科書）】
『30時間でマスター Excel 2013』，実教出版企画開発部編，実教出版

【参考書】
進捗状況に応じて授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席20%、課題20%、テスト60%とします。毎回授業に参加して、各回の実習で課題等をきちんとこなしながら、それらを着実に身につけて行くことが大切です。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の学習状況に合わせた丁寧な授業進行に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のPCを使って実習を進めます。
作成したファイルを保存するためのUSBメモリを持参することを勧めます。

【Outline (in English)】
This course aims to provide fundamental skills for accumulating, editing and summarizing information using word processing, spreadsheet and internet application software.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（夏期スクーリング）

金　瑢晋

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、企業が利用できる多様な資金調達手段についてその仕組みと制度を一通り学ぶと同時に資金調達手段の企業価値への含意を学習します。企業の資金調達手段は多岐に渡ります。実際、資金調達手段を決める際に、内部資金対外部資金、負債対株主資本、借入対社債発行、短期対長期、普通株式対優先株式、公募対私募など等を決める必要があります。企業の経営者が合理的な資金調達意思決定を行うためには、資金提供者である投資家の行動原理をも理解する必要があり、この点についても学習します。

【到達目標】
・企業の資金調達手段選択について理解が深まります。
・株式会社における経営者と投資家の関係について見方が確立します。
・資金調達手段の仕組み・制度・慣行について理解が深まります。
・金融・財務データの使い方について理解が深まります。
・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。
・具体的に答えを導く能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」　「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	企業の資金需要	株式会社の理解 経営者の目標 企業活動と資金需要
第2回	資金調達の形態	資金調達の分類 財務諸表から読み取れる情報
第3回	キャッシュフローの理解	キャッシュフローの重要性 フリーキャッシュフローの計算
第4回	デット・ファイナンス1	金融機関借入 借入の種類 証書借入・手形割引 コミットメント・ライン 借入の返済方法
第5回	デット・ファイナンス2	担保の概要・種類 保証の概要・類型
第6回	デット・ファイナンス3	社債の発行 普通社債 CP 公募債・私募債
第7回	デット・ファイナンス4	転換社債、ワラント債 仕組債 リキャップCB
第8回	エクイティ・ファイナンス1	ベンチャー・ファイナンス 優先株式の活用 ベンチャー・キャピタル 投資事業組合 エンジェル投資家 PEファンド
第9回	エクイティ・ファイナンス2	新規株式公開 幹事証券会社の役割 直接・間接費用 IPOパズル
第10回	エクイティ・ファイナンス3	公募増資 直接・間接費用 株主割当増資 第三者割当
第11回	アセット・ファイナンス	資産の流動化・証券化
第12回	総括と試験	学習内容のおさらいと授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当授業の理解を深めるためにも実際の企業活動に興味を持つことが重要です。日頃日経新聞、TV の経済ニュースなどに目を配るよう心がけましょう。

【テキスト（教科書）】
①中島雅志著『入門企業金融論』、東洋経済新報社、2015年、2800円+税
②テーマによって資料を適宜配布します。

【参考書】
授業中適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
質疑・応答などの授業参加度20%、期末試験80 %

【学生の意見等からの気づき】
更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
授業中に電卓（廉価なもので十分です）やスマートフォンの計算機アプリを使っても構いません。最終試験では電卓のみ利用できます。

【前提知識】
特に前提知識は要りません。奮ってご参加ください。

【Outline (in English)】
This course focuses on what sources of financing are available for business and what managers should consider in making financing decisions.

教育心理学（夏期スクーリング）

田澤　実

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、リアクションペーパー提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要および成績評価等を説明する。
第2回	教育における発達理解の意義	発達と教育の関連
第3回	対人関係の発達	幼児、児童及び生徒の対人関係の発達および主体的学習を支える集団づくりの理解
第4回	認知の発達	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達
第5回	アイデンティティ	心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
第6回	学習の理論	様々な学習の形態や概念
第7回	学習の指導	主体的な学習活動を支える指導の基礎
第8回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけ
第9回	学習の評価	主体的学習を支える学習評価の在り方
第10回	記憶の種類	様々な学習の過程を説明する代表的理論
第11回	性格の理解と測定法	乳幼児期から青年期の各時期における個人差および測定法
第12回	発達障害	発達障害のある児童・生徒に対する学習指導等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前課題を設ける回がある。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業時にレジュメを配布する。

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
試験（70％）、授業への積極的参加（30％）で評価

【学生の意見等からの気づき】
今年度より担当のため該当せず

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育原理（夏期スクーリング）

町支　大祐

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、教育とは何か、学習とは何か、そして、これからの学校教育に求められることは何か、といった点について、社会的視点、歴史的視点から考えます。関連する基礎的知識の習得と、それをいかした創造的活動とを通じて学習をすすめていきます。後者については、グループでとりくみ、それについての発表活動も行う予定です。

【到達目標】
・教育原理に関連する基礎的知識の習得と、それをいかして自らの意見・考えを整理し、表現できること
・社会的視点や歴史的視点から学校教育を捉え、自らの教育体験について相対化できること
・他者と連携しながら、学校教育に関連する創造活動を行い、それについての発表を行えること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義および演習形式で授業を進めます。グループワークおよび、それに関する成果発表も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業のねらい、内容、方法と評価について確認する
第2回	社会と発達	社会の中で「大人になること」とはどんな意味を持つのか またその意味は時代とともにどう変化したか
第3回	学習に関する原理	体験活動を通じて、現代に必要とされる学習の在り方について考える
第4回	学習と教育と学校_1	現代に必要とされる学習の在り方と、それを実現する教材や環境について考える
第5回	教職に関する原理	教師に関する動画を題材に、教職に関する原理について考える
第6回	学校教育制度に関する原理	教師の人事制度を事例に、教育制度に関する原理について考える
第7回	学習と教育と学校_2	これからの学校教育で求められる学習の在り方と、それを実現する教材について考え、提案する
第8回	学習と教育と学校_3	これからの学習の在り方とそれを実現する教材について考え、実際に教材を作成する
第9回	学習と教育と学校_4	教材づくりの最終段階として、まとめと整理を行う
第10回	成果発表	作成した教材について発表し、相互フィードバックを行う
第11回	改めて教育体験を振り返る	他者との対話やデータとの比較を通じて、自らの教育体験について振り返る
第12回	まとめと試験	本講座についてのリフレクションおよびテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
成果発表に向けて十分な準備時間を取る予定ですが、場合によっては授業外での打ち合わせも必要になることがありえます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません

【参考書】
・河合隼雄『大人になることのむずかしさ』岩波書店、2014年
・勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015年
・脇本健弘・町支大祐『教師の学びを科学する』北大路書房、2015年
・岩瀬直樹・中川綾『みんなのきょうしつ』学事出版、2015年

【成績評価の方法と基準】
成績評価は平常点（授業内での活動に関する評価、各回3点計36点）、成果発表に関する点（最終プレゼンテーションの相互評価、計34点）と試験（「授業の達成目標」にある3項目について第12回の授業で試験します。各項目10点ずつ、計30点）を総合して行います。

【学生の意見等からの気づき】
ワークに関する授業時間外の準備が過剰にならないよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC、タブレットPC、スマートフォン等、インターネットに接続できる機器をお持ちの方はできるだけ持ってきてください。全員が持っている必要はありませんが、グループに数台必要です。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide opportunities to deeply think about what is required for school education for the future. In this course, students learn about the principles of education and learning from a social perspective and a historical perspective. Classes include lectures on such theories and creative activities done by the group.

PHL100TA（哲学 / Philosophy 100）

哲学（冬期スクーリング）

鵜澤　和彦

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学とは、問題となる事柄の原理的な解明によって、その解決を探求していく人間の知的営為のことを意味します。冬期スクーリングでは、わたしたちが日々の生活の中で遭遇する様々なテーマを取り上げ、教員や他の受講生と一緒に哲学の考え方を学んでいきます。学習内容としては、哲学の主要概念や方法のほか、わたしたちの身の回りで起こる差別、抑圧、暴力、これらに関する解決策として赦し、寛容、仁恵、さらに、現代文明の喫緊の課題であるAIと人間の知性を取り上げます。本授業は、これらの問題について熟慮し、相互の議論を通して、自分で考える力、討議する力、表現する能力をつけることを目的とします。

【到達目標】
①日常生活で出会う様々な出来事から哲学・倫理学の問題を捉え、原理的に探究する思考法を身につけることができる。
②具体的な事例に即して哲学・倫理学の概念や学説を理解し、それを文章にまとめることができる。
③グループディスカッションと全体発表を通じて、自他の見解の相違を知り、自分の考えをより一層深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、プロジェクター等のAV機器を使いながら講義形式で行います。各授業の開始時に課題プリントを配布し、その日の授業終了時に回収します。さらに、各テーマの終了時にグループディスカッションおよび全体発表を行い、様々な観点から内容理解の深化を図ります。課題プリントの下に感想・質問欄を設けてあります。質問は、授業中にも随時受け付けますが、その欄に書いていただいても結構です。書かれてあった質問は、次回の授業の初めにお答えします。受講生の積極的な参加を望みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	導入：哲学とは何か	シラバスの内容を説明するほか、哲学の課題と方法について説明します。
第2回	差別、暴力、赦し：教科書第1章「持続可能性の哲学と津波てんでんこ」	暴力と悪の概念及びその多義性、「津波てんでんこ」とその解釈の多義性、赦しと約束の可能性、について説明します。
第3回	差別、暴力、赦し：教科書第1章「持続可能性の哲学と津波てんでんこ」	東日本大震災における大川小学校の悲劇、赦しの課題と倫理、時間概念の変換、語り伝えることの意義と役割について解説します。
第4回	グループディスカッションと全体発表	暴力や悪の根源、赦しの可能性について少人数のグループで考えていきます。
第5回	共同体と寛容：教科書第2章「境界線上のアリア」	共生と寛容、その限界（パラドクス）、反知性的なものとの対決について考えます。
第6回	信頼と仁恵：教科書第4章「生命・医療倫理とゲシュタルトクライス」	人格的転回と医学的人間学、ゲシュタルトクライス、パトス（信頼・仁恵）の概念について説明します。
第7回	グループディスカッションと全体発表	寛容と仁恵の可能性について少人数のグループで考えていきます。
第8回	AIと人間の知性：教科書第3章「AIにはなにができないか」	人工知能（AI）の概念、その飛躍的発展、AIの二つの道を解説します。
第9回	AIと人間の知性：教科書第3章「AIにはなにができないか」	知識及び認識の概念、経験論と合理論、人間に可能なことと不可能なことを説明します。
第10回	グループディスカッションと全体発表	AIと人間の関係について少人数のグループで議論します。
第11回	授業全体のまとめ	概念整理と質疑応答
第12回	筆記試験	概念の説明と論説問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：受講生は授業前に教科書の該当箇所に目を通し、あらかじめ概要を把握しておいて下さい。また、参考書や関連書籍を使って、専門用語の意味等を理解してください（約1時間）。復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）や返却されたリアクションペーパーを読み直してください。また、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えや理解をノートにまとめてください（約1時間）。

【テキスト（教科書）】
牧野英二・小野原雅夫・山本英輔・齋藤元紀（編）『哲学の変換と知の越境－伝統的思考法を問い直すための手引き』（法政大学出版局、2019年、本体価格3,000円+税）ISBN 978-4-588-13026-7

【参考書】
①三木清著『哲学入門』、（岩波新書、赤版Ｒ8、1976年、本体価格780円+税）ISBN 4-00-400008-4 C0210。（青空文庫にも所収）
②齋藤元紀（編）『連続講義　現代日本の四つの危機　哲学からの挑戦』（講談社選書メチエ、2015年、本体価格1,800円+税）ISBN 978-4062586085

【成績評価の方法と基準】
①課題プリントの評価が全体評価の25％を占めます。課題プリントの評価については、哲学の概念とその議論を正しく理解しているかどうかを基準とします。
②グループディスカッション及び全体発表への積極的参加は25%。共同討議の評価は、自分と異なる立場の特徴をよく理解できているかどうか、また、それを踏まえたうえで、自分の考えをより深め、説得的に表現することができているかどうかを基準とする。
②筆記試験は全体評価の50%。試験問題は、概念の説明と論説問題からなります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間を十分に取ります。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
オフィス・アワーについては、その日の授業後に質問を受けつける時間を作ります。

【Outline (in English)】
Philosophy refers to the intellectual practice of human beings who search for the solution by fundamental elucidation of the matter in question. In the winter schooling, we take up various themes we encounter in our daily lives and learn philosophical ideas with the teacher and other students. The content of learning includes not only the main concepts and methods of philosophy, but also the themes of (1) the discrimination, repression, and violence that occur in our surroundings, (2) the forgiveness, tolerance, and beneficence as the solutions regarding these problems, and (3) the artificial intelligence (AI) and humans, which are urgent issues of modern civilization. The purpose of this class is to give students the ability to think, discuss and express one's own ideas through the learning and discussion.

HIS100TA（史学 / History 100）

西洋史（冬期スクーリング）

渡辺　知

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
19世紀のイギリスの歴史を階級、ジェンダー、人種・民族、地域、帝国を切り口に概観し、近代イギリスの特徴を考えていくこととします。

【到達目標】
ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	授業内容の紹介	19世紀～20世紀にかけてのイギリスのあゆみを概観します。
第2回	二重革命の時代１	産業革命の特徴とそれがイギリスの政治、経済、社会に与えた影響を検討します。
第3回	二重革命の時代２	フランス革命がイギリスにどのような影響を与えたか検討します。
第4回	二重革命の時代３	フランス革命がイギリスにどのような栄光を与えたか、引き続き検討します。
第5回	帝国の再編	二重革命の時代は、イギリスの帝国が第一帝国から第二帝国へと再編された時期でもありました。その再編の過程を説明します。
第6回	ミドル・クラス	二重革命の影響で、イギリスではミドル・クラスが台頭してきます。このミドル・クラスの特徴を「リスペクタビリティー」という言葉をキーワードに検討します。
第7回	ミドル・クラスのジェントルマン化	台頭してきたミドル・クラス層が従来の支配者層であるジェントルマンと融合していく過程を検討します。
第8回	労働者階級	ジェントルマンとミドル・クラスが19世紀のイギリスの繁栄の恩恵を受けたのに対し、労働者階級の大多数はその恩恵から排除されていました。労働者階級を取り巻く状況を説明します。
第9回	怠惰な女性と善良な女性１	19世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに検討します。
第10回	怠惰な女性と善良な女性２	19世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに検討します。
第11回	19世紀のイギリス	これまでの議論を踏まえて、19世紀のイギリスの釈迦一がどのような特徴を持つのかまとめます。
第12回	試験	論述一題　試験の課題については事前にお知らせする予定です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の前に前回のノートを読み返して下さい。
また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。

【参考書】
授業中に適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と最終授業時間の試験の総合評価とします（平常点20％、学期末の試験80％）。

【学生の意見等からの気づき】
視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline (in English)】
Britain in the 19th Century
In this lecture we analyse British society in the 19th century through class, gender, ethnicity and the British Empire.

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎特講（冬期スクーリング）

村山　龍

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学テクストは人の手によって編まれた〈コトバ〉の集積体である。日本語という〈コトバ〉を用いて何が語られているのか、さらになぜその〈コトバ〉が用いられているのか、私たちが当たり前のこととして見過ごしているところに実は大きな意味が隠されていることもある。話者の態度や社会通念などさまざまなものが〈コトバ〉の意味を操作し、構築し、連関を紡いでるのだ。本講義ではこうした問題意識をもとに、〈コトバ〉の働きを通じて日本近代文学にあらわれた様々な問いを学んでいく。

【到達目標】
・明治以後の日本近代文学のテクストを用いて、社会と人間と文学の関わりを説明することができる。
・文学テクストが娯楽であると同時に、高度な学問的対象でもあることを理解し、多角的に物ごとをとらえ、思考する力を養うことができる。
・文学研究の方法を理解し、学問としての「読み」を実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業の終了時にリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	今後の授業に関する説明など
第2回	国語と日本語と母語	文学をかたちづくる〈コトバ〉の歴史を追う ◇リアクションペーパー提出
第3回	内面記述の方法として①	日本近代文学の始まりを明治の文学論から考える
第4回	内面記述の方法として②	二葉亭四迷「浮雲」と森鷗外「舞姫」から考える ◇リアクションペーパー提出
第5回	テクスト分析の方法論①	芥川龍之介「羅生門」をテクスト論的に分析する
第6回	テクスト分析の方法論②	志賀直哉「小僧の神様」を都市空間の観点から分析する ◇リアクションペーパー提出
第7回	男らしさと女らしさ①	ジェンダーと言葉の関係について考える
第8回	男らしさと女らしさ②	夏目漱石「三四郎」を近代化と女性という二つの軸から読む ◇リアクションペーパー提出
第9回	男らしさと女らしさ③	太宰治の女性独白体を考える ―1930年代の綴方教育
第10回	男らしさと女らしさ④	太宰治の女性独白体を考える ―「千代女」と「女生徒」の主人公たちの苦悩 ◇リアクションペーパー提出
第11回	近代文学の彼方へ	宮沢賢治「銀河鉄道の夜」を読む ◇リアクションペーパー提出
第12回	授業内試験	授業で学んだことをチェックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指示したテクストがある場合は、それを読んでから授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成したレジュメと資料を授業にて配布する。
また、授業で取り扱う小説作品についてはそれぞれ購入し、通読しておくこと。とくに★マークをつけたものは授業内で詳細な読解にふみ込むので読んでおいて欲しい。
・二葉亭四迷『浮雲』（新潮文庫、￥464-）
・森鷗外『阿部一族・舞姫』（新潮文庫、￥562-）
・★芥川龍之介『羅生門・鼻』（新潮文庫、￥400-）
・★志賀直哉『小僧の神様―他十篇』（岩波文庫、￥691-）
・★夏目漱石『三四郎』（新潮文庫、￥367-）
・★太宰治『ちくま日本文学００８　太宰治』（ちくま文庫、￥950-）
・★宮沢賢治『宮沢賢治全集　7巻』（ちくま文庫、￥1,080-）
※上記の書籍以外にも他の出版社の文庫やインターネット上の青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で公開されている場合もある。

【参考書】
文学批評に関する用語（パラダイムやアンビバレンツなど）について、できる限り説明を加えていきたいと思うが、そうした語句については『読解を深める 現代文単語〈評論・小説〉改訂版』（桐原書店、2018）などでも学ぶことができるので、ぜひ役立ててほしい。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業中に課すリアクションペーパーを含む授業への積極的な貢献度：40％
・授業内試験：60％
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Literary texts are collections of "words" knitted by human hands. In fact the great meaning is actually hidden in what we are missing as to what it is told by using the Japanese "words" and why those "words" are used Sometimes. Various things such as the attitude of the speaker and social wisdom operate the meaning of "words", build it, and spin the linkage. Based on these problem consciousness, this lecture will learn various questions of modern Japanese literature through analyzing the work of "words".

POL100TA（政治学 / Politics 100）

政治学概論（冬期スクーリング）

岡﨑　加奈子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において、わたしたちはどのように政治と向き合い、考えていくべきなのだろうか。今日、政治や議会はどのような意味や役割をもつのだろうか。
本講義では、政治学の基礎的概念を理解し、現代社会における政治のありかた、なかでも現代社会における国会の役割とは何かについて、さまざまな視点から考えていく。

【到達目標】
本講義では以下の点を到達目標とする。
学生が現代社会の国会を中心とした政治をめぐる制度や理論、歴史について、基本的な理解を得られること。
学生が政治的な事象について自ら思考する力を身につけること。
さらに、こうした理解や思考を文章としてまとめ、表現する力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、現代日本における国会を中心とした政治制度やそのしくみについて、理論・制度・歴史といったさまざまな視点から多角的に講義をすすめる。その中で、今日の社会における政治的な事象を考察していくとともに、時事的な政治事象についても適宜取り上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	序章	・講義全体のテーマと目標 ・現代社会とは何か
第2回	現代政治の課題とは何か	・権力とは何か ・現代の政治課題とは
第3回	近代議会の成立と発展	・議会と民主主義 ・市民社会の形成と変容
第4回	戦後初期の国会運営	・憲法と国会法の枠組み ・委員会中心主義
第5回	５５年体制下の政党	・５５年体制の成立 ・政党制
第6回	５５年体制下の国会	・国会審議の空洞化 ・事前審査制
第7回	政治改革と国会	・政治改革について ・国会改革について
第8回	５５年体制後の変化	・政党情勢の変化 ・官邸主導
第9回	二院制を考える	・参議院の役割は何か ・ねじれ国会
第10回	国会をどう変えていくのか	・審議の実効性と効率性 ・国会の代表性とは何か
第11回	市民は国会をどうつくるか	・市民の政治意識 ・市民による政治参加
第12回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、テキストを事前によく読み込み、講義後は、テキスト、レジメおよびノートに基づき復習することがのぞましい。

【テキスト（教科書）】
大山礼子『日本の国会- 審議する立法府へ』岩波新書、2011年

【参考書】
授業内で適宜、参考文献を紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(60%)と平常点(40%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度講義なし

【Outline (in English)】
This course introduces the fundamental principles of political science to students taking this course. This course deals with the basic concepts and principles of the history, the party system, and especially the Diet in Japan.

CUA100TA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学（冬期スクーリング）

中島　成久

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コモンズの比較研究というテーマで、インドネシアにおける共有地権と日本（屋久島）における入会権の比較を行い、コモンズとは何か、その何が現在問題なのかを検討する。

【到達目標】
コモンズ論の観点から、インドネシアにおけるアブラヤシ農園開発にともなう土地紛争の問題を分析し、インドネシアにおける森林破壊、先住民論争、土地権などについて学び、そこで得られた知見を屋久島における入会権裁判の今日的意義とを比較検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を基本とし、適宜視聴覚教材、ディスカッション形式の授業を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	インドネシアにおけるコモンズ①	アブラヤシ農園開発の歴史と現状
第2回	インドネシアにおけるコモンズ②	インドネシアにおける土地権をめぐる歴史と現状
第3回	インドネシアにおけるコモンズ③	アブラヤシ開発とインドネシアにおける先住民族①
第4回	インドネシアにおけるコモンズ④	アブラヤシ開発とインドネシアにおける先住民族②
第5回	インドネシアにおけるコモンズ⑤	アブラヤシ開発とインドネシアにおける先住民族③
第6回	インドネシアにおけるコモンズ⑥	アブラヤシ開発とミナンカバウ社会の共有地権①
第7回	インドネシアにおけるコモンズ⑦	アブラヤシ開発とミナンカバウ社会の共有地権②
第8回	インドネシアにおけるコモンズ⑧	国立公園の資源管理と紛争①
第9回	インドネシアにおけるコモンズ⑨	国立公園の資源管理と紛争②
第10回	屋久島におけるコモンズ①	屋久スギ伐採の歴史と国有林下げ戻し裁判
第11回	屋久島におけるコモンズ②	世界遺産登録後の屋久島
第12回	成績評価	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館などを活用した予習、復習

【テキスト（教科書）】
中島成久（編著）『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店、２００３年（初版第１刷）、２０１４年（初版第６刷）
中島成久著『インドネシアの土地紛争――言挙げする農民たち』創成社新書、２０１１年（教室で配布）
中島成久『森の開発と神々の闘争――改訂増補版屋久島の環境民俗学』明石書店、２０１０年

【参考書】
随時提示する

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０％）＋試験（６０％）

【学生の意見等からの気づき】
板書を丁寧にすること！

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
This class aims to do comaparative analisis of commons between Indonesia and Japan (Yakushima). Then we discuss what is commons and what will be achieved from these comparative studies.

LAW100TA（法学 / law 100）

法学（冬期スクーリング）

葉　晶珠

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法学一般に関する基本的な知識を講義します。履修者が、条文と判例を手がかりに、法学の基本概念と原理を理解し、現代日本法の基本構造を把握できることを目標とします。

【到達目標】
①法学に関する基本的な概念と重要な原理を説明できるようになります。
②現代日本法の基本構造について基礎的な理解を獲得します。
③代表的な判例の検討を通して、現代社会の諸問題を法学的な観点から思考する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストに沿って講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション＋法学概説	法とは何か、法の存在形式（法源）、法文の構造と用語など
第2回	裁判制度	法による紛争解決のプロセス、裁判制度のしくみ、判例の調べ方と読み方など
第3回	近代憲法の成立と基本的人権	近代憲法の歴史と体系、人権の発展史・内容・分類、私人間における人権保障の問題（三菱樹脂事件）
第4回	法の下の平等	尊属殺等重罰規定の合憲性、議員定数不均衡問題
第5回	精神的自由権	思想・良心の自由、表現の自由、代表的な判例
第6回	経済的自由権とその他の人権	職業選択の自由、生存権、人身自由
第7回	家族法	家族法の近代化、総説、夫婦関係、親子関係、相続と遺言
第8回	財産法	財産権の体系、所有権の絶対性と制限、契約の自由、損害賠償
第9回	労働法	労働法の性格と体系、労働者保護法、労働基本権の保障
第10回	刑法	刑法の役割、刑法の基本原則、罪刑法定主義の意義と内容（徳島市公安条例事件など）、犯罪の成立要件
第11回	国家と法	司法権とその限界、違憲審査制の性格（警察予備隊違憲訴訟など）、憲法判断の回避（恵庭事件など）
第12回	単位修得試験	冬期スクーリングの試験の受験資格を有する受講生のみが対象である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当箇所を予習し、分からない用語などを事前に調べておくこと。また、復習として、講義期間中に配布される課題集に回答すること。

【テキスト（教科書）】
西村健一郎ほか『判例法学　第5版』（有斐閣ブックス、2012年）￥2,400+税

【参考書】
①入門書：末川博編『法学入門　第６版補訂版』（有斐閣双書、2014年）
②条文：各種六法（出版社は問わない）
③各法分野の参考書は指定テキスト該当章の最終頁に掲載されているものを参照してください。

【成績評価の方法と基準】
最終講義時に行う筆記試験によって成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に用いるスライドの内容につき、授業前にプリントを配布する予定です。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to acquire an understanding of the role of law in society, the basic concepts and principles of law. We also introduce important provisions and major judicial precedents to help students to develop a legal mind during the course of their studies.

PHY100TA（物理学 / Physics 100）

物理学３（実験）（冬期スクーリング）

吉田　智

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで物理学は、長い年月をかけた実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって発展してきた。この授業では重力・光・波・エネルギーなどの日常諸現象に関係する実験を学生自らが行うことによって、それらの現象の本質を理解できるようにする。

【到達目標】
身の周りの物理現象に関する実験を通じて、物理に関する知識を深めると共に、物理的な物の見方を修得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
少人数グループで行う4つの実験を中心にして授業が行われる。高校での物理の基礎知識が無くても実験内容の理解が深められるように、配布資料や一部映像を使用しながら講義による解説も併せて行う。4日間で4つの実験をローテーションで行うため、グループによっては実験の順番が前後することがある。従って下記の授業計画は1例である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	落体実験と交流の周波数の測定について	授業全体の進め方と実施する実験についての説明を行う。
第2回	レンズの曲率半径の測定と熱の仕事当量の測定について	第1回に続き、実施する実験についての説明を行う。更にレポートの書き方の簡単な説明を行う。
第3回	落体実験	落体実験を行う。
第4回	重力について	1つ目の実験データの解析を行う。また後半に、実験に関係する重力についての説明を行う。
第5回	交流の周波数の測定	交流の周波数の測定を行う。
第6回	電子について	2つ目の実験データの解析を行う。また後半に、実験に関係する電子等の粒子についての説明を行う。
第7回	レンズの曲率半径の測定	光を利用してレンズの曲率半径の測定を行う。
第8回	光について	3つ目の実験データの解析を行う。また後半に、実験に関係する光についての説明を行う。
第9回	熱の仕事当量の測定	熱の仕事当量の測定を行う。
第10回	熱について	4つ目の実験データの解析を行う。また後半に、実験に関係する熱についての説明を行う。
第11回	無重力状態での物理現象について	資料映像を利用して、無重力状態での物理現象について紹介する。
第12回	超伝導現象について	資料映像等を利用して、低温状態において見られる超伝導現象について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験をスムーズに行うために、実験前に予め配付プリントの該当箇所を読んでおくこと、更に授業後のデータ解析とレポート作成が必要である。

【テキスト（教科書）】
配付プリントを使用するため、教科書は使用しない。

【参考書】
特に指定はしない。

【成績評価の方法と基準】
レポート80％、平常点20％。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course teaches general physics through making experiments on gravity, light, wave, energy and so on.

CHM100TA（その他の化学 / Chemistry 100）

化学１（実験）（冬期スクーリング）

向井　知大

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原子や分子の構造と特徴について学習し、自然現象や工業製品の原理について理解を深めます。

【到達目標】
身の回りの製品や自然現象について原子、分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
実験の原理、関連する現象や工業製品について説明を受けた後に実験を行います。実験の終了後に、課題や実験結果のまとめに取り組みます。これまでに化学を履修していなくても、楽しく実験できるよう配慮しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と概要について。
第2回	有機物と無機物	原子の構造と物質の分類について。
第3回	光と色の関係	光の特徴と物質の色についての解説。
第4回	炎色反応	炎色反応および炎色スペクトルの観察。
第5回	色素の合成	有機合成による色素分子の合成。
第6回	ほう砂球反応	遷移金属イオンの色とその変化について。
第7回	銅板エッチング	イオン化傾向の低い金属を溶かす実験。
第8回	金色めっき	銅板への亜鉛めっきと、黄銅の作成。
第9回	銀鏡反応	有機物による銀イオンの還元反応の観察。
第10回	自己触媒型無電解ニッケルめっき	ガラス板にニッケルめっきする実験。
第11回	フォトレジスト	フォトレジストの種類と仕組みについての解説。
第12回	模様鏡の作成	ニッケルめっきしたガラス板を、フォトレジストを用いて加工する実験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次の日に行われる実験の原理や手順を予習しておいて下さい。当日の授業始めに簡単な小テストを行います。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配布します。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
授業の始めに、当日行う実験に関する小テスト(配分20%)を行います(3～5分程度)。実験終了後に、実験結果のまとめと課題 (配分80%)を課します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course introduces structures and properties of atoms and molecules to students taking this course. The students will learn the principles of natural phenomena and familiar industrial products.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（1）（冬期スクーリング）

北原　ルック　明子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語を通して自分の意見を言えるようにする．またクラスメイトの意見にも英語で反応出来るようにし英語をただの言語としてとらえるのではなく道具として使えるようにして行く．

【到達目標】
教科書の題材のテーマを通してクラスメイト同士でコミュニケーションをはかりながら自分の意見を主張し反論出来るように授業を進めて行く．基本の reading, writing, speaking, listening を通して英語モードにして行く．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
様々なテーマをもとに自分の意見、並びにクラスメートの意見を聞きながら自分の意見をまとめて発表していく。授業内発表などもグループになり行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Introduction -Introducing yourself by responding with the other classmates.	Getting to know your classmates.
第2回	How is the first impression important?	What is the most important thing about the first impression
第3回	Continuation of the previous unit.	What are the most attractive points to you in others?
第4回	To be international -What does it mean to be an international person.	What is necessary to become international. What do you think of learning English?
第5回	Continuation of the previous unit -Do you want to be an international person?	What languages do you think you need to study other than English? Why?
第6回	Thinking of marriage -What do you think of marriage?	What do you think of getting married and staying single?
第7回	Continuation of the previous unit.	What are the pros and cons of getting married and staying single.
第8回	Global Warming What do you think of global warming?	What can you do to prevent or stop global warming.
第9回	Continuation of the precious unit What are the causes of global warming.	What do you think of endangered animals because of global warming.
第10回	What do you think of capital punishment.	Do you think capital punishment is justified?
第11回	Continuation of the previous unit.	What are the pros and cons of capital punishment.
第12回	Test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プリントを読み内容を把握する

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点ならびに試験

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Students are required to be able to speak what they are thinking in English and to be able to ask questions to their classmates through group activities in English.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（２）（冬期スクーリング）

Robert　Durham

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is an English course to assist students to further develop their English proficiency, by shifting to more content-based English-learning.

【到達目標】
Students will learn about cultures & social practices from around the English-speaking world; and will also learn how to explain Japanese culture to English-speaking people in this Global Society.　Students will have to learn how to think critically [in-depth] about important Global Issues; and will have to effectively express their own thoughts and opinions in modern English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks).　Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; & recent world events.] Introductions, in smoothly, natural, friendly English. English video #1	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto. Students will be asked to express English opinions, re: English video.
第2回	Video #1, part 2: asking students to express active opinions in English.	How to say (speak) your own opinions, in English...and how to EXPLAIN them.
第3回	Using the Future tense in English, to explain your weekend or future plans.	Active English spoken expressions, re: future plans.
第4回	Using English Past tense to explain your weekend activities, in spoken English.	Atively speaking about the recent Past, in spoken English, using the English Past Tense.
第5回	"How are you?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?"/ "How are you doing?"/ etc.
第6回	Expressing your opinions about Current Affairs News video #2, in active, dynamic spoken English.	Pair practice: saying (speaking) your opinions about English videos, in modern English.
第7回	Speaking (& elaborating in detail), in modern English, about your five active hobbies.	Pair practice & questions about hobbies: students will learn how to speak their opinions (in English) to classmates.
第8回	News or documentary video #3	Lots of practice in spoken English, to explain student opinions about the topics raised by the video.
第9回	Explaining how to ask for (& give/speak) street directions, in clear English.	Practicing asking/giving English directions, as pair practice.
第10回	Current news or documentary video #3	Much practice in spoken English, to explain student opinions about the topics raised by the video.
第11回	Using 'would' & Past tense, vs. "will' & Present tense.	Pair practice & questions, re: 'would'/ Past Tense; & 'will'/ Present Tense.
第12回	Final 'wrap up' & summary, including questions about Summer plans.	Pair practice subjects learned, & re: Summer plans.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazukke"]; please try to arrive in class ON TIME [not late]; please don't try to do too much overtime work; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen.

【テキスト（教科書）】
A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements.　Also, some handouts will be distributed to students.　In addition, some News videos & video documentaries may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

【参考書】
Nothing in particular.

【成績評価の方法と基準】
Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 25%); speaking exam(s) spoken replies (approximately 25%); attendance/on-time arrival (approximately 15%); class participation/motivation (20%); and homework (15%).
IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE

【学生の意見等からの気づき】
Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】
Please bring to each class: a notebook/binder; a black pen; a red pen; an English-Japanese/Japanese-English dictionary [paper or electronic]; an English language LARGE namecard; and a daily planner/schedule book [a 'techo', in Nihongo].

【その他の重要事項】
Please participate ACTIVELY in class; please sit together with other students, in class, AT THE FRONT OF THE ROOM; and please speak together with your classmates, using lots of eye contact, smiling, & good Body Language. If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".
Class etiquette: please cover your mouth, if/when you cough/sneeze/yawn.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（３）（冬期スクーリング）

平野井　ちえ子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１９世紀英国の作家Jane Austen原作の恋愛小説*Emma*を平易な英語で書き直したテクストを読破します。ある程度まとまった分量の英語を読み解いていくことで、英語を読み内容を整理する習慣を身につけます。また、テクストの音読や映画化作品のリスニングを通じて、英語の音声に親しみます。授業内ではペアやグループでの取り組みが多く、協同学習への積極的参加が求められます。

【到達目標】
１．まとまった英文を読破する経験を通じて、英語を読む習慣を身につける。
２．Authenticな（生の）英語に対するリスニング力を向上させる。
３．音読やリスニングを楽しむ習慣を身につける。
４．読んだり聴いたりした英語を、自分でも使えるよう練習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
１．テクストのリーディング：ペア／グループワーク
２．１についての講義
３．リスニングや音読の練習：ペア／グループワーク
４．３についての講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	参加者の自己紹介。
	Chapter1	Chapter1を学びながら、授業の進め方を具体的に説明します。
第2回	Chapter2	Chapter2のテクストのリーディングと映画化作品のリスニング
第3回	Chapter3	Chapter3のテクストのリーディングと映画化作品のリスニング
第4回	Chapter4	Chapter4のテクストのリーディングと映画化作品のリスニング
第5回	Chapter5	Chapter5のテクストのリーディングと音読練習
第6回	復習（Chapter1～5）	コース前半の復習
第7回	Chapter6	Chapter6のテクストのリーディングと音読練習
第8回	Chapter7	Chapter7のテクストのリーディングと映画化作品のリスニング
第9回	Chapter8	Chapter8のテクストのリーディングと音読練習
第10回	Chapter9	Chapter9のテクストのリーディングと音読練習
第11回	復習	コース内容の全体について、重点復習講義、質問などの時間とします。
第12回	復習と最終試験	重点復習講義と質疑応答の後、6日間の学習成果をペーパーテストで確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１．開講までに、テクストのChapter1～9までを通読しておいてください。わからないところがあってもかまいませんが、必ずどこがわからないのか明確にしておいてください。
２．復習の内容と方法については、オリエンテーション時に詳しく説明します。

【テキスト（教科書）】
Emma (Penguin Readers Level4) Retold by Annette Barnes
ISBN 978-1-4058-8214-9
同じタイトルの書籍が複数出版されているので、上記内容を確認してください。

【参考書】
Jane Austen原作の翻訳書
中野康司訳『エマ』（上・下）ちくま文庫
阿部知二訳『エマ』中公文庫
映像化作品もあります。

【成績評価の方法と基準】
平常点５０％、最終試験５０％
ペアやグループでのタスクへの貢献度を重視します。
そうした授業展開を好まない方には、向きません。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
テクストの予習は必須ですが、授業当日も必ず辞書（電子辞書も可）を持参してください。

【その他の重要事項】
１．CALL教室での授業です。教室内での飲食はできません。
２．ペアやグループでのタスクを行うので、健康管理には十分注意してください。
３．テクストの未購入やテクスト忘れは、他の受講者の不利益にもつながります。授業に必要なものは、自分で持参してください。
４．個人情報を執拗に聞き出すなどの迷惑行為には、厳しく対応します。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is learning to read a specified amount of consistent text (e.g. a novel) intensively and analytically. Learners are expected to read through an abridged version of Jane Austen's *Emma*. *Emma* is a romantic novel regarded as a comedy of manners. Listening and speaking tasks are also required with related audio-visual materials. Learners have to participate actively in cooperative learning in class.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（4）（冬期スクーリング）

吉江　秀和

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキスト『イラストでサポート：基本語彙を使った英語表現演習』を使用し、基本的な語を用いてさまざまな英語表現を学びます。また、テキストには文法項目が含まれているため、文構造を意識することでテキストにある表現をただ暗記するのではなく、更に表現の幅を広げるための理解度を高めていきます。

【到達目標】
①テキストで用いられている表現の意味を理解し、音源を聞き取り、発音できるようにする。
②その表現を基にして類似する文を作り、話すことができる。
③テキストで用いられている表現の文構造を理解する。
④日常生活において英語を使用する機会があった場合に備えて、基本的な表現を使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに含まれる問題を事前に解き、対話文などに目を通してきてもらいます（テキストの音源をダウンロードし、音源のあるものは聞くだけでなく音源に合わせて音読してください）。授業ではまず、各課の前半に置かれた例文や穴埋め問題の確認や解説をおこないながら、文章を声に出して読んでもらいます。また、追加表現も併せて学び、それらの発音練習もおこないます。続いて各課の後半に置かれている対話文を用いて発音練習をおこないます（場合によってはほかの受講者とテキストの会話などをロールプレイしてもらいます）。その後、最後に置かれた発展問題の確認・解説をおこないます。全ての解説の終了後、理解度確認のテストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	第1課 一語一句文 第2課 -er	授業の進め方の確認。 テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
2	第2課 -erの続き 第3課 -ing	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
3	第4課 -ed 第5課 be+形容詞	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
4	第5課 be+形容詞の続き 第6課 in(to)とout(of)	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
5	第7課 onとoffとat 第8課 have	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
6	第8課 haveの続き 第9課 go	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
7	第10課 come 第11課 put	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
8	第11課 putの続き 第12課 take	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
9	第13課 give 第14課 get	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
10	第14課 getの続き 第15課 make	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
11	全体の復習	ここまでで学んだ内容の復習をおこないます。
12	試験	ここまでで学んだ内容の理解度の確認をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの内容を事前に確認すること（会話表現や文章の意味の理解、聞き取り、音読、問題を解くこと）や、授業後の復習を積極的におこないます。

【テキスト（教科書）】
『イラストでサポート：基本語彙を使った英語表現演習 Putting Core English Words into Action』鳥飼慎一郎著、朝日出版社、2019年、1,800円＋税

【参考書】
なし。
ただし、テキストでは各課の前半に文法事項が含まれているため、必要であればそれらの予習や復習で使用するための文法書を持っておくことをお勧めします（授業に持参する必要はありません）。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）、試験（50％）
平常点は授業中の取り組みで判断します。音読など積極的な授業参加をお願いします。
試験は授業内で扱った内容で作成します。
試験の受験資格はスクーリングの規定にあるように6日（12コマ）のうち4日（8コマ）分以上の出席となっていますので、遅刻や欠席をできる限りしないようにしてください（欠席や遅刻が多くなれば、既定の4日分を出席していても評価は自然と下がります）。

【学生の意見等からの気づき】
時間に余裕があれば、テキスト以外の文法問題も解いてみたいという声もありましたので、状況に合わせて追加の問題を扱う場合があります。
テキストにある対話文などを受講者同士で練習してみたいという声もありましたので、状況を見ておこなっていきます。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】
この授業では基礎的なレベルの英語を学びます。したがって、もう一度英語を学び直し、英語力を高めたい学生を念頭に置いた授業をしていく予定です。授業中には英語を声に出してもらったり、問題や質問に答えてもらったりします。予習も含めて積極的な態度で授業参加をお願いします。

【Outline (in English)】
On this course you will learn simple English expressions with a basic vocabulary.　You will also learn basic rules of composition in English and practice in pronunciation by reading the sentences and dialogues in the textbook *Putting Core English Words into Action*. You will be shown additional expressions and compose some simple sentences during class. The course is offered at elementary level.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（５）（冬期スクーリング）

吉田　季実子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読む、書く、聞く、話すという英語の4能力をさらに深める。またこの4技能を駆使してあるテーマについて英語で情報を得て考察し、発信する能力を養成する
本授業ではNHKのニューズ番組の資料を使うことで国内の話題を英語で理解し発信する力を養成する

【到達目標】
英語の文章を理解し正確に読み取ることができる。
リスニングに慣れ、日々のリスニングの習慣をつける。
英語で自分の意見をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。
1単元につき、2時限を使用して繰り返し映像資料を参照する。
すべてのユニットでリスニング、精読を行い
テキスト内での設問に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方、教材についてなどの説明
2	Unit1	資料のリスニングを中心とする学習
3	Unit1	資料の精読を中心とする学習
4	Unit2	資料のリスニングを中心とする学習
5	Unit2	資料の精読を中心とする学習
6	Unit3	資料のリスニングを中心とする学習
7	Unit3	資料の精読を中心とする学習
8	Unit4	資料のリスニングを中心とする学習
9	Unit4	資料の精読を中心とする学習
10	Unit5	資料のリスニングを中心とする学習
11	Unit5	資料の精読を中心とする学習
12	Unit6	資料のリスニングを中心とする学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語など事前に指示された課題を解いてから授業にのぞむ

【テキスト（教科書）】
"NHK Newsline"『映像で学ぶNHK英語ニュースが伝える日本』(2018)金星堂

【参考書】
特に指定はしないが、該当記事に関するニュースなどを参照する

【成績評価の方法と基準】
小テストによる平常点70%
出席や授業への参加30%
欠席が4コマ以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
空調音響も含めた授業内環境に配慮する

【Outline (in English)】
This course introduces writing and listening skills to students taking this course by using news videos about Japanese culture.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（6）（冬期スクーリング）

本間　章郎

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ニュース英語を題材にします。これまでの英語の授業を踏まえて、特に読む、聞くという英語の技能の運用能力を課題を通して深めることを目的とします。最初は早いと思うかもしれませんが、英語の音声を聞きながら、練習問題を通して内容を理解する練習をおこないます。特に、まとまった量の英文の内容を的確に理解できるようになってもらえればと思います。同時に、ニュース英語を題材にした英語の勉強を通して、時に日本の現代社会とも共通するアメリカ社会に対して理解を深めていきます。

【到達目標】
授業の到達目標としては、英語の運用能力の向上を目指して次の目標を意識してほしいと思います。
(1) ある程度の分量の英文を聞いて、内容を適切に理解する。
　　教科書の練習問題を通じて確認します。
(2) 重要な単語及び表現を身に着ける。
　　小テストを通じて確認します。
(3) リスニングの力を育成する。
　　小テストを通じて確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解の練習をおこないます。また、数回、小テストをおこないます。小テストはリスニングや学習した表現・単語の理解などを問う問題になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明	授業の目標と進め方の説明
	Unit 1:Japan: Unusual Rental Universe – You Can Rent a Family	リスニング及び内容理解
第2回	Unit 1:Japan: Unusual Rental Universe – You Can Rent a Family	問題演習
第3回	Unit 2: Is Coffee the Secret to a Longer Life?	リスニング及び内容理解
第4回	Unit 2: Is Coffee the Secret to a Longer Life?	問題演習
第5回	Unit 4: Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year	リスニング及び内容理解
第6回	Unit 4: Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year	問題演習
第7回	Unit 5: Your Smartphone is Making You a Workplace Slacker	リスニング及び内容理解
第8回	Unit 5: Your Smartphone is Making You a Workplace Slacker	問題演習
第9回	Unit 6: Do happy People Live Long?	リスニング及び内容理解
第10回	Unit 6: Do happy People Live Long?	問題演習
第11回	Unit 7: Selling Charity	リスニング及び内容理解 問題演習
第12回	理解度の確認	テストをおこないます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。スマートフォンなどで映像が見れるので、該当する箇所の英文の内容を聞いて、教科書を読み、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】
CBS NewsBreak 4（『CBSニュースブレイク 4』）
熊井信弘他著　成美堂　2019年　2400円

【参考書】
参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト（60%）、小テスト（40%）から成績を評価します。主に到達目標の(1)を毎回の授業から、(2)と(3)を小テストおよび学期末テストから判断します。試験は教科書の問題なので、復習をよくおこなってください。単位の修得には、6日間の開講中、必ず4.0日以上の出席が必要です。最低限の出席日数を満たしていない場合には、成績評価の対象にはならないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
今年度はリスニングの小テストを活用して、学んだ単語や表現などを効果的に見に着けることができるようにしたいと思います。

【Outline (in English)】
In this course, students will be introduced to various social and cultural issues of contemporary America through CBS news. The topics ranges from business trends to lifestyle issues, which help students understand American society. Watching the news reports, students can improve their listening ability. The news videos are useful to get the gist of them. By reading the news reports of the textbook, students can grasp the details of them and broaden their vocabularies. On topics related with the news reports, students will make a short speech or express their own opinions in writing. I hope students can improve English skills and get a better sense of American society.

LANe200TB（英語 / English language education 200）

総合外国語特講（英語）（冬期スクーリング）

Andrew　E.　Chen

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業科目の内容･目的･方法 The object of this course is for students to practice and improve their English listening, speaking, reading, and writing skills while examining the sub-genre of prose fiction known as the bildungsroman. It is also called Coming of Age fiction and the novel of formation. We will delve into this genre and explore the elements that make it popular: youth, self-cultivation, individual development, moral consciousness, ethical awareness, initiation and socialization.

【到達目標】
Students focus on polishing their public speaking, group discussion, writing, summarizing, and character analysis skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3」「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1」「日本文学科：DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP2」「地理学科：DP3」「経済学科：DP6」「経済学科：DP8」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
Students read one novel in its original language English in the course. Students are assigned reading pages and will give a short summary of their reading assignment orally. Students identify key vocabulary, cultureal allusions, and changes in the characters. A discussion in pairs or small groups will follow.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Bullying and Suicide	Comparing the bullying that takes place in schools, psychologically and physically.
第2回	Suicide	The questions left behind and the problem of teenage suicides.
第3回	Parties	Parties where sex, drugs, and alcohol are common. Date Rape: consent and the obligation to report.
第4回	Gay relationships	Brad and Patrick. Admitting that you are in a gay relationship.
第5回	raison d'être	The Mouse Experiment
第6回	Family matters and gift giving.	The family TV time and the expression of love.
第7回	Platonic relationships	Charlie and Sam
第8回	Guilty Conscience	Dealing with the past and the events with guilt attached.
第9回	Drug Use in High School	Facts and Statistics on Teenagers
第10回	Alienation	Passivity and overcoming passivity. Charlie and Mary Elizabeth
第11回	Teenage Pregnancy	Abortion. Single motherhood. Who to turn to, should birth control methods be taught in schools or should abstinence only be taught?
第12回	Child Molestation and Hidden Memories.	Charlie and someone whom he adores.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Read the whole book. Summarize the diary entries. Identify the problems and issues. Write new vocabulary and write down definitions. Prepare a comment to share in class.

【テキスト（教科書）】
The Perks of Being a Wallflower by Stephen Chbosky (ISBN 978-1847394071) published by Pocket Books.

【参考書】
THE PERKS OF BEING A WALLFLOWER - Interview with Stephen Chbosky (Writer/Director) Ciafardini, M. (2016). THE PERKS OF BEING A WALLFLOWER - Interview with Stephen Chbosky (Writer/Director). [online] YouTube. Available at: https://www.youtube.com/watch?v=KhczVEDuYbo [Accessed 27 Oct. 2016].
The Perks of Being a Wallflower
Goodreads. (2016). The Perks of Being a Wallflower. [online] Available at: http://www.goodreads.com/book/show/22628.The_Perks_of_Being_a_Wallflower [Accessed 27 Oct. 2016].
The Perks of Being a Wallflower
En.wikipedia.org. (2016). The Perks of Being a Wallflower. [online] Available at: https://en.wikipedia.org/wiki/The_Perks_of_Being_a_Wallflower [Accessed 27 Oct. 2016].

【成績評価の方法と基準】
*Comprehension Quizzes (10%)
*Class Participation (10%)
*Oral Summary and Review (20%)
*Written Assignments and Opinions (20%)
*Midterm Presentation (20%)
*Final Essay (20%)

【学生の意見等からの気づき】
Please be mindful that students are taking the class to learn and practice English. The use of Japanese is discouraged.

【Outline (in English)】
The goal is to be able to identify the issues adolescents go through during the crucial period of their lives. In doing so, students gain an understanding of American teenagers, high school culture, and social issues.

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）

仏語Ｓ（冬期スクーリング）

稲垣　正久

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法、後半部分を学びます。フランス語の特徴や文章構造を理解することを目的とします。

【到達目標】
簡単なフランス語の文章の読み書きができるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
担当教員による文法事項の説明に則して、受講者に練習問題を解いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	復習	0課から10課までの復習
第2回	第11課	過去分詞、直説法複合過去
第3回	第12課	代名動詞
第4回	第13課	中性代名詞
第5回	第14課	関係代名詞
第6回	第15課	受動態、指示代名詞、所有代名詞
第7回	第16課	直説法半過去、直説法大過去
第8回	第17課	直説法単純未来、直説法前未来
第9回	第18課	現在分詞、ジェロンディフ
第10回	第19課	条件法現在、過去
第11回	第20課	接続法現在、過去
第12回	総括	考査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は特に必要としません。毎回簡単な宿題を出しますので必ずやって来てください。

【テキスト（教科書）】
『アトリエ・フランセ』石上他著(朝日出版社)

【参考書】
『だいたいで楽しいフランス語入門』『フランス語文法ドリル』稲垣正久著(三修社)

【成績評価の方法と基準】
期末試験に平常点を加味して表します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
フランス語初級文法の前半部分を習得した学生の受講を希望します。

【Outline (in English)】
study of elementary grammer of French language

LANd100TA（ドイツ語 / German language education 100）

独語Ｓ（冬期スクーリング）

三ツ石祐子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語を初めて学習する学生のための授業です。授業を通じて、「読む」「書く」「聞く」「話す」という、いわゆる4技能を総合的にペアワークやグループワークなどで練習し、ドイツ語の基礎を身につけることを目標とします。また、ドイツ語やドイツ語圏の文化に対する興味や理解を深めてもらうために、画像などを用いてその断片を紹介します。

【到達目標】
この授業を履修することで以下のことが出来るようになります。
1）発音ルールを覚え、初見の単語や文章も発音できる。
2）基本的な文法事項を習得する。
3）簡単な自己紹介ができる。
4）自分でも簡単な文章（1週間の予定、簡単な日記など）が書ける。
5）数字を使った表現（時間や値段を確認するなど）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では基本的なドイツ語文法をしっかり身につけられるように、ペアワークやグループワークを行い、習ったドイツ語を実際に声に出して発音します。練習した表現を応用できるようにするためにも、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項は毎回必ず復習して覚えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	挨拶	アルファベート（発音と綴りの関係）
第2回	お名前は？	動詞の現在人称変化（1人称と2人称＜親称と敬称＞単数）
第3回	どちらの国の方ですか？	動詞の現在人称変化（seinとhaben,1人称～3人称単数と複数）
第4回	部屋にある物	名詞の1格と4格（単数と複数）
第5回	好きな食べものと飲み物は何ですか？	不規則変化の現在人称変化、所有冠詞、名詞の3格
第6回	休暇はどちらへ？	場所の前置詞
第7回	調子はどう？ －あまりよくありません。	人称代名詞の3格と4格、再帰動詞
第8回	駅の窓口で切符を買う	分離動詞と副文
第9回	休暇中は何をしたい？	話法の助動詞
第10回	この服、どう？	定冠詞類と形容詞
第11回	先週1週間、何してた？	過去形と現在完了
第12回	もし3億円あったら…	接続法２式
	試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は特に必要ありませんが、毎回の授業で学習した内容の復習は必須です。また授業進度によっては、練習問題や簡単な作文の宿題を課します。

【テキスト（教科書）】
『ドイツ語の広場』清野智昭著　同学社　2019年　￥2400＋税

【参考書】
『知ってほしい国　ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著　高文研　2017年　￥1700＋税
『ドイツ語のしくみ』清野智昭著　白水社　2005年　￥1400＋税

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加態度（グループワーク、ミニ・プレゼンテーション等含む）、宿題、発言など）50％＋試験50％とし、60％以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックができません。

【その他の重要事項】
「授業計画」は、授業の進度などにより変更する可能性があります。できるだけ、各自【独和の辞書】を1冊用意して欲しいです（電子辞書でも構いません）。

【Outline (in English)】
This course is for the students beginners of German. We will practice all four language skills: reading, writing, listening and speaking. We will mainly do group or partner work. Students will have the chance to learn basic grammar of German and about facets of culture in German speaking countries.

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合演習（冬期スクーリング）

吉田　康伸

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力等）の育成につながる様々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業ではバドミントンや卓球、バレーボールといった生涯スポーツとしてニーズの高い球技や身体組成及び体力測定、バランスボールエクササイズ、柔軟性を高めるストレッチ等の実習を取り入れ、運動強度は若干抑えた中で、運動の重要性や楽しさを学んでいく。
同時に健康維持のために必要な食事（栄養）や睡眠、飲酒・喫煙の害、ストレスについて等、身近な問題を取り上げ、生涯健康でいるためにはどうしたらよいかを講義していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス及び飲酒・喫煙について（講義）	授業全体のガイダンスを行い、その後飲酒・喫煙における害及び正しい知識について講義する。
第2回	ストレッチ及びバランスボールエクササイズの実践（実習＆講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
第3回	肥満の成因について（講義）	肥満になる成因についていくつか取り上げ、ビデオ教材も用いて肥満になりやすい生活習慣を確認する。
第4回	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得及びシングルスのゲームを行う。
第5回	栄養学（日常の食事の摂り方、目的別栄養摂取）について（講義）	栄養学の基礎知識を説明し、日常の食事の摂り方や各目的別の栄養摂取について講義する。
第6回	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ダブルスのゲームを行う。
第7回	睡眠及びストレスについて（講義）	正しい睡眠の仕方やより良い環境について説明し、併せてストレスの基礎知識についても説明し、各自のストレス状態を簡単にチェックする。
第8回	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールのルールを理解し、ソフトバレーボール等も用いて基本技術の習得及びゲームを行う。
第9回	体力測定の意義及び実践（実習＆講義）	体力測定の目的を説明し、測定方法を理解した上で測定を行い、その後各自へのフィードバックを行う。
第10回	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得及びシングルスのゲームを行う。
第11回	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得及びダブルスのゲームを行う。
第12回	筆記試験	授業で取り上げた内容について試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また翌日の授業に行う種目や健康テーマについての予備知識をある程度理解して授業に臨むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・授業態度（60％）、筆記試験（40％）により総合的に評価する。
ただし6日間の12コマ開講中、10コマ以上の出席があること。最終日（試験日）は前半授業のみを2コマ分として換算し、後半のみの出席（試験のみの受験）は受験資格日数には算入しない。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline (in English)】
This course will conducted to make students to understand the signi fi cance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students'future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

POL200TB（政治学 / Politics 200）

政治学（冬期スクーリング）

平良　好利

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、民主主義、選挙、政党、議会、内閣といった政治学にとって重要なテーマを、やや原理的に考察すると同時に、それを踏まえて日本の政治を考察してみたい。

【到達目標】
政治学の基礎的概念を日本政治に則して説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
レジュメに沿った講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の全体的概要と授業の進め方等を説明する。
2	古代ギリシャの直接民主政、社会契約論①	古代ギリシャのアテネにおける民主政を考察し、その後ホッブスの社会契約論を検討する。
3	社会契約論②、民主主義と防衛	ルソーの社会契約論を考察した後、民主主義と共同防衛について多角的に検討する。
4	友敵論、ネーション	カール・シュミットの友敵論について論じた後、ネーションとは何かについて多角的に考察する。
5	有権者の拡大、代表とは	有権者拡大の歴史と現代の課題について考察した後、代表とは何かを原理的に考察する。
6	２つの民主主義理論	カール・シュミットとシュンペーターの民主主義理論を検討する。
7	日本政治と議会制民主主義	日本政治と議会制民主主義について検討する。
8	自民党システム	５５年体制下の自民党システムについて多角的に考察する。
9	野党	議会制民主主義における野党の役割と意義について考察する。
10	５５年体制の崩壊	小沢一郎の行動に注目しつつ、５５年体制の崩壊とその意義について考察する。
11	自民党システムの終焉	小泉純一郎の行動に焦点をあてて、自民党システムの終焉について考察する。
12	試験	試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のあと復習をすること。

【テキスト（教科書）】
テキストはなし。毎回レジュメを配布する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
最終日２コマ目に実施する試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】
レジュメの記載方法の改善

【Outline (in English)】
In this class, we will fundamentally examine the important themes of political science, such as democracy, elections, political parties, the parliament, and the cabinet, and at the same time, we will examine Japanese politics from multiple viewpoints based on that.

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（冬期スクーリング）

笹久保　徹

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則を解説するものである。

商法総則は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
・商法総則の条文から制度を説明できるようにする。
・商法に関心を持ち、現実社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 商法の意義と法源（1）	ガイダンス及び商法の意義について解説する。
第2回	商法の意義と法源（2）	商法の法源について解説する。
第3回	商人と商行為（1）	商人について解説する。
第4回	商人と商行為（2）	商行為について解説する。
第5回	商業登記	商業登記について解説する。
第6回	商号（1）	商号の意義等について解説する。
第7回	商号（2）	商号と名板貸について解説する。
第8回	商業帳簿	商業帳簿について解説する。
第9回	商業使用人	支配人等について解説する。
第10回	代理商	代理商について解説する。
第11回	営業	営業について解説する。
第12回	試験	試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は各自ができる範囲でやること（気楽な気持ちでテキストを眺めるだけでもよい。）。復習に力を注いでもらいたい。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

近藤光男『商法総則・商行為法〔第8版〕』(有斐閣法律学叢書)（有斐閣、2019）本体価格2800円

【参考書】

江頭憲治郎＝山下友信編「商法(総則・商行為)判例百選〔第5版〕」(別冊ジュリストNo.194)（有斐閣、2008年）本体価格2400円

【成績評価の方法と基準】

試験の成績で評価する（試験100％）。到達目標との関係上、試験内容は商法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は、最新の六法を持参すること。

六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性もあるため、初回の授業において講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society.

LAW200TB（法学 / law 200）

憲法（冬期スクーリング）

金子　匡良

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
憲法を支える基本原理やその歴史的背景を理解するとともに、個別的な憲法条文に関する解釈や判例を学ぶことを通じて、憲法学的な視点と思考方法を身につけることを目的とする。

【到達目標】
①憲法の機能や役割を理解する。
②憲法の存在意義や歴史、憲法の土台となっている基本原理、憲法の構造を理解する。
③憲法問題を考える際の基本的な視座や、憲法解釈の基本的な方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1」「法律学科：DP2」「法律学科：DP3」「法律学科：DP4」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
憲法の歴史や変遷、憲法を支える基本原理について学んだ上で、人権に関する個別的な論点をいくつか取りあげ、学説や判例、今日的な問題等について学んでいく。授業は講義形式で進める。なお、専門科目ではあるが、受講者の多様性を考慮し、基本的な法律用語の解説にも時間を割く予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけや機能、あるいは憲法の目的について学ぶ。
第2回	憲法の歴史①	近代憲法の成立過程について学ぶ。
第3回	憲法の歴史②	憲法の現代的変容について学ぶ。
第4回	人権の類型	人権の類型と法的性質の違いについて学ぶ。
第5回	人権の限界と私人間効力	人権に対する制約の可否と私人間における人権の効力について学ぶ。
第6回	法の下の平等①	法の下の平等の意義について学ぶ。
第7回	法の下の平等②	法の下の平等に関する主要な判例、及び今日的な問題点について学ぶ。
第8回	表現の自由①	表現の自由の意義について学ぶ。
第9回	表現の自由②	表現の自由に関する主要な判例、及び今日的な問題点について学ぶ。
第10回	社会権①	社会権の意義について学ぶ。
第11回	社会権②	社会権、特に生存権に関する主要な判例、及び今日的な問題点について学ぶ。
第12回	試験	下記「成績評価の方法と基準」に従って試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前及び授業後に配布プリントをよく読み、問題点を明らかにしておくこと。また、スクーリング開始前に、憲法の条文にひととおり目を通しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。授業は配布プリントに基づいて進めていくが、授業中に条文を参照するので、六法（『ポケット六法』や『デイリー六法』など小型のものでよい）を持参することが望ましい。

【参考書】
初歩的なものとして、君塚正臣（編）『高校から大学への憲法〔第2版〕』（法律文化社、2016年）、入門的なものとして、毛利透『グラフィック憲法入門〔補訂版〕』（新世社、2016年）、標準的なものとして、芦部信喜（高橋和之(補訂)）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）、発展的なものとして、宍戸常寿ほか『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）などがお勧めの参考書である。

【成績評価の方法と基準】
スクーリング最終日に行う筆記試験によって成績評価を行う（100％）。試験の際には、配布プリント及び各自のノートを持ち込み可とし、基本問題（60点）と応用問題（40 点）を出題する。基本問題では、上記の「到達目標」に記載した内容に関する基本的な知識が身についているかを問い、応用問題では、基本的な知識を使って、自分なりの論理展開ができるかどうかを問う。

【学生の意見等からの気づき】
過去のアンケートでは、「授業の進度が速い」、「内容が難しい」という意見がある一方、「授業の進度が遅い」、「内容が簡単すぎる」という意見もあった。例年こうした相対立する意見があり、授業の内容や進度の調整については悩むところであるが、なるべく平易な説明に努めるとともに、多くの受講者に平均的に満足感が得られる授業となるよう、バランスを取っていきたいと考えている。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to gain a constitutional perspective and way of thinking through understanding the basic principles and the historical background of the Constitution of Japan, and learning the interpretation of clauses in the Constitution and precedents on them.

LAW100TB（法学 / law 100）

民法総則（冬期スクーリング）

大澤　彩

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法全体を把握する上で不可欠の基本ルールが定められている民法総則の基本的知識・考え方を理解する。
民法総則を素材として、判例の読み方や学説の理解の仕方を学ぶ。

【到達目標】
通則、人、法律行為、時効制度など、民法総則の基本知識・考え方を理解するとともに、高齢化社会、契約トラブルなど現代社会における法的問題について、民法総則の知識を生かして幅広い視点から考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
民法は、市民社会における市民相互の関係を規律する私法の基礎である。その中でも、民法総則には、市民社会の主体である人に関するルールから、契約を中心とする法律行為に関するルール、時効制度など、民法全体を把握する上で不可欠である基本ルールが定められている。本科目ではこれらの民法の基本ルールについて、判例の状況や学説の動向を理解し、さらには2020年4月1日に施行される改正民法の内容を中心として、民法の基本的な考え方を身につけることを目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	民法入門	民法の基本原則
第2回	契約の主体①	権利能力、行為能力①
第3回	契約の主体②	行為能力②
第4回	契約の主体③	法人
第5回	契約の有効性①	契約の内容、意思表示①
第6回	契約の有効性②	意思表示②
第7回	代理①	代理の基礎
第8回	代理②	無権代理、表見代理①
第9回	代理③	表見代理②
第10回	時効①	時効概論、消滅時効
第11回	時効②	時効の援用、中断、停止
第12回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習にあたっては、必ず六法を傍らに置くこと。また、テキストをスクーリング開始前に一読して欲しい。さらに、民法を勉強する上で判例は非常に重要な素材である。そこで、本講義でも判例を多く取り扱う。判例を理解するにあたっては、単に判例の結論のみにとらわれず、当該事案の具体的な内容や争点をふまえながらなぜそのような結論が提示されたのかを考察するよう努めてほしい。
なお、民法総則の一部は2017年に改正され、2020年4月1日より施行される。本講義でも改正法の内容を説明する。

【テキスト（教科書）】
佐久間毅『民法の基礎１総則（第4版）』（有斐閣、2018年）、3100円＋税
講義にあたってはレジュメ、参考判例を配布する。

【参考書】
内田貴ほか著『民法判例集　総則・物権（第2版）』（有斐閣、2014年）、2900円＋税

【成績評価の方法と基準】
最終日の試験による。

【学生の意見等からの気づき】
レジュメを使いながら、ゆっくりとわかりやすく話すように心がけます。

【Outline (in English)】
We study civil law, especially this general rules.

LAW300TB（法学 / law 300）

会社法（冬期スクーリング）

笹久保　徹

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は商法の会社法に関する講義である。
受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

【到達目標】
・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1」「法律学科：DP2」「法律学科：DP3」「法律学科：DP4」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式である。憲法、民法又は刑法と異なり、会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図解を駆使して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	会社法　総論	会社法を学ぶための前提知識・用語、株式会社の機関構成等を解説する。
第2回	株主総会	株主総会を解説する。
第3回	取締役・取締役会	取締役・取締役会を解説する。
第4回	取締役の義務と責任	取締役の義務・責任、および、取締役の責任を追求する方法等を解説する。
第5回	組織再編 1	合併を解説する。
第6回	組織再編 2	会社分割を解説する。
第7回	組織再編 3	株式交換・株式移転を解説する。
第8回	株式 1	株式の概要・内容・種類等を解説する。
第9回	株式 2	株式の譲渡、自己株式の取得等を解説する。
第10回	募集株式および新株予約権	募集株式および新株予約権を解説する。
第11回	企業買収等	企業の買収および買収防衛措置等を解説する。
第12回	試験	試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』）を読むこと。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。
復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキスト（柴田和史『会社法詳解〔第2版〕』）を熟読すること。

【テキスト（教科書）】
柴田和史『会社法詳解〔第2版〕』（商事法務、2015）

【参考書】
・柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）
・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』別冊ジュリストNo.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】
試験の成績による（試験100％）。

【学生の意見等からの気づき】
資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
受講生は最新の六法を持参すること。
テキスト及び参考書等は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW200TB（法学 / law 200）

法哲学（冬期スクーリング）

西村　清貴

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見ることができるようになることを本講義の目的とする。

【到達目標】
法哲学は大きく分けて、法が追求するべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論から成り、本講義もこれらの両領域を取り扱う。
前者については、社会が追求するべき正義とはなにか、客観的な価値は存在するのか、自由や平等という価値はどのようなものであるのかという諸問題に関する代表的な法哲学者の議論を理解できるようになることを目標とする。
後者については、法を用いるという活動はどのような活動なのか、法と道徳や慣習はどのような相違点を持つのか、裁判官に代表される法律家の営みはどのように理解されるべきかといった諸問題に関する代表的な法哲学者の議論を理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行う。レジュメを配布する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第2回	自然法論と法実証主義	法哲学における最も基本的な対立の一つである自然法論と法実証主義の関係について見る
第3回	法とルール(1)	H・L・A・ハートを中心として法をルールとして捉える見方を見る
第4回	法とルール(2)	前回に引き続き、ハートの議論を一次的ルールと二次的ルールの区別という観点から見る
第5回	法と道徳	法と道徳の関係について見る
第6回	ロナルド・ドゥオーキンの法理論	ドゥオーキンを中心として法の解釈という営為について見る
第7回	法解釈の方法	法に客観的な解釈は存在するかという問題を取り扱う
第8回	ジョン・ロールズとリベラリズム	リベラリズムの代表的論者であるロールズの議論を見る
第9回	ロバート・ノージックとリバタリアニズム	リバタリアニズムの代表的論者であるノージックの議論を見る
第10回	マイケル・サンデルとコミュニタリアニズム	コミュニタリアニズムの代表的論者であるサンデルの議論を見る
第11回	復習・質疑応答	全体の振り返りと質疑応答の時間を設ける
第12回	試験	筆記試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを通読しておくことが望ましい。
講義で解説するため、テキストの内容を十分に理解する必要はない。

【テキスト（教科書）】
瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)、2,800円＋税

【参考書】
平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』(有斐閣、2002年)
深田三徳/濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想(第2版)』（ミネルヴァ書房、2015年）

【成績評価の方法と基準】
試験（筆記試験）により評価する(100％)。

【学生の意見等からの気づき】
板書がよく見えるように工夫したい。

【Outline (in English)】
Philosophy of law is an academic discipline that learns the fundamental and background ideas and theories of the positive law. This lecture aims to acquire basic concepts in Philosophy of law and to be able to see the law from various viewpoints.

LAW300TB（法学 / law 300）

行政法（冬期スクーリング）

氏家　裕順

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、われわれ私人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、実質的な立法活動も行っており、私人の権利義務を一般的に規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。

行政法という科目において学習することは多岐にわたる（西田幸介『行政法』〔法政大学通信教育部、2016年〕、あるいは、通信学習「行政法」シラバスを参照のこと）が、冬期スクーリングでは、行政法の基本的事項といえるものを学習する。具体的には、行政の各種の行為の重要性を確認した後、行政による規範制定、行政行為における裁量、行政契約、行政指導について学習する。

行政の各種の行為について、従来、行政法学は、行政の無数の行為を、行政立法、行政行為、行政契約、行政指導などの各種の行為（行政の行為形式、行為形式ともいう）に分類したうえで、それらの行為の法的規制について考察してきた。その分類基準である、法行為および事実行為、権力的行為および非権力的行為の各概念は、行政法学にとって基本的なものである。

行政による規範制定とは、行政機関が規範を定立することをいい、それにより作られた規範を行政制定規範と呼ぶ。これには、法規命令（私人を法的に拘束し裁判規範となる法規範）と、行政規則（法規には当たらない、行政組織内部限りの、行政活動の基準）が含まれる。行政規則は、私人に対して事実上の影響力を及ぼすことがある（行政規則の外部化現象）。

行政行為とは、行政機関が私人の権利義務その他法的地位を一方的かつ具体的に決定する行為をいう。この行政行為の法的規制に関しては、行政手続法による手続的規制などに加えて、裁量の所在と法的規制も問題となる。ここでいう裁量とは、行政行為が法令によって一義的に拘束されていないことの反面として認められる、司法審査が制限される行政機関の判断・選択の余地のことである。

行政契約とは、行政主体を一方の当事者とする契約である。これは、基本的に民事上の契約と同質のものであるが、特有の法的規制をうける。法的規制には、行政契約の内容そのものの規制のほか、行政契約の締結の過程を適正化するための手続的規制もある。行政契約の法的規制は重要なものであると考えられる。

行政指導とは、行政機関が行政目的を達成するために私人に対してそれ自体法的拘束力なく任意の協力を求めるものである。従来、これが広く用いられる一方で、私人の任意性を確保しないでされるなど、適切に行われなかったことがあり、そのためにその法的規制が必要とされるようになった。法的規制は、行政手続法などで定められている（以上について、参照、前掲・西田114頁、126頁、253頁、281頁、324頁など）。

【到達目標】

行政制定規範の意義と種類について説明することができる。
法規命令の法的規制について説明することができる。
行政規則の外部化現象について説明することができる。
行政行為における裁量に関して裁量の所在を説明することができる。
行政行為における裁量に関して裁量統制の基準を説明することができる。
行政契約の意義と分類および法的規制について説明することができる。
行政指導の意義と分類および法的規制について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式による

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	行政法学の考え方	行政の各種の行為（行政の行為形式）の重要性
第2回	行政による規範制定（1）	行政制定規範の意義と種類
第3回	行政による規範制定（2）	法規命令の法的規制
第4回	行政による規範制定（3）	行政規則の外部化現象
第5回	行政行為（1）	行政行為の意義　違法事由
第6回	行政行為（2）	裁量の所在
第7回	行政行為（3）	裁量統制の基準
第8回	行政契約（1）	意義と分類
第9回	行政契約（2）	法的規制
第10回	行政指導（1）	意義と分類
第11回	行政指導（2）	法的規制
第12回	まとめに代えて	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、行政法の法源、法律による行政の原理、行政の各種の行為（西田幸介『行政法』〔法政大学通信教育部、2016年〕では、それぞれ、11―16頁、50―59頁、104―113頁）について、必ず、自習しておくこと。また、後掲の参考書のいずれかを通読しておくことも期待されている。毎回の授業後、参考書に当たりながら、まとめ（ノート）を作成する。

予習および復習が適切かつ充分に行われるべきであるが、スクーリング期間中に時間が確保できないなどの理由で充分な復習ができない者には、しっかり予習したうえで、疑問点を、授業前後での質問を通して、あるいは、授業中に理解を深めて、解消することが求められる。

【テキスト（教科書）】

配布するレジメと資料

【参考書】

宇賀克也『行政法概説Ⅰ〔第6版〕』（有斐閣、2017年）
大橋洋一『行政法Ⅰ〔第4版〕』（有斐閣、2019年）
塩野宏『行政法Ⅰ〔第6版〕』（有斐閣、2016年）
芝池義一『行政法読本〔第4版〕』（有斐閣、2016年）
芝池義一『行政法総論講義〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年）
曽和俊文＝山田洋＝亘理格『現代行政法入門〔第4版〕』（法律文化社、2019年）
西田幸介『行政法』（法政大学通信教育部、2016年）
原田尚彦『行政法要論〔全訂第7版補訂2版〕』（学陽書房、2012年）
藤田宙靖『行政法総論』（青林書院、2013年）
室井力編『現代行政法入門（1）〔補訂版〕』（法律文化社、2005年）

【成績評価の方法と基準】

試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

事前の予習が講義内容を十分に理解するために必要不可欠なことであるといえる。

【学生が準備すべき機器他】

西田幸介『行政法』（法政大学通信教育部、2016年）を携帯することが望ましい。参照箇所を示したり記載事項を解説したりすることがあるため。

【その他の重要事項】

行政法（という科目での学習内容）を理解できていない場合には、行政救済法も理解できない。そのため、行政法を充分に学んだ後に、行政救済法を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn the fundamentals of administrative law. Specifically, after confirming importance of classifying acts performed by the executive agencies (hereinafter these acts are simply referred to as 'acts'), it focuses on (1) administrative rule-making, (2) discretion of final and unilateral acts, (3) bilateral acts, and (4) Administrative Guidance. These all studies would concern your understanding of administrative relief.

As concerns the above (1), administrative rule-making means that the executive agencies (e.g., Ministers) make norms. These norms set up by such acts are Administrative Rules. Some Administrative Rules are made with Parliament's delegation of legislative powers. They have legal effect on the individuals (such Administrative Rules are hereinafter referred to as 'Decrees'). The other Administrative Rules do not have the legal force. They contain administrative interpretation of the questionable points in statutes or administrative exercise of the discretion accorded by statutes. These non-statutory rules are made in order to ensure that the executive agencies should be work in a uniform manner (such Administrative Rules are hereinafter referred to as 'Guidelines'). But these Guidelines can have de facto effect on the individuals.

Concerning (2), those acts decide person's right, obligation and other legal status finally and unilaterally. These acts are done without its consent (in this meaning, the acts are unilateral). Performing these acts involves exercise of discretion. The thing to be studied is about where discretion exists. There is also a problem with how discretion controlled by courts.

About (3), those acts decide person's right and obligation finally, but are carried out only with its consent (in this sense, the acts are bilateral). These acts are similar to conclusion of government contract (in English legal system) in that there is the same parties concerned and in that these acts are subjected to special legal controls.

As to (4), Administrative Guidance is 'guidance, recommendations, advice, or other acts by which an Administrative Organ [see Art. 2 (v) of the Administrative procedure Act 1993 (c. 88)] may seek, within the scope of its duties or processes under its jurisdiction, certain action or inaction on the part of specified persons in order to realize administrative aims, where the acts are not Dispositions [see Art. 2 (ii) of the Act]'. The legal controls against Administrative Guidance should be taken up.

After completing this course, you should be able to:
– Explain the meaning and sorts of Administrative Rules;
– Explain legal controls of Decrees;
– Explain de facto effect of the Guidelines;
– Explain where discretion exists in doing the final and unilateral acts;
– Explain tests used by the courts against the misuse of discretion;
– Explain the meaning, sorts, and legal controls of bilateral acts; and
– Explain the meaning, sorts, and legal controls of Administrative Guidance.

LAW300TB（法学 / law 300）

国際法総論（冬期スクーリング）

田中　佐代子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法の総論分野を学ぶ。

【到達目標】
現代国際法の総論分野における基本的な概念や法制度を説明できるようになることが、最低限の到達目標である。
これに加えて、各概念・制度の歴史的展開と今日の実態を、その背景にある国際社会の構造とその変化をふまえながら深く理解することが求められる。それにより、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えるための基礎を築くことが、最終的な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
下記【授業計画】に示す項目について検討する。基本的に講義形式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	主体（1）	序説、国家
第2回	主体（2）	国際機構、私人・私的団体
第3回	国家の主権（1）	基本原則
第4回	国家の主権（2）	管轄権
第5回	国際法の存在形式（1）	条約
第6回	国際法の存在形式（2）	慣習国際法、法の一般原則
第7回	国際法の国内的実施（1）	体系的関係、国際法平面における国内法
第8回	国際法の国内的実施（2）	国内法平面における国際法
第9回	国際法の国際的実施（1）	国家責任法
第10回	国際法の国際的実施（2）	国際コントロールほか
第11回	領域	基本原則、領域権原論、裁判による領土紛争の解決
第12回	試験	試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記掲載の教科書（玉田・水島・山田『国際法』）第１章～第６章を事前に読んでおくこと。
ざっと目を通しておく程度でもかまわないが、短期集中のスクーリング授業に対応するためには、予習によって全体像を把握しておくことがきわめて重要である。

【テキスト（教科書）】
玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法』（有斐閣、2017年）
『国際条約集』（有斐閣）
教科書と条約集、いずれも必ず授業に持参すること。なお、条約集は、ここ数年のものであれば、最新年度版でなくてもよい。

【参考書】
小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選〔第2版〕』（有斐閣、2011年）
その他は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
講義の要点を記したレジュメを毎回配布するが、それに加えて受講者自身がノートをとることが重要である。

【Outline (in English)】
This course provides students with a basic understanding of public international law with reference to general topics including but not limited to: historical development of contemporary internationallegal system, sources of law, law of treaties, relationship between international and municipal law, States and its territory, diplomatic and consular relations, jurisdiction and immunity, international responsibility of States, and international organizations.

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）

日本芸能史（冬期スクーリング）

櫻井　利佳

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文化の有力な担い手であった宮廷貴族や寺社にとって、詩歌管絃は生活に分かちがたく結びついたものであり、文学や絵画に音楽場面を描いたり、音楽に着想を得た表現を修辞的に用いたりすることは、ごく自然なことでした。

ところが、現代人は伝統文化や寺社との関わりが非常に限られ、当時の様子を類推したり、表現の豊かさを実感することが困難となっています。

本講義では、平安時代から鎌倉時代にかけての文学に描かれる雅楽の場面や、『平家物語』を題材とし、文学と音楽との関係を考察しながら、同時に当時の教養人たちが親しんだ芸能の基本を学ぶことを目的とします。

本講義が扱う時代は上代から鎌倉時代前期までです。

【到達目標】

雅楽および平家語りの基礎（歴史・人・編成・楽譜・曲・伝習方法など）を理解した上で、文学と芸能との密接な関係について考察する。受講生間で学んだテーマについてディスカッションし、さらに理解を深めたり、問題意識を持つことができる。

具体例を手掛かりに、文化史、音楽史の流れを自ら構成することが出来る。

現代の伝統芸能・伝統音楽と歴史的な音楽との違いを、文学や音楽史料を通じて理解し、自らの言葉で説明することができる。

文学および音楽に関する基本的な調査力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形態。パワーポイントやDVD鑑賞、プリントによって文学・音楽史料の事例を紹介しながら、雅楽・平家語り（平曲）の基礎を学びます。毎時理解度確認のための小テスト（B6用紙１枚程度）を用いて講義のまとめを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	日本の「雅楽」―現代雅楽を知る―	ガイダンス・本講義前半の中心テーマとなる「雅楽」についての、現状と概説。
第2回	雅楽の伝来と衰退・復興	雅楽史概説。①輸入期、②最盛期、③衰退期、④復興期の４期に分けて考える。
第3回	正倉院宝物にみる上代の音楽	正倉院宝物の代表格でもある「五絃琵琶」は世界唯一の残存例である。その他豊富な正倉院の音楽史料とその背景を知る。
第4回	文学にみる平安時代の音楽①『枕草子』と『落窪物語』	平安時代の御遊や楽器等について、当時の意義や価値観を踏まえて学ぶ。
第5回	文学にみる平安時代の音楽②『源氏物語』とコト	『源氏物語』は音楽史料の宝庫である。「若菜下」の女楽の場面などに見えるコトについて学ぶ。
第6回	文学にみる平安時代の音楽③『源氏物語』と歌謡	平安時代の歌謡（催馬楽・朗詠など）について学ぶ。
第7回	文学にみる平安時代の音楽④『大鏡』と舞楽	舞楽は平安文化の最も華やかな催しであった。舞楽の実態や基礎について学ぶ。
第8回	文学にみる院政期・中世の音楽①説話文学と琵琶楽	院政期に入ると、琵琶楽が特殊な地位を獲得する。その様相を説話文学を通じて学ぶ。
第9回	文学にみる院政期・中世の音楽②説話文学と音楽	名器・秘曲・相承系図は当時の音楽家にとって最も重要であった。その様相と背景を考える。
第10回	講式、琵琶法師の登場	琵琶法師という存在について学び、語り物芸能としての平家物語について学ぶ。
第11回	語り物としての『平家物語』	譜本・節の基礎を知り、語りの効果とテキストとの関係について考える。
第12回	講義のまとめ	講義内容全体の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：事前に提示された文学作品の概要を確認し、配布されたプリントの記述内容に目を通しておく。

復習：講義後半の小テストでは、主に各講義のポイントを自ら考えて内容をまとめ、疑問点を質問する。

講義で提示された参考文献を利用し、講義内容についての理解を深めておく。

【テキスト（教科書）】

講義時にプリントを配布します。

【参考書】

福島和夫『日本音楽史叢』（和泉書院）、磯水絵『院政期音楽説話の研究』（和泉書院）、磯水絵『説話と音楽伝承』（和泉書院）ほか。
具体論については講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎時小テスト）50％・期末試験（論述式）50％

【学生の意見等からの気づき】

盛り沢山で、どれが大事なのかが掴み切れないとの指摘があります。いくつかの観点のについて、受講者自身の興味に基づいて問題意識を持ち、自主学習やディスカッション等を通じて問題に関する理解を深めてもらうことが望ましいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】

なし。強制ではありませんが、持っていれば、スマートフォン、携帯電話で検索をする時があります。

【その他の重要事項】

なし。音楽の知識や技能は必要としません。古典文学の知識や読解力は必要としません。視聴覚資料（CD・DVD）による鑑賞・解説の機会を多く設けます。

【Outline (in English)】

For court nobles and Buddhist monks in temples, who were the leading actors of Japanese culture, Shiika-kangen (Chinese poetry, Japanese poetry and music) was inextricably linked to their daily lives. So, it was natural for them to draw music scenes in literature and pictures and to use rhetorical expressions inspired by music.

However, modern people have very limited relationships with traditional culture and temples, and it is difficult to estimate the situation at that time and to realize the richness of their expression.

We shall study the relationship between literature and music, considering the scenes of playing Gagaku (confucian music) written in literature in the Heian period to the Kamakura period and the Heike-monogatari as subjects. At the same time, we shall study the basics of the Japanese Geinō (traditional performing arts) which familiar to a person of culture in those time.

The period covered by this lecture is from the Jōdai to the first half of the Kamakura period.

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）

日本文芸研究特講・言語（冬期スクーリング）

阿部　美菜子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
沖縄の古典語

【到達目標】
　沖縄の祭祀歌謡集である『おもろさうし』を読み、自ら語学的なテーマを設定し、考察する力を養う。
　また、『おもろさうし』にあらわれる「オモロ語」と本土の大和語を比較することを通して、日本語学の基礎知識を習得すると共に語学的な研究法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
　基本的に講義形式で授業を進めるが、受講生に意見を求めたり、感想を書いてもらうこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	『おもろさうし』とは	『おもろさうし』概説
第2回	沖縄語と大和語	日本語の中の沖縄語
第3回	表記・音韻	『おもろさうし』の仮名遣い、音韻
第4回	文法の基本事項（1）	動詞
第5回	文法の基本事項（2）	形容詞
第6回	対語	対語間における「沖縄語」と「大和語」
第7回	調査方法	文献や辞典類の見方
第8回	語学的研究法（1）	研究論文を読み、具体的な研究法を学ぶ
第9回	語学的研究法（2）	研究論文を読み、具体的な研究法を学ぶ
第10回	オモロ精読（1）	オモロを読む過程で、問題点を探す
第11回	オモロ精読（2）	オモロを読む過程で、問題点を探す
第12回	まとめ・試験	講義全体のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　まず、授業で配布される資料によく目を通すことを心がけてください。余力のある人は、図書館を活用し、講義中に扱った内容および、自分自身が関心を持った事柄について調査してみましょう。

【テキスト（教科書）】
　適宜、プリントを配布する。

【参考書】
　適宜、講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　平常点（20%）、試験（80%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　言語を専門としていない学生にも取り組みやすいよう、基礎力の強化を心がけた講義を行う。
　また、『おもろさうし』および琉球の世界観をイメージしやすくする為に、映像教材を取り入れるなどの工夫をしていきたい。

【Outline (in English)】
Classical language of Okinawa

LIN100TC（言語学 / Linguistics 100）

日本言語学概論（冬期スクーリング）

古牧　久典

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ことばや言語は身近なものである。この授業では、ことばを学問として扱うとはどういうことかを考える。言語学の基礎概念を概観し、言語に対する考え方を学ぶ。

【到達目標】
言語学の基礎知識を習得する。ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。その習得や理解を重ねていくことで日本語を相対化し、ことばの本質を多角的な視点から捉える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
　言語とは？ 世界に言語はいくつあるのか？ コミュニケーションとは？ ことばの意味とは？ ことばの比喩とは？ 言語音には何種類あるのか？ 同じ発音、違う発音の境界線は？ ことばと心の関係は？ 単語とは？ 文法とは？ こうした疑問に、日本語ということばを相対化し、言語に対する考え方を学ぶ。
　授業はスライドと配布資料を用いて、講義形式で進める。同時に、質疑やリアクションペーパーなどを通して、受講者と意見を交わしながら行うこととする。なお、昨年の同科目の冬期スクーリングで詳しく扱うことができなかったテーマを優先するが、最初に基本事項を確認するので本年度からの受講も可能である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ことばの科学	言語学
第2回	コミュニケーションとことば	コミュニケーション論・語用論
第3回	ことばの意味と比喩	意味論／比喩論
第4回	ことばの音	音声学
第5回	ことばの音の構成	音韻論
第6回	ことばの習得	心理言語学（プラトンの問題）
第7回	ことばの産出と理解	心理言語学（デカルトの問題）
第8回	単語の構成	形態論
第9回	ことばの文法	文法論
第10回	ヒトと世界のことば	普遍性と相対性
第11回	ことばの認識	認知言語学
第12回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予備知識は必要としない。日頃からことばに興味を持つことを心がけ、スクーリング期間中は、毎回受講後に、授業内で扱った用語や概念をよく復習し、説明できるようにする。配布資料から授業内容をまとめたノートを作成していくとよいだろう。

【テキスト（教科書）】
配布資料。（講義内で適時紹介する。）

【参考書】
黒田 龍之助 著 (2004) 『はじめての言語学』（講談社現代新書） 講談社. ￥740 [税別]
佐久間 淳一 著 (2013)『フシギなくらい見えてくる！ 本当にわかる言語学』 日本実業出版社. ￥1,600 [税別]

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（30%）、定期試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】
スクーリング受講者による授業内容の感想を紹介することで、自分以外の受講者がどのように考えているのかを知れたことが有益であったという意見がありました。このような自宅教材学習では困難な、スクーリングでしか得られない知見を今年度も大切にしたいと考えています。

【Outline (in English)】
This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. The aim of this class is to help students learn the methodology of linguistics and related fields. The goal is to introduce students to different perspectives in the areas of approaches to language.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講・児童文芸（冬期スクーリング）

藤田　のぼる

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・日本の現代児童文学(概ね1960年代以降)の作品を、様々な角度から紹介します。
・日本の児童文学作品の題材的、方法的な広がりや特徴について学びながら、児童文学作品に込められたメッセージや、その背景にある大人と子どもの関係性などについて考察します。

【到達目標】
・児童文学作品のジャンル、題材、テーマなどについて、理解を深める。
・児童文学の表現について着目し、児童文学の特質について理解を深める。
・実際にいくつかの作品を読み、自分なりの感想を述べたり、書いたりする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
全12回を大まかに三つに区切り、最初の4回は、冒頭の序論的な話と共に、作品の主な舞台、背景から作品を論じていく。次の4回は、児童文学の代表的なジャンルであるファンタジーについて、その方法という側面から作品を紹介する。次の4回は最後のまとめ、レポート執筆を含め、児童文学が抱えるテーマという側面から作品を論じていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	講義を始めるに当たって	・児童文学のジャンル ・日本の児童文学の時代区分
第2回	児童文学に描かれた子ども１～学校の中の子ども	学校、教室を主な舞台にした作品を読む。「先生のつうしんぼ」「ふりむいた友だち」「ユウキ」
第3回	児童文学に描かれた子ども２～家族の中の子ども	家族の中の子どもを描いた作品を読む。「パパさんの庭」「ママの黄色い子象」「ミラクル・ファミリー」
第4回	児童文学に描かれた子ども３～社会の中の子ども	現実社会のさまざまな問題との関りの中で描かれた作品を読む。「いっぽんの鉛筆のむこうに」「うわさのズッコケ株式会社」「希望の牧場」
第5回	ファンタジーの方法１～向こう側の世界に	ファンタジーの主なパターンを紹介し、異世界型のファンタジー作品を読む。「りんご畑の特別列車」「屋根裏の遠い旅」
第6回	ファンタジーの方法２～この世界のどこかに	エブリディ・マジックのふんたじー作品を読む。「ふたりのイーダ」「もしもしきつねくまぞうです」「雨やどりはすべり台の下で」
第7回	ファンタジーの方法３～まるごとの異世界	ハイ・ファンタジーの作品を読む。「空色勾玉」「精霊の守り人」
第8回	ファンタジーという方法	アニメ「となりのトトロ」を通じて、ファンタジーの特質を考える。
第9回	テーマに挑む１～「生」と「死」をめぐって	「死」と向き合う子どもの姿を描いた作品を読む。「夏の庭」「小さいベッド」
第10回	テーマに挑む２～「愛」について	児童文学に描かれた「(恋)愛」について考える。「100万回生きたねこ」「だれかを好きになった日に読む本」
第11回	テーマに挑む３～「特別」の人たち	障害者(児)を描いた作品を読む。「雨のにおい星の声」「だれも知らない」「口で歩く」
第12回	まとめ「児童文学という表現」。レポート執筆。	レポートは、自身の子ども時代の読書体験と講義で紹介された作品を重ねながら、児童文学の意義について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で紹介される作品を、可能な範囲で読んでください。

【テキスト（教科書）】
テキストはなし。授業で、適宜プリントを配布。

【参考書】
『児童文学への3つの質問』(藤田のぼる、てらいんく)『少年少女の名作案内　日本の文学』(ファンタジー編とリアリズム編の２冊、自由国民社)　『「場所」から読み解く世界児童文学事典』(原書房)

【成績評価の方法と基準】
最終授業で書いてもらうレポート「わたしの読書体験と児童文学」が80%で、それまでの授業時の感想用紙を20%とする。レポートは、論旨が明快であるかどうか、考察が自分のものになっているかどうかが評価される。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の講義がなかったため、特になし。

【Outline (in English)】
This course will introduce literary works of Japanese literature for children.
This course will consider about the attitude toward children in Japan through Japanese litarature for children.

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

論文作成基礎講座Ⅰ（冬期スクーリング）

山口　恭子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リポートや卒業論文を執筆するうえで基礎作業となる、先行研究の検索方法と文献の記述の方法について実習を通じ学ぶ。

【到達目標】
1．リポート、論文を執筆するうえで、先行研究を踏まえることの重要性について理解する。
2．インターネットを利用し、先行研究（研究書、雑誌論文）の検索方法を複数、習得する。
3．先行研究の引用方法と、研究書、雑誌論文名の記載方法を習得する。
4．大学図書館等の専門図書館の活用方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、リポートや論文を執筆するうえで、先行研究を踏まえることの重要性を講義する。つぎに、法政大学図書館の利用方法を実地で習得する。また、情報実習室において、インターネットを利用した先行研究の検索方法を実習形式で学び、あわせて、収集した文献の記載方法も実習形式で学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	リポート、卒業論文執筆に向けて（1）リポート、論文とは何か	よいリポート、論文を書くうえで大切なことは何かを考える。
第2回	リポート、卒業論文執筆に向けて（2）先行研究について	先行研究の種類（研究書、雑誌論文）について理解する。
第3回	大学図書館を利用しよう（1）ガイダンス	法政大学図書館の利用ガイダンスを受ける。
第4回	大学図書館を利用しよう（2）図書館を知ろう	ガイダンスで得た知識を生かしつつ、図書館をさらに知る。
第5回	文献検索の方法（1）―国会図書館データベース―	国会図書館データベースを中心にその利用方法を学ぶ。
第6回	文献検索の方法（2）国文学研究資料館データベース	国文学研究資料館の論文目録データベース等の利用方法を学ぶ。
第7回	文献検索の方法（3）論文を探し読むために	CiNii等の利用方法を学ぶ。
第8回	文献の記述方法	文献の引用と表記の方法を学ぶ。
第9回	文献の検索と収集（1）文献を検索してみよう	文献を検索するプロセスを実習する。
第10回	文献の検索と収集（2）検索した文献を実際に入手してみよう	検索した文献を大学図書館で入手するまでのプロセスを実習する。
第11回	課題実習（1）―テーマ設定、および文献の検索	自らテーマを設定し、文献の検索と収集を行う。
第12回	課題実習（2）先行研究一覧を作成する	課題実習（1）を踏まえ、先行研究一覧をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介したデータベースの利用方法は、自宅のパソコンでも復習し、習熟すること。

【テキスト（教科書）】
『日本文学科のしおり』

【参考書】
授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
第11・12回で行う、課題実習の完成度により成績評価を行う。配分は100％。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のみなさんの要望や習熟度にできるだけ応えるよう配慮して進めてゆきたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室でパソコンを利用して行う。

【その他の重要事項】
本講座は、原則として、パソコン（インターネット、ワープロ機能）を使用した経験のある学生を対象とする。

【Outline (in English)】
This course deals with the search method of prior research and description method of the references.
This is the basis for writing reports and graduation thesis.

HIS100TD（史学 / History 100）

日本史概説（冬期スクーリング）

古庄　浩明

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では考古学の成果から復元された日本の原始・古代社会について概観する。
受講者には当該期の大要をつかみ、考古学から見た日本の原始古代を大観してもらうことを目的とする。具体的には、人類の発生から弥生時代までと弥生時代から律令国家の成立までに分けて、二年で講義する。

【到達目標】
本年は、人類の発生からから縄文時代までを対象として概観し、考古資料から得られた情報を、どのように理論化・構成して、原始の社会像を構築していくかが理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1」「史学科：DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、配布したプリントを参照し、また、インターネットに接続して関連資料を提示しながら進める。
プリントは授業で配布するが、「古庄浩明の講義ノート」https://wacoffee.blogspot.com/
からもダウンロードできる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	日本列島への道のり	人類の出現
		人間の証明
第2回	猿人・原人	最古の人類
		狩のはじまり
第3回	旧人・新人	ネアンデルタール人
		文化のビッグバン
		出アフリカ
第4回	先土器時代	日本の化石人骨
		明石原人の今
第5回	先土器時代	岩宿遺跡の発見
第6回	先土器時代	環境の復元と人々の生活
		石器の特徴と編年
		ねつ造事件の顛末
第7回	先土器時代	先土器時代の終わり
		土器の始まり
第8回	縄文時代	縄文時代の始まり
		縄文土器の由来
		最古の土器の発見
第9回	縄文時代	時代区分と変遷
		年代測定法
第10回	縄文時代	縄文時代の生活基盤
		貝塚は縄文の宝箱
第11回	縄文時代	縄文農耕論と縄文のムラ
		流通ネットワーク
		衣服と装身
		精神文化と埋葬
第12回	縄文時代	縄文の終わり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや参考文献などを事前に読んでおくことが望ましい。「古庄浩明の講義ノート」からプリントを事前にダウンロードして予習・復習に活用することが望ましい。
「古庄浩明の講義ノート」
https://wacoffee.blogspot.com/

【テキスト（教科書）】
古庄浩明2013『「日本」のはじまり』（第2回改訂発行）和出版　3000円＋税（授業内で販売）

【参考書】
古庄浩明2012『朝日おとなの学びなおし日本史　考古学が解き明かす古代史』朝日新聞出版社　1400円＋税
教科書の参考文献欄を参照。
古庄浩明の講義ノート https://wacoffee.blogspot.com/

【成績評価の方法と基準】
平常点50％と試験50％で評価

【学生の意見等からの気づき】
資料を見ているだけでは、眠くなるという意見がありましたので、プリントを穴埋め方式にしました。授業中にプリントに加筆してください。

【その他の重要事項】
プリントを配布して授業を進めます。
プロジェクターで資料をお見せします。

【Outline (in English)】
This lecture will learn about Japan's primitive and ancient history from the archeology. The purpose of the lecture is to know when and how Japanese sosiety was created.

HIS200TD（史学 / History 200）

東洋史概説（冬期スクーリング）

宇都宮　美生

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていく。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきたい。

【到達目標】
水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1」「史学科：DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献、地図、写真、絵、表などの資料を多く用いて説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	水問題	水問題と学習の意義
第2回	河川史１	黄河
第3回	河川史２	長江
第4回	河川史３	渭水
第5回	河川史４	洛水
第6回	運河史	運河の発展
第7回	穀倉	穀物の運搬と保管
第8回	船舶史	船舶の種類と発展
第9回	水軍史	水上の軍事行動
第10回	農業史	灌漑と水車
第11回	庭園	庭園の種類と発展
第12回	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で資料、論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。また、質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

【参考書】
愛宕元・冨谷至編『中国の歴史　上・下』昭和堂、2009年改訂版
冨谷至・森田憲司編『中国の歴史　上・下』昭和堂、2016年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』講談社、2005年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(30%)と筆記試験（70%、事前に問題を知らせる）

【学生の意見等からの気づき】
この授業では自分で書くことにより、「自分のノート」を作ってもらいたいので、写真撮影を禁じる。

【学生が準備すべき機器他】
色鉛筆（あれば青色）：作業をしてもらう。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This course introduces an understanding of Chinese history in respect to various issues on water. The aim of this course is to help students acquire an importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

CUM200TD（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200）

歴史資料学（日本近世）（冬期スクーリング）

米崎　清実

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな歴史資料の中で近世の地方文書は日本各地にある文化財です。また、日本近世史を研究するうえで中心となる史料は地方文書です。しかし、和紙に墨を用いてくずし字で書かれた地方文書は、現代人には容易に読み解くことができません。本授業では、くずし字の基礎的な読解力を養成するとともに、地方文書の解読を通じて近世地方史研究の基礎的な知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】
①くずし字の読解能力を身につける。
②近世地方文書の特徴と保存の方法を覚える。
③近世地方史研究の基礎的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を併用します。配布する古文書のコピーを、まずは自力で解読に取り組みます。授業時に割り当てた学生はこれを板書し、答え合わせをしながら、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	近世の地方文書、地方文書の伝来と保存
第2回	くずし字に慣れる①	地方文書の特徴、地域史の調べ方
第3回	くずし字に慣れる②	変体かなを覚えよう
第4回	くずし字に慣れる③	くずし字辞書の引き方を覚えよう
第5回	村の概要を知る①	村明細帳を読む①
第6回	村の概要を知る②	村明細帳を読む②
第7回	村の戸口や家を知る①	宗門人別帳を読む
第8回	村の戸口や家を知る②	人別送り状を読む
第9回	村の運営を考える①	村議定を読む
第10回	村の運営を考える②	村政関係文書を読む①
第11回	村の運営を考える③	村政関係文書を読む②
第12回	まとめ	近世地域史研究の方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布された古文書のコピーを辞書を引きながら予習してください。事後には必ず復習をしてください。

【テキスト（教科書）】
なし。プリントを配布します。

【参考書】
くずし字の辞書。授業では、『近世古文書解読辞典』（柏書房）にもとづいて解説します。今後も近世史を学びたいと考える受講者、日本近世史で卒論を書きたいと考える受講者には『くずし字用例辞典』（東京堂出版）を推薦します。辞書は毎回持参してください。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（９０％）、平常点（１０％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
Historical materials of early modern local documents are cultural assets in various parts of Japan. In addition, they are important core historical materials used for researching the early modern Japanese history. However, it is difficult for people live in the present age to decipher the documents written in Kuzushi-ji (classical cursive handwriting characters) on Japanese paper using Indian ink. In this course students learn basic reading comprehension of Kuzushi-ji and acquire the knowledge of the study of early modern Japanese regional history through deciphering the local documents.

HIS200TD（史学 / History 200）

西洋史概説（冬期スクーリング）

竹下　和亮

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋は世界の様々な地域の一つであるに過ぎないが、同時に、いま私たちが生きる世界の形成にあたって極めて大きな役割を果たしてきた。本講義ではその両面をみすえた上で、とくに中世以降の西洋の歴史の流れ、基本的な歴史用語を解説する。

【到達目標】
中世後期以降の西洋の歴史に関する基礎的な知識を習得し、他の地域の歴史と比較したときの独自の特徴と、その後の世界史の形成に果たした役割を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1」「史学科：DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ヨーロッパの概要と時代区分
第2回	西洋中世世界の形成（1）	西欧諸国の成立
第3回	西洋中世世界の形成（2）	南東欧諸国の成立
第4回	宗教改革	ルターとカルヴァン
第5回	近代国家と国際関係の発生	マキアヴェッリとバリエントスの国家理性論
第6回	西洋近世世界の形成（1）	フランス絶対王政と社団的編成
第7回	西洋近世世界の形成（2）	フランス以外の西洋諸国の絶対王政と社団的編成
第8回	大西洋革命と資本主義世界の成立（1）	フランス革命の構造と展開
第9回	大西洋革命と資本主義世界の成立（2）	南北アメリカ革命の構造と展開
第10回	王朝国家から国民国家へ（1）	フランス革命後の西洋世界
第11回	王朝国家から国民国家へ（2）	近代革命の比較史
第12回	まとめ	近代世界とヨーロッパ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献が配布されたときは、事前に読んでおいてください

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）
試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】
新規担当授業のため特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This class introduces students to the political, economic, social, and intellectual trends that shaped Europe from the late medieval period to the modern age.

ART300TD（芸術学 / Art studies 300）

東洋美術史（冬期スクーリング）

久野　美樹

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド、中国の仏教美術を通して両国の文化を学びます。

【到達目標】
仏教、仏教美術の基本を習得すると共に、インド、中国の仏教美術という物質文化を視覚的、思想史的に学ぶことで、現在の両国の人々の考え方の理解につなげることができます。また日本文化がインド、中国からいかに影響を受けているかを知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半にプリントを使用しその授業時間のテーマについて話し、後半にスライドを使用し学んだ内容を復習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	仏教と仏教美術の基本	仏伝美術、上座部と大乗
第2回	仏像出現の前と後	B.C.3c～.A.D.2c.の北西インド
第3回	大乗の仏像の誕生	如来、弥勒と観音、三尊像
第4回	インドの石窟美術	インドの絵画と彫刻
第5回	古代中国の死生観	漢・三国の出土物と壁画
第6回	敦煌の美術：北魏	北魏の美術と思想
第7回	雲岡石窟	雲岡石窟の美術
第8回	龍門石窟北魏窟	北魏龍門石窟の美術
第9回	敦煌の美術：西魏	莫高窟第285窟にみる中国人の精神世界
第10回	敦煌の美術：唐	阿弥陀信仰美術、日本への影響
第11回	唐代龍門石窟	唐龍門石窟と日本への影響
第12回	テスト	11回分の授業内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
物質文化の学習は本物を観ることが第一の作業として挙げられます。東京国立博物館東洋館などを見学するようにします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。各回でプリントを配ります。

【参考書】
『世界美術大全集　東洋編』全17巻　小学館　1997～2001、『中国の美術』昭和堂　2003、『東洋美術史』武蔵野美術大学出版会　2016、『増補新訂　カラー版東洋美術史』美術出版社　2012、『すぐわかる東洋の美術』東京美術　2012、『アジア仏教美術論集』全12巻　中央公論美術出版　2022年完結予定、『中国石窟　敦煌莫高窟（一～五）、雲岡石窟（一～二）、龍門石窟（一～二）』平凡社、『アジャンタ』平凡社　1971、『日本美術全集3　東大寺・正倉院と興福寺』小学館　2013

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
Buddhist Art History of Asia

HUG400TE（人文地理学 / Human geography 400）

人文地理学演習（冬期スクーリング）

中俣　均

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化地理学に関連する授業として、本年冬には、エドワード・レルフ『場所の現象学ー没場所性を越えて』を、参加者とともに講読する。「場所」概念は、現在の人文地理学における最も重要な研究対象概念の一つであり、その議論を主導してきたレルフの著書を通読しながら、「場所」とはどのようなものなのかを考えてみたい。

【到達目標】
レルフの提起した概念である「没場所性」とは何かを理解し、空間と場所への認識を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
初めにレルフという地理学者の業績について、教員から簡単に説明する。次いで受講者がテキストの各章を分担してその内容を紹介し、それに教員が解説を加える。そうしたプロセスを経て、テキストの内容について議論を交わし理解を深めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	レルフと人文主義地理学	テキストとその著者についての紹介と、同書の学説史的位置づけ
第2回	第1章　場所および地理学の現象学的理解	テキストの内容の報告と議論
第3回	第2章　空間と場所　その１	テキストの内容の報告と議論
第4回	第2章　空間と場所　その２	テキストの内容の報告と議論
第5回	第3章　場所の本質	テキストの内容の報告と議論
第6回	第4章　場所のアイデンティティ	テキストの内容の報告と議論
第7回	第5章　場所のセンスと本物の場所づくり	テキストの内容の報告と議論
第8回	第6章　没場所性　その１	テキストの内容の報告と議論
第9回	第6章　没場所性　その２	テキストの内容の報告と議論
第10回	第7章　現代の景観経験	テキストの内容の報告と議論
第11回	第8章　場所のゆくえ	テキストの内容の報告と議論
第12回	エピローグ　総まとめ	テキストの全体を振り返って著者の主張を整理し、まとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講までにテキストを入手し全体に目を通しておいてほしい

【テキスト（教科書）】
エドワード・レルフ著/高野岳彦・阿部隆・石山美也子訳（1993）『場所の現象学ー没場所性を越えて』　ちくま学芸文庫　￥1200＋税

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
最終日に提出してもらうミニレポート（40％）と、毎回の報告内容および議論への参画状況（60％）によって、成績を評価する

【学生の意見等からの気づき】
テキストが翻訳書である（訳としては悪くない）ために、すぐには理解しにくい面もあるかもしれないが、なるべくわかりやすいように身近な実例を数多く交えて説明する

【学生が準備すべき機器他】
特にはない。なお報告の際には各自でパワーポイントを利用するなどの工夫をしてもよい

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
"Place" is one of the most important ideas and objects of contemporary Human Geography.　E.Relph, a Canadian Cultural Geographer,who is the auther of " Place and Placelessness", have been the front runner of this new direction.　In this seminor, by reading his book translated in Japanese,
we should examine and appreciate his famous notion, "Placelessness".

GEO400TE（地理学 / Geography 400）

自然地理学演習（冬期スクーリング）

前杢　英明

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は自然地理学のうち「地形」を中心とした内容であるが、第四紀学、自然災害科学、および人類文明環境史など、自然地理学が関係する周辺諸科学の領域についても自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】
自然地理学諸分野およびその関連分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は課題図書を決めてそれを分担して読み込み、レジュメやPowerPoint等を使って発表する形式をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の運営方法、発表の方法,発表の順序などを決める
第2回	教員研究紹介	教員が行っている研究のダイジェストで紹介する
第3回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第4回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第5回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第6回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第7回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第8回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第9回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第10回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第11回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第12回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表準備、プレゼンの工夫など、関連ビジネス書なども参考にする。

【テキスト（教科書）】
今年度は杵島・松本・左巻著「新しい高校地学の教科書」ブルーバックス（講談社）、1150円（税別）を分担して読む。いつ発表が当たってもよいように、事前に購入するか図書館等で借りてすべて読んでおくこと。

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表80%、議論への積極的参加20%。基本的に全回出席が原則。欠席等は通信教育課程の規定にそって判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This class aims to discuss on several issues of Physical Geography.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

現地研究（冬期スクーリング）

中川　秀一

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群前半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
房総半島をフィールドとし、地域の産業と暮らしの変貌を視察し、農村空間の商品化について考える。東京の近郊にあるものの通勤圏には含まれない外房地域では、日帰りから短期滞在型の観光地として、さらにはライフスタイル型の移住者のみられる地域として発展してきた。房総半島の自然環境を主として地形を中心に観察し、その自然環境および田園景観を活かした観光事業について聞き取り調査を行い、景観の商品化による地域の変貌を理解する。

【到達目標】
大都市圏外縁部の農山村の実態に触れながら、地域が景観や生活そのものを商品化している様子を観察し、そのことによる観光事業の展開、さらには移住者、後継者の役割などを考える。縮小社会といわれれる中で地域は困難にどのように向き合い、また打開しようとしているのかを、地域の状況の観察と地域の人たちとの対話（聞き取り）によって理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
現地でのフィールドワークとディスカッションを繰り返しながら進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の主旨と概要の説明
第2回	地方鉄道沿線からの観察１	小湊鉄道からの車窓風景観察
第3回	事業者の取り組みを学ぶ１	小湊鉄道事業者への聞き取り
第4回	地方鉄道沿線からの観察２	いすみ鉄道からの車窓風景観察
第5回	事業者の取り組みを学ぶ２	いすみ鉄道事業者への聞き取り
第6回	房総半島の産業を学ぶ：水産業	銚子漁港観察
第7回	房総半島の産業を学ぶ：醸造業	ヤマサ醤油工場見学
第8回	海岸の自然環境の観察	九十九里浜の景観観察
第9回	海岸の自然環境の活用：観光と移住	九十九里浜観光協会聞き取り
第10回	房総半島の産業を学ぶ：伝統工芸	萬祝染（大漁旗）　見学・体験
第11回	棚田の保全と景観の活用	大山千枚田見学　NPO団体聞き取り
第12回	ディスカッション	現地調査のまとめとレポート課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に資料を配布しますので、目を通しておくこと。それ以外にも訪問地域に関する情報を調べておくとよい。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】
現地調査およびディスカッションへの参加（50％）、レポート課題（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
事前に資料等の情報提示を行うことによって受講生の事前準備も異なる。早めの情報提示を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子メールで資料の受け渡しが可能なように、PCのメールアドレスを準備して置くこと。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
Excursion and Field work survey in Bousou Peninsula.We will learn about the local industries and their lives,especially the life style migration and the commodification of rural space.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

現地研究（冬期スクーリング）

羽佐田　紘大

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群前半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
名古屋市とその周辺地域を事例に、丘陵・台地・低地の自然環境を理解するとともに、人間活動との関係を考えていく。

【到達目標】
1）名古屋東部の丘陵や名古屋中心部の台地、周辺の低地の特色を理解できる。
2）地域の産業や歴史を把握した上で、自然環境と人々とのかかわりを考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、終日屋外で実施する（一部屋内施設を利用する）。
行程（予定）は以下の通りである。
1日目：現地集合。尾張丘陵やその周辺を見学し、自然環境や産業について把握する。
2日目：名古屋市内（主に熱田台地）の自然環境を観察し、都市の成り立ちについて考える。
3日目：名古屋北西部の自然環境と歴史を学ぶ。現地解散。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
名古屋市およびその周辺地域の自然環境（地形・地質・植生など）や産業・歴史について事前に予備知識を得ておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
全日程の出席が成績評価の前提である。
授業への積極的な姿勢（50%）および事後レポート（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
屋外のみではなく、屋内施設の活用にも努めます。

【その他の重要事項】
野外活動が中心となるため、防寒・防風対策を念入りにしてほしい。公共交通機関や徒歩による移動を念頭に動きやすい服装・装備で臨むこと。

実施期間：2020年1月27日（月）～29日（水）
実施場所：名古屋市およびその周辺地域（瀬戸市・清須市）
費用（宿泊費・交通費等）：30000円程度
宿泊場所：未定（名古屋市内のビジネスホテルを予定、2泊とも同じ場所）

【Outline (in English)】
This course introduces mainly the relationship between nature and humans in Nagoya City and the surrounding area.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

写真・読図演習（1）（冬期スクーリング）

宮内　崇裕

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群後半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空中写真の実体視,3D画像,地形図による地形判読および図化作業を通じて,「地形学」で学習した地形単元の特徴を理解する技術を習得する。本演習ではとくに平野地形・火山地形・変動地形・侵食地形の判読を行う。

【到達目標】
地理学の幅広い修得には，人間活動の舞台である多種多様な地形単元の実例を数多く判読・観察・議論・図化する技術の修得が必要である。本講義では，空中写真実体視の光学的理論を理解し，代表的な地形要素を一人で判読・抽出・図示することができるまでのレベルを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
空中写真のレビューと実体視理論を解説した後で，個々の地形単元ごとに判読資料を配付し，実体視を行う。実体視を通じて得られた地形イメージを地形図等へ図化表現（移写）することにより，判読実体を明確に記録し，地形形成プロセス理解へのてがかりとする。従って，各回の地形判読結果とその図示成果が習熟度の評価となるので，欠席せず毎回地形判読の作業を実施しレポートを提出することが必須である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地形判読とは：空中写真，アナグリフの作成を通じて	空中写真の歴史とそれを活用した地形判読を知る。光学的な視点から実体視の意味を理解し，アナグリフの作成法を学ぶ
第2回	平野地形1	河成段丘の判読・図化
第3回	平野地形2	沖積扇状地の判読・図化
第4回	平野地形3	河成低地の微地形判読と図化
第5回	平野地形4	海成段丘・離水海岸地形の判読と図化
第6回	平野地形5	トライ：法政大学市ヶ谷キャンパスの地形判読と図化
第7回	火山地形１	単成火山（火砕丘・溶岩ドーム・マール）の判読と図化
第8回	火山地形２	複成火山（火砕流・溶岩がつくる地形）の判読と図化
第9回	変動地形1	縦ずれ断層変位地形の判読と図化
第10回	変動地形2	横ずれ断層変位地形の判読と図化
第11回	変動地形3	地震性隆起海岸地形の判読と図化
第12回	地すべり地形	マスウエイスティングの代表である地すべり地形の判読と図化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記参考書において，各回に該当する地形判読項目について読んでおく。また毎回の授業時の実習内容は，判読図として授業終了時に提出すること。

【テキスト（教科書）】
その都度必要な資料を配付する。

【参考書】
貝塚ほか編「写真と図で見る地形学」，東京大学出版会.
東京地図研究社「東京の凹凸地図」，技術評論社.
(財)日本地図センター「空中写真の知識」，日本地図センター.

【成績評価の方法と基準】
毎回配布される地形図に，判読結果を図化し，地形学図を作成する。その成果内容（100％）によって評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
Windows-PCを用いて，誰でも平易に判読・図化できる教材とする

【学生が準備すべき機器他】
USBメモリ（容量1GB），フリクションペン（0.5mm、赤青１本ずつ），12色色鉛筆セット

【Outline (in English)】
This class aims to learn the technigue of reading and mapping on representative geomorphic units, using stereoscopic airphotographs, anaglyph and topographic maps. Landform units for reading exercise are components of plain, volcano, tectonic and gravitational origins.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

測量学及び測量実習（2）（冬期スクーリング）

豊田　友夫

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群後半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎的な理論を学ぶとともに、実習を行うことにより測量の基礎的技術の習得を目指す。特にトータルステーションを用いた基準点測量及び最新の技術であるＧＮＳＳ測量を中心に講義、実習を行う。あわせて、測量士補資格に必要な知識を習得する。

【到達目標】
測量に関する基礎的知識を習得する。基準点測量の理論を理解することにより、実習で得られたデータの計算処理を習得する。またＧＮＳＳ測量の原理と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基準点測量の方法について学び実習を行う。実習で得られた観測データに基づいて新点の座標及び標高の計算を行う。また、ＧＮＳＳ測量の原理について講義を行い簡単な実習を行う。この授業では、教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせて基準点測量の方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	基準点測量の概要	基準点測量の概要について講義を行う
第2回	基準点測量の方法	基準点測量の方法について講義を行う
第3回	基準点測量の実習１	三脚の据え方及びトータルステーションの使い方を実習する
第4回	基準点測量の実習２	トータルステーションによる角観測及び距離測定
第5回	基準点測量の実習３	トータルステーションを用いた基準点測量の方法を学習する
第6回	基準点測量の実習４	トータルステーションを用いた基準点測量を実習する
第7回	実習のデータ処理１	基準点測量のデータ処理方法について講義する
第8回	実習のデータ処理２	基準点測量実習データの処理計算について実習を行う
第9回	実習のデータ処理３	基準点測量実習データの処理方法及び測量結果の整理を実習する
第10回	ＧＮＳＳ測量１	ＧＮＳＳ測量の原理について講義する
第11回	ＧＮＳＳ測量２	ＧＮＳＳ測量方法について講義する
第12回	ＧＮＳＳ測量３	ハンディーＧＮＳＳを用いてＧＮＳＳ単独測位を体験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次の時間までに終わらせておくこと。電卓は機種によって使い方が異なるので、持参した電卓を使えるようにしておくこと。（例：sin、cos の関数）

【テキスト（教科書）】
長谷川昌弘　・　川端良和　「改訂新版　基礎測量学」　電気書院

【参考書】
書店では測量学に関する様々なテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい。
中堀義郎ほか著　「絵で見る基準点測量　第２版」日本加除出版
飯村友三郎ほか著　「公共測量教程　ＴＳ－ＧＰＳによる基準点測量　三訂版」東洋書店
国土交通省「作業規程の準則」平成 28 年 9 月 27 日更新（web版）https://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/jyunsoku/pdf/h28/H28_junsoku_honbun.pdf

【成績評価の方法と基準】
出席、授業中の行う計算・測量の成果（最終課題）、実習態度を総合して評価する。提出物の欠如４回以上（実習期間については３回以上）の欠席者には単位を与えられない。

【学生の意見等からの気づき】
地球の形状及び位置の基準といったような夏期スクーリングの内容と重複する箇所はふれる程度とする。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓及び直定規必ず持参すること。三角関数を用いた計算を行う。

【その他の重要事項】
・パワーポイントやエクセル等のマイクロソフトオフィスソフトを使用した講義となるため、ソフトが動作するＰＣ
・実習に使用するトータルステーションおよびハンディGNSSの台数は、各班（３～４人）分。三脚の数はトータルステーションの数分とする
・実習に使用する簡易反射鏡は３台

【Outline (in English)】
In this class, students will learn the basic theory of surveying, and aim to acquire basic techniques of surveying through practical training. Lectures and exercises will be conducted focusing on reference point surveying using the total station and GNSS surveying which is the latest technology.

GEO200TE（地理学 / Geography 200）

地誌学特講（冬期スクーリング）

前畑　明美

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群後半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国連海洋法条約の定義に従うと、「島」とは自然に形成され常に水に囲まれている陸地、ということになります。そこでは一体どのような一般性と地域的特性がみられるのでしょうか。本科目では、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに多くの島々を地誌的に考察し、その一般的性質や島々の多様な姿について捉えていくことを目的としています。

【到達目標】
全12回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の性質を捉えていくことを目指します。また、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうなのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」や諸要因を総合的に勘案しながら論理的に説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式ですが、プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、地誌とは	授業の概要説明、大学で学ぶ地誌
第2回	「島嶼性」と日本の島々（1）	海洋島嶼国の日本、人々の暮らしと島
第3回	「島嶼性」と日本の島々（2）	島の定義、島嶼性と島嶼ネットワーク、島嶼地理学の動向
第4回	「島嶼性」と世界の島々	チリ・イースター島とアイルランド・アラン諸島
第5回	島々の自然と人間社会（1）	島の誕生、海図とテリトリー
第6回	島々の自然と人間社会（2）	島の気候・風・水・生態と人々の対応
第7回	島々の歴史（1）	太平洋におけるバード・ラッシュと現代社会
第8回	島々の歴史（2）	沖縄の基地問題を「島の視点」から考える
第9回	島々の文化（1）	豊島の産廃問題と瀬戸内国際芸術祭
第10回	島々の文化（2）	日本初の島の雑誌『嶋』にみる島嶼観
第11回	島々の文化（3）	戦後の図書館運動と島
第12回	まとめ、試験	授業の総括、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「島」について日頃からキーワードとして留意し、ぜひ情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回プリント教材を配布します。

【参考書】
高等学校用の地図帳を持参いただくと、位置確認が容易となり役立つことと思います。参考文献は初回時をはじめ随時紹介していきますが、ぜひ授業前に、以下の文献のいずれかと、興味のもたれる一般書を1冊程度通読いただきたいと思います。
・嘉数啓『島嶼学』古今書院2019年
・スティーヴン・A.ロイル、中俣均訳『島の地理学：小さな島々の島嶼性』法政大学出版局2018年
・田辺悟『島』法政大学出版局2015年

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）・期末試験（50％）
質問やコメントなど積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
どこが重要なポイントであるのか、毎回意識しながら授業に臨むようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【Outline (in English)】
According to the United Nations Convention on the Law of the Sea, the 'island' is a piece of land formed naturally, completely surrounded by water.　What is the generality and regional characteristics of the island?　The purpose of this course is to study many islands based on maps, charts, statistics, videos, photographs, and various other materials, and to grasp their general nature and the diversity of islands.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（冬期スクーリング）

池上　宗信

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
途上国貧困家計の栄養、健康、教育という人的資本への投資に関する選択を学びます。さらに、その選択を理解するのに有用な時間的不整合の理論モデル、ランダム化比較試験、差の差の分析、操作変数法などの実証分析手法を並行して学びます。

【到達目標】
開発途上国の貧困家計にとって重要な栄養、健康、教育という経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心になりますが、授業中に学生に演習問題を解いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	栄養	貧困家計の栄養に関する選択
第2回	ランダム化比較試験	因果関係、第3の要因
第3回	健康	貧困家計の健康に関する選択
第4回	時間的不整合	時間不整合の理論モデル
第5回	時間的不整合2	コミットメントとあと押し
第6回	中間試験	前回までの内容を復習。試験。
第7回	差の差の分析	パラレル・トレンドの仮定
第8回	健康2	マラリアが貧困に与える影響
第9回	操作変数法	内生変数、誤差項
第10回	教育	貧困家計の就学に関する選択
第11回	教育2	就学の賃金に与える効果
第12回	最終試験	前回までの内容を復習。試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として事前に指定した箇所20ページほどを読んできてもらいたいと思います。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたくなるような授業を目指したいと思います。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しませんが、予習として読んできてもらう20ページほどの文章を事前に指定します。

【参考書】
- 池田新介(2012)「第3章　不本意な選択のメカニズム」『自滅する選択』東洋経済新報社
- ディーン・カーラン, ジェイコブ・アペル(2013)『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房
- 高野久紀(2014,2015)「実践　開発経済学　1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号
- アビジット・バナジー、エステル・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房
- 森田果(2014)「第18章 DD」『実証分析入門』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
中間試験40％、最終試験40％、平常点20％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
担当者が初めて担当する科目です。

【Outline (in English)】
We will study human capital investment decision such as nutrition, health, and schooling decision by poor households in developing countries.　We will also study theoretical model of time inconsistency and empirical methods such as randomized controlled experiment, difference in difference method, instrument variable methods, which are useful for studying the decision.

ECN100TF（経済学 / Economics 100）

社会経済学B/社会経済学Ⅱ（冬期スクーリング）

大澤　覚

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いろいろな学部生の参加を考慮して、どこかに特定する各論ではなく、社会の根幹である経済を、全体としてとりあげる。特に、２０世紀以降の経済はどういうものか、どういう問題を抱えているか、それはなぜか、という基本の方から話す。

【到達目標】
２０世紀以降の社会経済の仕組みや問題点を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3」「法律学科：DP5」「地理学科：DP1」、「経済学科：DP2」「経済学科：DP4」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
配布資料に基づいて講義形式でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	日本や世界を取り巻く社会経済状況と、経済の重要性、経済学の課題について、概観をつかむ
第2回	資本と大企業体	２０世紀以降の、資本主義（利潤第一主義）の変化と、政治・経済の変化について
第3回	資本の輸出と戦争	国内経済支配から世界経済支配へと乗り出した先進国経済について
第4回	景気循環と恐慌・戦争	1930年恐慌以後の資本主義の問題について
第5回	国民生活と財政危機	高度成長、福祉国家、大きな政府と財政危機について
第6回	第２次大戦後の諸問題	日本の公害・環境破壊問題、過疎過密問題、世界の人口・資源・食糧問題、石油危機などなどについて
第7回	インフレの加速と狂乱化	ケインズ主義の破綻と新自由主義の台頭について
第8回	国際経済の対立・激化とその原因	異常な輸出の伸長、大幅黒字、異常な円高などについて
第9回	「ゆたかな社会」と産業の変化	さまざまな問題を抱えて成立した「ゆたかな社会」の必然性について
第10回	現代の資本主義経済社会の諸問題	現代をどう生きるかについて
第11回	ユートピアと社会主義	理想と現実の橋渡しの「理論」について
第12回	授業内試験	参照可（貸し借り不可。外部と交信できる機器の利用不可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし。講義に集中し、毎回の内容をできるだけ正確にまとめること。

【テキスト（教科書）】
使用しない。プリントを配布する。

【参考書】
１．増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学［新版］』（有斐閣ブックス、2600円＋税））
２．『2019年　国民春闘白書』（学習の友社、1000円＋税。＊冬スクの頃には2020年版が発行されているはずです。）

【成績評価の方法と基準】
評価方法：最終日の試験（100％）
評価基準：講義内容を理解したまとめになっていること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
１．シラバスを理解して受講のこと。
２．社会経済学Ａ／社会経済学Ｉを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】
It is our main subject to have a firm grasp of the situation of Economy after the 20th century.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（冬期スクーリング）

砂田　充

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業の経済学」を学ぶ。特に，ミクロ経済学分析の基礎概念，独占企業の行動及びマーケティング戦略としての様々な価格差別の態様について学習する。また，企業行動と政府規制の関係についても学習し，企業と政府の役割や企業の経営戦略が消費者に与える影響を学ぶ。

【到達目標】
「企業の経済学」がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また，企業が日々の活動で行っている様々なマーケティング戦略の仕組みと効果，独占企業と政府規制の関係について経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	企業と産業の経済学
第2回	経済学のための数学基礎	関数・連立方程式・微分
第3回	ミクロ経済学の基礎概念①	消費者行動と需要の価格弾力性
第4回	ミクロ経済学の基礎概念②	企業の費用構造
第5回	ミクロ経済学の基礎概念③	市場均衡と経済厚生
第6回	独占	独占企業の価格設定と非効率性
第7回	価格差別①	価格差別の手段と効果
第8回	価格差別②	市場分割
第9回	価格差別③	バンドル
第10回	価格差別④	二部料金
第11回	価格差別⑤	抱き合わせ
第12回	まとめ	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的な数学の計算については講義でも簡単に解説を行うが，高校の数学の教科書を利用する等して，各自で十分な自習を行っておくこと。また、ミクロ経済学の基礎についても自習を行っておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】
泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣，2008 年）.
小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社，2010 年）.
長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第2版）』（日本評論社，2013 年）.
丸山雅祥『経営の経済学［第3版］』（有斐閣，2017）.
Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80～90%）＋平常点（10～20%）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては，レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】
We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the following topics: demand and supply, monopoly, price discrimination. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept. Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

日本経済論B/日本経済論Ⅱ（冬期スクーリング）

福田　泰雄

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日、日本経済は3つの大きな問題に直面しています。一つは、環境問題です。温暖化、原発リスクと終わりの見えない放射能汚染、農薬汚染、廃プラごみ問題等、これらの問題にどう対処するか。二つは、日本経済の稼ぐ力の衰えです。日本の企業は新しいICTビジネスに乗り遅れ、アメリカ企業の下請け化が進んでいます。三つは、国民生活の貧困化です。当スクーリングでは、最後の三つ目の問題を扱います。私たち庶民生活の貧困化を所得分配、政策、統治システムという視点から考えます。
果たして政府は国民の生活不安、貧困拡大に対して、適切な対策・戦略を打ち出しているのであろうか。現実は、それとは逆に貧困拡大政策が展開されてきました。政策の貧困です。このことは、一つ目、二つ目の問題についても当てはまります。有効な政策を出しえない共通の原因として日本の統治、政策決定の仕組みがあります。貧困化は所得分配の問題であり、その所得分配は政策によってきまりますが、その政策を決定するのが統治システムであり、これらは三位一体の関係にあります。このことの理解をすることがスクーリングの目標です。

【到達目標】
国民生活の問題は所得・富の分配問題と表裏一体の関係にあります。その所得・富の分配がどのようにして決定されるのか、現代の日本経済・グローバル経済に即して具体的に学びます。個々のテーマについて理解を深めることがまずは目標になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「経済学科：DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
資料を配布し、講義形式で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	所得・富の格差と貧困拡大	格差拡大と貧困拡大が表裏一体の関係にあることを論じます
第2回	労働規制緩和と非正規雇用	ワーキングプアの増大
第3回	長時間労働と過労死・精神疾患	労働時間の規制―日本の「働き方改革」とEU規制
第4回	日本的経営と職場の民主主義　？	日本では職場の労働規制がなぜ働かないのか
第5回	累積する財政赤字と財政政策	財政問題の深刻化、貧困を拡大する社会保障制度「改革 」
第6回	分配構造の変化と税制改革	消費税しか選択肢はないのか？
第7回	戦後農業の自由化と農業衰退	食料自給率37％の現状とその原因、規模拡大・企業参入・農協解体で道は開けるのか？
第8回	農業の自由化・民営化と食の安全	規模拡大と効率化一辺倒の工業化農業で食糧主権、食の安全、農業の持続性は保障されるのか？
第9回	地域経済の衰退、住まいの貧困	立地規制緩和と持ち家主義政策について
第10回	政・官・財トライアングル	日本の政策決定の仕組み
第11回	日米ＦＴＡ交渉と日米安保体制	政策決定権を有しない日本
第12回	まとめ	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の講義を復習し、疑問点をまとめ次回の講義の時に質問できるようにする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
福田泰雄『コーポレート・グローバリゼーションと地域主権』（桜井書店、2010 年）、福田泰雄「TPP 協定は国民の主権、生存権を放棄する」（『経済』2016 年 10 月)、「NHK 特集：食卓のかげの星条旗」（http://www.dailymotion.com/video/x2fg9dq?GK_FACEBOOK_OG_HTML5=1）、西谷敏ほか『日本の雇用が危ない』（旬報社、2014年）、今野晴貴・藤田孝典『闘わなければ社会は壊れる』（岩波書店、2019年）

【成績評価の方法と基準】
授業で実施するアンケート（質問・講義要点理解）30％、試験70％。試験問題はあらかじめ最初の授業で指示します。その中から各自選択し、講義と自宅学習を踏まえて解答してください。ノートと配布資料は持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】
マイク音量

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
Our economic life and the issue of distribution of income and wealth are closely tied to each other.　We learn how the distribution of　income and wealth is decided, based on Japanese economy and also global economy.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（冬期スクーリング）

髙橋　美穂子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の主たる目的は，企業を分析するための方法を学ぶことにあります。企業分析の方法やアプローチは，その目的，つまり「企業の何について知りたいのか？」に応じて異なります。本講義では，定性分析（産業・事業戦略分析），会計分析，財務比率分析の内容を解説し，これらの分析枠組みに基づいて，企業の過去から現在までの経営活動の結果や特徴を把握することを目的とします。
財務比率分析では，上場企業の経営指標として近年注目されている自己資本利益率（ROE）に焦点を当てるとともに，それが注目される背景にあるROE（および株主資本コスト）と株主価値との理論的関係についても説明します。

【到達目標】
１．企業活動と会計数値，財務比率の関係が理解できる
２．ROE(自己資本利益率)の意味およびその分解内容を理解した上で，実際に計算できる
３．株主価値, ROE, 資本コストの理論的つながりが理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	イントロダクション，情報収集	経営分析の意義，重要な情報とその入手方法
2	定性分析	事業の理解，産業分析・企業戦略分析
3	会計分析（１）	企業活動と財務諸表の体系，発生主義会計の特徴
4	会計分析（２）	貸借対照表と企業の投資・財務活動
5	会計分析（３）	損益計算書と企業活動の成果
6	会計分析（４）	キャッシュ・フロー情報の意義
7	財務比率分析（１）	収益性の分析，自己資本利益率（ROE），ROE分解
8	財務比率分析（２）	利益率の分析
9	財務比率分析（３）	回転率の分析
10	ROEと株主価値	ROEと資本コスト，株主価値の関係
11	まとめ	第1回から第10回の講義内容の総括
12	期末試験	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容（特に授業中に行った財務比率など）が理解できるよう，復習をしてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。

【参考書】
桜井久勝著『財務諸表分析』，中央経済社，最新版.
ランドホルム他著，深井忠他訳『企業価値評価　evalによる財務分析と評価』，マグロウヒル・エデュケーション，2015年

【成績評価の方法と基準】
試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
計算を行う場合がありますので，授業には電卓を持参してください。

【その他の重要事項】
簿記３級程度（簿記入門）の内容は理解していることを前提に授業を進めますが，受講生からの要望があれば必要に応じて補足説明をします。分かりにくい点があれば，遠慮なく質問してください。
講義中の録音，録画は禁止します。

【関連科目】
簿記，会計学，財務会計，経営分析，経営学

【Outline (in English)】
The primary objective of this course is to prepare students to understand how to analyze and evaluate business firms. The methods and approachs used to analyze firms depend on the purpose of the analysis. In this course, Qualitative analysis, Accounting analysis, and Financial Ratio analysis will be explained to help students understand the past performance and characteristics of a firm. Theoretical relations among shareholder value, return on equity (ROE), and cost of capital will also be explained to understand how ROE impacts shareholder value.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報科学実習（1）（aコース）／コンピュータ入門（1）（aコース）（冬期スクーリング）

寺脇　由紀

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎を学び，ワープロソフトや表計算ソフトなどの情報リテラシーを習得する．学問をする上で必要となるコンピュータを使った情報整理や知識獲得を行えるように技術を醸成する．

【到達目標】
情報学の基礎知識を習得し，ワープロソフト，表計算ソフトなどをツールとして利用し，情報の整理・収集・編集・集計ができるようになることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1」「日本文学科：DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2」「地理学科：DP3」「商業学科：情報・統計学」　に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータの基本要素といった情報学の基礎知識を学び，コンピュータの基本操作を習得した上で，オフィスソフトなどを活用した情報リテラシーを習得する．
授業は講義と実習にて進める．具体的には，講義で情報学および，コンンピュータの基本操作の知識を得る．得た知識の定着を高めるため，および，理解度を確認するためにコンピュータを用いた実習を行う．また，授業内容について振り返るために，eラーニングシステムを活用したミニアンケートを適宜行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方，また，法政大学の学内で運用されているパソコンやネットワーク環境に関する説明を行う．
第2回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基本要素を学び，ハードウェア，ソフトウェア，プログラムに関して理解を深める．
第3回	オペレーティングシステム	オペレーティングシステムに関する知識を学び，本学の情報教室で採用されているWindowsの基本操作を理解する．
第4回	ワープロソフトの操作	ワープロソフトの基本操作を知り,さらには各種の編集機能を学ぶことで効果的な文書作りができるようにする．
第5回	プレゼンテーションソフトの基本操作	プレゼンテーションソフトの基本操作を学習する．
第6回	効果的なプレゼンテーションの構成	聴衆に対して効果的にプレゼンテーションを行うための構成要素について学ぶ．
第7回	表計算ソフトの基本操作	表計算ソフトの基本操作を学ぶ．
第8回	表計算ソフトにおける数式	表示形式により計算結果が異なること，相対参照,絶対参照の考え方，関数の考え方など表計算ソフトで数式を扱う上での基礎を理解する．
第9回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ．
第10回	応用的な関数およびグラフの使い方	論理関数や情報検索関数などの関数の使い方および集計した結果のグラフ化に関して学ぶ．
第11回	表計算ソフトのデータベース的な利用	表計算ソフトを用いて，データを多角的に集計・分析する方法を学ぶ．
第12回	まとめ	ワープロソフト，プレゼンテーションソフト，表計算ソフトで学んだ技術のまとめを行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容を記した資料を配布するので，復習および，授業準備を行って欲しい．

【テキスト（教科書）】
教員の作成する教材を利用する．

【参考書】
授業内さらには授業後に自主学習する際，有効な情報源となるような文献を授業内で紹介する．

【成績評価の方法と基準】
授業への参加態度 (30%) + 課題演習< 課題取り組みの態度 (20%)+課題提出 (10%) > および最終試験の点数 (40%) を合わせて評価する．

【学生の意見等からの気づき】
デモンストレーション交えながらすすめる講義に好評をいただきました．
授業中にアンケートを取り入れてみなさんの意見を伺い，多くの学生が学習したいと考える内容をていねいに解説します．
学生諸君は，皆で講義の時間を共有しているという意識をもっていただき，自身のみでなく，本授業の履修者にとって有益な時間を作ろうという気持ちをもって講義に参加していただきたい．

【学生が準備すべき機器他】
授業内に配布する教材や自身の実習データを持ち帰りたい学生は，USBメモリを持参してください．

【その他の重要事項】
コンピュータを用いた実習を伴う講義であるため，キーボード入力ができること（(1分間に100文字程度が入力できることが望ましいです)．
過年度の傾向より，学生みなさんの既存の知識の差が大きいです．このため，講義では基礎技術の説明も行います．十分な技術をお持ちの学生の方はお付き合いいただく内容が含まれますが，授業に参加していただくことが求められます（私語，頻繁に離席する，などの参加態度が著しく好ましくない場合や，授業と関係ない作業を行う，他人が作成した課題を提出するなどの講義に対する努力が認められない場合は，評価できない場合もありますので注意してください)．

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of informatics to students taking this course.
By the end of the course, students should be able to do the following:
・ Obtain basic knowledge about the informatics.
・ acquire the necessary computer skills and information literacy needed to achieve a better performance in their university studies.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（冬期スクーリング）

岸　眞理子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学特講では「経営情報論」の基礎を学びます。経営情報論は、経営の視点から、企業を中心に様々な組織の情報処理活動について、これまで培われてきた理論やモデルを学習し、これを応用し発展させると同時に、実際の組織の情報処理活動から、実践的知見を得ることで、これを一般化しようとする学問領域です。

この授業では、ICT（情報技術）環境を前提とし、組織がどのようにして有効な情報処理を行うべきなのか、また実際に行っているのかについて理解することを目的としています。

【到達目標】

経営情報論は、理論と実践とを相互作用させ、その相乗効果によってレベルアップを図っていく独特の学問領域です。

この授業では、経営情報論の基礎となる理論や概念を学び、これらを実際の企業活動の様々な事例に応用することで、どのようにして企業組織が一つの有効な情報処理システムとして機能し得るのかについて、理論から実践へと向かう領域について検討できるようになるとともに、実際の企業の優れた情報処理活動の事例を考察することによって、実践から得られた知見を理論にフィードバックし、これらを発展させていく領域にも目を向けるができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、最初にパワーポイントを使った講義を聞き、理論や概念について学習します。講義では、「テーマ」と「考察のためのポイント」が提示され、授業の全体構造を理解することができます。

その後、テーマに関連した実際の企業事例について、グループ・ディスカッションを通じて検討し、それをグループで発表していきます。これによって、理論や概念と実践との理解をより深めることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 組織と情報処理	ガイダンス 経営情報論の学問領域 経営情報論への接近方法 情報処理システムとしての組織
第2回	ディスカッション（1）	情報処理システムとしての組織の事例研究
第3回	組織と意思決定	問題解決 意思決定プロセス
第4回	ディスカッション（2）	組織と意思決定についての事例研究
第5回	ネットワークの法則	ネットワークという捉え方 ネットワーク分析
第6回	ディスカッション（3）	ネットワークの法則についての事例研究
第7回	競争戦略と情報活用	ポジショニング・ビューと資源ベースビュー 情報技術とその活用能力
第8回	ディスカッション（4）	情報技術の組織的活用についての事例研究
第9回	デジタル・メディアの活用	デジタル・メディアとアナログ・メディア メディア能力とその開発
第10回	ディスカッション（5）	デジタル・メディアの組織的活用についての事例研究
第11回	ナレッジ・マネジメント	知識の創造と活用 場の創設と共有 組織的暗黙知
第12回	総括 試験	技術と組織 学習成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、テキストの関連箇所を読み、準備すると、学習効果をより高めることができます。また、授業後には、各回の授業で提示された参考文献を参照してみると、理解をより深めることもできます。

【テキスト（教科書）】

遠山暁・村田潔・岸眞理子『経営情報論（新版補訂）』 有斐閣、2015年。

【参考書】

木嶋恭一・岸眞理子編著『経営情報学入門』放送大学教育振興会、2019年。

その他、各回の授業でテーマごとに別途、指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、試験が50％、授業参加（ディスカッションとプレゼンテーション）が50％となっています。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ディスカッションにより時間をとっています。

【関連科目】

経営戦略論、経営組織論、組織行動論など。

【Outline (in English)】

Organizations and Information Management is designed to learn the theories and models of organizations as information processing systems, apply it to practice and develop it, and at the same time obtain practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.

The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

人的資源管理論Ⅰ（冬期スクーリング）

山口　塁

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人的資源管理(Human Resource Management)は、経営学・商学のなかで、経営資源としてのヒトの管理を扱う学問分野です。本科目では、そうした人的資源管理の基礎として、①人的資源管理の基本的考え方、②人的資源管理にかかわる課題や論点、③日本企業の人的資源管理の現状や変化について学びます。人的資源管理の基礎を学ぶことで、会社や職場でのヒトの管理に関わる制度と慣行について、理解を深めることができます。

【到達目標】
人的資源管理の基礎について理解することを学習目標とします。そのための到達目標として、人的資源管理論Ⅰでは、以下の①②③を設定しました。
①人的資源管理の基本的な考え方を習得する。
②人的資源管理にかかわる論点を知る。
③日本企業における人的資源管理の現状と変化について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。レジュメ・資料をプリントとして配布し、それに沿って講義をすすめます。また、毎回の授業で10～15分の時間をとり、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーは、授業内容に関連した設題に応える形式とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	人的資源管理と労働市場
第2回	雇用管理	採用から引退まで
第3回	人事制度	職能資格制度、人事考課制度
第4回	賃金管理	賃金の決め方と賃金体系
第5回	異動と昇進の管理	人事異動と昇進・昇格
第6回	教育訓練	企業内での能力開発・教育訓練
第7回	労働時間管理	労働時間の短縮と弾力化
第8回	賃金管理	賃金の決め方とその変化
第9回	多様な正社員の管理	ダイバーシティ・マネジメントについて
第10回	正社員以外の管理	増加する非正社員と人的資源管理
第11回	労使関係管理	労働組合と労使関係
第12回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、テキストの該当する箇所を読んでおいてください。また、新聞記事に日々目を通し、仕事や雇用に関する最新の情報に触れることも大事です。復習として、関心のあるトピックを扱った個別の学術論文を探して読んでみましょう。たとえば『日本労働研究雑誌』のバックナンバーは、労働政策研究・研修機構のホームページ（　http://www.jil.go.jp/institute/zassi/　）にも掲載されており便利です。

【テキスト（教科書）】
『よくわかる 産業社会学』ミネルヴァ書房、上林千恵子編著、2012年、￥2,600+税

【参考書】
『新しい人事労務管理 第5版 (有斐閣アルマ)』有斐閣、佐藤博樹・藤村博之・八代充史著、2015年、￥2,000+税

【成績評価の方法と基準】
平常点40％、試験60％で評価します。平常点には、毎回のリアクションペーパーへの評価も含めます。試験では、①人的資源管理の基本的な考え方を理解・習得しているかだけでなく、②示されたデータから要点を読み取ることができているか、③論理的な記述をできているか、を重要な評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望には、可能な範囲で応えるようにします。意見や要望は、授業の前後に直接、あるいは毎回のリアクションペーパー上で受け付けます。

【Outline (in English)】
Human Resource Management is a branch of social science, which studies management and utilization of personnel as corporate resources.
In this class, we learn the basic elements of Hman Resource Management: the way of thinking ,the point at issue, and the present situation especially for Japanese companies.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

演習（冬期スクーリング）

洞口　治夫

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
はじめて経営学を学習しようとする学生諸君向けに、経営学への道案内をします。組織論、戦略論、国際経営、イノベーション、財務と情報といったテーマを中心に、講義、テキストの輪読、学生相互のグループワーク、ビデオの視聴、といった学習方法を総合的に組み合わせて、学習者の理解を進めていきます。「良い会社とは何か」、「組織において求められるリーダーシップとは何か」、など、テキストに記載されていない内容についても、授業内で議論をします。

【到達目標】
専門書としてのテキスト（教科書）を読み、その内容を理解し、応用問題を議論して、課題を解けるようになることを到達目標とします。授業を受講する前にテキストを購入し、読んでおくことをお薦めします。独学したのではわからない点について、授業内での質問を受け付け、理解を確実なものにすると同時に、実社会での応用課題について考えます。テキスト（教科書）を読み終えるためには、高校での国語の教材を読むのと同程度の学力を必要とします。読みにくい漢字については辞書で調べ、専門用語についてはウィキペディアなどを参照しながら意味を確認しつつ、読み進める必要があります。最終試験では参照不可で問題を解く必要がありますので、テキスト（教科書）に書かれている内容を記憶する必要があり、そのためには、独習用のノートを作成して「単語」の意味確認をしながら読み進める必要があります。期末試験では、専門用語を解説する短文を書く設問が出題されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4」「経済学科：DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の授業では３～４名のグループをつくり、授業内容をグループで確認し、与えられた課題について議論し、グループないし個人でのプレゼンテーションをしていきます。過去の勤務先、アルバイト先、サークル活動、ボランティア活動などの経験について「組織論」の事例として話し合う機会を持ちますので、授業に参加をする学生諸君は、自らの経験を学友と分かつための心の準備をして参加して下さい。テキスト（教科書）は、音読してもらいますので、自宅で読めない漢字がないように予習して参加して下さい。経営に関わるキーワードと人名を学習し、その内容理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	経営学とは何か。	授業の概要説明。科学の３類型。社会科学の分類。経済学、商学、社会学、経営学。
第2回	組織論の基礎（１）	第１章。マクロとミクロの組織論。科学的管理法。近代組織理論。
第3回	組織論の基礎（２）	第１章つづきと復習。コンティンジェンシー理論。組織間関係論。人間関係論。リーダーシップ。組織文化。
第4回	戦略論入門（１）	第２章。戦略と組織。企業ドメイン。事業ドメイン。戦略の策定。
第5回	財務と情報（１）	第７章。回収期間法。キャッシュフロー。ＮＰＶ。ＩＲＲ。
第6回	戦略論入門（２）	第２章。企業戦略。事業戦略。競争優位。経営資源。競争戦略論。資源戦略論。
第7回	組織構造	第３章。意志決定。経営管理。組織構造。職能別、事業部制、マトリックス、ネットワーク組織。日本的経営。分化と統合。コンフリクト。
第8回	組織論の発展	第５章。経営者の役割。有機的管理システム。機械的管理システム。公式化と集権化。オープンとクローズ。組織設計。イナクトメント。コア・コンピタンス。知識創造理論。
第9回	国際経営（１）	第４章。多国籍企業。海外直接投資。寡占的優位理論。ＰＬＣ理論。経営資源移動理論。内部化理論。
第10回	国際経営（２）	第４章。国際マーケティングの４類型。グローバル戦略。マルチドメスティック戦略。トランスナショナル企業。メタナショナル企業。
第11回	財務と情報（２）	第７章。資本コスト。株主資本コスト。バランスト・スコア・カード。原価管理。プロダクト管理会計。MM理論。
第12回	まとめと授業内試験。	講義のまとめ（約30分間）。授業内試験（60分間）。試験問題の配布回収（約10分弱）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、洞口治夫・行本勢基『入門経営学－はじめて学ぶ人のために－＜第２版＞』同友館、2012年、を授業参加前に一度、読んでから参加すること。また、授業時間後に、復習のために一度、読むこと。1週間の集中講義のため、わからない単語などは、授業がはじまる前に、自分のノートに単語帳を作成すること。

【テキスト（教科書）】
洞口治夫・行本勢基『入門経営学－はじめて学ぶ人のために－＜第２版＞』同友館、2012年。
（公認会計士の二次試験で出題される「経営学」の設問を解くために必要な基礎知識を解説した教科書。平成30年度の公認会計士試験「経営学」では、スパン・オブ・コントロール、分化と統合、M. ウェーバー、P. ローレンスとJ. ローシュなど、本書で解説している項目と人名が設問に登場している。）

【参考書】
洞口治夫・小池祐二編著『集中講義・高校生の経営学－経営学部の受験を迷っている人に－』文眞堂、2018年。
（英語、国語、日本史、世界史、地理、数学といった高校時代の教科やスポーツ・音楽の部活動が、経営学とどう関わるのか、身近な例をもとに説明した教科書。）
原田順子・洞口治夫編著『改訂新版　国際経営』放送大学教育振興会、2019年。
（放送大学教養学部のラジオ講座科目「国際経営」のテキスト。放送大学と法政大学通信教育部では単位互換をしています。経営学の応用として国際経営論がありますから、本講義からさらに学習を進めたい人に薦めます。）

【成績評価の方法と基準】
授業参加、授業一時限あたり2％×12回＝24％（授業参加・グループワークへの参加は加点となり、遅刻・欠席は減点となる。）
期末試験（授業内試験）76％（100点満点の試験をパーセンテージに換算する。）

【学生の意見等からの気づき】
100分授業への移行にともない、授業内でのグループワークを重視しています。見知らぬ学友と協力して授業を理解するように、コミュニケーション能力を発揮する場を提供しています。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書ないしスマホ（専門用語、企業などを調べるため）。

紙製のノートとペン（授業内の板書および講義内容のメモ、パワーポイント・スライドと同様の図を作成するため）。
可能な学生はパソコンとパワーポイントとＵＳＢ（紙に図を描いて、書画カメラで写すことも可能だが、パワーポイントを用いても良い）。

【その他の重要事項】
通信教育部のスクーリングでは、社会人を経験した学生諸君が遅刻することは稀であり、勤務経験のない学生諸君は、そうした姿勢を見習ってもらいたい。
アメリカ人の大学生は、アメリカの大学の授業内で帽子をかぶっているという誤解をしている日本人学生がいる。アメリカの著名大学の大学生は、授業内では帽子をとっている。帽子をとることで、相手に対する敬意を示す、という姿勢を示すためである。法政大学の授業でも、授業内に帽子をかぶっている学生がいるが、その誤解を解いてもらいたい。
集中講義であるために週間でのオフィスアワーを設定しないが、授業終了後のお昼休み時間中には教室内で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
We provide introductory guidance to management studies for students who are trying to learn topics on businesses for the first time. Focusing on themes such as organization theory, strategy theory, international management, innovation, finance and information, we offer comprehensive learning methods such as lecture, text reading, student group work, video viewing, etc. We will discuss the topics in the class to accelerate the understanding of the learner. Typical topics include "what is a good company?" or "what kind of leadership is needed in the organization?"

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（冬期スクーリング）

二階堂　行宣

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・このスクーリングのテーマは「日本経営史」です。
・19世紀後半～20世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取りあげながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】
・近現代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化→ビジネス・チャンスの発生→企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
・講義で学んだことを、わかりやすい日本語で、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
・配布する資料に基づき、講義形式で進めます。
・幕末維新期から解説をはじめ、明治前期→産業革命期→第一次大戦期→戦間期→戦時～戦後高度成長期、の順に取りあげる予定です。
・それぞれの時期の冒頭には、当該期の経済状況について概観します。
・その後、各時代を象徴している企業および企業家の活動事例について紹介していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
第2回	幕末維新期の経営	事例：「大店」と新興商人
第3回	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
第4回	明治前期の経営	事例：政商の活躍
第5回	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
第6回	産業革命期の経営	事例：専門経営者の台頭
第7回	両大戦間期の経営	概説：両大戦間期の経済構造変化
第8回	両大戦間期の経営	事例：都市型産業と新興財閥
第9回	戦時～戦後高度成長期の経営	概説：敗戦から高度成長へ
第10回	戦時～戦後高度成長期の経営	事例：技術開発と企業経営
第11回	講義のまとめ	近現代日本の経済発展と企業経営
第12回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・受講に際しては、各自で事前に19世紀以降の日本史の大まかな流れを確認しておいてください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。

【テキスト（教科書）】
・使用しない。

【参考書】
①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004年）
②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史［新版］』（有斐閣、2007年）
③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧　補訂版』（東京大学出版会、2010年）
④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011年）
⑤三和良一『概説日本経済史　近現代（第3版）』（東京大学出版会、2012年）
⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012年）
⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013年）
⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016年）
⑨武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019年）

【成績評価の方法と基準】
・試験（100％）
・成績評価の際は、知識の習得よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
・科目の性格上、試験問題はすべて論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。
・試験時間は90分、解答用紙のサイズは「A3」とする予定です。

【学生の意見等からの気づき】
・日本史を学習したことがない受講生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。
・ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、参考文献等による自習か、個別の質問で対応してください。

【Outline (in English)】
・Business History of Modern Japan

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（冬期スクーリング）

宮澤　信二郎

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業の経営者あるいは部門の責任者は，どのようなことに注意して，どのように行動したら良いのでしょうか。自社の製品をどのぐらい，どのように生産したら良いでしょうか。そのとき製品の価格はどうなるのでしょうか。どのような人を雇って，どのように処遇したら良いでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いでしょうか。
この授業では，ミクロ経済学の基本的な考え方を用いて上記のような問題にアプローチする，「経営の経済学」の基礎を学びます。

【到達目標】
以下の3点をこの授業の到達目標とします。1）企業の生産・販売，人事・組織，財務に関して，どのようなことに注意して，どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。2）関連する経済学の考え方，つまり，最適化，ゲーム，契約の理論に関して，その基本を押さえ，具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。3）複雑な状況の本質を押さえて，より論理的に考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学」　「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では，各テーマについて，具体的な状況の例を挙げながら，基本的な考え方を説明します。説明にあたっては，概念図や簡単なグラフなどを用い，なるべく直観的に理解できるようにします。質疑・応答の時間を十分に取り，必要に応じて，簡単な例題を出題するなどして，受講者の理解度を確認しながら進めます。受講者は，毎回，授業内容の復習をすることが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／市場均衡	授業の目的・内容・進め方などについて説明した上で，「市場均衡」の考え方について確認します。
第2回	市場構造と生産活動	完全競争と独占，そしてその間の寡占という市場構造の違いについて説明した上で，それらの市場において，企業がどのように生産量を選択するのか，その結果，市場の取引量と価格はどのようになるのかについて学びます。
第3回	労働市場と企業	労働の需要・供給と労働市場の働きについて学びます。
第4回	シグナリングと雇用	労働者の能力に関する情報の非対称性の問題について確認した上で，就職・採用活動における学歴・資格の役割について学びます。
第5回	スクリーニングと雇用	労働者の能力に関する情報の非対称性の問題を踏まえて，就職・採用活動における雇用条件の決まり方について学びます。
第6回	モラル・ハザード問題と雇用	労働者の努力に関する情報の非対称性の問題について確認した上で，報酬契約のあり方について学びます。
第7回	ホールド・アップ問題と人材・組織	契約がうまく書けないときに生じる問題について確認した上で，従業員教育や組織形態の在り方について学びます。
第8回	資本市場と企業	資金の需要・供給と市場の働きについて学びます。また，資金調達の種類と企業価値について学びます。
第9回	隠された情報と資金調達	企業の財務状況や投資プロジェクトの価値に関する情報の非対称性の問題が及ぼす影響と資金調達のあり方について学びます。
第10回	隠された行動と資金調達	企業行動に関する情報の非対称性の問題が及ぼす影響と資金調達のあり方について学びます。
第11回	その他のトピックス／まとめ	経営の経済学の内容で，ここまでで取り上げられなかったトピックスについて紹介するとともに，全体のまとめを行います。
第12回	期末試験	筆記試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業内容の復習をしてください。また，新聞を読んだり，ニュースを聞いたりする中で，この授業で扱っている内容と関連があるものを探し，当てはめて考える訓練をしてみてください。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学　ミクロ編（第三版）』東洋経済新報社（2013年）
神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社（2004年）
柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社（2000年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
過去には2014年度と2017年度に担当しましたが，そのときはやや難易度が高かったようです。
このため，理論の説明を減らし，直感的な説明を多くするような形で見直しを行いました。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
In this class, you will learn various applications of basic ideas of microeconomics on corporate management regarding (i) production and sales,(ii) personnel and organization, and (iii) corporate finance.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報科学実習（2）（bコース）／コンピュータ入門（2）（bコース）（冬期スクーリング）

児玉　靖司

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBAという）について学ぶ。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークやWordによる文書作成を行う。その後、 Excel について簡単に触れ、マクロ言語の意義を解説し、VBA の文法から応用問題について解説する。

【到達目標】
コンピュータの基礎を理解し、表計算ソフトウェア Excel について理解してマクロ言語を使いこなして応用となる処理を記述できることが目標である。問題解決のためにモデル化し適宜プログラミングできることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1」「日本文学科：DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2」「地理学科：DP3」「商業学科：情報・統計学」　に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel 全般に解説し、そのマクロ言語としてのVBA を解説する。プログラミング言語として細かな命令から比較的大きなプログラミングまで行なうことができるようにする。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークに関する話題、ワードによる簡単な文書作成を行い、変数と型から、式、文について説明し、分岐文、繰り返し文を説明する。後半には、ユーザフォームを使った簡単なアプリケーション、アルゴリズムについて説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の導入を行う。
第2回	コンピュータの仕組み	簡単にコンピュータの仕組みとネットワークについて学ぶ。
第3回	Word による文書作成	Word による簡単な文書作成について学ぶ。
第4回	表計算の基礎	Excel の入門について学ぶ。
第5回	表計算の応用	Excel の応用について学ぶ。
第6回	VBAの起動	Excel のマクロとして備わっている Visual Basic Applications の簡単な使い方について学ぶ。
第7回	変数と型	変数と型について学ぶ。
第8回	定数と演算子	定数と演算子について学ぶ。
第9回	分岐	分岐について学ぶ。
第10回	繰り返し	繰り返しについて学ぶ。
第11回	構造化プログラムラミング	構造化プログラミングの応用について学ぶ。
第12回	レポート課題	簡単な試験としてレポート課題を課す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プログラミングに関する実習なので予習、復習をすることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
Google Classroom 上に講義資料を提示するが、教科書は開講時に指定する。

【参考書】
特に専門性の高い内容については、適宜、講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）、提出されたレポート、最終試験（50%）により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
プログラミングの初学者でも理解できるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータ、プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養う。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

教職実践演習（冬期スクーリング）

遠藤　野ゆり

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業は，グループワークも加味した演習形式の集団指導と個別学生への指導とを組み合わせて構成する。
具体的には、個別的指導については，開始当初に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出してもらい，個別課題を設定する。必要に応じて中間報告を提出してもらい，講義修了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお，必要に応じて適宜，個別面談も行う。
演習形式を基本とする講義は，次の4つから構成される。
①教職のあり方や実態，法規等を理解し考える報告・討論，②模擬授業も含めた授業実践の記録の共同研究，③生徒指導に関する事例研究，④以上を踏まえて，学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。
なお，必要に応じて現職教員のレクチャーを組み入れることもある。

【到達目標】
教職科目及び関連科目の履修を踏まえ，教職を担うに相応しい知識や技能，姿勢や態度を理解し習得することを通じて，教員免許取得に求められる資質・能力を形成することが目標である。
具体的には，①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟，②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成，③子ども理解及び学級・学校の実際の理解，④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成，⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得，の５点が到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
グループワークや模擬授業を含めた演習形式で行う。初回には、あらかじめ課した課題をグループで検討し、今後の授業方針を、受講者のニーズに応じて詳細に決める。原則として全授業に出席し、討議や模擬授業に積極的に参加することが求められる。毎時授業後に簡単な課題が出るので次回までにそれを遂行したうえで臨むことが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：本講義の目標と構成	講義の目標と構成をオリエンテーションし，履修カルテや事前提出レポート等を，修正を含めて点検する。
第2回	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に，教職に就くために欠かせない力量やスキルとはなにかという観点から，教育実習を振り返る。
第3回	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性（登校指導，給食指導，身体・健康管理に関する指導，清掃指導等を含む）の理解を含み，教師の職務の全体像と労働条件を理解する。
第4回	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき，教師の権限や自由，子どもの権利を理解し，教師の専門性を向上させる制度やしくみを理解する。併せて，教師が学び続ける姿勢や取組みについても考える。
第5回	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理，学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し，また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
第6回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）：単元，目標と評価，生徒理解を重点に	6，7，8回については，担当教科・分野に関する授業記録（VTR，DVD，実践記録等）を素材に，授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら，共同で授業研究をする。
第7回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）：教材と教具，内容と構成を重点に	6，7，8回については，担当教科・分野に関する授業記録（VTR，DVD，実践記録等）を素材に，授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら，共同で授業研究をする。
第8回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）：指導方法とコミュニケーションを重点に	6，7，8回については，担当教科・分野に関する授業記録（VTR，DVD，実践記録等）を素材に，授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら，共同で授業研究をする。
第9回	生徒指導の事例研究（1）：不登校やいじめ，対人関係トラブル	9，10回については，テーマに対応する個別事例を取り上げ，その中での生徒認識や教師の指導方法を，ロールプレイなども取り入れて検討する。
第10回	生徒指導の事例研究（2）：家庭・親との対話や支援，地域・他機関との連携	9，10回については，テーマに対応する個別事例を取り上げ，その中での生徒認識や教師の指導方法を，ロールプレイなども取り入れて検討する。
第11回	学生研究成果発表とその集団検討（1）：研究対象は中学校	11，12，13回については，学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表をおこない，発表者自身の省察もふくめて集団で事実や出来事を確認し，問題点や課題を出し合い議論する。
第12回	学生研究成果発表とその集団検討（2）：研究対象は高校	11，12，13回については，学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表をおこない，発表者自身の省察もふくめて集団で事実や出来事を確認し，問題点や課題を出し合い議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回を受講する前に教育実習の振り返りをレポートでまとめてくる（教育実習日誌にまとめたレポートを中心に）。 第 5 回では教育実習期間中に実施した自分の授業に関して、授業記録（指導案、実際の進行、生徒との対応、指導教諭からの指摘）を 事前にまとめておく。第 7 回以降、自分の担当科目に関して模擬授業が実施できるように準備する。 毎日授業後に授業で学んだことをミニレポートとしてまとめ、これ を総括したものを最終レポートとして提出する。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀・遠藤野ゆり編『ベストをつくす教育実習　強みを活かし実力を伸ばす』2017・有斐閣
その他必要な文献や資料は授業内で指定，あるいは配布する。

【参考書】
文部科学白書最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
数冊の教育実践記録（講義の最初に教科ごとに適切なものを選択して指示する）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
①個別課題レポートについての評価（50％）　②演習の中で分担した報告作業に関する評価（30％）　③討論への参加やコメントペーパー提出などの平常点（20％）を目安として，総合的に評価する。なお，最終的評価については，必要に応じて個別面接を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
授業を実践的に振り返る参加型の授業を希望する声が多く、この形式を踏襲する。また実践演習の内容については事前指導の教員とも情報を共有する。

【学生が準備すべき機器他】
模擬授業担当者になった場合授業ができるように準備をしてください。

【Outline (in English)】
This Class consists of combination of group works and individual guidance.
Specifically, for individual guidance, at the beginning of the program, students will be asked to submit “Self-assessment of ability acquisition for teaching profession”and“Study chart”, and set individual tasks. If necessary, have them submit an interim report, and ask them to prepare a personal research result report at the end of the lecture. Individual interviews will also be conducted as appropriate.
The lecture based on the practice form is composed of the following four.
(1) Report and discussion to understand and understand the teaching situation and actual situation, laws, etc., (2) Collaborative research on the record of lesson practice including simulated lessons, (3) case study on student guidance, (4) simulated lessons set by students themselves Research results including
In addition, lectures of incumbent teachers may be incorporated as necessary.

教育実習事前指導（国語）（冬期スクーリング）

水野　多満司

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国語科教育実習で必要な指導技術、適切な言動及び子ども理解について検討し、参加者交互に交流する中で身につける。

【到達目標】
教材理解を進め、指導案、板書計画と技術、発問計画を自ら制作することが出来る。生徒達の人権に配慮した指導や言動が出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教材研究、指導案の作成、板書計画、発問計画の立て方の学習と教壇実習を中心に行う。子どもの現状や問題などを共有し、どう対処すべきか討議する。今年度は特に、板書練習に力を入れたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「手引き」の読み合わせ確認。講義計画の説明。 教育実習での諸注意、重要事項の確認。
第2回	使用教材の選定と各分野の指導案作りについて	評論文、物語、古典、その他の教材を示し、自ら取り組む教材を決める。その授業の進め方、指導案作成等について検討する。
第3回	教壇実習・1 学校の組織や自分の立場について学ぶ	模擬授業（板書計画と板書実習計画）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する。
第4回	教壇実習・2 教師の責務や職責について考える	模擬授業（発問と質問の適格性）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する。
第5回	教壇実習・3 他機関との連携について学ぶ	模擬授業（現国・文学的文章）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する
第6回	教壇実習・4 家庭・地域との連携を考える	模擬授業（現国・評論的文章）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する
第7回	教壇実習・5	模擬授業（現国・詩・韻文）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する
第8回	教壇実習・6	模擬授業（古典教材の重点確認）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する
第9回	教壇実習・7	模擬授業（古典・物語等）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する
第10回	教壇実習・8	模擬授業（古典・韻文・随筆等）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する
第11回	教壇実習・9	模擬授業（文法事項のおさらい）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する
第12回	講義のまとめと論作文試験	講義全般の振り返りと、教育実習での重要事項を確認し、論作文試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教育実習「手引き」を良く読んでくる。
教育実習校での打ち合わせが既にある場合（教材の指定など）は、講義前に伝えられるように、教材等を持ち込むこと。

【テキスト（教科書）】
特になし。学習プリントを配布する。
教育実習校で何か指定された物がある場合は、学生自身で持ち込む。

【参考書】
学習指導要領等。

【成績評価の方法と基準】
「当日レポート」による日々の評価と論作文試験で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。教壇実習の時間配分に配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
シラバスの各時間の分野の配置および指導については、受講生の準備教材、希望によって、調整して、講義を展開する。

【Outline (in English)】
Students get how to teaching japanese.We teach students acquire teaching-manere

SOC100TA（社会学 / Sociology 100）

社会学(「近代」とは何か)(前期メディア)

徐　玄九

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の主な目的は、「近代（Modern age）とは何か」という問いを軸に、「近代」という時代の診断に関して、これまで社会学者たちが出してきた暫定的な「答え」を参照しながら、「私と社会」の関係をいま一度反省的に見つめなおすことです。そのために必要な社会学の基本的な「ものの見方・考え方」をその概念や理論も含めて基礎から学びます。社会学の通低する問題意識に沿って、今日の私たちは「何」から「何」へ、あるいは、「どこ」から「どこ」へ変わってきたか、またそのなかで、何が省略され、何が稀少化され、何が凝縮されているのかについて学びます。これを通して、一人ひとりの時代への問題意識の「（再）発見」のきっかけを作ります。社会学は、社会変動を理解したいという願望とともに、それに対する知的対応として登場しました。私たちを取り巻き支配しているこの時代（近代あるいは現代）とはいかなる時代なのか、そしてどのような問題を抱えており、それの解決方向をいかに見出すかという関心が社会学の成立と発展に通低していた問題意識です。

【到達目標】
以下の授業計画のテーマに沿って、社会学の核心的な概念、理論などを基礎から学びます。具体的には（1）各テーマに対するさまざまな人の異なる見方、考え方を学ぶ、（2）行為、関係、意味など社会現象を記述するときに用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解する、（3）「近代」という時代の特徴の一面を理解でき、それを自分の言葉で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で行いますが、社会学の学説史や理論の羅列的な紹介よりも、ストーリー性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進めるようにします。そうすることで、「私的」な個別具体的な事柄のなかにも、社会性（歴史的、文化的な諸状況）が入り込んでいて、一見無関係のようにみえるある社会的現象が実は互いに影響しあっていることに気づき、「私と社会」の関係をより多角的に理解できるはずです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	社会学への招待：「自明なものを問う」―社会学的想像力の重要性
第2回	見えない社会を見る	目に見えない社会を見る練習をする―（E.T. Hall/E.Goffman）の「プロクセミックス」/「儀礼的無関心」の概念を学ぶ
第3回	近代と空間観の変化	テンニースのゲマインシャフトとゲゼルシャフトという社会形態の区分を中心に空間と相互行為の違いについて学ぶ
第4回	近代と時間観の変化	自然的な時間から機械的な時間の変化を歴史的に学ぶ
第5回	歴史区分としての近代	歴史区分としての「近代」とその特徴について学ぶ
第6回	社会契約論と私的所有論	近代社会理論の代表的な社会契約論と私的所有論について学ぶ
第7回	労働賛美の時代としての近代	概略的に古代から近代までの労働観の変遷を歴史的・思想的に学ぶ
第8回	逆説としての近代	理解を深めるために、「近代」への道筋をM.Weberの「近代形成論」（『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』）に即して学ぶ
第9回	規律化と臣民化としての近代	社会秩序と権力の問題をM.Foucault『監獄の誕生』に依拠して学ぶ
第10回	世俗化の時代としての近代	E.Durkheim/P.L.Bergerの「宗教論」に学びながら、社会全体の動きに大きな影響を及ぼした宗教の意味や役割、そして「世俗化」について学ぶ
第11回	ナショナリズムの時代としての近代	E.ゲルナーとB.アンダーソンの議論を中心に近代とナショナリズムの関係を学ぶ
第12回	公共性の変容としての近代	H・アレントとJ.ハバーマスの議論を手がかりにして公共性の変容について学ぶ
第13回	マニュアル化の時代としての近代	G.Ritzer『マクドナルド化する社会』を参照しながら、合理化、官僚制、などの概念について学ぶ
第14回	リスク社会としての現代	U.Beck『危険社会』に依拠しながらリスク社会としての現代社会を考える
第15回	授業内容の総括	これまでの授業内容をもう一度おさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では多くの内容を比較的短時間で扱います。よって、毎回の講義のなかで取り上げる基本的な概念について、関連する参考文献や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事です。受講生皆さんには「読書」（多読）をお薦めします。取り組もうとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要があるのです。時間とコストを惜しまず取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、配布資料に基づき講義を進めていきます。

【参考書】
必要に応じて配布または提示しますが、さしあたっては以下を参照してください。
ピーター・L. バーガー（1989）『社会学への招待』思索社。
ジグムント・バウマン（1990 = 1993）奥井智之訳『社会学の考え方――日常生活の成り立ちを探る』HBJ出版局。
見田宗介（2006）『社会学入門』岩波文庫。
市野川容孝（2006）『社会――思考のフロンティア』岩波書店。
長谷川公一他（2007）『社会学』有斐閣。
大澤真幸（2008）『不可能性の時代』岩波文庫。
日本社会学会社会学事典刊行委員会編（2010）『社会学事典』丸善。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（30％）とメディアスクーリング試験（70％）の合計点で評価します。
具体的な評価基準は、到達目標に書いてある通り「行為、関係、意味など社会現象を記述するときに用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解」しているかを合格基準とし、その上、取り上げられたテーマ（問題）に関して論理的な記述、自主的な学習の成果が認められた場合はさらに高く評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の意見のなかには、「日常生活の中で疑問に感じていたことなどが、授業の随所にあり納得した。」「理解しているつもりなのに、小テストへの反応が悪く残念であった。」とのご意見をいただきました。メディアスクーリング形式の特性上、時々の疑問をすぐに解決できないかもしれませんが、「中間レポート」の提出と合わせて文末に日頃の疑問を書いてくださるか、掲示板などを積極的に活用していただければ、担当者のできる限りにおいてお答えしていくように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
受講時の疑問などは積極的に掲示板などをご利用ください。

【Outline (in English)】
What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society. The course introduces students to classical theoretical traditions of Durkheim, Weber, and Tonnies. Our study is the basic social institutions (religion, economics, and politics), and major trends in sociology.

BIO100TA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

生物学２(講義)(前期メディア)

木原　章

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「脳は脳を理解できるか」そんなスローガンで脳科学は始まりました。人間の脳に対して、その構造的な特徴から本質に迫ろうとする神経科学的な手法と、行動の解析からその本質に迫ろうとする心理学的な方法が有りました。「脳科学」の出現によって、その境界が見えにくくなっています。本授業では、神経科学的なアプローチで人間の脳の不思議に迫ります。

【到達目標】
生物学的に見れば、脳は神経細胞の集まりです。個々の神経細胞の役割は極めて単純で、信号を伝えるかどうかを判断しているに過ぎません。そんな神経細胞が複雑なネットワークを作る事で、私達の脳が出来ています。授業を通じて、そんな脳の仕組みに興味を持って頂けることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
近年の脳科学の進歩について、生物学的（神経科学的）な側面から講義します。神経細胞の基本的しくみから、最新の脳科学の知見までをご紹介した上で、脳の持つ自己組織化のしくみ考察します。更に、脳科学の進歩が私たちの日常生活にどの様な影響を与える可能性が有るのか、考えて行きたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	脳科学の図式	現代の脳科学を取り巻く、学問領域の関係性についてご紹介します。
第2回	脳の解剖学	脳の外見から見た特徴を、歴史的な側面を交えて解説します。
第3回	神経細胞	脳神経系の基本単位である、神経細胞（ニューロン）について解説します。
第4回	神経回路	神経がつながって形成される神経回路について解説します。
第5回	シナプス	神経回路のスイッチとしてのシナプスの働きを説明します。
第6回	本能行動	神経回路が働いた結果、行動が現れます。ここでは、昆虫などが行う本能的な行動について解説します。
第7回	後天的な学習	神経回路が経験を記憶した結果、新たに環境に対応した行動をとるしくみについて解説します。
第8回	人間の記憶1	人間の記憶の種類を分類し、特に小脳における手続き記憶について解説します。
第9回	人間の記憶2	人間が経験を学ぶそのしくみについて、解説します。
第10回	脳の領域性	大脳が領域ごとに異なる働きをしている様子について解説します。
第11回	非侵襲性活動記録	大脳の活動を生きたまま記録し、脳のしくみを探る方法について解説します。
第12回	マインドリーディングとBMI	ヒトが何を考えているのか？ 脳の活動から何が判って、それどどの様に応用できるのか、解説します。
第13回	サイボーグ技術	ヒトと機械が一体化することで、新たな能力を作り出すことができるのか？ 現代のサイボーグ技術について解説します。
第14回	神経回路の自己複製能力	ミラーニューロンの発見によってわかってきた、神経回路の自己複製機能とその意味について解説します。
第15回	意識と身体	脳科学の最も難しい問題として提起される「意識」について、脳のしくみから解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞・マスコミなどを通じて報道される「脳科学」について、事前に知識の収集を行って下さい。また、授業で提起された問題について、ご自身で発展的な勉強をされることを期待しております。

【テキスト（教科書）】
指定はありません。教材として提供されるハンドアウトをテキストとしてご利用下さい。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
100% 最終リポートによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
画面のホワイトボートの板書が読めないという問題点を指摘して頂きました。
実は、板書の内容はほぼ全部教材資料に書かれていますので、読めなくても問題は有りません。もし、ペースが早くて対応できない場合は、一端再生を止めて手元資料のご確認を頂ければと思います。
収録時の授業形態について、賛否両論あるようですが、話す方としては目の前に学生さんがいた方がはるかに話しやすく，結果として判りやすいトークになっていると思っております。
内容が2012年から更新されていません。これは、メディアスクーリングのシステム上、致し方ないことですが、確かに部分更新などの努力を怠っていた感が否めません。お詫び申し上げます。とは言え、基本的な知識が大きく変わったと言う事は有りませんので、本授業で学んで頂いた内容は、現行でも十分通用する内容です。

【Outline (in English)】
Brain science is a integrated science of neurobiology, behavior science, phycology, cognitional science and many other fields. In this course, we will approach the mechanism of human brain mainly through neurobiological filed. Then finally we will discuss about the relationship between human body structure and consciousness.

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎特講(民俗学)(前期メディア)

吉成　直樹

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民俗学の目的、対象、方法などの基礎的な事柄について学んだ後に、琉球・沖縄の民俗のいくつかについて考えます。それによって本土地域とは異なるもうひとつの文化が存在することを知るとともに、みずからの文化を相対化する視点を養うことを目的とします。

【到達目標】
民俗学の基本的な考え方を具体的な事例に即して学ぶとともに（1回～5回）、琉球・沖縄の基本的な歴史を踏まえたうえで（6回～8回）、民俗について少し掘り下げながら考えていきます（9回～15回）。沖縄は日本全体のなかで、人口・面積ともわずか1パーセントにしかすぎませんが、沖縄の社会と文化の持つ重みは本土のそれと同等です。この講義では沖縄の民俗について、古い歌謡や言葉、考古学、歴史学の成果などを利用しながら考えていくことを中心的なテーマとします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。質問は歓迎します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	民俗学とは何か	民俗学の目的、対象、方法、民俗学の関連分野について
第2回	人生儀礼①　「仮親」の習俗	儀礼的に他人に親になってもらう習俗の持つ意味について
第3回	人生儀礼②　日本の葬制	葬制（葬法）とは何か、また日本におけるさまざまな葬制を支えている観念について
第4回	年中行事①　十五夜の盗み	十五夜の盗みを中心に、「盗み」をめぐるさまざまな民俗とその背景にある観念について
第5回	年中行事②　七夕の水	七夕行事の起源、また日本や中国南部にみられる七夕に汲む水には若返りの力があるとする習俗について
第6回	琉球・沖縄の歴史①　喜界島・城久遺跡群	琉球・沖縄の歴史の画期となったグスク時代（11世紀～）の開始について
第7回	琉球・沖縄の歴史②　グスク時代以前の琉球	オーストロネシア的世界について（その形成過程と地名、神話など）
第8回	琉球・沖縄の歴史③　グスク時代の琉球	グスク時代開始期から琉球国の形成までの歴史過程について
第9回	琉球・沖縄の民俗①　琉球王権と太陽の王	琉球国の国王が昇りつつある太陽と同一視されたことについて
第10回	琉球・沖縄の民俗②　御嶽とグスク	琉球・沖縄の聖地であるグスクと御嶽（うたき）について
第11回	琉球・沖縄の民俗③　海への信仰	ニライ・カナイ信仰のふたつの類型について
第12回	琉球・沖縄の民俗④　来訪神信仰	琉球弧の来訪神信仰の特徴について
第13回	琉球・沖縄の民俗⑤　オナリ神信仰	琉球弧のオナリ神信仰の特徴について
第14回	琉球・沖縄の民俗⑥　酒とシャーマン－『おもろさうし』と民俗	16～17世紀に琉球王府によって編纂された歌祭式歌謡集『おもろさうし』などから、酒を意味する言葉とシャーマンに関連する言葉に共通性があることについて
第15回	近代以降の琉球民俗研究史	近代以降の琉球民俗の研究史を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない点があれば、できるだけ適切な文献を探し、自分で調べる。また、さまざまな媒体から得られる沖縄に関する情報に関心を持つようにする。

【テキスト（教科書）】
指定はありません。

【参考書】
講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間リポートとリポート試験を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to learn folkloric basic knowledge and investigate some folkloric matters of Ryukyu Islands.

LAW300TB（法学 / law 300）

商法総則・商行為法(Ⅱ)(前期メディア)

桜沢　隆哉

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業及び企業取引における法律関係の特質と法規制の理解

【到達目標】
この講義は､全14回の講義で商取引法上の諸制度､内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし､今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力､解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。企業の制度的背景である商取引を理解することにより、会社法等の企業関係法の理解を深化させることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち､「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、商法の中で、前半の講義で扱ったテーマの知識を基にして、より実務的色彩の強い応用的なテーマを学習していくことになる。商取引法では各所に民法の特則的な規制がみられ、また、問屋・運送・保険営業などの各種の現実の商取引に関する規制もみられます。商取引の進化とともに発展・変化していく「商法」を学び、現代社会における企業・取引活動といった事象について法的な問題意識とその解釈を身に付けることを目的とします。特別な知識や能力は必要ありません。必要なのは、常に「なぜ」と考え、制度の背景事情を観察する知的好奇心と意欲であると考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	序章 ガイダンス	企業取引法（商行為法）の現状、企業取引法の体系的特色、企業取引法の基本概念
第2回	第11章-1 商事売買(1)	国内における商事売買（商人間売買)、商事売買の特色（契約の成立、目的物の受領・引渡し、代金の支払い）
第3回	第11章-2 商事売買(2)	国際売買契約（国際売買の意義、法源とルールの統一化)、定型的取引条件
第4回	第12章-1 消費者取引(1)	消費者取引の特色と法規制、消費者契約法の制定経緯、目的・範囲、消費者契約法と契約条項
第5回	第12章-2 消費者取引(2)	割賦販売法および特定商取引法の規制と仕組み、諸問題
第6回	第13章-1 金融取引(1)	商事決済制度における交互計算の意義、匿名組合の意義・機能
第7回	第13章-2 金融取引(2)	リース取引の意義・機能、リース取引における諸問題（裁判例を題材に）
第8回	第14章-1 仲介営業者(1)	企業取引の補助者としての仲介営業者、仲立人
第9回	第14章-2 仲介営業者(2)	商人による他人利用の形態と問屋・準問屋、運送取扱人の法規制とその概要
第10回	第15章-1 運送取引(1)	物品運送契約の意義・内容、物品運送契約における運送人の責任
第11回	第15章-2 運送取引(2)	運送証券、旅客運送契約、相次運送
第12回	第16章 倉庫営業	商事寄託契約の意義・分類・事業規制、寄託営業者としての倉庫業者の権利義務、倉庫証券
第13回	第17章 場屋取引	場屋営業の意義、場屋営業者の責任
第14回	第18章 保険取引	保険契約の意義・機能・類型・性質、損害保険契約、生命保険契約

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること

【テキスト（教科書）】
大塚英明・川島いづみ・中東正文『商法総則・商行為法< 有斐閣アルマ> 』（有斐閣、第2版、2008年）

【参考書】
(1) 落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法Ⅰ総則・商行為< 有斐閣Sシリーズ> 』（有斐閣、第4版、2009年）
(2) 近藤光男『商法総則・商行為法』（有斐閣、第5版補訂版、2008年）
(3) 江頭憲治郎＝山下友信編『商法（総則商行為）判例百選第5版』（別冊ジュリスト194号、有斐閣、2008年）
テキスト(教科書)は、商法総則・商行為の両分野にまたがり、基礎から応用に至るまで丁寧な説明で書かれており、初めて商法を学ぶ方々にも十分対応しているが、コンパクトに情報を伝えようとしているためか、今後の展開を考えると、その内容を文献(3)で重要判例を補う必要がある。(1)(2)は、資格試験等でよく利用されるものであり、全講義を通して体系的な整理のために利用するのが適切であると考えている。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（1回／30%）およびメディアスクーリング試験（70%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

LAW300TB（法学 / law 300）

行政法(前期メディア)

氏家　裕順

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。このため、学習者は行政法の体系や基本原理を法典を通して知ることができない。「行政法は難しい」といわれる理由の一つはこの点にあろう。行政法も、法の一種であるから、権利義務あるいは法律関係を対象とする。しかし、行政法では、民事法と異なり、権利義務の有無よりも行政の行為の適法性あるいは法的統制が問題となる。

この授業では、行政法を学ぶ土台を作るために、行政法とはどのような法なのか、行政法の基本原理、行政の組織に関する法律論の基礎的な枠組みおよび行政作用に関する法律論の基礎的な枠組みを学ぶ。

【到達目標】

①行政法とは何かを説明することができる。
②行政主体と行政機関について説明することができる。
③法律による行政の原理について説明することができる。
④法の一般原則が行政法の基本原則となるかを説明することができる。
⑤行政の各種の行為をその法的性質に応じて分類することができる。
⑥法規命令について、それを委任命令と執行命令に区別して、それぞれに必要とされる法律の委任の程度について説明することができる。
⑦行政行為の瑕疵について、無効と取消しの差異に注目して、説明することができる。
⑧行政契約がどのようして手続的に規制されているか、説明することができる。
⑨代執行の概略と要件を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的な講義形式による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	行政法の意義	行政の概念・分類 行政法の3分野
第02回	行政組織法の基礎概念(1)	行政主体と行政機関
第03回	行政組織法の基礎概念（2）	指揮監督
第04回	行政組織法の基礎概念（3）	権限の代行
第05回	法律による行政の原理（1）	意義と内容
第06回	法律による行政の原理（2）	実効性確保
第07回	法の一般原則（1）	信頼保護の原則 許認可権限の濫用
第08回	法の一般原則（2）	比例原則 平等原則
第09回	適正手続の保障（1）	意義と根拠
第10回	適正手続の保障（2）	行政手続の手法
第11回	行政の各種の行為（1）行政の行為形式	法行為と事実行為 権力的行為と非権力的行為
第12回	行政の各種の行為（2）法規命令	委任命令と執行命令
第13回	行政の各種の行為（3）行政行為	瑕疵ある行政行為
第14回	行政の各種の行為（4）行政契約	競争入札と随意契約
第15回	行政上の強制執行	代執行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

稲葉馨『行政法と市民』（2006年、放送大学教育振興会）
宇賀克也『行政法概説Ⅰ［第6版］』（2017年、有斐閣）
小早川光郎『行政法（上）』（1999年、弘文堂）
塩野宏『行政法Ⅰ行政法総論［第6版］』（2015年、有斐閣）
芝池義一『行政法読本［第4版］』（2016年、有斐閣）
高橋滋『行政法［第2版］』（2018年、弘文堂）
原田尚彦『行政法要論［全訂第7版補訂2版］』（2012年、学陽書房）
藤田宙靖『行政法総論』（2013年、青林書院）

【成績評価の方法と基準】

中間リポート（40%）とメディアスクーリング試験（60%）による。いずれにおいても、行政法の基本的な概念や法律論が適切に理解できているか、それらを具体的な問題に当てはめて考えることができるかを問うこととする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果からは、とくに改善を要すると考えられる事項はないと考えている。ただ、引き続き、授業改善に努めていきたい。

【Outline (in English)】

In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to lean meaning and substance of administrative law, to understand basic principles (and also, basic doctrines and rules; the same applies hereinafter) in administrative law, to know fundamental framework about legal considerations concerning organisation of the administrative, and to do fundamental framework about legal considerations about acts of executive agencies in administrative law.

After completing this course, you should be able to:

- Explain what administrative law means;
- Explain public entities and executive agencies;
- Explain the rule of 'the executive function bounded by legislation' (that rule is comparable though not identical idea of 'the rule of law');
- Explain whether general legal rules constitute a body of basic principles in administrative law;
- Classify acts of executive agencies into several sorts, based on their nature;
- Classify the delegated legislation (especially Orders) into Regulation or Rules and explain an ambit of an enabling Act (provision) in making those Regulation and Rules;
- Explain flaws of administrative acts, focusing on the difference between invalid acts (acts void ab initio) and voidable acts (acts with more mild defect than 'acts void ab initio' contain);
- Explain procedural restrictions of government contract; and
- Sketch out the Act on Substitute Execution by Administration 1948 (c.43) and explain requirements for substitute execution by executive agencies in the Act 1948.

LAW300TB（法学 / law 300）

労働法(働き方に関する法ルール)(前期メディア)

宮崎　由佳

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働契約のはじまりから終わりまでの法ルールとその意義などについて考察します。

【到達目標】
使用者と労働者の権利と義務を理解すること、労働条件を決定する仕組みを理解すること、および職場で起こる(起こりうる)問題に対して法的にアプローチする力(当該問題の本質を捉え、関連条文や判例によりながら解決する力)をつけることを本講義の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
現代社会において、「職業生活」は、人間の営みの大きな部分を占めており、そこでのルールがいかに決定され、また作用するのかを理解し、習得することは必要不可欠といえます。
本講義は、雇用関係を規律する法、ルールおよびその役割を概観し、また、そこで起こり得る法的問題について具体的な事例を示し、関連判例や条文等を参照しながら考察することを目的とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	労働法とは	労働法とは。なぜ労働法は必要なのか、その意義など。
第2回	採用内定・試用期間	いつから労働契約関係は始まるのか。採用内定の法的性質など。
第3回	労働時間に関する法ルール	労働時間の意義、労働時間に関する法ルールとその課題について。
第4回	労働者の安全と健康に関する法	労働者の安全と健康に関する法ルールとその課題について。
第5回	休憩・休日・休暇制度	休憩時間や休日・休暇の意義、各制度に関わる法ルールとその課題
第6回	賃金に関する法ルール	賃金の支払いや決定に関する法ルールについて。
第7回	労働条件の決定と変更	労働条件の決定の仕組みや決定・変更に関するルールについて。
第8回	人事異動のルール	配置転換・出向・転籍の意義、法ルールとその課題について。
第9回	懲戒	懲戒制度の目的や内容、懲戒権の根拠や限界など法ルールについて。
第10回	契約の終了に関する法ルール	解雇、整理解雇や退職など労働契約の終了に関する法ルールについて。
第11回	雇用平等	労働者の人権、人格権や雇用平等に関する法ルールと課題について。
第12回	非正規労働者と法	パートタイム労働者、有期契約労働者、派遣労働者など、非正規労働者に関する法ルールと課題について。
第13回	労働組合と法	労働組合とは。その目的や労働組合法上の労働組合の要件、不当労働行為制度について。
第14回	団体交渉・労働協約	団体交渉および労働協約に関する法ルールについて。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習をされた上での受講を前提としておりますので、教科書(該当テーマに限らず)及び参考資料には必ず目を通しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】
『ベーシック労働法 第 6 版』(有斐閣アルマ) 〈新版が出た場合は新版。旧版も可〉

【参考書】
法の制定・改正や判例の動向により適宜資料を配布し、内容等について紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（50点）および試験（50点）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
注目すべき法改正や判例などについて、適宜情報提供を行う。

LAW400TB（法学 / law 400）

国際法各論(国際平和の追求)(前期メディア)

岡松　暁子

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。
第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】
国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
主として国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第2回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底、海洋環境、紛争解決
第3回	極地・空域・宇宙	南極の法的地位、北極、領空、宇宙空間の利用、天体の資源開発
第4回	個人の管轄	国籍、犯罪人引渡し、国際犯罪、国際刑事裁判所
第5回	国際人権法（1）	人権保障の展開、国連による人権保障、民族自決権
第6回	国際人権法（2）	国際人権保障の困難性、履行確保、難民
第7回	国際環境法（1）	国際環境法の対象と接近方法、国際環境法の生成と発展、リオ宣言
第8回	国際環境法（2）	国際環境条約の性質、持続可能な開発、枠組条約と議定書、制度化
第9回	国際環境法（3）	手続的義務、履行確保、気候変動
第10回	国際経済法	自由貿易体制、GQTT/WTO、南北問題、貿易と環境
第11回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決、非裁判的手続
第12回	紛争の平和的解決（2）	裁判的手続の特徴、国際仲裁裁判、国際司法裁判、国際裁判機関の多元化
第13回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、国連軍、多国籍軍、平和維持活動、人道的介入
第14回	軍備管理・軍縮	武器・兵器、軍隊の変遷、冷戦と軍拡競争、核軍縮
第15回	国際人道法（武力紛争法規）	戦争の違法化と武力紛争法規、軍事目標主義、武力紛争法規の履行確保、原爆と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法［第2版］』有斐閣、2010年。
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。
どちらも新版が出た場合は新版（旧版も可）。

【参考書】
小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選［第2版］』有斐閣、2011年。

【成績評価の方法と基準】
リポート試験、中間リポート課題の総合点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
履修者は「国際法総論」を履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

LAW300TB（法学 / law 300）

保険法・海商法(Ⅰ)(前期メディア)

桜沢　隆哉

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保険契約法と海上運送・海上企業に関する基本的知識の習得

【到達目標】
この講義は、全15回の講義で保険法上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。保険法の教科書を解説するだけでは上記目標を達成することは難しいので、毎回の講義の中では具体的なケースを用いて、それを基に保険法の制度が実際にどのように運用されているのか、それは社会の実態に合致しているのか、さらにそれに問題があるとすればいかにして解決・克服すべきなのかといった観点から、保険法の諸制度と現実の社会における問題とをつなげる力の修得を目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、保険法と海上運送・海上企業組織に関する基本的知識の習得を目的とする。保険法および海商法はいずれも我々の実社会と密接に結びついた重要な法制度である。このうちで、保険法・海商法（Ⅰ）では保険法を扱い、保険法・海商法（Ⅱ）では海商法を扱う。

まず、本講義で扱う保険法についてみれば、保険制度は、われわれの日常生活における様々な危険に備えるための有用な手段として用いられているが、他方で濫用されるおそれの高い制度でもある。本講義では、保険制度が有するこれら2つの側面を意識しながら、それを法的視点から解説する。また保険法は、近年、約100年ぶりともいえる法改正および商法から単行法化がなされ、世間でも多くの注目を集めている。その新しい保険法では、消費者保護が一層重視されており、われわれ消費者側としても保険に関する適切な知識を身につけておくことが必要とされる。そこで、保険法については、実務の動向や裁判例を常に意識しながら講義を展開していきたいと考えている。

一方、保険法・海商法（Ⅱ）で扱う海商法は、船舶を手段とする海上企業・海上運送に関する法制度である。船舶は、物品の運送に関しては今日でもなお主要な地位を占めている。われわれの社会は、様々な物資によって支えられており、それは海上運送をはじめとする輸出入に依存しているところも少なくない。本講義では、海上企業の組織、その活動(海上物品運送)および海上危険について概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	保険法総論(1) − 保険制度と保険法	保険制度と保険法、保険の分類、保険法の体系
第2回	保険法総論(2)―保険契約の当事者・関係者	保険契約の意義・性質、保険契約の当事者・利害関係者
第3回	損害保険契約法・総論(1)―損害保険契約の成立―	損害保険契約の意義、損害保険契約の成立、損害保険契約と告知義務
第4回	損害保険契約法・総論(2)―損害保険契約の内容①―	損害保険契約における保険事故、保険期間、保険料の性質、損害保険契約の基本構造
第5回	損害保険契約法・総論(3)―損害保険契約の内容②―	保険金額と保険価額、全部保険と一部保険・超過保険、重複保険
第6回	損害保険契約法・総論(4)―損害保険契約の効果とその変動―	損害保険契約における保険者の権利義務、保険契約者等の権利義務、損害保険契約関係の変動
第7回	損害保険契約法・総論(5)―損害保険契約と保険給付―	損害てん補義務とその要件、保険者免責、損害発生の通知義務等、保険給付の履行、保険代位
第8回	損害保険契約法・総論(6)―損害保険契約の終了・損害保険債権の処分と保険担保―	保険契約者による保険契約の解除等、告知義務違反による保険契約の解除、危険増加による保険契約の解除、重大事由による保険契約の解除
第9回	損害保険契約法・各論(1)―火災保険契約及び責任保険契約	損害保険契約各論としての火災保険契約、責任保険契約
第10回	損害保険契約法・各論(2)―自動車保険契約及び運送保険契約	損害保険契約各論としての自動車保険（自賠責保険・任意自動車保険）
第11回	生命保険契約法(1)―生命保険契約の成立・効力―	生命保険契約の成立、保険料と保険者の責任、他人の生命の保険、保険給付請求権の消滅時効
第12回	生命保険契約法(2)―生命保険契約の給付・終了―	第三者のためにする生命保険契約、保険金受取人の指定・変更、保険金受取人の死亡、保険金受取人の介入権、生命保険契約と保険者免責
第13回	傷害疾病保険契約法(1)―傷害保険契約・疾病保険契約の意義・内容―	傷害保険契約と偶然性要件、傷害保険契約と外来性要件
第14回	傷害疾病保険契約法(2)―傷害・疾病保険契約に特有の重要問題―	疾病保険契約の意義、責任開始期前発病不担保条項、所得補償保険
第15回	保険業に対する法規制	保険事業に対する規制（保険業法の概要―保険業法の目的と保険業）、保険会社の監督と保険契約者保護、少額短期保険業者、保険募集の規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること

【テキスト（教科書）】
・山野嘉朗・山田泰彦著『現代保険・海商法30講〔第9版〕』中央経済社

【参考書】
参考書（教科書としての指定はしていないが講義の補足で使用することが学習上望ましいもの）
・山下友信・洲崎博史編『保険法判例百選』有斐閣、2010年
・六法(判例・解説付ではないもの)
（講義を聴く際には、判例・解説付でも構わないが試験等に持ち込むことが認められていないため）※メディアスクーリング試験では六法の持ち込みも不可です
▼　その他の参考文献の紹介
≪保険法・海商法の両方に関するもの≫
・山野嘉朗・山田泰彦著『現代保険・海商法30講〔第８版〕』中央経済社、2010年
・江頭憲治郎『商取引法〔第6版〕』弘文堂、2010年
≪保険法のみに関するもの≫
＊新法対応済み
・甘利公人・福田弥夫『ポイントレクチャー保険法』有斐閣、2011年
・石山卓磨編著『現代保険法〔第２版〕』成文堂、2011年
・山下友信ほか著『保険法〔第3版〕』有斐閣アルマ、2010年
・岡田豊基『現代保険法』中央経済社、2010年

・潘阿憲『保険法概説』中央経済社、2010年
＊旧商法にのみ対応
・倉沢康一郎『保険法通論』三嶺書房、1982年
・大森忠夫『保険法〔改訂版〕』有斐閣、1985年
・西島梅治『保険法〔第３版〕』悠々社、1998年
・金澤理『保険法上〔改訂版〕』成文堂、2001年
・中西正明『生命保険法入門』 有斐閣、2006年
・山下友信『保険法』有斐閣、2005年
≪海商法のみに関するもの≫
・戸田修三『海商法〔第5版〕』文眞堂、1995年
・重田晴生編著『海商法』青林書院、1994年
・中村真澄・箱井崇史『海商法』成文堂、2010年
≪判例解説等の参考書≫
・鴻常夫ほか編『商法（保険・海商）判例百選（第２版）』有斐閣、1993年
・鴻常夫ほか編『損害保険判例百選〔第２版〕』有斐閣、1996年
・鴻常夫ほか編『生命保険判例百選〔増補版〕』有斐閣、1988年
・山下友信・洲崎博史編『保険法判例百選』有斐閣、2010年
・山下友信・神田秀樹編『商法判例集〔第４版〕』有斐閣、2010年
＊判例については、上記参考文献に掲載されていない最新の判例も次々に出されている。それらは授業の中の各該当箇所で指示するが、基本的にはレジュメの中に反映させる。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（1回／30％）およびメディアスクーリング試験（70%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅱ (前期メディア)

川鍋　義一

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本近現代文学（明治20年頃～昭和40年頃）の歴史を把握する。

【到達目標】
各回の授業では、ある時代を代表する文学者の代表的な作品がいかなる事情のもとに生まれたのかを考察する（具体的には下記「授業計画」を参考にされたい）。
この方法によって、日本近代文学史の大きな流れを把握し、また日本近代文学史と歴史的、社会的背景との連関を有機的に把握できるようにする。
受講生はこの授業の履修によって、日本近代文学史という巨視的観点を習得し、個々の作家、作品についてのより深い理解を得られるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
日本近代文学史を、逍遙・二葉亭の写実主義、浪漫主義、擬古典主義、自然主義（以上明治）、私小説、白樺派、労働文学・プロレタリア文学、モダニズム文学（以上大正）、小林秀雄、転向の問題、無頼派、近代文学派／新日本文学派、第三の新人とそれ以降（以上昭和）という流れで概観していく（漱石・鴎外、芥川を、明治、大正の最後に入れる）。
各回テキストで当該箇所を学習した上で、授業に臨むことを求める。またプリントもテキストなので、全てきちんと読み、理解することを求める。（「関連リンク」にて「配付資料」をダウンロードすること）
さらにプリントにはないものでも、関連すると思われる作品は積極的に読んでほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	近代文学の始まり	・近代文学とはなにか ・写実主義とはどういうものか ・言文一致体の問題 以上を坪内逍遙『小説神髄』、二葉亭四迷『浮雲』から考察する。
第2回	浪漫主義と擬古典主義	写実主義よりやや後に展開した ・浪漫主義 ・擬古典主義 とはどういうものかを樋口一葉『たけくらべ』などと、尾崎紅葉『金色夜叉』から考察する。
第3回	自然主義	・浪漫主義から自然主義への展開 ・口語体の問題 ・私小説の始まり 以上を、国木田独歩『武蔵野』、島崎藤村『破戒』、田山花袋『蒲団』から考察する。
第4回	明治文学ふたつの孤峰（1）	文学史の流れと一定の距離を置いていた夏目漱石の生涯と作品にふれる。『こころ』を読む。
第5回	明治文学ふたつの孤峰（2）	同じく文学史の流れと一定の距離を置いていた森鴎外の生涯と作品にふれる。『舞姫』を読む。この回では日本近代文学の重要な概念である「余計者」について学ぶ。
第6回	私小説	大正文学の主流であった私小説を、葛西善蔵の代表作『子をつれて』を例に学ぶ。
第7回	白樺派	葛西善蔵とは対照的に破滅しない文学が白樺派の文学であった。武者小路実篤『友情』を読む。このグループの傾向と、大正デモクラシーの関係について学ぶ。
第8回	文学の革命	プロレタリア文学が「革命の文学」だとすれば、モダニズム文学の一つである新感覚派は「文学の革命」を志すものであった。その新しさと意義について学ぶ。横光利一『蠅』などを読む。
第9回	大正の終焉	大正文学の特異な存在であった芥川龍之介の生涯と作品にふれる。『歯車』を読む。
第10回	昭和初年の状況	昭和初年の三派鼎立の状況について学ぶ。 批評理論の確立者であった小林秀雄『様々なる意匠』を読む。
第11回	戦前から戦後へ	プロレタリア文学壊滅後の文芸復興の状況／転向の状況について学ぶ。中野重治『村の家』。戦後すぐの無頼派の活躍を学ぶ。坂口安吾『堕落論』、太宰治『人間失格』、それらと対比するために志賀直哉『灰色の月』を読む。
第12回	戦後（1）	戦後文学最初にして最大の論争であった「政治と文学」論争を学ぶ。小林多喜二『党生活者』、平野謙『政治と文学（二）』を読む。
第13回	戦後（2）	梅崎春生『桜島』、野間宏『暗い絵』、荒地派の詩を通じて、戦後文学はどのように始まったのかを学ぶ。
第14回	戦後（3）	第三の新人とそれ以降の文芸思潮はどのようなものであったのかを学ぶ。吉行淳之介『驟雨』、安岡章太郎『宿題』、三島由紀夫『憂国』、大江健三郎『不意の唖』、谷川俊太郎の詩を読む。
第15回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記【テキスト】（プリント含む）を精読すること。

【テキスト（教科書）】
奥野健男『日本文学史』（中公新書、および電子書籍kindle版）。
その他毎回使用するプリント。

【参考書】
毎回使用するプリントに記載されている参考文献。

【成績評価の方法と基準】
・中間リポートの提出を前提にメディアスクーリング試験で評価する。
・シラバスに記載されている【授業の概要と目的（何を学ぶか）】と、【到達目標】を受講前に熟読されたい。文学の歴史の流れ、およびそれと社会的背景との関連がこの授業の主要な関心事である。したがって、中間リポート、試験で、その観点を欠いた答案は評価されない。

・中間リポートで、設題に答えていない答案、引用のルールを無視した答案、何を言っているのかわからない答案、字数制限（８～１０割）を無視した答案が時折見られる。このような答案は、再提出となることがある。留意されたい。

【学生の意見等からの気づき】
中間リポートおよび試験では、しっかり設問を読み、設問に答えられたい。

【その他の重要事項】
プリントに一部しか載せられなかった長い作品も、各自入手し、全編読むことが望ましい。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help studets acquire a history of Japanese modern literature.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・近代(日本の私小説を読む)(前期メディア)

梅澤　亜由美

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【テーマ】日本独特の小説形式とされる私小説について学ぶ。
この授業では、日本の私小説について勉強します。日本の近代に、19世紀西欧小説の変形として生まれたとされる私小説は、日本独特の小説形式と考えられています。私小説についてこれまで言われてきたこと（否定的評価が多いです）を理解するとともに、実際の私小説を読んでいくことで、私小説に対する理解を深めること（文学史の定説からの解放）を目指してほしいです。

【到達目標】
具体的には、以下の３点が目標となります。
1.実際の私小説について、これまで言われてきたことを理解する。
2.授業でとりあげられた私小説を、実際に読み、自分の考えをもつ。
3.特定の作家、私小説について、これまで言われてきたことと、実際に読んでみての自分の考えをまとめて、レポートや試験などで表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
１回目にガイダンスと、これまでの私小説言説（＝私小説についてこれまでいわれてきたこと）について、説明をします。2回目から10回目までは、近代文学史における代表的な作家の私小説をとりあげます。11回めから15回めでは、戦後から現代まで、比較的新しい私小説をとりあげます。1時間に、1人の作家をとりあげ、代表的な私小説について、ポイントを説明していきます。他、授業でとりあげた作家が、作中人物として登場する私小説なども、紹介していきます(私小説を立体的に読む試み)。
これらの授業内容を理解した上で、気に入った私小説のいくつかを実際に自分で読み、これまで言われてきたこととあわせて、自分の考えをもつようにしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	私小説と私小説言説について	私小説の定義、先行研究など、基礎知識を学ぶ。
第02回	田山花袋『蒲団』	私小説の祖とされる田山花袋の『蒲団』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第03回	近松秋江『疑惑』	平野謙によって「最初の金無垢な私小説」とされた近松秋江の『疑惑』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第04回	志賀直哉『和解』	私小説を代表する作家とされる志賀直哉の『和解』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第05回	葛西善蔵『子をつれて』	破滅型の代表とされる葛西善蔵の『子をつれて』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第06回	牧野信一『父を売る子』	実験的な私小説を書いた牧野信一の『父を売る子』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第07回	嘉村礒多『崖の下』	葛西善蔵の系譜にある嘉村礒多の崖の下』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第08回	小林多喜二『党生活者』	プロレタリア文学と私小説として、小林多喜二の『党生活者』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第09回	中野重治『村の家』	転向文学の代表とされる中野重治の『村の家』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第10回	徳田秋声『仮装人物』	私小説の一つの達成とも言える徳田秋声の『仮装人物』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第11回	島尾敏雄『出発は遂に訪れず』	戦後派の私小説として島尾敏雄の『出発は遂に訪れず』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第12回	太宰治『人間失格』	私小説批判の私小説を書いた太宰治の『人間失格』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第13回	安岡章太郎『悪い仲間』	第三の新人の私小説として安岡章太郎の『悪い仲間』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第14回	李良枝『ナビ・タリョン』	「在日」作家であり日本語文学の作家である李良枝の『ナビ・タリョン』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第15回	西村賢太『どうで死ぬ身の一踊り』	現代の私小説として西村賢太の『どうで死ぬ身の一踊り』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
百聞は一見にしかずです。講義でとりあげられている小説は、必ず読みましょう。

【テキスト（教科書）】
各種文庫本、講義の一回目で手に入りやすい文庫本を紹介しています。

【参考書】
小谷野敦『私小説のすすめ』2009、平凡社新書（入門書）
梅澤亜由美『増補改訂　私小説の技法』2017、勉誠出版（研究書）
私小説研究会編『私小説ハンドブック』2014、勉誠出版（研究ガイド）
井原あや他編『「私」から考える文学史　私小説という視座』2018、勉誠出版（研究書）

【成績評価の方法と基準】
中間リポートの提出を前提に、リポート試験の評価とあわせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
中間リポートの講評方法について、今後、検討したいと思います。

【Outline (in English)】
This course introduces the watakushi－ shosetsu of Japan. The watakushi－ shosetsu is a unique novel form in Japanese modern times. We learn the study on watakushi－ shosetsu and analyze it about the watakushi－ shosetsu.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講・現代 (戦後文学から日本を考える)(前期メディア)

山田　夏樹

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
戦後文学を読む。

【到達目標】
　アジア・太平洋戦争後から現在に至るまでの日本文学の歴史的な展開を作品に即して理解していくことで、社会状況や価値観の変容のあり方を捉えていく。
　そして、毎回とりあげられる特定の作品などに視点を限定してしまうのではなく、最終的には、社会の様々な事象に対して常に自ら問いを立て、考えていく姿勢自体を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、特定の作品を精読していく。
事前に該当の作品を必ず読み、自分なりの読解を持って授業に臨むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	太宰治「トカトントン」(1947年)	「トカトントン」を読解。
第2回	大江健三郎「人間の羊」(1958年)①	「人間の羊」を読解。
第3回	大江健三郎「人間の羊」(1958年)②	前回の内容を踏まえ、更に「人間の羊」を読解。
第4回	石原慎太郎「太陽の季節」(1955年)①	「太陽の季節」を読解。
第5回	石原慎太郎「太陽の季節」(1955年)②	前回の内容を踏まえ、更に「太陽の季節」を読解。
第6回	田中康夫「なんとなく、クリスタル」(1980年)①	「なんとなく、クリスタル」を読解。
第7回	田中康夫「なんとなく、クリスタル」(1980年)②	前回の内容を踏まえ、更に「なんとなく、クリスタル」を読解。
第8回	よしもとばなな「キッチン」(1987年)①	「キッチン」を読解。
第9回	よしもとばなな「キッチン」(1987年)②	前回の内容を踏まえ、更に「キッチン」を読解。
第10回	村上春樹「沈黙」(1991年)①	「沈黙」を読解。
第11回	村上春樹「沈黙」(1991年)②	前回の内容を踏まえ、更に「沈黙」を読解。
第12回	伊坂幸太郎「終末のフール」(2004年)①	「終末のフール」を読解。
第13回	伊坂幸太郎「終末のフール」(2004年)②	前回の内容を踏まえ、更に「終末のフール」を読解。
第14回	小川洋子「博士の愛した数式」(2003年)	「博士の愛した数式」を読解。
第15回	小川洋子「博士の愛した数式」(2003年)②	前回の内容を踏まえ、更に「博士の愛した数式」を読解。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　上記のように、毎回、特定の作品を精読していくため、事前に該当する作品を必ず読み、自分なりの読解を持って臨むこと。

【テキスト（教科書）】
・太宰治『ヴィヨンの妻』新潮文庫　※「トカトントン」収録
　（ただし、この作品のみインターネット上の「青空文庫」で無料で読めます）
・大江健三郎『死者の奢り・飼育』新潮文庫　※「人間の羊」収録
・石原慎太郎『太陽の季節』新潮文庫　※「太陽の季節」収録
・田中康夫『なんとなく、クリスタル』河出文庫
・村上春樹『レキシントンの幽霊』文春文庫　※「沈黙」収録
・よしもとばなな『キッチン』角川文庫　※「キッチン」収録
・伊坂幸太郎『終末のフール』集英社文庫
・小川洋子『博士の愛した数式』新潮文庫

【参考書】
授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト、メディアスクーリング試験。

【学生の意見等からの気づき】
様々な作品を読み、それにまつわる読解を学ぶことで、より多角的な視点を身につける機会になればと改めて思いました。

【Outline (in English)】
Learn the world through literature

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）

日本芸能史(前期メディア)

伊海　孝充

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本芸能史において大事な要素である能楽の歴史について、正確な知識と研究の方法を身につけます。

【到達目標】
この講義では、能楽の歴史を学びます。中世に生まれた能楽は、600年間まったく変化しなかったわけではありません。政治的基盤や社会状況の変化の影響を受けながら、為政者や観客の視線を反映しながら、少しずつ変化していったと考えられています。本講義では、能楽の芸質の変化ではなく、それを取り巻く環境（能楽の庇護者や能役者の組織）の変化を理解することに主眼を置いて話していきます。また、本講義は「日本芸能史」なので、各時代の主要芸能も取り上げ、特に能楽との影響関係について言及していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は自宅で講義ビデオを見るかたちで進めます。ただし、ただビデオを一通り閲覧すれば良いというわけではありません。分からない箇書や理解しにくい箇書がある場合は、一度ビデオを止め、辞書を引いたり、参考文献を見たりして、自分自身でしっかり咀嚼した上で、先に進むようにしてください。それでもわからないことがある場合は、規定の方法で、教員に質問するようにしましょう。また、授業内では参考文献も紹介します。本講義は、能楽の歴史の基本的事項ですので、自分自身で参考文献も利用しながら、発展的に学習することが必要となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	中世の諸芸能	能楽の源流となった中世の諸芸能の歴史と芸質を学びます。
第2回	猿楽の座と翁猿楽	誤解されやすい翁の座と猿楽の座の差異について学び、猿楽能と翁の関係について正確な知識を定着させます。
第3回	観阿弥と世阿弥の生涯	観阿弥と世阿弥の生涯から、能楽の成立を考えます。とくに、世阿弥と将軍たちの関係から、芸能者の歴史的立ち位置を把握することを目標とします。
第4回	世阿弥の伝書	世阿弥の伝書を概観します。また、「初心不忘」など一般的に広まっている意味と異なる言葉について、正確に理解することを目標とします。
第5回	観阿弥と世阿弥の能	観阿弥と世阿弥が作った能の特徴について学びます。特に、夢幻能・物狂能といわれる曲種について考えていきます。
第6回	世阿弥以降の能作者	金春禅竹・観世元雅・観世信光・観世長俊・金春禅鳳の作品について学びます。
第7回	能と曲舞	能における曲舞の摂取についてと室町後期に流行した幸若舞について学びます。
第8回	豊臣秀吉と能	秀吉の能楽溺愛の状況について学びます。また、この時代は、能楽が大きく変化したときでもあります。その変化を促した環境について理解します。
第9回	江戸幕府と能	「式楽」となった能楽の状況について、幕政と諸藩の状況から学びます。また能役者であったと考えられる写楽について学びます。
第10回	徳川綱吉・家宣時代の能	歴代将軍の中でも能狂いで知られる綱吉・家宣時代の状況について考え、彼らがもたらした能の変化について学びます。
第11回	「能」と「謡」	江戸時代の庶民は、舞台芸術の「能」としてではなく、詞章だけを謡う「謡」として能を楽しんでいました。その状況について学びます。
第12回	人形浄瑠璃と能	人形浄瑠璃の歴史と芸質を理解し、能から受けた影響について学びます。
第13回	歌舞伎と能	歌舞伎の歴史と芸質を理解し、能から受けた影響について学びます。
第14回	幕末から明治維新の「猿楽」	江戸幕府の瓦解は、能楽に大きな影響を及ぼしました。能楽史上最大の危機に奮闘した能役者たちの様子と、現在の能楽の形成過程を学びます。
第15回	「日本古典芸能」の現在	戦時下の芸能の様子から、現代、古典芸能が置かれている状況までについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本芸能史を通史的にまとめた文献は、とても少なく、「ベスト」のものはありません。自分が興味をもった芸能については、各芸能別にまとめた文献を探し、熟読してください。

【テキスト（教科書）】
指定はありません。

【参考書】
講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート30％、リポート試験70％で評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The instructor will acquire accurate knowledge and research methods on the history of Noh which is an important element in the history of Japanese performing arts.

HIS200TD（史学 / History 200）

西洋史概説(ロシア近代史を中心として)(前期メディア)

草野　佳矢子

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1917年のロシア革命までのロシアの歴史を、西ヨーロッパ諸国のそれと比較しつつ、国家と社会の関係や、統治制度改革、政治改革をめぐる問題を中心に学習する。
ヨーロッパ史を背景に、帝政崩壊までのロシア史の流れをとらえ、その独自性と共通性について説明できるようになる。ロシア史との比較によって、ヨーロッパ史への視野を広め、理解を深める。

【到達目標】
帝政崩壊までのロシア史の流れ、キエフ・ルーシ、モスクワ・ロシアの特徴、ロシア帝国成立後に関しては各皇帝の治世の概要や主要な事件・改革の内容などについて、西ヨーロッパとの比較も含めて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP2,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
添付資料（レジュメ）にそって講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ロシア帝国成立前のロシア①	キエフ・ルーシからモスクワ・ロシアへ
第2回	ロシア帝国成立前のロシア②	モスクワ・ロシアの特徴
第3回	ピョートル大帝の西欧化政策	西欧化の開始、大北方戦争、統治理念の西欧化、中央・地方の行政制度改革、社会の再編
第4回	女帝たちの時代	エカチェリーナ1世～ピョートル3世の治世、ピョートル体制の修正
第5回	エカチェリーナ２世の統治	エカチェリーナの啓蒙思想、プガチョフの乱、地方行政改革、貴族・都市への恵与状、農奴制の強化、パーヴェル1世
第6回	アレクサンドル１世とニコライ1世	秘密委員会、スペランスキーの改革案、省制の導入、ポーランド憲法とロシア憲法案、デカブリストの乱、官僚制の整備
第7回	アレクサンドル2世と大改革①	大改革の前提、農奴解放，ゼムストヴォ制度の導入
第8回	アレクサンドル2世と大改革②	都市自治制度、地方官僚制の整備、司法制度改革、軍制改革、教育制度改革
第9回	革命運動と政治改革の試み	農奴解放後の革命運動の展開、大改革期の政治改革の試み、ロリス＝メリコフの改革案
第10回	アレクサンドル3世時代のロシア①	専制体制の安定化、農民統治制度改革
第11回	アレクサンドル3世時代のロシア②	地方自治制度改革、ヴィッテ蔵相の工業化政策とその影響
第12回	ニコライ2世の治世－1894～1904年	19世紀末～20世紀初頭のロシア社会、労働者対策、農業・農民問題、「自由主義者の春」
第13回	第一次ロシア革命	血の日曜日事件、政治改革の開始
第14回	帝政ロシアの崩壊	「1906年立憲体制」の成立、ストルイピン改革、第一次世界大戦とロシア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業前に前回の内容をよく復習すること。参考文献の関連する部分を読み、理解を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
『世界歴史体系　ロシア史１、２、３』山川出版社、1997
『新版世界各国史　ロシア史』山川出版社、2002
藤本・松原編『ロシア近現代史』ミネルヴァ書房、1999
マルク・ラエフ『ロシア史を読む』名古屋大学出版会、2001
栗生沢猛夫『図説　ロシアの歴史』河出書房新社、2010
和田春樹『ヒストリカル・ガイド　ロシア』山川出版社、2001
『新版　ロシアを知る事典』平凡社、2004

【成績評価の方法と基準】
中間リポート　30％
メディアスクーリング試験　70％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The teacher will give lectures on Russian history to 1917, especially　on relationship between Russian state and society, administrative and political reform.
The goal for this class is to master the basic knowledge of Russian history to 1917　and get more understanding of European history.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

自然地理学(地形)(Ⅰ)(前期メディア)

前杢　英明

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】
いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程を、風景の背後に想像できるようになること、また地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。春学期（1）では主に「外作用」とよばれる太陽の放射エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地形と生活（導入）	本授業全体の概要。地形と我々の暮らし。日本の地形と地質の特徴。
第2回	地形形成に関する序説	地球の構造、地球規模での地形の意味、地形のスケール、地形の発達、第四紀の環境変動
第3回	風化作用	風化作用と地形形成における意味
第4回	マス・ムーブメント（1）	集塊移動のメカニズム
第5回	マス・ムーブメント（2）	マスムーブメントと土砂災害
第6回	河川による侵食地形	河川の形成、侵食の様式、さまざまな侵食地形
第7回	河川による堆積地形	堆積作用と堆積低地、地形と自然災害
第8回	海岸における作用	波の作用、沿岸流
第9回	海岸地形	海岸での堆積地形､侵食地形
第10回	風がつくる地形	風の作用と地形、乾燥地形
第11回	周氷河作用と地形	周氷河作用によるさまざまなスケールの地形
第12回	氷河作用	氷河の形成と流動
第13回	氷河地形	氷河による地形形成
第14回	カルスト地形	石灰岩特有のカルスト地形の特徴と形成
第15回	人類の活動と地形変化	人類の活動が地形変化をもたらした影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本や世界の独特な地形､美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、ＤＶＤ教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
『地形学入門』A.L.ブルーム、榧根　勇訳、1970年
『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007年
『発達史地形学』貝塚爽平、東京大学出版会、1998年
『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010年
『東京の自然史』貝塚爽平、講談社学術文庫、2011年
『日本の地形』貝塚爽平、岩波新書、1977年
『建設技術者のための地形図読図入門1～4巻』鈴木隆介、古今書院、1997～
『対話で学ぶ江戸東京・横浜の地形』松田磐余、之潮、2013

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（30％）
メディアスクーリング試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】
中間レポートの課題はなるべく後半のテーマから出さないように気をつけたい。

【Outline (in English)】
Students should get fundamental knowledge of geomorphology.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

自然地理学(海洋・陸水)(Ⅰ)(前期メディア)

小寺　浩二

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
水循環を中心とした水文学的な視点を取り入れつつ、地理学の重要な一分野である「海洋・陸水学」の再構築を試み、受講生の系統的な「水」に関する知識の習得をめざす。水資源、水利用、水質汚濁、地下水汚染、親水、洪水など、「水」に関する様々な問題を、身近な水辺からグローバルスケールまでの様々なスケールで扱う。

【到達目標】
海洋陸水学の基礎的な知識と理論についての理解を深めると同時に、具体的なテーマについての研究成果についても学ぶ。また、実際の調査方法に関しても理解し、具体的な課題に取り組んでまとめる力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
各回とも、テーマに沿った基礎知識について概要を説明し、具体的なフィールドデータを紹介しながら理解を深める。その上で、調査技術についても紹介し、具体的な課題にも取り組んで、確実な力を育成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	海洋陸水学とは？	陸水学・水文学・講義の構成と課題
第2回	河川学入門	流域の形状・水系網・流況
第3回	地下水学入門	土層の三層構造・不飽和帯・不圧地下水
第4回	湖沼学入門	三つの分類・水温躍層・集水域
第5回	雪氷学入門	雪氷の分布・氷河・南極・グリーンランド
第6回	海洋学入門	海底の地形・プレートテクトニクス・深層海流
第7回	水環境の諸問題①	身近な水環境・湧水・地下水汚染・富栄養化
第8回	河川学の基礎	ハックの法則・ホートンの水系網・流況曲線
第9回	地下水学の基礎	ダルシーの法則・水温の鉛直分布
第10回	湖沼学の基礎	湖盆形態・湖水の物理、化学、生物
第11回	雪氷学の基礎	氷河の流動モデル・降雪、積雪、融雪
第12回	沿岸域・汽水域の水環境	内湾の水環境・大河川下流域
第13回	自然災害と水	津波・洪水・火山災害
第14回	流域圏の水環境	水循環と物質収支・流域の人間活動・流域委員会
第15回	水環境の諸問題②まとめ	地下水汚染・湖の酸性化、中性化・緑のダム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回示してある課題に取り組む。また、調査技術についても可能な限り取り組む。

【テキスト（教科書）】
通教テキスト『自然地理学（海洋・陸水）』第１版、小寺浩二・三井嘉都夫、2019年

【参考書】
毎回の講義資料で提示。

【成績評価の方法と基準】
テキスト、参考書とメディア授業の学習を踏まえて、設題に取り組み (中間リポート 2 回)、具体的な課題への取り組み方を学習した上で、最終リポートを提出し、それらを総合して成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの内容やその際のコメントを考慮して、昨年度からレポート設題を変更した。具体的には、違うテーマで独立したレポート２本を課していたが、同一テーマで中間レポートを提出した上で最終レポートを提出する形式として、一つのテーマにじっくり取り組めるようにし、より内容の充実したレポートが提出できるように配慮した。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の講義で説明した調査機器のうち、自作するものや、安価なものは、出来るだけ用意して、出来るだけ実際の水環境調査を行うこと。

【その他の重要事項】
提示した参考文献は多いが、できる限り参照して理解を深めること。メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありますが)、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

【Outline (in English)】
Attempting to reconstruct "Oceanography and limnology" which is an important area of geography while trying to adopt a hydrological viewpoint centered on water circulation, aim to acquire students' knowledge on systematic "water". We deal with various problems concerning "water" such as water resources, water use, water pollution, groundwater contamination, hydrophilic, flood etc. on various scales from familiar water side to global scale.

GEO100TE（地理学 / Geography 100）

自然地理学概論(２)(前期メディア)

小寺　浩二

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の重要な一分野である自然地理学の基礎を学び、地域における人間活動の舞台として自然環境を捉え、その分析を通して人間・社会と自然環境との相互関係について学ぶ。また、自然災害や環境問題における応用学としての自然地理学の役割の大きさについても理解を深める。

【到達目標】

地球の成り立ち・構造・歴史・自然災害から地球規模の環境変化の事例、人間活動の影響まで、幅広く様々なテーマを取り上げて講義すると同時に、それらに対するレポート作成によって、より深く問題を掘り下げる能力と習慣を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

人間活動の舞台である地球表面の自然環境を構成する要素は、大きく岩圏、気圏、水圏及び生物圏にわけられる。それぞれ内部に独自の仕組みを持ち、さらに相互作用を及ぼしあっている多様で複雑なシステムである。自然地理学は、このような自然環境のシステムに対応した地形学、気候学、水文学（陸水学）、植生地理学などの多様な分野から構成されており、自然環境を理解するための広範な視野と学問的な基礎力を身につけることができる。講義では、様々な資料をもとに、概論を論じ、さらに深く学ぶための文献なども提示する。その上で、３段階の課題に取り組み、ただ、教科書的な内容を学ぶだけでなく、関連資料を収集、整理、解析し、独自のテーマに沿って、オリジナリティのある小論文を作成する技量も養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地理学と自然地理学	1）地理学とは？ 2）自然地理学とは？ 3）講義の構成と課題
第2回	地球惑星科学としての（自然）地理学	1）地球惑星科学とは？ 2）惑星探査の歴史 3）惑星としての地球
第3回	気候①＜大気大循環と気候因子＞	1）地球の熱収支 2）大気大循環 3）気候要素 4）気候因子
第4回	気候②＜世界の気候区分と気候変動＞	1）世界の気候区分 2）気候の変化・変動
第5回	気候③＜日本の気候と局地気候＞	1）日本の気候の特色 2）日本の気候区分 3）局地循環と地域の気候 4）局地風 5）都市気候
第6回	地形①＜世界と日本の大地形＞	1）世界の大地形とプレートテクトニクス 2）日本の地質 3）日本の造山運動と地形の特色 4）火山の分布と成因
第7回	地形②＜第四紀と山地の地形＞	1）第四紀 2）氷河時代 3）氷河地形と周氷河地形 4）山地と丘陵地 5）変動地形 6）河谷と水系
第8回	地形③＜平野と海岸の地形＞	1）平野と海岸 2）台地と扇状地 3）沖積低地の微地形 4）平野の開発と改変
第9回	水文①＜水循環と流域＞	1）水循環と水収支 2）流域の水循環と物質循環 3）河川学の基礎
第10回	水文②＜地下水と湖沼＞	1）地下水学の基礎 2）湖沼学の基礎
第11回	水文③＜雪氷と海洋＞	1）雪氷学の基礎 2）海洋学の基礎
第12回	植生＜植生分布・景観・文化＞	1）世界の植生分布 2）日本の植生分布 3）原植生の衰退 4）日本の植生景観 5）森林と文化
第13回	自然災害と地理学の応用	1）自然災害とは？ 2）地震災害 3）洪水・高潮災害 4）火山災害
第14回	環境問題と地理学の応用・まとめ	1）身近な環境問題 2）地球規模の環境問題 3）自然地理学の応用 4）まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト・参考書の内容は多岐にわたるが、全てをまんべんなく学ぶ必要がある。その上で、メディア授業の内容についても深く理解し、設題で示されたいくつかの課題の中から具体的なテーマを選び、対象地域を選定してより深く学習する。

リポート試験では、そのステップを踏まえて、総合的な問題が出るので、改めてテキストを学習しなおして受験することを期待する。

【テキスト（教科書）】

高橋日出男・小泉武栄編著（2008）：『自然地理学概論』（地理学基礎シリーズ２）、朝倉書店、￥3,300+税

【参考書】

杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景のなかの自然地理（改訂版）』、古今書院、￥2,500+税

【成績評価の方法と基準】

テキスト、参考書とメディア授業の学習を踏まえて、設題に取り組み(中間リポート1回)、その結果に対する指導によって具体的な課題への取り組み方を学習した上で、最終リポートを提出し、それらを総合して成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義毎に示してある課題に毎回取り組み、中間リポートで途中経過をまとめた上で、最終リポートに取り組んでいただきたい。また、中間リポートの評価に当たっては、模範リポートとコメントを示すので、必ず参照して次のリポートの参考とするように。

【その他の重要事項】

メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありますが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

【Outline (in English)】
Learning the fundamentals of natural geography, which is an important area of geography, capturing the natural environment as a stage of human activities in the area, and learning about the relationship between human beings and society and the natural environment through analysis. Also understand the magnitude of the role of natural geography as applied science in natural disasters and environmental problems.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

マクロ経済学A／マクロ経済学I(前期メディア)

奥山　利幸

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代経済学には，「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の２つの基礎理論群があります。その内の「マクロ経済学」は，一国全体での所得や消費といった集計量を対象に，景気循環，景気変動，経済成長などの仕組み，また，それらに対する経済政策の影響を探求します。本講義は，そうしたマクロ経済学を入門から中級レベルで学びます。「マクロ経済学A/I」では，その中でも，1960年代までのマクロ経済学を中心的に学びます。1960年代までのマクロ経済学は，その後のマクロ経済学の発展のベースになっており，現在のマクロ経済学を理解する上で，いくつもの重要なテーマを与えています。

【到達目標】
・専門用語の理解：定義を述べられるか否か，具体的な例，数値などを示せるか
・理論の理解：図説が可能か，式で示せるか
・上記の応用力：現実に起こっている例に適用したときに何が言えるのか（インプリケーション），どういったことが今後，発生すると言えるのか（予測），理論はどの程度の説明力があるのか，その限界は何か（発展，新たな研究課題の発掘）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
最初の数回は，マクロ経済学の問題意識を経済学の専門用語を確認しながら学びます。また，理論の発展に左右した学説も概観する予定です。そのあとに，1960年代までマクロ経済学の中心的理論であったケインジアンの理論を学んで行きます。
初回から最後の講義まで，すべて，講義形式の授業です。毎回の授業において，その授業にて明らかにする問題意識を提示します。学習する専門用語や概念をキーワードとして示しますので，一つ一つ，理解するように努めてください。そして，その回の授業の問題意識に対し，どのような答えを得たのか，最後に考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	「マクロ経済学」とは？	• 経済学の問題意識は? • 「マクロ経済学」とは?「マクロ経済学」は，経済学の様々な問題意識を，どのようにとらえ，どのように分析しようとするのか? • 現代経済学の基礎理論群である「ミクロ経済学」との差異は?
第02回	経済活動のとらえ方，フロー循環と三面等価	• 景気変動や経済成長の指標は? • その指標を作成するために，どのように経済活動をとらえれば良いか。
第03回	日本経済における景気変動と経済成長，そして，学説史から見る「マクロ経済学」の諸派	• 日本経済における景気変動，経済成長は? • 学説史と「マクロ経済学」の諸派は?
第04回	「有効需要の原理」と均衡GDP水準の決定	• 「有効需要の原理」を想定した場合と，「セイ法則」を想定した場合とでは，GDP水準の決まり方や大きさを左右する要因が異なるのであろうか? • 「有効需要の原理」を想定した場合のGDP水準の決まり方は?
第05回	消費関数とケインジアンの理論	「有効需要の原理」を想定した場合のGDP水準の決まり方は，消費者の選択とどのように関係しているのであろうか?
第06回	ケインジアンの乗数理論と貯蓄のパラドックス	• 「有効需要の原理」を想定した場合，民間投資需要の増加は，景気や消費にどのような効果をもたらすのであろうか?それは，何かしらの法則性があるのであろうか? • 「有効需要の原理」が成り立つ場合，人々が自らの資産を形成するための「貯蓄」を増やそうとすることは，景気を改善させるのであろうか?
第07回	「有効需要の原理」の下での政府介入(1) 消費関数と投資乗数への影響	「有効需要の原理」を想定したとき，政府の介入・財政と景気の関係は，どのようになっているのであろうか。 (1) そもそも「財政」とは? (2) 政府が介入するときの総需要は?均衡条件は? (3) 民間投資の景気や消費への効果，特に，投資乗数への政府の介入の影響は?
第08回	「有効需要の原理」の下での政府介入(2) 財政政策の乗数効果と財政赤字	• 「有効需要の原理」を想定したとき，政府支出を増加させると，投資の乗数波及と同じように，乗数効果が働くのであろうか。均衡GDP水準は，その何倍，増加するのであろうか。その増加率には，何かしらの法則があるのであろうか。それは，その原資を公債発行によって賄っても，増税で賄っても，同じであろうか。財政赤字を悪化させないのであろうか。 • 減税については，どうであろうか。
第09回	投資関数：限界効率の理論とトービンのq	「有効需要の原理」を想定した場合，民間投資の増加は，景気や消費に正の効果をもたらすが，そもそも，民間投資は，どのように決まるのであろうか?
第10回	金融市場と利子率(1) 様々な金融商品と市場利子率	民間投資の大きさを左右する市場 利子率は，どのように決まるのであろうか。そもそも，「市場利子率」とは，何を指しているのであろうか。
第11回	金融市場と利子率(2) 貨幣市場と市場利子率	民間投資の大きさを左右する市場 利子率は，どのように決まるのであろうか。貨幣の流通量であるマネーサプライ(マネーストック)との関係は?
第12回	金融市場と利子率(3) 金融政策とマネーサプライ	日銀の金融政策の手段は?それらと貨幣の流通量であるマネーサプライ(マネーストック)との関係は？

第13回	IS・LM分析(1) IS曲線とLM曲線	生産物市場と金融市場が同時に均衡する状態は？ その調整プロセスは？
第14回	IS・LM分析(2) 財政政策とクラウディング・アウト	生産物市場と金融市場（債券市場，貨幣市場）の間の相互作用を考えたとき，財政政策は乗数効果以外にどのような効果を伴うのであろうか。財政政策が景気変動に有効なとき，無効なときは，いつであろうか。
第15回	IS・LM分析(3) 金融政策の効果	生産物市場と金融市場（債券市場，貨幣市場）の間の相互作用を考えたとき，金融政策は，どのような効果をもたらすのであろうか。金融政策が景気変動に有効なとき，無効なときは，いつであろうか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習問題（Web）を行い，理解度を確認してください。経済学の理論は，積み上げになっていますので，過去に学んだことを確実に消化することが，次の講義の最大の準備学習になります。学んだ専門用語，理論に対し，曖昧さを無くすように復習しましょう。

【テキスト（教科書）】
指定の教科書は，ありません。

【参考書】
［注意］以下は，講義内容が理解できない場合に参考にすると良い図書（あいうえお順）
井堀利宏『入門マクロ経済学』新世社
エーベル/ベルナンケ『マクロ経済学』CAP
ゴードン『マクロエコノミックス』多賀出版
ブランシャール『マクロ経済学』東洋経済
ホール/テイラー『マクロ経済学』多賀出版
マンキュー『マクロ経済学』東洋経済

【成績評価の方法と基準】
試験100％：専門用語・理論の理解80％,応用力20％
但し、中間リポートも提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
開始後、「お知らせ」や「ディスカッション」を活用してください。

【Outline (in English)】
Study introductory macroeconomics.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

国際経済論A／国際経済論I(前期メディア)

田村　晶子

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。国際金融論では為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際マクロ経済学では、国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解し、マクロ経済政策の効果についても考えます。

【到達目標】
国際収支表を理解し、経常収支、資本収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準について説明でき、現実の為替レート水準について議論できる。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎理論の部分は、世界的に定評のあるクルーグマン・オブズフェルドのテキストの内容にほぼ従って、パワーポイントを用いて講義を行います。また、日本独自の背景があるものは、実際の日本の資料を用います。毎回の授業では、キーワードや数式、グラフなどを自分で書き込む形の空白のある配布資料を用意しています。各自でダウンロードして、講義を聴きながら空白を書き入れる形で勉強を進めましょう。毎回の授業のあとで練習問題が出題されます。練習問題の提出のあと、練習問題の解答と解説を行いますので、自習をして理解を確認しましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	「講義計画」「国際収支表の項目」	まず、講義全体の流れを説明します。国際収支表の見方と各項目の関係について勉強します。
第02回	「日本の国際収支表と国際収支の記入方法」	実際の日本の国際収支表（2014年）をもとにその特徴を講義します。さまざまな国際取引が、実際に国際収支表にどのように記帳されるかを勉強します。
第03回	「開放経済における国民所得恒等式」	開放経済における国民所得恒等式から導き出される貯蓄投資バランスについて、日本、および世界各国の例をもちいて勉強します。
第04回	「為替レートと外国為替市場」	為替レートとはどういうものかを確認し、為替レートが決定される国際為替市場の仕組みを勉強します。
第05回	「外国為替取引の種類」	外国為替市場における先渡取引やオプション取引など、さまざまな国際為替取引について勉強します。
第06回	「短期の為替レート決定①：金利平価条件」	外国為替市場における需要と供給を理解し、その需給一致させるように為替レートが決定することを勉強します。
第07回	「短期の為替レート決定②：金融政策と為替レート」	自国金利、外国金利、為替レート予想や金融政策が為替レートに与える影響を勉強します。
第08回	「短期の為替レート決定③：先渡レートとリスク」	先渡（先物）為替レートの決定と、外貨資産にリスクがある場合の為替レートの決定について勉強します。
第09回	「長期の為替レート決定①：購買力平価」	長期の為替レート水準について，購買力平価説をもちいて勉強します。
第10回	「長期の為替レート決定②：実質為替レート」	長期為替レート水準からの乖離が生じる原因と、実質為替レートについて勉強します。
第11回	「外国為替市場介入」	外国為替市場介入の方法と効果について、日本での外国為替市場介入の例を確認しながら勉強します。
第12回	「為替レートとマクロ経済」	国内財市場と貨幣・外為市場の均衡モデルをもちいて、マクロ経済政策の効果を勉強します。
第13回	「通貨制度：固定相場制、最適通貨圏」	世界で多くの国で取られている固定相場制の維持について勉強します。最適通貨圏の理論で、統一通貨について勉強します。
第14回	「通貨危機のモデル」	第1世代モデル、第2世代モデルをもちいて、通貨危機を理解します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義では、キーワードや数式、グラフなどを空白にしたパワーポイントの配付資料を用意しています。必ず、各自でダウンロードして、講義を聴きながら書き入れる形で勉強してください。

【テキスト（教科書）】
クルグマン・オブズフェルド著『クルーグマン国際経済学 理論と政策：下　金融編（原著第10版）』丸善出版、2017年

【参考書】
高木信二著『入門国際金融（第４版）』日本評論社、2011年

【成績評価の方法と基準】
中間リポートとリポート試験との総合的な評価による

【学生の意見等からの気づき】
2014年からの国際収支表の大幅な変更に伴い、第1回、第2回を撮りなおしています。最新のデータを配布していますが、第２回授業では年度と暦年データを取り違えていて、修正をしました。質問などにより、修正や補足がある場合は、「お知らせ」で連絡しますので、チェックしてください。

【Outline (in English)】
Students study the basics of International Finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy, then study the effects of macroeconomic policy.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

環境経済論A／環境経済論I(前期メディア)

松波　淳也

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学の基礎理論・概念

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義は，環境経済学の基本概念，手法を初学者を念頭に置き，できる限り詳しく丁寧に解説する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
現代の環境経済学の基礎概念・手法を身につけてもらうことを目標とし，最重要であり，かつ，環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性，環境の経済評価，持続可能な発展）に絞って講義する。その際，特に，社会システムと環境の関係についての基本的考え方，および，経済学的方法，政策的志向をもとらえていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？　本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ　CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ　TCM，HPM。非需要曲線アプローチ　RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？　環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。
第15回	持続可能な発展④	SDの経済思想・再論。環境経済学の今後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学，マクロ経済学等，経済学の基礎学習）。

【テキスト（教科書）】
指定はありません。

【参考書】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】
中間リポートとリポート試験の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it.　In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講(現代社会とマクロ経済学)(前期メディア)

岡本　利光

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の経済問題を理論的に理解するための基礎知識を修得すること。

【到達目標】
マクロ経済分析の歴史的生成過程を理解すること，ミクロ分析とマクロ分析の違いについて理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は，「戦後日本経済史」の姉妹編です。日本経済史を理論的に理解するために必要なマクロ経済学の基本的知識を会得することが目標です。マクロ経済学は学んだけれど，新聞の経済面が読めない，習ったことと現実の関係がわからない，といった方々向けの講義内容を目指しています。経済学の理論を理解する近道は，事象を数量的に掴むことです。そのため，簡単な数式を使った計算問題を演習として行います。ただし数学を学ぶ必要はありません。経済現象を数量的に理解できる範囲の知識と意欲があればよいのです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	マクロ経済分析の対象	マクロ経済学の発生について，ケインズの『一般理論』における新古典派批判を中心に説明します。
第2回	国民所得の概念	マクロ経済学が，国民所得分析と呼ばれることについて，国民所得とは何か，についての説明をします。特に，GDPが付加価値であるという視点が重要です。
第3回	国民所得の決定(1)	国民所得の決定には，有効需要という概念が不可欠です。有効需要の波及過程がどのようなものかについて説明します。
第4回	国民所得の決定(2)	有効需要の波及過程を理論的に理解するために，乗数値という考え方を具体的に説明し，計算方法についても概説します。数値例で理解することが中心的課題です。
第5回	経済成長理論	GDPが変化することを時系列的に示すのが経済成長論です。経済成長論には生産面からの分析と需要面からの分析があることを理解して下さい。
第6回	貨幣の供給と需要―貨幣市場分析―	国民所得を決定する要因として，投資が挙げられます。では投資は何によって決まるのか，それは利子率です。利子率は貨幣市場において決まります。この点を分析するのが貨幣市場分析です。
第7回	貨幣市場分析―貨幣の供給と需要―	貨幣市場において，貨幣需要と貨幣供給の関係から利子率が決まります。また経済政策として利子率に与える影響は中央銀行の金融政策があります。その基礎を理解するためには，ケインズの流動性選好理論の理解が必要です。ここでのテーマの中心は，金融理論の概説です。
第8回	経済政策―財政政策―	ケインズが直面した問題は，有効需要の欠如による大量失業です。失業は有効需要の欠如により生じるというのがケインズの基本的な見解です。有効需要を人為的に増大させる直接的要因は政府の投資を増やすことです。政府の支出(投資)の増大によるGDPの増大が失業の解消につながることを説明します。
第9回	経済政策― 金融政策―	また失業の要因として，民間投資の不足が挙げられます。投資を増やすには利子率を低下させなければなりません。金融政策の目的は，中央銀行がどのようにして利子率を低下させるかを示すことにあります。ここでは伝統的な金融政策について説明します。
第10回	労働市場分析	ケインズの新古典派経済学批判は，労働市場分析からはじまります。ケインズの労働市場では，必ず非自発的失業が発生しており，失業の解消には有効需要(投資および消費）を増やす必要があるということです。失業解消のために金融財政政策が必要ということです。労働市場分析はこの点を説明します。
第11回	失業率と物価上昇率	従来のケインズ的経済政策の結果として，物価上昇が必然的に伴いました。ところが1970年前後に，好況時に物価が低下するというスタグフレーションが発生しました。ここでは物価変動と失業率の関係について説明します。
第12回	アメリカ経済とマクロ経済政策の歴史	第11回の講義では，物価変動と失業率の関係が問題でした。第12回では米国のマクロ経済政策の転換について，ケインズ経済学の退潮とフリードマンのマネタリズムの台頭について説明しています。
第13回	国際マクロ経済学（1）	マクロ経済学では，ここまでのところ国内に限定した考察が行われてきました。ここに対外関係を導入し，自由貿易の問題，為替市場，資本市場が考察の対象となります。
第14回	国際マクロ経済学（2）	マクロ経済政策は国内だけに留まらず対外的関係にも影響します。この点を，マンデル＝フレミング・モデルで概観します。
第15回	日本経済とマクロ経済政策	これまで学んできた，マクロ経済学の知識を使って，現在の日本経済の分析を概観的に行います。部分的に理論内容を含んだ分析になってるので，これまで学んだ成果の応用・練習になっています。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文庫版・新書版など簡易な形のマクロ経済に関する著作を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
(1)伊藤元重『マクロ経済学』日本評論社
(2)伊藤・下井『マクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社
(3)伊藤元重『入門経済学』日本評論社
(4)松尾匡『この経済政策が民主主義を救う』大月書店，2016年
(2)の『マクロ経済学パーフェクトマスター』は，(1)のテキストに対する問題集という位置づけです。

【成績評価の方法と基準】
中間リポートとリポート試験の総合評価とする。できるだけ自分で調べ、参考文献・引用文献について必ずタイトルを記入すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
マクロ経済分析の歴史的生成過程を理解するために，ミクロ分析とマクロ分析の違いを理解する。

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講(循環型社会のミクロ経済学)(前期メディア)

赤石　秀之

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、循環型社会についてミクロ経済学の視点から考察する。循環型社会では、モノの生産・消費・廃棄・処理という製品ライフサイクルの視点から望ましい社会の在り方を示しているが、それが経済学の立場からどのように評価されるのかを明らかにする。本講義を受講する学生は、モノ、ゴミ、リサイクル、リユース、不法投棄といったキーワードに関する経済学的な考察を深めることを目的としている。

【到達目標】
・モノの取引に関するミクロ経済分析ができるようになる。
・ゴミの取引に関するミクロ経済分析ができるようになる。
・循環型社会に関するミクロ経済分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の進め方としては、主にミクロ経済分析で用いるグラフを使った授業が行われる。また、授業内ではグラフを作成して考える学習などがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	循環型社会の経済分析の目的・方法	授業の進め方や循環型社会の経済分析の目的と方法について解説する。
第2回	動脈経済の均衡分析①	モノの市場の仕組み、消費者行動、生産者行動について解説する。
第3回	動脈経済の均衡分析②	モノの市場での価格・取引量の決定の仕方、またそれらの変化の方向について解説する。
第4回	動脈経済の均衡分析③ 動脈経済の余剰分析①	モノの市場での価格・取引量の変化の要因、また人々の利益を分析する方法について解説する。
第5回	動脈経済の余剰分析②	モノの市場における人々の利益の大きさの決定、またその変化について解説する。
第6回	動脈経済の政策分析①	モノの市場における政策がモノの価格・取引量に与える影響について解説する。
第7回	動脈経済の政策分析②	モノの市場における政策が人々の利益に与える影響について解説する。
第8回	静脈経済の均衡分析①	ゴミの市場の仕組み、廃棄者行動、処理者行動について解説する。
第9回	静脈経済の均衡分析②	ゴミの市場の価格・取引量の決定の仕方、またそれらの変化の方向・要因について解説する。
第10回	静脈経済の余剰分析①	ゴミの市場の人々の利益の大きさの決定について解説する。
第11回	静脈経済の余剰分析②	ゴミの市場の人々の利益の大きさの変化について解説する。
第12回	静脈経済の政策分析①	ゴミの市場における政策がゴミの価格・取引量に与える影響について解説する。
第13回	静脈経済の政策分析②	ゴミの市場における政策が人々の利益に与える影響について解説する。
第14回	循環経済の均衡・余剰分析	循環型社会におけるモノの価格・取引量、ゴミの価格・取引量、また人々の利益の大きさの決定の仕方について解説する。
第15回	循環経済の政策分析	循環型社会における政策がモノの価格・取引量、またゴミの価格・取引量に与える影響について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に事前の学習は必要ではないが、日ごろから新聞・テレビ・インターネットなどを通じて、自身の経済や環境に対する関心・興味を高めておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
植田和弘（1992）『廃棄物とリサイクルの経済学』有斐閣。
リチャード・C・ポーター（2005）『入門廃棄物の経済学』東洋経済新報社。
細田衛士（2012）『グッズとバッズの経済学（第2版）』東洋経済新報社。

【成績評価の方法と基準】
中間課題で４０％、期末試験で６０％、合わせて１００％の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の目線に合わせた授業をさらに心掛けていきます。

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

経済地理(Ⅰ)(前期メディア)

近藤　章夫

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連事項を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの多層的な空間スケールを念頭におき、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、産業立地の空間的パターン、都市化と地域間格差、企業立地と国際分業、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】
日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する経済学と地理学の融合領域である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	経済成長と人口構造①	世界経済の歴史と地理
第3回	経済成長と人口構造②	人口構造と経済成長論
第4回	経済成長と人口構造③	都市化と人口問題
第5回	立地論の基礎①	経済活動の立地行動と理論の概要
第6回	立地論の基礎②	産業・工業立地論の枠組
第7回	立地論と都市研究①	農業立地論と中心地理論
第8回	立地論と都市研究②	都市内部構造と都市システム
第9回	グローバル化とローカル化①	産業発展のダイナミズムと空間的分業論
第10回	グローバル化とローカル化②	比較制度分析とグローカルネットワーク論
第11回	国土利用と地域政策①	日本の地域構造と国土政策の歴史
第12回	国土利用と地域政策②	戦後の国土・地域政策と新たな動向
第13回	国土利用と地域政策③	都市・地域問題と現代の課題
第14回	まとめ	経済活動と地理的スケールの重層性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
河野稠果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会
デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン桐原
松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
富田和暁（2006）『地域と産業―経済地理学の基礎―』原書房
山田浩之・徳岡一幸編（2007）『地域経済学入門（新版）』有斐閣
竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価（60%）が中心となる。授業終了時小テスト（平常点20点）、レポート課題（20%）で最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】
The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

労働経済論A(前期メディア)

佐野　晋平

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学を応用し労働市場の機能を分析手法とその応用例を講義する。労働経済論Aでは、労働経済学の基礎理論と統計データに基づく実態について講義する。

【到達目標】
労働経済学の基礎理論と統計データに基づき、労働問題を理解できるようになることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
資料に基づき講義を進める。労働経済学の基礎理論として、労働供給、労働需要、市場均衡、補償賃金格差、人的資本、差別の理論を説明する。各回では基礎理論の紹介と共に、関連する統計や研究について紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、データをみる	・労働市場とは ・労働経済学とは ・労働経済学が対象とする社会問題 ・代表的な統計の紹介 ・データを観察する方法と注意点
第2回	労働供給1	・労働供給の決定 ・比較静学
第3回	労働供給2	・市場の労働供給 ・実証研究との関連
第4回	労働需要1	・短期の労働需要 ・比較静学
第5回	労働需要2	・長期の労働需要 ・調整費用
第6回	市場均衡	・労働市場の均衡 ・余剰
第7回	最低賃金の分析1	・完全な労働市場と不完全な労働市場 ・最低賃金
第8回	最低賃金の分析2	・差の差法 ・実証研究の紹介
第9回	補償賃金格差	・ヘドニック賃金 ・賃金格差
第10回	人的資本1	・人的資本 ・大学進学への応用
第11回	人的資本2	・最適な教育年数の決定 ・ミンサー型賃金関数
第12回	差別の理論	・嗜好による差別 ・競争の役割
第13回	労働市場の男女差1	・統計的差別
第14回	労働市場の男女差2	・男女間賃金の実態 ・実証研究の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ミクロ経済学の基礎知識を有することが望ましい。統計学・計量経済学の知識があると理解が寄り深まる。復習を重視すると共に、参考書を精読すると理解が深まる。

【テキスト（教科書）】
講義資料に基づく。関連する文献は適宜紹介する。

【参考書】
川口大司『労働経済学』有斐閣
大森義明『労働経済学』日本評論社
Tito Boeri & Jan Van Ours, 2013, The Economics of Imperfect Labor Markets 2nd Edition, Princeton Univ Press

【成績評価の方法と基準】
中間テスト（40%）とメディアスクーリング試験（60%）に基づく。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course introduces students to the method of economic analysis of labor market. Especially, we focus on the economic theory of labor economics and statistics about labor market.

ECN200TG（経済学 / Economics 200）

金融論Ⅰ／金融論A(前期メディア)

林　直嗣

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の血液に相当するのが経済の貨幣である。家計や企業、政府が貨幣を用いて金融を行い、経済を成り立たせている仕組みと働きを、理論と実際の両面から理解することが、この授業のテーマである。

貨幣とは何か、金融とは何か、現代の貨幣経済の仕組み（制度、システム）と働き（作用、機能、役割）といった基礎的な問題をやさしく説明する。家計の金融や企業金融など金融のミクロ分析を行い、貨幣の供給や需要、インフレ・デフレ・失業、金融政策や財政政策の効果など金融のマクロ分析を行う。さらに預金市場、債券市場、株式市場などさまざまな金融市場について個別に学ぶとともに、金融政策の仕組みと働きを実際に即して勉強する。さらに金融自由化・国際化・グローバル化、金融バブルとその崩壊、不良債権処理や金融再生、金融ビッグバンなど金融政策の諸問題についても説明する。

【到達目標】

貨幣や金融の諸問題を分かり易く丁寧に解説することを通じて、履修生が金融への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることを、授業の到達目標とする。単に理論を勉強するだけにとどまらず、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実際の分析力を養うトレーニングも目標とする。それにより公務員試験やファイナンシャルプランナー試験など各種資格試験や就職試験に役に立つ実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

単に理論を勉強するだけでなく、公認会計士試験や国家公務員試験、あるいは就職試験などに備えるため、章ごとに具体例を用いた実践的な問題演習を行う。こうした演習問題を積極的に解くことは、実際の分析力を養う上で必須のトレーニングであり、各種資格試験や就職試験のための実践力を涵養する。授業方法は、先ず教科書を読み、ウェブ授業を視聴し、ウェブ上の問題演習を解いてみる。解けない場合は冊子の問題演習を見て理解を深める。またWeb上のディスカッションで先生と質疑応答をする。それをステップ順に学習していけば、学習目標を達成できる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1回	第1章 市場経済と貨幣・金融	市場経済の発達と貨幣の出現・発展を歴史的に考え、基礎的概念を説明する。
2回	基礎問題1	市場経済と貨幣・金融について、基礎的な穴埋め問題を解く。
3回	第2章 金融市場と金融機関	金融市場の形成と役割、種類などを解説し、金融機関の種類や役割などを説明する。
4回	基礎問題2	金融市場と金融機関について、基礎的な穴埋め問題を解く。
5回	第3章 金融構造と金融システム	金融構造、金融システムなどについて勉強し、金融・銀行制度、金融規制など制度的な側面を解説する。
6回	基礎問題3	金融構造と金融システムについて、基礎的な穴埋め問題を解く。
7回	第4章 家計の金融	消費者・家計の金融の基礎的概念を説明し、そのミクロの金融行動を分析する。
8回	基礎問題4	家計の金融について、基礎的な穴埋め問題を解く。
9回	第5章 企業金融（コーポレート・ファイナンス）	コーポレート・ファイナンスの基礎的な概念や基礎理論を説明し、所有と経営の分離、株式持合などの諸問題を分析する。
10回	基礎問題5	企業の金融について、基礎的な穴埋め問題を解く。
11回	第6章 貨幣の供給と需要、貨幣数量説と流動性選好説	貨幣の供給と需要のマクロのメカニズムを学習し、貨幣数量説と流動性選好説を解説する。
12回	基礎問題6	貨幣の供給と需要、貨幣数量説と流動性選好説について、基礎的な穴埋め問題を解く。
13回	第7章 ＩＳ＝ＬＭ分析と金融・財政政策	財市場と貨幣市場の同時均衡によりマクロ均衡分析の見方を解説し、完全雇用と不完全雇用及び不況での金融政策と財政政策の効果を考察する。
14回	基礎問題7	IS＝LM分析と金融・財政政策について、基礎的な穴埋め問題を解く。
15回	第8章 インフレとデフレ、失業	インフレやデフレと失業との関係を理論的に解説し、自然失業率仮説やルーカス供給関数を説明し、ルールか裁量かの違いを考察して最適政策基準を解説する。
16回	基礎問題8	インフレとデフレ、失業について、基礎的な穴埋め問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む積極的態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。

【テキスト（教科書）】

岸真清・林直嗣著『現代金融入門』八千代出版（入門の教科書）1997年

【問題集】

林直嗣著『問題演習　金融論　再訂版』（スタディガイドと入門の問題集）2009年

※印刷教材であるのでテキスト、問題集ともに必要です。生協で10％割引で入手できます。

【参考書】

晝間文彦著『金融論』新世社（初級の教科書）

【成績評価の方法と基準】

中間のレポート添削（約20点）と期末の定期試験（約50点）を行う。それらの総合点を出し、問題の難易度や当該クラスのでき具合などをすべて調整した上で、全員の得点分布を算出し、最新の成績理論に基づいて、その客観的な得点分布に基づく合理的で歪みのない相対評価により成績をつける。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【その他の重要事項】

金融・経理・財務の関係職を目指したり、公認会計士やファイナンシャル・プランナーなどの資格取得を目指す学生は、本講座を履修することを特に勧める。

【Outline (in English)】
Money in the economy corresponds to blood in the human body. This course explains in plain terms the monetary and financial system, theory and policy in Japan. How do households and businesses manage income and expenditure, how does the government balance tax revenues and fiscal expenditures? The theme of this class is to understand the mechanism and work that each economic agent generates to finance money and to make the economy work from both theoretical and practical points of view.
It will be very easily understood even by students whose major is not economics. We do microeconomic analyses of household finance and corporate finance and macroeconomic analyses of the demand for and supply of money, inflation, deflation, and unemployment, policy effects of monetary policy and fiscal policy. In addition, we study about financial markets such as deposit market, loan market, bond market and stock market individually, and study actual monetary policy for economic growth and economic stability.

ECN100TG（経済学 / Economics 100）

経済学入門Ⅰ／経済学入門A(前期メディア)

平田　英明

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学の基本的な理論を理解します。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

【到達目標】
現実の経済事象を理解する上で必要となる理論を学び、現実のビジネスや消費者行動の事例を挙げながら、理解を深めていくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
ミクロ経済学の基本的な理論を理解することを目標としてレクチャーを行います。そして、ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	市場における需要と供給１	需要の基礎を学びます。
第2回	市場における需要と供給２	需要曲線のシフト、供給の基礎を学びます。
第3回	市場における需要と供給３	供給曲線のシフト、需要と供給の一致（均衡）の基礎を学びます。
第4回	市場における需要と供給４	均衡の変化について様々なケースを学びます。
第5回	弾力性とその応用１	需要の価格弾力性について学びます。
第6回	弾力性とその応用２	供給の価格弾力性、弾力性を考慮した場合の均衡分析について学びます。
第7回	需給と政府の政策１	価格規制の基礎を学びます。
第8回	需給と政府の政策２	課税の基礎を学びます。
第9回	消費者、生産者、市場の効率性１	余剰分析の基礎を学びます。
第10回	消費者、生産者、市場の効率性２	市場の効率性を余剰分析を使いながら理解していきます。
第11回	課税の応用１	余剰分析を使った課税の効果について学びます。
第12回	課税の応用２	弾力性を考慮して余剰分析を行い課税の効果を理解していきます。例題にも取り組みます。
第13回	国際貿易１	海外部門を含めた需給分析と余剰分析を学びます。
第14回	国際貿易２	貿易の余剰分析に関税や貿易制限の影響を学びます。また、国際的な貿易協定について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は不要ですが、しっかり復習しましょう。例題をきちんと自分で解き、しっかり理解してください。

【テキスト（教科書）】
『マンキュー経済学Ⅰミクロ編 （第3版）』N.グレゴリ・マンキュー著　（東洋経済新報社）

【参考書】
『クルーグマン ミクロ経済学』ポール・クルーグマン他著　（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】
中間リポート40%、リポート試験60%で評価する予定です。いずれも４択などの選択方式かそれに準ずる方式の問題です。

【学生の意見等からの気づき】
中間試験、期末試験後、解答を求める声がたまに聞かれますが、原則として公開しません。全て授業内で教えている内容の範囲内の内容だからです。正答がわからない場合、自分がどのように解答を導出したかを説明の上、質問をするようにしてもらいます。
中間試験がよくても、期末試験が悪いケースが散見されます。いろいろ理由はあるかと思いますが、気を抜かないようにしましょう。

【その他の重要事項】
過去に試験について、Yahoo知恵袋で質問をしているケースが見られました。このような不正行為については、厳正な対処をしますので、絶対にしないようにしてください。
また、オンライン等でのカンニングの可能性を踏まえ、試験期間は中間リポート、リポート試験ともにきわめて限定した期間（２日間程度＜毎年、『法政通信』で日程を確定させて記載＞）で実施します。ご自身のカレンダーを確認の上、履修登録をしてください。
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有する。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有する。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたい。

【Outline (in English)】
This class is designed for the students who study economics for the first time. This class offers lectures on introductory microeconomics. The theory of microeconomics is formal but this class tries to teach that as intuitively as possible. In doing so, the lecturer will give you a bunch of examples that can be observed in your real life and that are actually going on in real business. Understanding economics with relevant examples strengthen your knowledge of economics.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN200TG（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅰ(前期メディア)

神谷　健司

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の中心は企業が公表している基本的な財務諸表である損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の読み方と、それらを用いた財務諸表分析の基礎を学ぶことである。

【到達目標】
15回の講義を聞いて、毎回の復習を行うことによって、基本的な財務諸表である損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書を読むことができ、基本的な財務諸表分析ができるようになることである。この講義では原則的には個別財務諸表に限定し、連結財務諸表の話は行わない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
原則的には指定テキストに従って説明を行う。パワーポイントを使って説明を行うが、指定テキストを用意し、復習を行うことが必要である。また理解度を確認するために各回ごとに問題を数問用意しているが、指定テキストの問題を解くことによって、各回の重要な論点が身についているかどうかチェックすることが必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	通信教育部で会計学を学ぶ意義	通信教育部で会計学を学ぶ意義を考える。また会計分野 にはどのような領域があり、本通信教育部ではどのような科目があるかを紹介する。
第2回	財務会計の役割と会計の法的制度	財務会計情報が提供する社会的役割と制度会計の法的枠組みについて学ぶ。
第3回	財務会計の基本構造	財務会計の基本的構造として会計公準と企業会計原則における一般原則について学ぶ。
第4回	財務諸表とは	財務諸表とはどのようなものか。その体系や全体的な内容について学ぶ。
第5回	貸借対照表を読む（1）	貸借対照表の仕組み、資産の概念と分類、流動資産、固定資産、繰延資産について学ぶ
第6回	貸借対照表を読む（2）	負債の概念と分類、流動負債、固定負債、純資産の概念と分類、純資産の諸項目について学ぶ。
第7回	損益計算書を読む（1）	損益計算書の仕組み、損益計算のルール、売上総利益、営業利益といったことを学ぶ。
第8回	損益計算書を読む（2）	経常利益、税引前当期純利益、当期純利益といったことについて学ぶ。
第9回	キャッシュフロー計算書を読む	キャッシュ・フロー計算書の読み方について学習する。
第10回	財務諸表分析（1）	財務諸表分析の基本体系、百分比財務諸表分析について学習する。
第11回	財務諸表分析（2）	成長性分析、安全性の分析、キャッシュ・フロー情報の分析について学習する。
第12回	財務諸表分析（3）	収益性分析、1株当たり分析について学習する。
第13回	実際の企業の財務諸表を読む	実際の財務諸表を読むことによって、今まで学習した財務諸表分析についての基本的事項について復習する。
第14回	財務会計の基礎理論	財務会計において議論されている基本的な考え方や概念フレームワークの基礎などについて紹介するとともに、第5回から9回までの講義の内容のうちいくつかを確認する。
第15回	全体のまとめ	14回の講義の重要な部分を復習し、全体の理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的な会計用語を覚えることと、テキストの練習問題を解くことが必要である。

【テキスト（教科書）】
大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト3級（第3版）』中央経済社，2014年

【参考書】
桜井久勝『会計学入門（第4版）』（日経文庫）日本経済新聞出版社，2015年

【成績評価の方法と基準】
メディアスクーリング試験にて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンなど。

【その他の重要事項】
簿記の基本的知識がない方は並行して簿記Ⅰ・Ⅱの学習を行って欲しい。日商簿記3級程度の知識があると本講義の理解も深まります。

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅰ (前期メディア)

李　瑞雪

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義である。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養う。

【到達目標】
主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
ある程度大人数となることがが予想されるため、基本的には講義方式で行うが、講義中で演習問題と具体的なケースを用いた学習を行う。スライド資料は各自確認すること。質問や発言等は「学習質疑制度」を参考にディスカッションで行うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	イントロダクション	講義内容の構成、戦略の定義、経営戦略の定義、経営ビジョンと経営戦略などの説明
第02回	プランニング・アプローチ(1)	製品・市場ポートフォリオ、戦略的意思決定と業務的意思決定、成長ベクトル、シナジー、企業目標のヒエラルキー
第03回	プランニング・アプローチ(2)	戦略策定の手順、SWOT分析、PPM、ビジネス・スクリーン、バランスド・スコアカード
第04回	ポジショニング・アプローチ（1）	S-C-Pモデル（産業構造- 企業行動- 経営業績モデル）、ファイブ・フォーセズ・モデル、ハーフィンダール指数、参入障壁
第05回	ポジショニング・アプローチ（2）	PIMSモデル、戦略グループ、移動障壁
第06回	ポジションニング・アプローチ(3)-1	産業構造と戦略的機会（前半）。市場分散型産業、新興産業、成熟産業、衰退産業、国際産業、ネットワーク産業、超競争産業、コア無し産業、集約・統合戦略、先行者優位、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収穫戦略、撤退産業、勝者総取り戦略など
第07回	ポジショニング・アプローチ(3)-2	産業構造と戦略的機会（後半）。国際産業、ネットワーク産業、超競争産業、コア無し産業、マルチナショナル戦略、グローバル戦略、トランスナショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、勝者総取り戦略、先制破壊戦略、埋没コスト、破滅的競争など
第08回	資源アプローチ, RBV(1)	経営資源、経営資源の異質性と固着性、VRIO分析フレームワーク、一時的競争優位と持続的競争優位
第09回	資源アプローチ, RBV(2)	経営資源模倣困難の要因、経路依存性、社会的複雑性のある経営資源、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積のメカニズム、戦略的意図、コア・コンピタンスの探究、バリュー・チェーンなど
第10回	ゲーム・アプローチ(1)	価値相関図（バリュー・ネット）、「付加価値」の概念、競争と協調、顧客への「本質的サービス」の分析視点
第11回	ゲーム・アプローチ(2)	「価値」貢献度、明示的ルールと暗黙の認識、MFC条項とMCC条項、戦略的補完関係、意図的抑止（contrived deterrence）
第12回	学習アプローチ、創発戦略(1)	分析型・計画型アプローチとの違い、意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略
第13回	学習アプローチ、創発戦略(2)	学習の「場」、実験による学習、「反省」の重視、ダイナミック・シナジ
第14回	一般戦略と競争優位(1)	競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えざる差別化、垂直的差別化と水平的差別化
第15回	一般戦略と競争優位(2)	競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えざる差別化、垂直的差別化と水平的差別化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に着け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』東洋経済新報社

【参考書】
M．E．ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社、デビッド・J．コリス＋シンシア・A・モンゴメリー『資源ベースの経営戦略論』東洋経済新報社、Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（40％）とリポート試験（60％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
シェアリングエコノミーやユニコーン企業などに関わる経営戦略の事例を紹介し解説してほしいとのご意見をいただいております。今後の授業内容改訂時に対応させていただきたいと思います。

【その他の重要事項】
主な関連科目として、経営学総論、国際経営戦略論、戦略意思決定論、経営分析、日本経営論、経営組織論、マーケティング論、経営管理論などが挙げられます。

MAN200TG（経営学 / Management 200）

マーケティング論Ⅰ(前期メディア)

竹内　淑恵

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済のサービス化、グローバル化、ICTの進展や消費者ニーズの多様化など、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。
本講義では、顧客創造に焦点を当て、マーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

【到達目標】
・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割について学ぶ。
・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
・レポート課題に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を養う。
・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
・講義形式で授業を進めます。
・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	第1章　マーケティング発想法　－ニューコークとタイド	消費者のニーズとウォンツについて、性能ではなく、価値で考えることの重要性を学ぶ。
第02回	第2章　マーケティング・ミックスによる顧客創造 －ネスレ日本 キットカット	キットカットの事例を用い、マーケティングの4P(製品、価格、流通、プロモーション)によっていかに顧客創造を行うかを学ぶ。
第03回	第3章 製品による顧客創造　－カモ井加工紙株式会社 マスキングテープ「mt」	マスキングテープ「mt」の事例を用い、製品開発と価値共創のパートナーとしてのユーザー等について学ぶ。
第04回	第4章 価格による顧客創造　－サントリー ザ・プレミアムモルツ	プレミアムモルツの事例を用い、価格設定と価格維持等の価格マネジメントについて学ぶ。
第05回	第5章 チャネルによる顧客創造 －ネスレ日本 ネスカフェ アンバサダー	ネスレの事例を用い、コーヒービジネスの既存チャネルの管理、ネスレによるチャネルの構築と管理、これからのチャネル創造について学ぶ。
第06回	第6章 コミュニケーションにおける顧客創造　－ファーストリテイリング ヒートテック	ヒートテックの事例を用い、訴求点の設定(焦点を絞った差別化された表現)、広告コミュニケーション段階の理解と効果的なメディアの利用を学ぶ。
第07回	第7章 顧客理解　－ライオン株式会社「Ban汗ブロックロールオン」	Ban汗ブロックロールオンの事例を用い、マーケティングリサーチ、製品開発における各種調査、リサーチにおける留意点を学ぶ。
第08回	第8章 関係構築 －ガンホー・オンライン・エンターテイメント パズドラ	パズドラの事例を用い、関係性パラダイムと交換パラダイム、プラットフォームビジネス等を学ぶ。
第09回	第9章 デジタル・マーケティング　－ハウス「ウコンの力」	ウコンの力を事例とし、デジタルマーケティングによる顧客創造、接点構築におけるメディアの使い分け、デジタルメディアの役割等を学ぶ。
第10回	第10章 ディマンドチェーン　－カルビーポテトチップス	カルビーポテトチップスを事例とし、在庫の役割、在庫管理の重要性、2つの在庫管理のデザイン等を学ぶ。
第11回	第11章 ブランド構築　－マンダム ギャツビー	ギャツビーを事例とし、ブランド構築における要点、ブランド構築の鍵概念、ブランドの活性化を学ぶ。
第12回	第12章 営業活動　－カゴメ 瀬戸内レモン	カゴメ瀬戸内レモンを事例とし、営業活動の多様さ、営業活動を進めるためのポイント等を学ぶ。
第13回	第13章 マーケティングの戦略展開　－花王 ヘルシア緑茶	花王ヘルシア緑茶を事例とし、戦略とは何か、マーケティングと戦略、代表的な戦略定石を学ぶ。
第14回	第14章 社会共生　－トヨタ プリウス	プリウスを事例とし、社会共生を目指すマーケティング、社会的課題の解決への取組みの重要性、社会共生を実現する仕組みについて学ぶ。
第15回	第15章 マーケティング3.0　－P&G	P&Gのマーケティングの歩みを事例とし、マーケティングの構図・発展について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連科目としてマーケティング論Ⅱがあります。あわせて履修するようにしてください。

【テキスト（教科書）】
石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016年)。

【参考書】
・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007年)。
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第5版』有斐閣(2016年)。
・コトラー, P., G. アームストロング, 恩藏 直人『コトラー、アームストロング、恩藏のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。

【成績評価の方法と基準】
・中間テスト1,2は各々25％、トータル50％を平常点として扱います。中間テストを受けていないと成績評価に大きく影響しますので、必ずテストを受けてください。
・最終課題であるレポート試験を50％として扱い、平常点と加算して評価します。
・平常点50点＋レポート課題50点、計100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
・授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。
・授業の受講に加えて、レポート課題が負担になるという感想を持つ受講生もいると思いますが、「単位取得」のため、それ相応の努力をお願いしたいと考えています。
・皆さんの勉学へ向けた努力と熱意を期待しています。一緒に頑張ってマーケティング論を勉強しましょう！

【その他の重要事項】
メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有する教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの理論を解説する。

【Outline (in English)】
Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and transaction object, there have been transitions in the concept and object of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs.
In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and how to solve them. In each lecture, we learn the basics of marketing through case studies.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

管理会計論Ⅰ(前期メディア)

北田　皓嗣

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
管理会計とは，組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって，管理会計の学習にあたっては，単に計算テクニックを使えるというだけでなく，組織実践との関係で，経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では，企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

【到達目標】
経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進めるとともに，随時、計算問題や復習のための問題演習を取り入れていきます。そのため、講義を聴くだけでなく、授業中に設定されている問題についても必ず取り組むようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と，費用の考え方の紹介
第2回	固定費と変動費１	固定費と変動費，貢献利益
第3回	固定費と変動費２	損益分岐点
第4回	固定費と変動費３	固定費のマネジメント
第5回	固定費と変動費４	固定費とビジネスモデル
第6回	固定費と変動費５	セールズミックス
第7回	固定費と変動費６	固変分解
第8回	マネジメントコントロールシステム１	PDCAサイクル
第9回	マネジメントコントロールシステム２	上司と部下の関係
第10回	マネジメントコントロールシステム３	４つのコントロール
第11回	マネジメントコントロールシステム４	コストセンター・プロフィットセンター
第12回	経営計画１	計画の種類
第13回	経営計画２	中期経営計画とその改定
第14回	経営計画３	短期利益計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。

【テキスト（教科書）】
谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計（第3版）』中央経済社

【参考書】
浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文舘

【成績評価の方法と基準】
「中間リポート」40％と「メディアスクーリング試験」60％との総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

税務会計Ⅰ(前期メディア)

大下　勇二

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「税務会計Ⅰ」では、会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎とその基本的考え方を学習します。これにより、税務会計の基礎を修得し、財務会計との関係と考え方の違いを理解した上で、今日的な企業課税の諸問題を的確に議論できる能力の涵養を目的とします。

【到達目標】
法人税の基礎、課税所得計算の基礎、益金の計算、原価配分を中心とした損金の計算など、法人税法における課税所得計算の基本的なフレームワークを理解し、財務会計と比較しながら税務会計特有の考え方を理解することを目標とします。これにより、法人課税上の諸問題を考え理論的に整理できる基礎的能力の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、わが国法人税法の課税所得計算に関する主要項目をスライドに基づき講義する形で進めて行きます。各自各章の最後の○×問題を解答した上で次の章に進みます。また、受講生には中間レポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
①	法人税の基礎(1)	法人税の基礎を学習し、法人課税の基本的考え方を理解する。
②	法人税の基礎(2)	法人税の基礎を学習し、法人課税の特徴を理解する。
③	課税所得計算の基礎(1)	課税所得計算の基礎を学習し、財務会計の利益計算との関係を理解する。
④	課税所得計算の基礎(2)	課税所得計算の基礎を学習し、課税所得計算の特徴を理解する。
⑤	売買損益等の計算(1)	売上収益の認識等を中心に売買損益計算の基礎を学習する。
⑥	売買損益等の計算(2)	売上収益の原則的な認識基準に対する例外的な処理を学習する。
⑦	その他の収益の計算(1)	受贈益、受取配当等(前半)の営業外収益の計算の基礎を学習する。
⑧	その他の収益の計算(2)	受取配当等(後半)の営業外収益の計算の基礎を学習する。
⑨	売上原価の計算(1)	売上原価の計算の仕組みを学習する。
⑩	売上原価の計算(2)	棚卸資産の期末評価の考え方を学習する。
⑪	有価証券の譲渡原価の計算	有価証券の譲渡原価の仕組みを学習し、有価証券の期末評価の考え方を理解する。
⑫	固定資産の減価償却(1)	減価償却計算の仕組み、償却の特例および取得原価の算定の考え方を学習する。
⑬	固定資産の減価償却(2)	耐用年数、残存価額および償却方法の考え方を理解し、償却限度額の計算を学習する。
⑭	繰延資産の償却	税法上の繰延資産の考え方を学習し、税法固有の繰延資産を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指定した通教テキストを読んでおくこと。また、中間レポートの作提出が求められます。

【テキスト（教科書）】
通信教育部テキスト
大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学,2019年

【参考書】
必要に応じて指示する予定。

【成績評価の方法と基準】
中間レポートの提出(必須)と修了試験により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
法人税課税の問題について、各自自分なりの問題意識をもって授業に参加してもらう。

【Outline (in English)】
The objective of Tax Accounting Ⅰ is to understand the foundations of corporate tax acconting in Japan.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

国際金融論Ⅱ (前期メディア)

横内　正雄

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代はグローバル化の時代といわれるが、その中でも金融グローバル化（金融化）が著しく進んできている。日々のニュースなどでは、この金融グローバル化に関連した出来事がしばしば取り上げられてきている。国際金融論Ⅱでは、国際金融の基礎的な理論を理解した上で、金融グローバル化が進んできた歴史的な過程と国際金融の現状について学ぶ。

【到達目標】
国際金融論Ⅱは、国際通貨体制や国際金融の現象について、第一次大戦前の国際金本位制から現在に到るまでをだどりながら、その背後にある流れを捉え、国際金融の現状をより深く理解することを目標とする。この講義を通じて日頃われわれが耳にする国際金融のニュースが理解しやすくなれば良いと考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はパワーポイントを用いるとともに、個別のテーマについて毎回完結した内容の講義を行う。また、できる限り多くの資料を用いることによって理解しやすいように努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国際通貨体制とは何か。その定義と分析視角について学ぶ。
第2回	第一次大戦前の国際金本位制	第一次大戦前の国際金本位制の基本的な特徴について学ぶ。
第3回	両大戦間期の国際通貨システム	両大戦間期の再建金本位制がなぜ短命に終わったのかを学ぶ。
第4回	ＩＭＦの形成	1930年代の国際金融の混乱と戦後の国際通貨体制を構想したブレトンウッズ会議での議論について学ぶ。
第5回	ブレトンウッズ体制(1)	戦後のブレトンウッズ体制の基本的な特徴について学ぶ。
第6回	ブレトンウッズ体制(2)	戦後のブレトンウッズ体制の問題点とその崩壊過程について学ぶ。
第7回	変動為替相場制度	変動為替相場制度の長所と短所および様々な為替相場制度の特徴について学ぶ。
第8回	石油危機と累積債務問題	1970年代の石油危機が国際金融にもたらした影響と1980年代の途上国の累積債務問題について学ぶ。
第9回	1980年代の日米経常収支不均衡	1980年代以降生じている日米の経常収支不均衡の問題について学ぶ。
第10回	国際金融の政策協調	1980年代のドル高を是正するための国際政策協調の過程と国際政策協調の理論について学ぶ。
第11回	1990年代の円高問題	1990年代の円高をもたらした要因と内外価格差の原因につて学ぶ。
第12回	欧州通貨統合	ユーロの導入に到る欧州の通貨統合の過程について学ぶ。
第13回	通貨危機	1990年代の３つの通貨危機についてその過程をたどるとともに通貨危機の理論を学ぶ。
第14回	通貨危機から金融危機へ	1997年のアジア通貨危機から2008年のリーマンショックに到るまでの国際金融の流れを学ぶ。
第15回	ユーロ危機	ギリシャの経済危機に端を発するユーロ危機についてその過程と背景について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に国際金融論に関する文献の中の該当する箇所を読んで講義に臨むと理解しやすい。文献は特に指定しないが、以下の参考文献として挙げているもののうち初級レベルのものが読みやすい。また、日頃からテレビや新聞などの国際金融に関するニュースに関心を持っておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
(1)初級レベルの参考書
・秦忠夫・本田敬吉・西村陽造『国際金融のしくみ』[第４版]有斐閣、2012 年
・山本栄治『国際通貨システム』岩波書店、1997 年
・石見徹『国際通貨・金融システムの歴史』有斐閣、1995 年
(2)中級レベルの参考書
・上川孝夫・矢後和彦編『国際金融史』有斐閣、2007 年
・上川孝夫『国際金融史』日本経済評論社、2016 年
・田中素香・岩田健治編『現代国際金融』有斐閣、2008 年
・勝悦子『新しい国際金融論』有斐閣、2011 年
・川上孝夫・藤田誠一編『現代国際金融論』[第４版]有斐閣、2012 年
(3)資料集
・神田眞人編『図説国際金融2015-2016 年版』財経詳報社、2015 年

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（30 %）と試験（70 %）による。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

MAN300TG（経営学 / Management 300）

日本経営論(前期メディア)

金　容度

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義する。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象について考える能力を高める。

【到達目標】
この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
第1講はイントロダクションと、「日本的経営」についての議論の流れを概観します。第2講から第5講では、日本の経営についての国内外の諸議論を具体的に検討し、第6講から第10講までは日本の企業システムの特徴を踏まえて、アメリカや韓国の企業システムとの比較を行います。第11講から15講では、日本の企業間関係に焦点を合わせて、企業間取引、メインバンクシステム、企業集団を検討します。その際、各国の多様性と共通性の総合的な理解に重点をおきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	全15講の概観、「日本的経営論」の流れの概観	本授業で日本の企業経営を見る主な視点を説明した上で、日本の経営についてのこれまでの研究動向を講義する。
第02回	「日本的経営特殊論」	間宏氏の議論を中心に、日本の企業経営の特殊性を強調する議論を検討する。
第03回	「日本的経営普遍論」	小池和男氏の議論を中心に、日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する
第04回	日本の経営についての海外からの議論(1)	ジェームス・アベグレン氏とエズラー・ヴォーゲル氏の議論を中心に、日本企業についてのアメリカでの議論について講義する。
第05回	日本の経営についての海外からの議論(2)	ウィリアム・オオウチ氏のZ理論、パスカルとエイソスジェームス氏の議論について講義する。
第06回	戦後日本企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などを中心に、日本の企業システムを考察する
第07回	日米の労使関係史比較：「3種の神器」は日本だけの特徴だったのか？	工業化初期と成長期の日米労使関係にどのような類似点が存在したかを講義する。
第08回	日米の企業システムの比較(1)：1970年代までの米企業システムを中心に	日米の共通点に注目して、19世紀末から20世紀前半までの米大企業の特徴を描き出す。
第09回	日米の企業システムの比較(2)：1980年代以降の米企業システムを中心に	主に、1980年代以降のアメリカ企業の変化を検討し、日本の企業経営への示唆点を検出する。
第10回	日韓の企業システムの比較	企業システムの日韓比較を行う。
第11回	日本の企業間取引の特徴：自動車産業の事例	戦後、日本の自動車部品取引の事例を取り上げ、日本の企業間関係の特徴を考察する。
第12回	日米の企業間取引の比較：：自動車産業の事例	米自動車産業における企業間取引の歴史と特徴を検討した上で、日米比較を行う。
第13回	日韓の企業間取引の比較：：自動車産業の事例	韓国の自動車産業における企業間取引の歴史と特徴を検討した上で、日韓比較を行う。
第14回	メインバンクシステム	企業間関係の事例として戦後のメインバンクシステムを、市場性と組織性の絡み合いという視点から講義する。
第15回	企業集団	企業間関係の事例として企業集団を取り上げ、その特徴、機能、最近の変化を、市場性と組織性という視点から講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書の中で、毎回授業テーマと関連すると思われる部分を事前に読んでから授業に臨んでください。また、復習の際、毎回の授業中に紹介される参考文献のうち、少なくとも1点を読んでください。これは、復習時の理解度を高める重要な方法です。

【テキスト（教科書）】
指定はありません。

【参考書】
橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直『現代日本経済』(第3版)有斐閣、2011年
浅沼萬里『日本の企業組織革新的適応のメカニズム』東洋経済新報社、1997年

【成績評価の方法と基準】
中間リポート(30％)、メディアスクーリング試験(70%)で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
もし、授業内容についての質問があれば、中間リポートの提出時、中間レポートの最後に一緒に書いて提出してください。
中間リポートの採点後、リポートについてのコメントと共に、質問への答えも返します。

【Outline (in English)】
I will lecture the status quo and history of business management in Japan with international comparison. The objective of this course is to understand business management in Japan more deeply from the perspective of international comparisons.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

ファイナンス論Ⅰ／現代ファイナンスA(前期メディア)

山嵜　輝

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融・証券市場の基礎知識および債券と株式を対象とした証券分析がテーマとなります。

【到達目標】
本授業では、初めてファイナンスを学ぶ学生を対象にファイナンス理論の入門的な内容を講義します。主なテーマは、金融・証券市場の基礎知識と債券・株式の計量分析です。授業の到達目標は、①金融・証券市場の基礎知識を習得する、②株式と債券のしくみを理解し、基本的な計量分析や価格評価ができる、③初等的な確率論をもちいて不確実な将来キャッシュフローの評価手法を説明することができる、の3つになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
金融・証券市場の概観や基礎用語を紹介した後に、金融商品の現在価値の考え方や株式・債券の基本的な分析手法を解説します。分析に必要な数学の解説は適宜行いますが、中学・高校のごく簡単な数学の知識（2次方程式、1次関数や2次関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）は予備知識として必要です。授業の方法は、講義形式で行います。スライドを事前に準備しますので、講義内容に合わせて参照してください。また、適宜ホワイトボードに板書をしますので、必要に応じてメモをとるようにしてください。計算例題では電卓（関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトでも可）を使いますので用意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	「金融・証券市場の概観」	金融・証券市場の分類、機能、店頭取引と取引所取引、部門別資金過不足などについて概説します。
第02回	「本邦の債券市場」	債券の種類、発行形態、国債市場と社債市場、発行市場と流通市場などについて講義します。
第03回	「本邦の株式市場」	株式の種類、株式の保有構造、売買のしくみ、発行市場と流通市場などについて講義します。
第04回	「キャッシュフローと現在価値(1)」	キャッシュフローの概念を矢印図をもちいて把握する方法、将来価値、現在価値、複利の概念について講義します。
第05回	「キャッシュフローと現在価値(2)」	付利期間、連続複利、割引率の概念、連続複利でもちいられるネイピア数について講義します。
第06回	「債券分析入門(1)」	利付債と割引債の価格計算、債券投資の収益率、パーレートの概念について講義します。
第07回	「債券分析入門(2)」	スポットレートとフォワードレートの概念について講義します。
第08回	「債券分析入門(3)」	金利の期間構造、イールドカーブの決定仮説、イールドカーブの間の関係について講義します。
第09回	「債券分析入門(4)」	債券投資のリスク、債券のリスク分析、デュレーションによる債券価格の近似方法について講義します。
第10回	「債券分析入門(5)」	債券の信用リスクと格付けについて概説した後に、社債分析で必要な確率の基礎知識（事象、確率測度、確率変数、期待値など）について講義します。
第11回	「債券分析入門(6)」	社債価格の評価手法、企業の経験的デフォルト率、インプライド・デフォルト率について講義します。
第12回	「株式分析入門(1)」	株価評価モデルである配当割引モデル（ゼロ成長モデル、定率成長モデル）について講義します。
第13回	「株式分析入門(2)」	株価評価のための財務分析を概説した後に、配当割引モデルによる株式分析について講義します。
第14回	「株式分析入門(3)」	株価評価モデルであるフリーキャッシュフロー割引モデルと残余利益モデルについて講義します。
第15回	「株式分析入門(4)」	PER、PBR、配当利回り、益利回り、企業価値EBITDA比率などの株式投資尺度について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スライド資料の復習を十分に行って下さい。

【テキスト（教科書）】
スライド以外には特に指定しません。

【参考書】
『新・証券投資論Ⅱ（実務篇）』（伊藤敬介他著、日本経済新聞出版社、2009年）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は中間リポート40％、リポート試験60％の合計100％です。リポートによってメディアの授業内容（小テストを含む）の理解度を確認し、成績評価を決定します。したがって、メディア授業の理解と小テストへの取り組みが何よりも肝要となります。

【学生の意見等からの気づき】
ファイナンスは難しいとの印象を持っている学生が多いようですが、基礎からしっかりと学べる講義となっています。現代の経済・経営を理解するためには必須の内容なので、みなさんの積極的な履修を期待しています。

【その他の重要事項】
担当教員は、民間金融機関及び中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
This course offers an introduction to finance theory to students who start learning finance. It has three objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To give students basic tools for analyzing securities such as government bonds, corporate bonds, and stocks. (3) To provide students with an introductory asset pricing theory for evaluating the present values of uncertain future cash flows.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

現代経済学Ⅱ／ミクロ経済学B(前期メディア)

林　直嗣

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学は価格や生産量などミクロの経済量をベースに、消費者や企業、政府など個別経済主体の経済行動を分析する。経済のミクロ的な諸問題を分かり易く丁寧に解説することを通じて、履修生がミクロ経済への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることが目的である。

消費者や企業、政府など個別の経済主体の行動に焦点を当てて分析するのが、ミクロ経済学である。経済成長とか景気循環など国民経済全体の運動法則を解明するマクロ経済学が、森林全体を鳥瞰するのに対して、ミクロ経済学はその個々の木々を調査するといえる。

消費者の需要行動、企業の生産活動、市場価格の決まり方、独占価格の問題点、賃金や利潤などの分配、投資と資本蓄積、市場機構の限界と政府の役割、民主的意思決定機構など私たちの身の回りの経済問題について着実にしかも体系的に学修する。

【到達目標】
各個人の身の回りから日本経済や世界経済に至るさまざまな経済問題を、消費者や企業、政府などの個別経済主体の視点から理解する力をつけることを目標とする。この講座をとることにより、皆さんはミクロ経済学の素養を体系的に身につけることができる。単に理論を勉強するだけにとどまらず、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実社会に出て役に立つ分析力を養うトレーニングも目標とする。それにより公務員試験やファイナンシャルプランナー試験など各種資格試験や就職試験に役に立つ実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
単に理論を勉強するだけでなく、公認会計士試験や国家公務員試験、あるいは就職試験などに備えるため、章ごとに具体例を用いた実践的な問題演習を解いて、能動学習（アクティブラーニング）を行う。こうした演習問題を積極的に解くことは、実際の分析力を養う上で必須のトレーニングであり、各種資格試験や就職試験のための実践力を涵養する。授業方法は、先ず教科書を読み、ウェブ授業を視聴し、ウェブ上の問題演習を解いてみる。解けない場合は冊子の問題演習を見て理解を深める。またWeb上のディスカッションで先生と質疑応答をする。それをステップ順に学習していけば、学習目標を達成できる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	第6講1 独占市場1	独占市場の基礎概念や考え方を解説する。
第2回	第6講2 独占市場2	独占市場の進んだ理論を説明する。
第3回	基礎問題6	独占市場について、基礎的な穴埋め問題を解く。
第4回	応用問題6／独占市場	独占市場について、進んだ計算問題を解く
第5回	第7講 所得分配	所得分配の基礎概念や考え方、理論を解説する。
第6回	基礎問題7	所得分配について、基礎的な穴埋め問題を解く。
第7回	応用問題7／所得分配	所得分配について、進んだ計算問題を解く。
第8回	第8講 資本と利子	資本と利子について基礎概念や考え方、理論を解説する。
第9回	基礎問題8	資本と利子について、基礎的な穴埋め問題を解く。
第10回	応用問題8	資本と利子について、進んだ計算問題を解く。
第11回	第9講1 厚生経済学と社会選択1	厚生経済学と社会選択の基礎概念や考え方を解説する。
第12回	第9講2 厚生経済学と社会選択2	厚生経済学と社会選択の進んだ理論を解説する。
第13回	基礎問題9	厚生経済学と社会選択について、基礎的な穴埋め問題を解く。
第14回	応用問題9	厚生経済学と社会選択について、進んだ計算問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、Web授業を聴講し、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む積極的態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。

【テキスト（教科書）】
【教科書】
林直嗣著『経済学入門』新世社（入門・初級の教科書）2013年
【問題集】
林直嗣著『問題演習ミクロ経済学　再訂版』（基礎と応用の問題からなる問題集）2010年
※印刷教材であるのでテキスト、問題集ともに必要です。生協では10％割引で入手できます。

【参考書】
林直嗣著『ミクロ経済学入門』世界書院（初級の教科書）1992年

【成績評価の方法と基準】
中間のレポート添削（約20点）と期末の定期試験（約50点）を行う。それらの総合点を出し、問題の難易度や当該クラスのでき具合などをすべて調整した上で、全員の得点分布を算出し、最新の成績理論に基づいて、その客観的な得点分布に基づく合理的で歪みのない相対評価により成績をつける。

【学生の意見等からの気づき】
学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【その他の重要事項】
公務員試験や会計士試験などの資格試験や就職試験では、経済学の出題傾向が専門化しているので、理論だけでなく問題演習もすることが望ましく、この授業をとることを特に勧める。

【Outline (in English)】
Microeconomics analyzes economic behaviors of individual economic agents such as consumers, firms, and governments based on microeconomic quantities such as price and production volume. What and how does a consumer demand, how does a firm plan production, how is the market price decided, why is monopoly a problem, how are wages and profits distributed, how are investment and capital accumulation carried, what are the limits of the market mechanism and the role of a government, how can democratic decision-making mechanisms be made, how does uncertainty affect economic activities, etc. We explain these problems easily and systematically.

ECN100TA（経済学 / Economics 100）

経済学(資本と利子から経済を考える)(後期メディア)

水野　和夫

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学の基本を学ぶことで、現在世界的に問題となっている格差、先進国経済の長期停滞、および日本のデフレの原因などを解明することができ、さらに、どうすれば解決の方向に向かうとができるを学ぶことができる。
後半では、経済学が根底にもっている考え方を学ぶことができる。

【到達目標】
アベノミクスの成否、トランプ大統領が今後とるであろう保護主義的な経済政策、EUは維持されるのか解体されるのか、21世紀の抱える課題について、みずからが判断できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
メディアスクーリング上で講義形式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	経済学の基本概念・・・資本について①	資本とはなにか、①現在の主流の考え方（フィッシャーの資本概念）、②マルクスの資本概念、③両者の違いについて
第2回	経済学の基本概念・・・資本について②	ケインズの資本概念と「利子生活者の安楽死」について
第3回	経済学の基本概念・・・ストックとフローについて	GDPとは、ストックである資本とフローである所得（GDP)の関係
第4回	経済学の基本概念・・・利子率について	フィッシャー方程式、名目利子率＝実質利子率+期待インフレ率
第5回	日本とドイツの10年国債利回りゼロの原因	利子率ゼロはなにを意味しているのか、17世紀初頭のイタリア・ジェノバの「利子率革命」と現在の日独の比較
第6回	資本と利子率の関係について	資本係数とは、資本の過剰と利子率ゼロの関係について
第7回	グローバリゼーションと新自由主義について	グローバリゼーションが1980年以降、台頭してきた背景、金融化現象について
第8回	グローバリゼーションがもたらした結果について	格差の拡大の現状、中間層の没落の背景など
第9回	グローバリゼーション論争について	グローバリゼーションは近代の現象か否か、グローバリゼーションは近代システムを崩壊させるのか
第10回	グロバリゼーションの現状と米国保護主義台頭の背景	米国中産階級の現状
第11回	13世紀の資本論	中世ヨーロッパで「利子」が公認された背景
第12回	近代の始まりにおけるイギリスの資本主義について	東インド会社、南海会社、イングランド銀行、「海賊資本主義」、「陸と海のたたかい」
第13回	18世紀後半以降の産業革命とは	経済成長におけるエネルギーの重要性
第14回	21世紀の社会はどうなるのか	IoT、ビッグデータ、AIなどの技術革新と経済政策
第15回	まとめ	第1回から14回までの講義のなかで説明が不十分だった箇所や、全体を通じて重要なことを再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
パワーポイントで作成した資料を事前に読むことで、授業の内容が理解できる。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
『資本主義の終焉と歴史の危機』（水野和夫、集英社新書、2014）
『閉じてゆく帝国と逆説の21世紀経済』（水野和夫、集英社新書、2017）

【成績評価の方法と基準】
中間テスト（30％）と期末のメディアスクーリング試験（70％）の合計。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎特講(文学の楽しみ方)(後期メディア)

長谷　俊雄

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「こうすれば、文学はもっと楽しく読むことが出来る、もっと深く鑑賞することができる」をコンセプトにした文学講義です。この講義では入りやすい入り口をいろいろ工夫しています。自然に文学の世界に入ってゆけるようにです。

【到達目標】
知識としての理解だけでなく、感動をともなった理解、これが到達目標です。感動すれば自然に好きになります。これも到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
文学をいろいろな角度から眺めようと思います。角度を変えて眺めると、外国の文学も日本の文学も、また違った顔を見せます。
さらに、文芸評論家の粟津則雄氏（法政大学名誉教授）をお招きし、文学、芸術についていろいろお話を伺います。
文学的感動のある人生は素晴らしいものです。共有しましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	粟津則雄特別談話	本学名誉教授の粟津則雄先生（芸術院会員）をお招きしての特別講義です。
第2回	粟津則雄に聞く（対談Ⅰ）	本学名誉教授の粟津則雄先生（芸術院会員）から、文学、その他にまつわる貴重なお話を伺います。フランス文学、文芸評論、美術評論、音楽評論と、関心領域は多岐にわたっています。
第3回	粟津則雄に聞く（対談Ⅱ）	第2回の続き。
第4回	『ガラスの動物園』	自分のなかに閉じこもる主人公の複雑な心理。
第5回	モディリアーニ	モディリアーニと女性たち。
第6回	田中一村	一村の生き方の矛盾とやさしさ。
第7回	永井荷風	文人趣味の荷風、写真機の不思議。
第8回	グレタ・ガルボの美術収集	徹底した自分の生き方。
第9回	「その後の田端文士村」芥川龍之介、室生犀星、萩原朔太郎	3人の友情が語るもの。
第10回	白い京都と桜	雪のなかをあるき、桜を観る。
第11回	アメリカはどのような国かⅠ（歴史的展開）	移動の意味とは何か。
第12回	アメリカはどのような国かⅡ（文学から見た）	二次大戦以降の名作。
第13回	『セールスマンの死』とアメリカン・ドリームの死	カバンの中身はなにか。
第14回	エルヴィス・プレスリーとアメリカン・ドリームの光と陰	なぜ老若男女が熱狂するのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざまな時代の、さまざまな作家、作品が登場します。調べたことをただ叙述するのではなく、もし自分がその時代に生きていたならば、自分がその作家であったならば、という直裁的な感覚をもって講義を聴いてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
直接、作品を読んでください。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（40%）と試験（60%）による総合評価。講義をきちんと聴き、その上で、自分の感じたこと、考えたことを書いたリポートを高く評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Many approachs to the Literature.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S(後期メディア)

今井　澄子

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学習の基礎となる英文読解力をチャンク読みを通じて養成し、あわせて読解に必要な英文法・構文の知識を確実にして英語力を高める。

【到達目標】
基本的な英文法・構文の知識を得て、３００語程度の英文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストにある文法項目の説明、英文パッセージの読解、および、演習問題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	主語	Unit 1 All You Have to Do Is Press a Key
第2回	目的語と補語	Unit 2 Why Does It Feel Easier to Run Counter-clockwise?
第3回	受動態	Unit 3 Crusaders: Their Influence Is Still Felt
第4回	不定詞	Unit 4 Beethoven, the First Composer to Keep His Independence
第5回	分詞構文	Unit 5 A Plague Carried by Rats
第6回	「心」を表す助動詞	Unit 6 You Could Be a Great Runner
第7回	関係詞節	Unit 7 The Face That Tells the Truth
第8回	it構文	Unit 8 Character and Blood Type–It's Easy to Trick Ourselves
第9回	無生物主語	Unit 9 15-minute Naps Will Make You a Genius
第10回	仮定法	Unit 10 If We Didn't Eat So Many Hamburgers, . . .
第11回	従属接続詞	Unit 11 What Happens When You Use a Barcode Reader?
第12回	否定構文	Unit 12 You Can't Lie Without Showing It
第13回	形態素	Unit 13 Prehistoric Creatures
第14回	比較表現	Unit 14 Family Names or Given Names: Which Are Better?
第15回	句動詞	Unit 15 I'll Never Get Rid of My Microwave

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
辞書を使って英文をあらかじめ読み、演習問題等も自力で解いてから解答や解説を確認する。理解しにくい箇所はよく復習する。

【テキスト（教科書）】
「Power Reading 1: Reading in Chunks」成美堂

【参考書】
各種英和辞書。英文法や構文の参考書。

【成績評価の方法と基準】
評価は中間リポート(100点満点)、および、期末試験(100点満点)の得点の平均を算出し、60％以上の得点、すなわち、平均点が100点満点中60点以上で合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
メディア内部の例文、小テスト等の問題文・和訳は、テキストおよびテキスト付属の指導書にあるものを使用している。このため、小テストおよび試験問題に関する質問、メディア内部、中間リポートおよび期末試験問題についての修正要求は受け付けない。また、諸般の事情により、質問には回答しかねる場合がある。なお、中間リポートと期末試験のいずれも成績評価に入るため、どちらかひとつだけしか提出しない場合は評価対象とならない。成績評価の方法と基準を確認のうえ、適切な対応をお願いしたい。

【Outline (in English)】
This class focuses on reading an English sentence in chunks. A chunk is a group of words to have some meaning and function in every English sentence. The method of reading in chunks enables students to read English more smoothly with a natural speed. To divide an English sentence into several chunks, we need to have enough knowledge of grammars and sentence constructions of English language. Starting from five patterns of the English sentences, students learn a basic English grammar essential to read an English passage such as tense and aspect, voices, relative clauses, inanimate subjects, verbals, subordinate conjunctions, auxiliary verbs, comparative/superlative adjectives or adverbs, a subjunctive mood, and so on. To acquire a credit, it is required for a student to have an enough average score (over sixty percent) of two kinds of exams—a mid-term report and a final examination.

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

健康・スポーツ科学概論(健康づくりと運動の基礎理論)(後期メディア)

伊藤　マモル

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今後の**自分自身の健康管理**を、身体運動を用いた**セルフメディケーション**によって行うという考え方で、到達目標に取り組み、自分自身の生活の質を高めていくこと。

【到達目標】

健康は、「失って初めてその大切さがわかる」と良く言われます。これは、健康を害している人、あるいは害した経験がある人に比べ、健康に問題を感じない人々は健康に対する関心が総じて薄いということではないでしょうか。

多くの人にとって、**健康は人生を支える基盤**だという見方ができます。仕事、趣味、日常生活など、自分の目標を成し遂げようとするとき、心身がより健康な状態である時の方が、その達成度は高いと言えるからです。自分が持つ最高のパフォーマンスを発揮しようと思うなら、少なからず健康である方が望ましいということです。

その一方で、気をつけなければならないのは、近い将来、日本では**不健康であることが経済的にも社会的にも不利になる時代が到来する可能性が高い**かもしれないということです。

そこで、この「健康・スポーツ科学概論」を通じて、「今の自分の心身」をいつまでも**良好に保ち**続け、**より豊かな人生を築く**ための一助としてください。達成してほしい目標を以下に示すので、自分のペースで取り組んでください。

【到達目標】
1．健康管理の概念を述べることができる
2．基本的な解剖学用語を使用することができる
3．スポーツが健康づくりに及ぼす効果を説明できる
4．身体のコンディションの測定方法を列挙できる
5．自分自身のBMIを算出できる
6．有酸素トレーニング中の目標心拍数をカルボーネン法で算出できる
7．スポーツ傷害を解説できる
8．スポーツ傷害の予防方法について説明できる
9．運動の原理を列挙できる
10．スポーツによって生じる可能性が高い内科的障害について解説できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

現代人の健康状態は半健康人と表現されるように必ずしも良好とは言えません。昨今の我が国では、生活習慣病ならびに超高齢化に伴う医療、福祉、介護に伴う医療費高騰などの問題を抱えています。より良い人生を築くためには、少なくとも健康であることが重要ではないでしょうか。その健康を支える手段に運動（健康づくり）があるという視点に立って本講義を受講してほしいと思います。

本講義では、セルフメディケーションという観点から運動やスポーツを自分自身の健康管理に活用するための知識を深めることを目標とします。そこで、授業は運動やスポーツを将来の生活に根付かせるための知識と実践方法に触れられるよう、必要に応じて**実習を交えた講義形式**で展開します。**前半**は測定評価と手軽な運動を紹介し、**後半**はテキストと補足資料を用いた健康づくりに役立つ知識を解説します。

特に前半では、**今の自分自身の健康や体力の状態を振り返る**ための測定と評価を行った上で、測定によってその身体能力や機能が衰えている可能性がある場合に対して、その改善に役立つ手軽な運動を紹介しますから、**運動の習慣化**に役立ててください。

※セルフメディケーション・・・自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てするという概念（WHO:世界保健機関）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	コンディショニングとセルフメディケーション	1．健康を見直そう（1：以前のようにカラダは動くか？ 2：何のための健康か？） 2．コンディショニングの概念 3．セルフメディケーションと運動 4．必要な体力とは何か？ 5．本講義の概要と紹介
第2回	運動の必要性と測定評価I	1．測定の意義（1：何のための測定か？　2：健康関連体力） 2．体力要素別の各種測定 3．必要な体力とは何か？（体育会フェンシング部を例に）
第3回	運動の必要性と測定評価II	1．姿勢を見直そう（良い姿勢と悪い姿勢） 2．姿勢と腰痛・肩こり 3．腰痛（1：ぎっくり腰　2：腰椎ヘルニア） 4．腰痛を予防緩和する運動 5．肩こりを予防緩和する運動
第4回	運動の必要性と測定評価III	1．肥満度と身体組成 2．防衛体力と基礎代謝 3．肥満の予防解消と運動
第5回	体脂肪率をコントロールする	1．エネルギー摂取量と消費量 2．カルボーネン法 3．運動の原理・原則 4．体脂肪のコントロールと食事時間
第6回	柔軟性を高めるI	1．ストレッチングの効果 2．ストレッチングの意味 3．ストレッチの効果を高めるために
第7回	柔軟性を高めるII	1．パートナーストレッチ 2．セルフストレッチ（肩こり） 3．セルフストレッチ（腰痛）
第8回	筋力を高めるI	1．筋力とは 2．筋力を保持増進する理由 3．筋力を高める方法
第9回	筋力を高めるII	1．ウォームアップの意義 2．筋力トレーニング実施上の注意 3．自宅の部屋や職場のデスク周辺で行える手軽な運動の実際
第10回	運動中に起こりやすい怪我と処置	1．立ち上がりテスト 2．スポーツで起こる怪我の種類 3．スポーツ外傷とＲＩＣＥ処置 4．創傷と湿潤療法
第11回	運動中に起こりやすい怪我（スポーツ外傷）	1．1・2歩テスト 2．捻挫 3．骨折 4．脱臼 5．肉離れ 6．その他 7．応急処置

第12回	運動中に起こりやすい痛み（スポーツ障害）	１．長座位体前屈 ２．筋肉痛 ３．下肢のスポーツ障害とその原因 ４．上肢のスポーツ障害とその原因 ５．スポーツ障害の予防
第13回	運動中に起こりやすい内科的障害	１．大腿四頭筋の柔軟性 ２．メディカルチェック ３．急性障害と慢性障害 ４．特殊環境下 ５．救急処置・心肺蘇生法
第14回	運動後の疲労解消	１．敏捷性 ２．疲労 ３．疲労解消：入浴、オイルマッサージ、アロマセラピー ４．痛み解消：マイクロカレント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを参照して各回の予習をしてほしいと思います。しかし、予習よりも意識して取り組んでほしいのは復習です。抽象的な表現になりますが、各回で紹介する「手軽な測定」を試すことは、自分の健康を振り返るきっかけとなるでしょう。その気づきから、健康を保持増進するために実践すべき課題を自ら見出してもらうことを期待しています。

【テキスト（教科書）】

伊藤マモル監修『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論（増補改訂版）』が2017年12月に発行されましたが、本科目で扱っている課題は全て含まれています。旧テキストを使用してもまったく問題ありません。

【参考書】

1.伊藤マモル「若さを伸ばすストレッチ」平凡社新書、2009年
2.伊藤マモル監修「DVD付・基本のストレッチ」主婦の友社、2009年
3.伊藤マモル「もっと伸びるストレッチング」スキージャーナル社、2008年
4.伊藤マモル監修「痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング」日本文芸社, 2013年
5.山本利春「疲れたときは、からだを動かす」岩波書店、2006年
6.斎藤恭平編「健康・運動・スポーツのTopics」八千代出版、2002年
7.小島康昭他「からだ・健康・スポーツ」サンウェイ出版、2002年
8.清水昭他「体温を上げて健康な体を手に入れる」ブティック・ムック通巻878号

【成績評価の方法と基準】

１．中間テストを2回行います。第**7講**終了後と、第**14講**終了後に設定しています。
２．単位取得のための中間テストの評価配分は各々**30％**で、合計**60％**を基礎点として評価します。**中間テストの評価は総合評価に大きく影響**しますから、必ず中間テストは受けてください。
３．単位取得のための最終課題であるレポート試験の評価配分は**40％**です。
４．基礎点と加算して総合的に評価します。つまり、基礎点60点＋レポート課題40点、合計100点満点として、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートのみならず、リポートやメールで受けた学生からの授業内容に関する意見は真摯に受け留め、授業内容の改定時に修正していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

メディア教材を利用できる環境を各自で構築してください。

【その他の重要事項】

本科目の意図をくみ取って、授業で学習した内容を実生活に活かしてほしい。

【Outline (in English)】

The purpose of this subject is to learn to manage health by ajusting attitudes that improve the quality of life.
For that purpose, students have to measure physical strength measurements yourselves. And students prepare a report on the tasks presented as the main teaching materials based on the physical fitness measurement results.
Also, the learning outcome you gained during the process of reporting is evaluated by written exam.

BSP100TB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（グローバル現代史）（後期メディア）

鶴見　直人

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「グローバル現代史」では、①現代世界における諸問題を理解するため、②現代史を整理した上で、③ここから浮かび上がる問題の根本原因について検討してゆきます。その過程で、グローバルな権力関係がいかに展開してきたのかについて掘り下げることなどを通して、多角的・多面的に世界を捉えることを目指します。
そのためにも「世界で何が起きているのか？」という問いを起点とし、この理解を深められるよう2011年からのシリア情勢の事例を入り口に据えています。ここからイシュー（問題群）を整理しつつ、大国の関与や中東地域の政治力学、内戦とこれへの非国家主体の関与といった状況について解きほぐした後で、それぞれの歴史的な背景の理解へと分け入ります。国際政治学の知見を基盤としながらも、このディシプリンひとつに固執することなく、柔軟にアプローチすることで、国際社会の現状について見識を深めることが本講義の目的です。

【到達目標】
日本を取り巻く状況を含め、グローバルな政治状況の変化が指摘されている中では、「なにが・どのように変わっているのか？」を見定めることが重要です。自ら情報を収集しながら分析するためにも、マス・メディアやソーシャル・メディアなどから得られる情報の中から、有用なもの・確度の高いものを客観的に判断する力をつけておくことが必要となります。「グローバル現代史」は、そのための情報の取捨選択と、その基準となる知識を整理し、これらを基盤とする思考の枠組み、その活用方法を修得することを目標とします。
講義で触れてゆく、21世紀に入ってからの現代史と、その基層をなしている（主に）20世紀の歴史について、それぞれを「過去の事実として知っている」ことに止めるのではなく、これらと今日の問題とを因果関係で結びつけて説明できるようになること目指してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：現代世界の問題から考える（シリア情勢を事例に）	2001年の「9・11」、2011年の「アラブの春」といった事件は、現代世界に大きな影響を与えた。これらの現代史的意義を整理した上で、特に後者と関連するシリア情勢を概観する。
第2回	現代世界の問題：国際政治学から診るシリア情勢の整理と分析	シリア情勢は内戦にとどまらない国際問題であり、複雑な様相を呈していることから、その理解を助けるべく、グローバル／地域／国内の３つの次元にレベルを分け、それぞれの違いや特色についておさえ、個別に検討してゆくための準備を行う。
第3回	大国と国際政治	グローバルな次元から見たシリア情勢について、特に大国の対立がいかにしてシリア内戦を「終わらせない」力学として作用しているのかについて検討する。
第4回	地域における国際政治	シリア内戦が終結しないのは大国の影響ばかりではない。周辺諸国からなる「中東地域」における政治力学もまた同様に紛争解決の阻害要因となっていることから、この点について整理する。
第5回	内戦とテロと国際政治	長期化し、混迷を深めていたシリア内戦の惨劇に拍車をかけたのは、2014年のISILの出現であった。国際社会と対決することになった背景を分析し、ISILの存在が主権国家、国民国家、そして国際社会が共有する価値や制度に挑戦するものであったことを提示する。
第6回	国際政治の史的展開：主権国家の成立と拡大	第５回までに整理された現代の国際政治の課題について、歴史を遡って掘り下げてゆく。第６回では主権国家という領域的な統治体制、つまり「枠組み」に着目する。
第7回	国民国家の出現とその変化	現代の国際社会を構成する基本単位は主権国家であり、今日では国民国家とも呼ばれる。両者は互換的に使用されることも多いが、違いに注視するなら、それは主権国家のナカミである「国民」への注目ということになる。国民国家の出現とナショナリズムの変化について通史的に検討する。
第8回	大国間の国際政治史	国際政治に大きな影響力を持つ大国は、歴史的に交替を繰り返してきた。今日もまた大きな変化の中にあるとされる研究動向を踏まえつつ、19世紀以降の大国の推移にも視野を広げながら、現状分析のための題材を整理する。
第9回	国際政治における「地域」の形成史	複数の国家を地理的にまとめてとらえる「地域」は決して自明な存在ではない。「中東」という地域の形成について歴史的にも遡行し、大国（帝国主義）との関係や、過去から連続する問題点について検討する。
第10回	価値や制度のグローバル化	第６回から第９回までに触れてきた国際政治史をテーマに即して捉え直す。第10回では人権・民主主義・法の支配といった、西洋に起源を持つ価値や制度のグローバル化とその限界について触れてゆく。

第11回	９・１１以後の世界：対テロ戦争とグローバルな監視社会	９・１１は、第10回で触れる西洋期限の価値や制度が拡大することの限界として捉えられる契機となった。この事件の捉え方、特にこれを機に変化した安全保障についての変化に注目し、今日の世界の課題を整理する。
第12回	世俗化と再宗教化	９・１１以降、宗教とテロリズムが結びつけられ、国際社会の脅威として語られてきた。第12回では（国際）政治と宗教の関係について、主権国家の出現を準備することになった政教分離／世俗化の過程へと遡り、現代につながる変化を跡付ける。
第13回	「民主主義の平和」から「独裁の平和」へ？	冷戦の終結後に注目されたのは「民主主義の平和」論であったが、今日は「独裁の平和」論への警鐘が鳴らされている。ここまで触れてきたテーマを統合しながら「独裁の平和」の含意について検討する。
第14回	まとめ：グローバル化した現代世界の課題	ここまでの講義内容を総括しつつ、全体に通じるテーマについて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シリア情勢について、下記Web記事を読み予習・復習に役立ててください。また、併せて下に挙げる参考文献も活用してください。
末近浩太「これでわかる『シリア内戦』の全貌～そしてイスラーム国が台頭した」（2016年3月25日） https://gendai.ismedia.jp/articles/-/48257
末近浩太「結局のところ、『シリア内戦』は今どうなっているのか？」（2017年8月25日） https://gendai.ismedia.jp/articles/-/52646
末近浩太「なぜシリア内戦は終わらないのか？ 激化する3つの『戦争』」（2018年3月12日） https://gendai.ismedia.jp/articles/-/54722

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。講義の中で関係する文献・書籍を紹介するので、関心に応じて読み進めてください。

【参考書】
臼杵陽『「中東」の世界史』作品社、2018年。
小川裕之・板橋拓己・青野利彦『国際政治史』有斐閣（有斐閣ストゥディア）、2018年。
酒井啓子『〈中東〉の考え方』講談社（講談社現代新書）、2010年。
酒井啓子『９・１１後の現代史』講談社（講談社現代新書）、2018年。
青山弘之『シリア情勢』岩波書店（岩波新書）、2017年。
Newsweek（Web版）青山弘之「シリア情勢」（記事一覧） https://www.newsweekjapan.jp/writer/aoyama/

【成績評価の方法と基準】
中間テスト：４０％
期末試験（期末レポート）：６０％

【学生の意見等からの気づき】
開講初年度につき授業改善アンケート等を実施していない。

LAW100TB（法学 / law 100）

民法総則(民法典全体に共通するルール)(後期メディア)

明石　真昭

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法総則は、主として物権法、債権法に共通するルールを定めていますが、これにとどまらず、私法における共通のルールを定めています。この講義では、民法総則における基礎的な知識を修得することを目的とします。

【到達目標】
①民法を学ぶ上で必要とされる基本的な知識を身に付ける。
②民法総則の基礎的な知識を身に付ける。
③具体的な事例について、判例・学説を踏まえて自分の考えを論理的に展開する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
民法総則について、事前に収録した講義VTRとスライドを用いて、講義形式で進めていきます。初学者にも理解しやすいように、基本的な用語についてはきちんと説明し、可能な限り事例を多く用いて内容をイメージしやすい講義となるよう努めるつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	民法を学ぶにあたっての諸注意、民法の意義、民法の基本原理
第2回	権利の主体①	自然人の権利能力
第3回	権利の主体②	行為能力
第4回	権利の主体③	法人
第5回	権利の客体、法律行為、意思表示①	物とは何か、法律行為とは何か、心裡留保
第6回	意思表示②	通謀虚偽表示
第7回	意思表示③	錯誤、詐欺①
第8回	意思表示④	詐欺②・強迫、意思表示の到達
第9回	代理①	代理の基礎
第10回	代理②	代理行為、無権代理
第11回	代理③	無権代理と相続
第12回	代理④	表見代理
第13回	無効、取消、条件、期限	無効・取消の違い 各種の条件・期限
第14回	時効①	取得時効と消滅時効
第15回	時効②	時効の援用、停止・中断

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
条文を参照しながら配布資料を一読し、疑問点を確認しておくことが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。六法（『ポケット六法（有斐閣）』等、コンパクトなもので良い）を必ず準備してください。

【参考書】
・民法判例百選Ⅰ 総則・物権（第8版）有斐閣
・法律学小辞典（第5版）有斐閣
・基本法コンメンタール 民法総則（第6版）日本評論社

この他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（４０％）および期末リポート（６０％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
中間リポートを添削・評価した際に気が付いたことを総評として提示することとしました。参考にしてください。
昨年度、採点基準が厳しいのではないかとのご指摘をいただきました。科目の難易度や、通信教育という性質などを踏まえて適切に設定しているつもりですが、検討したいと思います。また、問題の内容がわかりにくくならないよう、出題の仕方にも配慮したいと思います。

【Outline (in English)】
This course introduces the general provisions of the Civil Code. For example, Capacity to Act, Juridical Act, Agency, and so on. The aim of this course is to help students obtain basic knowledge about the general provisions of the Civil Code.

LAW300TB（法学 / law 300）

商法総則・商行為法(Ⅰ)(後期メディア)

桜沢　隆哉

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業及び企業取引における法律関係の特質と法規制の理解

【到達目標】
この講義は､全14回の講義で商取引法上の諸制度､内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし､今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力､解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。企業の制度的背景である商取引(企業活動)を理解することにより、会社法等の企業関係法の理解を深化させることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち､「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では商法の中で、第一編総則(商法1条～32条)および第二編商行為(商法501条～628条)を中心に、商取引の進化とともに発展・変化していく「商法」を学び、現代社会における企業・取引活動といった事象について法的な問題意識とその解釈を身に付けることを目的とします。特別な知識や能力は必要ありません。必要なのは、常に「なぜ」と考え、制度の背景事情を観察する知的好奇心と意欲であると考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	序章：商法の歴史	本講義の射程（範囲・対象)、講義の進め方、教科書・文献の紹介、商法の歴史について
第2回	第01章：商法総論	商法の概念、商法の形成と展開、商法の法源、商法と他の法規の適用関係
第3回	第02章：商人と商行為(1)―商人・商行為の概要―	商人と商行為概念と商法の適用について
第4回	第03章：商人と商行為(2)―商人資格の取得時期―、商号(1)	商人と商行為概念と商法の適用時期（商人資格の取得時期)、商号の意義・機能
第5回	第04章：商号(2)―名板貸責任について―	商号と名板貸責任について
第6回	第05章：営業・事業	営業・事業の概念、営業譲渡と営業に関わる利害関係者の調整
第7回	第06章：企業の人的補助(1)―総説・商事代理―	企業の人的補助総説、商法と代理制度
第8回	第07章：企業の人的補助(2)―商業使用人―	商業使用人について（支配人、特定の事項の委任を受けた使用人、物品の販売等の店舗使用人）
第9回	第08章：企業の人的補助(3)―代理商―	代理商（フランチャイズ契約を含む)、代理商の内部関係と外部関係
第10回	第09章：商業登記(1)―商業登記制度の概要と効力―	商業登記制度の意義、内容・手続、商業登記の効力
第11回	第10章：商業登記(2)―不実の登記の効力―	商業登記と不実の登記の効力
第12回	第11章：商業帳簿	商業帳簿の意義、種類・作成、保存・提出について
第13回	第12章：商行為総則(1)―民法と異なる商法の特則―	契約の成立における民法との違い、報酬・利息にかかる民法との違いなど
第14回	第13章：商行為総則(2)―商事担保―	債務の履行確保に関する民法の特則（保証、質権、留置権）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること

【テキスト（教科書）】
大塚英明・川島いづみ・中東正文『商法総則・商行為法< 有斐閣アルマ> 』（有斐閣、第2版、2008年）

【参考書】
(1) 落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法Ⅰ総則・商行為< 有斐閣Sシリーズ> 』（有斐閣、第4版、2009年）
(2) 近藤光男『商法総則・商行為法』（有斐閣、第5版補訂版、2008年）
(3) 江頭憲治郎＝山下友信編『商法（総則商行為）判例百選第5版』（別冊ジュリスト194号、有斐閣、2008年）
テキスト(教科書)は、商法総則・商行為の両分野にまたがり、基礎から応用に至るまで丁寧な説明で書かれており、初めて商法を学ぶ方々にも十分対応しているが、コンパクトに情報を伝えようとしているためか、今後の展開を考えると、その内容を文献(3)で重要判例を補う必要がある。(1)(2)は、資格試験等でよく利用されるものであり、全講義を通して体系的な整理のために利用するのが適切であると考えている。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（1回／30％）およびメディアスクーリング試験（70%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
開始後、「おしらせ」や「ディスカッション」を活用してください。

LAW300TB（法学 / law 300）

国際法総論(国際社会の法秩序)(後期メディア)

岡松　暁子

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】
国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
主として国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	国際法の基本原理	国際法の概念、近代国際法の特色
第2回	法源	法源の意義、国際慣習法、条約、法の一般原則、学説・判例、衡平と善
第3回	条約法	条約の締結手続き、条約の留保、条約の効力、条約の無効、条約の終了
第4回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第5回	国家・国家機関（1）	国家の要件、国家承認、政府承認、国家承継
第6回	国家・国家機関（2）	国家機関
第7回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第8回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的展開
第9回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性、国際組織の権能、国際連合
第10回	国家責任法（1）	国家責任の観念、国家責任の発生要件
第11回	国家責任法（2）	違法性阻却事由
第12回	国家責任法(3)	国家責任の解除、国家責任の追及
第13回	国家領域（1）	国家領域
第14回	国家領域（2）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任、領域権原の取得原因、新国家の成立と承認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当部分をよく読んでから受講すること。

【テキスト（教科書）】
小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法［第2版］』有斐閣、2010年
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣

【参考書】
小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選［第2版］』有斐閣、2011年

【成績評価の方法と基準】
リポート試験、中間リポート課題の総合点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、質問への対応につとめます。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society. Students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

LAW300TB（法学 / law 300）

行政救済法(後期メディア)

氏家　裕順

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、行政救済に関する法を取り上げる。行政救済とは、行政作用によって不利益を受けこれを不服とする私人が、行政を相手に自己の権利や法的利益を主張して、その回復を求めるための制度をいう。これは、行政争訟と国家補償とに区別される。行政争訟は行政上の法律関係をめぐる争訟（ないしそのための制度）であり、行政事件訴訟や行政上の不服申立てを含む。国家補償とは行政作用を中心とする国家活動により損害または損失を受けた私人がそれに対する賠償または補償を求めるための制度の総称である。

各種の行政救済のうち、この授業では、行政事件訴訟について、その概略と解説したうえで、それが抱える現代的課題について検討する。行政事件訴訟は、行政上の法律関係について争いがある場合に利害関係者または法定の原告からの訴訟の提起に基づき裁判所が特殊な訴訟手続を通して争いを解決するものである。

この授業の受講者は、行政事件訴訟法を修得し、とりわけ取消訴訟の訴訟要件について具体的な事例に当てはめて検討することができるようになるとともに、具体的な紛争事例について、取消訴訟以外の抗告訴訟、当事者訴訟および民事訴訟のいずれを提起すべきかを選択できるようになることが期待される。

【到達目標】

①行政事件訴訟の各類型の概要を説明することができる。
②取消訴訟の訴訟要件について説明することができる。
③取消訴訟の判決について説明することができる。
④取消訴訟における仮の救済について説明することができる。
⑤具体的な紛争事例について、取消訴訟の提起が可能かどうか、および、仮の救済が認められるか否かを判定することができる。
⑥取消訴訟以外の抗告訴訟について、取消訴訟との差異を意識しながら、それぞれの訴訟要件、認容要件および仮の救済について説明することができる。
⑦当事者訴訟の類型と訴訟要件を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的な講義形式による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	行政救済法の意義	行政法の体系と行政救済法 行政事件訴訟 行政上の不服申立て
第2回	行政事件訴訟の意義と類型（1）	抗告訴訟、当事者訴訟
第3回	行政事件訴訟の意義と類型（2）	民衆訴訟、機関訴訟
第4回	取消訴訟の概略	取消訴訟の意義 訴訟要件、認容要件 教示制度 取消訴訟の排他的管轄
第5回	取消訴訟の訴訟要件（1）	処分性（取消訴訟の対象）
第6回	取消訴訟の訴訟要件（2）	原告適格
第7回	取消訴訟の訴訟要件（3）	訴えの利益
第8回	取消訴訟の訴訟要件（4）	出訴期間 被告適格 審査請求前置 裁決主義 裁判管轄
第9回	取消訴訟における仮の救済	仮の救済の意義 仮処分の排除 執行停止制度
第10回	取消訴訟の判決	取消訴訟の終了原因 判決の類型 取消判決の効力 事情判決
第11回	無効等確認訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第12回	差止訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第13回	不作為の違法確認訴訟 申請型義務付け訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第14回	非申請型義務付け訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第15回	当事者訴訟	類型 訴訟要件 仮の救済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづいて学習する。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

稲葉馨『行政法と市民』（2006年、放送大学教育振興会）
宇賀克也『行政法概説Ⅱ［第6版］』（2018年、有斐閣）
塩野宏『行政法Ⅱ行政救済法［第5版補訂版］』（2013年、有斐閣）
芝池義一『行政救済法講義［第3版］』（2006年、有斐閣）
原田尚彦『行政法要論［全訂第7版補訂2版］』（2012年、学陽書房）
藤田宙靖『行政法総論』（2013年、青林書院）

【成績評価の方法と基準】

中間リポート（40%）とメディアスクーリング試験（60%）による。いずれにおいても、行政救済法の基本的な概念や法律論が適切に理解できているか、それらを具体的な問題に当てはめて考えることができるかを問うこととする。

【学生の意見等からの気づき】

とくに改善を要すると思われる点は、学生の意見からは見出せなかったが、今後とも、授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

Where public body makes unlawful or undue decisions which breach the rights and interests of individuals, these rights and interests should be recovered. Disputes on rights and interests would be resolved by administrative case litigation and the other administrative relief. Administrative case litigation is brought by those who are involved in a legal argument or by those who are laid down in Act of Parliament. The parties give their opinions on the enforcement, application, and meaning of the law before the courts. The courts follow procedures different from civil procedure, hear (examine) the legality of the exercise of public functions, and resolve the disputes.

This course is designed to sketch out administrative case litigation and to examine its modern problems. At the completion of this course, students should be able to have a working knowledge of the Administrative Case Litigation Act 1962 (c.139). Especially, students would become capable of examining suit requirements in Actions for the Revocation of Administrative Dispositions, while taking into account particular case or certain circumstances. Students should also get able to choose an appropriate means among (1) Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions (other than Actions for the Revocation of Administrative Dispositions), (2) Public Law-Related Actions, and (3) civil actions, while considering particular case or certain circumstances.

After completing this course, students should be able to:

— Sketch out each sort of actions included in administrative case litigation;

— Explain suit requirements in Actions for the Revocation of Administrative Dispositions;

— Explain final decisions taken by the judges in Actions for the Revocation of Administrative Dispositions;

— Explain provisional remedy which could be asked by claimants before the court where Actions for the Revocation of Administrative Dispositions are field;

— Decide if Actions for the Revocation of Administrative Dispositions is accessible or not and determine whether provisional remedy is available or not, while taking into consideration particular case or certain circumstances;

— Explain suit requirements, requirements for winning a case, and provisional remedies in Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions other than Actions for the Revocation of Administrative Dispositions, while understanding their differences from Actions for the Revocation of Administrative Dispositions; and

— Explain sorts and suit requirements of Public Law-Related Actions.

LAW300TB（法学 / law 300）

労働法(労働法Ⅱ)(後期メディア)

藤木　貴史

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働法の基本的な論点に関する基本的な知識が習得されていることを前提に、実践的な事例問題への解答を通じて、理解をより深化させる。

【到達目標】
１．労働基準法、労働契約法等の労働法各法と関連する判例法理について理解する。
２．労働基準法、労働契約法等の労働法各法、関連する判例法理についての基本的な問題（法学検定レベル）を解答できるようになる。
３．労働基準法、労働契約法等の労働法各法と関連する判例法理について、事例問題への解答を通じて、理解をさらに深める。
４．１～３の過程を通じて獲得した知識等を文章で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、メディアスクーリング「労働法(働き方に関する法ルール)」を受講していることを前提に、基本的事項の確認をしたうえで、事例問題への解説を通して、より労働法への理解を深めてもらいます。
労働法は、法改正も含め、その進展のスピードが速い法領域です。最近でも、労働契約法が改正され、「働き方改革法案」など、さらなる法改正も予定されています。また、法律上のルールの隙間を埋める役割を果たしている判例法理もたくさん登場しています。この点を理解するためには、労働法に関する基本的な理解があることはもちろん、この新たな動向の背後にある社会的な変化などにも理解を及ぼす必要があります。なかなか厄介な問題もありますが、積極的に学習するように努めてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	労働者・使用者	労働関係の当事者に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第2回	募集・採用	募集・採用に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第3回	労働契約	労働契約（おもに成立過程や労使慣行）に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第4回	就業規則	就業規則に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第5回	労働協約	労働協約に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第6回	労働契約上の権利義務	労働契約上の権利義務に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第7回	労働時間（１）	労働時間（時間外休日労働）に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第8回	労働時間（２）	労働時間（弾力的労働時間制度など）に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第9回	賃金	賃金に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第10回	配転・出向・転籍	配転・出向・転籍に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第11回	労働関係の終了	労働関係の終了に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第12回	非正規労働	非正規労働に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第13回	不当労働行為	不当労働行為に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第14回	複合問題	第1回～第13回までの学習をふまえた複合的な要素を含む事例問題の解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各講義前に、当該箇所のテキストを通読し理解しておく。

【テキスト（教科書）】
・浜村彰　他『ベーシック労働法』有斐閣
（できるだけ最新版を用意する。2019年4月段階では第7版が最新版）

【参考書】
(1)浅倉むつ子　他『労働法』有斐閣
(2)水町勇一郎『労働法』有斐閣
(3)労働判例百選〔第9版〕
できるだけ最新版を用意すること。

【成績評価の方法と基準】
中間リポートとリポート試験によって評価する。
評価割合は４：６とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Based on the fact that basic knowledge of labor law is acquired, you will deepen understanding through answers to practical case problems on labor law.

LAW300TB（法学 / law 300）

保険法・海商法(Ⅱ)(後期メディア)

桜沢　隆哉

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保険契約法と海上運送・海上企業に関する基本的知識の習得

【到達目標】
この講義は、全15回の講義で海上運送法（海商法）上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。海商法の教科書を解説するだけでは上記目標を達成することは難しいので、毎回の講義の中では具体的なケースを用いて、それを基に海商法の制度が実際にどのように運用されているのか、それは社会の実態に合致しているのか、さらにそれに問題があるとすればいかにして解決・克服すべきなのかといった観点から、海商法の諸制度と現実の社会における問題とをつなげる力の修得を目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、保険法と海上運送・海上企業組織に関する基本的知識の習得を目的とする。保険法および海商法はいずれも我々の実社会と密接に結びついた重要な法制度である。このうちで、保険法・海商法（I）では保険法を扱い、保険法・海商法（II）では海商法を扱う。

保険法・海商法（I）で扱っている保険法についてみれば、保険制度は、われわれの日常生活における様々な危険に備えるための有用な手段として用いられているが、他方で濫用されるおそれの高い制度でもある。本講義では、保険制度が有するこれら2つの側面を意識しながら、それを法的視点から解説する。また保険法は、近年、約100年ぶりともいえる法改正および商法からの単行法化がなされ、世間でも多くの注目を集めている。その新しい保険法では、消費者保護が一層重視されており、われわれ消費者側としても保険に関する適切な知識を身につけておくことが必要とされる。そこで、保険法については、実務の動向や裁判例を常に意識しながら講義を展開していきたいと考えている。

一方、本講義で扱う海商法は、船舶を手段とする海上企業・海上運送に関する法制度である。船舶は、物品の運送に関しては今日でもなお主要な地位を占めている。われわれの社会は、様々な物資によって支えられており、それは海上運送をはじめとする輸出入に依存しているところも少なくない。本講義では、海上企業の組織、その活動(海上物品運送)および海上危険について概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	海商法の特徴と沿革	海商法の基本的特徴、海商法の歴史、海商法の特異性
第2回	海商法の意義	海商法の意義、海商法の国際的統一、海商法の法源
第3回	船舶（1）	海上企業活動の物的組織の基本概念である船舶概念および船舶の個性
第4回	船舶（2）	海上企業活動の物的組織の基本概念である「船舶の公示」と「所有権」概念について
第5回	船舶運航の主体	海上企業活動の人的組織たる「船舶所有者」「船舶賃借人」「定期傭船者」について
第6回	船舶所有者等の責任制限制度	船舶所有者等の責任制限制度の「沿革・態様」、「船主責任制限条約」、「船主責任制限法」、「油濁損害に関する責任」について
第7回	船舶運航の補助者	船舶運航のための補助者としての「船長」、「海員」、「水先人」
第8回	海上物品運送契約（1）	海上物品運送契約の概念、海上物品運送契約に関する法規、海上物品運送契約の意義と種類
第9回	海上物品運送契約（2）	船荷証券の意義・性質、船荷証券の発行について
第10回	海上物品運送契約（3）	船荷証券の債権的効力と船荷証券の物権的効力について
第11回	海上物品運送契約（4）	運送契約の履行、運送品の船積み・発航、航海及び運送品の陸揚げ、運送品の引渡しと運送契約の終了
第12回	海上物品運送契約（5）	運送人の責任について、運送人の責任原因、賠償額の定型化、高価品の特則、不法行為責任との関係、運送人の免責
第13回	海上旅客運送契約	海上旅客運送人の義務、海上旅客運送人の責任について
第14回	海上損害（1）	海上損害への対応策に関する法規整としての「共同海損」「船舶衝突」について
第15回	海上損害（2）・海上企業金融	海上損害への対応策に関する法規整としての「海難救助」のほか、「海上企業金融」について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること

【テキスト（教科書）】
・山野嘉朗・山田泰彦著『現代保険・海商法30講〔第9版〕』中央経済社
（＊開講までに最新版が出版される可能性がある）

【参考書】
▼　参考書（教科書指定はしていないが講義の補足で使用することが学習上望ましいもの）
・山下友信・洲崎博史編『保険法判例百選』有斐閣、2010年
・六法(判例・解説付ではないもの)
（講義を聴く際には、判例・解説付でも構わないが試験等に持ち込むことが認められていないため）※メディアスクーリング試験では六法の持ち込みも不可です(2013.06.11)
▼　その他の参考文献の紹介
≪保険法・海商法の両方に関するもの≫
・山野嘉朗・山田泰彦著『現代保険・海商法30講〔第9版〕』中央経済社、2013年
・江頭憲治郎『商取引法〔第7版〕』 弘文堂、2013年
≪保険法のみに関するもの≫
＊新法対応済み
・甘利公人・福田弥夫『ポイントレクチャー保険法』有斐閣、2011年
・石山卓磨編著『現代保険法〔第2版〕』成文堂、2011年
・山下友信ほか著『保険法〔第3版補訂版〕』有斐閣アルマ、2015年
・岡田豊基『現代保険法』中央経済社、2010年
・潘阿憲『保険法概説』中央経済社、2010年
＊旧商法にのみ対応
・倉沢康一郎『保険法通論』三嶺書房、1982年
・大森忠夫『保険法〔改訂版〕』有斐閣、1985年
・西島梅治『保険法〔第3版〕』悠々社、1988年
・金澤理『保険法上〔改訂版〕』成文堂、2001年
・中西正明『生命保険法入門』 有斐閣、2006年
・山下友信『保険法』有斐閣、2005年
≪海商法のみに関するもの≫

・戸田修三『海商法〔第5版〕』文眞堂、1995年
・重田晴生編著『海商法』青林書院、1994年
・中村真澄・箱井崇史『海商法第2版』成文堂、2013年
≪判例解説等の参考書≫
・鴻常夫ほか編『商法（保険・海商）判例百選（第2版）』有斐閣、1993年
・鴻常夫ほか編『損害保険判例百選〔第2版〕』有斐閣、1996年
・鴻常夫ほか編『生命保険判例百選〔増補版〕』有斐閣、1988年
・山下友信・洲崎博史編『保険法判例百選』有斐閣、2010年
・山下友信・神田秀樹編『商法判例集〔第6版〕』有斐閣、2014年
＊判例については、上記参考文献に掲載されていない最新の判例も次々に出されている。それらは授業の中の各該当箇所で指示するが、基本的にはレジュメの中に反映させる。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（1回／30％）およびメディアスクーリング試験（70%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
開始後、「おしらせ」や「ディスカッション」を活用してください。

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講(国際労働法)(後期メディア)

山本　圭子

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働者保護法、労働基本権、雇用保障について、国際比較を行い、日本の労働法令の現状と課題を学ぶ。

【到達目標】
日本の労働法は、国際条約や先進諸国の労働法の議論の影響を強く受けている。そこで、近年、日本において法改正や新たな議論が起きている15のテーマについて、比較法的検討を行い、日本の労働政策への影響を検証し、課題を見いだすことを目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
現代における労働をめぐる諸問題について、比較法的視点を加味しながら、分析し理解することが目標です。労働法(働き方に関する法ルール)、労働法(労働法II)を学び、さらに各種制度の国際比較をしたい、労働問題を社会・経済情勢を踏まえて学びたいという方々向けの講義内容を目指しています。労働法(働き方に関する法ルール)、および労働法(労働法II)を学んでからの履修が望ましいですが、前後しても支障はありません。常に、条文、条約を見て、ノートを取りながら受講して下さい。ビデオ収録後に法令改正がなされたものについては、その都度、新しい法令のリファレンスを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	児童労働保護	児童労働禁止に関する国際条約を概観し、日本における労基法の年少労働者保護規定と比較する。
第2回	高齢者雇用	高齢社会を迎えた日本の高年齢者雇用安定法の改正の経緯を学び、各国の高年齢者の就業状況と比較する。
第3回	外国人雇用	外国人労働者（移住労働者）に関する国際条約の状況と、日本における入管法の規定、外国人労働者に対する労働法の適用関係を比較法的に考察する。
第4回	障害者雇用	障害者雇用をめぐる条約の状況と、日本における障害者雇用促進法の変遷を学ぶと共に、2013年改正を概観する。
第5回	雇用保険制度	離職時の生計を維持するための雇用保険制度について、国際比較を行う。
第6回	最低賃金制度	各国で制定されている最低賃金制度の状況、日本における最低賃金法の改正の経緯と課題について学ぶ。
第7回	ホワイトカラーエグゼンプション	労働時間規制の適用除外としてのホワイトカラーエグゼンプションについて、国際比較を行うと共に、日本における施策の今後を検討する。
第8回	ワークライフバランス	仕事と私生活の調和に関する法政策について、欧米の例と日本の現状とを比較する。
第9回	テレワーク	通信機器を利用したテレワーク、在宅ワークの普及状況と、労働関係法令の適用について、比較法的考察を行う。
第10回	職場におけるハラスメント	職場におけるセクシュアルハラスメント、パワーハラスメント（モラルハラスメント）、マタニティハラスメント、ジェンダーハラスメントについて、日本の施策と国際比較を学ぶ。
第11回	過労死・過労自殺	長時間労働による健康障害を防止するための措置について、日本の法令の現状を学び比較法的考察を行う。
第12回	公務員の労働基本権	公務員の労働基本権の制限について歴史的展開と現状、国際比較を学ぶ。
第13回	中小企業・小規模事業場の適用除外	中小企業・零細事業所の労働法規の適用除外の現状と国際比較を学ぶ。
第14回	企業組織変動と労働者保護	企業の組織変動にともなう労働者の帰属、整理解雇法理について、比較法的考察を行う。
第15回	キャリア権と労働法	キャリア権（適職選択権、労働を通じてキャリアを高め、あるいは転換することができる権利）と労働者権利教育の国際比較を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本の法令についての基礎知識を身につけてから視聴する。
日本の法令の改正状況については開講時にお知らせ欄で知らされる参考文献及び参照すべきURLを通読してから視聴する（第2回高齢者雇用、第3回外国人雇用、第4回障害者教、第5回雇用保険制度、第7回ホワイトカラーエグゼンプション、第8回ワークライフバランス、第10回職場におけるハラスメント、第14回企業組織変動と労働者保護、第15回キャリア権と労働法は法令及び政策の変更があったので注意）。手元に六法を備え、法令や条約を確認する。メモを取りながら視聴し、受講内容のノートを作成する。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しないが、開講時にお知らせ欄で示す参考文献は必ず全てに目を通しておくこと。

【参考書】
（1）濱口桂一郎『日本の労働法政策』（独立行政法人労働政策研究・研修機構、2018年）
（2）濱口桂一郎『EUの労働法政策』（独立行政法人労働政策研究・研修機構、2017年）
（3）浜村彰ほか『ベーシック労働法（第7版）』有斐閣アルマ。2019年
（4）菅野和夫『労働法（第１１版補訂版）』弘文堂、2017年

【成績評価の方法と基準】
中間リポートにおいてC以上の評価を受けたうえで受験した試験と中間リポートの総合評価（中間リポートに合格しなければ試験を受けることはできない）を行う。
リポート及び試験においては、日本の法令・制度と国際条約及び先進諸国の法令との異同を「比較法的な観点」から論ずることができることが評価の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】
近年の法令改正が動画に反映できていない部分があることから、複数の追加資料を提示したが、見逃している学生がいた。追加資料は、動画と同様に重要であり、動画を修正・補完するものであることからレポート課題作成に当たっては必ず目を通して欲しい。開講時に参考文献の重要性を再度リファレンスをして、最新の法改正の状況を反映させたい。

【学生が準備すべき機器他】
メディアスクーリングを視聴できる機器及びワードファイルでレポートを提出できる環境。

【その他の重要事項】
法律が大きく改正されており、お知らせ欄などで最新の参考文献を示している。これらを読まずに作成したレポート及び答案は不合格となっているので、注意のこと。日本国内の法令のみならず、海外の法令も大きく変化していることから、それらについてもリファレンスを行うので、必ず学習すること。中間レポートに合格していない場合には、試験を受けることはできない。レポートはワードファイルで提出のこと。

【Outline (in English)】
Students will conduct an international comparison on Labor Standards Law, Labor Union Law, Employment Security, and learn the current situation and issues of labor law in Japan.

SOC300TB（社会学 / Sociology 300）

労使関係論（Ⅰ）（後期メディア）

細川　良

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「労使関係」とは、一般に一人一人の労働者個人と使用者（企業）との間の関係ではなく、労働組合などの労働者の集団と使用者（企業）あるいは使用者団体との間の関係のことを指します。そして、諸外国と比べた場合、日本における労使関係は、企業を中心として形成されてきた点に大きな特徴があるとされてきました。もっとも、こうした日本独自の発展を遂げた労使関係システムは、それを支えてきたいわゆる「日本的雇用慣行」およびそれを取り巻く社会的・経済的環境が変化するに伴い、変化への対応が迫られています。本講義では、こうした労使関係の現在について考えるうえでの基本的な制度や仕組み、社会的背景について学ぶとともに、現在の労使関係が抱えている様々な課題について考えたいと思います。

【到達目標】

受講する学生において、労使関係、あるいは労働組合というものに対する知識や関心は様々であろうと考えられます。しかし、日本の労働組合や労使関係が有していた日本の社会的に対する影響力が低下し、その存在意義が問われているということについては、大なり小なり共通する認識を有しているではないでしょうか。そこで、本講義では、本来、労使関係や労働組合は労働社会の中でどのような機能や役割が期待されてきたのか、日本の労使関係や労働組合はどのような役割を果たしてきたのか、そして、日本の労使関係がどのような課題に直面し、なぜそのような事態が生じたのかについてを知り、理科敷いてもらいたいと思います。そして、これからの労使関係はどのように変わっていく必要があるのか（あるいは、変わる必要がないのか、労使関係に未来はないのか）という問いについて、自分なりの答えを見つけ出してほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、「授業の概要と目的」で述べたことについて、逐次検討していきたいと思います。具体的には、①日本の労使関係の基本的な特徴と展開を概観し、②それを支える集団的労使関係に関する法制度を理解したうえで、③日本における労使関係の現代的な課題を考えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の目的、労使関係について学ぶ意義、本講義の進め方等について説明します。
2	労働組合の団結～その歴史	そもそも、労使関係の基礎となる労働組合およびその活動は、どのような歴史的経緯で生まれてきたのか、なぜ労働組合の権利が保障される必要があるのか、労使関係の基礎的な前提について説明します。
3	日本的雇用慣行の形成と労使関係	日本の労使関係は、いわゆる「日本的雇用慣行」と深く結びつく形で発展してきました。この回では、日本的雇用慣行とはいかなるものか、という点を踏まえつつ、日本の労使関係の特徴について考えます。
4	労使関係の多様性～諸外国との比較	「労使関係」と一口に言っても、そのあり方は、国によって大きく異なります。そこで、この回では、諸外国におけるさまざまな労使関係のあり方について、その概要を説明し、それとの比較を通じて、日本の労使関係の特徴を改めて考えたいと思います。
5	公務員の労使関係	かつて、日本の労働組合運動において、極めて重要な課題となっていたのは、公務員に労働組合の権利を認めることでした。この問題は、いわゆる公務員制度改革をめぐって、ふたたび脚光を集めています。この回では、公務員の労使関係とそれをめぐる問題について考えます。
6	労働組合と労働者～プロスポーツ選手は「労働者？」	労使関係の担い手である労働組合は、労働者が集まって作った団体です。ところで、このような労働組合を結成することは、誰でもできるのでしょうか。この問題は、実は労使関係を考えるうえでの重要な論点です。この回では、労働組合を結成する「労働者」の意義について考えます。
7	労働組合～その基本的な活動とルール	労使関係の主要な担い手である労働組合ですが、実際、労働組合がどのような組織で、どのようなことをしているのか、そこにどのようなルールがあるのかは、案外知られていないのではないでしょうか。この回では、労働組合の実際とその活動をめぐるルールについて考えます。
8	団体交渉と争議	労働組合の重要な役割は。組合員（労働者）の労働条件や職場環境について使用者と交渉し、よりよい条件を勝ち取ることでしょう。この回では、こうした労働組合の団体交渉と、闘争手段である争議についての法規制について考えます。
9	労働組合の活動を守るために～不当労働行為制度	労働組合との良好な労使関係を形成しようとする使用者・企業がある一方で、労働組合を毛嫌いし、その活動を妨害しようとする使用者・企業があるのも事実です。この回では、こうした使用者による組合活動の妨害から保護する、不当労働行為制度について考えます。
10	労働組合と紛争解決	労働組合の活動については、労働条件や職場環境の向上という目的に注目が集まりがちですが、もう一つの重要な機能として、「紛争の解決」という役割があります。この回では、労働関係における様々な紛争解決制度も踏まえつつ、労働組合の紛争解決の機能について考えたいと思います。

11	労働組合の直面する課題～雇用の多様化と働き方の多様化	労働組合の組織率や影響力が長期低落傾向にあることはしばしば指摘されていることですが、そもそも、なぜ労働組合の組織率や影響力が低下しているのでしょうか。この回では、現在の労働組合を取り巻く状況について考えます。
12	法律による規制と「労使自治」	近年、労働関係について多くの法律が作られるようになってきました。この背景にはいろいろな事情がありますが、労使が自分たちで適切なルールを作出・運用し、問題を解決する能力が疑われていることもその一因でしょう。他方で、労働を取り巻く関係について、なんでも法律による規制でコントロールするのが適切かどうかは、議論のあるところです。この回では、法律による規制と「労使自治」との関係について考えてみたいと思います。
13	労使関係の意義～労使コミュニケーションがもたらす効果	日本における労使関係は、その影響力の低下がしばしば指摘される一方で、良好な労使関係が労働条件や企業経営に良い影響を与える例もしばしばみられます。この回では、現在において労使関係が良好に機能する実際的な例を見ながら、労使関係の意義について考えてみたいと思います。
14	労使関係の課題～労使関係は何のために存在するのか	これまでの講義で触れてきたように、現在は労使関係の存在意義が大きく問われている時代です。この回では、これまでの講義を踏まえつつ、そもそも労使関係は何のために存在するのか、という根本的な課題について考えてみたいと思います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的には、講義の内容を丁寧に復習し、理解の定着を図ることが求められます。

もっとも、労使関係は、現実の社会の中にも多く存在し、また現在進行している様々な労働に関する法政策にも深く関係しています。したがって、新聞やニュースなどを通じて、労働組合や労使関係はもちろん、労働に関係する様々な事象について、日ごろからアンテナを延ばしてチェックするよう心掛けてほしいと思います。

【テキスト（教科書）】

指定はありません

【参考書】

指定はありません。各講義ごとに、必要に応じて参考となる文献資料等を提示します。

【成績評価の方法と基準】

最終成績は基本的に単位修得試験により評価します。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）授業をよく復習し、労使関係を取り巻くシステムをよく理解したうえで、その課題を考えてください。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため、ありません。

【Outline (in English)】

At the end of this course, participants will learn the reality, problems and future prospects by looking directly at the structural change of labor relations relations.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・中古(『竹取物語』を読む―かぐや姫の”実像”)(後期メディア)

園　明美

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『竹取物語』は、現存する我が国最古の物語である。
この物語については、おとぎ話の「かぐや姫のお話」として、幼い頃に絵本や紙芝居で親しんだ人も多いであろう。また、２０１３年末にはアニメ映画化されて話題になった。
しかし、原典である『竹取物語』を読む機会は、意外に少ないのではないか。
実は、原典の『竹取物語』には、おとぎ話やアニメーションのかぐや姫とはかけ離れた、かぐや姫の驚くような言動や、他の登場人物たちの滑稽な言動を描く箇所が散見するのである。
本授業では、『竹取物語』の原典を読むことを通して、学生諸君それぞれの「かぐや姫像」・「『竹取物語』像」を見出してほしい。

【到達目標】
『竹取物語』のストーリー展開を、原典の本文を中心に追いながら、おとぎ話やアニメーションに描かれた姿との比較や、背景となる史実や当時の習慣等を知ることを通して、理解を深めてゆく。
なお、「受験のための古文」の学習ではなく、「文学としての『竹取物語』を読むことを目的とするので、文法等に過剰にこだわるのではなく、「何が語られているのかについての理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、中学・高校時代に古文が苦手だったという人も心配する必要はない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
『竹取物語』の本文を、14講を通して少しずつ区切りながら読み進め、毎講関連する史的背景や他の作品の本文等を紹介しつつ、作品の読みを深めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
①	『竹取物語を読む』その1	『竹取物語』の概説と冒頭
②	『竹取物語を読む』その2	求婚者殺到　翁の説得
③	『竹取物語を読む』その3	求婚者に対する無理難題
④	『竹取物語を読む』その4	求婚者の受難Ⅰ 石作の皇子の恥辱とくらもちの皇子の謀略
⑤	『竹取物語を読む』その5	求婚者の受難Ⅱ くらもちの皇子撃退
⑥	『竹取物語を読む』その6	求婚者の受難Ⅲ 阿倍の大臣の落胆
⑦	『竹取物語を読む』その7	求婚者の受難Ⅳ 大伴の大納言の勇猛さ
⑧	『竹取物語を読む』その8	求婚者の受難Ⅴ 大伴の大納言の災難
⑨	『竹取物語を読む』その9	求婚者の受難Ⅵ 石上の中納言の悲劇
⑩	『竹取物語を読む』その10	帝の求婚Ⅰ かぐや姫に振られる帝
⑪	『竹取物語を読む』その11	帝の求婚Ⅱ かぐや姫との文通
⑫	『竹取物語を読む』その12	かぐや姫の昇天Ⅰ 阻もうとする人々
⑬	『竹取物語を読む』その13	かぐや姫の昇天Ⅱ 地上に思いを残して
⑭	『竹取物語を読む』その14	かぐや姫の昇天Ⅲ 遺された人 附・中世の説話と『竹取物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト及び参考書として紹介した書籍等を読み、理解を深める助けとすること。

【テキスト（教科書）】
室伏信助訳注『竹取物語』（角川ソフィア文庫）

【参考書】
平安貴族の環境（至文堂　1994）
平安時代の信仰と生活（至文堂　1994）
平安時代の儀礼と歳事（至文堂　1994）

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（５０％）及びリポート試験（５０％）の内容によって評価を行う。
（注意事項１）
中間リポートとリポート試験は、両方とも提出しないと評価対象とならないので、必ず両方提出すること。
（注意事項２）
中間リポートの内容によっては、コメントを付けた上で再提出を指示する場合がある。この場合、指定された期間内に再提出されない場合はやはり評価対象とならないので、必ず期間内に書き直し、提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
This course introduces to "The tale ob Taketori" students taking this course.
At the end of the course, participants are expected to understand contents of "The tale ob Taketori".

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・中世(平家物語)(後期メディア)

小秋元　段、阿部　亮太

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『平家物語』を読む。

【到達目標】
『平家物語』を講読し、その世界に触れる。そのうえで、作品解釈の基本的な方法を学び、物語の構成、表現、人物像の特徴や、物語と歴史的背景との関連等を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに『平家物語』の概説をし、以下、代表的な章段をとりあげ、原文の朗読、口語訳、解説を各回で行う。中間リポートとリポート試験を課し、そこでは授業でとりあげた章段以外にも視野を広げ、オリジナリティのある研究に取り組んでもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	『平家物語』の世界	『平家物語』の概説を行う。あらすじ・成立・作者・諸本等の基本事項を解説する。
第2回	平家の繁栄　～巻1「殿下乗合」～	巻1「殿下乗合」を講読し、平清盛・重盛父子の人物造形の特徴を中心に講義する。
第3回	院近臣の策謀　～巻1「鹿谷」～	巻1「鹿谷」を講読し、政治的事件を描く作者の方法を中心に講義する。
第4回	俊寛の悲劇　～巻3「足摺」～	巻3「足摺」を講読し、悲劇を描く作者の方法を中心に講義する。
第5回	以仁王の変の発端　～巻4「競」～	巻4「競」を講読し、平重盛・宗盛兄弟の人物造形の特徴を中心に講義する。
第6回	いくさ語りの諸相　～巻4「橋合戦」～	巻4「橋合戦」を講読し、「いくさ語り」と『平家物語』の関係を中心に講義する。
第7回	清盛の死　～巻6「入道死去」～	巻6「入道死去」を講読し、清盛の死の物語と浄土思想の関係を中心に講義する。
第8回	平家の都落ち　～巻7「忠教都落」～	巻7「忠教都落」を講読し、覚一本と延慶本の物語の描き方の違いを中心に講義する。
第9回	木曾義仲の入京　～巻8「猫間」～	巻8「猫間」を講読し、木曾義仲の人物像の特徴を中心に講義する。
第10回	木曾義仲の最期　～巻9「木曾最期」～	巻9「木曾最期」を講読し、「主従愛」の造形を中心に講義する。
第11回	一谷の悲劇　～巻9「敦盛最期」～	巻9「敦盛最期」を講読し、「父子の恩愛」の造形を中心に講義する。
第12回	恩愛の絆　～巻10「維盛入水」～	巻10「維盛入水」を講読し、平維盛の死と浄土思想の関係を中心に講義する。
第13回	扇の的　～巻11「那須与一」～	巻11「那須与一」を講読し、覚一本と延慶本の物語の描き方の違いを中心に講義する。
第14回	平家滅亡　～巻11「先帝身投」「能登殿最期」～	巻11「先帝身投」「能登殿最期」を講読し、平知盛の役割を中心に講義する。
第15回	平宗盛の死　～巻11「大臣殿被斬」～	巻11「大臣殿被斬」を講読し、平宗盛の死と浄土思想の関係を中心に講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中間リポートとリポート試験では、授業でとりあげた章段以外も視野に入れた研究を行ってもらう予定である。そのため、授業を履修するだけでなく、自分自身でも『平家物語』を並行して読み進めてほしい。

【テキスト（教科書）】
梶原正昭・山下宏明校注岩波文庫『平家物語』(1)～(4)

【参考書】
大津雄一ほか編『平家物語大事典』（東京書籍、2010年）

【成績評価の方法と基準】
中間リポートの提出を前提にリポート試験で評価する。両リポートはともに1600字以上で記述するもので、その完成度によって評価を定める。なお、授業を閲覧していないと単位が取得できないような課題設定となっている。

【学生の意見等からの気づき】
メディアを生かした積極的な情報発信を心がけたいと思いました。また、学生からの質問にも応えられるよう努めたいと思いました。

【Outline (in English)】
Read "The Tale of the Heike".

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・近世(西鶴大句数)(後期メディア)

浅沼　博

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
俳諧連歌（連句）という座の文学が全盛を極めた近世文芸を、その背景もふくめて理解すること。

【到達目標】
井原西鶴による独吟連句（俳諧大句数）を読み解き、「知の共有化」が成立した近世文芸の諸条件を考究する。わけても連句のルール（式目）の中心をなす「付合と転じ」つまり連想と変化について、具体的な作品に即して説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一句の解釈、二句の付合、三句の転じ、序破急の流れと射程距離を広げていく。その際、テキストを叩き台に、他の学説もみながら連句の多様性について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	連句概要	知の共有化について
		百韻形式における連句用語
第2回	作家・作品解説	俳諧師としての西鶴
		俳諧大句数の成立
		〔自序〕の解釈
第3回	花にきてやの巻	緩やかな導入部
	序の一	発句・脇・第三の作法
		雅語と俗語・あしらい
		中世と近代のせめぎ合い
第4回	序の二	四句目ぶり
	四～七句目	月の定座・起情の付
		映画的手法
第5回	破の一	自由で起伏に富んだ展開部
	初表八～裏三句目	向付による述懐
		其人の付
第6回	破の二	恋句の流れについて
	初裏四～七句目	謡曲取り・逆付
第7回	破の三	名所付
	初裏八～十二句目	抜け
		釈教
第8回	破の四	定座の移動について
	初裏十三句目～	発話体の取成し
	二の表二句目	故事付
第9回	破の五	拍子・夜分
	三の表七～十句目	其場の付
第10回	破の六	指合（観音開き）
	三の表十一～十四句目	句意付・会釈
第11回	破の七	短句下七の四三調について
	三の裏一～四句目	病体・人名・時分
第12回	破の八	数詞の指合
	三の裏五～九句目	遠輪廻
第13回	急の一	軽く速やかな終結部
	名残の裏一～四句目	会話体の転じ
第14回	急の二	匂いの花
	名残の裏五句目～挙句	挙句の作法・意義
第15回	まとめ	序破急と付合の諸相

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざまな連句用語が出てくるので、予習・復習を徹底すること。

【テキスト（教科書）】
新編日本古典文学全集『連歌集 俳諧集』暉峻康隆ほか・訳注（小学館）2001年

【参考書】
『俳文学大辞典』普及版（角川書店）2008年
『西鶴という方法』浅沼璞・著（鳥影社）2003年
『西鶴という鬼才』浅沼璞・著（新潮社・電子ブック）2008年
『俳句・連句ＲＥＭＩＸ』浅沼璞・著（東京四季出版）2016年

【成績評価の方法と基準】
メディアスクーリング試験（会場試験）による評価。
スライド資料をそのまま写すのは不可。必ず文章化すること。
持込不可。

【学生の意見等からの気づき】
西鶴の俳諧関連書籍は絶版・品切れ重版未定などが多いため、
現在（2019.4）入手可能なものを当シラバス「参考書欄」に列記した。

【Outline (in English)】
To understand the literary arts in the early modern period when the haikai (renku)was the best, including its background.

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）

日本言語史(後期メディア)

間宮　厚司

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本言語史の中でも、特に沖縄古語に焦点を絞り、沖縄を象徴する言葉の語源・文法・表記について、大和古語（主に奈良・平安時代の言語）と比較しながら、解説します。

【到達目標】
文献資料に記録された沖縄古語の研究法を学ぶことで、論理的思考力を養い、卒業論文等作成の際に役立つならばと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
日本語の歴史に関する参考文献の紹介と日本語の歴史の概略を話した後に沖縄の古代歌謡『おもろさうし』の言語について、テキストを用いて、担当教員の専門としている研究を解説します。沖縄方言の古い姿を明らかにできるならばと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	参考文献とテキストの紹介	日本語の歴史に関する参考文献の紹介や日本語の歴史の概略を説明します。
第2回	グスクの語源	沖縄で「城」の字を当てるグスクの語源について考えます。
第3回	テダの語源	沖縄で太陽の意を表すテダの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第4回	オモロの語源	沖縄の古代歌謡集『おもろさうし』のオモロ（神歌）の語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第5回	按司の語源	沖縄で首長の意を表す按司（アジ）という語の語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第6回	ミルヤ・カナヤの語源	『おもろさうし』で他界を表す概念語ミルヤ・カナヤの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第7回	アマミヤ・シネリヤの語源	『おもろさうし』で他界を表す概念語アマミヤ・シネリヤの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第8回	オボツ・カグラの語源	『おもろさうし』で他界を表す概念語オボツ・カグラの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第9回	係り結びの種類と用法	『おもろさうし』の係り結びの種類と用法について、大和古語と比較しながら考えます。
第10回	形容詞の種類と用法	『おもろさうし』の形容詞の種類と用法について、大和古語と比較しながら考えます。
第11回	助詞ガの表記	『おもろさうし』の助詞ガの表記の実態について調査結果を報告し考えます。
第12回	助詞テの表記と語釈	『おもろさうし』の助詞テの表記と語釈について考えます。
第13回	類推表記をめぐって	『おもろさうし』で「国」を「くに」以外に「こに」と書いた類推表記について再考します。
第14回	ヂャウ（門）の語源とウリズンの語源	沖縄のヂャウ（門）の語源とウリズンの語源について考えます。
第15回	自称名詞ア・ワ（我）と助詞ハの表記・発音	『おもろさうし』の自称名詞ア・ワ（我）と助詞ハの表記・発音について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを受講前によく読んでおくと理解しやすくなります。また、機会があるならば、法政大学沖縄文化研究所を訪ね、利用して下さい。

【テキスト（教科書）】
『沖縄古語の深層―オモロ語の探究［増補版］』間宮厚司 (森話社、2014)

【参考書】
第１回の授業で、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（40％）とリポート試験（60％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、リポートの課題内容を変えていますので、既に履修した学生に聞いても、その点は参考になりません。

【Outline (in English)】
In the history of Japanese language, especially I will focus on Okinawa-Kogo (the ancient Okinawa language) and explain the origin, grammar, and notation that symbolize Okinawa with comparing Yamato-Kogo (the ancient Yamato language).

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）

書道史(中国と日本の書の歴史)(後期メディア)

山口　恭子

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国、および日本の書の歴史を学ぶ。

【到達目標】
中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項の習得を目標とします。とくに、主要な書道史的事項（様々な書体や、「三筆」「三跡」等の用語など）、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解することが重要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから宋代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代までを中心に取り上げます。書体の発展、書風の変遷、有名な書家や作品、そしてその史的意義といったきわめて基礎的な事項の理解を目標とします。書芸術が長い時間をかけて発展してゆくさまを眺め、その多様な世界をともに味わいたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	中国書道史（1）	文字の誕生と殷・周・春秋戦国時代の書
第2回	中国書道史（2）	秦代の書
第3回	中国書道史（3）	漢代の書
第4回	中国書道史（4）	三国・西晋時代の書
第5回	中国書道史（5）	東晋時代の書
第6回	中国書道史（6）	南北朝時代の書
第7回	中国書道史（7）	隋・唐時代の書
第8回	中国書道史（8）	宋時代の書
第9回	日本書道史（1）	漢字の伝来と飛鳥・奈良時代の書
第10回	日本書道史（2）	平安時代前期の書
第11回	日本書道史（3）	平安時代中期の書
第12回	日本書道史（4）	仮名の書、および古筆切
第13回	日本書道史（5）	平安時代後期の書
第14回	日本書道史（6）	中世の書
第15回	日本書道史（7）	江戸時代初期の書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館で『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれて下さい。

【テキスト（教科書）】
玉村霽山編『中国書道史年表』（二玄社、1998年）
名児耶明編『日本書道史年表』（二玄社、1999年）

【参考書】
書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮　書道史年表事典』（萱原書房、2005年）
角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）
名児耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）
そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（40％）と試験（60％）により総合的に評価します。とくに、中国・日本の書道史の基礎的事項を理解しているか、また、各自の考察を行うことができているかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義をもとにさらに書道史に関する知識・教養が広がるよう、「ディスカッション」等を活用するようううながしたい。また、関連する美術館や博物館の展示について伝えるなど、書に関する情報を発信するよう努めたい。

【Outline (in English)】
This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.
The aim of this course is to understand the fundamentals of calligraphy history, such as typefaces, calligraphers, written works.

HIS100TD（史学 / History 100）

日本史概説(東アジアのなかの古代日本)(後期メディア)

浜田　久美子

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・東アジアのなかで展開してきた日本古代の歴史を学ぶ
・史料を読み解き、記述の内容を客観的に評価するという歴史学研究の手法を学ぶ
・参考図書（辞書など）の使い方や文献探索の方法を学び、レポート作成のスキルを習得する。

【到達目標】
・歴史学の史料の概念を理解する
・歴史学の実証方法を学ぶ
・参考図書を用いたレポート作成の方法を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
・講義形式
・教科書は使用せず、毎回のスライド資料と配布プリントを教材とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	なぜ歴史を学ぶのか、歴史学の研究方法や授業内容を紹介する
第2回	倭国と東アジア(1)	倭国の歴史を中国の歴史書から読み解く
第3回	倭国と東アジア(2)	東アジアの国際情勢と密接な倭国史の展開過程を学ぶ
第4回	律令国家(1)	律令国家のしくみと奈良時代前期の歴史を学ぶ
第5回	律令国家(2)	大仏造立とその後の奈良時代の歴史を学ぶ
第6回	平安王朝(1)	時代の転換期の桓武朝・嵯峨朝について学ぶ
第7回	平安王朝(2)	仁明朝以降の藤原北家が台頭する時代を学ぶ
第8回	摂関政治(1)	摂関政治を生み出した歴史的背景を学ぶ
第9回	摂関政治(2)	摂関政治の確立とその後の展開を学ぶ
第10回	院政(1)	院政期の政治構造と武士の成長について学ぶ
第11回	院政(2)	保元・平治の乱以降、平氏政権に至るまでの展開を学ぶ
第12回	テーマ史(1)対外関係史	古代日本の対外関係史を概観する
第13回	テーマ史(2)文化史	古代日本の文化史を概観する
第14回	テーマ史(3)列島の北と南	日本列島の北と南の歴史を古代日本との関わりを中心に概観する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を行うこと。
復習は、授業で扱った史料を読み直すことのほか、参考書欄に挙げた本の該当する時代の部分を読むなど、スライド資料以外の本を合わせて読むと理解が深まる

【テキスト（教科書）】
特になし。スライド資料と配布したプリントをもとに講義を行う。

【参考書】
・歴史学研究会編『日本史史料１　古代』（岩波書店、2005）
・『大学の日本史１古代』（山川出版社、2016）
・『Jr.日本の歴史１・２』（小学館、2010）

【成績評価の方法と基準】
中間リポート(50％）と期末リポート（50％）で評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
・we will learn about the ancient history of Japan developed in East Asia.
・we will learn historical research methods of reading historical materials and objectively evaluating the content of descriptions
・we will learn how to use reference books and how to search the literature, and master the skills of creating reports.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

自然地理学(地形)(Ⅱ)(後期メディア)

前杢　英明

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】
いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程を、風景の背後に想像できるようになること、また地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。秋学期（2）では主に「内作用」とよばれる地球内部の熱エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地形と生活（導入）	本授業全体の概要。日本列島の地球規模からみた位置。
第2回	プレートテクトニクスと大地形（1）	プレートテクトニクス理論が発見された歴史、その概要を説明する。
第3回	プレートテクトニクスと大地形（2）	地球の内部構造とプレート運動の原動力、プリュームテクトニクスについて概説する。
第4回	プレートテクトニクスと大地形（3）	プレートテクトニクスによって出来る地形、内作用と変動帯、広域的地殻変動などを概説する。
第5回	断層と断層変位地形	断層とは何か？ 断層によって作られる地形にはどのようなものがあるのか？
第6回	活断層と地震	断層運動と地震の関係、それによって地表面に現れる新鮮な断層変位地形。
第7回	津波の原理と過去の津波	津波と普通の波は何が違うのか？ 過去に発生した津波を地形や地質から明らかにする方法。
第8回	火山活動と火山地形	火山とマグマの関係、噴火の様式、様々な火山地形
第9回	気候変化と氷河性海水準変動	10万年スケールでの気候変化と海水準変動
第10回	氷河性海水準変動と海成段丘	10万～数万年スケールで変動する海水準変動と海成段丘の形成のメカニズム
第11回	最後の海進と沖積平野の構造	最後の氷期から現在に至る最後の海進と、日本の海岸平野のほとんどを占める沖積平野の構造について。
第12回	地震性地殻変動による隆起海岸地形と過去の巨大地震	日本のような変動帯には、沿岸で発生する巨大地震により海岸が隆起し、その地形が保存されている。それらを紹介し、過去の地震を解き明かす過程を概説する。
第13回	アイソスタシーによる海岸地形の変動	海水や氷床変動により、陸地は変動する。それらによってどのような地形が形成され、どのようなことがわかるのか概説する。
第14回	広域火山灰と地形研究	地形の編年学的研究に大きな影響をあたえた火山灰編年学について概説する。
第15回	年代測定法	地形研究で利用されるいくつかの代表的な年代測定法について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本や世界の独特な地形､美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、ＤＶＤ教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007年
『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010年
『建設技術者のための地形図読図入門1～4巻』鈴木隆介、古今書院、1997～
『図説地球科学』杉村　新ほか、岩波書店、1988
『地震と断層』島崎邦彦・松田時彦、東京大学出版会、1994
『大地の動きをさぐる』杉村　新、岩波科学の本、1973
『プレートテクトニクス』上田誠也、岩波書店、1989
『変動する地球』笠原慶一・杉村　新、岩波地球科学選書、1991
『火山とプレートテクトニクス』中村一明、東京大学出版会、1989

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（30％）
メディアスクーリング試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】
中間レポートの課題はなるべく後半のテーマからは出さないように気をつけたい。

【Outline (in English)】
Students should get fundamental knowledge of geomorphology.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

自然地理学(海洋・陸水)(Ⅱ)(後期メディア)

小寺　浩二

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内の具体的な課題を中心とするが、海外の事例に関しても紹介する。

【到達目標】
海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎知識を踏まえて、高度な理論と応用を理解する
第2回	河川学の理論と応用	流域特性と流域GIS物質収支モデル
第3回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第4回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第5回	雪氷学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第6回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第7回	その他・水文科学の理論と応用	水文科学の基礎知識を踏まえて理論と応用を理解する。
第8回	調査研究事例（河川）	河川を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第9回	調査研究事例（地下水）	地下水を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第10回	調査研究事例（湖沼）	湖沼を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第11回	調査研究事例（雪氷）	雪氷を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第12回	調査研究事例（沿岸域・汽水域）	沿岸域・汽水域を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第13回	調査研究事例（自然災害）	自然災害を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第14回	調査研究事例（流域圏）	流域圏を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第15回	水環境の諸問題・まとめ	その他の水環境の諸問題と海洋陸水学の理論の実践の総合的な理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。

【テキスト（教科書）】
・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏一海洋と陸水』，東海大学出版会，211p，￥2,700
・新井　正（1994）：『水環境調査の基礎』，古今書院，168p，￥2,700

【参考書】
授業ごとに、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート・最終レポートを総合して評価する。配点は、中間レポート45%、最終レポート55%を原則とするが、いずれにしても、総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
地球規模や国外の事例よりも、国内の事例についての要望が多いため、国内の具体的な調査・研究事例を重点的に扱う。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には、毎回PowerPointを活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーとGISに関する技量が必要である。

【その他の重要事項】
「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。
海洋・陸水学Ⅱは、原則として海洋・陸水学Ⅰを履修した後で履修して下さい。基礎を学んでいることを前提に、応用面に関する講義、課題に取り組むため、やむを得ずⅠを未履修ながら履修する場合は、事前にテキストなどで基礎的な学習を行っておくこと。
また、メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありますが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

世界地誌(１)(アジア)(後期メディア)

小寺　浩二

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学において、系統地理学と並び重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。まず、世界の中のアジアを理解し、つぎに、アジアの個々の地域について概観する。

【到達目標】
わが国と地理的にもっとも近いアジアの自然と、そこに暮らす人々の生活を理解する。気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴を中心とした「自然誌」の理解を前提に、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
アジア全体の概観から各諸地域、個別の国の地誌を講義する。古くからの資料を活用しながらも、最新の研究成果なども紹介し、古くて新しいアジアの現況を示す。
また、具体的なデータなどから、自ら理解する工夫なども行い、「地誌の記述」についての理解も深めるよう指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	講義概要・ガイダンス	講義の概要と授業の進め方について説明。 アジアの特殊性についての概要。
第2回	アジア総論（１） 位置・地質・地形	アジアの地理的位置・地質構造・大地形。
第3回	アジア総論（２） 水文・気候・植生	アジアの代表的な河川・湖沼と気候の特徴。アジアの植生の特徴と、地域区分を理解。
第4回	東アジア（１） 中国と台湾	隣国である中国と台湾について。 香港・マカオも
第5回	東アジア（２） モンゴル・韓国・北朝鮮・極東ロシア	中国と台湾以外の東アジアについて。
第6回	東南アジア（１） インドシナ半島	インドシナ半島の自然環境と諸国について。 タイ・
第7回	東南アジア（２） 東南アジアの島嶼国	東南アジアの島嶼国について。
第8回	南アジア（１） 南アジア全域・インド・スリランカ	南アジア全域とインド・スリランカの概要。
第9回	南アジア（２） インド・スリランカ以外の南アジア	パキスタン・バングラディッシュ・ネパールなど。
第10回	中央アジア（１） 全域・新疆ウイグル自治区・ウズベキスタン・カザフスタン	中央アジア全域・新疆ウイグル自治区・ウズベキスタン・カザフスタンの概要。
第11回	中央アジア（２） その他の中央アジア	キルギス・タジキスタン・トルクメニスタンなど。
第12回	西アジア（１）	アフガニスタン・イラン・イラク・トルコ・キプロス
第13回	西アジア（２）	サウジアラビア・クゥエート・カタール・アラブ首長国連邦・オマーン・イエメン
第14回	西アジア（３）	シリア・ヨルダン・レバノン・イスラエル・エジプト・コーカサス
第15回	まとめ アジア地域の地誌総括	講義で紹介したアジア地域の地誌を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段からアジア全域の動きに注目し、テレビのニュースや新聞の記事には、つねに問題意識を持つようにしてほしい。また、特に講義を受けた後の復習に力を注いで頂きたい。

【テキスト（教科書）】
多田文男(1972)：『世界地誌Ⅰ(アジア)』,法政大学通信教育部,291p.
古い教科書であるため、その他の図書も参考に。

【参考書】
河野通博編(1991)：世界地誌ゼミナールⅠ『新訂 東アジア』,大明堂，242p.
岩田慶治編(1972)：世界地誌ゼミナールⅡ『南アジア』,大明堂,212p.
など。
講義の度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間レポートと最終レポートの総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
資料や映像などをなるべく多く活用してわかりやすい講義とする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありますが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

GEO200TE（地理学 / Geography 200）

自然地理学特講(人間の生活と気候)(後期メディア)

狩野　真規

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大気中で起きている現象について、様々なスケールから注目し、日々の生活と気候との関係性について考える。

【到達目標】
1.講義で扱った現象やその成因を説明できる。
2.身の回りで起きていたり、注目されている事柄へ応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一回ごとにテーマを絞り、それらについて講義を進める。映像（講義）を見終わったら確認テストを実施してもらい、内容の定着度を確認する。Web上の映像を見る形なので、映像（講義）の内容に関して適宜ディスカッションのコーナーで質問を投げかけるつもりなので、積極的な発言を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	地理学の定義や気候学の意義を考えていく。
第2回	ヒートアイランド現象　その1	都市で形成されるヒートアイランド現象について、その特徴や成因などを考える。
第3回	ヒートアイランド現象　その2	都市が高温になることで生じる様々な影響を考える。
第4回	小気候スケールの現象	狭い領域で発現する現象について、その仕組みなどを考える。
第5回	気候景観	景色から気候をどのように捉えるか、その方法を考える。
第6回	降雪について	地域により社会への影響が大きい降雪現象について考える。
第7回	集中豪雨について	日本で発生する豪雨にみられる特徴などから気象災害について考える。
第8回	水資源について	人間の生活に不可欠な水に関する話題から、資源としての水の使い方を考える。
第9回	水資源とその管理	資源としての水を管理する際に求められることを考える。
第10回	世界の気候	気候区分とその方法について吟味する。
第11回	世界の農業	世界の農業について、気候との関係性から考える。
第12回	気候変動　その1 地質時代の気候変動	かつて地球が経験した気候変動について、地質時代の変動を中心に取り上げていく。
第13回	気候変動　その2 歴史時代の気候	人間の歴史から明らかにされてきた気候変動について注目し、気候の変化と人間の歴史との接点を探る。
第14回	気候変動　その3 近・現代の日本の気候変動	近代以降の変動と将来の予想から、気候変動と社会の変化を考える。
第15回	むすびにかえて	これまでの内容をまとめつつ、気候の捉え方を改めて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修にあたり、教科書は特に指定はしない。ただし、気候学・気象学に関連する文献はいろいろと手に取るべきであろう。あえてあげるならば『身近な気象の科学　熱エネルギーの流れ』（近藤純正、東京大学出版 、1987年）などから読み始めるといいであろう。
また、自然地理学についてこれまで関心の無かった場合は入門書として、地理学基礎シリーズ2『自然地理学概論』（高橋日出男・小泉武栄編、朝倉出版 、2008年）などを手に取るといいかもしれない。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
『身近な気象の科学　熱エネルギーの流れ』（近藤純正、東京大学出版 、1987年）
地理学基礎シリーズ2『自然地理学概論』（高橋日出男・小泉武栄編、朝倉出版 、2008年）

【成績評価の方法と基準】
今年度は中間レポート提出と期末テストの受験が必須となる。
レポートの評価基準については以下の通りとする。講義の内容を正しく理解できていることが確認できるリポートが書けているかを重視する。加えて、講義で学んだ内容に関連した事柄について、その原理や付随する問題について論理的に説明しているリポートをまとめられているか、の2点を評価の基準とする。ただし、リポートの体裁（原稿用紙の使い方に準じているか、参考文献の明示しているかなど）も評価に関わるので注意してもらいたい。
次に、期末テストであるが、基本的には講義内容を元に出題するので、中間レポートと同様に講義内容の理解が大切であるが、応用問題も若干含まれるので内容を記憶するような学習だけでは対応できないものとするので注意すること。
評価の比率は中間レポートが40%、期末テストが60%である。
また、ディスカッションでの発言内容が他の受講生にも参考になるようなものがあれば加点することもある。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートへの回答数が非常に少ないため、要望等を掴み切れていないという事情はあるが、個々のレポートに赤を入れたうえでコメントをつけて返却している点は今後の学習への参考になっているようなので、今後も継続したい。
また、ディスカッションページの活用についてはさらなる工夫を目指したい。

【Outline (in English)】
This course introduces the relationship between daily life and climate on various scale phenomena occurring in the atmosphere.
The goals of this course are to
(1)Be able to explain the phenomena in the atmosphere and theories of the phenomena.
(2)Apply theories or findings to real world situations.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

マクロ経済学B／マクロ経済学Ⅱ(後期メディア)

奥山　利幸

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代経済学には，「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の２つの基礎理論群があります。その内の「マクロ経済学」は，一国全体での所得や消費といった集計量を対象に，景気循環，景気変動，経済成長などの仕組み，また，それらに対する経済政策の影響を探求します。「マクロ経済学A/I」では1960年代までのマクロ経済学を中心に入門から初中級レベルで学びましたが，本講「マクロ経済学II/B」では日本経済のデフレや膨大な財政赤字の現状を踏まえ，ケインジアンの理論における物価変動，インフレ/デフレ現象のとらえ方とその問題点，さらには1980年代以降のマクロ経済学の発展を見て行きます。

【到達目標】
・専門用語の理解：定義を述べられるか否か，具体的な例，数値などを示せるか
・理論の理解：図説が可能か，式で示せるか
・上記の応用力：現実に起こっている例に適用したときに何が言えるのか（インプリケーション），どういったことが今後，発生すると言えるのか（予測），理論はどの程度の説明力があるのか，その限界は何か（発展，新たな研究課題の発掘）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
ケインジアンの理論が，どのようにインフレ/デフレを説明しようとしたのかを見たのちに，時間の概念を明示的に導入した分析を見て行きます。そうした中で，1980年代以降のマクロ経済学を取り扱う予定です。
初回から最後の講義まで，すべて，講義形式の授業です。毎回の授業において，その授業にて明らかにする問題意識を提示します。学習する専門用語や概念をキーワードとして示しますので，一つ一つ，理解するように努めてください。そして，その回の授業の問題意識に対し，どのような答えを得たのか，最後に考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	「マクロ経済学B/II」のトピックスと問題意識	「マクロ経済学A/I」で学んだことと，日本経済のマクロ的現象を確認し，「マクロ経済学B/II」のトピックスと概観します。
第2回	AD・AS分析(1)AD曲線	IS・LM分析から物価水準と均衡GDP水準の関係を見ます。
第3回	AD・AS分析(2)労働市場	IS・LM分析では分析対象としていなかった労働市場を分析します。
第4回	AD・AS分析(3)AS曲線	第03講で学んだ労働市場の分析をベースに，生産者・生産要素側から見た物価水準とGDP水準の関係を見ます。
第5回	AD・AS分析(4)「古典派」の命題群	ケインジアンの理論をベースに物価水準とGDP水準の決定の理論を構築します。そのような理論であっても，古典派の各種命題が成り立つ条件を確認します。
第6回	AD・AS分析(5)「ケインジアン」の仮定と命題群	第05講で確認した古典派の命題群が成り立つ条件を満たさないときの分析を行います。
第7回	フィリップス曲線(1)	第06講までの分析は，時間の概念を明示的に扱わないIS・LM分析をベースにしています。本講以降は，時間軸を明示的に扱う分析に移ります。その最初としてフィリップス曲線を扱います。
第8回	フィリップス曲線(2)	時間の概念を明示的に考えると，どうしても，将来の出来事を予想しなければなりません。期待形成の仮説と政策の実施の仕方の関係を見ます。
第9回	ニュー・クラシカル(1)消費(1)	1980年代以降の「古典派」である「ニュークラシカル」の消費理論を見ます。消費の「ライフサイクル仮説」や「恒常所得仮説」は，「ニュークラシカル」の消費理論の特殊理論であることを見ます。
第10回	ニュー・クラシカル(2)消費(2)	「ニュークラシカル」の消費理論は，ケインズ型消費関数とは，まったく異なる振る舞いをし，その結果，財政政策の効果はケインジアンの理論とは異なる結論を導き出すことを見ます。
第11回	ニュー・クラシカル(3)実物景気循環理論	ノーベル経済学賞の対象となった「ニュークラシカル」の景気循環理論を概観します。
第12回	ニュー・クラシカル(4)財政・金融政策の効果	「ニュークラシカル」における財政・金融政策の効果を見ます。「古典派」の命題群が成り立つことが理解できます。
第13回	内生的成長理論	ケインジアンでもニュー・クラシカルでもとらえられない経済成長の問題を扱います。
第14回	ニュー・ケインジアン(1)80年代以降のケインジアン	日本経済のデフレ現象や財政赤字の解決方法を見出せないIS・LM分析への反省にたった新しいケインジアンの分析を見ます。
第15回	ニュー・ケインジアン(2)「新しい新古典派総合」	21世紀に入ろうとする頃，「ニュークラシカル」の分析にケインジアン的要素を取り入れようとする「新しい新古典派総合」の動きが始まります。その理論構成，そして，展望・限界を見ます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習問題（Web）を行い，理解度を確認してください。経済学の理論は，積み上げになっていますので，過去に学んだことを確実に消化することが，次の講義の最大の準備学習になります。学んだ専門用語，理論に対し，曖昧さを無くすように復習しましょう。

【テキスト（教科書）】
指定の教科書は，ありません。

【参考書】
［注意］以下は，講義内容が理解できない場合に参考にすると良い図書（あいうえお順）
エーベル/ベルナンケ『マクロ経済学』CAP
ゴードン『マクロエコノミックス』多賀出版
ブランシャール『マクロ経済学』東洋経済
ホール/テイラー『マクロ経済学』多賀出版
マンキュー『マクロ経済学』東洋経済

【成績評価の方法と基準】
試験100％：専門用語・理論の理解80％,応用力20％
但し、中間リポートも提出すること

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Study intermediate macroeconomics.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

国際経済論B／国際経済論Ⅱ(後期メディア)

武智　一貴

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際経済論B／国際経済論Ⅱでは国際貿易論の基本を学習する。

【到達目標】
国際貿易論を学び、貿易の利益の源泉、貿易政策の効果について分析出来る事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
まず国際取引の基本問題である、貿易からの利益を考える。さまざまな理由で貿易が行われるが、その動機について理論的に解説する。また、貿易を阻害する要因である貿易政策についてもその影響を分析する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	国際取引とは何か？なぜ我々は貿易を行うのか？	国際取引の基礎、貿易からの利益
第2回	余剰分析の基礎：消費者行動から	消費者の効用、需要
第3回	余剰分析の基礎：消費者の余剰	消費者余剰
第4回	余剰分析の基礎：企業行動から	企業の費用、供給
第5回	余剰分析の基礎：生産者の余剰	生産者余剰
第6回	市場の役割	市場均衡、社会的余剰
第7回	貿易の利益	自給自足時と自由貿易時の社会的余剰の比較
第8回	貿易政策	自由貿易時と輸入関税下の余剰の計算
第9回	貿易政策の効果	自由貿易時と関税下の社会的余剰の比較
第10回	一般均衡分析の基礎	リカードモデル
第11回	比較優位	リカードモデルにおける自給自足均衡
第12回	一般均衡における貿易利益	リカードモデルにおける貿易均衡
第13回	戦略的状況の分析の基礎	ゲーム理論
第14回	戦略的貿易政策	ナッシュ均衡と貿易政策
第15回	戦略的貿易政策の効果	コミットメントの効果と貿易政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を講義中にも解説するが、各自でも経済学の入門について自習しておくこと。講義では経済学の考え方について主に紹介するが、各自で具体例に基づいた計算なども可能になっておく事が望ましい。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
石井他著、入門・国際経済学、有斐閣
石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣
Krugman and Obstfeld, International Economics,Addison Wesley

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（30％）、リポート試験(70%)で評価する。講義内容を踏まえ、自ら計算・グラフの作成（解釈）が出来る事を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
経済学の基本内容を理解することで国際貿易論の基礎を習得できる講義を行う。

【Outline (in English)】
This course is intended to introduce students to basic concepts of international trade.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

環境経済論Ｂ／環境経済論Ⅱ(後期メディア)

松波　淳也

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学のひとつの応用分野である「廃棄物・リサイクルの経済学」を学ぶ。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義は，最近,理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ，標準的な環境経済学の基礎概念，手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクルⅠ- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類.「ごみ」の定義.経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクルⅡ- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ.廃棄物経済学の整備に向けて.最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクルⅢ- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生.廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策Ⅰ- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等.個別リサイクル法.３Ｒの優先順位.２つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策Ⅱ- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化.埋立税・産業廃棄物税，有害物質への税・課徴金.特定製品への税・課徴金.デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策Ⅲ- 自治体の清掃行政-	３Ｒ＋適正処理の優先順位に即した政策展開.短期的政策，中長期的政策の位置づけ.地域特性に即したきめ細かい政策.環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業Ⅰ- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済.経済成長と動脈部門・静脈部門.静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業Ⅱ- ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想.逆工場の考え方.「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業Ⅲ- システム，規制の効果-	市場リサイクルの条件.動脈と静脈の相互関係.規制と公共関与.企業のイニシャティブ
第10回	費用支払いと費用負担Ⅰ- PPPと汚染者負担原則-	汚染者支払い原則PPP.汚染者負担原則.ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担Ⅱ- PPPとEPR-	廃棄物管理費用の支払いと負担.EPRの物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済.不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法とEPR Ⅰ- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論.容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法とEPR Ⅱ- E-Wasteのリサイクル-	家電リサイクル法.PCリサイクル・システム.携帯電話リサイクル・システム.小型家電リサイクル法
第15回	個別リサイクル法とEPR Ⅲ- 産業廃棄物（事業系廃棄物）からのリサイクル- .おわりに	食品リサイクル法.建設リサイクル法.自動車リサイクル法.おわりに

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境経済論A/I（環境経済学の基礎理論・概念）を既習であることが望ましい.

【テキスト（教科書）】
細田衛士：『グッズとバッズの経済学』，東洋経済新報社.

【参考書】
植田和弘他監修：『循環型社会ハンドブック』，有斐閣.
植田和弘：『廃棄物とリサイクルの経済学』，有斐閣.

【成績評価の方法と基準】
中間リポートとリポート試験の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Economics of Waste Management,which is one application field of Environmental Economics.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講(戦後日本経済史)(後期メディア)

岡本　利光

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでの戦後日本経済史は昭和という時代の区切りでまとめられています。すでに平成年度も30年となり，平成という時代も一つの区切りとして扱いまとめることが必要となります。この点に焦点をあててまとめる・整理することが，本講義の目的です。

【到達目標】
われわれの現代「平成年度」をふくめた日本の経済史を理解することが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
A4判の原稿を使い，これを書画画面に映しながら説明します。従来のパワーポイントを使った講義よりも，1回に提示できる範囲が広く，内容的にも詳しく説明できる長所があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	戦後復興	GHQによる経済の民主化と日本側の対応。
第2回	インフレとドッジ・ライン	傾斜生産方法は成功したか。
第3回	ドッジ・ラインから高度成長へ	「もはや戦後ではない」とはどのような意味か。
第4回	高度成長期の日本経済	経済成長率は人口によって決まるのか？
第5回	高度成長の終焉と70年代の日本経済	固定相場制から変動相場制への移行と高度成長の終焉。
第6回	田中内閣の財政拡張政策	日本列島改造・福祉元年などの財政拡張の結果，日本経済は財政赤字が増大した。
第7回	レーガノミクスとプラザ合意	レーガノミクスとはどのような政策か。80年代の日米貿易摩擦の行方について。
第8回	プラザ合意からバブル景気へ	プラザ合意後の日本は，どのようにしてバブル経済を招いたか。
第9回	バブル崩壊後の日本経済	「失われた10年」の経緯をまとめ，日本経済の変質とは何かについて考える。
第10回	デフレからの脱却（00～06）	デフレ・スパイラルとは何か。そこから脱却するための方策について考える。
第11回	小泉内閣と経済構造改革	小泉内閣の構造改革とは何か。市場原理主義的政策の諸相をまとめる。
第12回	新しい金融システムの創造	新しい金融理論のとはどのようなものか。政策と理論の内容を精査する。
第13回	「いざなみ景気」から世界金融不況	2001年から，戦後最長の景気拡大「いざなみ景気」が続き，サブプライム・ローンを発端とする金融破綻，そして，リーマン・ショックまでの日本経済を概観する。
第14回	インフレターゲティング政策とは何か。	デフレ対策としての「インフレターゲティング政策」のポイントを理論的に解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを繰り返し読み，全体の流れをつかんで下さい。

【テキスト（教科書）】
野口悠紀雄『戦後経済史』東洋経済新報社，2015年。

【参考書】
藤井彰夫『日本経済入門』日経文庫，2018年。
高橋洋一『戦後経済史は嘘ばかり』PHP新書，2016年。
吉川 洋『人口と日本経済 - 長寿、イノベーション、経済成長』中公新書, 2016年。
吉川 洋『高度成長』中公文庫，2012年。
野口悠紀雄『戦後日本経済史』新潮社，2008年。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート・期末レポートともに提出すること。これは義務です。最終的な採点は，両レポートを判断基準にする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
ネットを利用できる環境の整備。

【その他の重要事項】
経済財政白書には必要に応じて目を通すこと。

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

経済地理(Ⅱ)(後期メディア)

近藤　章夫

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】
日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する経済学と地理学の融合領域である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	経済学と集積①	集積の利益とは何か
第3回	経済学と集積②	経済成長と集積の関係
第4回	集積論の潮流①	A.WeberとA.Marshallの集積論
第5回	集積論の潮流②	外部経済と集積の経済
第6回	現代の集積論①	新しい集積論の系譜、経済理論の発展
第7回	現代の集積論②	空間経済学とクラスター論
第8回	日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
第9回	日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
第10回	自動車産業の集積①	生産システムと近接性
第11回	自動車産業の集積②	日本的生産システムの海外展開
第12回	ハイテク産業の集積①	知識経済とイノベーション
第13回	ハイテク産業の集積②	産学連携とシリコンバレーモデル
第14回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2008）『立地ウォーズ』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
山本健兒（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価（60%）が中心となる。授業終了時小テスト（平常点20点）、レポート課題（20%）で最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】
The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of industrial agglomeration in economic geography. Key themes focus on innovation, technological and managerial change, productivity, creativity, globalization, and changing geographies of spatial convergence.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

労働経済論B(後期メディア)

佐野　晋平

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学を応用し労働市場の機能を分析手法とその応用例を講義する。労働経済論Bでは、労働経済論Aで習得した内容を応用し、様々な労働問題について講義する。

【到達目標】
労働経済学の基礎理論と統計データに基づき、労働問題を理解できるようになることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
資料に基づき講義を進める。労働経済学Aで学んだ内容を応用し様々な労働問題を分析する。具体的には、学校教育（学校資源、教師、早期教育）、職場内訓練、内部労働市場、多様な雇用形態、所得格差、失業に関して、理論をどのように応用して問題を分析するのか、関連する統計や研究について紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	人的資本とシグナリング	学歴間賃金格差を説明する2つの理論を対比させつつ学ぶ
2	教育の生産関数	学校教育を分析するツールである教育の生産関数を学ぶ
3	学校資源	クラスサイズ、ピア効果に関する議論を紹介する
4	教員の労働市場	教員の労働市場に関する議論を紹介する
5	経済格差と教育格差	経済格差と教育格差に関する議論を紹介する
6	所得格差の計測	ジニ係数など所得格差を計測する方法を学ぶ
7	職場訓練の理論	職場訓練（一般訓練、企業特殊的訓練）と費用負担の関係を議論する
8	賃金プロファイル	年齢や勤続年数に応じて賃金が上昇することを説明する理論を紹介する
9	技術革新と二極化問題	技術革新、仕事・賃金の二極化について学ぶ
10	失業1	失業に関する統計事実やマクロ経済との関連を学ぶ
11	失業2	賃金の硬直性によって生じる失業について学ぶ
12	失業3	ジョブサーチ理論について学ぶ
13	多様な雇用形態	いわゆる正社員、パートタイム労働など、多様な雇用形態の論点について学ぶ
14	長時間労働問題	長時間労働に関する論点について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ミクロ経済学の基礎知識を有することが望ましい。統計学・計量経済学の知識があると理解がより深まる。復習を重視すると共に、参考書を精読すると理解が深まる。

【テキスト（教科書）】
講義資料に基づく。関連する文献は適宜紹介する。

【参考書】
川口大司『労働経済学』有斐閣
宮本弘暁『労働経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】
中間試験（40%）+メディアスクーリング試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course introduces students to the method of economic analysis of labor market. Especially, we focus on various issues of labor market based on Labor Economics A.

ECN100TF（経済学 / Economics 100）

経済学入門B/Ⅱ（後期メディア）

森田　裕史

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、マクロ経済学を理解する上で必要となる経済変数の定義と基本的な経済モデルについて学びます。

【到達目標】
基本的な経済変数の定義と作成の方法を理解する。マクロ経済モデルに基づいて経済政策の効果を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドを用いた講義形式の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	GDPとは	総生産の定義、GDPの作成方法
第2回	GDPに関連した概念	支出面から見たGDPの分類、物価指数
第3回	長期モデル１（１）	長期モデルにおける財市場の設定
第4回	長期モデル１（２）	経済政策の財市場への影響
第5回	長期モデル２（１）	長期モデルにおける貨幣市場の設定
第6回	長期モデル２（２）	経済政策の貨幣市場への影響
第7回	短期モデル（１）	短期モデルの設定
第8回	短期モデル（２）	短期モデルにおける経済政策の効果
第9回	人々の将来予想と経済変動（１）	民間消費と家計の将来予想
第10回	人々の将来予想と経済変動（２）	企業の将来予測と価格設定
第11回	経済成長モデル（１）	経済成長モデルの構造
第12回	経済成長モデル（２）	定常状態と資本の黄金律水準
第13回	経済成長モデル（３）	人口成長、技術進歩と経済成長
第14回	日本経済とマクロ経済学	失われた10年に関する議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義後に出される課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
古沢泰治・塩路悦朗，『ベーシック経済学- 次につながる基礎固め-（新版）』，有斐閣アルマ，2018年.

【参考書】
塩路悦朗，『やさしいマクロ経済学（日経文庫）』，日本経済新聞出版社，2019年.

【成績評価の方法と基準】
中間テスト（40％）とメディアスクーリング試験（60％）に基づいて、成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
開講初年度につき授業改善アンケート等を実施していない。

【Outline (in English)】
In this course, the students study a definition of economic variables and the basic economic models which are necessary to understand the actual macroeconomic phenomenon.

ECN200TG（経済学 / Economics 200）

金融論Ⅱ／金融論B(後期メディア)

林　直嗣

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の血液に相当するのが経済の貨幣である。家計や企業、政府が貨幣を用いて金融を行い、経済を成り立たせている仕組みと働きを、理論と実際の両面から理解することが、この授業の目的である。

貨幣とは何か、金融とは何か、現代の貨幣経済の仕組み（制度、システム）と働き（作用、機能、役割）といった基礎的な問題をやさしく説明する。家計の金融や企業金融など金融のミクロ分析を行い、貨幣の供給や需要、インフレ・デフレ・失業、金融政策や財政政策の効果など金融のマクロ分析を行う。さらに預金市場、債券市場、株式市場などさまざまな金融市場について個別に学ぶとともに、金融政策の仕組みと働きを実際に即して勉強する。さらに金融自由化・国際化・グローバル化、金融バブルとその崩壊、不良債権処理や金融再生、金融ビッグバンなど金融政策の諸問題についても説明する。

【到達目標】

貨幣や金融の諸問題を易しく解説することを通じて、履修生が金融への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることを、授業の到達目標とする。単に理論を勉強するだけにとどまらず、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実際の分析力を養うトレーニングも目標とする。それにより各種資格試験や就職試験のための実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

単に理論を勉強するだけでなく、公認会計士試験や国家公務員試験、あるいは就職試験などに備えるため、章ごとに具体例を用いた実践的な問題演習を行う。こうした演習問題を積極的に解くことは、実際の分析力を養う上で必須のトレーニングであり、各種資格試験や就職試験のための実践力を涵養する。授業方法は、先ず教科書を読み、ウェブ授業を視聴し、ウェブ上の問題演習を解いてみる。解けない場合は冊子の問題演習を見て理解を深める。またWeb上のディスカッションで先生と質疑応答をする。それをステップ順に学習していけば、学習目標を達成できる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	第9章　預金・貸出市場	身近な金融市場として預金・貸出市場を説明する。
第2回	基礎問題9	預金・貸出市場について、基礎的な穴埋め問題を解く。
第3回	第10章　短期金融市場	金融政策の出発点となる短期金融市場の分析する。
第4回	基礎問題10	短期金融市場について、基礎的な穴埋め問題を解く。
第5回	第11章　長期金融市場	資本市場ともいわれる長期金融市場の解説する。
第6回	基礎問題11	長期金融市場について、基礎的な穴埋め問題を解く。
第7回	第12章　金融派生商品市場	先物やオプションなど金融派生商品市場を説明する。
第8回	基礎問題12	金融派生商品市場について、基礎的な穴埋め問題を解く。
第9回	第13章　金融政策の目標と手段、効果	金融の政策主体、政策目標、政策手段について考察する。
第10回	基礎問題13	金融政策の目標と手段、効果について、基礎的な穴埋め問題を解く。
第11回	第14章　金融自由化、国際化、グローバル化	金融の自由化・国際化、ビッグバンなど現代の諸問題を分析する。
第12回	基礎問題14	金融の自由化・国際化、ビッグバンなどについて、基礎的な穴埋め問題を解く。
第13回	第15章　バブルの発生と崩壊　不良債権問題、ビッグバン	バブルと不良債権など現代の諸問題を分析する。
第14回	基礎問題15	バブルと不良債権について、基礎的な穴埋め問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む積極的態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。

【テキスト（教科書）】

【テキスト】

岸　真清・林　直嗣著『現代金融入門』八千代出版（入門的教科書）または、畫間　文彦著『基礎コース金融論』新世社（初級の教科書）

【問題集】

林　直嗣著『問題演習　金融論　改訂版』（スタディガイドと入門的問題集）

※テキスト、問題集ともに生協では10％割引です

【参考書】

畫間文彦著『金融論』新世社（初級の教科書）

【成績評価の方法と基準】

中間のレポート添削（約20点）と期末の定期試験（約50点）を行う。それらの総合点を出し、問題の難易度や当該クラスのでき具合などをすべて調整した上で、全員の得点分布を算出し、最新の成績理論に基づいて、その得点分布に基づく合理的で歪みのない相対評価により成績をつける。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【その他の重要事項】

金融・経理・財務の関係職を目指したり、公認会計士やファイナンシャル・プランナーなどの資格取得を目指す学生は、本講座を履修することを特に勧める。

【Outline (in English)】

Money in the economy is equivalent to blood in the human body. The purpose of this class is to understand how both households, firms and governments use money to finance, and the mechanisms and functions that make up the economy, in theory and in practice.

I will explain basic issues such as what money is, what finance is, the structure (institution, system) and function (working, function, role) of the modern monetary economy. We will study micro analysis of household finance and corporate finance, and macro analysis of the supply of and demand for money, inflation, deflation, unemployment, effects of monetary and fiscal policy. In addition, we will study various financial markets such as the deposit market, bond market, stock market, etc.. Then, we will study the mechanism and function of monetary policy in an actual manner. Moreover, we will study various actual issues such as financial liberalization, internationalization, globalization, financial bubbles and their collapse, disposal of bad debts, financial revitalization, and financial big bang.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅱ (後期メディア)

神谷　健司

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計学入門Ⅰでは,基本的な財務諸表の読み方、財務会計で用いられる基本的な考え方、会計用語の基本的なものについて学習してきたが、続く会計学入門Ⅱでは、会計基準を適用した具体的な会計処理や計算方法について学習を進め、財務会計の基本的テキストの内容を十分理解することを目標とする。また後半の２回の講義で、原価計算と管理会計の基礎についても触れることにする。なお財務会計のより専門的な学習は通教課程の『財務会計論Ⅰ・Ⅱ』で学ぶことになる。

【到達目標】
財務会計の基本的な考え方、および重要な会計基準に基づく具体的な会計処理の方法、財務諸表の作成に対する基本的な考え方について学んでいく。後半の2回においては原価計算の基礎、管理会計の基礎といった事にも言及し企業会計全般の領域について対応したい。テキストに出てくる重要な概念、専門用語については十分理解していただきたい。重要な部分についついては講義でも示していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに基づいてパワーポイントを用いた講義を行う。わかりにくい事例については具体的な計算例や事例に触れて説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	総論	会計学入門１の内容を確認するとともに、会計の意義、会計の種類、会計の役割、会計学の研究対象等につい学ぶ。
第2回	企業会計の仕組み	財務諸表、財産法と損益報、棚卸法と誘導法、会計公準、会計原則等について学ぶ。
第3回	企業会計制度	会社法による会計規定、金融商品取引法による会計規定、法人税法による会計規定等について学ぶ。
第4回	資産会計（１）	資産と資産会計の意義、資産の分類、資産の評価基準、および流動資産のうち当座資産、棚卸資産の部分について学ぶ。
第5回	資産会計（２）	流動資産のうち前回触れなかった部分と、固定資産、繰延資産の会計処理について学ぶ。
第6回	負債会計	負債と負債会計の意義、負債の分類、負債性引当金、流動負債、固定負債、負債の表示について学ぶ。流動
第7回	資本会計（１）	資本と資本会計の意義、資本の分類、純資産と株主資本、資本金、資本剰余金について学ぶ。
第8回	資本会計（２）	利益剰余金、自己株式、評価・換算差額、新株予約権について学ぶ。
第9回	損益会計	損益会計の意義、損益項目の分類、損益会計の諸原則等について学ぶ。
第10回	財務諸表の作成	会社法による財務諸表、金融商品取引法による財務諸表、法人税法による財務諸表、財務諸表の作成方法について学ぶ。
第11回	連結財務諸表（１）	連結財務諸表の意義と目的、連結の範囲、連結貸借対照表の作成について学ぶ。
第12回	連結財務諸表（２）	連結損益計算書の作成、連結包括利益計算書、持分法について学ぶ。
第13回	原価計算の基礎	原価計算の目的、原価概念、原価計算の体系等について学ぶ。
第14回	管理会計の基礎	管理会計の役割、管理会計の体系、短期利益計画と予算管理等について学ぶ。
第15回	全体のまとめと重要箇所箇所の確認、補足説明を行う。	会計学入門Ⅱで学んだ事項の全体的な復習を含め重要箇所の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを十分学習するとともに、テキスト各章末の研究問題を解くことが求められる。

【テキスト（教科書）】
新井清光・川村義則『(新版）現代会計学』中央経済社

【参考書】
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、通教課程テキスト：神谷健司・市川佳功『簿記Ⅲ・Ⅳ』、「会計法規集」中央経済社

【成績評価の方法と基準】
最終的な試験によって評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
できれば『会計法規集』を用意して、講義に関連する会計基等に目を通していただきたい。

【その他の重要事項】
日商簿記３級程度の知識があり。「会計学入門Ⅰ」程度の知識（基本的な財務諸表が読める）程度の知識があることがこの科目履修の前提である。
この科目履修後の会計関連専門科目として、『財務会計論』、『原価計算論』、『管理会計論』,『監査論』、『税務会計』、『経営分析論』、『簿記Ⅳ』といった科目があげられる。

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅱ (後期メディア)

李　瑞雪

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、『経営戦略論Ⅰ』と合わせて経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的内容を学びます。主に全社戦略とサプライチェーン戦略に関する基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養うことを目的とします。

【到達目標】
主要な全社戦略とサプライチェーン戦略に関する理論と概念を使って、現実の戦略的行動とその効果を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
メディア授業の性格上、基本的には講義方式を採用します。授業中に提示される演習問題を使いながら練習・復習することによって、内容の理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	ネットワーク外部性と競争優位	ネットワーク外部性、互換性、デファクト・スタンダード獲得戦略（クローズド戦略とオープン戦略）、クリティカル・マス、Fast Mover Advantage。
第02回	イノベーションと競争優位Ⅰ	イノベーションの定義と分類、イノベーションの特徴とそのマネジメント、イノベーションと競争優位との関係、「新結合」、「迅速な追随者」
第03回	イノベーションと競争優位Ⅱ	イノベーションのジレンマ、持続的技術と破壊的技術、「死の谷（デスバレー）」、知的財産戦略（イノベーションの収益化）、オープン・イノベーション、リーバス・イノベーション、フルーガル・イノベーション
第04回	競争優位の持続可能性	隔離メカニズム、強みの源泉の専有化、経営資源の不確実性、暗黙知と形式知、強みの累積、先手の連鎖、戦略フィット、活動システム、柔道ストラテジー
第05回	多角化と企業戦略Ⅰ	企業戦略、事業展開の方向、企業優位、多角化戦略の定義、多角化の誘因、多角化の類型
第06回	多角化と企業戦略II	多角化戦略の動機、多角化度、多角化の程度と経営パフォーマンスの関係、ダイナミックな学習プロセスとしての多角化、多角化の犯しやすい間違い
第07回	垂直統合と企業戦略Ⅰ	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buyの意思決定、第３の取引形態
第08回	垂直統合と企業戦略II	取引統治メカニズムの類型（スポット市場契約、完備契約、逐次契約、関係性に基づく契約、内部市場、官僚制、クラン）、垂直統合と持続的競争優位との関係、垂直統合のための組織
第09回	国際化と企業戦略Ⅰ	国際化の類型、国際化戦略における範囲の経済、海外顧客の購入意思と購入能力、輸入障壁
第10回	国際化と企業戦略II	OLIフレームワーク、統合化と適応化、国際企業戦略の類型、CAGEフレームワーク、AAA戦略
第11回	合併買収と企業戦略Ⅰ	M&Aの類型、戦略的関連性の源泉、M&A戦略の動機、M&A戦略と企業パフォーマンスとの関係
第12回	合併買収と企業戦略II	ビディング企業の経営者の規範、ターゲット企業の経営者の原則、ターゲット企業の行動、ターゲット企業の対抗策の経済的効果
第13回	戦略提携と企業戦略	戦略的提携の定義と形態、戦略的提携と業界構造、戦略的提携の動機、提携におけるリスク
第14回	ロジスティクス／SCM戦略	ロジスティクス戦略、サプライチェーン戦略、プロセス管理、SCMと競争優位

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に着け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣

【参考書】
M．E．ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社、デビッド・J．コリス＋シンシア・A・モンゴメリー『資源ベースの経営戦略論』東洋経済新報社、Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
中間リポートとリポート試験の総合評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
関連科目として経営戦略論Ⅰがある。あわせて履修することが望ましい。まずⅠを履修し、その後Ⅱを履修した方が理解が深まるため、Ⅰ、Ⅱの順で履修すると良い。
主な関連科目として、経営学総論、経営分析、日本経営論、経営組織論、マーケティング論などが挙げられます。

MAN200TG（経営学 / Management 200）

マーケティング論Ⅱ(後期メディア)

竹内　淑恵

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日のマーケティングの課題は、製品やブランドを日常生活の一部にする、活発でインタラクティブな消費者のコミュニティを創造することです。本講義では、顧客価値を創造し、ロイヤル顧客を獲得する方法を学びます。内容は5つの主要なテーマから構成されています。
1.マーケティングの本質と市場競争への対応
2.顧客価値の発見と理解
3.顧客価値の創造と提供
4.顧客価値の説得と伝達
5.マーケティングの革新
この講義によって、今日のマーケティングの本質をとらえた革新的な顧客価値と顧客リレーションシップの枠組みを理解することができます。

【到達目標】
以下に挙げる点が本授業の達成目標です。
・マーケティングの概念と理論を中心に学び、マーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得する。
・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。
・レポート課題に積極的に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
・マーケティング論Ⅱもマーケティング論Ⅰと同様、講義形式で授業を進めます。
・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説しますが、随時いろいろなケースを取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	マーケティングの本質	マーケティングの定義、マーケティングの5つのステップのうち「顧客ニーズの理解」、「顧客とのリレーションシップの構築」、「顧客からの価値の獲得」について学ぶ。
第02回	企業とマーケティング戦略	マーケティングの5つのステップのうち、第1回で取り上げなかった「顧客主導型マーケティング戦略の設計」、「マーケティング・プログラムの設計」について学ぶ。
第03回	競争優位の創造	競合他社の明確化と競合他社の分析、自社のポジションの規定、競争的マーケティング戦略について学ぶ。
第04回	マーケティングの基本枠組み	マーケティングの基本枠組みであるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学ぶ。
第05回	マーケティング情報とカスタマー・インサイト	潜在的なニーズの掘り起こし、マーケティングに関する重要な情報の管理、カスタマー・インサイトについて学ぶ。
第06回	消費者の購買行動	消費者行動のモデル、消費者行動に影響を与える特性、購買行動のタイプ、購買者の意思決定プロセスについて学ぶ。
第07回	製品、サービス、ブランド	製品の定義、製品・サービスに関する意思決定、サービス・マーケティング、ブランディングについて学ぶ。
第08回	新製品開発と製品ライフサイクル戦略	新製品開発プロセスとそのマネジメント、製品ライフサイクル戦略、グローバルな展開について学ぶ。
第09回	マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供	サプライ・チェーンと価値提供ネットワーク、チャネル・コンフリクトとマーケティング・システム、チャネル設計に関する意思決定、マーケティング・ロジスティクスについて学ぶ。
第10回	価格設定	価格設定戦略、価格調整戦略、価格変更について学ぶ。
第11回	コミュニケーションによる顧客価値の説得	コミュニケーション・ミックス、統合型マーケティング・コミュニケーション、予算とコミュニケーション・ミックスについて学ぶ。
第12回	広告とパブリック・リレーションズ	広告の定義、広告戦略の展開、広告媒体の選定、パブリック・リレーションズについて学ぶ
第13回	人的販売と販売促進	人的販売、セールス・フォースの管理、人的販売のプロセス、販売促進について学ぶ。
第14回	ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング	ダイレクト・マーケティングの捉え方とその形態、オンライン・マーケティングの実施について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
マーケティングでは理論と実務の融合が重要です。毎回の講義内容を復習する意味でも、市場での実践の事例を見て、洞察することを各自フィールドワークとして実施してください。スーパーやドラッグストアなどの店頭に行ったり、イベントやキャンペーンに参加してみたり、授業で学習した内容を実際の製品・サービスで確認・経験してみましょう。

【テキスト（教科書）】
コトラー, P., G. アームストロング, 恩藏直人『コトラー、アームストロング、恩藏のマーケティング原理』丸善出版(2014 年)。

【参考書】
・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016 年)。
・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007 年)。
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣(2016 年)。
・竹内淑恵編著　『リレーションシップのマネジメント』　文眞堂(2014 年)。この書籍は、特にマーケティングをテーマにした卒業論文に取り組む方の参考になると思います。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト1,2 を各々25 %計50 %、そして、レポート試験を50 %とし合算して評価します。
(注) 2 回実施する中間テストを未受験のまま、レポート課題を提出する受講生がいますが、レポートだけ(最高でも 50 点) では単位取得できませんので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。14 回あるメディアスクーリングの受講は大変だとは思いますが、皆さんの勉学に向けた努力と熱意に期待しています。一緒に頑張ってマーケティング論を勉強しましょう！

【その他の重要事項】
メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有する教員が、その実務経験を活かし、マーケティングの理論に焦点を当てて、具体的、かつ、わかりやすく講義する。

【Outline (in English)】
Today's marketing challenge is to create lively and interactive communities of consumers who make products and brands a part of their daily lives. In this course, students learn how to create customer value and acquire loyal customers. The content consists of five main themes:
1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.
This class will help students to understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

管理会計論Ⅱ（後期メディア）

北田　皓嗣

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
管理会計とは，組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって，管理会計の学習にあたっては，単に計算テクニックを使えるというだけでなく，組織実践との関係で，経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では，企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

【到達目標】
経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進めるとともに，随時、計算問題や復習のための問題演習を取り入れていきます。そのため、講義を聴くだけでなく、授業中に設定されている問題についても必ず取り組むようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	管理会計の基礎	授業の概要と，費用の考え方の紹介
第2回	責任センター	コストセンター，プロフィットセンター
第3回	事業部制組織	事業部と職能別組織
第4回	事業部の利益概念	貢献差益，事業部純利益
第5回	振替価格	原価法，市価法
第6回	事業部の評価	RI, ROCE
第7回	BSC	４つの視点
第8回	戦略マップ	視点の因果関係
第9回	コストマネジメント	原価の考え方
第10回	原価企画	VE, 目標原価の設定
第11回	原価維持，原価低減	原価の管理
第12回	CSR1	企業の責任
第13回	CSR2	ESG投資
第14回	MFCA	資源生産性の管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。

【テキスト（教科書）】
谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計（第3版）』中央経済社

【参考書】
浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文舘

【成績評価の方法と基準】
「中間リポート」40％と「メディアスクーリング試験」60％との総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

税務会計Ⅱ(後期メディア)

大下　勇二

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「税務会計Ⅰ」で会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎を学んだ上で、今日的な企業課税の諸問題を取り上げ、法人税課税の基礎的な考え方を学習します。

【到達目標】
新しい事業体の課税問題、給与の新しい支給形態、不良債権の償却、組織再編と企業集団化、経済活動の国際化など、今日的なテーマにそって、法人課税上の諸問題を考え理論的に整理できる能力の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、わが国法人税課税上、重要な問題となっている主要項目を、スライドに基づき解説する形で進めて行きます。また、各回の最後に受講生には簡単な問題を回答してもらい、理解の程度を確認しながら次に進みます。また、中間レポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
①	事業形態の多様化と課税問題	ペイ・スルー課税、パス・スルー課税を取り上げ、新しい事業体の出現により、いかなる課税問題が生じているかを学習する。
②	企業の社会的責任と交際費課税	交際費課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
③	企業の社会的責任と寄附金課税	寄附金課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
④	給与の支給形態の多様化と課税問題(1)	最近の役員給与の支給形態の変化と課税の問題を学習する。
⑤	給与の支給形態の多様化と課税問題(2)	役員給与の損金算入制限の考え方を理解し、役員給与の課税の問題を学習する。
⑥	不良債権の償却の課税問題(1)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒損失の処理の考え方を学習する。
⑦	不良債権の償却の課税問題(2)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒引当金の処理の考え方を学習する。
⑧	固定資産の減価償却-その2(1)	増加償却・陳腐化償却、評価減の考え方を学習する。
⑨	固定資産の減価償却-その2(2)	修繕費と資本的支出、除却、特別償却の考え方を理解する。
⑩	企業活動の集団化と課税問題(1)	合併・分割・株式交換・株式移転等の組織再編税制の考え方を学習する。
⑪	企業活動の集団化と課税問題(2)	グループ法人税制(グループ法人単体課税制度と連結納税制度)の特徴とその考え方を学習する。
⑫	企業活動の国際化と課税問題(1)	国際課税の基礎理論を学習する。
⑬	企業活動の国際化と課税問題(2)	国際課税の考え方を海外事業展開の例を用いて学習する。
⑭	企業活動の国際化と課税問題(3)	移転価格税制、過少資本税制、タックス・ヘイブン税制等の基礎を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを読んでおくことが必要です。中間レポートの作成・提出が求められます。

【テキスト（教科書）】
大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ(第2版)』法政大学,2019年

【参考書】
テキストの「参考文献」を参照。

【成績評価の方法と基準】
中間レポートの提出を前提に修了試験により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
関心のある身近な事例をできるだけ取り上げたい。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
財務会計、国際会計、税務会計
〈研究テーマ〉
フランス会計制度研究
プラン・コンタブルの国際比較研究
税務会計における会計基準の利用問題
〈主要研究業績〉
① 単著『連単分離の会計システム-フランスにおける2つの会計標準化-』法政大学出版局,2018年。
② 共著『プラン・コンタブルの国際比較』(野村健太郎編著)中央経済社、2005年。
② 共著『IFRS・IAS(国際財務報告基準・国際会計基準)徹底解説』(菊谷正人編著)税務経理協会,2009年。

【Outline (in English)】
The objective of Tax Accounting Ⅱ is to understand the problems of corporate income taxation in Japan.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

国際金融論Ⅰ(後期メディア)

横内　正雄

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代はグローバル化の時代といわれるが、その中でも金融グローバル化の現象はなはなしく、日々のニュースなどでそれに関連した事柄が取りあげられないことはないほどである。国際金融論Ⅰは、こうした金融グローバル化の背後にある外国為替や国際収支などの国際金融に関する基本的な概念と基礎的な理論を学ぶ。

【到達目標】
国際金融論Ⅰは、現実の世界における様々な国際金融現象の背後にある基礎的な理論を学び、その意味を理解することを目標とする。この講義を通じて日頃われわれが耳にする国際金融のニュースが理解しやすくなれば良いと考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はパワーポイントを用いるとともに、個別のテーマについて毎回完結した内容の講義を行う。また、できる限り多くの資料を用いることによって理解しやすいように努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	世界経済の中における位置を確認するとともに国際金融の特徴について学ぶ
第2回	国際取引と外国為替	国際貿易取引と国際送金の流れと外国為替の基本について学ぶ
第3回	外国為替相場	外国為替の本質と外国為替相場の種類について学ぶ
第4回	外国為替市場	外国為替市場の構造と銀行による為替リスク管理について学ぶ
第5回	為替相場制度と為替介入	固定相場制および変動相場制のメカニズムと外国為替市場への介入について学ぶ
第6回	先物為替と金利平価	金利裁定取引とその結果成立する金利平価について学ぶ
第7回	国際収支	国際収支の概念・項目と国際収支表の作成原理について学ぶ
第8回	国際金融市場	国際金融市場の構造と現状について学ぶ
第9回	国際通貨	国際通貨の基本理論と現状について学ぶ
第10回	外国為替相場の理論(1)	外国為替相場に関する国際収支説、為替心理説、購買力平価説を学ぶ
第11回	外国為替相場の理論(2)	アセットアプローチの考え方とそのモデルについて学ぶ
第12回	為替リスクとデリバティブ	為替リスクの種類とその管理手法としてのデリバティブについて学ぶ
第13回	国際収支の理論(1)	弾力性アプローチの考え方を学ぶ
第14回	国際収支の理論(2)	貯蓄投資バランスアプローチの考え方を学ぶ
第15回	国際金融とマクロ経済政策	マンデルフレミングモデルとその政策的インプリケーションを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に国際金融論に関する文献の中の該当する箇所を読んで講義に臨むと理解しやすい。文献は特に指定しないが、以下の参考文献として挙げているもののうち初級レベルのものが読みやすい。また、日頃からテレビや新聞などの国際金融に関するニュースに関心を持っておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
☆初級レベルの参考書
秦忠夫・本田敬吉・西村陽造『国際金融のしくみ』［第４版］有斐閣、2012年
川本明人『外国為替・国際金融入門』中央経済社、2012年
中條誠一『現代の国際金融を学ぶ』［第2版］勁草書房、2015年
清水順子・大野早苗・松原聖『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016年
永易淳・江阪太郎・吉田裕司『はじめて学ぶ国際金融論』有斐閣、2015年
奥田宏司・代田純・櫻井公人編『現代国際金融』［第３版］法律文化社、2016年
佐々木百合『国際金融論入門』新世社、2017年
☆中級レベルの参考書
高木信二『入門 国際金融』［第４版］日本評論社、2011年
勝悦子『新しい国際金融論』有斐閣、2011年
川上孝夫・藤田誠一編『現代国際金融論』［第４版］有斐閣、2012年
藤井英次『コア・テキスト国際金融論』［第2版］新世社、2014年
小川英治・岡野衛士『国際金融』東洋経済新報社、2016年
☆資料集
神田眞人編『図説 国際金融 2015-2016年版』財形詳報社、2015年

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（30％）と試験（70％）による。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand the basic concepts and theory of international finance. In particular, learning about the concepts and theory of foreign exchange, the concept and theory of the balance of payments, etc. can help you to understand the phenomena of modern international finance.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講(ミクロ経済学)(後期メディア)

平田　英明

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学の基本的な理論を理解します。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

【到達目標】
ミクロ経済学の基本的な理論（経済学入門Ⅰ/A）程度の内容）を踏まえ、企業行動を中心に理解していくことを目標とします。単に理論の理解をするだけではなく、ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることを目標にしていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
ビジネスの現場で起きている事象や具体的なケースを、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	外部性１	外部性の意味と実際の例を理解します。
第2回	外部性２	外部性の存在が市場にもたらす影響を学びます。
第3回	公共財と共有資源１	公共財とは何かを学び、ミクロ経済学視点から考察します。
第4回	公共財と共有資源２	共有資源とは何かを学び、ミクロ経済学視点から考察します。
第5回	生産の費用１	企業の生産活動と費用構造を学びます。とくに、基礎的なコストの概念を学びます。
第6回	生産の費用２	企業の生産活動と費用構造を学びます。とくに、企業活動に関連するコストの種類を理解します。
第7回	生産の費用３、競争市場における企業１	企業の生産活動と費用構造を学びます。とくに、コストの種類をなぜ区別して理解する必要があるのかを理解します。
第8回	競争市場における企業２	競争市場の企業のパースペクティブの違いがもたらす影響を学びます。独占企業の基本的特徴を考えます。
第9回	競争市場における企業３、独占１	独占企業の企業行動を理解します。とくに、独占企業と完全競争企業の違いを理解し、違いの源泉を理解します。
第10回	独占２	独占企業の企業行動を理解します。とくに、独占企業としての合理的な行動を理解します。
第11回	寡占１	寡占企業の行動様式を学びます。
第12回	寡占２	ゲーム理論を使った寡占の理解の基礎を紹介します。
第13回	独占的競争	独占的競争の下での企業行動を学びます。合理的な独占的競争下の企業はどのような戦略をとり、利潤を最大化していくのかを理解します。
第14回	番外編（グローバル金融危機と日本経済）	リーマンショックに代表される金融危機をミクロ経済学の視点から考えてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は不要ですが、しっかり復習しましょう。例題をきちんと自分で解き、しっかり理解してください。

【テキスト（教科書）】
『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第3版）』N.グレゴリー・マンキュー著　（東洋経済新報社）

【参考書】
『クルーグマン ミクロ経済学』ポール・クルーグマン他著　（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】
中間リポート40%、リポート試験60%で評価する予定です。いずれも４択などの選択方式かそれに準ずる方式の問題です。

【学生の意見等からの気づき】
中間試験、期末試験後、解答を求める声がたまに聞かれますが、原則として公開しません。全て授業内で教えている内容の範囲内の内容だからです。正答がわからない場合、自分がどのように解答を導出したかを説明の上、質問をするようにしてもらいます。
中間試験がよくても、期末試験が悪いケースが散見されます。いろいろ理由はあるかと思いますが、気を抜かないようにしましょう。

【その他の重要事項】
過去に試験について、Yahoo知恵袋で質問をしているケースが見られました。このような不正行為については、厳正な対処をしますので、絶対にしないようにしてください。
また、オンライン等でのカンニングの可能性を踏まえ、試験期間は中間リポート、リポート試験ともにきわめて限定した期間（２日間程度＜毎年、『法政通信』で日程を確定させて記載＞）で実施します。ご自身のカレンダーを確認の上、履修登録をしてください。
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有する。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有する。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたい。

【Outline (in English)】
This class offers lectures on introductory microeconomics. The theory of microeconomics is formal but this class tries to teach that as intuitively as possible. In doing so, the lecturer will give you a bunch of examples that can be observed in your real life and that are actually going on in real business. Understanding economics with relevant examples strengthen your knowledge of economics.
This lecture covers basic theory of microeconomics of firms. The ultimate objective is to let students think by themselves what is going on in the goods and services markets. Students will get familiar with a logical explanation of the market economy.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

経営組織論(後期メディア)

長岡　健

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営組織論の概念をもとに、個人、集団、組織全体に関する考察力を修得することを目指します。

【到達目標】
以下の３点を到達目標とした学習に取り組みます。

(1) 経営組織論の概念枠組と用語を用いて、組織における個人と集団の振る舞いや、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を理解し、説明することができる。
(2) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における「組織」の諸側面について、多面的かつ批判的に考察できる。
(3) 組織における個人と集団の活動や、現代社会における経営組織の活動を深く理解するための本質的な「問い」を、主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
組織をめぐる活動／現象は、様々な要素が複雑に絡み合って展開していきます。経営組織論は、この複雑な活動／現象を整理し、深く理解していくための概念や理論を提供しています。

授業では、経営組織論の概念や理論をもとに、「組織における行動」に関するミクロ的視点、および、「組織の構造・システム」に関するマクロ的視点の両方から、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、「組織の中の個人」「組織の中の集団」「組織構造」「組織文化」「組織変革」という５つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	組織の中の個人(1)	仕事の中での「学習と成長」に関する基礎概念を理解する。
第02回	組織の中の個人(2)	組織における「モチベーション（動機づけ）」に関する基礎概念を理解する。
第03回	組織の中の個人(3)	組織における「キャリア・デザイン」に関する基礎概念を理解する。
第04回	組織の中の集団(1)	経営学における「集団（グループ）」の意味／意義／位置づけを理解する。
第05回	組織の中の集団(2)	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題を理解する。
第06回	組織の中の集団(3)	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題を理解する。
第07回	組織構造(1)	組織設計の視点と「ピラミッド型組織」の基本原理を理解する。
第08回	組織構造(2)	企業の組織形態と「フラット化・ネットーワック化」の進展を理解する。
第09回	組織構造(3)	組織構造の変化に対する「社会的制度／圧力」の影響を理解する。
第10回	組織文化(1)	「企業文化論」の特徴と「日本的経営」に対する評価の変遷を理解する。
第11回	組織文化(2)	組織における「プロフェッショナル」の意味／意義／位置づけを理解する。
第12回	組織文化(3)	「組織エスノグラフィー」という研究のねらいと方法を理解する。
第13回	組織変革(1)	「組織学習」という概念の可能性と課題を理解する。
第14回	組織変革(2)	「学習棄却（アンラーニング）」という概念の可能性と課題を理解する。
第15回	組織変革(3)	組織における「変革型リーダーシップ」の意味／意義／位置づけを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を使いながら講義（映像教材）を受講した後、主要な概念について深く理解することをめざし、講義内容を自分自身で整理する等、十分な復習を行ってください。さらに、講義（映像教材）の中で、参考文献を紹介しますので、自分自身の興味・関心に合ったものを選び、主体的に読み進めて下さい。

【テキスト（教科書）】
指定はありません。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
(1) 1～5までの中間テスト5問は各々10％としてトータル50％を平常点として扱います。
(2) リポート試験を50％として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容に関する質問には、できる限り速やかに、かつ、丁寧に回答することを心がけていきたいと思います。

【Outline (in English)】
Behaviours and phenomena concerning “organisations” emerge as a result of various elements complicatedly being intertwined. Management Organisation Theory offers the conceptual tools for deeply understanding of those behaviours and phenomena.
In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the behaviours and phenomena of business organisations in the modern society, in particular focusing on the following five themes; 1) individual behaviours in organisations, 2) group behaviours in organisations, 3) organisational structures, 4) organisational cultures, and 5) organisational change.
The main objectives of this course are the following three; 1) to deepen our understanding of the concepts of Management Organisation Theory enough to explain both individual/group behaviours in Japanese business organisations and the contexts in which those behaviours are situated, 2) to sharpen our insights into various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and 3) to find meaningful research questions in order to deepen our understanding of the modern business organisations in relation to the five themes mentioned above.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

ファイナンス論Ⅱ／現代ファイナンスB(後期メディア)

山嵜　輝

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ファイナンスの中核をなすデリバティブ理論（金融派生商品のしくみ）とポートフォリオ理論（複数銘柄の証券投資）が授業のテーマとなります。これら２つの理論はノーベル経済学賞を受賞し、学術界のみならず金融実務にも革命的な変化をもたらしました。こうした理論には難解な部分もありますが、極力シンプルに理論の本質や金融実務での有用性を理解することを目的に授業を展開します。

【到達目標】
本授業では、ファイナンス理論の中でも重要なデリバティブ（金融派生商品）取引とポートフォリオ理論の入門的な内容を講義します。主なテーマは、デリバティブ市場のしくみや役割、デリバティブの価格決定手法、ポートフォリオ理論による合理的な投資意思決定です。授業の到達目標は、①デリバティブ市場の基礎知識や用語を習得する、②デリバティブ取引のしくみを理解し、基本的な計量分析や価格評価ができる、③ポートフォリオ理論に基づく投資決定方法の説明ができる、の3つになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
デリバティブ市場や関連する金融市場の概観を説明した後に、個別のデリバティブ取引のしくみと無裁定価格理論に基づく価格評価の考え方を解説します。講義後半では、ポートフォリオ理論の初歩的な説明をします。分析に必要な数学の解説は適宜行いますが、中学・高校のごく簡単な数学の知識（2次方程式、1次関数や2次関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）は予備知識として必要です。授業の方法は、講義形式で行います。スライドを事前に準備しますので、講義内容に合わせて参照してください。また、適宜ホワイトボードに板書をしますので、必要に応じてメモをとるようにしてください。計算例題では電卓（関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトでも可）を使いますので用意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	「短期資金・為替・貸出・預金市場の概要」	デリバティブ市場の予備知識として、短期資金市場・外国為替市場・貸出市場・預金市場の概要について講義します。
第02回	「デリバティブ市場の概要」	デリバティブ市場の概観を解説した後に、主要なデリバティブ市場である先物市場、先渡市場、スワップ市場、オプション市場について講義します。
第03回	「先渡・先物分析入門(1)」	先渡取引のしくみ、代表的な先渡取引、先物取引のしくみ、代表的な先物取引、金融実務での活用例について講義します。
第04回	「先渡・先物分析入門(2)」	無裁定条件、為替ヘッジ付きドル運用による為替予約の価格評価、FRAヘッジ付きロール運用による金利先渡の価格評価、キャッシュ＆キャリー戦略による株価指数先物の価格評価について講義します。
第05回	「スワップ分析入門(1)」	金利スワップと通貨スワップを例にスワップ取引のしくみと金融実務での活用例について講義します。
第06回	「スワップ分析入門(2)」	金利スワップ取引の入門的な価格評価手法や損益計算の方法について講義します。
第07回	「オプション分析入門(1)」	オプション取引の種類やしくみを解説した後に、オプションのペイオフに関する数学について講義します。
第08回	「オプション分析入門(2)」	プットコールパリティや金融実務でのオプション取引の活用例、オプションをもちいた投資戦略について講義します。
第09回	「オプション分析入門(3)」	1期間2項モデルをもちいたオプションの価格評価方法、複製ポートフォリオ、リスク中立確率について講義します。
第10回	「オプション分析入門(4)」	2期間2項モデルをもちいたオプションの価格評価方法、動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタについて講義します。
第11回	「ポートフォリオ理論入門(1)」	ポートフォリオ理論の概要を説明した後に、確率変数・期待値・分散・標準偏差などの確率統計の基礎について講義します。
第12回	「ポートフォリオ理論入門(2)」	共分散・相関係数・独立などの2変数の確率統計の基礎、効用関数、期待効用、リスク回避的投資家の投資行動などについて講義します。
第13回	「ポートフォリオ理論入門(3)」	証券のリスクとリターン、効用無差別曲線、リスク・プレミアム、投資機会集合、効率的フロンティア、接点ポートフォリオなどについて講義します。
第14回	「ポートフォリオ理論入門(4)」	最適ポートフォリオ、トービンの分離定理、マーケット・モデルなどの他に、回帰分析の基礎について講義します。
第15回	「ポートフォリオ理論入門(5)」	市場ポートフォリオ、資本市場線、証券市場線、リスクの市場価格、CAPM、ジェンセンのアルファなどについて講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スライド資料の復習を十分に行って下さい。

【テキスト（教科書）】
スライド以外には特に指定しません。

【参考書】
①『新・証券投資論Ⅱ（実務篇）』（伊藤敬介他著、日本経済新聞出版社、2009年）、②『新・証券投資論Ⅰ（理論篇）』（小林孝雄・芹田敏夫著、日本経済新聞出版社、2009年）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は中間リポートとリポート試験の総合評価とします。どちらか一方のみの提出では不可となります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションや質問には、極力迅速に対応します。

【その他の重要事項】
現代ファイナンスB/ファイナンス論IIは、現代ファイナンスA/ファイナンス論Iの知識を前提としています。現代ファイナンスB/ファイナンス論IIを受講する方は事前に現代ファイナンスA/ファイナンス論Iを受講することをお勧めします。担当教員は、民間金融機関及び中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
This course provides students with essentials of finance theory. It has three objectives: (1) To introduce fundamental knowledge of financial derivatives and derivatives markets. (2) To explain some types of derivative contracts and valuation methods for derivative products such as futures, swaps, and options. (3) To give an introduction to modern portfolio theory, including the mean-variance approach and the capital asset pricing model.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

消費者行動論(後期メディア)

新倉　貴士

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
消費者の行動は、非常に微妙なものに左右されてしまいます。昨日まで飛ぶように売れていたブランドが、突然売れなくなってしまいます。一体何が消費者の行動を規定しているのでしょうか。当授業では、このような消費者行動について、さまざまな角度から講義します。また、マーケティングとブランド構築への応用のための消費者行動に関する体系的な理解について講義します。
履修生は、消費者行動に関する体系的な知識の獲得と、マーケティングとブランド構築のための応用的知識の獲得を目指します。

【到達目標】
当科目の履修生には、以下の３つの目標を掲げます。
①消費者行動に関する基礎的かつ体系的な知識とこれまでの歴史的展開を理解できるようになることを目指します。
②消費者行動とマーケティングに関する応用的な実務的な知識の獲得を目指します。
③消費者情報処理という視点から、消費者行動の背後にある細やかな認知や微妙な態度にも配慮できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、消費者行動論を体系的に学ぶために、授業を５部構成として設定します。第Ⅰ部は「消費者行動分析の基本フレーム」、第Ⅱ部は「環境要因の変化と消費者行動」、第Ⅲ部は「消費者情報処理の分析フレーム」、第Ⅳ部は「購買意思決定プロセスと情報処理」、第Ⅴ部は「購買意思決定の特性とマーケティング」です。授業の方法は、講義形式で行います。スライドを事前に準備しますので、講義内容に合わせて参照してください。また、適宜ホワイトボードに板書をしますので、必要に応じてメモをとるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	消費者行動とマーケティング	消費者行動とは何か、市場の把握と消費者理解、マーケティングの今日的課題と消費者行動分析について講義します。
第02回	消費者行動の分析フレーム	消費者行動の分析レベル、購買行動分析の視点と枠組み、消費者行動の分析モデルについて講義します。
第03回	消費者行動研究の系譜	消費者行動研究の源流と系譜、モチベーション・リサーチの系譜、ブランド選択モデルの系譜、消費者情報処理研究の系譜、近年の展開について講義します。
第04回	消費行動と消費パターンの分析	生活資源配分と消費行動、消費行動分析の３つのアプローチ、消費様式の選択メカニズムについて講義します。
第05回	消費者行動の変化とその諸相	消費者行動の変化をどう捉えるか、家事の外部化と消費の多様化、インターネットが変える消費者行動について講義します。
第06回	情報処理のメカニズム	情報処理システムとしての消費者、処理能力と処理資源の限界とその克服、消費者情報処理モデル、消費者情報処理とマーケティング対応について講義します。
第07回	情報処理の動機づけ	動機としての問題認識、動機づけとしての目標と目標階層、動機づけられるメカニズム、動機づけられた状態としての関与について講義します。
第08回	情報処理の能力	情報処理能力と知識、長期記憶の仕組み、認知構造の水準、専門知識力について講義します。
第09回	購買意思決定の分析	購買意思決定プロセス、伝統的な意思決定理論、情報過負荷の影響、情報処理の多様性について講義します。
第10回	購買前の情報処理	情報の内部探索、情報の外部探索、情報の解釈メカニズム、解釈の多様性について講義します。
第11回	購買時の情報処理	低関与情報処理、情報処理のモード、相互適応的な情報処理について講義します。
第12回	購買後の情報処理	購買後の再評価、再評価と満足、消費者間の社会的相互作用について講義します。
第13回	購買意思決定プロセスとマーケティング	情報処理プロセスを捉える視点、情報処理プロセスとマーケティング・マネジメント、購買意思決定とマーケティングとの関わりについて講義します。
第14回	購買意思決定の特性とマーケティング	購買意思決定と提案価値のデザイン、購買意思決定と価値伝達のデザイン、購買意思決定とインターネットについて講義します。
第15回	ブランド構築と統合型マーケティングコミュニケーション	コモディティ化からの脱却とブランド構築、ブランド構築のための視点、CBBEから見たマーケティング・マネジメントについて講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当する章を事前に読んでおいてください。授業の内容は、スライドに要約してありますので、参照してください。また、各回が終了したら、その内容を再度復習して、次回への準備としてください。

【テキスト（教科書）】
『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司、有斐閣アルマ、2012年）。

【参考書】
『消費者行動論：購買心理からニューロマーケティングまで』（守口剛・竹村和久編著、八千代出版、2012年）。
『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士著、千倉書房、2005年）。
『ケースに学ぶマーケティング』（青木幸弘編著、有斐閣、2015年）

【成績評価の方法と基準】
1～2までの中間テストは各々25％として、トータル50％を平常点として扱い、リポート試験を50％として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
ご質問に対しては、できる限り迅速に、且つ丁寧にフィードバックをさせて頂きたいと思っております。また本年度も、できるだけ多くの方が履修できるようにしたいと思っております。

【その他の重要事項】
マーケティング関連科目を履修しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is a series of lectures, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy.
To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.
Major course objectives are;
-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
-To learn consumer information processing model.
-To understand the relationship between consumer and brand.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

広告論(後期メディア)

竹内　淑恵

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日のマーケティングでは、優れた製品を開発して、魅力的な価格を設定し、入手しやすくするだけではなく、現在および潜在的な顧客とコミュニケーションをとる必要があります。したがって、多くのマーケターにとっての問題は、コミュニケーションをとるべきかどうかではなく、何を言うべきか、いつ、どのように、誰に、そしてどのくらいの頻度で伝えるかということです。このような観点から、企業はコミュニケーション活動を戦略的に設計し、管理する必要があります。本講義では、コミュニケーション活動の大きな比重を占める広告に焦点を当て、マーケティング・コミュニケーション活動への理解を深めることを目的としています。

【到達目標】
以下に挙げる点が本授業の達成目標です。
・マーケティング・コミュニケーションの中でも、特に広告の理論と実務について学び、理解を深める。
・新製品の場合、広告によって認知形成が行われることも多い。新発売の告知情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。
・企業が発信している広告を通じて企業経営に対して関心を持つ。
・レポート課題に積極的に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
・授業はパワーポイントを使って、講義形式で進めます。
・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説します。
・広告論の基礎となるマーケティング論について理解が十分でないと感じる場合は、参考書に挙げた書籍を用いて復習してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	広告とは何か	広告の定義、広告の種類、広告機能の再検討、広告機能の変化の方向について学ぶ。
第02回	マーケティング計画と広告	広告戦略立案の基礎となるマーケティング、およびマーケティング・コミュニケーションについて学ぶ。
第03回	マーケティング・コミュニケーション組織	広告会社の機能と役割、広告会社と広告主の組織、広告業務の流れを学ぶ。
第04回	広告計画の構造と調査	どのようなプロセスを経て広告計画が立案され、広告が出稿されるのかを学ぶ。あわせて、必要なデータを見極めることの重要性を学ぶ。
第05回	広告戦略の立案	広告活動を方向づけるための戦略立案について理解し、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの決定を学ぶ。
第06回	広告予算の決定方法	日本の広告費の規模を確認した上で、合理的な予算決定方法について学ぶ。
第07回	広告コミュニケーション過程と効果	媒体接触からブランドの使用経験までのプロセスを理解するとともに、消費者行動の観点から広告効果を学ぶ。
第08回	表現計画	広告主の伝えたいメッセージをいかに表現化するのか、広告表現の制作プロセス、表現アイデアの開発について学ぶ。
第09回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴、オーディエンスの概念と測定方法、媒体計画の立案プロセスを学ぶ。
第10回	インターネット広告戦略	インターネット広告の概略、分類、戦略について学ぶ。
第11回	広告効果の測定①	広告表現内容による効果とプロモーション効果(短期的なポジティブ効果)、広告への誤認による広告効果プロセスに対する影響(広告のネガティブ効果)について学ぶ。
第12回	広告効果の測定②	広告表現内容による長期的な効果と店頭における販売実績への影響(長期的なポジティブ効果)、広告への飽き(長期的なネガティブ効果)について学ぶ。
第13回	広告関連の法規と規制	表現の自由と広告の自由、広告規制の意義と根拠、日本の広告規制の現状、今後の広告規制について学ぶ。
第14回	グローバル広告戦略	グローバル広告の可能性、標準化とローカル化、グローバル広告管理の課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
広告は、例えば通勤・通学中の電車内の交通広告、TV ドラマで放映されるCM、いつも読んでいる新聞や雑誌、インターネット上の広告など、毎日の生活で接することができます。その際、単に視聴者という立場で見るだけでなく、企業がどのような戦略で広告を実施しているのかを考えながら見るという姿勢を持つと講義内容への理解がより進むでしょう。授業で学習した内容を各自フィールドワークをする気持ちで、実生活のさまざまなメディアを通じて確認することをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
・岸志津江・田中洋・嶋村和恵著(2017)『現代広告論第3 版』有斐閣(有斐閣アルマ)。
・竹内淑恵(2010)『広告コミュニケーション効果－ホリスティック・アプローチによる実証分析－』千倉書房。

【参考書】
・コトラー, P., G. アームストロング, 恩藏直人『コトラー、アームストロング、恩藏のマーケティング原理』丸善出版(2014 年)。
特に、第11章「コミュニケーションによる顧客価値の説得」、第12章「広告とパブリック・リレーションズ」を参考にしてください。
・西尾チヅル編著(2007)『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版。
特に、第7章「コミュニケーション・デザイン」を参考にしてください。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト1,2 を各々25 %計50 %、そして、レポート試験を50 %とし合算して評価します。
(注) 2回実施する中間テストを未受験のまま、レポート課題を提出する受講生がいますが、レポートだけ(最高でも 50 点) では単位取得できませんので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。14 回あるメディアスクーリングの受講は大変だとは思いますが、皆さんの勉学に向けた努力と熱意に期待しています。一緒に頑張って広告論を勉強しましょう！

【その他の重要事項】
メーカーのマーケティング本部広告制作部でブランド広告の企画制作に携わり、広告会社の戦略プランニング室で多数のクライアントの広告プランニングを立案した経験(計20年間勤務)を有する教員が、広告の理論と実務の融合の観点から、多くの事例を取り上げて講義する。

【Outline (in English)】
Today's marketing calls for more than developing good products, pricing them attractively, and making them accessible. Companies must also communicate their present and potential customers. For more marketers, therefore, the question is not whether to communicate but rather what to say, when and how to say it, to whom, and how often. From such a point of view, companies need to strategically design and manage communication activities. This class focuses on advertising which accounts for a large part of communication activities, and aims to help students to get a better understanding of marketing communication activities.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

現代経済学Ⅰ／ミクロ経済学A(後期メディア)

林　直嗣

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学は価格や生産量などミクロの経済量をベースに、消費者や企業、政府など個別経済主体の経済行動を分析する。経済のミクロ的な諸問題を易しく解説することを通じて、履修生がミクロ経済への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることが目的である。

消費者や企業、政府など個別の経済主体の行動に焦点を当てて分析するのが、ミクロ経済学である。経済成長とか景気循環など国民経済全体の運動法則を解明するマクロ経済学が、森林全体を鳥瞰するのに対して、ミクロ経済学はその個々の木々を調査するといえる。

消費者の需要行動、企業の生産活動、市場価格の決まり方、独占価格の問題点、賃金や利潤などの分配、投資と資本蓄積、市場機構の限界と政府の役割、民主的意思決定機構など私たちの身の回りの経済問題について、着実にしかも体系的に学修する。

【到達目標】

各個人の身の回りから日本経済や世界経済に至るさまざまな経済問題を、消費者や企業、政府などの個別経済主体の視点から理解する力をつけることを目標とする。この講座をとることにより、皆さんはミクロ経済学の素養を体系的に身につけることができる。単に理論を勉強するだけにとどまらず、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実社会に出て役に立つ分析力を養うトレーニングも目標とする。それにより各種資格試験や就職試験のための実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

単に理論を勉強するだけでなく、公認会計士試験や国家公務員試験、あるいは就職試験などに備えるため、章ごとに具体例を用いた実践的な問題演習を解いて、能動学習（アクティブラーニング）を行う。こうした演習問題を積極的に解くことは、実際の分析力を養う上で必須のトレーニングであり、各種資格試験や就職試験のための実践力を涵養する。授業方法は、先ず教科書を読み、ウェブ授業を視聴し、ウェブ上の問題演習を解いてみる。解けない場合は冊子の問題演習を見て理解を深める。またWeb上のディスカッションで先生と質疑応答をする。それをステップ順に学習していけば、学習目標を達成できる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	第1講　経済とミクロ経済学	ミクロ経済学の基礎的な考え方や概念を易しく解説する。
第02回	基礎問題1	経済とミクロ経済学について、穴埋め式の基礎問題を解く。
第03回	第2講　市場経済と貨幣	市場経済と貨幣について基礎的概念や経済学的な考え方を解説する。
第04回	基礎問題2	市場機構と貨幣について、穴埋め式の基礎問題を解く。
第05回	第3講1　消費者の行動1	消費者行動の基礎概念を説明する。
第06回	第3講2　消費者の行動2	消費者行動の基礎理論と進んだ分析を説明する。
第07回	基礎問題3	消費者行動について、穴埋め式の基礎問題を解く。
第08回	応用問題3	消費者行動について、より進んだ計算問題を解く。
第09回	第4講1　企業の行動1	企業理論の基礎概念を説明する。
第10回	第4講2　企業の行動2	企業理論の基礎理論と進んだ分析を説明する。
第11回	基礎問題4	企業行動について、穴埋め式の基礎問題を解く。
第12回	応用問題4	企業行動について、より進んだ計算問題を解く。
第13回	第5講1　市場均衡1	市場均衡論のエッセンスを解説する。
第14回	第5講2　市場均衡2	一般均衡論の基礎概念と理論を解説する。
第15回	基礎問題5	市場均衡について、穴埋め式の基礎問題を解く。
第16回	応用問題5	市場均衡について、より進んだ計算問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、Web授業を聴講し、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む積極的態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。

【テキスト（教科書）】

【教科書】
林　直嗣著『経済学入門』新世社（初級の教科書）
【問題集】
林　直嗣著『問題演習ミクロ経済学　再訂版』（基礎と応用の問題からなる問題集）
※テキスト、問題集ともに生協で10％割引で入手できます。

【参考書】

林　直嗣著『ミクロ経済学入門』世界書院（初級の教科書）

【成績評価の方法と基準】

中間のレポート添削（約20点）と期末の定期試験（約50点）を行う。それらの総合点を合計し、問題の難易度や当該クラスのでき具合などをすべて調整した上で、全員の得点分布を算出し、最新の成績理論に基づいて、その得点分布に基づく合理的で歪みのない相対評価により成績をつける。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【その他の重要事項】

公務員試験や会計士試験などの資格試験や就職試験では、経済学の出題傾向が専門化しているので、理論だけでなく問題演習もすることが望ましく、この授業をとることを特に勧める。

【Outline (in English)】
Microeconomics analyzes economic behaviors of individual economic agents such as consumers, firms, and governments based on microeconomic quantities such as price and production volume. What and how does a consumer demand, how does a firm plan production, how is the market price decided, why is monopoly a problem, how are wages and profits distributed, how are investment and capital accumulation carried, what are the limits of the market mechanism and the role of a government, how can democratic decision-making mechanisms be made, how does uncertainty affect economic activities, etc. We explain these problems easily and systematically.

CHM100TA（その他の化学 / Chemistry 100）

化学２（講義）（ゴールデンウィークスクーリング）

中田　和秀

カテゴリー：**ゴールデンウィーク**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきた。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠である。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説する。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

【到達目標】
現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられている。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料でもある。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
板書やスライド投影を行いながら、講義形式で進める。ときどき練習問題を解きながら理解を深める。化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第2回	原子	分子の構成要素である原子について学習する。
第3回	分子	物質の基本単位である分子について学習する。
第4回	化学結合論	原子同士がどのようなルールに基づいて結合し分子となるのかを学習する。
第5回	分子の構造と性質	分子の構造について議論し、分子の構造と性質の関係について学習する。
第6回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第7回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第8回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第9回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。
第10回	炭化水素のH/C比	炭化水素のH/C比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第11回	CO_2の排出量	CO_2の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第12回	化石燃料各論	石炭、石油、天然ガス等化石燃料に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけ早い段階で、教科書を通読すること。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を勧める。

【テキスト（教科書）】
下記書籍（指定市販本）を教科書として使用する。また、必要に応じてプリント教材を配布する。
書名：グレイ　化学 − 物質と人間−
著者名：H.B.Gray、J.D.Simon、W.C.Trogler
出版者名：東京化学同人

【参考書】
書名：新版　エネルギーの科学（第２版）：人類の未来に向けて
著者名：安井伸郎
出版者名：三共出版

【成績評価の方法と基準】
スクーリング最終日に実施する試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy consumption caused by the combustion of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

LAW200TB（法学 / law 200）

憲法（ゴールデンウィークスクーリング）

金子　匡良

カテゴリー：**ゴールデンウィーク**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
憲法を支える基本原理やその歴史的背景を理解するとともに、個別的な憲法条文に関する解釈や判例を学ぶことを通じて、憲法学的な視点と思考方法を身につけることを目的とする。

【到達目標】
①憲法の機能や役割を理解する。
②憲法の存在意義や歴史、憲法の土台となっている基本原理、憲法の構造を理解する。
③憲法問題を考える際の基本的な視座や、憲法解釈の基本的な方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1, DP2, DP3, DP4」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
憲法の歴史や変遷、憲法を支える基本原理について学んだ上で、人権や国家機構、および憲法改正にかかわる個別的な論点について論じていく。授業は講義形式で進めていく。専門科目ではあるが、受講者の多様性を考慮し、基本的な法律用語の解説にも時間を割く予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけや機能、あるいは憲法の目的について学ぶ。
第2回	憲法の歴史①：憲法の成立	近代憲法の成立過程について学ぶ。
第3回	憲法の歴史②：憲法の発展	近代憲法の現代的変容について学ぶ。
第4回	法の支配と立憲主義	憲法の支える基本原理である法の支配と立憲主義について学ぶ。
第5回	日本憲法史	日本の憲法史、特に大日本帝国憲法の制定と運用、日本国憲法の制定経緯について学ぶ。
第6回	日本国憲法成立の法理	日本国憲法の成立経緯をめぐる法的問題点について学ぶ。
第7回	国民主権	国民主権の意義とその規範的意味について学ぶ。
第8回	人権の類型	人権の類型と性質について学ぶ。
第9回	人権の限界	人権の限界と人権制約原理としての公共の福祉の意義について学ぶ。
第10回	平和主義	平和主義の意義と憲法9条をめぐる法的論点について学ぶ。
第11回	権力分立制	権力分立制の意義とその現代的変容について学ぶ。
第12回	試験	下記「成績評価の方法と基準」に従って試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前及び授業後に配布プリントをよく読み、問題点を明らかにしておくこと。また、スクーリング開始前に、憲法の条文にひととおり目を通しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。授業は配布プリントに基づいて進めていくが、授業中に条文を参照するので、六法（『ポケット六法』や『デイリー六法』など小型のものでよい）を持参することが望ましい。（必要な条文はプリントにも記載しておくので、六法の持参は必須ではない。）

【参考書】
初歩的なものとして、君塚正臣（編）『高校から大学への憲法〔第2版〕』（法律文化社、2016年）、入門的なものとして、毛利透『グラフィック憲法入門〔補訂版〕』（新世社、2016年）、標準的なものとして、芦部信喜（高橋和之(補訂)）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）、発展的なものとして、宍戸常寿ほか『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）などがお勧めの参考書である。

【成績評価の方法と基準】
スクーリング最終日に行う試験によって成績評価を行う。試験では、配布プリント及び各自のノートを持ち込み可とし、基本問題（60点）と応用問題（40 点）を出題する。基本問題では、上記の「到達目標」に記載した内容に関する基本的な知識が身についているかを問い、応用問題では、基本的な知識を使って、自分なりの論理展開ができるかどうかを問う。

【学生の意見等からの気づき】
過去のアンケートでは、「授業の進度が速い」、「内容が難しい」という意見がある一方、「授業の進度が遅い」、「内容が簡単すぎる」という意見もあった。例年こうした相対立する意見があり、授業の内容や進度の調整については悩むところであるが、なるべく平易な説明に努めるとともに、多くの受講者に平均的に満足感が得られる授業となるよう、バランスを取っていきたいと考えている。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Japanese constitution and its historical background.　And, in this lecture, we aim to acquire constitutional viewpoints and thought methods through learning interpretations and precedents on individual constitutional articles.

LIT300TC（文学 / Literature 300）

書道実技（ゴールデンウィークスクーリング）

井澤　秀彦

カテゴリー：**ゴールデンウィーク**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校国語科書写の指導を中心とした実技と指導法について学ぶ。姿勢・執筆法から始まり、用具・用材の基本的な扱い方、楷書、行書、漢字と仮名の調和などを、現在の教育現場の書写の役割や実情を踏まえながら、順次学習を進めていく。

【到達目標】
中学校国語科書写における知識・技能の習得。
基本的な書の表現力（基本点画・書字のきまり・文字感覚など）の習得。
中学校国語科書写の指導者として、生徒に何をどのように教えるのか、また、生徒作品を客観的に評価する着眼点の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ノート（持ち物参照）を丁寧にとり、最終日に全ての作品を貼付したノートを提出する。
講義と実技の時間的な割合は課題にもよるが、おおよそ１：１くらいである。
墨は墨汁ではなく、固形墨を磨墨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	書写と書道の違い	書写・書道における基礎的な用語の理解や用具・用材の扱い方
第2回	表現・鑑賞とは	楷書の基本点画 書写における「表現」は技術、「鑑賞」は知識 表現の第一歩は基本点画の習得
第3回	楷書の学習（書字のきまり１）	「口」の書き方、「八」の書き方などから、文字を書くための決まりごとの理解
第4回	楷書の学習（書字の決まり２）	偏と旁の関係、横画と縦画の関係などから、文字を書くための決まりごとの理解
第5回	筆順指導について	楷書の許容される書き方 教育現場における筆順指導の重要性の理解 楷書の基本的な字形と許容される字形
第6回	楷書のまとめ	四字句・六字句などの学習から、半紙に対する文字の大きさや配列・配字の理解
第7回	行書の特徴１	なぜ中学校で行書を学習するのか 楷書と行書の違い
第8回	行書の特徴２	行書の特徴（点画の丸み・連続・変化など） 点画の省略、筆順の変化
第9回	小筆の学習１	楷書に調和する仮名の学習 行書に調和する仮名の学習
第10回	小筆の学習２	漢字（楷書・行書）と仮名の調和 「散らし書き」の理解と習得
第11回	楷書の古典	楷書の成立と唐の四大家 『九成宮醴泉銘』の学習
第12回	行書の古典	行書の成立と王羲之 『蘭亭序』の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実技の習得は練習の積み重ねが大切である。自分の目標をしっかり持ち、基本点画の習得、自己の欠点の確認・矯正および新しい技量の習得を目指して欲しい。

【テキスト（教科書）】
『明解　書写教育【増補新訂版】』　全国大学書写書道教育学会編
萱原書房　￥1,500＋税
通教テキスト「書道教本」

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
授業参加30点、授業ノート（作品を含む）40点、試験30点

【学生の意見等からの気づき】
書道用具に関して、自らが小・中学生のころに使用していたものではうまく書けないようである。筆は大筆・小筆とも使用状況や経年劣化により使用に耐えられず（やはり小・中学生用はその程度のもの）、固形墨は上手に磨っても濃くならず、硯も小さかったり石製ではなかったりで、初日が終わってから慌てて専門店に行き、書道用具を購入する学生が毎年いる。将来、教壇に立つ者として、相応の書道用具をそろえてほしい。
また、墨で服を汚さぬよう各自工夫すること。

【その他の重要事項】
持ち物
①筆（大筆・小筆）②墨（固形墨）③硯（プラスチック製・セラミック製はＮＧ）④半紙（多めに用意してください）⑤毛氈（下敷き）⑥文鎮⑦ノート（Ｂ５・横罫）⑧筆記用具⑨赤ペン⑩スティックのり
※特に筆・墨・硯・半紙は安価なものは使いにくいものが多い。
上記テキストは必携のこと。

BSP100TF（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（ゴールデンウィークスクーリング）

齋藤　経史

カテゴリー：**ゴールデンウィーク**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ICT［Information and Communication Technology（情報通信技術）］の発達・普及により、IoT［Internet of Things（モノのインターネット）］、クラウド、AI［Artificial Intelligence（人工知能）］の活用に注目が集まっています。本講座では、これらのICTを利用するデータ活用を包括的に学習します。受講者はIoTによるデータ収集・クラウドへのデータ蓄積・プログラミングやAIによるデータ分析の全体像と各論を学ぶことができます。なお、本講座は情報実習室にて実施し、データ分析に関してはRESAS、Excel、Rを操作する実演・実習を交えて行います。

【到達目標】
受講生は「IoTによるデータ収集」「クラウドによるデータ蓄積」「プログラミングやAIによるデータ分析」の全体像と各論を総合的に理解することができます。IoTやクラウドサービスに関する概要を事例を含めて理解できます。また、データ活用の概要に加えて、RESAS、Excel、Rを活用したデータ分析の基礎技術を理解、習得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
3日間のそれぞれ4コマの授業において、講義を主体とする授業が2～3、実演・実習を主体とする授業が1～2にて構成します。講義を主体とする授業においては、講師の説明を聞く形で学習します。一方、実演・実習を主体とする授業においては、講師の操作実演を確認し、講師の指示に応じて受講生の手元のPCを操作する形で学習します。なお、最後のコマにおいては、受講生の理解度を確認する試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	IoTとデータ収集技術	IoTの概論とデータ利活用の全体像を示します。また、IoTのデータ収集技術を紹介します。
第2回	xRとロボット	xR(AR、MR、VR)の概要と利用事例を紹介します。また、IoTの一種としてロボット・ドローンを示します。
第3回	ビッグデータとオープンデータ	ビッグデータとオープンデータのそれぞれの特徴と利用例を紹介します。
第4回	RESAS（地域経済分析システム）の活用【実習】	ウェブブラウザを使って地域データを可視化するRESAS（地域経済分析システム）の実習を行います。
第5回	APIと改正個人情報保護法	API（Application Programming Interface）の概要と利用例を示します。また、改正された個人情報保護法の概要を示します。
第6回	クラウドの定義と分類	クラウドの意味と出自を説明し、クラウドのサービスモデル、実装モデルの概要と事例を示します。
第7回	クラウドの特性と新たな利用方法	クラウド利用に関する国内企業の意見およびデータ分析などに利用するクラウドの使い方を示します。
第8回	基本統計量の作成【実習】	代表的な基本統計量の意味を示し、Excel使った統計量の作成を実習します。
第9回	人工知能とICT利活用事例	近年の人工知能に関する技術の進展を示し、ICTの活用事例を分野別に紹介します。
第10回	相関と回帰分析【実習】	相関分析、回帰分析の特性、用途、出力をExcelの分析ツールを利用して示します。
第11回	プログラミングによるデータの分析（R）【実習】	プログラミング言語Rを利用する分析の実演・実習を行います。
第12回	試験とふりかえり	授業の理解度を確認するための試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講師が作成に携わった総務省ICTスキル総合習得プログラム（http://www.soumu.go.jp/ict_skill/）に準じた講座となるため、概要把握や予習・復習を行うことができます。なお、授業時間や効果的な学習を考慮して、総務省ICTスキル総合習得プログラムの再編成を行い、最新事例をアップデートした教材で学習します。

【テキスト（教科書）】
各授業での教材投影・プリント配付を行うため、教科書は使用しません。

【参考書】
必要に応じて、ICTスキル総合習得プログラムの参考文献リスト（http://keijisaito.info/pdf/hosei_ict_ref.pdf）を参照してください。

【成績評価の方法と基準】
出席要件を満たすことに加えて、最終日の12コマ目に理解度を確認する試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のPC等を利用するため、学生が準備する機器はありません。

【その他の重要事項】
PCのウェブブラウザでのウェブサイトの閲覧、Excelでの表やグラフの作成ができる程度の基本的なPCスキルを前提とします。

【Outline (in English)】
This lecture shows the overall picture of data utilization related to "Information and Communication Technology". Students comprehensively learn "data collection by IoT", "data accumulation by cloud service", and "data analysis by programming and AI". The lecture is held in a computer-room for hands-on. Students use RESAS, Excel, and R to study data analysis as hands-on training.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（ゴールデンウィークスクーリング）

溝部　陽司

カテゴリー：**ゴールデンウィーク**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営戦略論・組織論の基礎と応用
経営学特講では社会人の教養として必要な企業経営に関する知識について解説します。

【到達目標】
経営学の主な領域である「戦略論」と「組織論」に関し、基礎的な知識習得だけでなく、現実の企業を分析する方法論として応用する能力を養う事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形態

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	テキスト第2章「戦略論入門」	戦略論の基礎講義
第2回	事業領域(ドメイン)の捉え方	ケース： Canon, Panasonic
第3回	戦略分析フレームワーク　(1)	PPM, Five Forces, アンゾフのマトリクス
第4回	戦略分析フレームワーク(2)	SWOT, VRIO
第5回	戦略分析(応用編)	ケース：化粧品業界
第6回	テキスト第6章「経営戦略とイノベーション」	多角化戦略　他
第7回	新商品開発	ケース：日産自動車
第8回	企業活動＋企業組織の捉え方	製品・機能・地域の3軸　他
第9回	テキスト第1章「組織論の基礎」	組織の階層化､ライン・アンド・スタッフ組織
第10回	テキスト第3章「組織構造の構築」	職能制・事業部制・マトリクス組織　他
第11回	小レポートの発表とコメント	応用分析のポイント指導
第12回	試験	(筆記式)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの第1・2・3・6章を読んで、講義に臨んで下さい。
※「小レポート」について
Step.1:第1日目講義の分析フレームワークを用いる事。(自分の興味のある分析対象企業を選定し、情報を集めておきましょう)
Step.2:第2日目講義のケース分析事例などを参考に、事業概要、競争優位性、今後の技術や商品開発の方向性などについて分析しppt.8-10スライド程度にまとめる。
Step.3:ファイル添付で、指定の@hosei.ac.jp アドレスに送付。(5月5日午前0時必着)またはプリント提出は第3日目講義開始時に受理する

【テキスト（教科書）】
洞口治夫・行本勢基『入門・経営学< 第2版> 』(2012) 同友館 ￥2,376

【参考書】
琴坂将広『経営戦略原論』(2018)東洋経済新報社 ￥2,180
購入を義務付けるものではない。

【成績評価の方法と基準】
小レポート： 40%　+　最終試験： 60%
※小レポート提出は必須ではありませんが、最終試験との合計で判定しますので評価に影響する点ご承知おき下さい。

【学生の意見等からの気づき】
小レポート作成にあたり、PC(およびパワーポイント)使用環境が求められるが、
ppt.はクラウドで使用可能で、また地方からの方はプリントアウトが出来ないとの声もあったが、ファイル添付での教員の指定メアド宛提出で多くの受講生は問題がなかった。
※手書き・紙ベースの提出でも特段不利には扱いません。

【学生が準備すべき機器他】
レポート作成のためPC(パワーポイント) 利用可能な環境が望ましい。

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（大阪市スクーリング）

MARK E FIELD

カテゴリー：**大阪市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is for students, who have a strong desire to use English to communicate with other people, and so can imagine themselves traveling abroad and being in situations where having basic listening and speaking abilities would be a necessity. After introducing the types of languages structures students should possess to become more active independent learners, the course will explore the typical situations any Japanese person should expect to encounter while traveling abroad. While we explore these typical situations, we will examine possible destinations for overseas travel, and discuss the cultural and geographic points of interests found in those destinations. The class will be conducted almost entirely in English, and students should be willing to participate in an all English-speaking classroom environment.

【到達目標】
Students will learn about a variety of places of cultural interest. They will then incorporate and use information concerning these topics to develop and express their opinions. In doing so, students will practice the fundamental English skills that are necessary to accomplish the various communication tasks assigned.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
Student will watch videos and listen to dialogues on related activities. Then they will develop their speaking confidence with model conversations and speaking tasks.
Students will learn key words, phrases, and grammatical structures as they build their language and visual literacy skills with real-life information. Students will have the opportunity to express their own opinions both in spoken and written formats as they learn how to examine content from different perspectives.
Students will not only learn about real-world places, but they will also reflect and apply that knowledge while improving themselves and their English skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Ice Breaking Exercise Requirements of the All-English Classroom
第2回	Unit 1: Spain	Warm Up Questions. Related Vocabulary, Pre and Post Video Activities, Listening and Dialogue Practice, Conversation and Writing Practice
第3回	Unit 2: China Unit 3: Peru	Warm Up Questions. Related Vocabulary, Pre and Post Video Activities, Listening and Dialogue Practice, Conversation and Writing Practice
第4回	Unit 4: Tokyo Unit 5: New York	Warm Up Questions. Related Vocabulary, Pre and Post Video Activities, Listening and Dialogue Practice, Conversation and Writing Practice
第5回	Unit 6: Antarctica Unit 7: India Part 1	Warm Up Questions. Related Vocabulary, Pre and Post Video Activities, Listening and Dialogue Practice, Conversation and Writing Practice
第6回	Unit 7: India Part 2 Unit 8: New Zealand	Warm Up Questions. Related Vocabulary, Pre and Post Video Activities, Listening and Dialogue Practice, Conversation and Writing Practice
第7回	Unit 9: Africa Unit 10: Cambodia Part 1	Warm Up Questions. Related Vocabulary, Pre and Post Video Activities, Listening and Dialogue Practice, Conversation and Writing Practice
第8回	Unit 10: Cambodia Part 2 Unit 11: India	Warm Up Questions. Related Vocabulary, Pre and Post Video Activities, Listening and Dialogue Practice, Conversation and Writing Practice
第9回	Unit 12: Egypt	Warm Up Questions. Related Vocabulary, Pre and Post Video Activities, Listening and Dialogue Practice, Conversation and Writing Practice
第10回	Unit 13: Mars	Warm Up Questions. Related Vocabulary, Pre and Post Video Activities, Listening and Dialogue Practice, Conversation and Writing Practice
第11回	Reviewing and Finishing Written logs	Grammar and Vocabulary Review
第12回	Review and Examination	Listening and Vocabulary Test covering the vocabulary and questions practiced in class related to each area topic studied.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should expect to spend about 2 hours each evening of the first and second days listening to the Student DVD Video and Audio Segments and writing the end of unit travel logs.

【テキスト（教科書）】
Carmella Lieske,『Globe Trotters: Practical English with Video』
Cengage Learning, 2013, ISBN: 978-1-285-19750-0, ￥2,400 plus tax.

【参考書】
Students should have an electronic dictionary with both English to Japanese and English to English Functions.

【成績評価の方法と基準】
Class Participation: 15%
Outside Homework: 15%
Writing Assignments: 20%
Pair Work Conversations: 10%
Class Discussions: 10%
Final Exam: 30%

【学生の意見等からの気づき】
No data is currently available since this is the first year the course will be offered.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to have A4-size lined paper for taking notes and submitting all written assignments. A notebook, or tablet computer for personal use on research tasks and homework assignments is recommended, but not required.

【その他の重要事項】
This will be an all English class with no Japanese translation required most of the time. A strong desire to speak and interact in English is necessary to do well in this course.

【Outline (in English)】
The aim of the course is to provide students with opportunities to think about the world and express their opinions on a variety of topics using authentic English. In pursuit of these goals, students in this course will spend time using English to learn about various countries from a number of diverse perspectives.

BSP100TE（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（大阪市スクーリング）

山口　隆子

カテゴリー：**大阪市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】
気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、プリントを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	気候学とは？ 気候の表現方法	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）、気候要素と気候因子について
第2回	気温・気圧	気温の日変化と地面の熱収支、気圧とは何か
第3回	風	風が吹く仕組み
第4回	雲と降水	雨が降る仕組み
第5回	日本の気候の特徴	4つの気団と気圧配置（総観気候学）、気温、降水量、日照時間分布
第6回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第7回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第8回	都市気候	ヒートアイランド現象
第9回	盆地の気候	盆地の気温と風
第10回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第11回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第12回	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書を読む。まず①を読み、さらに余力がある人は②、③を読んでみてください。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】
①日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』．ベレ出版，pp1－261.
②山口隆子（2009）：『ヒートアイランドと都市緑化』．成山堂書店，pp 1 － 125.
③藤部文昭（2014）：『統計からみた気象の世界』．成山堂書店，pp1－149.

【成績評価の方法と基準】
試験（100％）により評価

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course.

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（大阪市スクーリング）

田中　開

カテゴリー：**大阪市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
刑事訴訟法のうち、公訴の提起、公判、証拠につき講義する。学生が、関係法令、裁判例につき理解することを目的とする。

【到達目標】
学生が、刑事訴訟法のうち、公訴の提起、公判、証拠について、関係法令、裁判例につき、基本的な知識と理解を得ることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1, DP2, DP3, DP4」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
六法、基本的な教科書、判例教材を用いて、主要な論点につき、講義形式で、授業する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	公訴の提起	国家訴追主義・起訴独占主義、検察官の訴追裁量権、協議・合意制度、公訴提起の要件、余談防止の原則
第2回	訴因の明示・特定	訴因の意義・機能、訴因の明示・特定、覚せい剤使用罪の訴因
第3回	訴因の変更	訴因変更の意義、訴因変更の要否、訴因変更の可否、訴因変更の拒否、訴因変更命令
第4回	公判の準備と証拠開示	公判の準備、証拠開示
第5回	挙証責任と推定	挙証責任の所在、推定、挙証責任の転換
第6回	証拠の関連性	関連性の意義、被告人の行状・類似事実の立証、科学的証拠
第7回	自白の証拠能力	自白法則の趣旨、約束による自白、偽計による自白、連日長時間の取調べ、違法な手続で獲得された証拠、派生証拠
第8回	補強証拠	「補強法則」の趣旨・存在理由、補強証拠としての適格、補強証拠が必要とされる事実の範囲、共犯者の自白と補強証拠の要否
第9回	伝聞証拠の意義	伝聞証拠排除の趣旨、伝聞と非伝聞
第10回	伝聞例外	伝聞例外の意義、検察官調書、検証調書・鑑定書、弾劾証拠、写真など、再現実況見分調書
第11回	違法収集証拠の証拠能力	違法収集証拠の排除の根拠・基準、違法性の承継・毒樹の果実論
第12回	試験	試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に教科書を読んでおいてください。細かいところはとばしてかまいません。

【テキスト（教科書）】
長沼範良・田中開・寺崎嘉博「刑事訴訟法」第5版（有斐閣　2,300円＋税）
井上正仁・大澤裕・川出敏裕「刑事訴訟法判例百選」第10版（有斐閣　2,500円＋税）

【参考書】
坂巻但・井上正仁「刑事訴訟法の争点」（新・法律学の争点シリーズ6）（有斐閣　2,000円＋税）

【成績評価の方法と基準】
試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【Outline (in English)】
In this lecture, you will sutudy criminal procedure, especially indictment, jidicial proceeding and evidence.　You will know and understand the existing law of crininal procedure and the precedent.

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎特講（仙台市スクーリング）

木村　正俊

カテゴリー：**仙台市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：終末論の政治学
終末論に影響された政治思想・政治運動について学ぶ。
本講義の基本的目標は、ユダヤ教、キリスト教、イスラームに関する基本的知識を得ることと、終末論が政治に与えた影響を理解することを通じて、政治と宗教の関係について考察することである。

【到達目標】
終末論の観点から、ユダヤ教、キリスト教、イスラームについての基本的知識を得る。特に、古代末期文明における終末論について学び、イスラームは古代末期文明の終末論から生じたことを理解する。終末論は現代の政治に影響を与えていることを、ユダヤ教の神殿再建運動、USの福音派、イスラーム国を事例にして理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	終末論の一般的特徴について
第2回	ユダヤ教の終末論	ユダヤ教の黙示論について
第3回	初期キリスト教の終末論	ヨハネ黙示録を中心に
第4回	古代末期文明	古代末期文明と終末論について
第5回	イスラーム登場直前の世界	ビザンツ帝国とサーサーン・ペルシャ帝国の終末論について
第6回	イスラームの登場	「信仰者の共同体」の形成について
第7回	イスラームの形成	「信仰者の共同体」からムスリムの共同体へ
第8回	現代キリスト教の終末論	USの福音派の終末論
第9回	現代ユダヤ教の終末論	神殿再建運動について
第10回	現代イスラームの終末論（1）	その特徴と台頭の要因
第11回	現代イスラームの終末論（2）	イスラーム国と終末の関係
第12回	総括	講義のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で配布するプリントを参考にして復習をすること

【テキスト（教科書）】
教科書は存在しない。

【参考書】
旧約聖書
新約聖書：新約聖書は田川建三『新約聖書　本文の訳』（作品社、2018年）を参照することが望ましい。
田川氏によるヨハネ黙示録に関する解説は以下を参照。
http://www.tagawa-kenzo.server-shared.com/sub30.apocalypse.htm
クルアーン（コーラン）
ピーター・ブラウン『古代末期の世界　ローマ帝国はなぜキリスト教化したのか』　改訂新版（刀水書房、2006年）
ピーター・ブラウン『古代末期の形成』（慶應義塾大学出版会、2006年）
岡田 温司『黙示録――イメージの源泉』（岩波新書、2014年）
M.ヒンメルファーブ『黙示文学の世界』（教文館、2013年）
大貫 隆『終末論の系譜: 初期ユダヤ教からグノーシスまで』（筑摩書房、2019年）
フレッド・M・ドナー『イスラームの誕生　信仰者からムスリムへ』（慶應義塾大学出版会、2014年）原著2010年
青木保憲『アメリカ福音派の歴史』（明石書店、2012年）
マーク・R・アムスタッツ『エヴァンジェリカルズ　アメリカ外交を動かす福音主義』（太田出版、2014年）
池内恵『現代アラブの社会思想　終末論とイスラーム主義』（講談社現代新書、2002年）
アブドルバーリ・アトワーン『イスラーム国』（集英社インターナショナル、2015年）

【成績評価の方法と基準】
出席要件をクリアーしていること。
講義の内容に関する試験を行い、理解度に基づいて成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【Outline (in English)】
Theme: Politics of Eschatology
This course deals with the influence of eschatology on political thought and activities.
The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Judaism, Christianity and Islam, and to consider the relations between politics and religion through understanding the influence of eschatology on politics.

BSP100TD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（仙台市スクーリング）

小倉　淳一

カテゴリー：**仙台市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を掴み、自己の研究基盤形成の基礎とすることを目標とする。
歴史学・考古学の研究を行う上で、歴史的事実とその解釈について理解する。

【到達目標】
考古学的な成果に基づき、各時代における文化的な特色を説明することができる。
各時代の人々の自然環境・社会環境への対応について検討することができる。
旧石器時代から古墳時代までの人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広く行われる弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が広範囲に発達してゆく古墳時代までの展開について、考古学資料を中心として学ぶ。列島の原始・古代像を考えるための基礎となる授業と位置づけたい。授業方法は講義形式による。受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	概要説明/旧石器時代の姿	授業の概要と方法・評価基準/人類の進化と旧石器文化の概要
第2回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の概要
第3回	旧石器時代から縄文時代へ	旧石器時代後期の石器から土器の登場まで
第4回	縄文時代の生業	採集・狩猟文化の概要
第5回	縄文時代の社会	集落や墓からみる縄文時代の社会構造
第6回	稲作の開始	稲作農耕技術の姿と主体者
第7回	弥生農村の姿	環濠集落と集団関係
第8回	弥生墳丘墓から古墳への変化と社会	地域的な墓制の展開と地方間の関係/青銅器の示す社会
第9回	前方後円墳の成立と波及	弥生墳丘墓から古墳への変化と社会
第10回	古墳時代の対外関係	朝鮮半島との交渉/中国王朝との交渉
第11回	古墳の変化と終焉	古墳時代の社会体制の変化
第12回	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。もちろん高等学校の日本史の教科書を手始めにしてもよい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。ただし、参考書として掲げたもののうち、新書等は非常に読みやすいので、十分に活用すること。

【参考書】
日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。通史のシリーズなどに触れ、各時代の特色を理解すべきである。このほかの文献については授業内で紹介する。
吉田晶（1998）『新日本新書　490　倭王権の時代』新日本出版社
今村啓爾（1999）『歴史文化ライブラリー　76　縄文の実像を求めて』吉川弘文館
白石太一郎編（2002）『日本の時代史　1　倭国誕生』吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史　2　倭国と東アジア』吉川弘文館
石川日出志（2010）『農耕社会の成立　シリーズ日本古代史１』岩波新書
吉村武彦（2010）『ヤマト王権　シリーズ日本古代史２』岩波新書
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
論述式の筆記試験を行う（参照不可）。出席要件を満たしていることを前提に、授業への参加度30％、試験成績70％で評価を行う（合計100％）。

【学生の意見等からの気づき】
この授業は総合特講として初めて実施する。
受講者は授業外に取り組む学習が成績に結びつくことを理解してほしい。参考書類を事前に読んで授業に臨むことで理解度も高まり、試験にも余裕を持って臨むことが可能となる。
高校までの授業形態を意識した講義形式で授業を進めるので、聴く力、まとめる力を十分に発揮し、考える力を伸ばしてほしい。

【その他の重要事項】
この授業は「実務経験のある教員による授業」に該当する。博物館学芸員としての5年以上の実務経験にもとづき、物質文化の知見をもとにした考古学の講義を行う。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn about Japan from the Paleolithic Age to the Kofun period.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（仙台市スクーリング）

長谷川　翔平

カテゴリー：**仙台市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，経営学の1分野であるマーケティングについて学ぶ。マーケティングの目的は「ニーズを満たす価値を消費者に届ける仕組み」を作ることである。この目的を達成するための重要な項目としてSTPマーケティングやマーケティング・ミックスがある。マーケティング・ミックスは4Pとも呼ばれ，Product（製品）・Price（価格）・Promotion（プロモーションまたはコミュニケーション）・Place（流通）の4要素からなる。本講義では，このマーケティング・ミックスを中心にマーケティングの基礎と応用を学ぶ。

【到達目標】
・マーケティングの基礎概念を理解し，応用できる。
・製品やサービスの特性，社会や経済などの外部環境に対応したマーケティング戦略を考えることができる。
・身近な製品・サービスでどのようなマーケティングが行われているか説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
　マーケティングの基礎概念を学んだ後に，市場機会の発見とマーケティング・ミックスの各要素について，消費者のニーズを満たし，効率的に商品を届けることができる方法・戦略を学ぶ。
　授業はパワーポイントのスライドを用いて講義形式で行う。また，適宜課題を出して簡単なグループワークを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	市場機会の発見	マーケティングのための市場分析と市場機会の発見
第2回	STPマーケティング	セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング
第3回	製品(1)	製品の構造と新製品の開発
第4回	製品(2)	導入期から衰退期までの製品ライフサイクル
第5回	製品(3)	ブランドの役割と構築
第6回	価格(1)	価格の影響と決定方法
第7回	コミュニケーション(1)	コミュニケーションの役割とメディアの選択
第8回	コミュニケーション(2)	コミュニケーション手法と戦略立案
第9回	流通(1)	製品流通経路の種類と選択
第10回	流通(2)	流通マネジメント
第11回	サービス・マーケティング	サービスの特性とマーケティング戦略
第12回	試験	試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　私たち消費者にとってマーケティングは非常に身近なものである。自分が普段利用している製品・サービスは，どのように広告が展開され，どのような販路・方法で販売されているか，よく観察して欲しい。

【テキスト（教科書）】
なし。授業中に資料を配付する。

【参考書】
・和田充夫，恩蔵直人，三浦俊彦『マーケティング戦略 第4版』有斐閣（2012年）
・小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞出版社（2009年）
その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】
試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】
配付資料をインターネットからもダウンロードできるようにする。

【Outline (in English)】
This is an introductory marketing course. Students will learn important marketing theories such as STP marketing and marketing mix (product, price, promotion, place). The goal of this course is to obtain basic marketing knowledge and skills to develop marketing strategies for business issues.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（札幌市スクーリング）

宇治谷　義英

カテゴリー：**札幌市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ映画『カサブランカ』（1942年）の映像，台詞を題材にして，英語の口語表現について学びます．

【到達目標】
教材を使って，さまざまな口語英語の表現を理解できること，発音も含めて学んだ表現を自分で応用して使うことができるようになること，また背景を含めた映画の理解も目指します．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
教材は映画を通してTOEICの特訓ができるように書かれていますので，それに従って語彙の確認，リスニング，リーディングの訓練，文法事項の確認をおこないます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	10月12日9:00～10:40 Act 1 "Everybody comes to Rick's"	教材に従って該当箇所の演習を行います．
第2回	10月12日10:50～12:30 Act 2 "Waiting in Casablanca"	教材に従って該当箇所の演習を行います．
第3回	10月12日13:30～15:10 Act 3 "I stick my neck out for nobody"	教材に従って該当箇所の演習を行います．
第4回	10月12日15:20～17:00 Act 4 "Your business is politics"	教材に従って該当箇所の演習を行います．
第5回	10月13日9:00～10:40 Act 5 "A lot of water under the bridge"	教材に従って該当箇所の演習を行います．
第6回	10月13日10:50～12:30 Act 6 "Here's looking at you, kid"	教材に従って該当箇所の演習を行います．
第7回	10月13日13:30～15:10 Act 7 "It hasn't changed"	教材に従って該当箇所の演習を行います．
第8回	10月13日15:20～17:00 Act 8 "At the Blue Parrot"	教材に従って該当箇所の演習を行います．
第9回	10月14日9:00～10:40 Act 9 "Pro-Vichy or Free French"	教材に従って該当箇所の演習を行います．
第10回	10月14日10:50～12:30 Act 10 "La Marseillaise"	教材に従って該当箇所の演習を行います．
第11回	10月14日13:30～15:10 Act 11 "Destiny has taken a hand"	教材に従って該当箇所の演習を行います．
第12回	10月14日15:20～17:00 Act 12 "We'll always have Paris" 及び試験	教材に従って該当箇所の演習，そして試験を行います．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の練習問題は宿題として付属CDを使って自分であらかじめ解答しておいてください．その際，わからない単語は辞書で調べておきましょう．

【テキスト（教科書）】
『めざせ！ 600名作映画でTOEIC®—『カサブランカ』』（英宝社：2017）

【参考書】
特に指定しません．

【成績評価の方法と基準】
平常点30%（授業内での積極性と宿題）と最終試験70%で評価します．

【学生の意見等からの気づき】
学習方法については，丁寧な説明を心がけたいと思います．

【Outline (in English)】
In this course, students will learn various colloquial expressions in English through the film *Casablanca* (1942).

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（札幌市スクーリング）

小秋元　段

カテゴリー：**札幌市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教養としての中世文学―説話と和歌に触れよう―

【到達目標】
中世文学のうち、説話と和歌をとりあげ、講読する。主要な作品を原文で読むことにより、モチーフや表現の特徴を理解するとともに、中世人の独特の価値観や思惟を知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。毎時間、作品の解題（基本的な事項の説明）と本文の解釈を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	中世とはいかなる時代か	中世の時代背景の解説。
第2回	『今昔物語集』 1	『今昔物語集』の解題・講読。
第3回	『今昔物語集』 2	『今昔物語集』の講読。
第4回	『宇治拾遺物語』 1	『宇治拾遺物語』の解題・講読。
第5回	『宇治拾遺物語』 2	『宇治拾遺物語』の講読。
第6回	『十訓抄』『古今著聞集』	『十訓抄』『古今著聞集』の解題・講読。
第7回	『宝物集』『発心集』	『宝物集』『発心集』の解題・講読。
第8回	和歌の基礎知識	和歌および和歌集に関する解説。
第9回	院政期和歌の展開	院政期（平安時代末期）の歌風の変遷に関する解説。
第10回	本歌取りの誕生	本歌取りの誕生、理念、方法についての解説。
第11回	『新古今和歌集』	『新古今和歌集』の解題・講読。
第12回	『新古今和歌集』以後	『新古今和歌集』以後の和歌の概要に関する解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高等学校の国語（古文）の授業で行われた文学史や古典文法の内容を理解していることを前提に講義を進める。適宜、古語辞典等を持参し、授業中、休み時間に活用されたい。

【テキスト（教科書）】
プリント使用。

【参考書】
『日本古典文学大辞典』全６巻（岩波書店、1983～85年）
『日本古典文学大事典』（明治書院、1998年）
小山弘志編『日本文学新史〈中世〉』（至文堂、1990年）

【成績評価の方法と基準】
毎時のコメントカード……30％
試験……70％

【学生の意見等からの気づき】
前年度、本授業を実施していないのでフィードバックできません。

【Outline (in English)】
In this course, we will learn the history of Japanese medieval literature.

BSP100TF（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（札幌市スクーリング）

芝田　幸一郎

カテゴリー：**札幌市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アンデス文明とその遺産 - 古代から現代への継承」
日本を含む一部のアジア諸国では、いまだに「四大文明」などという誤解を招く文明観がみられる。そこに含まれない南米のアンデス文明については、高校までの学校教育では、ほとんど扱われない。そのため、一部のメディアがふりまく過度に神秘的なイメージを抱く者も少なくない。
本講義では、主に考古学・人類学研究の成果としての基礎知識によって、まず学問的根拠のあるアンデス文明像の定着を図る。その後、スペインによる征服が現地の社会・文化にもたらした影響について考える。また教員自身が長年ペルーで実施してきた発掘調査や研究についても若干紹介する予定である。

【到達目標】
1．古代アンデス文明（および植民地時代）に関する基礎知識を得て、2．これに関連した現代ペルーの社会・文化・諸問題への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う（主にパワーポイントを使用し、必要に応じて板書を併用）。リアクションペーパーの提出を求める回がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の概要紹介、予備知識（ペルーの自然環境、世界遺産等）
第2回	最初の南米人と文明のはじまり	いつ、だれが、どのように、無人の南米大陸にやってきたのか。神殿と共に始まった文明
第3回	文明の様々な展開	最初の王国モチェ、巡礼と地上絵のナスカ
第4回	高原の繁栄	ティティカカ湖畔のティワナクと北の覇者ワリ
第5回	インカ統一前夜	黄金伝統のシカンとチムー、自然災害
第6回	インカ帝国	インカの基本的特徴、日常、興亡
第7回	スペインによる征服	征服と植民地時代
第8回	古代の遺産と現代ペルー	盗掘と博物館をめぐる諸問題
第9回	日本の研究者とペルー社会	遺跡を掘る際の諸問題
第10回	古代アンデスの食文化	様々な時代・地域の食文化、現代ペルー食文化との関係
第11回	古代アンデスの神殿と世界観	教員自身による発掘調査と研究の紹介
第12回	試験	筆記試験（持ち込み不可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
望ましい予習・復習は、参考書欄の冒頭に挙げた文献（細谷編2012）の本講義各回に対応する章に目を通すこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
・細谷広美（編）『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）：講義内容の全域をほぼカバーしており、かつ最も簡潔で易しい。オススメ。
・関雄二『アンデスの考古学（第二版）』同成社（2010）：講義の中盤までを詳細にカバーする。日本語で読めるアンデス考古学の概説書としては最も詳細。
・大貫良夫、加藤泰建、関雄二（編）『古代アンデス - 神殿から始まる文明』朝日新聞出版（2010）：日本の調査団による研究成果のまとめ。
・ピース, F・増田義郎『図説インカ帝国』小学館（1988）：豊富な写真が素晴らしいインカ入門の良書。
・関雄二『アンデスの文化遺産を活かす - 考古学者と盗掘者の対話』臨川書店（2014）：第８回の参考となり、読み物としても面白い。
・大貫良夫『アンデスの黄金 - クントゥル・ワシの神殿発掘記』中公新書（2000）：第９回の参考となり、読み物としても面白い。
・高野潤『インカの食卓 - 古代から続く大地の恵み』平凡社（2011）：第10回の参考となる。著者は写真家であり、貴重な写真が満載。そして学者顔負けの内容。
その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパー等）10%＋試験90％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
一般的な筆記用具

【Outline (in English)】
“Andean Civilization and its legacy to the present-day”
This course deals with the overview of the Andean civilizations including the issues of Spanish conquest and its relations to the contemporary Peruvian society and culture.

HIS100TA（史学 / History 100）

東洋史（名古屋市スクーリング）

仲山　茂

カテゴリー：**名古屋市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西暦２０１９年は元号が改まり、皇位継承が行われた年であり、こうした制度をもつ日本という国のありかたや特徴について認識を深めるまたとない機会であろう。とはいえ、一つの国や地域を考える際に、その対象のみを眺めていても、他と異なる点が自ずと浮かび上がってくるわけではない。本授業では、千年以上前に日本が国家の制度をつくる際に参考にしたであろう、かつての中国における帝王をめぐる諸制度についての知識を習得することで、日本と中国という二つの地域・国家の特徴を考える力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・中国史上の君主制度に関する用語を理解し、説明できる。
・中国史上の君主制度の様々な側面とそれを支える思想的背景を理解し、説明できる。
・歴史上の中国と日本の君主制度の相違点と共通点を理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で行うが、適宜、映像資料を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	序論	中国の王朝史のおおまかな展開と、王朝名の意味を解説する。
第2回	史料	中国の歴史はそもそもどのような書物に記載されているのか、そしてそうした書物が中国の伝統的学術のなかでどのような位置づけにあったのかを解説する。
第3回	君主号	王・皇帝などの中国史上の君主の呼び名とそれに附随する事項を解説する。
第4回	王室	君主の一族を中心に、姓・氏・名や婚姻といった伝統中国における家族制度についても解説する。
第5回	居処	君主の住む宮殿や、歴代王朝の首都の様相などについて解説する。
第6回	儀礼	君主が定期的・不定期的に行う儀礼についてを解説する。
第7回	祭祀	君主の祀る超自然的存在とその儀式について解説する。
第8回	天地の学	君主の儀礼・祭祀執行を支える思想的・学術的背景を解説する。
第9回	革命	王朝が変わることがどのような意味をもつのかを解説する。
第10回	天下	君主が君臨・統治する領域について解説する。
第11回	まとめ	中国史上の君主制度を総括し、これと日本の天皇制を比較することで、日中の君主制度の差異や共通点を展望する。
第12回	試験	授業の目標にどれだけ到達し得ているのかを確認するために試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に中国史の概説書に目を通しておいていただきたい。また、皇室関連行事などに関する報道・解説などに注意を払うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配付する。

【参考書】
中国史全般に関しては尾形勇・岸本美緒編『中国史』（新版・世界各国史３、山川出版社、１９９８年）、歴史を含む中国全般については、初歩的には竹内実『中国という世界―人・風土・近代』（岩波新書、２００９年）、やや立ち入った書物としては葛兆光（辻康吾監修・永田小絵訳）『中国再考―その領域・民族・文化』（岩波現代文庫、２０１５年）をあげておく。

【成績評価の方法と基準】
小テスト２回（各１５点）・試験（７０点）。三つの到達目標のうち、一つ以上をクリアしていれば合格とする。また、授業内容の十分な把握のみならず、それに対して独自の見解を示すことができることが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】
受講生に時間的余裕ができるよう注意する。

【Outline (in English)】
In Japan, this year occurred change of the era name and imperial succession.This is good opportunity to learn the the basic knowledge about the emperor system in the East Asia,Including Japan.This lecture aim to acquire knowledge of the system concerning with the king and emperor in china, and to wear the ability to think characteristics of Japan and China.

BSP100TE（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（名古屋市スクーリング）

羽佐田　紘大

カテゴリー：**名古屋市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本でみられる平野のうち濃尾平野について、主に地形学的な観点から学んでいく。

【到達目標】
沖積低地・沖積層の概要を把握できる。
濃尾平野の成り立ちを理解し、人々との関係を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努める。また、地形図を用いた簡単な作業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	日本の自然環境	日本の自然環境（主に地形）を概説する。
第2回	日本の沖積低地	日本における沖積低地の分布を説明する。
第3回	第四紀の気候変動	過去の気候変動について解説する。
第4回	沖積低地の地形	沖積低地の地形の特徴を説明する。
第5回	濃尾平野の概要	濃尾平野について概観する。
第6回	濃尾平野の沖積層	沖積層の層序とその形成を説明する。
第7回	濃尾平野の微地形と浅層堆積物	微地形ごとにみられる堆積物の特徴を解説する。
第8回	地形図からみる環境変化	地形図の読み取りに基づいて環境変化を考える。
第9回	濃尾平野への土砂供給量の変化	過去数千年間の土砂供給量について解説する。
第10回	濃尾平野における人間活動の影響	濃尾平野において顕在化している人間活動の影響を説明する。
第11回	濃尾平野における過去の災害	濃尾平野で発生した災害について述べる。
第12回	試験	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの授業内容を復習する。
日常の自然環境にかかわる話題や事柄に関心を持つ。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（100%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This course introduces mainly from geomorphological perspective about the Nobi Plain, central Japan.

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（名古屋市スクーリング）

建石　真公子

カテゴリー：**名古屋市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、憲法という法を支えている「原理」、憲法制定の目的である「人権保障」、そうした憲法の目的を具体化する統治機構の原理と運用及びその課題について理解することを目的としている。現在の国際社会の約190カ国において、ほぼどの国も「憲法」を制定している。しかし、具体的な内容や実際の運用においては、各国の歴史や社会、宗教、国際関係などの影響により多様である。日本は、最初の憲法である明治期の大日本帝国憲法、敗戦後の日本国憲法ともに、西欧の立憲主義を受容し、それまでの日本の社会を制度的にも思想的にも大きく変えたという特徴を持っている。
　この科目では、このように歴史や社会のあり方、国際社会などとの関係によって影響を受ける憲法について、憲法という法を支えている基本的な「原理」である国民主権や民主主義、権力分立、また人権の概念やその保障について理解することを目的とする。また、現在の日本の政治的課題である「憲法改正」についても考える。

【到達目標】
近代憲法を支えている「原理」-国民主権、民主主義、権力分立、人権保障-について学び、現代の国際社会における日本の憲法の特色を理解する
憲法が保護している人権の内容、その保障の現状および課題について理解する
日本国憲法における統治機構、三権分立、違憲審査制、地方自治について理解し、問題がある場合にはその対処について考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、教科書にそって講義し、具体的事件についての判例も参照する。また補足的なレジュメの配布やDVDによって課題の理解を深める単元もある。
各日程の最後の時間には、グループディスカッションや質疑応答の時間を設けて理解を深める事を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	国家と憲法 立憲主義 日本憲法史（1）	近代立憲主義憲法の原理を学ぶ。 明治時代の憲法思想及び制度の受容の特徴を理解する。
第2回	日本憲法史（2） 憲法の保障と憲法改正	明治憲法体制と憲法の運用 日本国憲法の制定過程 日本国憲法の構成 憲法改正の理論と制度を比較法の観点から学ぶ
第3回	憲法と国際法 国際人権保障	憲法と国際法の関係を学ぶ 国際人権法の特徴と日本における適用の課題を理解する
第4回	国会と行政権	三権分立について学び、国会および行政権の権限と運用の課題を理解する
第5回	司法権（裁判を受ける権利を含む）と違憲審査制	司法権の性格について学び、違憲審査制に関する憲法理論、諸外国の制度、日本における現状と課題について理解する
第6回	基本的人権 公務員の人権 外国人の人権	基本的人権の保障について歴史や理論を学ぶ。日本国憲法の適用における公務員の人権および外国人の人権の解釈と課題を理解する
第7回	私人間適用 13条個人の尊重・プライバシー権	私人間における憲法の適用について学ぶ。 13条の個人の尊重がどのような人権を保護しているのか、学説および判例から学ぶ。
第8回	平等	14条1項の平等の解釈について、学説及び判例から学ぶ
第9回	精神的自由権	精神的自由権の性格を学び、思想・信条の自由、表現の自由について学説及び判例から理解する。
第10回	社会権 労働基本権	生存権や教育を受ける権利などの社会権について学び、実際の権利保護の課題を学説及び判例から理解する。 労働者の権利について学ぶ。
第11回	人身の自由	憲法31条～40条は,刑事手続きにおける人権保護（人身の自由）を規定している。権利の解釈と現状を学説及び判例から理解する
第12回	試験	スクーリングで学んだ内容について試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
憲法の学習としては、まず、教科書を読み理解し、次に、教科書で参照されている判例について判例集を読んで具体的な事件との関係で理解する、というのが基本である。
　まずは、近代憲法の原理、人権の基本原則を把握したうえで、人権を保障し民主主義を維持する、という目的に照らして、裁判所や国会、行政などの仕組みを学ぶと理解しやすい。より深く学習するには、教科書に紹介されている論文や専門書を読み、また法学セミナー、法律時報、法学教室、ジュリストなどの法律雑誌に掲載されている関連する論文等を読むと興味が深まるだろう。憲法は政治や歴史、国際関係と密接な関連を持っているため、日ごろから新聞などに目を通し、国内政治や国際政治等に関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】
・指定市販本『現代日本の憲法［第2版］』、法律文化社、元山　健・建石真公子編、2016年、￥2,800+税
※初版（2009年）も使用可
『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅰ 第6版』有斐閣、2016年
『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅱ 第6版』有斐閣、2016年

【参考書】
佐藤幸治『立憲主義について　成立過程と現代』放送大学叢書、2015年

【成績評価の方法と基準】
成績は試験により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年は担当しておりませんので、まだ意見は頂いておりません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
現代史について事前に読んでおくと憲法の授業が理解しやすい。
特に、第2次世界大戦に関する歴史を日本だけでなく、世界の歴史からも理解してください。

【Outline (in English)】
The aim of this lecture is to study about the principle of constitutionalism - sovereignty, democracy, protection of the human rights- and about the characteristics of Japanese constitution in international society.
Also, after the world war II, Judicial Review was established in Japan by the Constitution.
However, there are only 10 decisions which declared inconstitutionnel. Where s the problem?

Through judgement, understand the problems of the judicial Review in Japan and the current situation of the protection of Human Rights.

CHM100TA（その他の化学 / Chemistry 100）

化学3（講義）（福岡市スクーリング）

安井　伸郎

カテゴリー：**福岡市**　｜　予備登録の有無：**必要**
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
化学は、物質の成り立ち、物質の変化の仕組みを追求する学問であり、その成果は現代の人類の生存に多大な恩恵をもたらしている。本講義では、「化学」を、以下に示すようなさまざまな角度から考える。そのことによって、化学が私たちの生活にどれほど深く関わっているかを理解する。
・化学はどのように形作られてきたか。～古代ギリシアから現代までの科学の歴史
・物質や物質の変化を微視的な目で捉える。～化学の基礎
・化学は現代生活とどのようにかかわっているか。～材料の化学、生命の化学、環境の化学、エネルギーの化学

【到達目標】
以下のスキルの獲得を目指す。
・現代化学を築きあげた先人たちの知恵や努力を正しく評価できる。
・身の回りに起こる現象を、化学の視点から解釈できる。
・現代社会における化学の功罪を自ら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行うが、随時受講者に発問し、理解度を確認しながら進める。視覚的な理解を助けるため、パワーポイント（PP）を活用する。PPの主要な内容は，適宜プリントして配付する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	化学とは何か	化学の手法とは＝身の回りの現象を微視的に理解すること。 微視的な目＝化学の目
第2回	化学の歴史1	古代ギリシアから中世・近世まで。 ・古代ギリシアの自然観 ・錬金術 ・フロギストン説 ・さまざまな気体の発見 ・原子論 ・新元素の発見
第3回	化学の歴史2	近世以降の化学。 ・尿素の合成 ・電気分解の法則 ・周期表作成 ・原子構造の探求（電子の発見、原子核の発見）
第4回	物質の成り立ち	物質を化学結合のタイプで分類する。 ・分子からなる物質（共有結合） ・イオンからなる物質（イオン結合） ・原子からなる物質（金属結合）
第5回	分子の形	分子の形はどうして決まるか。 ・原子の電子軌道の形 ・混成軌道 ・異性体 ・分子の形とその性質(極性など)の関係
第6回	化学反応	化学反応は何故起こるのか。どういう仕組みで起こるのか。 ・化学反応の理論 ・衝突理論 ・絶対反応速度論（遷移状態理論） ・化学平衡
第7回	酸と塩基。酸化と還元	・酸・塩基とは何か ・酸・塩基の定義 ・身の回りの酸塩基 ・酸化・還元とは何か。 ・身の回りで起こる酸化還元 ・酸化剤と還元剤
第8回	材料の化学1	無機材料物質 ・金属 ・セラミックス ・ガラス ・石灰を巡る物質（漆喰、セメントなど）
第9回	材料の化学2	有機材料物質 ・高分子化合物（プラスチック、繊維，ゴム） ・染料 ・洗剤
第10回	生命の化学	生命の仕組みを化学の言葉で解釈する。 ・タンパク質の構造と働き ・多糖類(＝エネルギー源) ・遺伝の仕組み(DNAの構造と働き)
第11回	環境の化学	・現代の環境問題への化学の関わり（地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、シックハウス） ・「過去」の公害問題への化学の関わり（四大公害病ほか） ・「化学」物質の安全性
第12回	化学の新しい展開 まとめの試験	・ナノの化学 ・燃料電池の仕組み ・太陽光発電の仕組み 後半60分でまとめの筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は特に必要ない。各講義の前に質問の時間を設けるので、前の講義で分からなかった点は質問する。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点40％、筆記試験60％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
Objectives of this lecture;
To get ability (1) to evaluate what many pioneers have done in the history of chemistry, (2) to understand phenomena one sees in everyday life in terms of chemistry, and (3) to discuss merits and demerits resulting from chemistry in contemporary life as well as in future.

BSP100TD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（福岡市スクーリング）

長井　純市

カテゴリー：**福岡市**　｜　予備登録の有無：**必要**
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文史料で学ぶ日本近代史。
この授業の目的は、20世紀初頭の日本事情について書かれた米国外交文書を中心とする英文史料を読むことを通して、第一に日本及び日本人の近代化に関わる基礎的な知識を学修すると共に、第二に欧米列強における日本及び日本人の近代化像を学び、第三に日本及び日本人の現状を見直し、将来を展望すること、第四にグローバリゼーションの中で日本及び日本人の異文化交流の在り方を考える手がかりを得ることです。授業の中では関連するトピックについてグループ討論や質疑応答を行います。

【到達目標】
この授業の到達目標は、第一に米国外交文書に記録された日本近代史に関する基礎的な知識を得ること、第二に日本駐在米国外交官の日本及び日本人の近代化に関する見方を理解し、それが従来の日本近代史研究とどのような点で一致し、どのような点で異なるかを知ること、第三に日本及び日本人の近代化過程における変化を認識し、現状や将来を分析、展望する手がかりを得ること、第四にグローバリゼーションの中で日本がどのように異文化交流を進めていくかについて手がかりを得ることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式です。ただし、教員と受講生の質疑応答を多用します。毎時、配布資料に掲載された英文史料を１点ずつ読み進めていきます。受講生が和訳することとなります。教員の解説を元に、受講生のグループディスカッションや受講生個々のコメントなどの表明が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要紹介と現代日本人論紹介（英文）
第2回	幕末・米国外交官ハリスとお吉	昭和初年の『唐人お吉』という演劇に対する米国大使館の論評から読み取れる日本及び日本人の近代化
第3回	明治・大日本帝国憲法	大日本帝国憲法への米国公使館の論評から読み取れる日本及び日本人の近代化
第4回	明治・日本の政党	明治時代の政党に対する米国公使館の論評から読み取れる日本及び日本人の近代化
第5回	明治・立憲政治	明治時代の帝国議会を中心とする立憲政治に対する米国公使館の論評から読み取れる日本及び日本人の近代化
第6回	明治・朝鮮と満州	明治時代、日露戦争後の日本の朝鮮・満州支配方針に対する米国大使館の論評から読み取れる日本及び日本人の近代化
第7回	大正・原敬	近代日本の政党政治確立過程でもっとも注目される原敬という政治家への米国大使館の論評から読み取れる日本及び日本人の近代化
第8回	大正・日本人の誇り（ナショナル・プライド）	日本人の国産米至上志向に対する米国大使館の論評から読み取れる日本及び日本人の近代化
第9回	昭和・満鉄	南満州鉄道株式会社の外債募集に対する米国大使館の論評から読み取れる日本及び日本人の近代化
第10回	昭和・対米観	近代日本における米国産自動車（俗に言うところのアメ車）の普及に対する米国大使館の論評から読み取れる日本及び日本人の近代化
第11回	授業総括	授業内容に関する討論と質疑応答
第12回	単位修得試験	単位修得試験 解答に際して参照可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習必須です。授業後には、復習必須です。英文史料の内容を正確に理解すると共に、英文史料に記述された事項を適宜拾い出し、理解を深める読書やウェブサイト利用を行うこと。その成果を授業内質疑応答に利用すること。

【テキスト（教科書）】
刊本の教科書はありません。テキスト・プリントを配布します。

【参考書】
英和辞典

【成績評価の方法と基準】
平常点として授業への参加度50％、単位修得試験の成績50％として、成績判定を行います。単位修得試験は参照可です。

【学生の意見等からの気づき】
始業前・休み時間・終業後の受講生同士の助け合い学習、また、授業中に座席の近い受講生同士の助け合い学習をお勧めします。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン、タブレット、PCなどウェブサイト閲覧が出来る電子機器を持参し、授業中に活用することをお勧めします。
義務や強制ではありません。以下の点に注意してください。
※会場にWi-fi環境はありません。通信料の負担はご自身となります。
※会場で電源コードを繋ぐことはできません。充電もできません。バッテリー等ご自身で対応ください。

【Outline (in English)】
This class has five main points. The first point is that students of this class read short articles written in English, most of which are citations from the Foreign Relations of the United States in the early 20th century. The contents of those articles are the general conditions of Japan in those days. The second one is that students obtain basic knowledge on the modernization of Japan and Japanese people. The third is that students study the viewpoints of American diplomats stationed to Japan on the modernization of Japan and Japanese people. The fourth is that students find out the prototypes, like genes, inherited to current Japan and Japanese people through reading archives above. The fifth point is that students obtain clues to think about the exchange of different cultures and the international relations. Questions and comments of the students during class are welcomed.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（福岡市スクーリング）

福多　裕志

カテゴリー：**福岡市**　｜　予備登録の有無：**必要**
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目のテーマは、「会計データの処理と損益分岐点分析」である。現在、私企業、公企業を問わずいかなる組織にあってもデータを定量的に処理する必要性が高まりつつある。指定教科書において取り上げられている基礎統計の手法と収益・費用データを駆使する損益分岐点分析の数式による展開を中心に学習する。経営分析に関連する基礎統計および損益分岐点分析において用いられる各種の概念、公式を詳細に吟味し、それらの意味を考察する。

【到達目標】
①現実の会計・財務データを利用し、教科書内の基礎的統計用語、概念を詳細に理解する。
②損益分岐点分析の諸概念や技法を一般式の展開により詳細に理解する。
③損益分岐点売上高や売上量を正確に算出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
指定教科書における第2章の統計学関連の項目および第7章「損益分岐点の分析」に関し、スライドおよび表計算シートを用いて詳述する。受講者はほぼ毎回の授業において、練習問題に解答することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	全体計画と経営分析の目的	スクーリング全体を概観し、損益分岐点分析の目的とインターネット上の入手可能な財務データを検索する。
第2回	記述統計1	平均値、中位値、最頻値、分散、標準偏差等の基本統計量を理解する。
第3回	記述統計2	歪度、尖度を理解し、練習問題を解答する。
第4回	損益分岐点の意味	変動費、固定費、貢献利益、損益分岐点を理解し、練習問題を解答する。
第5回	損益分岐点分析の一般的表記法	一般的表記法により、損益分岐点売上高と損益分岐点販売量の違いを理解し、練習問題を解答する。
第6回	損益分岐点比率と安全余裕率	両比率の計算により、赤字転落迄の売上高の余裕度を計算し、練習問題を解答する。
第7回	固定費と変動費の分解	勘定科目法、スキャターグラフ法、最小自乗法
第8回	損益分岐点図表	損益分分岐点を示すいくつかの関連図表を確認する。
第9回	損益分岐点と費用構造	装置産業型企業と卸小売型企業における利益変化を理解する
第10回	オペレーティング・レバレッジ	利益および売上高の変化率を考察し、練習問題を解答する。
第11回	損益分岐点分析の総括	今回の学習事項全般について総括する。
第12回	筆記試験(計算問題)	今回のスクーリングで学習した内容を範囲とする。60分、参照不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
上記の授業内容・項目について、スクーリング当日まで各種文献を参照し、充分予習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】
青木茂男編著『要説　経営分析　五訂版』森山書店, 2016年.

【参考書】
1) 岡本清『原価計算　六訂版』国本書房,2000年.
2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会,1995年.
3) 國貞克則『財務3表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版,2012年.
4) 桜井久勝『財務諸表分析　第7版』中央経済社,2017年.
5) 西内啓『統計学が最強の学問である』東洋経済新報社,2013年.

【成績評価の方法と基準】
最終時限に行われる筆記試験（計算問題）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
一般的な電卓を持参すること。最終試験(筆記試験)においても電卓の使用を可とする。

【その他の重要事項】
本スクーリングでは、取り上げたテーマ・項目に関し数式や図を用いた議論と反復的な問題演習を予定している。このような方法論に興味をお持ちの方々の参加を期待する。

【Outline (in English)】
Stakeholders need to be able to analyze and interpret financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In class we firstly focus our attention on how to process accounting data based on basic descriptive statistics and then develop a procedure for calculating break-even point.

LIT100TA（文学 / Literature 100）

文学（前期週末スクーリング）

中澤　忠之

カテゴリー：**前期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説を読むとき、私たちはどんなところを重視するでしょう。たとえば、泣けるかどうかとか、感情移入できるかどうか、とかいったところでしょうか。実際、これまで中学校や高校の現国の授業では、主人公の心情を素直に読み取るトレーニングを受けてきたはずです。しかし、小説の書き方・読み方は一様ではありません。この講義は、小説の書き方・読み方には多様性があることを知り（夏目漱石とライトノベルを優劣関係ではなく多様性の一つとして捉えること）、それを身に付ける土台作りとなるでしょう。そのためにはまず、小説の成り立ちをおさらいすることからはじめます。そして文学史にしたがって、小説の書き方・読み方が変化し、新たな書き方・読み方の発見が文学史を豊かに形成してきたことを確認します。戦前の文学史がメインですが、最近の文学史にも積極的にふれます。マンガや映画、美術など、文学に隣接するジャンルにもしばしば言及したい。

【到達目標】
創作物を単に主観的に受容するのではなく、対象化して評価する技術と教養を身に付け、作品受容の許容範囲が広がることを目指します。文学に関心がある学生はもちろん、ポップカルチャーやサブカルチャーのジャンルに関心がある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義中心です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第2回	現在の文学が置かれた状況	最近の文学事情を、他のジャンルとの関係から明らかにする。
第3回	文学作品の読み方	文学の仕組みを解説して、高校時代までの読み方を相対化する。
第4回	近代文学の誕生①	言文一致（いわゆる近代日本語）を中心に、近代文学が形になったプロセスを解説。 言文一致形成の全体像を確認する。
第5回	近代文学の誕生②	言文一致形成の初期（明治10から20年代）の状況を作品を参照しながら確認する。
第6回	近代文学の誕生③	言文一致形成の後期（明治30から40年代）の状況を作品を参照しながら確認する。
第7回	文学史第1期（明治20～40年の文学）	リアリズム（写実主義）は近代に確立した表現法だが、そのリアリズムが確立した時代の表現パターンを解説。
第8回	文学史第2期（大正時代の文学）	私小説がはやった時代の表現パターンを解説。文学における自己表現を問題にしたい。
第9回	文学史第3期（1920年代）	社会が大衆化したモダニズムの時代の表現パターンを解説。
第10回	文学史第4期（1930年代）	文学表現が成熟した時代の表現パターンを解説。
第11回	文学史総括	文学史全体の流れを復習し、現代の表現とも関係させる。
第12回	筆記試験。	論述。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
少しでも文学作品に触れてください。しかし闇雲に読むのではなく、ジャンルを意識しながら読むことをおすすめします。ジャンルが分からなければ、大きめの本屋に行って書棚がどういう配置になっているのか、どういう本が収まっているのかを確認してみるのもよいです。たとえば、映画をよく観る人はTSUTAYAの棚陳列がどういうジャンル区分に従っているのかよくわかっているはずです。AKB48のファンは、素人目には同じように見える顔が、それぞれ個性を持ち、ジャンル分けできることを知っているはずです。文学も同じです。小説を全く読まない人は、まず『ノルウェイの森』（村上春樹）と『時をかける少女』（筒井康隆）と『涼宮ハルヒの憂鬱』（谷川流）の3冊を読み比べてみてください。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布します。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
最後に行う期末試験が評価の主要な対象となります。授業への参加度（平常点）も評価したい。評価の割合は期末試験が70％、平常点を30％とします。

【学生の意見等からの気づき】
基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるところではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。

【Outline (in English)】
This lecture aims to give techniques and cultures to read novels, using the work of modern Japanese literature.
How to write and read novels is not single. In this lecture, you can learn that diversity exists in how to write and read novels. Let's begin by reviewing the origins of the novel. And according to the history of literature, We confirm that the way of writing and reading the novel has changed.

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（前期週末スクーリング）

氏家　裕順

カテゴリー：**前期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれ市民の生活は各種の法によって規律されている。適切な法によって公共的問題が解決されることが望ましいが、法に不備や欠陥があり、そのため、既存の法を解釈・適用すると不都合が生じる場合があり、また、既存の法を解釈・適用しても紛争を適切に解決することができない場合がある。法の不備・欠陥を補う、社会の重要な手段が政策である。政策のあり方そのものも重要な論点であるが、既存の法の抱える問題を発見することが政策を検討するために必要である。

授業では、総論として解説される政策制度化の「骨組み」について理解するとともに、政策の制度化にあたり生じうる一般的な問題を学ぶ。また、個別のテーマに沿ってとりあげられる既存の法の概要と抱える問題を学習する。総論では法律学だけでなく、政治学の観点から解説がされることがある。個別テーマでは主に行政法学的な観点から解説がされる。受講者は、授業後、それぞれの問題について、授業内で提示される手がかりや文献を参照しながら必要となる解決策・政策を考えるべきである。これらを通じて、法の抱える問題を正確に認識したり、その問題に対処するために必要となる解決策を積極的に検討したりすることのできる能力を養ってほしい。

【到達目標】

①立法事実の重要性、各種の法的手段・仕組みとその機能、法的手段・仕組みの実効性確保のための考慮事項、法律案の成立における内閣法制局及び議院法制局の役割、条例成立過程それぞれを説明することができる。

②秘密保護、暴力団対策のために制定されている法の概要と抱える問題を説明することができ、また、論拠を示しながら必要な解決策・政策を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1, DP2, DP3, DP4」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	総論(1)	科目での学び　国と自治体の法務　政策の制度化の手順
第2回	総論(2)	立法事実の把握　各種の法的手段・仕組みとその機能
第3回	総論(3)	法的手段・仕組みの実効性確保のための考慮事項
第4回	総論(4)	内閣提出法律案と議員提出法律案
第5回	総論(5)	法律案の成立と内閣法制局
第6回	総論(6)	法律案の成立と議院法制局
第7回	総論(7)	条例による政策の制度化
第8回	個別的検討(1)	秘密保護制度の概要
第9回	個別的検討(2)	秘密保護制度の抱える問題
第10回	個別的検討(3)	暴力団対策に関する法の概要
第11回	個別的検討(4)	暴力団対策に関する法の抱える問題
第12回	試験	試験の実施　解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にレジメを読み予習をするのはもちろん、授業後は、政策の制度化にあたり生じうる一般的な問題の解決策や、既存の法の抱える問題に対処するために必要と思われる政策についての自らの考えを論理的に展開できるよう、授業内容や自分の考えをまとめる。

【テキスト（教科書）】

配布レジメ

【参考書】

授業内で紹介するもの

【成績評価の方法と基準】

最終日に実施される試験による（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

この授業の受講者は、知識の習得を目標とするのではなく、総論として又は個別的検討において示される考え方を学び、自ら個別法の抱える問題点を発見したり解決策・政策を積極的に提示したりする力を養ってほしい。

【Outline (in English)】

After completing this course, (1) concerning general matters on the legislation of policy objectives, you should be able to:
- Explain legislative fact and offer an analysis of it, and also explain importance of it in making the Act of Parliament and bye-laws;
- Explain how/what kind of legal measures should be provided and composed in the law above mentioned, and besides, explain how they should influence the public;
- Explain and offer an analysis particular issues which need considering in making the law above referred to so as to ensure effectiveness of the law;
- Explain roles of peoples working in making that law (peoples like a parliamentary counsel); and
- Explain process of making that law.

After following through this course, (2) as concerns a particular Act of parliament and a certain range of bye-laws, you should able to, for example:
- Sketch out the Act on the Protection of Specially Designated Secrets 2013 (c.108), with identifying problems of that Act and offering solutions to them; and
- Sketch out the Act to Prevent Illegal Activities by Members of Organized Crime Groups (like hoodlums or mobster) 1991 (c.77) and provide an overview of bye-laws made in order to exclude that members from our society, with identifying problems of the Act 1991 and bye-laws and also offering solutions to them.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（前期週末スクーリング）

我妻　靖

カテゴリー：**前期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではゲーム理論の基礎的内容を解説する。ゲーム理論とは戦略的相互依存状況(平たく言えば「自分の行動と他人の行動がお互いに影響を与え合うような状況」)を統一的に分析する数理的理論である。 我々が普段生活をする社会においては、戦略的相互依存関係が認められる状況が数多く存在する。これはゲーム理論の分析対象となる社会的状況は多岐にわたることを示唆する。実際、本講義においても企業間競争、公共財供給、投票行動分析、遺産分配問題など多くの社会的状況をどのように分析するのか学習することになる。履修者はこれら多くのトピックに触れることで、ゲーム理論による分析の考え方を身につけることになるであろう。

【到達目標】

上述したとおり、本講義ではゲーム理論の基礎的内容を解説する。そこで、少ないトピックに絞って発展的な内容を解説することはせず、なるべく多くのトピックを取り扱うことにする。履修者の到達目標は、本講義で触れたトピックのうち、各自の興味に応じて自ら発展的な学習ができるようになる力を得ることである。本講義では、このような力を得られるような基礎的な知識を提供する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP1, DP3, DP4」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ゲーム理論とは	基本概念、ゲーム理論の歴史
第2回	非協力ゲーム(1)	戦略形ゲーム、支配戦略、ナッシュ均衡、パレート効率性
第3回	非協力ゲーム(2)	囚人のジレンマ、ネットワーク外部性、複占市場
第4回	非協力ゲーム(3)	展開形ゲーム、逆向き帰納法、部分ゲーム完全均衡
第5回	非協力ゲーム(4)	チェーンストアゲーム、コミットメント
第6回	非協力ゲーム(5)	戦略的投票、公共財供給
第7回	協力ゲーム(1)	提携形ゲーム、コア、非分割財市場
第8回	協力ゲーム(2)	シャープレイ値、投票パワー
第9回	協力ゲーム(3)	コアによる投票ゲーム分析
第10回	協力ゲーム(4)	破産問題、仁
第11回	協力ゲーム(5)	交渉問題、ナッシュ交渉解
第12回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内で演習問題を取り扱うことがある。指示があった場合、次の講義までに解いておくこと。

【テキスト（教科書）】

特にない。

【参考書】

船木由喜彦(2014)『初めて学ぶゲーム理論』新世社

【成績評価の方法と基準】

試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

We learn game theory from the beginning. Game theory is a mathematical theory which investigates strategic interplay among a set of agents. By studying wide range of topics that game theory can explain well, we will obtain the basic logic of game theory.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（前期週末スクーリング）

市川　佳功

カテゴリー：**前期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは法人税法です。法人税は企業の経済活動の結果に対して課される税金です。企業の経済活動において何が利益となり、何が損失となるのかについて法的な観点からとらえていく姿勢を身に着けることを目的とします。なお、この講義を受講するにあたって簿記の知識は必要としません。

【到達目標】
法人税法の体系を説明できるようになるとともに、課税所得を算定するにあたって企業の経済活動を法的なとらえ方で説明できるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
法人税の簡単な計算式を示すこともありますが、電卓を使って授業内で細かい計算をするという学習方法は採りません。法人税法の主要条文を用いて法人税法の全体像を理解するとともに、裁判で争われた問題点についても紹介していきます。所属する学部を問わず、楽しくハイレベルな内容で講義を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	租税法の体系	租税法と憲法の関係や租税法律主義の意味などを学習します。
第2回	企業会計と税務会計	企業会計と税務会計の違いと相互関係、法人税法上の「益金」と「損金」の概念について学習します。
第3回	資本金等の額と利益積立金	法人税法の大きな特徴である「資本金の額」と「利益積立金」の概念を学習します。この講義で最初に直面するハードルです。
第4回	収益の計上	収益（益金）に対する法人税法の姿勢を学習します。
第5回	受取配当金の益金不算入	受け取った配当金に法人税を課さないようにすることの趣旨にて学習します。
第6回	売上原価と譲渡損益に関する課税上の問題	何をもって売上原価ととらえるか、どのように譲渡損益を計算するのかを学習します。
第7回	給与に関する課税上の問題	全ての給与が無条件で経費になるわけではありません。その概要を学習します。
第8回	交際費に関する課税上の問題	取引先の接待費などが経費になるための要件はなにかを学習します。
第9回	寄附金に関する課税上の問題	法人税法上の「寄附金」は個人による社会貢献的な寄付とはその意味が異なることがあります。その意味を学習します。
第10回	販売した商品の代金が回収できなかった場合の損失	これが損失と認められるか否か。その考え方を学習します。
第11回	組織再編税制とグループ法人税制の概要	企業がM＆Aを行った場合やグループ内企業との取引に対する法人税法の姿勢を理解していきます。
第12回	試験	学習の効果を測定するための試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
週末スクは短期間なので復習をしっかりとしてください。また、法人税法の条文を読み物のように読んでみてください。法人税法の構成がなんとなく見えてくるはずです。

【テキスト（教科書）】
テキストの指定はありません。すべて配布資料によって講義を進めていきます。

【参考書】
授業中には使用しませんが、次のものは租税法を広く学習するのに役に立ちます。
金子宏『租税法』弘文堂2017年（シラバス執筆時点）

【成績評価の方法と基準】
試験の結果100％で評価します。試験は論述形式で出題します。問題に直接解答できているか、解答の根拠が記載されているか、解答量は十分か、講義出席の成果であると認められるかといった観点から判断します。
試験には書籍以外の紙媒体の持ち込みと参照を認めます（書籍や製本された冊子は参照不可ですから注意してください）。
計算問題は出題しませんから安心してください。

【学生の意見等からの気づき】
授業中における学生との質疑と講義進行を最適化ミックスして、明るい学習環境を維持していきます。

【学生が準備すべき機器他】
学生が特に準備すべき機器はありません。電卓も必要ありません。

【その他の重要事項】
私が経営学特講で展開する租税法的講義の第2弾にあたります（第1弾は2017年後期週末スクの所得税法）。壮大なテーマを講義11コマに納めなければなりません。そのため、授業の進行がシラバスの記載内容とずれることがあることを予めご了承ください。本学のスクで提供する機会の少ないと思われる租税法的講義です。この機会に受講してみてください。

【Outline (in English)】
The theme of this lecture is corporate tax law. Corporate tax is the tax imposed on the results of corporate economic activities. We aim to acquire the attitude to legally capture the profit and loss in business activities.

PSY100TA（心理学 / Psychology 100）

心理学（後期週末スクーリング）

海部　紀行

カテゴリー：**後期週末**　｜　予備登録の有無：**必要**
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多岐にわたる心理学のなか，アカデミックな領域を概観し，計量心理学，知覚心理学，学習心理学，進化心理学，神経心理学，パーソナリティ心理学，認知心理学，発達心理学，感情心理学，社会心理学，臨床心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

【到達目標】
心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。ヒト（心）について，さまざまな切り口から捉える能力を身につけます。
「心」とは何か，といったことに関して，幾つかのキーワードを用いつつ，批判的に検討・検証し，記述できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストに沿って講義を進めます。任意で提出されるリアクションペーパーへのリプライやフィードバックも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	計量心理学〔テキスト序章〕／知覚心理学〔テキスト第1章〕	見えない「心」をどう捉えるか／目は「心」の一部？
第2回	学習心理学〔テキスト第2章〕	「心」は見えないが行動は見える？
第3回	進化心理学〔テキスト第3章〕／神経心理学〔テキスト第4章〕	ヒト（心）の特徴／「心」は脳にある？
第4回	パーソナリティ心理学〔テキスト第5章〕	それぞれの人にそれぞれの心
第5回	認知心理学〔テキスト第6章〕	「心」は機械で置き換えられる？
第6回	発達心理学〔テキスト第7章〕	ヒトは白紙で生まれてくる？
第7回	感情心理学〔テキスト第8章〕	感情の役割って？
第8回	社会心理学〔テキスト第9章〕	いい人？　悪い人？
第9回	臨床心理学①〔テキスト第10章〕	なんだかイヤな気持ち…
第10回	臨床心理学②〔テキスト第11章〕	発達の偏りと多様性
第11回	臨床心理学③〔テキスト第12章〕	「心」の問題とどう向き合うか
第12回	試験	レポート形式の小論文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
駆け足・詰め込み講義を想定し，テキストに幾らかでも目を通す「準備学習」によって，理解を促します。
講義後も，「復習」的に整理します。“何を覚えるか”ではなく，自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】
『ゼロからはじめる心理学・入門 – 人の心を知る科学』金沢 創ほか著　有斐閣
http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225
初日・初回から用います。必ず，前もって入手しておいてください。

【参考書】
『よくわかる心理学』無藤 隆ほか編　ミネルヴァ書房
http://www.minervashobo.co.jp/book/b49793.html
『よくわかる臨床心理学：改訂新版』下山晴彦編　ミネルヴァ書房
http://www.minervashobo.co.jp/book/b49970.html
『はじめての臨床社会心理学：自己と対人関係から読み解く臨床心理学』坂本真士・佐藤健二（編）　有斐閣
http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/4641076812

【成績評価の方法と基準】
試験点（100％）：自らテーマを定めて調査・研究した結果をまとめるレポート形式の小論文。
受験資格（出席要件）を満たせば，不正行為その他のことがない限り，単位取得の基準に達します。
「出席点」や「平常点」はカウントしません。リアクションペーパーも任意です。
試験当日（電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可），記述できます。
事前の講義日および試験当日の提出も認めます。

【学生の意見等からの気づき】
2017年度以前のスクーリングとは異なるテキストで，内容も変えています。“クチコミ”を当てにしないでください。
「テキストは独りでも読める」から，と言ってリアクションペーパーへのリプライやフィードバックを多く求める意見があれば，コンパクトにテキスト講読を進めることへの要望もあり，十人十色，千差万別の反応です。
週1回1コマずつの春期・秋期スクーリング，6日間（午前または午後）連続2コマずつの夏期・冬期スクーリング，3日間（午前/午後）連続4コマずつのゴールデンウイークスクーリングなど，その折々，受講なさる方によっても様相は変わります。
週1回（午前/午後）4コマずつ，計3日という「週末スクーリング」で，どのようになるか，改めて意見や要望を寄せてください。

【その他の重要事項】
(1)「臨床心理士」として，さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。
(2) オフィスアワー（Q&Aタイム？　なんでもお喋りタイム？）は原則として，2時限と3時限の間（昼休み）および4時限終了後（17：00まで？）の時間帯に設ける見込みです。
同予約その他のリクエストは，口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは，kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline (in English)】
This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, personality psychology, cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

HSS200TB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ特講（後期週末スクーリング）

朝比奈　茂

カテゴリー：**後期週末**　｜　予備登録の有無：**必要**
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。我が国は世界有数の長寿国である一方、健康寿命を延ばすことがこれからの課題とされている。健康に過ごすための一つとして、生活習慣の改善や適度な身体の活動が求められる。運動・スポーツは、基本技術の習得および効果・効能を十分に理解して、安全に楽しく実施することで、心身の状態を良い方向に導くことが期待できる。
本講義では、自身の体力および身体組成を把握したうえで、身体活動と病気との関連を免疫系および自律神経の観点からアプローチする。また実践においてはウォーキングとヨガを通じて、運動・スポーツの必要性を認識することを目標とする。尚、ウォーキングに関しては、キャンパス周辺を8～10Km程度歩く。普段、定期的に運動経験を有することが望ましい。

【到達目標】
１．ホメオスタシスと病気との関連性について述べることができる。
２．体力について理解し、健康に関連する体力要素を説明できる。
３．自身の身体組成を分析し、体脂肪率、BMIなどについて、その意義を述べることができる。
４．運動・スポーツの功罪について、免疫系と自律神経の観点から説明できる。
５．スポーツ外傷・障害について説明できる。
６．コンディションとコンディショニングについて説明できる。
７．ウォーキングの身体への影響を説明できる。
８．ウォーキングの基本技術(姿勢、ストライドなど)を説明し、実践することができる。
９．ヨガの歴史や哲学（考え方）を理解し、ポーズを解剖学視点から解説・実践できる。
１０．呼吸法について理解し、Meditation（瞑想）を実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP3」「経済学科：DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
午前は教室での講義を中心とし、午後は実践を交えて演習形式で行う。講義は、テーマに沿ってスライド、DVDなどを用いて行う。
ウォーキングは、携帯アプリケーションを用いて、大学周辺をコースとして実践する。
ヨガは、呼吸法および解剖学を中心として、実践を基本に演習形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび体力測定	受講に関する諸注意および評価基準などを説明する 新体力テストに沿って、体力測定を実施する
第2回	体力と健康	体力測定のフィードバックを行い、健康に関わる要素について説明する。
第3回	ウォーキング（1）	基本姿勢およびウォーキング技術を説明し、大学周辺のコースをおよそ10min/kmの速度で実施する。
第4回	ヨガ（1）	ヨガの基本的な考え方の説明し、代表的なポーズを実践する
第5回	ホメオスタシスと病気	ホメオスタシスの意義や病気の成り立ちについて説明する
第6回	運動・スポーツの功罪	免疫系と自律神経との関連性をあきらかにし、運動・スポーツの功罪に及ぼす影響を説明する。
第7回	ウォーキング（2）	前回と異なったコースをおよそ10min/kmの速度で実践する。
第8回	ヨガ（2）	呼吸に関する、基礎的な方法を説明し、実践する。
第9回	スポーツ外傷と障害（アスレティックリハビリテーションを含む）	スポーツでおこる怪我について、外傷と障害に分類し、代表的な怪我に関して説明する。また下肢のアライメント不良と障害との関係を説明する。
第10回	コンディション把握とコンディショニングの実践	コンディショニングの定義をあきらかにし、コンディショニングの種類、効果・効能について説明する。
第11回	ウォーキング（3）	前回と異なったコースをおよそ10min/kmの速度で実践する。
第12回	ヨガ（3） まとめ	ヨガのポーズを解剖学の視点（脊柱のアライメント、筋肉など）から説明する。 授業全体の総括として、「健康と運動・スポーツ」についてグループごとに討論を行い、自分の考えをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習にあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、毎回授業のあとに伝達する。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業中の活動に対する参画状況：７０％、２）課題およびレポート：３０％　の配分により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
幅広い年齢構成となるため、心拍数を指標に運動強度を設定することで、安全面に配慮した講義を目指す。また終日行われる講義のため、最近のトピックスを交えながら、座学と実技演習の組み合わせを無理なく行い、興味をもって臨めるよう工夫して実施する。

【学生が準備すべき機器他】
教室では、プロジェクターを用いて、授業を展開する。

【その他の重要事項】
ウォーキングはキャンパス周辺を8～10Km程度行う。
これは、普段から運動をしていない方、または体の一部（特に腰部、下肢）に痛みなどを抱えている方にとっては、実施困難であると考えられる。授業を受講する際、十分に準備、検討することが望ましい。

【Outline (in English)】
Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（後期週末スクーリング）

平見　健太

カテゴリー：**後期週末**　｜　予備登録の有無：**必要**
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、国際社会の法である国際法に焦点をあて、現実の国際社会の問題と国際法がどのように関連しているのか、理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
国際法に関する基本的な知識を身につける。
国際社会で日々生じる問題を調整ないし処理するうえで、国際法という法的ツールがいかに有効に機能しているのか、また、いかなる点にその限界があるのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
配布資料をもとにした講義形式で授業を行います。なお、各回の授業冒頭にてテーマに関連するニュースを紹介し、国際法の知見が現実の出来事を理解するうえでいかに役立つのかを実感して貰えるよう工夫します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	国際社会と国際法	国際法を学ぶためのガイダンス
第2回	国家の成立	国家性の要件、国家承認などについて
第3回	主権・国家管轄権	国家の基本的権能について
第4回	外交関係	国家間の外交活動を規律する法について
第5回	国際社会の空間秩序（1）	国家の領域（領土・領海・領空）について
第6回	国際社会の空間秩序（2）	海洋その他の空間について
第7回	国際組織	国連その他の国際組織に関する国際法について
第8回	国際紛争の処理	国際紛争が生じた場合に、国際法が予定する紛争処理の諸類型について
第9回	武力不行使原則と自衛権	武力行使を禁ずるルールの内容と意義、その例外としての自衛権について
第10回	国連と安全保障	国連における安全保障体制について
第11回	国際法の各論	環境および経済の分野を取りあげる予定
第12回	授業内試験	成績評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を用いて授業内容を復習してください。なお各回の配布資料には、テーマに応じた簡単な検討課題を掲載していますので、授業内容をふまえて各自で検討してください。

【テキスト（教科書）】
テキストの指定はありません。配布資料によって講義を進めます。

【参考書】
玉田大ほか『国際法（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣、2017年）
http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150454
岩沢雄司編集代表『国際条約集2019年版』（有斐閣、2019年）
http://www.yuhikaku.co.jp/six_laws/detail/9784641001534

【成績評価の方法と基準】
試験（短答式＋論述問題）によって評価します。
配布資料のみ持込可とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This course will focus on the role and limits of international law in solving international issues today. The final goal of this course is to understand basic principles and rules of international law and to get insights into the current globalized society.

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）

書道史（後期週末スクーリング）

山口　恭子

カテゴリー：**後期週末**　｜　予備登録の有無：**必要**
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国、および日本の書の歴史を学ぶ

【到達目標】
中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史的事項（様々な書体や、「三筆」「三跡」等の用語など）、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。なお、授業の内容に関してリアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国書道史１ （殷・周の書）	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第2回	中国書道史２ （秦・漢の書）	・始皇帝の文字統一 ・隷書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史３ （三国の書）	・書体の発展
第4回	中国書道史４ （東晋の書）	・王羲之、王献之の書
第5回	中国書道史５ （南北朝の書）	・北朝の石刻について
第6回	中国書道史６ （唐の書）	・初唐の三大家と楷書
第7回	日本書道史１ （飛鳥・奈良の書）	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史２ （平安前期の書）	・三筆の書
第9回	日本書道史３ （平安中期の書）	・三蹟の書 ・和様の成立
第10回	日本書道史４ （仮名の書のさまざま）	・仮名の書美とはなにか
第11回	日本書道史５ （平安後期の書、中世の書）	・西本願寺本三十六人家集 ・尊円親王の書 ・さまざまな書流
第12回	日本書道史６ （近世初期の書） 試験	・寛永の三筆の書 ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館で、『書道全集』（平凡社、１９７４年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、１９９６年）といった全集、図版類を見たり、博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。

【テキスト（教科書）】
指定しません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】
・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮　書道史年表事典』（萱原書房、２００５年）
・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、２００９年）
・名児耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、２００９年）
そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験（70％）平常点（30％）により評価します。とくに、試験では、主要な書道史的事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
プリントやパワーポイントなどによってなるべく多くの図版を示し、書の歴史とともに書作品の鑑賞についても講じたい。

【Outline (in English)】
This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.
The aim of this course is to understand the fundamentals of calligraphy history, such as typefaces, calligraphers, written works.

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

論文作成基礎講座Ⅱ（後期週末スクーリング）

川鍋　義一

カテゴリー：**後期週末**　｜　予備登録の有無：**必要**
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書く」力、「読む」力をつけよう。

【到達目標】
いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にする。受講後には、短期的には原稿用紙２枚のレポートを２時間程度で書き上げられることを目標にする。また長期的には５０枚の卒論の章立て、各章の段落構成を構想することができることを目標にする。「書く」力の涵養のためには「読む」力の涵養が必須であることを理解し、かつ、新書、大学の授業で使うテキストの読解、自分なりの理解、自分の考えとの比較ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
１　添削（宿題形式。以下「宿題」と称す）
①課題提示（11月17日）　　②作文提出（11月24日）
③添削返却（12月1日）
①課題提示（および講義）：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。
②作文提出（および講義）：一週間で８００字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。
③添削返却（および講義）：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。
２　漢字テスト
授業内で毎週、教材に指定した「総合漢字問題集」の「1. 書き取り」の中から出題する漢字テストを行う。それぞれの範囲を以下に記す。
第１週　書き取り一～二〇（ｐ．3 ～ｐ．22）
第２週　書き取り二一～四〇（ｐ．23 ～ｐ．42）
第３週　書き取り四一～六〇（ｐ．43 ～ｐ．62）
３　授業内作文
上記１の「添削（宿題形式）」とは別に、授業内で課題を提示、その日のうちに提出する作文も実施する（以下「演習」と称す）。
４　講義
①文章構成法（例示　一般化など）、段落構成、引用の作法、参考文献提示の方法など、実践的な論文作成法を一通り学習し、小論文を完成させることを目標とする。
②卒業論文を想定した、執筆の手順・長い論文のテーマの選び方、および構成の仕方を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	論文を書く・基礎	漢字テスト（一～二〇） 宿題提示 宿題の課題文についての講義 例示と比喩についてプロの文章から学ぶ
第2回	論文を書く・基礎	辞書の記号、常用漢字、参考文献の示し方、禁則などについて学ぶ
第3回	論文を書く・基礎	演習①
第4回	論文を書く・基礎	演習①提出 論文の段落構成について学ぶ
第5回	論文を書く・応用	漢字テスト（二一～四〇） 宿題回収および宿題についての解説 誤りやすい表現について学ぶ
第6回	論文を書く・応用	例示→一般化をプロの文章から学ぶ
第7回	論文を書く・応用	演習②
第8回	論文を書く・応用	演習②提出 演習①返却および演習①についての解説
第9回	論文を書く・実践	漢字テスト（四一～六〇） 宿題返却および優秀作品の読み合わせ
第10回	論文を書く・実践	卒論の題材の選び方、構成などについて学ぶ
第11回	論文を書く・実践	演習③
第12回	論文を書く・実践	演習②返却および演習②についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
上記漢字テストの予習。
作文の宿題。（11月17日課題提示、24日提出）
学習の進捗状況によっては、上記に加え、11月24日に提示した課題を12月1日に提出することもありうる。

【テキスト（教科書）】
川鍋義一・小秋元段編『新選　総合漢字問題集』（おうふう、2011年、760円＋税）ほかプリント配布。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
漢字テストの点数20％
提出物80％（作文などの課題がきちんと提出されているかどうか、課題の評価、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）
漢字テストの合格点は５割とする。
また１回でも未提出の課題があれば、単位は認定されない。

【学生の意見等からの気づき】
スキルアップのための講座です。大学の授業ですから、カルチャーセンターとは違う厳しさがありますが、がんばりましょう。がんばっただけ、得るものは大きいと考えます。

【その他の重要事項】
１　漢字テストは、例文・問題ともかなりの難問なので、苦手な人は１日１ページより多くは勉強できないかもしれない。早め早めに計画的に勉強を進めておくこと。
２　毎回必ずホワイト修正液（修正テープ）を持参すること。演習の際に必要になる。
３　初回に、94円切手を持参すること。演習③は郵送で返却する。

【Outline (in English)】
This course introduces academic writing.

ECN200TG（経済学 / Economics 200）

経済学特講（後期週末スクーリング）

持元　江津子

カテゴリー：**後期週末**　｜　予備登録の有無：**必要**
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化芸術と経済の関係について、思想や理論、実践、政策または施策、倫理などさまざまな側面から捉えつつ学び、身のまわりで実際に行われている文化政策や文化施策に気づき、その効果などについて考えられるようになる。

【到達目標】
・文化資本の意味を理解し説明できる。
・文化政策または文化施策の意味するところを理解し説明できる。
・身近な文化政策または文化施策に気づき、そのメリットとデメリットを考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。一部でグループディスカッションを取り入れ、グループ内プレゼンテーション報告書の提出を求める。講義は配布するレジュメに沿って進める。毎時間リアクションペーパーの記述と提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	理論または思想の萌芽	アダム・スミス、ジョン・ラスキン、ウィリアム・モリス
第2回	芸術支援の担い手の変遷	王侯貴族または宗教からやがて一般市民へ
第3回	芸術と国家、芸術と商業、芸術と科学	ロジャー・フライとJ. M. ケインズ、芸術のもつ公共性
第4回	革新的芸術の担い手たちの生計費問題	オメガ工房、ディアギレフバレエ団、ロンドン芸術家協会、アートギャラリー、クラウドファンディング
第5回	芸術への財政支出	国家行事、文化施設、助成金、アーツカウンシルの成立と波及
第6回	文化的価値と文化資本	文化的価値と経済的価値、文化経済学における文化資本の定義
第7回	文化遺産	インフラたりうる文化資本、経済社会への影響
第8回	文化政策または文化施作	文化芸術基本法、文化施設、指定管理者制度、生涯教育
第9回	文化芸術と市場	市場メカニズム、倫理
第10回	企業メセナ	メセナ活動、助成認定制度
第11回	文化産業の可能性	創造産業、創造都市
第12回	テスト	論述形式、自筆ノートのみ持ち込み可とする（コピー不可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回講義時に指定する課題について、最終回の試験までに地方自治体のウェブサイトや広報誌など参照して調べること。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
デイヴィッド・スロスビー「文化経済学入門」（2002年、日本経済新聞社）
池上惇・山田浩之編「文化経済学を学ぶ人のために」（1993年、世界思想社）
ジョン・ラスキン「芸術経済論」（1998年、厳松堂出版）
橋本努編「現代の経済思想」（2014年、勁草書房）の「3-4 文化と経済」および「3-5 芸術の売買」
文化芸術基本法条文（http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/kihon/geijutsu_shinko/kihonho_kaisei.html）

【成績評価の方法と基準】
平常点30%、最終回に実施する論述試験70%
平常点は主にリアクションペーパーなどの提出物をもとに評価する

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
【授業時間外の学習】記載事項と重複するが、初回講義時に最終回に実施するテストの問題文の一部を開示するので、受講生は答案作成に必要な事柄について各自で調べることが必須となる。

【Outline (in English)】
This course introduces the relations between culture and economic phenomenon. The Aim of this course is to help students acquire the basic skills and knowledge of how to notice cultural policies and measures close to every student and consider effectiveness of them.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（後期週末スクーリング）

市川　佳功

カテゴリー：**後期週末**　｜　予備登録の有無：**必要**
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義のメインテーマは「会計のルールを読む」です。会計に関する学習をする場合には、解説書を用いるのが一般的な方法ですが、この講義では会計のルールをテキストとして使用します。
その主な目的は会計のルールに触れることにあります。会計のルールは体系的に作られています。その体系を理解することによって会計がより身近に感じられるはずです。会計のルールがどのような形で存在しているのかを理解し、今後の会計学習方法が一つ増えるなら、それで目的は達成です。
会計に関する専門的な内容を修得することを目的としていませんので、会計のルールを初めて見物に来るというつもりで参加してください。

【到達目標】
学生は会計の知識そのものを修得する必要はありません。会計に関する専門的な内容の理解や暗記は必要ありません。会計のルールに触れて親しみを感じてください。会計のルールにはどのようなものがあるか、何がどのように書いてあるのか、この二つを体験してください。この体験談が語れるようになれば目的達成です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」　「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストを読み物のようにして講義を行います。簿記や会計の学習をするのが初めてであっても目的を達成できるような内容としていきます。会計に少しでも興味があれば学部学科を問わず参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	企業会計ルールの存在形態	企業会計に関するルールは「法令」または「基準」という形式で存在しています。法令の目的の違いにより会計のルールにも違いが生じることがあります。ここでは企業会計ルールの存在形態の概要を講義します。
第2回	企業会計原則	企業会計原則には現在の会計ルールとして適用できない部分が含まれています。それでも会計に関するルールの代表的な存在として学習書に必ず登場してきます。ここでは企業会計原則の全体的な構造を学習します。
第3回	原価計算基準	企業会計を学習するときに原価計算基準に触れることは少ないかもしれません。原価計算基準は数十年にわたって改訂が行われていません。原価計算基準の内容を覗き見して、現在でも生き続けている意味を学習していきます。
第4回	金融商品会計基準	現金、債権・債務、有価証券などを金融商品といいます。これらは企業会計の中でどのように取り扱われるのかを学習します。この講義では「金融商品」の仕組みについても紹介していきます。
第5回	収益認識に関する会計基準	現時点で最も新しい企業会計のルールです。企業にとって最も重要な指標である売上について規定したルールです。実務界ではまだ本格適用されていません。この講義でその概要を一足早く学習します。
第6回	棚卸資産の評価に関する会計基準	企業の商品のことを棚卸資産といいます。商品はいずれ売上となり利益を稼ぐ柱となる資産です。しかし利益を稼ぐことができなくなった商品もあります。会計のルールが商品についてどのような規定を設けているかを学習します。
第7回	連続意見書	企業会計を学習した人にとっても連続意見書は聞きなれない規定だと思います。これは「意見書」なのでルールとは性格が異なります。しかし、連続意見書には現在でも生きている基礎的で重要な会計に関する考え方が記載されています。この講義ではそこを紹介していきます。
第8回	資産除去債務に関する会計基準	資産の利用が終了した時点でその資産を撤去しなければならない義務を負っている場合、それを資産除去債務といいます。しかし、資産除去債務は資産の利用が終了する前から会計の対象としなければならないとされています。その意味を学習します。
第9回	固定資産の減損に係る会計基準	固定資産とは企業内で長期にわたって利用される資産のことです。減損とは価値が減少することによって生じる損失と理解すればよいでしょう。この講義では固定資産の「価値が減少する」ということの意味とその把握方法を学習します。
第10回	企業結合に関する会計基準	合併など企業がドラスチックな組織再編をする場合を指して企業結合と呼んでいます。二つの企業が一つになる場合に必要となる会計のルールとはいったいどのようなものでしょうか。少々理解しづらい規定振りとなっています。そこを平易な用語を用いてわかりやすく講義していきます。
第11回	連結財務諸表に関する会計基準	企業グループ全体で一つの財務諸表を作成したものを連結財務諸表といいます。上場会社においては連結財務諸表が主たる財務諸表とされています。これを学習すると連結財務諸表の読み取り技術が身につくと思います。
第12回	試験	修学度を測定するために試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
週末スクは短期間なので復習をしっかりとしてください。学習した奇形のルールを何度も読み込むことをお勧めします。必須の準備学習や宿題等はありません。

【テキスト（教科書）】
中央経済社編『新版　会計法規集　＜第10版＞』（2018年7月25日）中央経済社2,100円＋税
ただし、例年の出版状況からすると後期週末スク開始までに＜第11版＞が出版される可能性があります。2019年11月8日（金）までに＜第11版＞が出版された場合には＜第11版＞を使用します。購入のタイミングに気を付けてください。

【参考書】
桜井久勝『財務会計講義（第20版）』（2019年3月）中央経済社3,800円＋税
授業では使用しませんが会計を学習するにあたって利用することは有益です。

【成績評価の方法と基準】
試験の結果100 %で評価します。試験は論述形式（論述ではない記述形式も含む）で出題します。問題に直接解答できているか、解答の根拠が記載されているか、解答量は十分か、講義出席の成果であると認められるかの観点から判断します。
試験には紙媒体のみの持ち込みと参照を認めます。指定テキスト、他の書籍、ノート、プリントなど全ての紙媒体が参照可能です。
計算問題は出題しませんから安心してください。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間中に板書の写メを撮るタイミングを設け、写メのシャッター音が周囲の学生の集中力を欠かないように配慮します。また、質疑が全学生に伝わるように授業時間中に質問時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
学生が準備すべき機器はありません。電卓も必要ありません。

【その他の重要事項】
シラバスには学習するテーマが記載されています。当該テーマが必ず当該コマ内で終了するとは限りませんのでご了承ください。
ノート代わりに授業にパソコンを持ち込んで利用することは自由ですが、キーボード音が周囲の学生の集中力に影響を及ぼさないように注意してください。
授業中にパソコンまたはスマホによるインターネットや通信行為はご遠慮ください。

【Outline (in English)】
The main theme of this lecture is "Read the rules of accounting".When learning accounting, it is common practice to use a textbook, but in this course we will use accounting rules as the text.
Its main purpose is to touch the rules of accounting. The rules of accounting are made systematically. Accounting should be felt more familiar by understanding the system. If you understand how accounting rules exist and if there will be one more way to study accounting, then the goal is achievement.
The purpose is not to acquire specialized content on accounting, so please participate with the intention that you will come to see the rules of accounting for the first time.